



Cisco Unified Communications Manager

アドミニストレーション ガイド

Cisco Unified Communications Manager Administration Guide

リリース 8.0(2)

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

© 2010 Cisco またはその関連会社 . All rights reserved. Cisco、Cisco Systems、および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド
© 2010 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2010, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに xxvii

PART 1

Cisco Unified Communications Manager

CHAPTER 1

概要	1-1
主な機能と利点	1-2
Cisco Unified Communications Manager の管理ページの参照	1-3
Web ブラウザ	1-3
Cisco Unified Communications Manager の管理ページへのログイン	1-4
Cisco Unified Communications Manager の管理ページからのログオフ	1-5
Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)	1-5
Internet Explorer 7、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用	1-5
Internet Explorer 8、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用	1-8
Firefox 3.x、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用	1-10
Safari 4.x、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用	1-12
Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作	1-14
Cisco Unified Presence サーバリンク	1-15
Cisco Unified Presence サーバへのリンク	1-15
カスタム ログイン メッセージ	1-16
最後に成功したログインに関するメッセージ	1-16
アクセシビリティ	1-16
参考情報	1-17
関連項目	1-17

PART 2

システムの設定

CHAPTER 2

サーバの設定	2-1
サーバの設定値	2-1
サーバの検索	2-4
サーバの設定	2-5

サーバの削除 2-7

関連項目 2-9

CHAPTER 3

Cisco Unified Communications Manager の設定 3-1

Cisco Unified Communications Manager の設定値 3-1

Cisco Unified Communications Manager の検索 3-5

Cisco Unified Communications Manager の更新 3-6

Cisco Unified Communications Manager とデバイスの同期化 3-7

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 3-7

 Cisco CallManager サービスのアクティブ化 3-8

 Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 3-8

関連項目 3-9

CHAPTER 4

Cisco Unified Communications Manager グループの設定 4-1

Cisco Unified Communications Manager グループの設定値 4-1

Cisco Unified Communications Manager グループの検索 4-3

Cisco Unified Communications Manager グループの設定 4-4

Cisco Unified Communications Manager グループの影響を受けるデバイスとの同期化 4-5

Cisco Unified Communications Manager グループの削除 4-5

関連項目 4-6

CHAPTER 5

電話用 NTP リファレンスの設定 5-1

電話用 NTP リファレンスの設定値 5-1

電話用 NTP リファレンスの検索 5-2

電話用 NTP リファレンスの設定 5-3

電話用 NTP リファレンスの削除 5-4

関連項目 5-5

CHAPTER 6

日時グループの設定 6-1

日時グループの設定値 6-1

日時グループの検索 6-3

日時グループの設定 6-5

日時グループの影響を受けるデバイスとの同期化 6-6

日時グループの削除 6-7

関連項目 6-8

CHAPTER 7	プレゼンス グループの設定	7-1
CHAPTER 8	リージョンの設定	8-1
	リージョンの設定値	8-1
	リージョンの検索	8-5
	リージョンの設定	8-6
	リージョンと影響を受けるデバイスとの同期化	8-7
	リージョンの削除	8-8
	関連項目	8-9
CHAPTER 9	デバイス プールの設定	9-1
	デバイス プールの設定値	9-1
	デバイス プールの検索	9-17
	デバイス プールの設定	9-18
	デバイス プールの該当デバイスとの同期化	9-20
	デバイス プールの削除	9-20
	関連項目	9-21
CHAPTER 10	デバイス モビリティ グループの設定	10-1
CHAPTER 11	デバイス モビリティ情報の設定	11-1
CHAPTER 12	DHCP サーバの設定	12-1
	DHCP サーバの設定値	12-1
	DHCP モニタ サービスのアクティブ化	12-3
	DHCP モニタ サービスの開始	12-3
	DHCP サーバの検索	12-4
	DHCP サーバの設定	12-5
	DHCP サーバの削除	12-6
	関連項目	12-7
CHAPTER 13	DHCP サブネットの設定	13-1
	DHCP サブネットの設定値	13-1
	DHCP サブネットの検索	13-3
	DHCP サブネットの設定	13-4
	DHCP サブネットの削除	13-4

関連項目 13-5

CHAPTER 14

LDAP システムの設定 14-1

LDAP システムの設定値 14-1

LDAP システムの情報の更新 14-4

関連項目 14-4

CHAPTER 15

LDAP ディレクトリの設定 15-1

LDAP ディレクトリの設定値 15-1

LDAP ディレクトリの検索 15-6

LDAP ディレクトリの設定 15-7

LDAP ディレクトリの削除 15-8

関連項目 15-8

CHAPTER 16

LDAP 認証の設定 16-1

LDAP 認証の設定値 16-1

LDAP 認証の情報の更新 16-4

関連項目 16-5

CHAPTER 17

LDAP カスタム フィルタ 17-1

LDAP フィルタの設定値 17-1

LDAP フィルタの検索 17-2

LDAP フィルタの設定 17-3

LDAP フィルタの削除 17-4

関連項目 17-5

CHAPTER 18

ロケーションの設定 18-1

ロケーションの設定値 18-1

ロケーションの検索 18-4

ロケーションの設定 18-6

ロケーションの削除 18-7

ロケーションの帯域幅の再同期化 18-7

関連項目 18-8

CHAPTER 19	物理ロケーションの設定	19-1
CHAPTER 20	Survivable Remote Site Telephony の設定	20-1
	SRST 参照先の設定値	20-1
	SRST 参照先の検索	20-3
	SRST 参照先の設定	20-4
	SRST 参照先の削除	20-5
	関連項目	20-6
CHAPTER 21	MLPP ドメインの設定	21-1
	MLPP ドメインの設定値	21-1
	MLPP ドメインの検索	21-2
	MLPP ドメインの設定	21-3
	MLPP ドメインの削除	21-4
	関連項目	21-5
CHAPTER 22	リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定	22-1
	リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値	22-1
	リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索	22-2
	リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定	22-3
	リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの削除	22-4
	関連項目	22-5
CHAPTER 23	リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定	23-1
	リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値	23-1
	リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索	23-2
	リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定	23-3
	リソース プライオリティ ネームスペース リストの削除	23-4
	関連項目	23-5
CHAPTER 24	エンタープライズ パラメータの設定	24-1
	エンタープライズ パラメータの更新	24-1
	エンタープライズ パラメータの影響を受けるデバイスとの同期化	24-2
CHAPTER 25	エンタープライズ電話の設定	25-1
	エンタープライズ電話のパラメータの設定	25-1

CHAPTER 26	サービス パラメータの設定	26-1	
	サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定		26-1
	サービス用のパラメータの表示	26-4	
	関連項目	26-5	
CHAPTER 27	電話機のセキュリティ プロファイルの設定	27-1	
CHAPTER 28	SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定	28-1	
CHAPTER 29	CUMA サーバのセキュリティ プロファイルの設定	29-1	
CHAPTER 30	アプリケーション サーバの設定	30-1	
	アプリケーション サーバの設定値	30-1	
	アプリケーション サーバの検索	30-3	
	アプリケーション サーバの設定	30-4	
	アプリケーション サーバの削除	30-5	
	関連項目	30-5	
CHAPTER 31	自動登録の設定	31-1	
	自動登録の設定値	31-1	
	自動登録の使用可能化	31-3	
	自動登録の使用不可能化	31-5	
	自動登録番号の再使用	31-6	
	関連項目	31-6	
CHAPTER 32	位置情報の設定	32-1	
CHAPTER 33	位置情報フィルタの設定	33-1	
PART 3	コール ルーティングの設定		
CHAPTER 34	自動代替ルーティングのグループ設定	34-1	
	AAR グループの設定値	34-1	
	AAR グループの検索	34-3	
	AAR グループの設定	34-4	
	AAR グループの削除	34-5	

関連項目 34-5

CHAPTER 35

アプリケーションのダイヤル ルール設定	35-1
アプリケーションのダイヤル ルールの設定値	35-1
ダイヤル ルールの検索	35-3
ダイヤル ルールの設定	35-4
ダイヤル ルールの削除	35-5
ダイヤル ルールの優先順位の変更	35-5
関連項目	35-6

CHAPTER 36

ディレクトリ検索のダイヤル ルール設定	36-1
ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定値	36-1
ディレクトリ検索のダイヤル ルールの検索	36-2
ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定	36-3
ディレクトリ検索のダイヤル ルールの削除	36-4
関連項目	36-5

CHAPTER 37

SIP のダイヤル ルール設定	37-1
SIP のダイヤル ルールの設定値	37-1
SIP のダイヤル ルールの検索	37-4
SIP のダイヤル ルールの設定	37-5
パターンの形式	37-6
SIP のダイヤル ルールの例	37-7
SIP のダイヤル ルールの削除	37-8
SIP のダイヤル ルールのリセット	37-9
SIP ダイヤル ルールの設定と影響を受ける SIP 電話の同期化	37-9
関連項目	37-10

CHAPTER 38

ルート フィルタの設定	38-1
ルート フィルタの設定値	38-1
ルート フィルタの検索	38-2
ルート フィルタの設定	38-4
ルート フィルタ条件の追加と編集	38-4
ルート フィルタ条件の削除	38-5
ルート フィルタと影響を受けるデバイスの同期化	38-6
ルート フィルタの削除	38-7

ルート フィルタ タグの説明 38-8

関連項目 38-11

CHAPTER 39

ルート グループの設定 39-1

ルート グループの設定値 39-1

ルート グループの検索 39-4

ルート グループの設定 39-5

ルート グループへのデバイスの追加 39-6

ルート グループからのデバイスの削除 39-6

ルート グループの削除 39-7

関連項目 39-8

CHAPTER 40

ルート リストの設定 40-1

ルート リストの検索 40-1

ルート リストの追加 40-3

ルート リストへのルート グループの追加 40-4

ルート リストからのルート グループの削除 40-6

ルート リスト内のルート グループの順位の変更 40-6

ルート リストと影響を受けるルート グループの同期化 40-7

ルート リストの削除 40-8

関連項目 40-9

CHAPTER 41

ルート パターンの設定 41-1

ルート パターンの設定値 41-1

ルート パターンの検索 41-11

ルート パターンの設定 41-13

ルート パターンの削除 41-14

関連項目 41-14

CHAPTER 42

回線グループの設定 42-1

回線グループの設定値 42-1

回線グループの検索 42-7

回線グループの設定 42-8

回線グループへのメンバーの追加 42-9

回線グループからのメンバーの削除 42-9

回線グループの削除 42-10

関連項目 42-11

CHAPTER 43**ハン ト リ ス ト の 設 定 43-1**

ハン ト リ ス ト の 検 索 43-2

ハン ト リ ス ト の 追 加 43-3

ハン ト リ ス ト へ の 回 線 グ ル ー プ の 追 加 43-4

ハン ト リ ス ト か ら の 回 線 グ ル ー プ の 削 除 43-5

ハン ト リ ス ト 内 の 回 線 グ ル ー プ の 順 位 の 変 更 43-6

ハン ト リ ス ト と 影 響 を 受 け る 回 線 グ ル ー プ と の 同 期 化 43-6

ハン ト リ ス ト の 削 除 43-7

関連項目 43-8

CHAPTER 44**ハン ト パ イ ロ ッ ト の 設 定 44-1**

ハン ト パ イ ロ ッ ト の 設 定 値 44-1

ハン ト パ イ ロ ッ ト の 検 索 44-13

ハン ト パ イ ロ ッ ト の 設 定 44-14

ハン ト パ イ ロ ッ ト の 削 除 44-15

関連項目 44-16

CHAPTER 45**SIP ル ー ト パ タ ー ン の 設 定 45-1**

SIP ル ー ト パ タ ー ン の 設 定 値 45-1

SIP ル ー ト パ タ ー ン の 検 索 45-5

SIP ル ー ト パ タ ー ン の 設 定 45-7

SIP ル ー ト パ タ ー ン の 削 除 45-7

関連項目 45-8

CHAPTER 46	インターコムパーティションの設定	46-1
CHAPTER 47	インターコム コーリング サーチ スペースの設定	47-1
CHAPTER 48	インターコム電話番号の設定	48-1
CHAPTER 49	インターコム トランスレーション パターンの設定	49-1
CHAPTER 50	アクセス リストの設定	50-1
CHAPTER 51	時間帯の設定	51-1
	時間帯の設定値	51-1
	時間帯の検索	51-3
	時間帯の設定	51-5
	時間帯の削除	51-5
	関連項目	51-6
CHAPTER 52	タイム スケジュールの設定	52-1
	タイム スケジュールの設定値	52-1
	タイム スケジュールの検索	52-3
	タイム スケジュールの設定	52-4
	タイム スケジュールの削除	52-5
	関連項目	52-6
CHAPTER 53	パーティションの設定	53-1
	パーティションの設定値	53-1
	パーティションの検索	53-4
	パーティションの設定	53-5
	パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)	53-6
	パーティションと影響を受けるデバイスとの同期化	53-6
	パーティションの削除	53-7
	関連項目	53-8
CHAPTER 54	コーリング サーチ スペースの設定	54-1
	コーリング サーチ スペースの設定値	54-1
	コーリング サーチ スペースの検索	54-3

	コーディング サーチ スペースの設定	54-4
	コーディング サーチ スペースの削除	54-5
	関連項目	54-6
CHAPTER 55	クライアント識別コード	55-1
CHAPTER 56	強制承認コード	56-1
CHAPTER 57	トランスレーション パターンの設定	57-1
	トランスレーション パターンの設定値	57-1
	トランスレーション パターンの検索	57-11
	トランスレーション パターンの設定	57-12
	トランスレーション パターンの削除	57-13
	関連項目	57-14
CHAPTER 58	コールパーク	58-1
CHAPTER 59	ダイレクト コール パーク	59-1
CHAPTER 60	コール ピックアップ グループの設定	60-1
CHAPTER 61	電話番号の設定	61-1
	電話番号の設定値	61-1
	電話番号の検索	61-25
	電話番号の設定	61-26
	電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化	61-27
	PLAR の設定	61-28
	電話機からの電話番号の削除	61-29
	Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成	61-30
	関連項目	61-31
CHAPTER 62	ミートミー番号 / パターンの設定	62-1
	ミートミー番号 / パターンの設定値	62-1
	ミートミー番号 / パターンの検索	62-3
	ミートミー番号 / パターンの設定	62-4
	ミートミー番号 / パターンの削除	62-5

関連項目 62-5

CHAPTER 63

ダイヤル プラン インストール	63-1
ダイヤル プランの検索	63-2
ダイヤル プランの編集	63-3
Cisco Unified Communications Manager でのダイヤル プランのインストール NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定	63-3
ダイヤル プランのアップグレード	63-5
ダイヤル プランのアンインストール	63-6
Cisco CallManager サービスの再起動	63-7
関連項目	63-8

CHAPTER 64

ルート プラン レポート	64-1
ルート プラン レコードの表示	64-2
割り当てられていない電話番号の削除	64-3
割り当てられていない電話番号の更新	64-4
ファイル内のルート プラン レポートの表示	64-4
関連項目	64-5

CHAPTER 65

発呼側トランスフォーメーション パターンの設定	65-1
発呼側トランスフォーメーション パターンの設定値	65-1
発呼側トランスフォーメーション パターンの検索	65-5
発呼側トランスフォーメーション パターンの設定	65-6
発呼側トランスフォーメーション パターンの削除	65-7
関連項目	65-8

CHAPTER 66

着信側トランスフォーメーション パターンの設定	66-1
着信側トランスフォーメーション パターンの設定値	66-1
着信側トランスフォーメーション パターンの検索	66-5
着信側トランスフォーメーション パターンの設定	66-6
着信側トランスフォーメーション パターンの削除	66-7
関連項目	66-7

CHAPTER 67	トランスフォーメーション プロファイル設定	67-1
CHAPTER 68	モビリティ設定	68-1
CHAPTER 69	論理パーティション ポリシーの設定	69-1
PART 4	メディア リソースの設定	
CHAPTER 70	アナンシエータの設定	70-1
	アナンシエータの設定値	70-1
	アナンシエータの検索	70-3
	アナンシエータの更新	70-4
	依存関係レコードへのアクセス	70-5
	アナンシエータのリセット	70-5
	アナンシエータの同期化	70-6
	関連項目	70-6
CHAPTER 71	会議ブリッジの設定	71-1
	ソフトウェア会議ブリッジの設定値	71-1
	ハードウェア会議ブリッジの設定値	71-5
	Cisco IOS Conference Bridge の設定値	71-8
	Cisco Video Conference Bridge の設定値	71-11
	Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値	71-14
	会議ブリッジの検索	71-17
	会議デバイスの設定	71-18
	会議デバイスの同期化	71-19
	会議デバイスの削除	71-20
	関連項目	71-20
CHAPTER 72	メディア ターミネーション ポイントの設定	72-1
	Cisco IOS Media Termination Point の設定値	72-2
	メディア ターミネーション ポイントの検索	72-3
	メディア ターミネーション ポイントの設定	72-4
	メディア ターミネーション ポイントの同期化	72-5
	メディア ターミネーション ポイントの削除	72-5
	関連項目	72-6

CHAPTER 73	保留音オーディオ ソースの設定	73-1
CHAPTER 74	保留音固定オーディオ ソースの設定	74-1
CHAPTER 75	保留音サーバの設定	75-1
CHAPTER 76	トランスコーダの設定	76-1
	トランスコーダの設定値	76-1
	トランスコーダの検索	76-3
	トランスコーダの設定	76-4
	トランスコーダのリセット	76-5
	トランスコーダの同期化	76-5
	トランスコーダの削除	76-6
	関連項目	76-7
CHAPTER 77	メディア リソース グループの設定	77-1
	メディア リソース グループの設定値	77-1
	メディア リソース グループの検索	77-3
	メディア リソース グループの設定	77-4
	メディア リソース グループの削除	77-5
	関連項目	77-6
CHAPTER 78	メディア リソース グループ リストの設定	78-1
	メディア リソース グループ リストの設定値	78-1
	メディア リソース グループ リストの検索	78-2
	メディア リソース グループ リストの設定	78-3
	メディア リソース グループ リストの削除	78-4
	関連項目	78-5
CHAPTER 79	保留音 (MOH) オーディオ ファイル管理の設定	79-1
CHAPTER 80	モバイル ボイス アクセスの設定	80-1
CHAPTER 81	アナウンスの設定	81-1
	アナウンスの設定値	81-1
	[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス	81-4

アナウンスの検索	81-7	
カスタム アナウンスのアップロード		81-8
アナウンスの再生	81-9	
アナウンスの削除	81-10	
関連項目	81-10	

PART 5**拡張機能設定****CHAPTER 82**

Cisco ボイスメール ポートの設定	82-1	
Cisco ボイスメール ポートの設定値	82-1	
Cisco ボイスメール ポートの検索	82-6	
Cisco ボイスメール ポートの設定	82-7	
Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化		82-8
Cisco ボイスメール ポートの削除	82-9	
関連項目	82-10	

CHAPTER 83

Cisco ボイスメール ポート ウィザード	83-1	
新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加	83-2	
既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加	83-7	
既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除	83-8	
関連項目	83-9	

CHAPTER 84

メッセージ受信の設定	84-1	
メッセージ受信の設定値	84-1	
メッセージ受信番号の検索	84-3	
メッセージ受信の設定	84-4	
メッセージ受信番号の削除	84-4	
関連項目	84-5	

CHAPTER 85

Cisco ボイスメール パイロットの設定	85-1	
ボイスメール パイロットの設定値	85-1	
Cisco ボイスメール パイロットの検索	85-3	
ボイスメール パイロット番号の設定	85-4	
ボイスメール パイロット番号の削除	85-4	
関連項目	85-5	

CHAPTER 86	ボイスメール プロファイルの設定 86-1	
	ボイスメール プロファイルの設定値	86-1
	ボイスメール プロファイルの検索	86-3
	ボイスメール プロファイルの設定	86-4
	ボイスメール プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化	86-5
	ボイスメール プロファイルの削除	86-5
	関連項目	86-6
<hr/>		
CHAPTER 87	Cisco Intercompany Media Engine	87-1
<hr/>		
CHAPTER 88	フォールバック設定	88-1
<hr/>		
PART 6	デバイスの設定	
<hr/>		
CHAPTER 89	CTI ルート ポイントの設定	89-1
	CTI ルート ポイントの設定値	89-2
	CTI ルート ポイントの検索	89-7
	CTI ルート ポイントの設定	89-8
	CTI ルート ポイントの削除	89-9
	CTI ルート ポイントのリセット	89-10
	CTI ルート ポイントの同期化	89-11
	関連項目	89-11
<hr/>		
CHAPTER 90	ゲートキーパーの設定	90-1
	ゲートキーパーの設定値	90-2
	ゲートキーパーの検索	90-3
	ゲートキーパーの設定	90-4
	ゲートキーパーの削除	90-5
	ゲートキーパーのリセット	90-6
	ゲートキーパーの同期化	90-6
	関連項目	90-7
<hr/>		
CHAPTER 91	ゲートウェイの設定	91-1
	ゲートウェイの設定値	91-2
	MGCP ゲートウェイの設定値	91-2
	H.323 ゲートウェイの設定値	91-5

Analog Access ゲートウェイの設定値	91-29
Cisco VG248 ゲートウェイの設定値	91-35
Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値	91-36
ポートの設定値	91-39
FXS/FXO ポートの設定値	91-39
デジタル アクセス PRI ポートの設定値	91-50
デジタル アクセス T1 ポートの設定値	91-76
BRI ポートの設定値	91-85
POTS ポートの設定値	91-100
ループ スタート ポートの設定値	91-103
グラウンドスタート ポートの設定値	91-104
E & M ポートの設定値	91-105
特定のゲートウェイの検索	91-107
Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加	91-108
Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加	91-109
MGCP ゲートウェイへのポートの追加	91-111
MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加	91-112
MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加	91-113
MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加	91-114
MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加	91-114
MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加	91-115
Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加	91-115
IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加	91-116
Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加	91-118
Analog Access ゲートウェイとポートの追加	91-118
Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加	91-119
ゲートウェイとポートの変更	91-121
依存関係レコードの使用方法	91-121
ゲートウェイの削除	91-121
ゲートウェイのリセットと再起動	91-122
ゲートウェイの同期化	91-123
ゲートウェイとポートの更新	91-123
関連項目	91-124

CHAPTER 92**Cisco Unified IP Phone の設定 92-1**

電話機の設定値	92-3
電話の移行の設定	92-30
短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値	92-30
BLF/ 短縮ダイヤルの設定値	92-31

BLF/ダイレクトコールパークの設定値	92-32
電話機の検索	92-32
Cisco Unified IP Phone の設定	92-34
既存の電話機の設定の別の電話機への移行	92-36
電話機のリセット	92-38
電話機の同期化	92-39
電話機の削除	92-40
短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定	92-41
IP Phone サービスの設定	92-42
サービスへの加入	92-42
サービスの更新	92-43
サービスの加入解除	92-44
サービス URL ボタンの設定	92-44
サービス URL ボタンの追加	92-45
リモート接続先プロファイルへのコピー	92-46
電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更	92-46
現在ログイン中のデバイスの検索	92-48
リモートからログインしたデバイスの検索	92-49
電話機の MAC アドレスの表示	92-50
関連項目	92-51

CHAPTER 93

トランクの設定	93-1
トランクの設定値	93-1
トランクの検索	93-61
トランクの設定	93-62
トランクの削除	93-64
トランクのリセット	93-65
トランクの同期化	93-66
関連項目	93-66

CHAPTER 94

リモート接続先の設定	94-1
-------------------	------

CHAPTER 95

デバイス デフォルトの設定	95-1
デバイス デフォルトの設定値	95-1
デバイス デフォルトの更新	95-2
関連項目	95-3

CHAPTER 96	デバイス ファームウェア ロード情報	96-1	
	デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索		96-1
	関連項目	96-1	
CHAPTER 97	デフォルト デバイス プロファイルの設定	97-1	
	デフォルト デバイス プロファイルの設定値		97-1
	デフォルト デバイス プロファイルの設定		97-7
	デフォルト デバイス プロファイルの削除		97-8
	関連項目	97-8	
CHAPTER 98	デバイス プロファイルの設定	98-1	
	デバイス プロファイルの設定値		98-2
	デバイス プロファイルの検索		98-9
	デバイス プロファイルの設定		98-10
	デバイス プロファイルの削除		98-12
	関連項目	98-13	
CHAPTER 99	電話ボタン テンプレートの設定	99-1	
	電話ボタン テンプレートの設定値		99-1
	電話ボタン テンプレートの検索		99-2
	電話ボタン テンプレートの設定		99-4
	Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートの設定		99-5
	電話ボタン テンプレートの削除		99-6
	関連項目	99-7	
CHAPTER 100	ソフトキー テンプレートの設定	100-1	
	ソフトキー テンプレートの検索		100-1
	非標準ソフトキー テンプレートの作成		100-3
	非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加		100-4
	非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定		100-5
	ソフトキー テンプレートの変更		100-6
	ソフトキー テンプレートの名前変更		100-6
	ソフトキー テンプレートの削除		100-7
	ソフトキー テンプレートの更新		100-8
	ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化		100-8
	IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て		100-9

関連項目 100-9

CHAPTER 101

IP Phone サービスの設定 101-1

- IP Phone サービスの設定値 101-2
- IP Phone サービス パラメータの設定値 101-6
- IP Phone サービスの検索 101-7
- IP Phone サービスの設定 101-10
- IP Phone サービスの削除 101-11
- IP Phone サービス パラメータの設定 101-12
- IP Phone サービス パラメータの削除 101-13
- IP Phone サービスの電話ボタンへの追加 101-14
- 関連項目 101-15

CHAPTER 102

SIP プロファイルの設定 102-1

- SIP プロファイルの設定値 102-1
- SIP プロファイルの検索 102-11
- SIP プロファイルの設定 102-12
- SIP プロファイルの削除 102-13
- SIP プロファイルのリセット 102-14
- SIP プロファイルと影響を受ける SIP デバイスとの同期化 102-14
- 関連項目 102-15

CHAPTER 103

共通デバイス設定 103-1

- 共通デバイスの設定値 103-1
- 共通デバイス設定の検索 103-7
- 共通デバイス設定の設定 103-8
- 共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化 103-9
- 共通デバイス設定の削除 103-10
- 関連項目 103-10

CHAPTER 104

共通電話プロファイルの設定 104-1

- 共通電話プロファイルの設定値 104-1
- 共通電話プロファイルの検索 104-6
- 共通電話プロファイルの設定 104-7
- 共通電話プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化 104-8
- 共通電話プロファイルの削除 104-8

	関連項目	104-9	
CHAPTER 105	リモート接続先プロファイルの設定		105-1
CHAPTER 106	機能管理ポリシーの設定	106-1	
	機能管理ポリシーの設定	106-1	
	機能管理ポリシーの検索	106-2	
	機能管理ポリシーの設定	106-3	
	機能管理ポリシーの削除	106-5	
	関連項目	106-6	
CHAPTER 107	録音プロファイルの設定	107-1	
	録音プロファイルの設定値	107-1	
	録音プロファイルの検索	107-2	
	録音プロファイルの設定	107-3	
	録音プロファイルの削除	107-4	
	関連項目	107-4	
PART 7	アプリケーションの設定		
CHAPTER 108	Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード		108-1
CHAPTER 109	プラグインの設定	109-1	
	プラグイン URL 更新の設定値	109-1	
	プラグインのインストール	109-2	
	プラグイン URL の更新	109-3	
	関連項目	109-3	
PART 8	ユーザ管理の設定		
CHAPTER 110	クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定	110-1	
	クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値	110-1	
	クレデンシャル ポリシーのデフォルトの検索	110-3	
	クレデンシャル ポリシーのデフォルトの割り当てと設定	110-3	
	関連項目	110-4	

CHAPTER 111	クレデンシャル ポリシーの設定	111-1
	クレデンシャル ポリシーの設定値	111-1
	クレデンシャル ポリシーの検索	111-3
	クレデンシャル ポリシーの設定	111-4
	クレデンシャル ポリシーの削除	111-5
	関連項目	111-6
CHAPTER 112	アプリケーション ユーザの設定	112-1
	アプリケーション ユーザの設定値	112-1
	アプリケーション ユーザの検索	112-6
	アプリケーション ユーザの設定	112-8
	Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加	112-9
	アプリケーション ユーザのパスワードの変更	112-10
	アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理	112-11
	クレデンシャルの設定値とフィールド	112-12
	アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け	112-13
	アプリケーション ユーザの削除	112-14
	関連項目	112-15
CHAPTER 113	エンド ユーザの設定	113-1
	エンド ユーザの設定値	113-2
	エンド ユーザの検索	113-10
	エンド ユーザの設定	113-11
	Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成	113-12
	エンド ユーザのパスワードの変更	113-13
	エンド ユーザの PIN の変更	113-14
	エンド ユーザのクレデンシャルの管理	113-14
	クレデンシャルの設定値とフィールド	113-15
	エンド ユーザのユーザ関連情報の設定	113-17
	エンド ユーザとデバイスとの関連付け	113-18
	Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け	113-20
	エンド ユーザの削除	113-21
	関連項目	113-22
CHAPTER 114	権限の設定	114-1
	権限の設定値	114-2

	権限の検索	114-3	
	権限の設定	114-4	
	権限の削除	114-5	
	関連項目	114-6	
CHAPTER 115	ユーザグループの設定	115-1	
	ユーザグループの検索	115-1	
	ユーザグループの設定	115-3	
	ユーザグループの削除	115-4	
	ユーザグループへのユーザの追加	115-4	
	ユーザグループからのユーザの削除	115-6	
	ユーザグループへの権限の割り当て	115-7	
	ユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権の表示	115-8	
	関連項目	115-9	
CHAPTER 116	ユーザ / 電話機の追加の設定	116-1	
	ユーザとデバイスの設定値	116-2	
	エンドユーザと電話機の追加	116-4	
	関連項目	116-5	
CHAPTER 117	アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定	117-1	
CHAPTER 118	エンドユーザ CAPF プロファイルの設定	118-1	
CHAPTER 119	SIP レルムの設定	119-1	
PART 9	Cisco Unified Communications Manager 一括管理		
CHAPTER 120	一括管理ツール (BAT)	120-1	
PART 10	付録		
APPENDIX A	依存関係レコード	A-1	
	依存関係レコードの使用可能化	A-1	
	依存関係レコードの使用不可能化	A-2	
	依存関係レコードへのアクセス	A-2	
	依存関係レコードのボタン	A-4	

APPENDIX B

SIP を実行しているシスコ以外の電話機の設定	B-1
SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト	B-1
SIP を実行している電話機の設定との相違点	B-3
Cisco Unified Communications Manager がサードパーティ製の電話機を識別する方法	B-4
SIP を実行しているサードパーティ製の電話機と TFTP	B-5
SIP を実行しているサードパーティ製の電話機のダイジェスト認証の使用可能化	B-5
DTMF 受信	B-5
SIP を実行しているサードパーティ製の電話機用のライセンス	B-5
参考情報	B-6

INDEX



はじめに

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、シスコ製品の最新情報が記載されていない可能性があります。次の URL からシスコの製品マニュアルのページにアクセスすることにより、最新資料を入手することができます。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html

次のトピックについて取り上げます。

- 「目的」 (P.xxvii)
- 「対象読者」 (P.xxviii)
- 「マニュアルの構成」 (P.xxviii)
- 「関連資料」 (P.xxix)
- 「表記法」 (P.xxix)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.xxxi)

目的

『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』では、Cisco Unified Communications Manager (旧称 Cisco Unified CallManager) システムの管理に必要な手順を説明します。このマニュアルには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して行う作業手順の説明があります。さらに、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』は Cisco Unified Communications Manager を使用する際に役立つコマンドの解説も記述しています。このマニュアルは、『*Cisco Unified Communications Manager システムガイド*』と併せてお読みください。『*Cisco Unified Communications Manager システムガイド*』では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して機能をセットアップする場合のヒントを提供しています。その他にも、Cisco Unified Communications Manager とそのコンポーネントの概要について記述しています。

対象読者

『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』は、Cisco Unified Communications Manager システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルを使用するには、テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

部	説明
第 1 部	「Cisco Unified Communications Manager」 Cisco Unified Communications Manager の設定と動作に関する概要を全般的に説明しています。
第 2 部	「システムの設定」 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] メニューの項目を設定する方法を説明しています。
第 3 部	「コール ルーティングの設定」 Cisco Unified Communications Manager の管理ページでコール ルーティング機能を設定する方法を説明しています。
第 4 部	「メディア リソースの設定」 Cisco Unified Communications Manager と連携して使用されるメディア リソースを設定する方法を説明しています。
第 5 部	「拡張機能設定」 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の機能を設定する方法を説明しています。 <ul style="list-style-type: none"> ボイスメールおよびメッセージング Service Advertisement Framework (SAF) Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ (EMCC) Cisco Intercompany Media Engine フォールバック Virtual Private Network (VPN; バーチャル プライベート ネットワーク)
第 6 部	「デバイスの設定」 Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイスを設定する方法を説明しています。
第 7 部	「アプリケーションの設定」 Cisco Unified Communications Manager と連携するプラグイン アプリケーションとアプリケーション インターフェイスを設定する方法を説明しています。

部	説明
第 8 部	「ユーザ管理の設定」 Cisco Unified Communications Manager の管理ページでアプリケーション ユーザ、エンドユーザ、権限、ユーザグループ、ユーザ関連 CAPF プロファイル、および SIP レルムを設定する方法を説明しています。
第 9 部	「Cisco Unified Communications Manager 一括管理」 Cisco Unified Communications Manager 一括管理について説明しています。
第 10 部	「付録」 依存関係レコード、および SIP を実行しているシスコ以外の電話機の設定について説明しています。

関連資料

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細については、次の資料を参照してください。

- 『*Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)*』
- 『*Upgrading Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide*』
- 『*Release Notes for Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Call Detail Records Administration Guide*』
- 『*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』
- 『*Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』
- 『*Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)*』

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。

表記法	説明
{ x y z }	必ずいずれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングと見なされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、 太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体の screen</i> フォントで示しています。
→	例の中で重要な文字を強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、かぎカッコ (<>) で囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「*注釈*」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス

*時間を節約する方法*です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役立つヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「*要注意*」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「*危険*」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



PART 1

Cisco Unified Communications Manager



CHAPTER 1

概要

Cisco Unified Communications Manager (以前は Cisco Unified CallManager) は、コールを処理するためのソフトウェア ベースのコンポーネントであり、Cisco Unified Communications ファミリの製品です。さまざまなタイプの Cisco Media Convergence Server が、Cisco Unified Communications Manager のコール処理、サービス、およびアプリケーションに対して可用性の高いサーバプラットフォームを提供します。

Cisco Unified Communications Manager システムは、企業のテレフォニー機能をパケット テレフォニー デバイスまで拡張して、たとえば、IP Phone、メディア処理デバイス、Voice-over-IP (VoIP) ゲートウェイ、マルチメディア アプリケーションなどを提供します。その他にも、統合メッセージング、マルチメディア会議、コラボレーション連絡センター、対話型マルチメディア応答システムなどで使用されるデータ、音声、ビデオの各サービスでは、オープン型の Cisco Unified Communications Manager テレフォニー API を利用してサービス間の情報を交換することが可能になります。

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco 統合テレフォニー アプリケーションおよびサードパーティ アプリケーションに対して、シグナリングとコール制御のサービスを提供します。Cisco Unified Communications Manager の主な機能は、次のとおりです。

- コール処理
- シグナリングとデバイス制御
- ダイヤル プランの管理
- 電話機能の管理
- ディレクトリ サービス
- Operations, administration, management, and provisioning (OAM&P; 操作、アドミニストレーション、管理、およびプロビジョニング)
- Cisco IP Communicator や Cisco Unified IP Interactive Voice Response (IP IVR) などの外部音声処理アプリケーションに対するプログラミング インターフェイス

追加情報

[「関連項目」\(P.1-17\)](#) を参照してください。

主な機能と利点

Cisco Unified Communications Manager システムには、音声会議と WebAttendant 機能を利用するのに必要な一連の統合音声アプリケーションが組み込まれています。音声アプリケーションが組み込まれているため、音声処理用に特別のハードウェアは必要ありません。保留、任意転送、自動転送、会議、複数ラインアピラランス、自動ルート選択、スピードダイヤル、前回かけた番号のリダイヤルなどの補助的な拡張サービスが、IP Phone とゲートウェイに付加されます。Cisco Unified Communications Manager はソフトウェア アプリケーションなので、実稼動環境で機能を拡張するには、サーバプラットフォーム上でソフトウェアをアップグレードするだけで済み、高価なハードウェアのアップグレード費用が不要になります。

Cisco Unified Communications Manager は、すべての Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、アプリケーションと IP ネットワーク全体に配備が可能のため、分散型のバーチャルテレフォニーネットワークを構築することができます。このアーキテクチャにより、システムのアベイラビリティとスケーラビリティが向上します。コールアドミッション制御により、帯域幅に制約のある WAN リンク内での音声 Quality of Service (QoS; サービス品質) が保証され、WAN 帯域幅が十分でないときには別の Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) にコールが自動転送されます。

Cisco Unified Communications Manager 設定データベースへのインターフェイスは通常の Web ブラウザを使用しているため、リモートデバイスとリモートシステムの設定機能も提供しています。ユーザおよび管理者は、このインターフェイスを使用して HTML ベースのオンラインヘルプにアクセスすることができます。

アプライアンスと同様に動作するように設計された Cisco Unified Communications Manager は、次の機能を備えています。

- Cisco Unified Communications Manager サーバは、お客様やパートナーがサーバを配置しやすいように、ソフトウェアと共に事前にインストールされた状態で入手できます。このサーバはアップデートを自動的に検索し、システムに対する重要なセキュリティ修正やソフトウェアアップグレードが使用可能になると、管理者に自動的に通知することができます。このプロセスは、Electronic Software Upgrade Notification と呼ばれます。
- Cisco Unified Communications Manager サーバは、コールの処理を続けたままアップグレードすることができるため、アップグレードは最小限のダウンタイムで完了します。
- Cisco Unified Communications Manager は高解像度の電話ディスプレイ上で Unicode をサポートしているため、アジアおよび中東地域での使用をサポートしています。
- Cisco Unified Communications Manager は、Fault, Configuration, Accounting, Performance, and Security (FCAPS; 障害、構成、課金、パフォーマンス、およびセキュリティ) を提供します。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの参照

Cisco Unified Communications Manager の管理プログラムには、Web サーバとなっていない PC、または Cisco Unified Communications Manager がインストールされていない PC からアクセスします。Cisco Unified Communications Manager の管理ページのサーバ上には、ブラウザ ソフトウェアはありません。サーバの参照の詳細については、「[Web ブラウザ](#)」(P.1-3) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-17) を参照してください。

Web ブラウザ

Cisco Unified Communications Manager の管理は、次のオペレーティング システム ブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer (IE) 7 (Microsoft Windows XP SP3 で実行する場合)
- Microsoft Internet Explorer (IE) 8 (Microsoft Windows XP SP3 または Microsoft Vista SP2 で実行する場合)
- Firefox 3.x (Microsoft Windows XP SP3、Microsoft Vista SP2、または Apple MAC OS X で実行する場合)
- Safari 4.x (Apple MAC OS X で実行する場合)

ネットワーク内の任意のユーザ PC から、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを実行しているサーバを参照し、管理特権でログインします。



(注)

多数のユーザが同時に Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数は制限してください。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページは、ブラウザのボタンをサポートしていません。設定作業を行うときは、ブラウザ ボタン ([戻る] ボタンなど) を使用しないでください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-17) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページへのログイン

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインする手順を下記に示します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインすると、Cisco Unified Communications Manager 用ライセンスの現在の状態を示すメッセージがメイン ウィンドウに表示されることがあります。たとえば、Cisco Unified Communications Manager は次のような状況を識別します。

- Cisco Unified Communications Manager は現在、スターター（デモ）ライセンスで動作しているので、適切なライセンス ファイルをアップロードしてください。
- Cisco Unified Communications Manager は現在、不十分なライセンス数で動作しているので、追加のライセンス ファイルをアップロードしてください。
- Cisco Unified Communications Manager は現在、正しいソフトウェア機能ライセンスを使用していません。この場合、Cisco CallManager サービスは停止し、適切なソフトウェア バージョン ライセンスをアップロードして Cisco CallManager サービスを再起動するまで開始しません。

手順

サーバを参照して Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインする手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** 適当なオペレーティング システム ブラウザを起動します。
- ステップ 2** Web ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します。大文字と小文字は区別してください。
`https://<Unified CM-server-name>:{8443}/ccmadmin/showHome.do`
<Unified CM-server-name> はサーバの名前または IP アドレスです。



(注) ポート番号を指定することもできます。

- ステップ 3** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。適切なボタンをクリックします。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウで、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に指定したユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。
-



(注) セキュリティを維持するために、非アクティビティ状態が 30 分続くと、ユーザは Cisco Unified Communications Manager の管理ページからログアウトされます。この場合、もう一度ログインする必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページからのログオフ

手順

Cisco Unified Communications Manager の管理ページからログオフする手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウで、右上にある [ログアウト (Logout)] ボタンをクリックします。
- ステップ 2** ログイン フィールドのあるウィンドウが再表示されます。
-

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)

Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS; HTTP over SSL) は、Microsoft Windows ユーザのブラウザと Web サーバ間の通信を保護します。HTTPS は、証明書を使用してサーバの ID を保証し、ブラウザ接続を保護します。また、インターネット上でデータ (ユーザ ログインとパスワードなど) を転送する際には、公開鍵を使用してデータを暗号化します。

HTTPS を有効にするには、接続の処理中に、サーバを識別する証明書をダウンロードする必要があります。サーバ証明書は、現在のセッションに対してだけ受け入れるか、または信頼できるフォルダ (ファイル) にダウンロードして当該サーバでの現在のセッションと将来のセッションを保護することができます。信頼できるフォルダには、信頼できるすべてのサイトの証明書が格納されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページ、Cisco Unity Connection の管理、Cisco Unified サービスアビリティ、Cisco Unified CM のユーザ オプション ページ、トレース収集ツール、Real-Time Monitoring Tool (RTMT)、および XML (AXL) アプリケーション プログラミング インターフェイスの各 Cisco Unified Communications Manager アプリケーションは、HTTPS をサポートしています。

自己署名証明書は、インストール時に Web サーバ上で生成されます (この証明書は、アップグレード時にも移行されます)。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Internet Explorer 7、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用

Internet Explorer (IE) 7 では、追加されたセキュリティ機能により、ブラウザで Web サイトへのアクセス時にシスコ証明書を処理する方法を変更できます。シスコでは Cisco Unified Communications Manager サーバ向けに自己署名証明書を提供しているため、Internet Explorer 7 は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ Web サイトを信頼されていないものとしてフラグ設定し、証明書エラーを表示します。この処理は、信頼ストアにサーバ証明書が格納されている場合でも行われず。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理は、Microsoft Windows XP SP3 で実行されている場合には IE 7 をサポートします。

ブラウザを再起動するたびに証明書をリロードしなくてもアクセスが保護されるようにするために、必ず Cisco Unified Communications Manager 証明書を Internet Explorer 7 にインポートしてください。証明書の警告が表示された Web サイトへのアクセスを続行する場合、その証明書が信頼ストアに存在しないときは、Internet Explorer 7 は現在のセッションの間だけ証明書を記憶します。

サーバ証明書をダウンロードした後も、Internet Explorer 7 は引き続き Web サイトの証明書エラーを表示します。ブラウザの [信頼されたルート証明機関] 信頼ストアにインポート済みの証明書が表示される場合は、セキュリティの警告を無視できます。

Internet Explorer 7 のルート証明書信頼ストアに Cisco Unified Communications Manager 証明書をインポートする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Tomcat サーバ上のアプリケーションを参照します (たとえば、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのホスト名、ローカル ホスト、または IP アドレスをブラウザに入力します)。
[証明書エラー: ナビゲーションはブロックされました] ページがブラウザに表示され、この Web サイトが信頼されていないことが示されます。
- ステップ 2** サーバにアクセスするには、[このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)] をクリックします。
[Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウが表示され、ブラウザのアドレスバーと [証明書のエラー] ステータスが赤色で表示されます。
- ステップ 3** サーバ証明書をインポートするには、[証明書のエラー] ステータス ボックスをクリックして、ステータス レポートを表示します。レポート内の [証明書の表示] リンクをクリックします。
- ステップ 4** 証明書の詳細を確認します。
[証明のパス] タブに「信頼されたルート証明機関のストアに存在しないためこの CA ルート証明書は信頼されていません」と表示されます。
- ステップ 5** [証明書] ウィンドウの [全般] タブを選択し、[証明書のインストール] をクリックします。
[証明書のインポート ウィザード] が起動します。
- ステップ 6** ウィザードを開始するには、[次へ] をクリックします。
[証明書ストア] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** 自動オプション (ウィザードにこの証明書の種類に基づいて証明書ストアを選択させる) が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- ステップ 8** 設定を確認し、[完了] をクリックします。
インポート操作に関するセキュリティの警告が表示されます。
- ステップ 9** 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。
インポート ウィザードに「正しくインポートされました」と表示されます。
- ステップ 10** [OK] をクリックします。[証明書の表示] リンクを次にクリックすると、[証明書] ウィンドウの [証明のパス] タブに、「この証明書は問題ありません」と表示されます。
- ステップ 11** 信頼ストアにインポート済みの証明書が含まれていることを確認するには、Internet Explorer のツールバーで [ツール] > [インターネット オプション] の順にクリックし、[コンテンツ] タブを選択します。[証明書] をクリックし、[信頼されたルート証明機関] タブを選択します。リストをスクロールして、インポート済みの証明書を探します。

証明書をインポートした後も、引き続き、ブラウザのアドレスバーと [証明書のエラー] ステータスは赤色で表示されます。ホスト名、ローカル ホスト、または IP アドレスを再入力したり、ブラウザを更新または再起動したりしても、この状態は続きます。

証明書のファイルへのコピー

証明書をファイルにコピーし、ローカルに保管することによって、必要なときにいつでも証明書を復元できます。

次の手順を実行すると、標準の証明書保管形式で証明書がコピーされます。証明書の内容をファイルにコピーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [証明書のエラー] ステータス ボックスをクリックします。
- ステップ 2** [証明書の表示] をクリックします。
- ステップ 3** [詳細設定] タブをクリックします。
- ステップ 4** [ファイルにコピー] ボタンをクリックします。
- ステップ 5** [証明書のエクスポート ウィザード] が表示されます。[次へ] をクリックします。
- ステップ 6** 次のリストからファイル形式を選択できます。エクスポート ファイルに使用するファイル形式を選択し、[次へ] をクリックします。
 - [DER encoded binary X.509 (.CER)] : DER を使用してエンティティ間で情報を転送します。
 - [Base-64 encoded X.509 (.CER)] : 保護されたバイナリ添付ファイルをインターネット経由で送信します。ASCII テキスト形式を使用してファイルの破損を防止します。
 - [Cryptographic Message Syntax Standard-PKCS #7 証明書 (.P7B)] : 証明書と、証明書のパス内のすべての証明書を選択した PC にエクスポートします。
- ステップ 7** ファイルのコピーをエクスポートする場所に移動して、ファイルの名前を指定します。[保存] をクリックします。
- ステップ 8** ファイル名とパスが [証明書のエクスポート ウィザード] ペインに表示されます。[次へ] をクリックします。
- ステップ 9** ファイルと設定が表示されます。[完了] をクリックします。
- ステップ 10** エクスポートが正常に行われたことを示すダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.1-17) を参照してください。

Internet Explorer 8、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理は、Microsoft Windows XP SP3 または Microsoft Vista SP2 で実行されている場合には IE 8 をサポートします。

ブラウザを再起動するたびに証明書をリロードしなくてもアクセスが保護されるようにするために、必ず Cisco Unified Communications Manager 証明書を Internet Explorer 8 にインポートしてください。証明書の警告が表示された Web サイトへのアクセスを続行する場合、その証明書が信頼ストアに存在しないときは、Internet Explorer 8 は現在のセッションの間だけ証明書を記憶します。

サーバ証明書をダウンロードした後も、Internet Explorer 8 は引き続き Web サイトの証明書エラーを表示します。ブラウザの [信頼されたルート証明機関] 信頼ストアにインポート済みの証明書が表示される場合は、セキュリティの警告を無視できます。

Internet Explorer 8 のルート証明書信頼ストアに Cisco Unified Communications Manager 証明書をインポートする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Tomcat サーバのアプリケーションを参照します (たとえば、ブラウザに Cisco Unified Communications Manager の管理ページのホスト名、ローカル ホスト、または IP アドレスを入力します)。
ブラウザに、この Web サイトが信頼されていないことを示す「証明書エラー：ナビゲーションはブロックされました」というメッセージが表示されます。
- ステップ 2** サーバにアクセスするには、[このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)] をクリックします。
[Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウが表示され、ブラウザのアドレスバーと [証明書のエラー] ステータスが赤色で表示されます。
- ステップ 3** サーバ証明書をインポートするには、[証明書のエラー] ステータス ボックスをクリックして、ステータス レポートを表示します。レポート内の [証明書の表示] リンクをクリックします。
- ステップ 4** 証明書の詳細を確認します。
- ステップ 5** [証明書] ウィンドウの [全般] タブを選択し、[証明書のインストール] をクリックします。
[証明書のインポート ウィザード] が起動します。
- ステップ 6** ウィザードを開始するには、[次へ] をクリックします。
[証明書ストア] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 7** [自動] オプション (ウィザードがこの証明書タイプの証明書ストアを選択できる) が選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- ステップ 8** 設定を確認し、[完了] をクリックします。
インポート操作に関するセキュリティの警告が表示されます。
- ステップ 9** 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。
「正しくインポートされました」と表示されます。
- ステップ 10** [OK] をクリックします。次回 [証明書の表示] リンクをクリックすると、[証明書] ウィンドウの [証明書のパス] タブに「この証明書は問題ありません」と表示されます。

ステップ 11 インポートした証明書が信頼ストアにあることを確認するには、Internet Explorer のツールバーで [ツール] > [インターネット オプション] をクリックし、[コンテンツ] タブを選択します。[証明書] をクリックし、[信頼されたルート証明機関] タブを選択します。リストをスクロールして、インポート済みの証明書を探します。

証明書をインポートした後も、引き続き、ブラウザのアドレスバーと [証明書のエラー] ステータスは赤色で表示されます。ホスト名、ローカル ホスト、または IP アドレスを再入力したり、ブラウザを更新または再起動したりしても、この状態は続きます。

証明書のファイルへのコピー

証明書をファイルにコピーし、ローカルに保管することによって、必要なときにいつでも証明書を復元できます。

次の手順を実行すると、標準の証明書保管形式で証明書がコピーされます。証明書の内容をファイルにコピーするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [証明書のエラー] ステータス ボックスをクリックします。
- ステップ 2** [証明書の表示] をクリックします。
- ステップ 3** [詳細設定] タブをクリックします。
- ステップ 4** [ファイルにコピー] ボタンをクリックします。
- ステップ 5** [証明書のエクスポート ウィザード] が表示されます。[次へ] をクリックします。
- ステップ 6** 次のリストからファイル形式を選択できます。エクスポート ファイルに使用するファイル形式を選択し、[次へ] をクリックします。
- [DER encoded binary X.509 (.CER)] : DER を使用してエンティティ間で情報を転送します。
 - [Base-64 encoded X.509 (.CER)] : 保護されたバイナリ添付ファイルをインターネット経由で送信します。ASCII テキスト形式を使用してファイルの破損を防止します。
 - [Cryptographic Message Syntax Standard-PKCS #7 証明書 (.P7B)] : 証明書と、証明書のパス内のすべての証明書を選択した PC にエクスポートします。
- ステップ 7** ファイルのコピーをエクスポートする場所に移動して、ファイルの名前を指定します。[保存] をクリックします。
- ステップ 8** ファイル名とパスが [証明書のエクスポート ウィザード] ペインに表示されます。[次へ] をクリックします。
- ステップ 9** ファイルと設定が表示されます。[完了] をクリックします。
- ステップ 10** エクスポートが正常に行われたことを示すダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Firefox 3.x、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理は、Microsoft Windows XP SP3、Microsoft Vista SP2、または Apple MAC OS X で実行されている場合には Firefox 3.x をサポートします。

(Cisco Unified Communications Manager のインストールまたはアップグレード後に) ブラウザ クライアントからシステム管理者 (またはユーザ) が Cisco Unified Communications Manager の管理ページまたは他の Cisco Unified Communications Manager SSL が使用可能になっている仮想ディレクトリに初めてアクセスするときは、サーバを信頼するかどうかをたずねるセキュリティ警告のダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスが表示されたら、次の作業のいずれかを実行します。

- [危険性を理解した上で接続するには] をクリックして、現在の Web セッションに対してだけ証明書を信頼します。現在のセッションに対してだけ証明書を信頼すると、セキュリティ警告のダイアログボックスは、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまで、アプリケーションにアクセスするたびに表示されます。
- [スタートページに戻る] をクリックして、アクションをキャンセルします。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[リスクがあることを理解しています] をクリックする必要があります。

Firefox 3.x のルート証明書信頼ストアに Cisco Unified Communications Manager 証明書をインポートする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Tomcat サーバにアクセスします (たとえば、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのホスト名、ローカル ホスト、または IP アドレスをブラウザに入力します)。
- ステップ 2** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[リスクがあることを理解しています] をクリックします。
- ステップ 3** [例外を追加] をクリックします。
[例外を追加] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [証明書を取得] をクリックします。
- ステップ 5** [次回以降にもこの例外を有効にする] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [セキュリティ例外を承認] をクリックします。
- ステップ 7** 証明書の詳細を表示するには、次の手順を実行します。
 - a. Firefox ブラウザで、[ツール] > [オプション] をクリックします。
[オプション] ダイアログボックスが表示されます。
 - b. [詳細] をクリックします。
 - c. [証明書を表示] をクリックします。
[証明書マネージャ] ダイアログボックスが表示されます。
 - d. 表示する証明書を強調表示し、[表示] をクリックします。
[証明書ビューア] ダイアログボックスが表示されます。
 - e. [詳細] タブをクリックします。
 - f. [証明書のフィールド] フィールドで、表示するフィールドを強調表示します。
[フィールドの値] フィールドに詳細が表示されます。

- g. [証明書ビューア] ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。
- h. [証明書マネージャ] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

証明書のファイルへのコピー

証明書をファイルにコピーし、ローカルに保管することによって、必要なときにいつでも証明書を復元できます。

次の手順を実行すると、標準の証明書保管形式で証明書がコピーされます。証明書の内容をファイルにコピーするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Firefox ブラウザで、[ツール]>[オプション] をクリックします。
[オプション] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 2** まだ選択していない場合は、[詳細] をクリックします。
 - ステップ 3** [暗号化] タブをクリックし、[証明書を表示] をクリックします。
[証明書マネージャ] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** [サーバ証明書] タブをクリックします。
 - ステップ 5** コピーする証明書を強調表示し、[エクスポート] をクリックします。
[証明書をファイルに保存] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 6** ファイルをコピーする場所を参照します。
 - ステップ 7** [ファイルの種類] ドロップダウン リストで、次のオプションからファイルの種類を選択します。
 - [X.509 証明書 (PEM)] : PEM を使用してエンティティ間で情報を転送します。
 - [証明書パスを含む X.509 証明書 (PEM)] : プライバシー エンハンスド メールを使用して、証明書チェーンを確認し、エンティティ間で情報を転送します。
 - [X.509 証明書 (DER)] : DER を使用して、エンティティ間で情報を転送します。
 - [X.509 証明書 (PKCS#7)] : PKCS#7 はデータに署名または暗号化するための標準です。署名入りデータの検証には証明書が必要になるため、SignedData 構造に証明書を含めることができます。P7C ファイルは SignedData 構造を簡素化したもので、データへの署名が必要ありません。
 - [証明書パスを含む X.509 証明書 (PKCS#7)] : PKCS#7 を使用して、証明書チェーンを確認し、エンティティ間で情報を転送します。
 - ステップ 8** [保存] をクリックします。
 - ステップ 9** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Safari 4.x、HTTPS と Cisco Unified Communications Manager の管理の使用



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理は、Apple MAC OS X で実行されている場合には Safari 4.x をサポートします。

(Cisco Unified Communications Manager のインストールまたはアップグレード後に) ブラウザクライアントからシステム管理者（またはユーザ）が Cisco Unified Communications Manager の管理ページまたは他の Cisco Unified Communications Manager SSL が使用可能になっている仮想ディレクトリに初めてアクセスするときは、サーバを信頼するかどうかをたずねるセキュリティ警告のダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスが表示されたら、次の作業のいずれかを実行します。

- [はい] をクリックして、現在の Web セッションに対してだけ証明書を信頼します。現在のセッションに対してだけ証明書を信頼すると、セキュリティ警告のダイアログボックスは、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまで、アプリケーションにアクセスするたびに表示されません。
- [証明書を表示] > [証明書のインストール] の順にクリックして証明書のインストールを実行し、その証明書を常に信頼します。信頼できるフォルダ内に証明書をインストールした場合、Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることはありません。
- [いいえ] をクリックして、操作をキャンセルします。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい] をクリックするか、または [証明書の表示] > [証明書のインストール] オプションを使用して証明書をインストールする必要があります。



(注) Cisco Unified Communications Manager へのアクセスに使用するアドレスは、証明書に記載されている名前と一致する必要があります。一致しない場合は、デフォルトでメッセージが表示されます。信頼できるフォルダに証明書をインストールした後で、ローカル ホストまたは IP アドレスを使用して Web アプリケーションにアクセスした場合は、セキュリティの警告が表示され、セキュリティ証明書の名前がアクセス先のサイトの名前と一致しないことが示されます。

Safari 4.x のルート証明書信頼ストアに Cisco Unified Communications Manager 証明書をインポートする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Tomcat サーバにアクセスします（たとえば、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのホスト名、ローカル ホスト、または IP アドレスをブラウザに入力します）。
- ステップ 2** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示] をクリックします。証明書のデータを確認する場合は、[詳細] タブをクリックして、証明書の詳細を表示できます。設定のサブセットを表示するには（使用可能な場合）、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。
- [すべて]：すべてのオプションが [詳細] ペインに表示されます。
 - [バージョン 1 のフィールドのみ]：[バージョン]、[シリアル番号]、[署名アルゴリズム]、[発行者]、[有効期間の開始]、[有効期間の終了]、[サブジェクト]、[公開キー] の各オプションが表示されます。

- [拡張機能のみ]: [サブジェクト キー識別子]、[キー使用法]、[拡張キー使用法] の各オプションが表示されます。
- [重要な拡張機能のみ]: 重要な拡張機能が表示されます (存在する場合)。
- [プロパティのみ]: [拇印アルゴリズム] と [拇印] オプションが表示されます。

ステップ 3 [証明書] ペインで、[証明書のインストール] をクリックします。

ステップ 4 [証明書のインポート ウィザード] が表示されたら、[次へ] をクリックします。

ステップ 5 [証明書をすべて次のストアに配置する] オプション ボタンをクリックし、[参照] をクリックします。

ステップ 6 [信頼されたルート証明機関] を参照し、選択してから [OK] をクリックします。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [完了] をクリックします。

[セキュリティ警告] ダイアログボックスに、証明書の拇印が表示されます。

ステップ 9 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。

インポートが正常に行われたことを知らせるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

ステップ 10 ダイアログボックスの右下にある [OK] をクリックします。

ステップ 11 証明書を信頼し、このダイアログボックスを再び表示しない場合は、[はい] をクリックします。



ヒント [証明書] ペインの [証明のパス] タブをクリックすると、証明書が正しくインストールされたことを確認できます。

証明書のファイルへのコピー

証明書をファイルにコピーし、ローカルに保管することによって、必要なときにいつでも証明書を復元できます。

次の手順を実行すると、標準の証明書保管形式で証明書がコピーされます。証明書の内容をファイルにコピーするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティの警告] ダイアログボックスで、[証明書を表示] をクリックします。



ヒント Safari で、[証明書のエラー] ステータス ボックスをクリックして、[証明書の表示] オプションを表示します。

ステップ 2 [詳細] タブをクリックします。

ステップ 3 [ファイルにコピー] ボタンをクリックします。

ステップ 4 [証明書のエクスポート ウィザード] が表示されます。[次へ] をクリックします。

ステップ 5 次のリストからファイル形式を選択できます。エクスポート ファイルに使用するファイル形式を選択し、[次へ] をクリックします。

- [DER encoded binary X.509 (.CER)]: DER を使用してエンティティ間で情報を転送します。
- [Base-64 encoded X.509 (.CER)]: 保護されたバイナリ添付ファイルをインターネット経由で送信します。ASCII テキスト形式を使用してファイルの破損を防止します。

- [Cryptographic Message Syntax Standard-PKCS #7 証明書 (.P7B)] : 証明書と、証明書のパス内のすべての証明書を選択した PC にエクスポートします。
- ステップ 6** ファイルのコピーをエクスポートする場所に移動して、ファイルの名前を指定します。[保存] をクリックします。
- ステップ 7** ファイル名とパスが [証明書のエクスポート ウィザード] ペインに表示されます。[次へ] をクリックします。
- ステップ 8** ファイルと設定が表示されます。[完了] をクリックします。
- ステップ 9** エクスポートが正常に行われたことを示すダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作

ログインすると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウが再表示されます。このウィンドウの右上には、[ナビゲーション(Navigation)] と呼ばれるドロップダウン リスト ボックスがあります。このドロップダウン リスト ボックスにあるアプリケーションにアクセスするには、必要なプログラムを選択し、[移動(Go)] をクリックします。



(注)

サポートされている最小の画面解像度は 1024x768 です。これよりも画面解像度を小さくすると、デバイスにアプリケーションが正しく表示されない場合があります。

ドロップダウン リスト ボックスに表示されるオプションは、次の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションです。

- [Cisco Unified Communications Manager の管理(Cisco Unified Communications Manager Administration)] : Cisco Unified Communications Manager にアクセスしたときに、デフォルトとして表示されます。システム パラメータ、ルート プラン、デバイスなどを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。
- [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] : Cisco Unified サービスアビリティのメイン ウィンドウが表示されます。このアプリケーションは、トレース ファイルとアラームを設定し、サービスをアクティブまたは非アクティブにするために使用します。
- [Cisco Unified OS の管理(Cisco Unified OS Administration)] : Cisco Unified OS の管理のメイン ウィンドウが表示され、Cisco Unified Communications Manager プラットフォームの設定と管理を行うことができます。このアプリケーションにログインするには、その前に他のすべてのアプリケーションからログオフする必要があります。
- [障害復旧システム(Disaster Recovery System)] : Cisco 障害復旧システムが表示されます。このプログラムは、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のすべてのサーバに対して、データの完全バックアップおよび復元機能を提供します。このアプリケーションにログインするには、その前に他のすべてのアプリケーションからログオフする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインすると、各アプリケーションにログインすることなく、[ナビゲーション(Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されるすべてのアプリケーションにアクセスできます。ただし、Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページおよび障害復旧システムを除きます。Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページまたは障害復旧システムの GUI には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページへのアクセスに使用したものと同一ユーザ名とパスワードではアクセスできません。これらのアプリケーションに Cisco Unified Communications Manager の管理ページからアクセスするには、[Cisco Unified Communications Manager の管理(Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウの右上にある [ログアウト(Logout)] ボタンをクリックしてから [ナビゲーション(Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスでアプリケーションを選択し、[移動(Go)] をクリックします。

[ナビゲーション(Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されるいずれかのアプリケーション (Cisco Unified オペレーティング システムの管理ページまたは障害復旧システムを除く) にログイン済みの場合は、ログインすることなく Cisco Unified Communications Manager の管理ページにアクセスできます。それには、[ナビゲーション(Navigation)] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco Unified Communications Manager の管理(Cisco Unified Communications Manager Administration)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Cisco Unified Presence サーバ リンク

Cisco Unified Presence サーバを設定した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウには、関連付けられた Cisco Unified Presence サーバへの直接的なリンクが表示されます。Cisco Unified Presence の管理ページにアクセスするには、Cisco Unified Presence のアドレスリンクをクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

Cisco Unified Presence サーバへのリンク

Cisco Unified Presence サーバを Cisco Unified Communications Manager クラスタの一部として設定した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウには Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバへのリンクが表示されます。

Cisco Unified Presence の管理ページにアクセスするには、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバへのリンクをクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

カスタム ログイン メッセージ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウに表示されるカスタム ログイン メッセージを含むテキスト ファイルをアップロードすることができます。

カスタム ログイン メッセージのアップロードの詳細と手順については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

最後に成功したログインに関するメッセージ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインすると、システム ログインが最後に成功した日付と時刻が Cisco Unified Communications Manager の管理ページのメイン ウィンドウに表示されます。

Cisco Unified Communications Manager への最初のログイン時には、最後に成功したログイン時刻として現在の時刻が表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

アクセシビリティ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページおよび Cisco Unified CM のユーザ オプション ページは、マウスを使用しなくてもウィンドウ上のボタンにアクセスできる機能を備えています。ウィンドウ上のどの位置でも次の手順を実行できるため、さまざまなフィールドを移動するときに、スクロールしたり Tab キーを押したりする必要はありません。

ウィンドウにあるアイコンへのアクセス

Cisco Unified Communications Manager の多くのウィンドウには、ウィンドウの一番上にアイコンがあります。たとえば、保存を実行するためのディスクのアイコン、追加を実行するためのプラス記号 (+) のアイコンなどです。これらのアイコンにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Alt キーを押し、1 キーを押して、Tab キーを押します。左側の最初のアイコンが強調表示されます。次のアイコンに移動するには、もう一度 Tab キーを押します。
2. Enter キーを押します。アイコンが表している機能（追加など）が実行されます。

ウィンドウにあるボタンへのアクセス

Cisco Unified Communications Manager と Cisco PCA の多くのウィンドウには、ウィンドウの一番下にボタンがあります。たとえば、保存のボタンや追加のボタンなどです。これらのボタンにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Alt キーを押し、2 キーを押して、Tab キーを押します。左側の最初のボタンが強調表示されます。次のボタンに移動するには、もう一度 Tab キーを押します。
2. Enter キーを押します。ボタンが表している機能（保存など）が実行されます。

追加情報

「関連項目」(P.1-17) を参照してください。

参考情報

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting Administration Guide』
- 『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』
- 『Upgrading Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』
- 『Disaster Recovery System Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』

関連項目

- 「概要」 (P.1-1)
- 「主な機能と利点」 (P.1-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページの参照」 (P.1-3)
 - 「Web ブラウザ」 (P.1-3)
 - 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページへのログイン」 (P.1-4)
 - 「Cisco Unified Communications Manager の管理ページからのログオフ」 (P.1-5)
 - 「Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)」 (P.1-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」 (P.1-14)
 - 「Cisco Unified Presence サーバリンク」 (P.1-15)
 - 「Cisco Unified Presence サーバへのリンク」 (P.1-15)
 - 「カスタム ログイン メッセージ」 (P.1-16)
 - 「最後に成功したログインに関するメッセージ」 (P.1-16)
- 「アクセシビリティ」 (P.1-16)
- 「参考情報」 (P.1-17)



PART 2

システムの設定



CHAPTER 2

サーバの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「サーバの設定値」(P.2-1)
- 「サーバの検索」(P.2-4)
- 「サーバの設定」(P.2-5)
- 「サーバの削除」(P.2-7)
- 「関連項目」(P.2-9)

サーバの設定値

[サーバの設定(Server Configuration)] ウィンドウでは、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバのアドレスを指定します。表 2-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.2-9) を参照してください。

始める前に

サーバを設定する前に、次の点を確認してください。

- 各サーバは、[サーバの設定(Server Configuration)] ウィンドウで一度だけ追加するようにしてください。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後同じサーバを IP アドレスを使用して再び追加すると、Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager のアップグレード後にサーバのコンポーネントバージョンを正しく判別できません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに同じサーバのエントリが 2 つある場合は、アップグレードする前にエントリのどちらかを削除します（「サーバの削除」(P.2-7) を参照）。
- Cisco Unified Communications Manager の新規インストールを実行するときには、2 番目以降の各サーバ（ノード）上に Cisco Unified Communications Manager をインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サーバの設定(Server Configuration)] ウィンドウで、それらの各サーバを定義する必要があります。2 番目以降のノードを定義するには、[新規追加(Add New)] をクリックし、「サーバの設定」(P.2-5) の手順を実行します。2 番目以降のサーバを追加したら、そのサーバに Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアをインストールすることができます。
- ネットワークで IPv4 を使用する場合は、適切な Cisco Unified Communications Manager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、その情報を使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバを設定する必要があります。

**注意**

ネットワークで IPv6 またはデュアルスタック モードの IPv4 および IPv6 がサポートされている場合は、Cisco Unified Communications Manager リリース 7.0(x) からリリース 8.0(2) にアップグレードする前に、IPv6 用 DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、リリース 8.0(2) へのアップグレードが終了するまで、IPv6 用 Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定しないでください。リリース 8.0(2) にアップグレードする前に IPv6 用 Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定すると、アップグレードが失敗し、リポート後にシステムが機能しなくなります。

- DNS を正常に動作させるため、必ず、すべてのサーバ（ダミー ノードを含む）の IP アドレスを DNS サーバ上のホスト名にマップしてください。この作業を行わないと、Cisco Unified Communications Manager により、License Manager サービスがダウンしていることを示すアラームが生成されます。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドはいつでも更新できます。
- [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで IP アドレスを変更する場合、設定の保存を実行すると、「サーバの名前/IP アドレスの変更は、Cisco Unified CallManager に問題が発生する原因となる場合があります。続行しますか?(Changing the name/IP Address of the server may cause problems with Cisco Unified CallManager. Are you sure that you want to continue?)」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックする前に、[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドの更新が及ぼす影響について必ず理解しておいてください。たとえば、この設定を誤って更新した場合、Cisco Unified Communications Manager が動作不能になることがあります。つまり、データベースが動作しない、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにアクセスできない、などの問題が発生することがあります。また、このフィールドを更新する場合、他の関連作業を実行しないと、Cisco Unified Communications Manager に問題が発生することがあります。
- IP アドレスまたはホスト名の変更の詳細については、『*Changing the IP Address and Host Name for Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)*』を参照してください。

表 2-1 サーバの設定値

フィールド	説明
[サーバ情報 (Server Information)]	
[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)]	<p>ネットワークで IPv4 アドレスにマップできる DNS を使用している場合、Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名を入力します。使用していない場合は、サーバの完全な IPv4 アドレスを入力する必要があります。</p> <p>ヒント ネットワークで IPv6（または IPv4 と IPv6）がサポートされている場合は、[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドに加えて [IPv6 名 (IPv6 Name)] フィールドも設定します。</p> <p>(注) 適切な Cisco Unified Communications Manager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、その情報をこのフィールドに入力する必要があります。</p>

表 2-1 サーバの設定値 (続き)

フィールド	説明
[サーバ情報 (Server Information)]	
[IPv6名 (IPv6 Name)]	<p>このフィールドは IPv6 をサポートします。ネットワークで IPv6 アドレスにマップできる DNS を使用している場合、Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名を入力します。使用していない場合は、Cisco Unified Communications Manager サーバの非リンクローカル IP アドレスを入力します。非リンクローカル IP アドレスの取得方法については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[イーサネット IPv6(Ethernet IPv6)] ウィンドウでの IPv6 CLI コマンドの実行および IPv6 の設定」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、TFTP 設定ファイルに含まれており、Cisco Unified Communications Manager サーバの IPv6 アドレスを取得するために SCCP を実行している電話機によって使用されるので、電話登録が行われます。</p> <p>ヒント 必ず、適切な Cisco Unified Communications Manager 名とアドレス情報で DNS サーバを更新してください。</p> <p> 注意 ネットワークで IPv6 またはデュアルスタック モードの IPv4 および IPv6 がサポートされている場合は、Cisco Unified Communications Manager リリース 7.0(x) からリリース 8.0(2) にアップグレードする前に、IPv6 用 DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、リリース 8.0(2) へのアップグレードが終了するまで、IPv6 用 Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定しないでください。リリース 8.0(2) にアップグレードする前に IPv6 用 Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定すると、アップグレードが失敗し、リポート後にシステムが機能しなくなります。</p> <p>ヒント [IPv6名 (IPv6 Name)] フィールドの設定に加えて、Cisco Unified Communications Manager が IPv4 (または IPv4 と IPv6) を使用する機能/デバイスをサポートできるように、[IP アドレス (IP Address)] または [ホスト名 (Hostname)] フィールドを設定する必要があります。</p>
[MACアドレス (MAC Address)]	<p>このエントリはオプションです。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager サーバにあるネットワーク インターフェイス カード (NIC) のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。MAC アドレスは、NIC のパーマネント ハードウェア アドレスを示します。</p> <p>ヒント サーバをネットワーク上の別の場所に移動させることが多い場合は、MAC アドレスを入力して、そのサーバをネットワーク上の他のデバイスが常に識別できるようにする必要があります。サーバを移動する予定がない場合は、MAC アドレスは入力してもしなくてもかまいません。</p>

表 2-1 サーバの設定値 (続き)

フィールド	説明
[サーバ情報 (Server Information)]	
[説明 (Description)]	このエントリはオプションです。 サーバの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。

サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のサーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択します。
- [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]**に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.2-9) を参照してください。

サーバの設定

Cisco Unified Communications Manager データベースにサーバアドレスを追加する手順、およびデータベース内のサーバアドレスを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

サーバを設定する前に、次の点を確認してください。

- 各サーバは、[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで一度だけ追加するようにしてください。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後同じサーバを IP アドレスを使用して追加すると、Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager のアップグレード後にサーバのコンポーネントバージョンを正しく判別できません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに同じサーバのエントリが 2 つある場合は、アップグレードする前にエントリのどちらかを削除します（「サーバの削除」(P.2-7) を参照）。
- Cisco Unified Communications Manager の新規インストールを実行する場合は、2 番目以降の各サーバ（ノード）上に Cisco Unified Communications Manager をインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで、それらの各サーバを定義する必要があります。2 番目以降のノードを定義するには、[新規追加 (Add New)] をクリックし、「サーバの設定」(P.2-5) の手順を実行します。2 番目以降のサーバを追加したら、そのサーバに Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアをインストールすることができます。
- ネットワークで IPv4 を使用する場合は、適切な Cisco Unified Communications Manager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、その情報を使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバを設定する必要があります。

**注意**

ネットワークで IPv6 またはデュアルスタック モードの IPv4 および IPv6 がサポートされている場合は、Cisco Unified Communications Manager リリース 7.0(x) からリリース 8.0(2) にアップグレードする前に、IPv6 用 DNS サーバをプロビジョニングできます。ただし、リリース 8.0(2) へのアップグレードが終了するまで、IPv6 用 Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定しないでください。リリース 8.0(2) にアップグレードする前に IPv6 用 Cisco Unified Communications Manager の DNS レコードを設定すると、アップグレードが失敗し、リブート後にシステムが機能しなくなります。

- DNS を正常に動作させるため、必ず、すべてのサーバ（ダミー ノードを含む）の IP アドレスを DNS サーバ上のホスト名にマップしてください。この作業を行わないと、Cisco Unified Communications Manager により、License Manager サービスがダウンしていることを示すアラームが生成されます。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドはいつでも更新できます。
- [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで IP アドレスを変更する場合、設定の保存を実行すると、「サーバの名前/IP アドレスの変更は、Cisco Unified CallManager に問題が発生する原因となる場合があります。続行しますか?(Changing the name/IP Address of the server may cause problems with Cisco Unified CallManager. Are you sure that you want to continue?)」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックする前に、このフィールドの更新が及ぼす影響について必ず理解しておいてください。たとえば、この設定を誤って更新した場合、Cisco Unified Communications Manager が動作不能になることがあります。つまり、データベースが動作しない、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにアクセスできない、などの問題が発生することがあります。また、このフィールドを更新する場合、他の関連作業を実行しないと、Cisco Unified Communications Manager に問題が発生することがあります。
- サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。
- IP アドレスまたはホスト名の変更の詳細については、『Changing the IP Address and Host Name for Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』を参照してください。

手順

ステップ 1 次の作業のいずれかを実行します。

- サーバを追加するには、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- サーバを更新するには、「[サーバの検索 \(P.2-4\)](#)」の手順を使用してサーバを検索します。

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します（表 2-1 を参照）。

ステップ 3 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックして（または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックして）、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.2-9) を参照してください。

サーバの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからサーバを削除する手順、および削除したサーバを再び Cisco Unified Communications Manager クラスタに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、クラスタの最初のノードは削除できませんが、2 番目以降のノードは削除できます。[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウで 2 番目以降のノードを削除しようとする、Cisco Unified CM の管理ページに、「1 つ以上のサーバを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。続行しますか?(You are about to permanently delete one or more servers. This action cannot be undone. Continue?)」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、そのサーバは Cisco Unified CM データベースから削除され、以後使用できなくなります。



ヒント

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウでサーバを削除しようとする、前述と同様のメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、そのサーバは Cisco Unified CM データベースから削除され、以後使用できなくなります。

サーバを削除する前に、次の点を考慮してください。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、クラスタ内の最初のノードを削除できませんが、2 番目以降のノードは削除できます。
- Cisco Unified Communications Manager が動作しているノード、特に、電話機などのデバイスが登録されているノードは削除しないことをお勧めします。
- 2 番目以降のノードに関する依存関係レコードが存在する場合でも、そのレコードが原因でノードが削除できなくなることはありません。
- 削除するノードの Cisco Unified Communications Manager にコール パーク番号が設定されている場合は、削除できません。ノードを削除するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでコール パーク番号を削除しておく必要があります。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定フィールドに削除するサーバの IP アドレスまたはホスト名が含まれている場合は、サーバを削除する前に設定を更新してください。この作業を行わないと、サーバの削除後、その設定に依存する機能が動作しなくなる場合があります。たとえば、サービス パラメータ、エンタープライズ パラメータ、サービス URL、ディレクトリ URL、IP Phone サービスなどに IP アドレスまたはホスト名を入力した場合は、サーバを削除する前に、この設定を更新してください。
- たとえば Cisco Unity、Cisco Unity Connection などのアプリケーションの GUI に削除するサーバの IP アドレスまたはホスト名が含まれている場合は、サーバを削除する前に、対応する GUI の設定を更新してください。この作業を行わないと、サーバの削除後、その設定に依存する機能が動作しなくなる場合があります。
- サーバを削除すると、MOH サーバなどのデバイスも自動的に削除される場合があります。
- ノードを削除する前に、2 番目以降のノードでアクティブになっているサービスを非アクティブにしておくことをお勧めします。この作業を実行しておく、ノードの削除後にサービスが動作することが保証されます。

- サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。
- データベース ファイルが正しく更新されるようにするには、サーバの削除後にクラスタをリポートする必要があります。
- ノードの削除後、Cisco Unified Reporting にアクセスして、Cisco Unified Communications Manager でクラスタからノードが削除されたことを確認してください。さらに、Cisco Unified Reporting、RTMT、または CLI にアクセスして既存のノード間でデータベース リプリケーションが行われていることを確認し、必要であれば、CLI を使用してノード間のデータベース リプリケーションを修復してください。

手順

-
- ステップ 1** 「サーバの検索」(P.2-4) の手順を使用して、サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected Item)] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします)。
-

Cisco Unified Communications Manager の管理ページから 2 番目以降のノード (サブスクリイバ) を削除し、それを再びクラスタに追加する場合は、次の手順を実行します。

削除したサーバを再びクラスタに追加する手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択してサーバを追加します。
- ステップ 2** 2 番目以降のノードを Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加したら、シスコから提供されたソフトウェア キットのディスクを使用して、そのサーバ上でインストールを実行します。



ヒント たとえば、バージョン 8.0(2) ディスクがある場合は、ノード上で 8.0(2) のインストールを実行します。たとえば、互換性のあるバージョンの 6.1(3) ディスクがある場合は、そのディスクを使用して、2 番目以降のノードに Cisco Unified CM をインストールします。インストール時に複数のオプションが表示されたら、[Upgrade During Install] オプションを選択します。

2 番目以降のノードにインストールするバージョンが、クラスタ内の最初のノード (パブリッシャ) で動作しているバージョンと一致していることを確認してください。

クラスタ内の最初のノードで Cisco Unified Communications Manager 8.0(2) バージョンおよび Service Update (または Engineering Special) が動作している場合は、インストールでいくつかのインストール オプションが表示されたときに [Upgrade During Install] オプションを選択する必要があります。このオプションを選択する前に、DVD またはリモート サーバ上の Service Update (または Engineering Special) イメージにアクセスできることを確認してください。インストールの実行方法の詳細については、ご使用のバージョンの Cisco Unified Communications Manager に対応するインストレーション マニュアルを参照してください。

- ステップ 3** Cisco Unified CM をインストールした後で、2 番目以降のノードを設定します (ご使用のバージョンの Cisco Unified CM に対応するインストレーション マニュアルを参照)。

- ステップ 4** Cisco Unified Reporting、RTMT、または CLI にアクセスして既存のノード間でデータベース リプリケーションが行われていることを確認し、必要であれば、ノード間のデータベース リプリケーションを修復します。
-

追加情報

「関連項目」(P.2-9) を参照してください。

関連項目

- 「サーバの設定値」(P.2-1)
- 「サーバの検索」(P.2-4)
- 「サーバの設定」(P.2-5)
- 「サーバの削除」(P.2-7)
- 「Cisco Unified Communications Manager の設定」(P.3-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「インターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6)」
- 『Changing the IP Address and Host Name for Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』



CHAPTER 3

Cisco Unified Communications Manager の設定

Cisco Unified Communications Manager の設定を検索および更新したり、システム コンポーネントのバージョン情報を表示したりするには、次のトピックを参照してください。

- 「Cisco Unified Communications Manager の設定値」 (P.3-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager の検索」 (P.3-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager の更新」 (P.3-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager とデバイスの同期化」 (P.3-7)
- 「Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化」 (P.3-7)
- 「関連項目」 (P.3-9)

Cisco Unified Communications Manager の設定値

Cisco Unified Communications Manager の設定を使用すると、同じクラスタ内にインストールされた各 Cisco Unified Communications Manager のポートおよびその他のプロパティを指定できます。クラスタは、冗長化機能を有効にした一群の Cisco Unified Communications Manager から構成されます。

Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードについては、インストールの過程でサーバが自動的に追加されます。他の Cisco Unified Communications Manager をクラスタに追加するには、管理者が ([サーバの設定 (Server Configuration)] を使用して) サーバを設定し、その Cisco Unified Communications Manager を (Cisco Unified Communications Manager の設定を使用して) 追加する必要があります。この手順を、クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager ごとに繰り返します。

表 3-1 では、Cisco Unified Communications Manager の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.3-9) を参照してください。

表 3-1 Cisco Unified Communications Manager の設定値

フィールド	説明
[サーバ情報 (Server Information)]	
[CTI ID]	この読み取り専用フィールドには Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) ID が表示されます。

表 3-1 Cisco Unified Communications Manager の設定値 (続き)

フィールド	説明
[Cisco Unified CM サーバ (Cisco Unified Communications Manager Server)]	この読み取り専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバが表示されます。
[Cisco Unified CM の名前 (Cisco Unified Communications Manager Name)]	この Cisco Unified Communications Manager に割り当てる名前を入力します。
[説明 (Description)]	Cisco Unified Communications Manager の説明を入力します。任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[自動登録情報 (Auto-registration Information)]	
[開始電話番号 (Starting Directory Number)]	デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。[開始電話番号 (Starting Directory Number)] をゼロ (0) で始めないでください。
[終了電話番号 (Ending Directory Number)]	デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。[終了電話番号 (Ending Directory Number)] をゼロ (0) で始めないでください。 (注) [開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドで電話番号の有効な範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。
[パーティション (Partition)]	パーティションを使用しない場合は、[<なし (None)>] を選択します。 パーティションを使用している場合は、自動登録された電話番号が属するパーティションをドロップダウンリスト ボックスから選択します。 ヒント パーティション、外線電話番号マスク、またはボイスメール ボックス マスクを選択する前に、自動登録用の範囲を選択しておく必要があります。 250 より多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。 1. [検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。 2. パーティションの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、パーティション名の一部を入力します。 3. 表示されたパーティションのリストで、指定したいパーティションの横にあるチェックボックスをオンにします。 4. [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

表 3-1 Cisco Unified Communications Manager の設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。 発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。 <p>次の例を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルートパターンで [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。 代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定した場合は、その番号 (9728135000) が、自動登録された任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。
[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録を使用可能にするか使用不可にするかを選択するには、次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この Cisco Unified Communications Manager で自動登録を使用可能にするには、[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。 この Cisco Unified Communications Manager で自動登録を使用不可にするには、[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> 自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定しても、自動登録が使用不可になります。 このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、開始電話番号と終了電話番号が指定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、開始電話番号と終了電話番号を同じ値に設定します。 <p>Cisco Unified Communications Manager は、自動登録が使用不可になると、パーティションと外部電話マスク情報をリセットします。</p>

表 3-1 Cisco Unified Communications Manager の設定値 (続き)

フィールド	説明
[このサーバでの Cisco Unified CM の TCP ポートの設定 (Cisco Unified Communications Manager TCP Port Settings for This Server)]	
[イーサネット電話ポート (Ethernet Phone Port)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、ネットワーク上の Cisco Unified IP Phone (SCCP のみ) との通信に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート値 2000 がシステム上ですでに使用中の場合以外は、このデフォルト ポートを受け入れてください。2000 を選択すると、このポートはノンセキュアとして識別されます。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。 セキュリティの設定については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。
[MGCP リッスンポート (MGCP Listen Port)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、関連する MGCP ゲートウェイからメッセージを検出する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート番号 2427 がシステム上ですでに使用中の場合以外は、このデフォルト ポートを受け入れてください。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
[MGCP キープアライブポート (MGCP Keep-alive Port)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、関連する MGCP ゲートウェイとキープアライブ メッセージを交換する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート番号 2428 がシステム上ですでに使用中の場合以外は、このデフォルト ポートを受け入れてください。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
[SIP 電話ポート (SIP Phone Port)]	<p>このフィールドには、TCP および UDP による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco Unified Communications Manager が使用するポート番号を指定します。</p>
[SIP 電話セキュアポート (SIP Phone Secure Port)]	<p>このフィールドには、TLS による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco Unified Communications Manager が使用するポート番号を指定します。</p> <p>セキュリティの設定については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>
[保存 (Save)] ボタン	<p>設定に加えた変更を保存するには、このボタンをクリックします。</p>

表 3-1 Cisco Unified Communications Manager の設定値 (続き)

フィールド	説明
[リセット (Reset)] ボタン	<p>この Cisco Unified Communications Manager サーバと同じ Cisco Unified CM グループに属するすべてのデバイスをリセットするには、このボタンをクリックします。</p> <p>(注) このサーバに登録されているデバイスだけでなく、このサーバがメンバーとなっている Cisco Unified CM グループのすべてのデバイスがリセットされます。</p> <p>このボタンをクリックすると、[デバイスリセット (Device Reset)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。ポップアップ ウィンドウ内のテキストは、ウィンドウに表示される [リセット (Reset)]、[リスタート (Restart)]、[閉じる (Close)] の各ボタンの違いを示しています。実行するアクションに応じて適切なボタンをクリックします。</p>
[設定の適用 (Apply Config)] ボタン	<p>設定に変更を加えた Cisco Unified Communications Manager を、対応する登録済みデバイスと同期するには、このボタンをクリックします。詳細については、「Cisco Unified Communications Manager とデバイスの同期化」(P.3-7) を参照してください。</p>

Cisco Unified Communications Manager の検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco Unified Communications Manager が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定の Cisco Unified Communications Manager を見つけることができます。Cisco Unified Communications Manager を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [Cisco Unified CM] の順に選択します。
- [Cisco Unified CM の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CMs)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-9) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の更新

Cisco Unified Communications Manager を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [Cisco Unified CM] の順に選択します。

[Cisco Unified CM の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CMs)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager を更新するには、「[Cisco Unified Communications Manager の検索](#)」(P.3-5) の説明に従って、対象となる Cisco Unified Communications Manager を検索します。更新する Cisco Unified Communications Manager をクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 3-1 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.3-9) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager とデバイスの同期化

設定の変更を実行した Cisco Unified Communications Manager を、対応する登録済みデバイスに同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [システム(System)] > [Cisco Unified CM] の順に選択します。
[Cisco Unified CM の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CMs)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
 - ステップ 3** [検索(Find)] をクリックします。
検索条件に一致する Cisco Unified CM がウィンドウに表示されます。
 - ステップ 4** デバイスと同期する Cisco Unified Communications Manager をクリックします。
 - ステップ 5** 他の設定変更を行います。
 - ステップ 6** [保存(Save)] をクリックします。
 - ステップ 7** [設定の適用(Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.3-9) を参照してください。

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化には、次の要件が適用されます。

- 「Cisco CallManager サービスのアクティブ化」(P.3-8)
- 「Cisco CallManager サービスの非アクティブ化」(P.3-8)

追加情報

「関連項目」(P.3-9) を参照してください。

Cisco CallManager サービスのアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager の新規インストールを実行するときに、次の手順に従う必要があります。

1. サーバを追加します。サーバが設定されると、Cisco Unified Communications Manager が自動的に追加されます。
2. 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』の説明に従って、Cisco CallManager サービスをアクティブにします。

この手順に従わない場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.3-9) を参照してください。

Cisco CallManager サービスの非アクティブ化

Cisco CallManager サービスは、Cisco Unified サービスアビリティで非アクティブにすることができます。Cisco CallManager サービスを非アクティブにすると、サービスを非アクティブにした Cisco Unified Communications Manager は非アクティブになり、使用されなくなります。



(注)

Cisco Unified サービスアビリティで [Tools] > [Service Activation] にアクセスすると、Cisco Unified Communications Manager のステータスを表示できます。

Cisco CallManager サービスを非アクティブにした場合、その Cisco Unified Communications Manager 上ではコールを発信できなくなります。

Cisco Unified Communications Manager の管理機能の Web サービスがアクティブになっていて、データベースが起動し、動作している場合は、非アクティブになった Cisco Unified Communications Manager に対して設定操作を実行できます。

Cisco Unified Communications Manager 上でもう一度 Cisco CallManager サービスをアクティブにすると、Cisco Unified Communications Manager が元の設定（サーバ名または IP アドレス）のままで自動的にデータベースに再作成されます。そしてこの Cisco Unified Communications Manager がアクティブになります。Cisco CallManager サービスが動作していることを確認するには、Cisco Unified サービスアビリティで [Tools] > [Control Center - Feature Services] にアクセスします。

サービスのアクティブ化の詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.3-9) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco Unified Communications Manager の設定値」 (P.3-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager の検索」 (P.3-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager の更新」 (P.3-6)
- 「Cisco Unified Communications Manager とデバイスの同期化」 (P.3-7)
- 「Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化」 (P.3-7)
- 「サーバの設定」 (P.2-1)
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』



CHAPTER 4

Cisco Unified Communications Manager グループの設定

Cisco Unified Communications Manager グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「Cisco Unified Communications Manager グループの設定値」 (P.4-1)
- 「Cisco Unified Communications Manager グループの検索」 (P.4-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager グループの設定」 (P.4-4)
- 「Cisco Unified Communications Manager グループの影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.4-5)
- 「Cisco Unified Communications Manager グループの削除」 (P.4-5)
- 「関連項目」 (P.4-6)

Cisco Unified Communications Manager グループの設定値

Cisco Unified Communications Manager グループでは、最高 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco Unified Communications Manager はそのグループのプライマリ Cisco Unified Communications Manager となり、残りは、セカンダリおよびターティアリ（第三次-バックアップ）Cisco Unified Communications Manager となります。

各デバイス プールには、Cisco Unified Communications Manager グループが 1 つずつ割り当てられています。デバイスが登録されると、そのデバイスは、デバイス プールに割り当てられているグループの中のプライマリ Cisco Unified Communications Manager に接続しようとします。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できない場合、デバイスはそのグループにリストされている次の Cisco Unified Communications Manager へと順次接続しようとします。

Cisco Unified Communications Manager グループは、システムに次の重要な機能を提供します。

- 冗長性：この機能により、グループごとにプライマリおよびバックアップ Cisco Unified Communications Manager を指定できます。
- コール処理のロード バランシング：この機能を使用すると、複数の Cisco Unified Communications Manager にデバイスの制御を振り分けることができます。

ほとんどのシステムでは、負荷分散と冗長性を向上させるために、複数のグループを用意して 1 つの Cisco Unified Communications Manager を複数のグループに割り当てる必要があります。

表 4-1 では、Cisco Unified Communications Manager グループの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.4-6) を参照してください。

表 4-1 Cisco Unified Communications Manager グループの設定値

フィールド	説明
[Cisco Unified CM グループの設定 (Cisco Unified Communications Manager Group Settings)]	
[名前 (Name)]	新しいグループの名前を入力します。
[自動登録 Cisco Unified CM グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)]	<p>自動登録が使用可能であるときに、この Cisco Unified Communications Manager グループをデフォルト Cisco Unified Communications Manager グループにする場合は、[自動登録 Cisco Unified CM グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] チェックボックスをオンにします。デバイスをこの Cisco Unified Communications Manager グループに自動登録しない場合は、このチェックボックスをオフのままにしてください。</p> <p>ヒント 各 Cisco Unified Communications Manager クラスタには、1 つのデフォルト自動登録グループだけを指定できます。別の Cisco Unified Communications Manager ループをデフォルト自動登録グループとして選択した場合、つまり、別の Cisco Unified Communications Manager グループに対して [自動登録 Cisco Unified CM グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] チェックボックスをオンにした場合は、以前に選択されていた自動登録グループが、そのクラスタのデフォルトではなくなります。以前に選択されていたグループ (元のデフォルト) の [自動登録 Cisco Unified CM グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] チェックボックスが表示され、現在デフォルトとして使用されているグループのチェックボックスは無効になります。</p>
[Cisco Unified CM グループのメンバ (Cisco Unified Communications Manager Group Members)]	
[使用可能 Cisco Unified CM (Available Cisco Unified Communications Managers)]	<p>このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager グループに属していない使用可能な Cisco Unified Communications Manager をリストで表示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の名前を選択し、上矢印と下矢印を使用して、Cisco Unified Communications Manager を選択済みリストと使用可能リストの間で移動させます。</p>
[選択済 Cisco Unified CM (Selected Cisco Unified Communications Managers)]	<p>このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager グループに属する Cisco Unified Communications Manager を表示します。選択済みリストには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager を含めることができ、Cisco Unified Communications Manager が優先順位の高い順にリストされます。[保存 (Save)] をクリックすると、選択済みリスト内にある Cisco Unified Communications Manager が、そのグループのメンバーになります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の名前を選択し、上矢印と下矢印を使用して、Cisco Unified Communications Manager を選択済みリストと使用可能リストの間で移動させます。</p> <p>選択済みリストでは、上下の矢印を使用して、選択済みリスト内のグループを、希望する順序に配列します。</p>

Cisco Unified Communications Manager グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco Unified Communications Manager グループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定の Cisco Unified Communications Manager グループを見つけることができます。Cisco Unified Communications Manager グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] の順に選択します。
[Cisco Unified CM グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CM Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.4-6) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager グループの設定

Cisco Unified Communications Manager グループを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager グループを設定する場合は、事前に、そのグループのメンバとして割り当てる Cisco Unified Communications Manager を設定しておく必要があります。詳細については、「Cisco Unified Communications Manager の更新」(P.3-6) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] の順に選択します。
[Cisco Unified CM グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CM Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
 - 既存の Cisco Unified Communications Manager グループをコピーするには、対象となる Cisco Unified Communications Manager グループを見つけて（「Cisco Unified Communications Manager グループの検索」(P.4-3) を参照）、コピーする Cisco Unified Communications Manager グループを選択して [コピー (Copy)] をクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 新しい Cisco Unified Communications Manager グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存の Cisco Unified Communications Manager グループを更新するには、対象となる Cisco Unified Communications Manager グループを見つけて（「Cisco Unified Communications Manager グループの検索」(P.4-3) を参照）、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（表 4-1 を参照）。
- ステップ 4** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックして（または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックして）、Cisco Unified Communications Manager グループの設定をデータベースに保存します。

Cisco Unified Communications Manager グループの設定後は、そのグループを使用してデバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられているデバイス プールから、Cisco Unified Communications Manager グループ リストの設定値を取得します。

追加情報

「関連項目」(P.4-6) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager グループの影響を受けるデバイスとの同期化

最近設定の変更を実行した Cisco Unified Communications Manager グループを、関連する登録済みデバイスに同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスによっては、リセットと再起動の必要がありません）。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] の順に選択します。
[Cisco Unified CM グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CM Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する Cisco Unified CM グループがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期する Cisco Unified CM グループをクリックします。[Cisco Unified CM グループの設定 (Cisco Unified CM Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.4-6) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager グループの削除

データベースから Cisco Unified Communications Manager グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に



(注)

Cisco Unified Communications Manager グループがデバイス プールあるいは MGCP ゲートウェイに割り当てられている場合、または Cisco Unified Communications Manager グループがクラスタの現在の自動登録 Cisco Unified Communications Manager グループの場合は、そのグループを削除できません。

Cisco Unified Communications Manager グループを使用しているデバイスを検索するには、[Cisco Unified CM グループの設定 (Cisco Unified Communications Manager Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用中の Cisco Unified Communications Manager グループを削除しようとする、エラー メッセージが表示されます。現在使用中の Cisco Unified Communications Manager グループを削除する場合は、事前に、次の作業の一部またはすべてを実行しておく必要があります。

- この Cisco Unified Communications Manager グループを現在使用しているデバイス プールまたは MGCP ゲートウェイに、別の Cisco Unified Communications Manager グループを割り当てます。「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。
- [自動登録 Cisco Unified CM グループ (Auto-registration Cisco Unified Communications Manager Group)] にする別の Cisco Unified Communications Manager グループを作成または選択します。

手順

-
- ステップ 1** 「[Cisco Unified Communications Manager グループの検索](#)」(P.4-3) の手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager グループを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するグループを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックして)、Cisco Unified Communications Manager グループを削除します。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックします。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.4-6) を参照してください。

関連項目

- 「[Cisco Unified Communications Manager グループの設定値](#)」(P.4-1)
- 「[Cisco Unified Communications Manager グループの設定](#)」(P.4-1)
- 「[Cisco Unified Communications Manager グループの検索](#)」(P.4-3)
- 「[Cisco Unified Communications Manager グループの影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.4-5)
- 「[Cisco Unified Communications Manager グループの設定](#)」(P.4-4)
- 「[Cisco Unified Communications Manager グループの削除](#)」(P.4-5)



CHAPTER 5

電話用 NTP リファレンスの設定

電話機 Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) リファレンスを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「電話用 NTP リファレンスの設定値」 (P.5-1)
- 「電話用 NTP リファレンスの検索」 (P.5-2)
- 「電話用 NTP リファレンスの設定」 (P.5-3)
- 「電話用 NTP リファレンスの削除」 (P.5-4)
- 「関連項目」 (P.5-5)

電話用 NTP リファレンスの設定値

必要な場合には、電話機の NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定すると、SIP を実行している電話機が日付と時刻を NTP サーバから取得するようになります。どの NTP サーバも応答しない場合、SIP を実行している電話機は、日付と時刻の REGISTER メッセージに対する 200 OK 応答の日付ヘッダーを使用します。

電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加したら、そのリファレンスを日時グループに追加する必要があります。日時グループでは、電話機でアクセスする最初のサーバから順に、電話用 NTP リファレンスに優先順位を設定することができます。

日時グループの設定はデバイス プール内で指定し、デバイス プールは電話機ページで指定します。

表 5-1 では、電話用 NTP リファレンスの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.5-5) を参照してください。

表 5-1 電話用 NTP リファレンスの設定値

フィールド	説明
[IP アドレス (IP Address)]	SIP を実行している電話機が日時の取得に使用する NTP サーバの IP アドレスを入力します。 (注) Cisco Unified Communications Manager は、電話用 NTP リファレンスとして設定できません。
[説明 (Description)]	電話用 NTP リファレンスの説明を入力します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは [IP アドレス (IP Address)] フィールドにある情報が [説明 (Description)] フィールドに自動的に入力されます。必要に応じて、この情報を変更することができます。

表 5-1 電話用 NTP リファレンスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[モード (Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、電話用 NTP リファレンスのモードを選択します。選択できる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ダイレクトブロードキャスト (Directed Broadcast)] : このデフォルト NTP モードを選択すると、電話機は任意の NTP サーバから日時情報を取得しますが、リストされている NTP サーバ (1st = プライマリ、2nd = セカンダリ) を優先的に使用します。たとえば、電話機の設定で A がプライマリ NTP サーバ、B がセカンダリ (バックアップ) NTP サーバになっている場合、電話機は NTP サーバ A からのブロードキャストパケットを使用 (日時を取得) します。NTP サーバ A がブロードキャストを実行していない場合は、NTP サーバ B からの日時情報にアクセスします。どちらの NTP サーバもブロードキャストを実行していない場合は、他の任意の NTP サーバからの日時情報にアクセスします。他の NTP サーバもブロードキャストを実行していない場合、電話機は REGISTER メッセージに対する Cisco Unified Communications Manager 200 OK 応答から日時を取得します。 [ユニキャスト (Unicast)] : このモードを選択した場合、電話機は特定の NTP サーバに NTP クエリーパケットを送信します。応答を受信できない場合、電話機は他の任意の NTP サーバからの日時情報にアクセスします。他の NTP サーバも応答しない場合、電話機は REGISTER メッセージに対する Cisco Unified Communications Manager 200 OK 応答から日時を取得します。 <p>(注) Cisco Unified Communications Manager は、現時点ではマルチキャストモードおよびユニキャストモードをサポートしていません。これらのモードを選択した場合、Cisco Unified Communications Manager ではデフォルトのダイレクトブロードキャストモードに設定されます。</p>

電話用 NTP リファレンスの検索

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、複数の電話用 NTP リファレンスを設定することができます。このため、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは個々の電話用 NTP リファレンスを検索できるようになっています。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに存在する電話用 NTP リファレンスを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの設定がクライアントマシンの cookie に保存されません。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [電話用 NTP (Phone NTP Reference)] の順に選択します。

[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.5-5) を参照してください。

電話用 NTP リファレンスの設定

電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順、およびデータベース内の電話用 NTP リファレンスを更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [電話用 NTP (Phone NTP Reference)] の順に選択します。

[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 既存の電話用 NTP リファレンスを更新するには、既存の電話用 NTP リファレンスを見つけて（「電話用 NTP リファレンスの検索」(P.5-2) を参照）、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 5-1 を参照）。

ステップ 4 設定をデータベースに保存するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

次の作業

新しい電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加したら、そのリファレンスを日時グループに割り当てます。詳細については、「日時グループの設定」(P.6-5) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.5-5) を参照してください。

電話用 NTP リファレンスの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから電話用 NTP リファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager の管理ページから削除するには、そのリファレンスを事前に日時グループから削除する必要があります。電話用 NTP リファレンスを使用している日時グループを検索するには、[電話用 NTP の設定 (Phone NTP Reference Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。電話用 NTP リファレンスを使用している日時グループがわかっている場合は、該当する電話用 NTP リファレンスをそのグループから削除します。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 「電話用 NTP リファレンスの検索」(P.5-2) の手順を使用して、電話用 NTP リファレンスを検索します。
- ステップ 2** 複数の電話用 NTP リファレンスを削除するには、[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウで、対象となる電話用 NTP リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンまたは [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 電話用 NTP リファレンスを 1 つだけ削除するには、次の作業のいずれかを実行します。

- [電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウで、対象となる電話用 NTP リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンまたは [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。
- [電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウで、電話用 NTP リファレンスの [IP アドレス (IP Address)] リンクをクリックします。その電話用 NTP リファレンスの [電話用 NTP の設定 (Phone NTP Reference Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[削除 (Delete)] アイコンまたは [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。

ステップ 4 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.5-5) を参照してください。

関連項目

- 「電話用 NTP リファレンスの設定値」(P.5-1)
- 「電話用 NTP リファレンスの設定」(P.5-1)
- 「電話用 NTP リファレンスの検索」(P.5-2)
- 「電話用 NTP リファレンスの設定」(P.5-3)
- 「電話用 NTP リファレンスの削除」(P.5-4)
- 「日時グループの検索」(P.6-3)
- 「日時グループの設定」(P.6-5)
- 「日時グループの削除」(P.6-7)



CHAPTER 6

日時グループの設定

日時グループを追加、更新、または削除し、設定の変更を影響を受けるデバイスに同期させるには、次のトピックを参照してください。

- 「日時グループの設定値」(P.6-1)
- 「日時グループの検索」(P.6-3)
- 「日時グループの設定」(P.6-5)
- 「日時グループの影響を受けるデバイスとの同期化」(P.6-6)
- 「日時グループの削除」(P.6-7)
- 「関連項目」(P.6-8)

日時グループの設定値

日時グループの設定では、Cisco Unified Communications Manager に接続されている各種デバイスに対してタイムゾーンを設定します。各デバイスは、メンバとして1つのデバイスプールだけに属しています。そして、各デバイスプールには、1つの日時グループだけが割り当てられています。

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、CMLocal と呼ばれるデフォルトの日時グループが自動的に設定されます。CMLocal は、Cisco Unified Communications Manager がインストールされているサーバ上のオペレーティングシステムで使用中的の日付および時刻と同期します。Cisco Unified Communications Manager のインストール後に、必要に応じて CMLocal の設定値を変更できます。通常、サーバの日付と時刻は、現地タイムゾーンの日付と時刻に合わせて調整します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager を再起動するか、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードするたびに、CMLocal はオペレーティングシステムの日付と時刻に置き換えられます。CMLocal の名前は変更しないでください。



ヒント

Cisco Unified IP Phone を国際的に配備する場合は、エンドポイントを配置するタイムゾーンのそれぞれに日時グループを作成し、わかりやすい名前を付けてください。

表 6-1 では、日時グループの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.6-8) を参照してください。

表 6-1 日時グループの設定値

フィールド	説明
[グループ名 (Group Name)]	新しい日時グループに割り当てる名前を入力します。
[タイムゾーン (Time Zone)]	ドロップダウン リスト ボックスから、追加するグループのタイム ゾーンを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の新規インストールでのデフォルト設定は、(GMT) モンロビア、カサブランカ です。 互換性のある Cisco Unified Communications Manager リリースからアップグレードし、設定で「Communications Manager のローカル タイム ゾーン」を使用している場合は、データベース サーバに使用する適切なタイムゾーンを Cisco Unified Communications Manager データベースが判断し、そのタイムゾーンを Communications Manager タイム ゾーンの置換用として表示します。
[セパレータ (Separator)]	日付フィールド間で使用する区切り文字を選択します。
[日付の書式 (Date Format)]	Cisco Unified IP Phone に表示される日付の形式を選択します。
[時間の書式 (Time Format)]	12 時間制または 24 時間制を選択します。

表 6-1 日時グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[選択された電話用 NTP(Selected Phone NTP References)] (優先度順)	<p>SIP を実行している電話機が日付と時刻の設定を NTP サーバから取得できるようにするには、電話用 NTP リファレンスを日時グループに追加します。電話用 NTP リファレンスを日時グループに追加するには、次の作業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [電話用 NTP を追加 (Add Phone NTP References)] ボタンをクリックします。 2. 追加する電話用 NTP リファレンスを検索します (「電話用 NTP リファレンスの検索」(P.5-2) を参照)。 表示されるのは、Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している電話用 NTP リファレンスだけです。電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加する方法については、「電話用 NTP リファレンスの設定」(P.5-3) を参照してください。 3. 検索結果が表示されたら、電話用 NTP リファレンスのチェックボックスをオンにするか、[すべてを選択 (Select All)] をクリックします。 4. [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。 <p>電話用 NTP リファレンスを日時グループに追加したら、電話機でアクセスする最初のリファレンスから順に、それらに優先順位を設定することができます。たとえば、リファレンスをリストの先頭の方に移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、上矢印をクリックします。リファレンスをリストの末尾の方に移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、下矢印をクリックします。</p> <p>ヒント 電話用 NTP リファレンスを日時グループから削除するには、ペインに表示されているサーバを選択し、[電話用 NTP を削除 (Remove Phone NTP References)] をクリックします。電話用 NTP リファレンスを日時グループから削除しても、その電話用 NTP リファレンスは Cisco Unified Communications Manager データベースからは削除されません。</p>

日時グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの日時グループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定の日時グループを見つけることができます。日時グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [日時グループ (Date/Time Group)] の順に選択します。

[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.6-8) を参照してください。

日時グループの設定

日時グループを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [日時グループ (Date/Time Group)] の順に選択します。
[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存の日時グループをコピーするには、対象となる日時グループを見つけて（「[日時グループの検索](#)」(P.6-3) を参照）、コピーする日時グループを選択し、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [コピー (Copy)] ボタンをクリックします。「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しい日時グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の日時グループを更新するには、対象となる日時グループを見つけて（「[日時グループの検索](#)」(P.6-3) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（[表 6-1](#) を参照）。
- ステップ 4** SIP を実行している電話機は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにある NTP サーバを使用して日付と時刻を取得することができます（「[電話用 NTP リファレンスの設定](#)」(P.5-1) を参照）。電話用 NTP リファレンスを、SIP を実行している電話機の日時グループに追加するには、次の作業を実行します。
- a. [電話用 NTP を追加 (Add Phone NTP References)] ボタンをクリックします。
 - b. 追加する電話用 NTP リファレンスを検索します（「[電話用 NTP リファレンスの検索](#)」(P.5-2) を参照）。
表示されるのは、Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している電話用 NTP リファレンスだけです。電話用 NTP リファレンスを Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加する方法については、「[電話用 NTP リファレンスの設定](#)」(P.5-3) を参照してください。
 - c. 検索結果が表示されたら、日時グループに追加する電話用 NTP リファレンスのチェックボックスをオンにするか、[すべてを選択 (Select All)] をクリックします。
 - d. [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
-  **ヒント** 電話用 NTP リファレンスを日時グループに追加したら、SIP を実行している電話機でアクセスする最初のサーバから順に、それらに優先順位を設定することができます。たとえば、サーバをリストの先頭の方に移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、上矢印をクリックします。サーバをリストの末尾の方に移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、下矢印をクリックします。
- ステップ 5** 電話用 NTP リファレンスを日時グループから削除するには、ペインに表示されているリファレンスを選択し、[電話用 NTP を削除 (Remove Phone NTP References)] をクリックします。
電話用 NTP リファレンスを日時グループから削除しても、その電話用 NTP リファレンスは Cisco Unified Communications Manager データベースからは削除されません。

■ 日時グループの影響を受けるデバイスとの同期化

- ステップ 6** 新しい日時グループをデータベースに保存するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックします。



(注) 「ステップ 7」に進むかどうかを決定する前に、「日時グループの影響を受けるデバイスとの同期化」(P.6-6) で説明されている手順を参照してください。

- ステップ 7** 日時グループを使用しているデバイスをリセットするには、[リセット (Reset)] をクリックします。

次の作業

新しい日時グループをデータベースに追加した後、そのグループをデバイス プールに割り当てて、そのデバイス プールの日付と時刻の情報を設定できます。詳細については、「デバイス プールの設定」(P.9-18) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.6-8) を参照してください。

日時グループの影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスを、設定の変更を実行した日時グループと同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [日時グループ (Date/Time Group)] の順に選択します。
[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する日時グループがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期する日時グループをクリックします。[日時グループの設定 (Date/Time Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.6-8) を参照してください。

日時グループの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから日時グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に



(注)

デバイス プールが使用している日時グループは、削除することができません。

日時グループを使用しているデバイス プールを検索するには、[日時グループの設定 (Date/Time Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用されている日時グループを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されている日時グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する日時グループを使用しているデバイス プールすべてに、別の日時グループを割り当てます。「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。
- 削除する日時グループを使用しているデバイス プールを削除します。「[デバイス プールの削除](#)」(P.9-20) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 「[日時グループの検索](#)」(P.6-3) の手順を使用して、日時グループを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する日時グループを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected Item)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected Item)] ボタンをクリックして)、日時グループを削除します。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックします。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.6-8) を参照してください。

関連項目

- 「日時グループの設定値」 (P.6-1)
- 「日時グループの設定」 (P.6-1)
- 「日時グループの検索」 (P.6-3)
- 「日時グループの設定」 (P.6-5)
- 「日時グループの影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.6-6)
- 「日時グループの削除」 (P.6-7)
- 「電話用 NTP リファレンスの検索」 (P.5-2)
- 「電話用 NTP リファレンスの設定」 (P.5-3)



CHAPTER 7

プレゼンス グループの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンスを設定すると、関係するユーザ（ウォッチャーと呼ばれます）が、電話番号または SIP URI（プレゼンス エンティティ）のリアルタイム ステータスをウォッチャーのデバイスから監視できるようになります。

プレゼンス グループを使用してウォッチャーがどの対象を監視できるかは、Cisco Unified Communications Manager が制御します。プレゼンス グループは、ウォッチャー、およびグループ内のウォッチャーが監視できる対象を保持しています。あるグループに含まれているウォッチャーが他のグループ内の電話番号を監視できるようにするには、権限の設定値を指定して、プレゼンス要求を許可またはブロック（拒否）します。プレゼンス許可が作用するのは、対象のステータスを監視する権限をウォッチャーが持つことを必須としているプレゼンス グループです。

プレゼンス グループを設定したら、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の項目にプレゼンス グループを適用します。

- 電話番号：ステータスの監視対象となるプレゼンス エンティティ
- SIP トランク：ウォッチャー
- SIP を実行している電話機：ウォッチャー
- Skinny Call Control Protocol (SCCP) を実行している電話機：ウォッチャー
- アプリケーション ユーザ：ウォッチャー
- エンド ユーザ：ウォッチャー

プレゼンス グループの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[プレゼンス](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 8

リージョンの設定

リージョンを使用すると、オーディオ コールおよびビデオ コールにトランスポート非依存の最大ビット レートを指定して、リージョン内および既存のリージョン間のオーディオおよびビデオ コールに使用する帯域幅を制限できます。リージョンを追加、更新、または削除し、設定の変更と影響を受けるデバイスを同期させるには、次のトピックを参照してください。

- 「リージョンの設定値」 (P.8-1)
- 「リージョンの検索」 (P.8-5)
- 「リージョンの設定」 (P.8-6)
- 「リージョンと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.8-7)
- 「リージョンの削除」 (P.8-8)
- 「関連項目」 (P.8-9)

リージョンの設定とオーディオ コーデックの選択の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「リージョン」を参照してください。

リージョンの設定値

リージョンを使用すると、リージョン内および既存のリージョン間でオーディオ コールおよびビデオ コールの最大ビット レートを指定できます。

- 最大オーディオ ビット レートを指定すると、コールに許可されるコーデックが決まります。コーデックのビット レートが指定の制限を超えると、そのコーデックはフィルタリングされるためです。
- 最大ビデオ コール ビット レートはオーディオとビデオのビット レートを合計した値となりますが、トランスポート オーバーヘッドは除外されます。

Cisco Unified Communications Manager では、最大 2,000 のリージョンがサポートされます。次の制限と制約が適用されます。

- オーディオ ビット レートおよびビデオ コール ビット レートのフィールドについては、可能な限り多くのリージョンを [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定してください。
- この拡張機能を使用するには、Media Convergence Server (MCS) 7845H1 以降のサーバが必要です。
- 現在のリリースの『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design』の「IP Video Telephony」の章の「Administration Considerations」にあるサブトピック「Regions」を参照してください。リージョンおよびロケーションにビデオ帯域幅を設定する方法に関する推奨事項が記載されています。これにより、ビデオ コールのビデオ部分は成功し、ビデオ コールは拒否されず、オーディオのみのコールとして確立されることもありません。

表 8-1 では、リージョンに指定できるオーディオ ビット レートおよびビデオ コール ビット レートの設定値をまとめています。関連する手順については、「関連項目」(P.8-9) を参照してください。

表 8-1 リージョンの設定値

フィールド	説明
[リージョン情報 (Region Information)]	
[名前 (Name)]	このリージョンの一意の名前を入力します。この名前には、最長 30 文字まで指定できます。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド)、ブランク、およびアンダースコアを指定できます。 (注) リージョン名の変更後にデバイスをリセットするようにしてください。
[リージョンの関係 (Region Relationships)]	
[リージョン (Region)]	この列のエントリには、デフォルト以外の関係が設定されたすべてのリージョンが表示されます。 (注) 設定しているリージョンと、このリージョンとの間の関係がデフォルト値だけを指定している場合、このリージョンはこの列に表示されません。
[最大オーディオビットレート (Max Audio Bit Rate)]	この列のエントリは、設定しているリージョンと、対応する行に表示されているリージョンとの間の最大オーディオ ビット レートを指定します。
[ビデオコールの最大ビットレート (オーディオを含む) (Max Video Call Bit Rate (Includes Audio))]	この列のエントリは、設定しているリージョンと、対応する行に表示されているリージョンとの間の最大ビデオ ビット レート (オーディオを含む) を指定します。
[リンク損失タイプ (Link Loss Type)]	この列のエントリは、設定しているリージョンと、対応する行に表示されているリージョンとの間のリンク損失タイプの関係を指定します。
[他のリージョンへの関係を変更 (Modify Relationship to other Regions)]	
[リージョン (Region)]	このウィンドウ ペインのエントリは、デフォルト リージョン、設定しているリージョン、およびその他すべてのリージョンを含む、すべての既存リージョンを指定します。 このペインでリージョンを選択してから、設定しているリージョンと選択されたリージョンとの間の関係を設定してください。

表 8-1 リージョンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[最大オーディオビットレート (Max Audio Bit Rate)]	<p>[リージョン (Region)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、対応する値をこの列のドロップダウン リスト ボックスから選択して、このリージョンと指定したリージョンとの間でオーディオに使用する最大ビット レートを設定します。この設定は、オーディオ コールとビデオ コールの両方に適用され、オーディオ ビット レートの上限となります。つまり、指定値よりもビット レートが高い音声コーデックはこれらのコールに使用されません。</p> <p>たとえば、64 kbps (G.722、G.711) を選択した場合、コールに対して G.722 または G.711 がネゴシエートされます。どちらのコーデックも 64 kb/s を使用するためです。G.722 の方が、G.711 よりもオーディオ品質に優れているため、コールに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> リージョン内およびリージョン間の最大オーディオ ビット レート サービス パラメータを更新することを推奨します。また、このフィールドには [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] オプションを選択することを推奨します。 <p>サービス パラメータ値を設定および使用すると、数多くのリージョン ペアについて [最大オーディオビットレート (Max Audio Bit Rate)] を一度にまとめて変更するのが容易になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモート サイトの配置の大部分で帯域幅が制限されるため、新規リージョンと既存リージョン間では推奨値の 8 kb/s (G.729) を使用してください。 [現在の設定の保持 (Keep Current Setting)] を選択した場合、作成しているリージョン ペアについては [リージョンの関係 (Region Relationships)] ペインに指定されている値が保持されます。 [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] を選択した場合は、選択されているリージョンに応じて、Intraregion Max Audio Bit Rate または Interregion Max Audio Bit Rate サービス パラメータの値が使用されます。このサービス パラメータは、Cisco CallManager サービスをサポートします。

表 8-1 リージョンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールの最大ビットレート(オーディオを含む)(Max Video Call Bit Rate (Includes Audio))]	<p>[リージョン(Region)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、この列の次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [現在の設定の保持(Keep Current Setting)] : ビデオ コールの帯域幅に現在の設定を使用するには、このボタンをクリックします。 [システムデフォルトの使用(Use System Default)] : デフォルト値を使用するには、このボタンをクリックします。デフォルト値には、[サービスパラメータ設定(Service Parameter Configuration)] ウィンドウでデフォルト値を別の値に設定しない限り、通常は 384 kb/s が指定されています。 <p>[なし(None)] : このリージョンと指定したリージョン間にビデオ コール ビット レートが割り当てられていない場合は、このオプション ボタンをクリックします。このオプションを指定した場合、ビデオ コールは許可されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> [kbps] : 設定しているリージョンと指定したリージョンとの間に最大ビデオ コール ビット レートを設定するには、このボタンをクリックします。この 2 つのリージョン間の各ビデオ コールに使用可能なビット レートを入力します。オーディオ ビット レートが含まれることに留意してください。有効値の範囲は 1 ~ 32256 です。
[リンク損失タイプ(Link Loss Type)]	<p>[リージョン(Region)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、対応する値をこの列のドロップダウン リスト ボックスから選択して、このリージョンと指定したリージョンとの間でネットワーク状態の説明に使用するリンク損失タイプを設定します。リンク損失タイプによって音声コーデックの相対的優先順位が決まり、ネットワークが損失の多い状態であるかどうかに基づいてオーディオ品質が最適化されます。音声コーデックの中には、パケット損失、ジッタ、および遅延が生じている状況で堅牢性が増すものもあります。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [現在の設定の保持(Keep Current Setting)] : 設定しているリージョンと、[リージョン(Region)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンとの間のリンク損失タイプを保持するには、この値を選択します。 [システムデフォルトの使用(Use System Default)] : 設定しているリージョンと、[リージョン(Region)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンとの間のリンク損失タイプとしてシステム デフォルト値を使用するには、この値を選択します (システム デフォルトは、[サービスパラメータ設定(Service Parameters Configuration)] ウィンドウで設定します)。 [低損失(Low Loss)] : 設定しているリージョンと、[リージョン(Region)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンとの間に低損失リンク損失タイプを指定するには、この値を選択します。 [高損失(Lossy)] : 設定しているリージョンと、[リージョン(Regions)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンとの間に高損失リンク損失タイプを指定するには、この値を選択します。

リージョンの検索

ネットワーク内にはいくつかのリージョンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のリージョンを見つけることができます。リージョンを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [リージョン (Region)] の順に選択します。
[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.8-9) を参照してください。

リージョンの設定

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

どのリージョンについても、他のリージョン内にそのリージョンとの関連付けが存在しています。このため、リージョンの追加はマトリクス（行列）のような形態で発生します。たとえば、リージョン A、B、および C を追加すると、次に示すように、リージョン A、リージョン B、およびリージョン C を列および行とするマトリクスが作成されます。

	リージョン A	リージョン B	リージョン C
リージョン A			
リージョン B			
リージョン C			

20 のリージョンを割り当てると、データベースは 400 のエントリ（20 x 20）を追加します。多数のリージョンを割り当てると、パフォーマンスが多少制限されます。



(注) Cisco Unified Communications Manager では、最大 2000 リージョンを追加できます。

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [リージョン (Region)] の順に選択します。
[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 新しいリージョンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存のリージョンを更新するには、対象となるリージョンを見つけて（「リージョンの検索」(P.8-5) を参照）、「ステップ 3」に進みます。
-
- (注)** リージョン名の変更後にデバイスをリセットするようにしてください。
-
- ステップ 3** [名前 (Name)] フィールドに、リージョンに割り当てる名前を入力します。
- ステップ 4** 新しいリージョンをデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** このリージョン内で使用する値を設定するには、[リージョン (Regions)] ウィンドウ ペインにあるリージョン名をクリックして選択し、表 8-1 の説明に従って目的の値を設定します。

- ステップ 6** このリージョンと他のリージョンの間で使用するデフォルト コーデックを設定するには、[リージョン (Regions)] ウィンドウ ペインにある他のリージョン名（このリージョン以外）をクリックして選択します。表 8-1 の説明に従って設定を行います。



ヒント スケーラビリティを高め、リソースを節約するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (System - Location and Region)] セクションで、オーディオ コーデック、ビデオ コール帯域幅およびリンク損失タイプのデフォルト値を適切に設定し、次に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウで、これらのフィールドに対して [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] エントリを選択することをお勧めします。

- ステップ 7** 新しいリージョンをデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

**ヒント**

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウに、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数（25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン）を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスが低下する可能性があります。

次の作業

リージョンを設定した後、そのリージョンを使用してデバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられたデバイス プールからリージョンの設定値を取得します。デバイス プールの設定については、「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.8-9) を参照してください。

リージョンと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスを、設定の変更を実行したリージョンと同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [リージョン (Region)] の順に選択します。
[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するリージョンがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスと同期させるリージョンをクリックします。[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.8-9) を参照してください。

リージョンの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからリージョンを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に



(注)

デバイス プールが使用しているリージョンは削除できません。

リージョンを使用しているデバイス プールを検索するには、[リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用中のリージョン グループを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用中のリージョンを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 別のリージョンを使用するように、デバイス プールを更新します。「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。
- 削除するリージョンを使用しているデバイス プールを削除します。「[デバイス プールの削除](#)」(P.9-20) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 「[リージョンの検索](#)」(P.8-5) の手順を使用して、リージョンを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するリージョンを選択します。
- ステップ 3** リージョンを削除するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。

**ヒント**

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウに、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数 (25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン) を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスが低下する可能性があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.8-9) を参照してください。

関連項目

- 「[リージョンの設定値](#)」(P.8-1)
- 「[リージョンの検索](#)」(P.8-5)
- 「[リージョンの設定](#)」(P.8-6)
- 「[リージョンと影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.8-7)
- 「[リージョンの削除](#)」(P.8-8)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[リージョン](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[コール アドミッション制御](#)」



CHAPTER 9

デバイス プールの設定

デバイス プールを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「デバイス プールの設定値」 (P.9-1)
- 「デバイス プールの検索」 (P.9-17)
- 「デバイス プールの設定」 (P.9-18)
- 「デバイス プールの該当デバイスとの同期化」 (P.9-20)
- 「デバイス プールの削除」 (P.9-20)
- 「関連項目」 (P.9-21)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」の章を参照してください。

共通のデバイス設定パラメータの詳細については、「共通デバイス設定」 (P.103-1) を参照してください。

デバイス プールの設定値

デバイス プールの設定では、複数のデバイスに共通の特性がまとめて指定されます。デバイス プールの構造では、ユーザ情報と位置情報の分離が可能です。デバイス プールには、システム、デバイス、および場所関連の情報が格納されています。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] にある [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウには、使用されるソフトウェアテンプレートの種類、ロケール情報などの、ユーザ向けの情報がすべて記録されます。ユーザ向けの情報を得るためには、各デバイスが、デバイス プールに関連付けられ、共通のデバイス設定に関連付けられている必要があります。

表 9-1 では、デバイス プールの設定値を一覧表示し、説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.9-21) を参照してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値

フィールド名	説明
[デバイスプールの設定 (Device Pool Settings)]	
[デバイスプール名 (Device Pool Name)]	作成する新規デバイス プールの名前を入力します。50 文字まで入力でき、英数字、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_)、およびブランクを含めることができます。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager グループを選択します。Cisco Unified Communications Manager グループでは、最高 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco Unified Communications Manager はそのグループのプライマリ Cisco Unified Communications Manager となり、残りは冗長性を確保するためのバックアップ Cisco Unified Communications Manager となります。
[自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)]	Cisco Unified Communications Manager に自動登録されるこのデバイス プール内のデバイスに割り当てる、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、コールを完了しようとするときにデバイスが検索できるパーティションを指定します。
[付加 CSS (Adjunct CSS)]	このドロップダウンリスト ボックスから、Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) 機能の付加 CSS としてこのデバイス プロファイルのデバイスに使用する既存の Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を選択します (新しい CSS を設定したり、既存の CSS を変更したりするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します)。 デフォルト値は、[なし (None)] です。 EMCC 機能を設定する場合は、管理者が各リモート クラスタのデバイス プールを設定する必要があります。リモート クラスタが別の国に存在する場合、付加 CSS にはその国の緊急パターンが関連付けられているパーティションを含める必要があります。この設定により、国別の緊急コール ルーティングを容易に確立できます。 付加 CSS の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」の章の「EMCC コールルーティング」を参照してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[復帰コールのフォーカス優先度 (Reverted Call Focus Priority)]	<p>保留復帰機能から起動される復帰コールに対する、クラスタ全体の優先度設定を選択します。この設定によって、どのコールタイプ (着信コールか復帰コール) がユーザの操作 (オフフックにするなど) に対して優先されるかが指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、着信コールが優先されます。 • [最高 (Highest)] : このオプションを選択すると、復帰コールが優先されます。 <p>[未選択 (Not Selected)] に設定すると、インストール時のデフォルトデバイス プールに対する復帰コールフォーカス優先度設定が指定されます。インストール時には、着信コールが優先されます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、この設定を選択できません。</p> <p>(注) この設定は、特に保留復帰コールに対して適用され、パークされた復帰コールには適用されません。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「保留復帰」を参照してください。</p>
[ローカルルートグループ (Local Route Group)]	<p>ドロップダウン リストボックスから、このデバイス プール内のデバイス用のローカル ルート グループとして使用するルート グループを選択します。デフォルト値の [<なし (None)>] を選択すると、ローカル ルート グループ機能は実装されません。</p> <p>ローカル ルート グループ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」の章を参照してください。</p>
[重要設定のローミング (Roaming Sensitive Settings)]	
[日時グループ (Date/Time Group)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日時グループを選択します。日時グループは、タイムゾーン、および日付と時刻の表示形式を指定します。
[リージョン (Region)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager リージョンを選択します。Cisco Unified Communications Manager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	ドロップダウン リストボックスから、メディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストに定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソース グループから、必要なメディア リソース (たとえば、保留音サーバ、トランスコーダ、会議ブリッジ) を選択します。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プールの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [なし (None)] または [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイス プール内のデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートしているネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p>(注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のパラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアでサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[SRST 参照先 (SRST Reference)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disable] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスは SRST 参照先ゲートウェイを使用できなくなります。 • [Use Default Gateway] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。 • 既存の SRST 参照先 : ドロップダウン リストから SRST 参照先を選択すると、このデバイス プール内のデバイスはこの SRST 参照先ゲートウェイを使用します。
[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)]	<p>この設定値は、Cisco Unified IP Phone が SRST から登録解除され、Cisco Unified Communications Manager に再登録される前に、Cisco Unified Communications Manager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>エンタープライズ パラメータの設定を使用するには、-1 を入力するか、またはフィールドをブランクのままにしておきます。エンタープライズ パラメータのデフォルト値は 120 秒です。</p> <p>接続モニタを無効にする必要がある場合、または接続モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。フィールドに入力できる最大秒数は 2592000 です。</p> <p>ヒント [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドの値またはエンタープライズ パラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「SRST 参照先」を参照してください。</p>
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	<p>この設定は、このデバイス プール内のデバイスまたは電話機ユーザがワンボタンで割り込みおよび C 割り込みにアクセスできるかどうかを決定します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、ワンボタン割り込み/C 割り込み機能が無効になります。 • [割り込み (Barge)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、ワンボタン割り込み機能が有効になります。 • [C 割込 (CBarge)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、ワンボタン C 割り込み機能が有効になります。 • [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスでは、ワンボタン割り込み/C 割り込み機能のサービス パラメータ設定が使用されます。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>この設定は、このデバイス プール内のデバイスまたは電話機ユーザに対して、回線をまたいで参加機能を有効にするかどうかを決定します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、回線をまたいで参加機能が無効になります。 • [オン (On)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスに対して、回線をまたいで参加機能が有効になります。 • [デフォルト (Default)] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスでは、回線をまたいで参加機能のサービス パラメータ設定が使用されます。
[物理ロケーション (Physical Location)]	このデバイス プールの物理ロケーションを選択します。システムは、物理ロケーションとデバイス モビリティ機能を組み合わせて使用することで、特定の地域に関連したパラメータを識別します。
[デバイスモビリティグループ (Device Mobility group)]	デバイス モビリティ グループは、最上位レベルのネットワーク内の地域エンティティを表し、デバイス モビリティ機能をサポートするために使用されます。
[デバイスモビリティ関連情報 (Device Mobility Related Information)]	
[デバイスモビリティコーリングサーチスペース (Device Mobility Calling Search Space)]	デバイスがローミングされ、同じデバイス モビリティ グループに含まれている場合に、デバイス コーリング サーチ スペースで使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[発呼側トランスフォーメーションCSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできません。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイス プールに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。デバイス プールに対して [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定し、デバイス設定ウィンドウで [デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)] チェックボックスをオンにした場合、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>
[着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできません。選択する [着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] に、このデバイス プールに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイス プール内のデバイスが位置情報と関連付けられていないことを示す、<i>未指定</i>の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>設定を [なし (None)] のままにした場合、このデバイス プール内のデバイスに位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[国内番号(National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイス プールに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>
[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)]	
<p>[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)] では、H.323 トランクおよびゲートウェイをサポートしています。H.323 プロトコルは、国際的なエスケープ文字 + をサポートしていません。+ を含め正しいプレフィックスが H.323 ゲートウェイ/トランク経由の着信コールに適用されるようにするには、着信の着呼側設定を行います。つまり、着信の着呼側設定を行うことにより、着信コールが H.323 ゲートウェイまたは H.323 トランク経由で到達したときに、Cisco Unified Communications Manager によって、着信側番号がトランク/ゲートウェイ経由で最初に送信された値に変換されるようになります。</p>	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての着信側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。
[国内番号 (National Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイスプールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国内 (National)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイスプールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国際 (International)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーマーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイスプールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [不明 (Unknown)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示されている場合、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドは設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイスプールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [加入者 (Subscriber)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーマーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[接続側の設定 (Connected Party Settings)]	
[接続側トランスフォーメーションCSS(Connected Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、接続側番号を別の形式 (DID、E164 番号など) で表示するために、デバイスの接続側番号を変換できます。Cisco Unified Communications Manager では、200 OK メッセージや通話中の UPDATE/re-INVITE メッセージなど、さまざまな SIP メッセージのヘッダーに変換済みの番号が組み込まれます。選択する [接続側トランスフォーメーションCSS(Connected Party Transformation CSS)] に、このデバイス プールに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [接続側トランスフォーメーションCSS(Connected Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[接続側トランスフォーメーションCSS(Connected Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>

デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] の順に選択します。
- [デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]** に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-21) を参照してください。

デバイス プールの設定

デバイス プールを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。新しいデバイス プールをデータベースに追加した後、そのデバイス プールを使用して、Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、会議ブリッジ、トランスコーダ、メディア ターミネーション ポイント、ボイスメール ポート、CTI ルート ポイントなどのデバイスを設定できます。

始める前に

デバイス プールに対して次の項目を選択する場合は、デバイス プールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager グループ (必須)。「[Cisco Unified Communications Manager グループの設定](#)」(P.4-4) を参照してください。
- 日時グループ (必須)。「[日時グループの設定](#)」(P.6-5) を参照してください。
- リージョン (必須)。「[リージョンの設定](#)」(P.8-6) を参照してください。
- SRST 参照先 (オプション)。「[SRST 参照先の設定](#)」(P.20-4) を参照してください。
- メディア リソース グループ リスト (オプション)。「[メディア リソース グループ リストの設定](#)」(P.78-3) を参照してください。

- 自動登録用のコーリング サーチ スペース (オプション)。「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」(P.54-4) を参照してください。
- 復帰コール フォーカス優先度 (オプション)。「*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*」の「[保留復帰](#)」を参照してください。
- デバイス モビリティ グループ (オプション)。「*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*」の「[デバイス モビリティ グループの設定](#)」を参照してください。
- デバイス モビリティ コーリング サーチ スペース。「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」(P.54-4) を参照してください。
- 物理ロケーション (オプション)。「*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*」の「[物理ロケーションの設定](#)」を参照してください。
- ロケーション。「[ロケーションの設定](#)」(P.18-6) を参照してください。
- AAR グループ。「[AAR グループの設定](#)」(P.34-4) を参照してください。
- AAR コーリング サーチ スペース。「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」(P.54-4) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] の順に選択します。
[デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存のデバイス プールをコピーするには、対象となるデバイス プールを見つけて (「[デバイス プールの検索](#)」(P.9-17) を参照)、コピーするデバイス プールの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しいデバイス プールを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のデバイス プールを更新するには、対象となるデバイス プールを見つけて (「[デバイス プールの検索](#)」(P.9-17) を参照)、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切なフィールドに値を入力します (表 9-1 を参照)。
- ステップ 4** デバイス プール情報をデータベースに保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-21) を参照してください。

デバイス プールの該当デバイスとの同期化

デバイスを、設定の変更を実行したデバイス プールと同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] の順に選択します。
[デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するデバイス プールがウィンドウに表示されます。
 - ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期するデバイス プールをクリックします。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5** 他の設定変更を行います。
 - ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.9-21) を参照してください。

デバイス プールの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからデバイス プールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられているデバイス プール、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールなどは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てます。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。
- 削除するデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除します。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「[デバイス プールの検索](#)」(P.9-17) の手順を使用して、デバイス プールを検索します。

- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイス プールを選択します。
- ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.9-21) を参照してください。

関連項目

- 「デバイス プールの設定値」(P.9-1)
- 「デバイス プールの検索」(P.9-17)
- 「デバイス プールの設定」(P.9-18)
- 「デバイス プールの該当デバイスとの同期化」(P.9-20)
- 「デバイス プールの削除」(P.9-20)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「発信側の正規化」



CHAPTER 10

デバイス モビリティ グループの設定

デバイス モビリティ グループは、デバイスのモビリティ機能をサポートしています。デバイス モビリティ グループは、ネットワーク内の最上位レベルの地域エンティティを表しています。ネットワークのサイズと範囲に応じて、デバイス モビリティ グループは国、地域、州や都道府県、市町村などのエンティティを表現します。たとえば、世界的規模のネットワークを持つ企業が、各国を表すデバイス モビリティ グループを設定することもあれば、国内または地域内ネットワークを持つ企業が、州、都道府県、市町村を表すデバイス モビリティ グループを設定することもあります。

デバイス モビリティ機能の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[デバイス モビリティ](#)」を参照してください。



CHAPTER 11

デバイス モビリティ情報の設定

[デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウでは、デバイス モビリティ用に使用するサブネットとデバイス プールを指定します。電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されると、デバイスの IP アドレスが、[デバイスモビリティ情報の設定 (Device Mobility Info Configuration)] ウィンドウで指定され、デバイス プールの 1 つに関連付けられたデバイス モビリティ サブネットと比較されます。

一致したサブネットが、そのデバイスのデバイス モビリティ用のホーム サブネットになります。

デバイス モビリティ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイス モビリティ](#)」を参照してください。



CHAPTER 12

DHCP サーバの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「DHCP サーバの設定値」 (P.12-1)
- 「DHCP モニタ サービスのアクティブ化」 (P.12-3)
- 「DHCP モニタ サービスの開始」 (P.12-3)
- 「DHCP サーバの検索」 (P.12-4)
- 「DHCP サーバの設定」 (P.12-5)
- 「DHCP サーバの削除」 (P.12-6)
- 「関連項目」 (P.12-7)

DHCP サーバの設定値

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバを使用すると、お客様のデータ イーサネット ネットワークまたは音声イーサネット ネットワークに接続されている Cisco Unified IP Phone が、自身の IP アドレスと設定情報を動的に取得できるようになります。DHCP では、クラスタの内部および外部にあるホスト名を Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) を使用して解決します。

表 12-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.12-7) を参照してください。

表 12-1 DHCP サーバの設定値

[サーバ情報 (Server Information)] のフィールド	説明
[ホストサーバ (Host Server)]	使用可能なホスト サーバのドロップダウン リストから、ホスト サーバを選択します。
[プライマリ DNS IPv4 アドレス (Primary DNS IPv4 Address)]	このフィールドには、プライマリ DNS の IPv4 アドレスを指定します。
[セカンダリ DNS IPv4 アドレス (Secondary DNS IPv4 Address)]	このフィールドには、セカンダリ DNS の IPv4 アドレスを指定します。

表 12-1 DHCP サーバの設定値 (続き)

[サーバ情報(Server Information)]のフィールド	説明
[プライマリ TFTP サーバ IPv4 アドレス (Primary TFTP Server IPv4 Address、オプション 150)]	DHCP のカスタム オプション 150 を使用すると、IP Phone が Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバにアクセスできるようになります。シスコでは、この方法をお勧めします。 このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IPv4 アドレスを指定します。
[セカンダリ TFTP サーバ IPv4 アドレス (Secondary TFTP Server IPv4 Address、オプション 150)]	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IPv4 アドレスを指定します。
[ブートストラップサーバ IPv4 アドレス (Bootstrap Server IPv4 Address)]	このフィールドには、ブートストラッププロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IPv4 アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップ サービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバアドレスのデフォルト値として使用することもできます。
[ドメイン名 (Domain Name)]	[ドメイン名 (Domain Name)] には、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するときに使用するドメイン名を指定します。
[TFTP サーバ名 (TFTP Server Name、オプション 66)]	DHCP オプション 66 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。 このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つだけです。
[ARP キャッシュタイムアウト (ARP Cache Timeout、秒)]	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。 Cisco Network Registrar (CNR) DHCP サーバでは、デフォルトで 60 秒が指定されています。
[IP アドレスリースタイム (IP Address Lease Time、秒)]	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオフアーのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。CNR DHCP サーバでは、デフォルトで 7 日間 (604,800 秒) が指定されています。
[リニューアル (T1) タイム (Renewal(T1) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。通常、このフィールドは IP アドレス リース タイムの値の半分に設定します。たとえば、IP アドレス リース タイムが通常の 60,000 秒に設定されている場合は、リニューアルタイムを 30,000 秒に設定します。
[再バインディング (T2) タイム (Rebinding(T2) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。通常、このフィールドは IP アドレス リース タイムの値の約 75% に設定します。たとえば、IP アドレス リース タイムが 60,000 秒に設定されている場合は、一般的に再バインディングタイムを 45,000 秒程度に設定します。Windows では、IP アドレス リース タイムの値の 85% が標準です。

DHCP モニタ サービスのアクティブ化

DHCP モニタ プロセスをアクティブまたは非アクティブにするには、Cisco Unified Communications Manager のサービスアビリティのウィンドウを使用します。サービスをアクティブにする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified サービスアビリティで、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
[Service Activation] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択し、[Go] をクリックします。
- ステップ 3** [CM Services] リストから [Cisco DHCP Monitor Service] を選択し、[Save] をクリックします。
-  **(注)** サービスがすでにアクティブになっている場合は、[Activation Status] が「Activated」と表示されます。
-
- ステップ 4** サービスがアクティブになり、[Activation Status] 列にステータスが [Activated] と表示されます。
-



- (注)** DHCP モニタ サービスは、アクティブになると自動的に開始されます。サービスを停止、開始、または再起動するには、「[DHCP モニタ サービスの開始](#)」(P.12-3) を参照してください。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-7) を参照してください。

DHCP モニタ サービスの開始

DHCP モニタ サービスは、Cisco Unified サービスアビリティを使用してアクティブになると自動的に開始されます。この項では、DHCP サービスを停止または再起動する手順について説明します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified サービスアビリティで、[Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。
[Control Center - Feature Services] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Servers] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択し、[Go] をクリックします。
[Cisco DHCP Monitor Service] が、[Unified CM Services] のリストの [Service Name] 列の下に表示されます。
-  **(注)** Cisco DHCP モニタ サービスを「[DHCP モニタ サービスのアクティブ化](#)」(P.12-3) に従ってアクティブにした場合は、[Activation Status] が「Activated」と表示されています。
-

- ステップ 3** Cisco DHCP モニタ サービスのオプション ボタンをオンにします。
- ステップ 4** Cisco DHCP モニタ サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。
サービスが再起動し、「Service Restarted Successfully」というメッセージが表示されます。
- ステップ 5** Cisco DHCP モニタ サービスを停止する場合は、[Stop] をクリックします。
サービスが停止し、「Service Stopped Successfully」というメッセージが表示されます。
- ステップ 6** 停止した Cisco DHCP モニタ サービスを開始する場合は、[Start] をクリックします。
サービスが開始され、「Cisco DHCP Monitor Service Restarted Successfully」というメッセージが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.12-7) を参照してください。

DHCP サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の DHCP サーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。

**(注)**

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [DHCP] > [DHCP サーバ (DHCP Server)] の順に選択します。
[DHCP サーバの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Servers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。
レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

**(注)**

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-7) を参照してください。

DHCP サーバの設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに DHCP サーバアドレスを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [DHCP] > [DHCP サーバ (DHCP Server)] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サーバを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- サーバを更新するには、「[DHCP サーバの検索](#)」(P.12-4) の手順を使用してサーバを検索します。
- サーバをコピーするには、「[DHCP サーバの検索](#)」(P.12-4) の手順を使用してサーバを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、[コピー (Copy)] アイコンをクリックします。

[DHCP サーバの設定 (DHCP Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 12-1 を参照)。

ステップ 4 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-7) を参照してください。

DHCP サーバの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから DHCP サーバを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 「[DHCP サーバの検索](#)」(P.12-4) の手順を使用して、DHCP サーバを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サーバを選択します。
 - ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックして)、サーバを削除します。

Cisco Unified Communications Manager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラー メッセージが表示されます。



-
- (注)** 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[DHCP サーバの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Servers)] ウィンドウから複数のホスト サーバを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.12-7) を参照してください。

関連項目

- 「DHCP サーバの設定値」 (P.12-1)
- 「DHCP モニタ サービスのアクティブ化」 (P.12-3)
- 「DHCP モニタ サービスの開始」 (P.12-3)
- 「DHCP サーバの検索」 (P.12-4)
- 「DHCP サーバの設定」 (P.12-5)
- 「DHCP サーバの削除」 (P.12-6)
- 「DHCP サブネットの設定」

追加情報

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP)」



CHAPTER 13

DHCP サブネットの設定

この章では、サブネットを検索して DHCP サーバに追加する手順について説明します。

- 「DHCP サブネットの設定値」 (P.13-1)
- 「DHCP サブネットの検索」 (P.13-3)
- 「DHCP サブネットの設定」 (P.13-4)
- 「DHCP サブネットの削除」 (P.13-5)
- 「関連項目」 (P.13-5)

DHCP サブネットの設定値

[DHCP サブネットの設定 (DHCP Subnet Configuration)] ウィンドウで、サブネットを DHCP サーバに追加できます。表 13-1 では、DHCP サブネットの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.13-5) を参照してください。

表 13-1 DHCP サブネットの設定値

[DHCP サブネット情報 (DHCP Subnet Information)] のフィールド	説明
[DHCP サーバ (DHCP Server)]	DHCP サーバ名をドロップダウン リスト ボックスから選択します。
[サブネット IPv4 アドレス (Subnet IPv4 Address)]	サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
[プライマリ開始 IPv4 アドレス (Primary Start IPv4 Address)]	割り当てる最初の IPv4 アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。
[プライマリ終了 IPv4 アドレス (Primary End IPv4 Address)]	割り当てる最初の IPv4 アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。
[セカンダリ開始 IPv4 アドレス (Secondary Start IPv4 Address)]	割り当てる 2 番目の IPv4 アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。

表 13-1 DHCP サブネットの設定値 (続き)

[DHCP サブネット情報 (DHCP Subnet Information)] のフィールド	説明
[セカンダリ終了IPv4アドレス (Secondary End IPv4 Address)]	割り当てる 2 番目の IPv4 アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。
[プライマリルータ IPv4 アドレス (Primary Router IPv4 Address)]	サブネットのプライマリ ルータの IPv4 アドレスを入力します。
[セカンダリルータ IPv4 アドレス (Secondary Router IPv4 Address)]	サブネットのセカンダリ ルータの IPv4 アドレスを入力します。
[IPv4 サブネットマスク (IPv4 Subnet Mask)]	サブネット マスクを入力します。
[ドメイン名 (Domain Name)]	このフィールドには、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するとき使用する名前を指定します。
[プライマリ DNS IPv4 アドレス (Primary DNS IPv4 Address)]	このフィールドには、プライマリ DNS IPv4 サーバ名を指定します。
[セカンダリ DNS IPv4 アドレス (Secondary DNS IPv4 Address)]	このフィールドには、セカンダリ DNS IPv4 サーバ名を指定します。
[TFTP サーバ名 (TFTP Server Name、オプション 66)]	このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つだけです。
[プライマリ TFTP サーバ IPv4 アドレス (Primary TFTP Server IPv4 Address、オプション 150)]	このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IPv4 アドレスを指定します。
[セカンダリ TFTP サーバ IPv4 アドレス (Secondary TFTP Server IPv4 Address、オプション 150)]	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IPv4 アドレスを指定します。
[ブートストラップサーバ IPv4 アドレス (Bootstrap Server IPv4 Address)]	このフィールドには、ブートストラップ プロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IPv4 アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップ サービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバアドレスのデフォルト値として使用することもできます。
[ARP キャッシュタイムアウト (ARP Cache Timeout、秒)]	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。
[IP アドレスリースタイム (IP Address Lease Time、秒)]	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオフアーのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

表 13-1 DHCP サブネットの設定値 (続き)

[DHCP サブネット情報 (DHCP Subnet Information)] のフィールド	説明
[リニューアル(T1)タイム (Renewal(T1) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。
[再バインディング (T2) タイム (Rebinding(T2) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

DHCP サブネットの検索

DHCP サブネットを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [DHCP] > [DHCP サブネット (DHCP Subnet)] の順に選択します。
[DHCP サブネットの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Subnets)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- (注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.13-5) を参照してください。

DHCP サブネットの設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに DHCP サブネット アドレスを追加、更新、およびコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [DHCP] > [DHCP サブネット (DHCP Subnet)] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サブネットを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- サブネットを更新するには、「[DHCP サブネットの検索](#)」(P.13-3) の手順を使用してサブネットを検索します。
- サブネットをコピーするには、「[DHCP サブネットの検索](#)」(P.13-3) の手順を使用してサブネットを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、[コピー (Copy)] をクリックします。

[DHCP サブネットの設定 (DHCP Subnet Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 13-1 を参照)。

ステップ 4 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックして)、データを保存し、サブネットをデータベースに追加します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.13-5) を参照してください。

DHCP サブネットの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから DHCP サブネットを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[DHCP サブネットの検索](#)」(P.13-3) の手順を使用して、DHCP サブネットを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サブネットを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックして)、サブネットを削除します。

Cisco Unified Communications Manager は、サブネットが使用中でない場合、そのサーバを削除します。使用中の場合は、メッセージが表示されます。



- (注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[[DHCP サブネットの検索と一覧表示 \(Find and List DHCP Subnets\)](#)] ウィンドウから複数の DHCP サーバを削除できます。[[すべてを選択 \(Select All\)](#)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.13-5) を参照してください。

関連項目

- 「[DHCP サブネットの設定値](#)」(P.13-1)
- 「[DHCP サブネットの検索](#)」(P.13-3)
- 「[DHCP サブネットの設定](#)」(P.13-4)
- 「[DHCP サブネットの削除](#)」(P.13-5)
- 「[DHCP サーバの設定](#)」(P.12-1)
- 『[Cisco Unified Communications Manager システム ガイド](#)』の「[ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル \(DHCP\)](#)」



CHAPTER 14

LDAP システムの設定

Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの設定を次のウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP システムの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「LDAP システムの設定値」 (P.14-1)
- 「LDAP システムの情報の更新」 (P.14-4)
- 「関連項目」 (P.14-4)

LDAP システムの設定値

[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウを使用して、LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP サーバのタイプ、およびユーザ ID の LDAP 属性名をセットアップします。表 14-1 では、LDAP システムの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.14-4) を参照してください。

始める前に

このウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンドユーザに変更を加えられるかどうかが決まります。LDAP の同期化はエンドユーザにだけ適用され、アプリケーションユーザには影響しません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ディレクトリの概要」 (P.19-1) を参照してください。

エンドユーザデータに関して、社内ディレクトリから同期される属性を [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで更新することはできません。これらの属性は、社内ディレクトリ自体の内部でだけ更新できます。更新された後に、再同期化を実行する必要があります。

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。



(注) 社内ディレクトリとの同期を行う前に、Cisco Unified Communications Manager データベースにエンドユーザが存在していた場合は、社内ディレクトリに対応するユーザ ID のないエンドユーザが削除されます。たとえば、ユーザ *bob* と *sanjay* が Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している場合でも、*bob* だけが LDAP ディレクトリに存在している場合は、*sanjay* には非アクティブのマークが付けられ、最終的にはガベージコレクションプログラムによって削除されます。



(注) DirSync サービスの LDAP ディレクトリ設定が作成されるか、LDAP ユーザの認証が有効になると、[LDAP システム情報(LDAP System Information)] ウィンドウにある設定値は読み取り専用になります。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP 同期を設定しても、社内ディレクトリに姓が登録されていないユーザは、Cisco Unified Communications Manager データベースと同期されません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページにエラーは表示されませんが、ログファイルには、ユーザが同期されなかったことが示されます。

表 14-1 LDAP システムの設定値

フィールド	説明
[LDAP システム情報(LDAP System Information)]	
[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)]	<p>お客様の LDAP サーバからのデータ同期化を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にすると、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内ディレクトリと同期されないフィールド (属性) を除いて、エンドユーザ データの内容は変更できません。エンドユーザ データの例としては、ユーザの PIN があります。ただし、アプリケーション ユーザ データの内容はいつでも変更することができます。 LDAP ディレクトリの情報を変更できます。 LDAP 認証の情報を変更できます。 <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にしない場合 (同期化が無効になっている場合) は、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> LDAP ディレクトリの情報は変更できません。 LDAP 認証の情報は変更できません。

表 14-1 LDAP システムの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、このドロップダウンリストボックスで次のいずれかを選択できます。お客様の LDAP サーバのタイプに該当する値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Microsoft Active Directory] • [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (Microsoft Active Directory Application Mode)] • [Netscape あるいは Sun ONE LDAP サーバ (Netscape or Sun ONE LDAP Server)] • [OpenLDAP]
[ユーザ ID 用 LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、ユーザ ID の LDAP 属性値を選択できます。ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Active Directory の場合 : <ul style="list-style-type: none"> - [sAMAccountName] - [mail] - [employeeNumber] - [telephoneNumber] - [userPrincipalName] • Microsoft Active Directory アプリケーション モード <ul style="list-style-type: none"> - [uid] - [mail] - [employeeNumber] - [telephoneNumber] - [userPrincipalName] • Sun ONE LDAP サーバ、iPlanet、および OpenLDAP の場合 <ul style="list-style-type: none"> - [uid] - [mail] - [employeeNumber] - [telephoneNumber]

LDAP システムの情報の更新

LDAP システムの情報を更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] の順に選択します。
 - ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 14-1 を参照)。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を保存します。
-

追加情報

「関連項目」(P.14-4) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP システムの設定値」(P.14-1)
- 「LDAP システムの設定」(P.14-1)
- 「LDAP システムの情報の更新」(P.14-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP ディレクトリの設定」(P.15-1)
- 「LDAP 認証の設定」(P.16-1)
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.112-1)
- 「エンド ユーザの設定」(P.113-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」



CHAPTER 15

LDAP ディレクトリの設定

LDAP ディレクトリの設定は、次の関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [LDAP フィルタ (LDAP Filters)]

LDAP ディレクトリの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「LDAP ディレクトリの設定値」 (P.15-1)
- 「LDAP ディレクトリの検索」 (P.15-6)
- 「LDAP ディレクトリの設定」 (P.15-7)
- 「LDAP ディレクトリの削除」 (P.15-8)
- 「関連項目」 (P.15-8)

LDAP ディレクトリの設定値

[LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] ウィンドウでは、たとえば LDAP ディレクトリの名前、LDAP ユーザが存在する場所、データを同期する頻度など、LDAP ディレクトリに関する情報を指定します。表 15-1 では、LDAP ディレクトリの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.15-8) を参照してください。

始める前に

LDAP ディレクトリの同期化を行うには、その前に Cisco DirSync サービスをアクティブにしておく必要があります。サービスをアクティブにする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値

フィールド	説明
[LDAP ディレクトリ情報(LDAP Directory Information)]	
[LDAP 設定名 (LDAP Configuration Name)]	LDAP ディレクトリの固有の名前を入力します (40 文字まで)。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP マネージャのユーザ ID を入力します (128 文字まで)。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP マネージャのパスワードを入力します (128 文字まで)。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	すべての LDAP ユーザが存在するロケーションを入力します (256 文字まで)。このロケーションは、コンテナまたはディレクトリとして機能します。この情報は、お客様側の構成によって異なります。
[LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter)]	<p>このドロップダウン リストから LDAP カスタム フィルタを選択します。LDAP フィルタは、LDAP 検索の結果をフィルタリングします。フィルタに一致する LDAP ユーザは Cisco Unified Communications Manager データベースにインポートされますが、フィルタに一致しない LDAP ユーザはインポートされません。</p> <p>デフォルト値は、[なし (None)] です。この値は、LDAP サーバタイプに固有のデフォルトの LDAP フィルタを適用します。デフォルトの LDAP フィルタは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Microsoft Active Directory(AD)] : (<code>&(objectclass=user)!(objectclass=Computer)!(UserAccountControl:1.2.840.113556.1.4.803:=2))</code>) [iPlanet または Sun One LDAP サーバ (iPlanet or Sun One LDAP Server)] : (<code>objectclass=inetOrgPerson</code>) [OpenLDAP] : (<code>objectclass=inetOrgPerson</code>) [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (ADAM)(Microsoft Active Directory Application Mode (ADAM))] : (<code>&(objectclass=user)!(objectclass=Computer)!(msDS-UserAccountDisabled=TRUE))</code>) <p>LDAP フィルタの詳細については、「LDAP カスタム フィルタ」(P.17-1) を参照してください。</p>
[LDAP ディレクトリ同期スケジュール(LDAP Directory Synchronization Schedule)]	
[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)]	この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified Communications Manager データベースのデータと 1 回だけ同期する場合は、このチェックボックスをオンにします。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明	
[再同期の実行間隔 (Perform a Re-sync Every)]	<p>この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified Communications Manager データベースのデータと定期的に同期する場合は、これらのフィールドを使用します。</p> <p>左側のフィールドには、数値を入力します。ドロップダウン リストボックスでは、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [時 (hours)] • [日 (days)] • [週 (weeks)] • [月 (months)] <p>Cisco Unified Communications Manager では、6 時間 (このフィールドの最小値) ごとにディレクトリ情報を同期することができます。</p> <p>(注) このフィールドがアクティブのままになるのは、[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)] チェックボックスをオフにした場合だけです。</p>	
[次の再同期時刻 (Next Re-sync Time)] (YYYY-MM-DD hh:mm)	Cisco Unified Communications Manager ディレクトリのデータをこの LDAP ディレクトリと次回に同期する時刻を指定します。時刻は 24 時間制で指定してください。たとえば、午後 1 時は 13:00 です。	
[同期対象のユーザフィールド (User Fields To Be Synchronized)]		
[Cisco Unified CM のユーザフィールド (Cisco Unified Communications Manager User Fields)]	[LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)]	
[ユーザ ID (User ID)]	[sAMAccountName] または [uid]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[ミドルネーム (Middle Name)]	(ドロップダウン リストボックス)	<p>これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。</p> <p>LDAP ユーザ フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [middleName] • [initials]
[マネージャ ID (Manager ID)]	[manager]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド		説明
[電話番号 (Phone Number)]	(ドロップダ ウンリスト ボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 LDAP ユーザ フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [telephoneNumber] • [ipPhone]
[名 (First Name)]	[givenName]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[姓 (Last Name)]	[sn]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[部署名 (Department)]	[department] または [department number]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[メール ID (Mail ID)]	(ドロップダ ウンリスト ボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 LDAP ユーザ フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [mail] • [sAMAccountName] • [uid]
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]		
[サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]		この LDAP ディレクトリのデータが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>社内ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは 389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは 636 です。</p> <p>社内ディレクトリの設定方法によって、このフィールドに入力するポート番号が決まります。たとえば、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、LDAP サーバがグローバルカタログサーバとして機能するかどうかや、設定で LDAP over SSL が必要かどうかを決定します。次のポート番号のいずれかを入力することを考慮してください。</p> <p>LDAP サーバがグローバルカタログサーバでない場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 389 : SSL が不要でない場合 (このポート番号は、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドに表示されるデフォルトです)。 636 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>LDAP サーバがグローバルカタログサーバである場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 3268 : SSL が不要でない場合。 3269 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>ヒント 設定では、上記の項目に記載されたオプションとは異なるポート番号の入力が必要になる場合があります。[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、ディレクトリサーバの管理者に問い合わせて、入力する正しいポート番号を確認してください。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) LDAP over SSL が必要な場合は、社内ディレクトリの SSL 証明書を Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Security」の章に、証明書のアップロード手順についての説明があります。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加 (Add Another Redundant LDAP Server)]	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p>

Cisco Unified Communications Manager の管理に表示されるユーザフィールドに加えて、表 15-2 で説明する [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (Microsoft Active Directory Application Mode)] のユーザフィールドも同期されます。

表 15-2 その他に同期される [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (Microsoft Active Directory Application Mode)] のユーザ フィールド

[Cisco Unified CM のユーザフィールド (Cisco Unified Communications Manager User Fields)]	[LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)]
[UniqueIdentifier]	[ObjectGUID]
[Pager]	[pager] または [pagertelephonenumber]
[Mobile]	[mobile] または [mobiletelephonenumber]
[Title]	[title]
[Homephone]	[homephone] または [hometelephonenumber]
[OCSPPrimaryUserAddress]	[msRTCSIP-primaryuseraddress]

LDAP ディレクトリの検索

LDAP ディレクトリの設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、LDAP ディレクトリの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、LDAP ディレクトリの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] の順に選択します。
[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**「ステップ 3」**に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.15-8) を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理のデータベースとのユーザ データ同期化に使用する LDAP ディレクトリの情報を追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] の順に選択します。
[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- LDAP ディレクトリに関する新しい情報を追加するには、対象となるディレクトリを見つけて (「LDAP ディレクトリの検索」(P.15-6) を参照)、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- LDAP ディレクトリに関する既存の情報を更新するには、対象となるディレクトリを見つけて (「LDAP ディレクトリの検索」(P.15-6) を参照)、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 15-1 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

新しい LDAP ディレクトリが Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されます。または、既存のディレクトリが更新されます。

追加情報

「関連項目」(P.15-8) を参照してください。

LDAP ディレクトリの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP ディレクトリを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP ディレクトリを削除すると、Cisco Unified Communications Manager はそのディレクトリに関する情報をデータベースから削除します。



(注)

該当する LDAP ディレクトリの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウから複数の LDAP ディレクトリを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP ディレクトリを削除できます。

手順

- ステップ 1 「LDAP ディレクトリの検索」 (P.15-6) の手順を使用して、削除する LDAP ディレクトリを検索します。
- ステップ 2 削除する LDAP ディレクトリの名前をクリックします。
選択した LDAP ディレクトリが表示されます。
- ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。
ウィンドウの表示が更新され、LDAP ディレクトリがデータベースから削除されます。

追加情報

「関連項目」 (P.15-8) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP ディレクトリの設定値」 (P.15-1)
- 「LDAP ディレクトリの検索」 (P.15-6)
- 「LDAP ディレクトリの設定」 (P.15-7)
- 「LDAP ディレクトリの削除」 (P.15-8)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP システムの設定」 (P.14-1)
- 「LDAP 認証の設定」 (P.16-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.112-1)
- 「エンド ユーザの設定」 (P.113-1)



CHAPTER 16

LDAP 認証の設定

Cisco Unified Communications Manager では、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリの設定は次のウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [LDAP フィルタ (LDAP Filter)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「[LDAP 認証の設定値](#)」 (P.16-1)
- 「[LDAP 認証の情報の更新](#)」 (P.16-4)
- 「[関連項目](#)」 (P.16-5)

LDAP 認証の設定値

認証プロセスでは、システムへのアクセスを許可する前に、ユーザ ID とパスワード/PIN を検証することによってユーザのアイデンティティを確認します。確認は Cisco Unified Communications Manager データベースまたは LDAP 社内ディレクトリに対して行われます。

LDAP 認証を設定できるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合だけです。

同期と LDAP 認証の両方が使用可能になっている場合、システムは常に Cisco Unified Communications Manager データベースに対してアプリケーション ユーザおよびエンド ユーザの PIN を認証します。エンド ユーザのパスワードは社内ディレクトリに対して認証されるので、エンド ユーザは社内ディレクトリのパスワードを使用する必要があります。

同期だけが使用可能になっている (LDAP 認証は使用可能になっていない) 場合、エンド ユーザは Cisco Unified Communications Manager データベースに対して認証されます。この場合、管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでパスワードを設定できます。

表 16-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.16-5) を参照してください。

表 16-1 LDAP 認証の設定値

フィールド	説明
[エンドユーザ用 LDAP 認証 (LDAP Authentication for End Users)]	
[エンドユーザ用 LDAP 認証の使用 (Use LDAP Authentication for End Users)]	LDAP ディレクトリとの認証をエンド ユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合だけです。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP マネージャのユーザ ID を入力します。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP マネージャのパスワードを入力します。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	ユーザ検索ベースを入力します。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザをこのベースで検索します。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	社内ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。 (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。

表 16-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>社内ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは 389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは 636 です。</p> <p>社内ディレクトリの設定方法によって、このフィールドに入力するポート番号が決まります。たとえば、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、LDAP サーバがグローバル カタログ サーバとして機能するかどうかや、設定で LDAP over SSL が必要かどうかを決定します。次のポート番号のいずれかを入力することを考慮してください。</p> <p>LDAP サーバがグローバル カタログ サーバでない場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> • 389 : SSL が不要でない場合 (このポート番号は、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドに表示されるデフォルトです)。 • 636 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>LDAP サーバがグローバル カタログ サーバである場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3268 : SSL が不要でない場合。 • 3269 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>ヒント 設定では、上記の項目に記載されたオプションとは異なるポート番号の入力が必要になる場合があります。[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、ディレクトリ サーバの管理者に問い合せて、入力する正しいポート番号を確認してください。</p>

表 16-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) LDAP over SSL が必要な場合は、社内ディレクトリの SSL 証明書 Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』に、証明書のアップロード手順についての説明があります。</p> <p>[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスをオンにした場合は、[LDAP 認証の設定 (LDAP Authentication Configuration)] ウィンドウの [サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)] フィールドに、社内ディレクトリの SSL 証明書に存在する IP アドレスまたはホスト名を入力します。証明書に IP アドレスが含まれている場合は、IP アドレスを入力します。証明書にホスト名が含まれている場合は、ホスト名を入力します。証明書に存在するとおりに IP アドレスまたはホスト名を入力しなかった場合は、CTIManager を使用するアプリケーションなど、一部のアプリケーションに問題が発生することがあります。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加 (Add Another Redundant LDAP Server)]	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p> <p>(注) このボタンにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p>

LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値は変更できません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 認証 (LDAP Authentication)] の順に選択します。
[LDAP 認証 (LDAP Authentication)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 16-1 を参照)。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を保存します。
-

追加情報

「関連項目」(P.16-5) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP 認証の設定値」(P.16-1)
- 「LDAP 認証の情報の更新」(P.16-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP システムの設定」(P.14-1)
- 「LDAP ディレクトリの設定」(P.15-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.112-1)
- 「エンド ユーザの設定」(P.113-1)



CHAPTER 17

LDAP カスタム フィルタ

LDAP ディレクトリの設定は、次の関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [LDAP フィルタ設定 (LDAP Filter Configuration)]

LDAP フィルタの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「LDAP フィルタの設定値」 (P.17-1)
- 「LDAP フィルタの検索」 (P.17-2)
- 「LDAP フィルタの設定」 (P.17-3)
- 「LDAP フィルタの削除」 (P.17-4)
- 「関連項目」 (P.17-5)

LDAP フィルタの設定値

[LDAP フィルタ設定 (LDAP Filter Configuration)] ウィンドウでは、LDAP フィルタに関する情報を指定します。表 17-1 では、LDAP フィルタの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.17-5) を参照してください。

始める前に

LDAP ディレクトリの同期化を行うには、その前に Cisco DirSync サービスをアクティブにしておく必要があります。サービスをアクティブにする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。

一括管理ツールを使用すると、LDAP カスタム フィルタをインポートおよびエクスポートできます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

表 17-1 [LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter)] の設定

フィールド	説明
[LDAP カスタムフィルタ情報 (LDAP Custom Filter Information)]	
[フィルタ名 (Filter Name)]	LDAP フィルタの名前を入力します。名前には、最大 64 文字の UTF-8 文字を使用できます。
[フィルタ (Filter)]	<p>フィルタを入力します。フィルタには、最大 1024 文字の UTF-8 文字を使用できます。フィルタ テキストはカッコ () で囲みます。</p> <p>LDAP フィルタは、LDAP 検索の結果をフィルタリングします。フィルタに一致する LDAP ユーザは Cisco Unified Communications Manager データベースにインポートされますが、フィルタに一致しない LDAP ユーザはインポートされません。</p> <p>入力するフィルタ テキストは、RFC 4515 で定義されている通常の LDAP 検索フィルタ標準に準拠している必要があります。ldapsearch コマンドを使用して、LDAP 検索フィルタを LDAP ディレクトリ/検索ベースに照らして検証することを推奨します。</p> <p>LDAP フィルタを LDAP ディレクトリに適用します。詳細については、「LDAP ディレクトリ の設定」(P.15-1) を参照してください。1 つの LDAP フィルタを複数の LDAP ディレクトリおよびフィルタが有効なすべての LDAP ディレクトリタイプに適用できます。</p>

LDAP フィルタの検索

LDAP フィルタを特定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter)] の順に選択します。
[LDAP フィルタの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Filters)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]**に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.17-5) を参照してください。

LDAP フィルタの設定

ここでは、LDAP フィルタに関する情報を追加または更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP カスタム フィルタ (LDAP Custom Filter)] の順に選択します。
[LDAP フィルタの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Filters)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の LDAP フィルタをコピーするには、対象となる LDAP フィルタを見つけて (「LDAP フィルタの検索」(P.17-2) を参照)、コピーする電話機の横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 新しい LDAP フィルタを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- LDAP フィルタに関する既存の情報を更新するには、対象となるフィルタを見つけて (「LDAP フィルタの検索」(P.17-2) を参照)、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 17-1 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

新しい LDAP フィルタが Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されるか、または既存の LDAP フィルタが更新されます。

追加情報

「関連項目」(P.17-5) を参照してください。

LDAP フィルタの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP フィルタを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP フィルタを削除すると、Cisco Unified Communications Manager はデータベースからそのフィルタを削除します。

ディレクトリ アグリーメントに割り当てられている LDAP フィルタは削除できません。LDAP フィルタがディレクトリ アグリーメントに割り当てられているかどうかを判断するには、[LDAP フィルタ設定 (LDAP Filter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] リストから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。LDAP フィルタの依存関係が表示された場合、その LDAP フィルタは削除できません。



(注)

該当する LDAP フィルタの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[LDAP フィルタの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Filters)] ウィンドウから複数の LDAP フィルタを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP フィルタを削除できます。

手順

- ステップ 1** 「LDAP フィルタの検索」 (P.17-2) の手順を使用して、削除する LDAP フィルタを検索します。
- ステップ 2** 削除する LDAP フィルタの名前をクリックします。
選択した LDAP フィルタが表示されます。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 4** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
ウィンドウの表示が更新され、LDAP フィルタがデータベースから削除されます。

追加情報

「関連項目」 (P.17-5) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP フィルタの設定値」 (P.17-1)
- 「LDAP フィルタの検索」 (P.17-2)
- 「LDAP フィルタの設定」 (P.17-3)
- 「LDAP フィルタの削除」 (P.17-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP システムの設定」 (P.14-1)
- 「LDAP ディレクトリの設定」 (P.15-1)
- 「LDAP 認証の設定」 (P.16-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.112-1)
- 「エンド ユーザの設定」 (P.113-1)



CHAPTER 18

ロケーションの設定

次のトピックでは、ロケーションについて詳しく説明しています。

- 「ロケーションの設定値」 (P.18-1)
- 「ロケーションの検索」 (P.18-4)
- 「ロケーションの設定」 (P.18-6)
- 「ロケーションの削除」 (P.18-7)
- 「ロケーションの帯域幅の再同期化」 (P.18-7)
- 「関連項目」 (P.18-8)

ロケーションの設定値

ロケーションは、コールアドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コールアドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[コールアドミッション制御](#)」を参照してください。



(注)

コールアドミッション制御を使用して IP WAN リンク上のオーディオ帯域幅またはビデオ帯域幅を制限しない場合、コール数の制限がなくなり、そのリンク上でコールが同時にアクティブになる可能性があります。この状態が発生すると、そのリンクがオーバーサブスクライブになるため、各オーディオコールのオーディオ品質と、各ビデオコールのビデオ品質が低下する場合があります。



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーションは、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションで設定します。ロケーションでは、中央集中型コール処理システムが Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を提供するために使用するエンティティを定義できます。位置情報は、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定します。位置情報では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスと関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

中央集中型コール処理システムでは、1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタが、IP テレフォニー ネットワーク上のすべてのロケーションにコール処理を提供します。その Cisco Unified Communications Manager クラスタは、通常、電話機やゲートウェイなどの他のデバイスと共に、メイン（つまり中央）ロケーションに置かれています。リモートロケーションには追加のデバイスが置かれていますが、Cisco Unified Communications Manager はありません。IP WAN リンクが、リモートロケーションとメインロケーションとを接続します。

Cisco Unified Communications Manager では、最大 2000 のロケーションがサポートされます。次の制限と制約が適用されます。

- RSVP ポリシーについては、できるだけ多くのロケーションを [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定してください。
- この拡張機能を使用するには、MCS 7845H1 以降のサーバが必要です。
- 現在のリリースの『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design』の「IP Video Telephony」の章の「Administration Considerations」にあるサブトピック「Regions」を参照してください。リージョンおよびロケーションにビデオ帯域幅を設定する方法に関する推奨事項が記載されています。これにより、ビデオコールのビデオ部分は成功し、ビデオコールは拒否されず、オーディオのみのコールとして確立されることもありません。

表 18-1 では、ロケーションの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.18-8) を参照してください。

表 18-1 ロケーションの設定値

フィールド	説明
[ロケーション情報 (Location Information)]	
[名前 (Name)]	<p>作成する新規ロケーションの名前を入力します。</p> <p>変更できない 2 つのデフォルトロケーションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Hub_None] : ロケーションを [Hub_None] に設定すると、無制限にオーディオ帯域幅およびビデオ帯域幅を指定することになります。[Hub_None] ロケーションに関連付けられたデバイスは、無制限の発着信アクティブコール数が許可されます。 • [Phantom] : ロケーションを [Phantom] に設定すると、無制限にオーディオ帯域幅およびビデオ帯域幅を指定することになります。H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいでコールアドミッション制御を実行できるようにするには、このロケーションを指定します。 <p>(注) [Hub_None] と [Phantom] のいずれのロケーションでも、関連する RSVP ポリシー設定値を設定できます。</p>

表 18-1 ロケーションの設定値 (続き)

フィールド	説明
[オーディオコール情報 (Audio Calls Information)]	
[オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth)]	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのオーディオコールに使用可能なオーディオ帯域幅の最大値 (kb/s 単位) を入力します。オーディオコールの場合、オーディオ帯域幅はオーバーヘッドを含みます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 無制限の帯域幅: [無制限 (Unlimited)] オプション ボタンをクリックします。 指定の帯域幅: [kb/s] ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定の帯域幅を入力して、帯域幅を指定します。有効値は 1 ~ 2147483647 です。 <p>ロケーションの帯域幅の計算だけのために、各コールストリームは次の帯域幅を使用するものと想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> G.711 コールは 80 kb/s を使用 G.722 コールは 80 kb/s を使用 G.723 コールは 24 kb/s を使用 G.728 コールは 16 kb/s を使用 G.729 コールは 24 kb/s を使用 GSM コールは 29 kb/s を使用 ワイドバンドコールは 272 kb/s を使用 <p>(注) 各コールは、2 つのコールストリームから構成されています。オーディオ品質を向上させるには、帯域幅設定値を下げて、このロケーションとのリンク上で許可されるアクティブコール数を減らします。</p>
[ビデオコール情報 (Video Calls Information)]	
[ビデオ帯域幅 (Video Bandwidth)]	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのビデオコールに使用可能なビデオ帯域幅の最大値 (kb/s 単位) を入力します。ビデオコールの場合、ビデオ帯域幅はオーバーヘッドを含みません。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: ビデオコールをこのロケーションと他のロケーション間で使用できません。ただし、このロケーション内でビデオコールを行うことができます。 無制限の帯域幅: [無制限 (Unlimited)] オプション ボタンをクリックします。 指定の帯域幅: [kb/s] ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定のビデオ帯域幅を入力して、ビデオ帯域幅を指定します。デフォルト値は 384 kb/s です。
[ロケーション RSVP 設定 (Location RSVP Settings)]	
[ロケーション (Location)]	<p>この読み取り専用フィールドには、ロケーション間の RSVP 設定値がシステムのデフォルト RSVP ポリシーのものから変更されているロケーションが表示されます。</p>

表 18-1 ロケーションの設定値 (続き)

フィールド	説明
[RSVP 設定 (RSVP Setting)]	この読み取り専用フィールドには、選択したロケーションと、左側の [ロケーション (Location)] 列にリストされているロケーションの間の RSVP ポリシー設定値が表示されます。
[他のロケーションの設定を変更 (Modify Setting(s) to Other Locations)]	
[ロケーション (Location)]	現在のロケーションと、このペインに表示されるロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を変更するには、このペインでロケーションを選択します。
[RSVP 設定 (RSVP Setting)]	<p>現在のロケーションと左側の [ロケーション (Location)] 列で選択したロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を選択するには、RSVP 設定値をドロップダウン リスト ボックスから選択します。次の設定値の中から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このロケーション ペアの RSVP ポリシーを、クラスタ全体の RSVP ポリシーと同じものにします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシー」の項を参照してください。 [予約なし (No Reservation)] : どの 2 つのロケーション間においても、RSVP 予約は発生しません。 [オプション (ビデオが必要) (Optional (Video Desired))] : オーディオ ストリームとビデオ ストリームの予約をどちらも取得できなかった場合に、コールをオーディオのみのベストエフォート型コールとして配送できます。RSVP エージェントは、引き続き RSVP 予約を試行し、予約が成功した場合は Cisco Unified Communications Manager に通知します。 [必須 (Mandatory)] : Cisco Unified Communications Manager は、オーディオ ストリームのための RSVP 予約が成功するまでは、着側デバイスの呼び出し音を鳴らしません。コールがビデオ コールである場合は、ビデオ ストリームについても同様です。 [必須 (ビデオが必要) (Mandatory (Video Desired))] : ビデオ ストリームのための予約を取得できなかった場合に、ビデオ コールをオーディオのみのコールとして配送できます。

ロケーションの検索

ネットワーク内にはいくつかのロケーションが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のロケーションを見つけることができます。ロケーションを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ロケーションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロケーションの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [ロケーション (Location)] の順に選択します。
[ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



- (注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



- (注)** 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



- (注)** リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-8) を参照してください。

ロケーションの設定

ロケーションを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

ロケーションを設定する場合は、事前にクラスタを構成する Cisco Unified Communications Manager を設定しておく必要があります。ロケーションを設定する前に、Cisco Unified Communications Manager を設定しておく必要があります。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager の更新](#)」(P.3-6) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [ロケーション (Location)] の順に選択します。
[ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存のロケーションをコピーするには、対象となるロケーションを見つけて（「[ロケーションの検索](#)」(P.18-4) を参照）、コピーするロケーションの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しいロケーションを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のロケーションを更新するには、対象となるロケーションを見つけて（「[ロケーションの検索](#)」(P.18-4) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（[表 18-1](#) を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックして、ロケーション情報をデータベースに保存します。
-

次の作業

データベースに新規ロケーションを追加した後、そのロケーションにデバイスを割り当てることができます。たとえば、次の項を参照してください。

- 「[ゲートウェイの設定](#)」(P.91-1)
- 「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」(P.92-1)
- 「[CTI ルート ポイントの設定](#)」(P.89-1)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-8) を参照してください。

ロケーションの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからロケーションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられたロケーションは削除できません。ロケーションを使用しているデバイスを検索するには、[ロケーションの設定 (Location Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] にある [依存関係レコード (Dependency Records)] をクリックし、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のロケーションを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているロケーションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して、別のロケーションに割り当てます。
- 削除するロケーションに割り当てられているデバイスを削除します。



(注)

ロケーションを削除すると、そのロケーションに接続されているリンクに帯域幅が無制限に割り当てられ、それらのリンク上のコール数も制限がなくなります。このためロケーションを削除すると、リンク上のオーディオ品質が低下する原因になります。

手順

- ステップ 1** 「[ロケーションの検索](#)」(P.18-4) の手順を使用して、ロケーションを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するロケーションを選択します。
- ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除を確認します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.18-8) を参照してください。

ロケーションの帯域幅の再同期化

この項では、ロケーションの帯域幅を再同期化する手順について説明します。ロケーションへのリンクを使用したコールがブロックされる場合は、帯域幅が不足している、つまりロケーションに割り当てられた帯域幅が減少している可能性があります。Cisco Unified Communications Manager サーバをリセットせずに、ロケーションの帯域幅を、このロケーションに割り当てられている最大値に再同期化することができます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[コールアドミッション制御](#)」の章の「[帯域幅の計算](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「ロケーションの検索」(P.18-4) の手順を使用して、ロケーションを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、再同期化するロケーションを選択します。
[ロケーションの設定 (Location Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [帯域幅を再同期 (Resync Bandwidth)] をクリックして、選択したロケーションの帯域幅を再同期化します。
次のメッセージが表示されます。
「帯域幅が再同期された際に、このロケーションのための帯域幅をコールで使用中の場合、このロケーションのための帯域幅を使用しているすべてのコールが接続解除されるまで帯域幅が過剰登録される可能性があります。(If calls are using the bandwidth for this location when the bandwidth is resynchronized, the bandwidth might be oversubscribed until all calls that are using the bandwidth for this location disconnect.)」
- ステップ 4** [OK] をクリックして続行するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてキャンセルします。
-

追加情報

「関連項目」(P.18-8) を参照してください。

関連項目

- 「ロケーションの設定」(P.18-1)
- 「ロケーションの設定値」(P.18-1)
- 「ロケーションの検索」(P.18-4)
- 「ロケーションの設定」(P.18-6)
- 「ロケーションの削除」(P.18-7)
- 「ロケーションの帯域幅の再同期化」(P.18-7)



CHAPTER 19

物理ロケーションの設定

物理ロケーションは、デバイス モビリティ機能をサポートしています。物理ロケーションを利用すると、特定の地理的な場所に関連したパラメータを、他のパラメータと区別することができます。たとえば、企業内の特定のオフィスまたはキャンパスを対象としたメディア リソース サーバがあるとした場合、デバイスが別のオフィスまたはキャンパスにローミングされ、Cisco Unified Communications Manager に登録された場合は、ローミング先のロケーションのメディア リソース サーバがそのデバイスを処理するようにします。メディア サービスの利用に応じた物理ロケーションを定義すると、デバイスがある物理ロケーションから別の物理ロケーションへ移動するのに従って、効率的でコスト効果の高いサービスの再割り当てを保証できます。ネットワーク構造とサービスの割り当てに応じて、市町村、企業キャンパス、または建物に基づいた物理ロケーションを定義できます。

デバイス モビリティ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイス モビリティ](#)」を参照してください。



CHAPTER 20

Survivable Remote Site Telephony の設定

Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先を追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「SRST 参照先の設定値」(P.20-1)
- 「SRST 参照先の検索」(P.20-3)
- 「SRST 参照先の設定」(P.20-4)
- 「SRST 参照先の削除」(P.20-5)
- 「関連項目」(P.20-6)

SRST 参照先の設定値

Survivable Remote Site Telephony (SRST) 参照先は、デバイス用の他のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバが到達不能になった場合に、限定された Cisco Unified Communications Manager 機能を提供するゲートウェイを構成します。SRST 参照先は通常、デバイスプールに割り当てられており、Cisco Unified Communications Manager が到達不能になった場合に、発信側のデバイスがコールを実行しようとして検索するゲートウェイを決定します。SRST 参照先の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「SRST 参照先」を参照してください。

表 20-1 では、SRST 参照先の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.20-6) を参照してください。

表 20-1 SRST 参照先の設定値

フィールド	説明
[名前(Name)]	名前を [名前(Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。SRST 参照先名はそれぞれ固有の名前にしてください。 (注) SRST 参照先には、内容を表す簡潔な名前を使用してください。
[ポート(Port)]	この SRST 参照先のポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。 (注) この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合だけにしてください。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。

表 20-1 SRST 参照先の設定値 (続き)

フィールド	説明
[IP アドレス (IP Address)]	デバイス プール内のデバイス用に、SRST 参照先として使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。
[SIP ネットワーク /IP アドレス (SIP Network/IP Address)]	SIP を実行している電話機が SRST モード時に使用するサーバの IP アドレスを入力します。 ヒント SIP デバイスが SRST 対応ゲートウェイにフォールバックできるようにするには、[SIP ネットワーク /IP アドレス (SIP Network/IP Address)] フィールドと [SIP ポート (SIP Port)] フィールドを設定する必要があります。
[SIP ポート (SIP Port)]	SRST ゲートウェイの SIP ポートを入力します。デフォルト値は 5060 です。
[セキュア SRST(Is SRST Secure?)]	SRST が使用可能になっているゲートウェイに、自己署名証明書が含まれていることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。 SRST を設定し、ゲートウェイと制御されている電話機をリセットした後、Cisco CTL Provider サービスは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスから認証されます。Cisco CTL クライアントは、SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得し、Cisco Unified Communications Manager データベースに保存します。 ヒント SRST の証明書をデータベースと電話機から削除するには、このチェックボックスをオフにして [保存 (Save)] をクリックし、制御されている電話機をリセットします。
[SRST 証明書プロバイダポート (SRST Certificate Provider Port)]	このポートでは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスに対する要求を監視します。Cisco Unified Communications Manager は、このポートを使用して SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得します。Cisco SRST Certificate Provider のデフォルトのポート番号は 2445 です。 SRST が使用可能になっているゲートウェイでこのポートを設定した後、このフィールドにポート番号を入力します。 ヒント このポートが現在使用されている場合、またはファイアウォールを使用してそのファイアウォール内でこのポートを使用できない場合は、別のポート番号の設定が必要になる場合があります。
[証明書の更新 (Update Certificate)]	 ヒント このボタンが表示されるのは、[セキュア SRST(Is SRST Secure?)] チェックボックスをオンにして [保存 (Save)] をクリックした後だけです。 このボタンをクリックすると、Cisco Unified Communications Manager データベースに保存されている既存の SRST ゲートウェイの証明書が、Cisco CTL クライアントによって置き換えられます (証明書がデータベースに存在する場合)。制御されている電話機をリセットした後、TFTP サーバによって cnf.xml ファイルが (SRST が使用可能になっているゲートウェイの新しい証明書と共に) 電話機に送信されます。

SRST 参照先の検索

ネットワーク内にはいくつかの SRST 参照先が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の SRST 参照先を見つけることができます。特定のユーザによって定義された SRST 参照先を見つけるには、次の手順を実行します。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、SRST 参照先の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SRST 参照先の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [SRST] の順に選択します。

[SRST 参照先の検索と一覧表示 (Find and List SRST References)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.20-6) を参照してください。

SRST 参照先の設定

SRST 参照先を追加、更新、およびコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [SRST] の順に選択します。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 新しい SRST 参照先を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存の SRST 参照先を更新するには、対象となる SRST 参照先を見つけて（「SRST 参照先の検索」(P.20-3) を参照）、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存の SRST 参照先をコピーするには、対象となる SRST 参照先を見つけて（「SRST 参照先の検索」(P.20-3) を参照）、コピーする SRST 参照先の横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力または更新します（表 20-1 を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。



(注) デバイスがこの SRST 参照先に関連付けられている場合は、更新を有効にするためにデバイスをリセットする必要があるというメッセージが表示されます。ゲートウェイがリセットされると、Cisco Unified Communications Manager によって、影響を受けるゲートウェイ上で進行中のコールが終了される可能性があります。

影響を受けるデバイスをリセットするには、更新の完了時に [複数のデバイスのリセット (Reset Devices)] ボタンをクリックしてください。この時点でデバイスをリセットしない場合は、いつでもこの項目に戻って [複数のデバイスのリセット (Reset Devices)] ボタンをクリックし、必要なデバイス リセットを実行することができます。

追加情報

「関連項目」(P.20-6) を参照してください。

SRST 参照先の削除

SRST 参照先を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールなどの項目が使用している SRST 参照先は削除できません。SRST 参照先を使用しているデバイス プールを検索するには、[SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の SRST 参照先を削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されている SRST 参照先を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する SRST 参照先を使用しているデバイス プールすべてに、別の SRST 参照先を割り当てます。「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。
- 削除する SRST 参照先を使用しているデバイス プールを削除します。「[デバイス プールの削除](#)」(P.9-20) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [システム (System)] > [SRST] の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除する SRST 参照先を見つけます。「[SRST 参照先の検索](#)」(P.20-3) を参照してください。
 - ステップ 3** 削除する SRST 参照先のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 4** SRST 参照先を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



注意

SRST 参照先を削除するときは、削除する SRST 参照先が正しいか慎重に確認してください。削除した SRST 参照先を元に戻すことはできません。誤って削除した場合は、その SRST 参照先を作成し直す必要があります。



ヒント SRST 参照先の削除は、削除する SRST 参照先を見つけて表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.20-6) を参照してください。

関連項目

- 「SRST 参照先の設定値」(P.20-1)
- 「SRST 参照先の検索」(P.20-3)
- 「SRST 参照先の設定」(P.20-4)
- 「SRST 参照先の削除」(P.20-5)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「SRST 参照先」



CHAPTER 21

MLPP ドメインの設定

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) ドメインを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「MLPP ドメインの設定値」(P.21-1)
- 「MLPP ドメインの検索」(P.21-2)
- 「MLPP ドメインの設定」(P.21-3)
- 「MLPP ドメインの削除」(P.21-4)
- 「関連項目」(P.21-5)

MLPP ドメインの設定値

MLPP ドメインは、MLPP サブスクライバに関連付けられているデバイスとリソースの集合を指定したものです。あるドメインに属している MLPP サブスクライバが、同じドメインに属している他の MLPP サブスクライバに優先コールを発信した場合、MLPP サービスは、着側 MLPP サブスクライバの既存コールよりも優先順位の高いコールを優先処理することができます。MLPP サービスの機能は、ドメイン間では作用しません。

表 21-1 では、MLPP ドメインの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.21-5) を参照してください。

表 21-1 MLPP ドメインの設定値

フィールド	説明
[MLPP ドメイン情報 (MLPP Domain Information)]	
[ドメイン名 (Domain Name)]	新しい MLPP ドメインに割り当てる名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。MLPP ドメイン名はそれぞれ固有の名前にしてください。 (注) デフォルト MLPP ドメインの名前は、 <i>Default</i> です。 <i>Default</i> ドメインは変更および削除できません。

表 21-1 MLPP ドメインの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP ドメイン情報 (MLPP Domain Information)]	
[ドメイン ID(Domain ID)]	<p>6 文字の固有 16 進 MLPP ドメイン ID を入力します。有効となる値は、数字 (0 ~ 9) とアルファベット (A ~ F) です。MLPP ドメイン ID はそれぞれ固有の値にしてください。</p> <p>ドメイン ID は、000001 ~ FFFFFFFF である必要があります (000000 は、デフォルトの MLPP ドメイン ID 用に予約されています)。</p> <p>(注) 値が 100000 未満の場合は、余白となる上位の桁に 0 を使用してください。</p>



(注) [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] および [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)] を設定することで、SIP トランク上にセキュアな MLPP を追加できます。「リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインの設定」(P.22-3) および「リソースプライオリティネームスペースリストの設定」(P.23-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.21-5) を参照してください。

MLPP ドメインの検索

ネットワーク内にはいくつかの MLPP ドメインが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定の MLPP ドメインを見つけることができます。MLPP ドメインを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、MLPP ドメインの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、MLPP ドメインの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [MLPP] > [ドメイン (Domain)] > [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] の順に選択します。
- [MLPP ドメインの検索と一覧表示 (Find and List MLPP Domains)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- ドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.21-5) を参照してください。

MLPP ドメインの設定

Cisco Unified Communications Manager データベース内の MLPP ドメインを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [MLPP] > [ドメイン (Domain)] > [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] の順に選択します。

[MLPP ドメインの検索と一覧表示 (Find and List MLPP Domains)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の MLPP ドメインをコピーするには、対象となる MLPP ドメインを見つけて (「[MLPP ドメインの検索](#)」(P.21-2) を参照)、コピーする MLPP ドメインの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しい MLPP ドメインを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存の MLPP ドメインを更新するには、対象となる MLPP ドメインを見つけて (「[MLPP ドメインの検索](#)」(P.21-2) を参照)、「[ステップ 3](#)」に進みます。

- ステップ 3** 表示される [MLPP ドメインの設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウで、該当する設定を入力または編集します (表 21-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックして、新しい MLPP ドメインまたは更新した MLPP ドメインをデータベースに保存します。

追加情報

「関連項目」(P.21-5) を参照してください。

MLPP ドメインの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから MLPP ドメインを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが使用している MLPP ドメインは削除できません。MLPP ドメインを使用しているデバイスを検索するには、[MLPP ドメインの設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中の MLPP ドメインを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からエラーメッセージが表示されます。現在使用されている MLPP ドメインを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する MLPP ドメインを使用しているデバイスすべてに、別の MLPP ドメインを割り当てます。
- 削除する MLPP ドメインを使用しているデバイスを削除します。

手順

- ステップ 1** 「MLPP ドメインの検索」(P.21-2) の手順を使用して、MLPP ドメインを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する MLPP ドメインを選択します。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックします。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.21-5) を参照してください。

関連項目

- 「[MLPP ドメインの設定値](#)」 (P.21-1)
- 「[MLPP ドメインの検索](#)」 (P.21-2)
- 「[MLPP ドメインの設定](#)」 (P.21-3)
- 「[MLPP ドメインの削除](#)」 (P.21-4)
- 「[リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定](#)」 (P.22-3)
- 「[リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定](#)」 (P.23-3)
- 『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Multilevel Precedence and Preemption](#)」



CHAPTER 22

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値」 (P.22-1)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索」 (P.22-2)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定」 (P.22-3)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの削除」 (P.22-4)
- 「関連項目」 (P.22-5)

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値

Cisco Unified Communications Manager は、リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを使用して Voice over Secured IP (VoSIP) ネットワークをサポートします。その手段として、Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) トランクに Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) を使用します。

MLPP は、設定済みのリソース プライオリティ ドメインと連携して、SIP 送信されるリソースに優先順位を付け、優先コールおよび差し替えられたコールに関連する表示を使用可能にします。エンドユーザは、コールが SIP トランクを通過するときに、セキュアなコールを確立できます。

表 22-1 では、リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.22-5) を参照してください。

表 22-1 リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	情報セクションにリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの名前を入力します。ドメイン名の最大数は 100 です。

表 22-1 リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	ドメイン名の説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デフォルトのリソースプライオリティネームスペースネットワークドメインに設定 (Make this the Default Resource Priority Namespace Network Domain)]	このドメイン名をデフォルトにする場合は、このボックスをオンにします。

追加情報

「関連項目」(P.22-5) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索

ネットワーク内にはいくつかのリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを見つけることができます。リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [MLPP] > [ネームスペース (Namespace)] > [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] の順に選択します。
- [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインの検索と一覧表示 (Find and List Resource Priority Namespace Network Domains)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.22-5) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定

Cisco Unified Communications Manager データベース内のリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [MLPP] > [ネームスペース (Namespace)] > [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] の順に選択します。

[リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインの検索と一覧表示 (Find and List Resource Priority Namespace Network Domains)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインをコピーするには、対象となるリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを見つけます（「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索」(P.22-2) を参照）。コピーするリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。

- 新しいリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存のリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを更新するには、対象となるリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを見つけて（「[リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索](#)」(P.22-2) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 表示される [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインの設定 (Resource Priority Namespace Network Domain Configuration)] ウィンドウで、該当する設定を入力または編集します（[表 22-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックして、新しい、または更新したリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインをデータベースに保存します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.22-5) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが使用しているリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインは削除できません。リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを使用しているデバイスを検索するには、[リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインの設定 (Resource Priority Namespace Network Domain Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用中のリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されているリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを使用しているデバイスすべてに、別のリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを割り当てます。
- 削除するリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを使用しているデバイスを削除します。

手順

ステップ 1 「[リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索](#)」(P.22-2) の手順を使用し、リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを選択します。

ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。

ステップ 4 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックします。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.22-5) を参照してください。

関連項目

- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値」(P.22-1)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの検索」(P.22-2)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定」(P.22-3)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの削除」(P.22-4)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索」(P.23-2)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定」(P.23-3)
- 「SIP プロファイルの設定」(P.102-12)
- 「トランスレーション パターンの設定」(P.57-12)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」



CHAPTER 23

リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定

リソース プライオリティ ネームスペース リストを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値」 (P.23-1)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索」 (P.23-2)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定」 (P.23-3)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの削除」 (P.23-4)
- 「関連項目」 (P.23-5)

リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値

Cisco Unified Communications Manager は、リソース プライオリティ ネームスペース リストを使用して、SIP プロファイルに追加するリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインのデフォルト グループを設定します。この SIP プロファイルは、着信リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを検証するために使用されます。

表 23-1 では、リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.23-5) を参照してください。

表 23-1 リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値

フィールド	説明
[名前(Name)]	リソース プライオリティ ネームスペース リストの名前を入力します。文字数の最大値は 50 です。
[説明(Description)]	リストの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 23-1 リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値 (続き)

フィールド	説明
[使用可能なリソースプライオリティネームスペース (Available Resource Priority Namespaces)]	上矢印と下矢印を使用して、設定済みのリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを選択または選択解除します。
[選択済みリソースプライオリティネームスペース (Selected Resource Priority Namespaces)]	選択されたリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.23-5) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのリソース プライオリティ ネームスペース リストが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のリソース プライオリティ ネームスペース リストを見つけることができます。MLPP ドメインを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [MLPP] > [ネームスペース (Namespace)] > [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)] の順に選択します。

[リソースプライオリティネームスペースリストの検索と一覧表示 (Find and List Resource Priority Namespace Lists)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウンリスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.23-5) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定

Cisco Unified Communications Manager データベース内のリソース プライオリティ ネームスペース リストを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [MLPP] > [ネームスペース (Namespace)] > [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)] の順に選択します。

[リソースプライオリティネームスペースリストの検索と一覧表示 (Find and List Resource Priority Namespace Lists)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のリソース プライオリティ ネームスペース リストをコピーするには、対象となるリソース プライオリティ ネームスペース リストを見つけて ([「リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索」](#) (P.23-2) を参照)、コピーするリソース プライオリティ ネームスペース リストの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[「ステップ 3」](#)に進みます。
- 新しいリソース プライオリティ ネームスペース リストを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、[「ステップ 3」](#)に進みます。
- 既存のリソース プライオリティ ネームスペース リストを更新するには、対象となるリソース プライオリティ ネームスペース リストを見つけて ([「リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索」](#) (P.23-2) を参照)、[「ステップ 3」](#)に進みます。

- ステップ 3** 表示される [リソースプライオリティネームスペースリストの設定 (Resource Priority Namespace List Configuration)] ウィンドウで、該当する設定を入力または編集します (表 23-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックして、新しい、または更新したリソース プライオリティ ネームスペース リストをデータベースに保存します。

追加情報

「関連項目」(P.23-5) を参照してください。

リソース プライオリティ ネームスペース リストの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからリソース プライオリティ ネームスペース リストを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが使用しているリソース プライオリティ ネームスペース リストは削除できません。リソース プライオリティ ネームスペース リストを使用しているデバイスを検索するには、[リソースプライオリティネームスペースリストの設定 (Resource Priority Namespace List Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中のリソース プライオリティ ネームスペース リストを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されているリソース プライオリティ ネームスペース リストを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するリソース プライオリティ ネームスペース リストを使用しているデバイスすべてに、別のリソース プライオリティ ネームスペース リストを割り当てます。
- 削除するリソース プライオリティ ネームスペース リストを使用しているデバイスを削除します。

手順

- ステップ 1** 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索」(P.23-2) の手順を使用して、リソース プライオリティ ネームスペース リストを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するリソース プライオリティ ネームスペース リストを選択します。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックします。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックしてください。

追加情報

「関連項目」(P.23-5) を参照してください。

関連項目

- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値」 (P.23-1)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの検索」 (P.23-2)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定」 (P.23-3)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの削除」 (P.23-4)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定」 (P.22-3)
- 「SIP プロファイルの設定値」 (P.102-1)



CHAPTER 24

エンタープライズパラメータの設定

エンタープライズパラメータでは、同一クラスタ内のすべてのデバイスとサービスに適用されるデフォルトの設定値を指定します（クラスタは、同一データベースを共有する一群の Cisco Unified Communications Manager から構成されます）。Cisco Unified Communications Manager を新規にインストールすると、Cisco Unified Communications Manager は、エンタープライズパラメータを使用して、このデバイスデフォルトを初期値として設定します。デバイスのデフォルト設定の詳細については、「[デバイスデフォルトの設定](#)」(P.95-1) を参照してください。また、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「[システムレベルのコンフィギュレーション設定](#)」も参照してください。

エンタープライズパラメータの追加や削除はできませんが、次の手順により既存のエンタープライズパラメータを更新したり、エンタープライズパラメータの設定に影響を受けるデバイスに同期させたりすることはできます。次の各項を参照してください。

- 「[エンタープライズパラメータの更新](#)」(P.24-1)
- 「[エンタープライズパラメータの影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.24-2)



(注)

エンタープライズパラメータに対しては、変更を加える必要がほとんどありません。システム管理者は、変更する機能を熟知している場合、あるいは Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、エンタープライズパラメータを変更しないでください。



ヒント

[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが推奨値に変更されます。これはパラメータの右側に表示されるデフォルトです。パラメータに推奨値がない場合、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしても Cisco Unified Communications Manager では値が変更されません。たとえば、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウの [Phone URL Parameters] には推奨値が表示されていないので、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしても、設定した値は変更されません。

エンタープライズパラメータの更新

ステップ 1 [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。

ステップ 2 該当するパラメータ設定値を変更します。

特定のエンタープライズパラメータの説明を表示するには、そのパラメータ名をクリックします。すべてのエンタープライズパラメータの説明を表示するには、[?] ボタンをクリックします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。

エンタープライズパラメータの影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスを、設定の変更を実行したエンタープライズパラメータと同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 必要な設定変更を行います。
 - ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 4** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 5** [OK] をクリックします。
-



CHAPTER 25

エンタープライズ電話の設定

[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウでは、電話機に適用されるパラメータを設定できます。パラメータ設定値は、それらのパラメータをサポートする電話機すべてに適用されます。

エンタープライズ電話のパラメータの設定

[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウのパラメータを設定するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] の順に選択します。
- ステップ 2** 必要に応じてパラメータ設定値を変更します。
変更する設定ごとに [共通設定の上書き (Override Common Settings)] ボックスを選択します。このボックスをオフにした場合、対応するパラメータ設定は有効になりません。
すべてのエンタープライズ電話パラメータの説明を表示するには、[?] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。



(注)

このウィンドウで設定したパラメータは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウや各種デバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。これらの同じパラメータをこれらの他のウィンドウでも設定した場合、優先される設定は、1) [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定の順に決定されます。



CHAPTER 26

サービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータでは、選択したサーバ上のさまざまなサービスを設定できます。パラメータのリストと説明を表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにある疑問符のボタンをクリックします。

Cisco Unified サービスアビリティを使用してサービスを非アクティブにした場合、Cisco Unified Communications Manager は更新されたサービス パラメータ値をすべて保持します。サービスを再開すると、Cisco Unified Communications Manager はサービス パラメータを変更後の値に設定します。



(注) アップグレード中のサービス パラメータ値の詳細については、『*Upgrading Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager サービスの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

サービス パラメータを設定または表示するには、次のトピックを参照してください。

- 「サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定」(P.26-1)
- 「サービス用のパラメータの表示」(P.26-4)

サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータでは、選択したサーバ上のさまざまなサービスを設定できます。パラメータのリストと説明を表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにある疑問符のボタンをクリックします。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウでサービス パラメータを設定する前に、次の点を考慮してください。

- アップグレード中のサービス パラメータ値の詳細については、『*Upgrading Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- サービス パラメータを設定するには、1 台のサーバと、そのサーバ上の単一のサービスを選択する必要があります。この選択を行った後、この単一サーバ上のサービスに対するパラメータと、クラスタ内のすべてのサーバ上のサービスに適用されるその他のパラメータ（これらはクラスタ全体に適用されるものとしてマークされます）を設定できるようになります。

すべてのサービスに適用されるエンタープライズ パラメータとは異なり、各サービスには個別のサービス パラメータのセットが設定されます。

- 機能サービスは、Cisco Unified サービスアビリティの [Service Activation] および [Control Center - Feature Services] の下に表示され、[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウではアクティブまたは非アクティブとして表示できます。Cisco Unified サービスアビリティで機能サービスをアクティブにした場合、そのサービスは [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウでアクティブと表示されます (「Cisco CallManager (Active)」など)。機能サービスをアクティブにしていない場合、そのサービスは [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで非アクティブと表示されます。
- ネットワーク サービスは、Cisco Unified サービスアビリティの [Control Center - Network Services] の下に表示され、[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウでは常にアクティブとして表示されます (「Cisco DRF Master (Active)」など)。ネットワーク サービスの場合、Cisco Unified Communications Manager のインストール/アップグレード後にサーバ上で自動的にサービスが実行されるので、Cisco Unified サービスアビリティでサービスを開始する必要はありません。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウでは、ネットワーク サービスがダミー ノードでもアクティブと表示されることに注意してください。ダミー ノードは、Cisco Unified CM の管理ページの [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウには表示されるけれども、Cisco Unified Communications Manager がインストールされていないサーバです。

Cisco Unified Communications Manager サービスの詳細については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

- [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスでは、ダミー ノードを含むすべてのサーバがアクティブとして表示されます (「<サーバ名> (Active)」など)。この場合、アクティブとは Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサーバをプロビジョニングしたことを意味します。
- Cisco Unified サービスアビリティを使用してサービスを非アクティブにした場合、Cisco Unified Communications Manager は更新されたサービス パラメータ値をすべて保持します。サービスを再開すると、Cisco Unified Communications Manager はサービス パラメータを変更後の値に設定します。
- [デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックすると、すべてのパラメータが推奨値に変更されます。これはパラメータの右側に表示されるデフォルトです。パラメータに推奨値がない場合、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしても Cisco Unified Communications Manager では値が変更されません。たとえば、Cisco CallManager サービスの Mobile Voice Access サービス パラメータには推奨値が表示されていないので、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックしても、このパラメータに入力する値は変更されません。



注意

サービス パラメータに変更を加えると、システムに障害を起す原因となることがあります。変更する機能を熟知している場合、または Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、サービス パラメータを変更しないことをお勧めします。



(注)

Cisco Unified Presence サーバの DNS SRV ポートを接続先として使用するよう SIP トランクを設定できます。接続先が DNS SRV である SIP トランクを使用して CUP Publish Trunk サービス パラメータを設定した後で DNS レコードを変更した場合は、正しい Cisco Unified Presence サーバ接続先をポイントできるように、以前にパブリッシュされたすべてのデバイス (電話機) を再起動する必要があります。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。詳細については、「[サーバの設定](#)」(P.2-1) を参照してください。
- サービスがサーバ上で使用可能になっていること。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、使用可能なすべてのサービスが表示されます。サービスの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。

特定のサーバ上の特定のサービスに対してサービス パラメータを設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、更新するパラメータが含まれているサービスを選択します。



(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブな) すべてのサービスが表示されます。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** 適切なパラメータ値を更新します。サービスのこのインスタンスのサービス パラメータをすべてデフォルト値に設定するには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンをクリックします。

パラメータのリストと説明を表示するには、疑問符のボタンをクリックします。画面の上部にある特定のパラメータを表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ内でそのパラメータをクリックします。



(注) 一部のサービスに含まれているサービス パラメータは、通常、変更する必要がありません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにアクセスしたときに、これらのパラメータは自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。すべてのパラメータが表示された後に、基本的なパラメータをもう一度表示するには、[簡易設定 (Condensed)] をクリックします。[詳細設定 (Advanced)] ボタンが使用不可になっている場合は、そのサービスのすべてのパラメータがデフォルトで表示されています。

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
ウィンドウの内容が更新され、Cisco Unified Communications Manager によってサービス パラメータが指定された変更内容で更新されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.26-5) を参照してください。

サービス用のパラメータの表示

場合によっては、クラスタ内の全サーバ上で特定のサービスに属するサービス パラメータをすべて比較する必要があります。また、同期していないパラメータ（サーバによって値が異なるサービス パラメータ）または推奨値から変更したパラメータだけを表示しなければならない場合もあります。

クラスタ内の全サーバ上の特定のサービスのサービス パラメータを表示する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタ内の全サーバ上のサービス パラメータを表示するサービスを選択します。
- 
- (注)** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブの) すべてのサービスが表示されます。
-
- ステップ 4** 表示される [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- [すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。現在のサービスの全パラメータがアルファベット順に一覧表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。
- あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。[すべてのサーバに対するパラメータ (Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動するには、[前へ (Previous)] および [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** 同期していないサービス パラメータを表示するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、サーバによって異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。
- あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ (Out of Sync Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動するには、[前へ (Previous)] および [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** 推奨値から変更したサービス パラメータを表示するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、推奨値とは異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。各パラメータ名の下には、推奨値とは異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。[すべてのサーバに対する変更済みパラメータ (Modified Parameters for All Servers)] ウィンドウ間を移動するには、[前へ (Previous)] および [次へ (Next)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.26-5) を参照してください。

関連項目

- 「サービス用のパラメータの表示」(P.26-4)
- 「サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定」(P.26-1)
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』



CHAPTER 27

電話機のセキュリティ プロファイルの設定

電話機のセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド*』を参照してください。

[電話セキュリティプロファイル(Phone Security Profile)] ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、デバイスセキュリティモード、Certificate Authority Proxy Function (CAPF) の設定値、ダイジェスト認証の設定値 (SIP を実行している電話機のみ)、暗号化された設定ファイルの設定値などがあります。セキュリティプロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての電話機に適用する必要があります。



CHAPTER 28

SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定

SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』を参照してください。

[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、デバイス セキュリティ モード、ダイジェスト認証の設定値、着信 SIP メッセージの認証の設定値などがあります。セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての SIP トランクに適用する必要があります。



CHAPTER 29

CUMA サーバのセキュリティ プロファイルの設定

Cisco Unity Mobility Advantage (CUMA) サーバのセキュリティ プロファイルの設定については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』を参照してください。CUMA サーバのセキュリティ プロファイルのセットアップについては、Cisco Unified Mobility Advantage のマニュアルを参照してください。Cisco Unified Communications Manager で設定する CUMA セキュリティ プロファイルが CUMA サーバ上のセキュリティ プロファイルと一致していることを確認してください。

[CUMA サーバセキュリティプロファイル (CUMA Server Security Profile)] ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、デバイス セキュリティ モード、着信トランスポート タイプ、X.509 の件名などがあります。このセキュリティ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのデバイス設定ウィンドウで設定する Cisco Unified Mobile Communicator クライアントすべてに自動的に適用されます。



CHAPTER 30

アプリケーション サーバの設定

次のトピックでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおけるアプリケーションサーバに関する作業と設定について説明します。

- 「アプリケーション サーバの設定値」 (P.30-1)
- 「アプリケーション サーバの検索」 (P.30-3)
- 「アプリケーション サーバの設定」 (P.30-4)
- 「アプリケーション サーバの削除」 (P.30-5)
- 「関連項目」 (P.30-5)

アプリケーション サーバの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アプリケーションサーバ (Application Server)] ウィンドウを使用すると、Cisco Unified Communications Manager とクラスタ外の外部アプリケーション、たとえば Cisco Unity Connection、Cisco Unified Presence、Cisco Emergency Responder などとの関連付けを管理し、Cisco Unified Communications Manager システムと Cisco Web Dialer などのアプリケーションを同期することができます。

表 30-1 では、[アプリケーションサーバ (Application Server)] ウィンドウ内で使用可能なすべての設定値について説明します。各サーバに異なる設定が必要なため、表に示した設定すべてが各サーバに適用されるわけではありません。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.30-5) を参照してください。



ヒント

アプリケーション サーバの設定では、Cisco Unity Connection 2.x はサポートされていません。Cisco Unity Connection 2.x 用の有効なユーザテンプレートのリストを Cisco Unified Communications Manager にプッシュするには、Cisco Unity Connection 2.x 経由の AXL 接続を作成します (『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照)。

表 30-1 アプリケーション サーバの設定値

フィールド	説明
[アプリケーションサーバ情報 (Application Server Information)]	
[アプリケーションサーバタイプ (Application Server Type)]	接続するアプリケーションの種類に適したアプリケーションサーバを選択します (たとえば、プレゼンス アプリケーションサーバに接続するには、[Cisco Unified Presence Server] を選択します)。

表 30-1 アプリケーション サーバの設定値 (続き)

フィールド	説明
[名前(Name)]	設定するアプリケーション サーバを識別するための名前を入力します。
[IP アドレス (IP Address)]	<p>設定するサーバの IP アドレスを入力します。</p> <p>(注) IP アドレスは、1 ~ 255 の数値パターンを使用した数値 (10.255.172.57 など) にしてください。</p> <p>ヒント Cisco Unity および Cisco Unity Connection では、Cisco Unity および Cisco Unity Connection の管理で定義したものと同一管理者のユーザ名とパスワードを使用する必要があります。このユーザ ID によって、Cisco Unity (または Cisco Unity Connection) と Cisco Unified Communications Manager の管理の間で認証が実行されます。</p>
[URL]	アプリケーション サーバの URL を入力します。
[エンドユーザ URL(End User URL)]	このアプリケーション サーバに関連付けられたエンド ユーザの URL を入力します。
[使用可能なアプリケーション ユーザ (Available Application Users)]	<p>このペインには、このアプリケーション サーバとの関連付けに使用できるアプリケーション ユーザが表示されます。</p> <p>このアプリケーション サーバにアプリケーション ユーザを関連付けるには、アプリケーション ユーザ (たとえば、CCMAdministrator、CCMSysUser、UnityConnection など) を選択し、このペインの下にある下矢印をクリックします。</p>
[選択されたアプリケーション ユーザ (Selected Application Users)]	このペインには、アプリケーション サーバに関連付けられたアプリケーション ユーザが表示されます。アプリケーション ユーザを削除するには、アプリケーション ユーザを選択し、このペインの上にある上矢印をクリックします。アプリケーション ユーザを追加するには、[使用可能なアプリケーション ユーザ (Available Application Users)] ペインでアプリケーション ユーザを選択し、下矢印をクリックします。

アプリケーション サーバの検索

アプリケーション サーバを検索して表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] の順に選択します。
[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-5) を参照してください。

アプリケーション サーバの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでアプリケーション サーバを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでアプリケーション サーバを設定できるのは、Cisco Unified Communications Manager サーバおよびその他のアプリケーション サーバを両方ともセットアップして完全に動作可能な状態にし、有効な設定を使用して実行した後です。



(注)

Cisco Unity および Cisco Unity Connection については、Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバと通信するように設定された Cisco Unified Communications Manager サーバ上で、AXL が動作していることを確認してください。

手順

- ステップ 1** [システム(System)] > [アプリケーションサーバ(Application Server)] の順に選択します。
[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
 - 既存のアプリケーション サーバをコピーするには、コピーするサーバを見つけて（「[アプリケーション サーバの検索](#)」(P.30-3) を参照）、サーバ名をクリックします。[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 4](#)」に進みます。
 - 新しいアプリケーション サーバを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のアプリケーション サーバを更新するには、対象となるサーバを見つけて（「[アプリケーション サーバの検索](#)」(P.30-3) を参照）、「[ステップ 4](#)」に進みます。
- ステップ 3** [アプリケーションサーバタイプ (Application Server Type)] ドロップダウン リストボックスから、該当するサーバ タイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。アプリケーション サーバ タイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。
- ステップ 4** 適切な設定値を入力します（[表 30-1](#) を参照）。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-5) を参照してください。

アプリケーション サーバの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してアプリケーション サーバを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [アプリケーションサーバ (Application Server)] の順に選択します。
[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定のアプリケーション サーバを見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致するアプリケーション サーバのリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。
- 削除するアプリケーション サーバの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - [すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのアプリケーション サーバを削除します。
 - 削除するアプリケーション サーバの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。
- 確認ダイアログが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.30-5) を参照してください。

関連項目

- 「アプリケーション サーバの設定値」(P.30-1)
- 「アプリケーション サーバの検索」(P.30-3)
- 「アプリケーション サーバの設定」(P.30-4)
- 「アプリケーション サーバの削除」(P.30-5)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの連動」
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.112-1)



CHAPTER 31

自動登録の設定

ここでは、自動登録の設定に関する次の内容について説明します。

- 「自動登録の設定値」(P.31-1)
- 「自動登録の使用可能化」(P.31-3)
- 「自動登録の使用不可能化」(P.31-5)
- 「自動登録番号の再使用」(P.31-6)
- 「関連項目」(P.31-6)

自動登録の設定値

Cisco Unified Communications Manager の自動登録機能を使用すると、新規の電話機を Cisco Unified Communications IP テレフォニー ネットワークに接続したときに、電話番号が自動的に割り当てられます。



(注)

ネットワークに追加する電話機が 100 に満たない場合は、自動登録機能を使用することをお勧めします。100 以上の電話機をネットワークに追加する場合は、一括管理ツール (BAT) を使用してください。

電話機が自動登録された後、システム管理者はその電話機を新しいロケーションに移動し、電話機の電話番号に影響を与えずに別のデバイス プールに割り当てることができます。

表 31-1 では、自動登録の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.31-6) を参照してください。

表 31-1 自動登録の設定値

フィールド名	説明
[開始電話番号 (Starting Directory Number)]	デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。

表 31-1 自動登録の設定値 (続き)

フィールド名	説明
[終了電話番号 (Ending Directory Number)]	<p>デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>自動登録された電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[<なし (None)>] を選択します。</p> <p>パーティションと外部電話番号マスクを選択する前に、自動登録用の有効な電話番号の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、[パーティション (Partition)] フィールドはリセットされます。</p> <p>多数のパーティションが存在する場合、ドロップダウン リストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティションの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、パーティション名の一部を入力します。表示されたパーティションのリストで、目的のパーティション名をクリックし、[OK] をクリックします。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字を指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>たとえば、972813XXXX というマスクを指定し、外部コールに使用されるルートパターンで [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] オプションを使用可能にした場合、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。代表番号を表すために、すべて数字列のマスク (9728135000 など) を指定した場合は、その番号が、自動登録された任意のデバイスからの外部コールに表示される発信者 ID になります。</p>

表 31-1 自動登録の設定値 (続き)

フィールド名	説明
[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> この Cisco Unified Communications Manager に対して自動登録を使用可能にするには、[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] オプションをオフにします。 この Cisco Unified Communications Manager に対して自動登録を使用不可にするには、[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] オプションをオンにします。 <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録を使用不可にすることができます。</p> <p>このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] が指定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定します。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、パーティションと外部電話マスク情報フィールドもリセットされます。</p>

自動登録の使用可能化

新規デバイスの自動登録を使用可能にする手順は、次のとおりです。



注意

Cisco Unified Communications Manager では、自動登録はデフォルトで使用不可になっています。自動登録を使用可能にすると、不正な電話機が Cisco Unified Communications Manager に自動的に登録されてしまうというセキュリティ上の危険が生じます。自動登録を使用可能にするのは、電話機を一括して追加する際の短時間に限定してください。

Cisco CTL Client で混合モードをクラスタ全体のセキュリティに設定すると、自動登録が自動的に使用不可になります。セキュリティを設定済みで、自動登録を使用する場合、クラスタワイドセキュリティモードを Cisco CTL Client でノンセキュアに変更する必要があります。

始める前に

自動登録を使用可能にする前に、次の点を確認します。

- Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバが稼動中であることを確認します。TFTP の Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) オプションで正しいサーバが指定されていることを確認します。

- [デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウで SIP および SCCP に対して正しい電話機イメージ名が指定されていることを確認します。これらのファイルが TFTP サーバ上で使用可能であることを確認します。
- 使用可能な電話番号が自動登録範囲内にあることを確認します。
- 新規の電話機を登録するために十分なライセンス ポイントがあることを確認します。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Auto Registration Phone Protocol] ドロップダウン リスト ボックスで、SCCP または SIP を選択します。
- ステップ 3** [システム (System)] > [Cisco Unified Communications Manager] の順に選択します。
[Cisco Unified CM の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified Communications Manager)] ウィンドウが表示されます。[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager のリストから、クラスタ内で自動登録を使用可能にする Cisco Unified Communications Manager を選択します。



(注) 自動登録を使用可能または使用不可にするのは、この Cisco Unified Communications Manager に限定してください。自動登録機能をクラスタ内の別の Cisco Unified Communications Manager に移行する場合は、該当する Cisco Unified Communications Manager とデフォルトの Cisco Unified Communications Manager グループを再設定する必要があります。また、場合によっては、デフォルトのデバイス プールを再設定する必要もあります。

- ステップ 5** 適切な自動登録情報を入力します (表 31-1 を参照)。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 7** [システム (System)] > [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] の順に選択します。
[Cisco Unified CM グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified Communications Manager)] ウィンドウが表示されます。[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 8** Cisco Unified Communications Manager グループのリストから、自動登録を使用可能にするグループを選択します (大部分のシステムでは、このグループの名前は *Default* です。ただし、別の Cisco Unified Communications Manager グループを選択することもできます)。
このグループは、自動登録されるデバイス用のデフォルトの Cisco Unified Communications Manager グループとして使用できます。このグループの [選択済 Cisco Unified CM (Selected Cisco Unified Communications Manager)] リストに、「ステップ 4」で自動登録用に設定した Cisco Unified Communications Manager が含まれていることを確認してください。Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications Manager グループに表示されている順序で選択されます。
- ステップ 9** グループ設定に変更を加えた場合は、[保存 (Save)] をクリックして、その変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 10** 自動登録専用のコーリング サーチ スペースを設定します。たとえば、自動登録コーリング サーチ スペースを使用すると、自動登録された電話機を内部コールだけに限定することができます。

- ステップ 11** デフォルトのデバイス プールに自動登録用の設定を行います。デフォルトの Cisco Unified Communications Manager グループと、自動登録コーリング サーチ スペースをデフォルトのデバイス プールに割り当てます。デバイス タイプごとに別々のデフォルト デバイス プールを設定する場合は、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウを使用して、デフォルトのデバイス プールをデバイスに割り当てます。
- ステップ 12** 新規のデバイスをインストールして自動登録する短時間の間だけ、自動登録を使用可能にします (システム全体の利用率が最小のときに実行することを推奨します)。それ以外のときは自動登録をオフにして、無許可のデバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されないようにします。
- ステップ 13** 自動登録するデバイスをインストールします。
- ステップ 14** 自動登録されたデバイスを再設定し、各デバイスをパーマネント デバイス プールに割り当てます。
- ステップ 15** [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウの [自動登録電話プロトコル (Auto Registration Phone Protocol)] に、必要に応じて SIP または SCCP のいずれかを設定します。
- ステップ 16** 別のプロトコルでさらに電話機を自動登録する場合は、「ステップ 1」～「ステップ 15」を繰り返します。

追加情報

「関連項目」(P.31-6) を参照してください。

自動登録の使用不可能化

自動登録を使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [Cisco Unified Communications Manager] の順に選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager のリストから、自動登録を使用不可にする Cisco Unified Communications Manager を選択します。
- ステップ 3** この Cisco Unified Communications Manager で自動登録を使用不可にするには、[この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオンにします (このチェックボックスがオンの場合、自動登録は使用不可です)。



(注) [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定しても、自動登録は使用不可になります。

- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 5** 自動登録を使用不可にする Cisco Unified Communications Manager ごとに、「ステップ 2」～「ステップ 4」を繰り返します。

追加情報

「関連項目」(P.31-6) を参照してください。

自動登録番号の再使用

新しいデバイスがネットワークに接続されると、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能な（未使用の）自動登録電話番号をそのデバイスに割り当てます。自動登録されたデバイスの電話番号を手動で変更した場合や、そのデバイスをデータベースから削除した場合は、Cisco Unified Communications Manager は、そのデバイスの自動登録されていた電話番号を再使用することができます。

デバイスが自動登録しようとする時、Cisco Unified Communications Manager は、管理者が指定した自動登録番号の範囲を検索して次に使用可能な電話番号を検出し、そのデバイスに割り当てます。Cisco Unified Communications Manager は、最後に割り当てられた電話番号の次の番号から順に、検索を開始します。その範囲内の最後の電話番号に達すると、Cisco Unified Communications Manager は、その範囲内の先頭の電話番号から、引き続き検索を行います。

自動登録電話番号の範囲をリセットし、Cisco Unified Communications Manager がその範囲内の先頭の番号から検索するように設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 [システム (System)] > [Cisco Unified Communications Manager] の順に選択します。
- ステップ 2 自動登録をリセットする Cisco Unified Communications Manager を選択します。
- ステップ 3 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドの現在の設定値をメモします。
- ステップ 4 [この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] をクリックします。



注意

自動登録が使用不可になっている間は、新しい電話機は自動登録できません。

- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] をステップ 3 でメモした値（または、必要に応じて別の値）に設定します。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.31-6) を参照してください。

関連項目

- 「自動登録の設定値」(P.31-1)
- 「自動登録の使用可能化」(P.31-3)
- 「自動登録の使用不可能化」(P.31-5)
- 「自動登録番号の再使用」(P.31-6)



CHAPTER 32

位置情報の設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションを使用すると、地理的ロケーションのフィルタとともに使用する地理的ロケーション、および論理パーティションやその他の機能をプロビジョニングするための論理パーティション ポリシーを設定できます。



ヒント

ロケーションと位置情報を混同しないでください。ロケーションは、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションで設定します。ロケーションでは、中央集中型コール処理システムが Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を提供するために使用するエンティティを定義できます。位置情報は、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定します。位置情報では、論理パーティションなどの機能用に Cisco Unified Communications Manager デバイスと関連付けるために使用する地理的ロケーションを指定できます。

設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[位置情報およびロケーション伝達](#)」の章の「[位置情報について](#)」および「[位置情報の設定](#)」を参照してください。

論理パーティション機能による位置情報の使用方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[論理パーティション](#)」を参照してください。



CHAPTER 33

位置情報フィルタの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションを使用すると、地理的ロケーションとともに使用する地理的ロケーションのフィルタ、および論理パーティションをプロビジョニングするための論理パーティションポリシーを設定できます。

設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。

論理パーティション機能での位置情報フィルタの使用の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。



PART 3

コール ルーティングの設定



CHAPTER 34

自動代替ルーティングのグループ設定

AAR を検索、追加、更新、削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「AAR グループの設定値」 (P.34-1)
- 「AAR グループの検索」 (P.34-3)
- 「AAR グループの設定」 (P.34-4)
- 「AAR グループの削除」 (P.34-5)
- 「関連項目」 (P.34-5)

AAR グループの設定値

Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、ロケーションの帯域幅不足で Cisco Unified Communications Manager がコールをブロックした場合に、代替番号を使用して PSTN またはその他のネットワーク経由でコールを再ルーティングするメカニズムを提供します。自動代替ルーティングを使用すると、発信者はいったん電話を切って着信側に再びダイヤルする必要がなくなります。AAR グループは、回線または Directory Number (DN; 電話番号)、Cisco ボイスメール ポート、およびゲートウェイが置かれているダイヤル区域を表します。

各 AAR グループに対して、AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号、およびある AAR グループとその他の AAR グループの間の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。ゲートウェイ、電話機 (電話番号で)、およびトランクなどのデバイスが AAR グループに関連付けられます。コールの自動代替ルーティングが行われる場合、状況によってはデバイスを AAR コーリング サーチ スペースにも関連付ける必要があります。



(注)

AAR を機能させるには、クラスタ全体の Automated Alternate Routing Enable サービス パラメータが *True* に設定されていることを確認する必要があります (このサービス パラメータのデフォルト値は *False* です)。

自動代替ルーティング グループの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」の章を参照してください。

表 34-1 では、AAR グループの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.34-5) を参照してください。

表 34-1 AAR グループの設定値

フィールド	説明
[自動代替ルーティング(AAR)グループ情報(Automated Alternate Routing Group Information)]	
[名前(Name)]	新しい AAR グループに割り当てる名前を入力します。 この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
[次のグループ内で使用するプレフィックス番号(Prefix Digits within)]	
[プレフィックス番号(Prefix Digits)]	AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。有効な入力値は、数字 (0 ~ 9)、アルファベット (A ~ D)、アスタリスク (*)、シャープ記号 (#)、プラス記号 (+)、およびハイフン (-) です。
[次のグループ間で使用するプレフィックス番号(Prefix Digits between): <グループ名> とその他の AAR グループ (and other AAR Groups)]	
[ダイヤルプレフィックス(Dial Prefix) (発信元 <グループ名>)]	このグループから別の AAR グループに属するデバイスにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。 有効な入力値は、数字 (0 ~ 9)、アルファベット (A ~ D)、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。 (注) この発信 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 転送先グループの [ダイヤルプレフィックス(Dial Prefix) (接続先 <グループ名>)] フィールドにも追加されます。
[ダイヤルプレフィックス(Dial Prefix) (接続先 <グループ名>)]	別の AAR グループに属するデバイスからこのグループにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。 有効な入力値は、数字 (0 ~ 9)、アルファベット (A ~ D)、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。 (注) この転送先 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 発信グループの [ダイヤルプレフィックス(Dial Prefix) (発信元 <グループ名>)] フィールドにも追加されます。

追加情報

「関連項目」(P.34-5) を参照してください。

AAR グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの自動代替ルーティング (AAR) グループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、AAR グループを見つけることができます。AAR グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、AAR グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、AAR グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [AAR グループ (AAR Group)] の順に選択します。
[自動代替ルーティング (AAR) グループの検索と一覧表示 (Find and List Automated Alternate Routing Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.34-5) を参照してください。

AAR グループの設定

AAR グループを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [AAR グループ (AAR Group)] の順に選択します。
- [自動代替ルーティング (AAR) グループの検索と一覧表示 (Find and List Automated Alternate Routing Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 新しい AAR グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存の AAR グループを更新するには、対象となる AAR グループを見つけて（「AAR グループの検索」(P.34-3) を参照）、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 表示される [自動代替ルーティング (AAR) グループの設定 (Automated Alternate Routing Group Configuration)] ウィンドウで、[名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。AAR グループ名はそれぞれ固有の名前にしてください。このフィールドの現在のサイズは、20 文字です。
-
-  **ワンポイントアドバイス**
- AAR グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、AAR グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasAA1」は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog AAR グループを示します。
-
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** 適切な設定値を選択します (表 34-1 を参照)。
- ステップ 6** この AAR グループを設定するには、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.34-5) を参照してください。

AAR グループの削除

AAR グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のデバイスが参照している AAR グループは、削除することができません。AAR グループを使用しているデバイスを検索するには、[自動代替ルーティング (AAR) グループの設定 (Automated Alternate Routing Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。AAR グループを削除する前に、その AAR グループが属しているデバイスすべてから、その AAR グループを削除しておく必要があります。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [AAR グループ (AAR Group)] の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除する AAR グループを見つけます。「[AAR グループの検索](#)」(P.34-3) を参照してください。
 - ステップ 3** 削除する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
AAR グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** グループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified Communications Manager は、その AAR グループを AAR グループ リストから削除します。



-
- (注) 該当する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[自動代替ルーティング (AAR) グループの検索と一覧表示 (Find and List Automated Alternate Routing Groups)] ウィンドウから複数の AAR グループを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての AAR グループを削除できます。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.34-5) を参照してください。

関連項目

- 「[AAR グループの設定値](#)」(P.34-1)
- 「[AAR グループの検索](#)」(P.34-3)
- 「[AAR グループの設定](#)」(P.34-4)
- 「[AAR グループの削除](#)」(P.34-5)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[自動代替ルーティング](#)」



CHAPTER 35

アプリケーションのダイヤル ルール設定

次の各項では、ダイヤル ルール設定について説明します。

- 「アプリケーションのダイヤル ルールの設定値」(P.35-1)
- 「ダイヤル ルールの検索」(P.35-3)
- 「ダイヤル ルールの設定」(P.35-4)
- 「ダイヤル ルールの削除」(P.35-5)
- 「ダイヤル ルールの優先順位の変更」(P.35-5)
- 「関連項目」(P.35-6)

アプリケーションのダイヤル ルールの設定値

管理者は、ダイヤル ルール設定を使用して、ダイヤル ルールの優先順位を追加およびソートできます。Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーションのダイヤル ルールは、ユーザがダイヤルする電話番号から自動的に数字を削除したり、電話番号に数字を追加したりします。たとえば、7桁の電話番号の先頭に、外線発信用の数字 9 を自動的に追加します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーションで、アシスタントは Assistant Console からディレクトリ検索を実行できます。ディレクトリ エントリを Assistant Console の [マイコール(My Calls)] パネルへドラッグ アンド ドロップできます。ドロップすると、エントリに含まれている番号宛てにコールが発信されます。ダイヤル ルールは、エントリに含まれる番号に対して、コールの発信前に適用されます。

表 35-1 では、[アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.35-6) を参照してください。

表 35-1 アプリケーションのダイヤル ルールの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	[名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。名前は 1 文字以上にする必要があります。最大 50 文字の英数字を含めることができますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、および山カッコ (<>) は使用できません。 アプリケーションのダイヤル ルール名はそれぞれ固有の名前にしてください。
[説明 (Description)]	アプリケーションのダイヤル ルールの説明を [説明 (Description)] フィールドに入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[開始番号 (Number Begins With)]	このアプリケーションのダイヤル ルールを適用する電話番号の先頭部分の数字を入力します。 有効な文字は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。このフィールドに 50 を超える文字を入力できないことに注意してください。
[桁数 (Number of Digits)]	このアプリケーションのダイヤル ルールを適用するダイヤル番号の長さを入力します。このフィールドには次のことが適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> サポートされるのは数字 (0 ~ 9) だけです。 0 以上で 100 未満の値にする必要があります。
[削除する合計桁数 (Total Digits to be Removed)]	Cisco Unified Communications Manager で、このダイヤル ルールを適用するダイヤル番号の先頭から削除する桁数を入力します。このフィールドには次のことが適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> サポートされるのは数字 (0 ~ 9) だけです。 0 以上で 100 未満の値にする必要があります。 [桁数 (Number of Digits)] フィールドの値を超える値は設定できません。
[プレフィックスパターン (Prefix With Pattern)]	このアプリケーションのダイヤル ルールを適用するダイヤル番号の先頭に追加するパターンを入力します。有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。このフィールドに 50 を超える文字を入力できないことに注意してください。
[アプリケーションダイヤル ルール優先順位 (Application Dial Rule Priority)]	ダイヤル ルールの優先順位を高、低、標準のいずれかから選択します。

追加情報

「関連項目」(P.35-6) を参照してください。

ダイヤル ルールの検索

ネットワーク内にはいくつかのダイヤル ルールが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のダイヤル ルールを見つけることができます。ダイヤル ルールを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ダイヤル ルールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ダイヤルの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] の順に選択します。
- [アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.35-6) を参照してください。

ダイヤル ルールの設定

新しいダイヤル ルールを追加する手順、および既存のダイヤル ルールを更新する手順は、次のとおりです。ダイヤル ルールの設計およびエラー チェックについては、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーションダイヤル ルール設定のエラー チェック」を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] の順に選択します。
- [アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 新しいダイヤル ルールを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存のダイヤル ルールを更新するには、対象となるダイヤル ルールを見つけて（「ダイヤル ルールの検索」(P.35-3) を参照）、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 該当するダイヤル ルール情報の設定値を入力します（表 35-1 を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] ボタンをクリックします。



(注) ダイヤル ルールが複数ある場合は、ダイヤル ルールの優先順位を変更できます。「ダイヤル ルールの優先順位の変更」(P.35-5) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.35-6) を参照してください。

ダイヤル ルールの削除

ダイヤル ルールを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するアプリケーションのダイヤル ルールを見つけます。「[ダイヤル ルールの検索](#)」(P.35-3) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するアプリケーションのダイヤル ルールの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
アプリケーションのダイヤル ルールを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ダイヤル ルールを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified Communications Manager は、そのアプリケーションのダイヤル ルールをアプリケーションのダイヤル ルール リストから削除します。



- (注) 該当するダイヤル ルールの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウから複数のダイヤル ルールを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのダイヤル ルールを削除できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.35-6) を参照してください。

ダイヤル ルールの優先順位の変更

ダイヤル ルールの優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] の順に選択します。
-  (注) 優先順位は、[アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウから変更することもできます。

■ 関連項目

- ステップ 2** [アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウで、ダイヤル ルールを選択し、ダイヤル ルール名をクリックします。[アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 上矢印と下矢印を使用して、リスト内でダイヤル ルールを上または下に移動します。
- ステップ 4** 優先順位を変更し終わったら、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.35-6) を参照してください。

関連項目

- 「アプリケーションのダイヤル ルールの設定値」(P.35-1)
- 「ダイヤル ルールの検索」(P.35-3)
- 「ダイヤル ルールの設定」(P.35-4)
- 「ダイヤル ルールの削除」(P.35-5)
- 「ダイヤル ルールの優先順位の変更」(P.35-5)



CHAPTER 36

ディレクトリ検索のダイヤル ルール設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定値」(P.36-1)
- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの検索」(P.36-2)
- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定」(P.36-3)
- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの削除」(P.36-4)
- 「関連項目」(P.36-5)

ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定値

ディレクトリ検索規則は、発信者 ID 番号をディレクトリ内で検索可能な番号に変換するものです。個々の規則では、先頭部分のいくつかの数字、および番号の長さに基づいて、変換対象となる番号を指定します。たとえば、10 桁の電話番号から、エリア コードと 2 つのプレフィックス数字を自動的に削除するディレクトリ検索規則を作成して、4085551212 を 51212 にすることができます。Cisco Unified Communications Manager Attendant Console で、アテンダントの短縮ダイヤル エントリまたはディレクトリに、この番号と一致するユーザが見つかったと、そのユーザの名前が [Call Detail] ウィンドウに表示されます。

表 36-1 では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.36-5) を参照してください。

表 36-1 ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	ディレクトリ検索のダイヤル ルールの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
[説明 (Description)]	ディレクトリ検索のダイヤル ルールの説明を [説明 (Description)] フィールドに入力します。または、ブランクのままにします。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 36-1 ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[開始番号 (Number Begins With)]	このディレクトリ検索のダイヤル ルールを適用する電話番号の先頭部分の数字を入力します。たとえば、972 と入力した場合、このダイヤル ルールは 9725551212 などの電話番号に適用されます。 有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。
[桁数 (Number of Digits)]	このディレクトリ検索のダイヤル ルールを適用する電話番号の長さを入力します。たとえば、7 と入力した場合、このダイヤル ルールは 8675309 などの電話番号に適用されます。
[削除する合計桁数 (Total Digits to be Removed)]	Cisco Unified Communications Manager で、このダイヤル ルールを適用する電話番号から削除する桁数を入力します。たとえば、3 と入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は 4085556666 などの電話番号から 408 を削除します。 このフィールドで有効となる値の範囲は、0 ~ 100 です。削除する桁数の合計は、このディレクトリ検索のダイヤル ルールを適用する電話番号の桁数を超えることはできません。
[プレフィックスパターン (Prefix With Pattern)]	このディレクトリ検索のダイヤル ルールを適用する電話番号の先頭に追加するパターンを入力します。有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。

ディレクトリ検索のダイヤル ルールの検索

ディレクトリ検索のダイヤル ルールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ディレクトリ検索ダイヤル ルールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ダイヤルの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コール ルーティング (Call Routing)] > [ダイヤル ルール (Dial Rules)] > [ディレクトリ検索ダイヤル ルール (Directory Lookup Dial Rules)] の順に選択します。
- [ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.36-5) を参照してください。

ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定

ディレクトリ検索のダイヤル ルールを追加および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コール ルーティング (Call Routing)] > [ダイヤル ルール (Dial Rules)] > [ディレクトリ検索ダイヤル ルール (Directory Lookup Dial Rules)] の順に選択します。
[ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいディレクトリ検索のダイヤル ルールを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 既存のディレクトリ検索のダイヤル ルールを編集するには、対象となるダイヤル ルールを表示します (「[ディレクトリ検索のダイヤル ルールの検索](#)」(P.36-2) を参照)。

[ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定 (Directory Lookup Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 36-1 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.36-5) を参照してください。

ディレクトリ検索のダイヤル ルールの削除

ディレクトリ検索のダイヤル ルールを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コール ルーティング (Call Routing)] > [ダイヤル ルール (Dial Rules)] > [ディレクトリ検索ダイヤル ルール (Directory Lookup Dial Rules)] の順に選択します。
- [ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定のディレクトリ検索のダイヤル ルールを見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。
- 削除するディレクトリ検索のダイヤル ルールの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - 検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックして、ウィンドウ内のディレクトリ検索のダイヤル ルールをすべて削除します。
 - 削除するディレクトリ検索のダイヤル ルールの名前をクリックして表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。
- 確認ダイアログが表示されます。
- ステップ 4** ディレクトリ検索のダイヤル ルールを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.36-5) を参照してください。

関連項目

- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定値」 (P.36-1)
- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの検索」 (P.36-2)
- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの設定」 (P.36-3)
- 「ディレクトリ検索のダイヤル ルールの削除」 (P.36-4)

アプリケーションのダイヤル ルール

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ダイヤル ルールの概要」
- 「アプリケーションのダイヤル ルール設定」 (P.35-1)
- 「ダイヤル ルールの設定」 (P.35-4)



CHAPTER 37

SIP のダイヤル ルール設定

次の各項では、SIP のダイヤル ルール設定について説明します。

- 「SIP のダイヤル ルールの設定値」 (P.37-1)
- 「SIP のダイヤル ルールの検索」 (P.37-4)
- 「SIP のダイヤル ルールの設定」 (P.37-5)
- 「SIP のダイヤル ルールの削除」 (P.37-8)
- 「SIP のダイヤル ルールのリセット」 (P.37-9)
- 「SIP ダイヤル ルールの設定と影響を受ける SIP 電話の同期化」 (P.37-9)
- 「関連項目」 (P.37-10)

SIP のダイヤル ルールの設定値

管理者は SIP のダイヤル ルール設定を使用して、SIP を実行している電話機のダイヤル プランを設定し、次の SIP を実行している電話機に関連付けます。

- Cisco Unified IP Phone 7911、7941、7961、7970、および 7971 : これらの電話機は、7940_7960_OTHER ダイヤル ルール パターンを使用します。Key Press Markup Language (KPML) により、ダイヤル文字列は 1 つずつ Cisco Unified Communications Manager に送信されますが、Cisco Unified Communications Manager に送信する前にダイヤル文字列のパターンを電話機上でローカルに収集するよう [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] で設定できます。SIP のダイヤル ルールが設定されていない場合は、KPML が使用されます。Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスを向上させる (処理されるコールの数を増やす) には、管理者が SIP ダイヤル ルールを設定することをお勧めします。
- Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 : これらの電話機は、7940_7960_OTHER ダイヤル ルール パターンを使用し、KPML はサポートしていません。管理者がこれらの電話機に SIP のダイヤル プランを設定しない場合は、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを押すか、所定の期間待機するまでは、ダイヤル文字列が Cisco Unified Communications Manager に送信されず、処理されません。ユーザがこの操作を余分に実行するので、実際のコールの処理が遅くなります。

- Cisco Unified IP Phone 7905 および 7912: これらの電話機は、7905_7912_OTHER ダイヤル ルール パターンを使用し、KPML はサポートしていません。管理者がこれらの電話機に SIP のダイヤル プランを設定しない場合は、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを押すか、所定の期間待機するまでは、ダイヤル文字列が Cisco Unified Communications Manager に送信されず、処理されません。ユーザがこの操作を余分に実行するので、実際のコールの処理が遅くなります。

管理者が SIP を実行している電話機のダイヤル プランを設定せず、電話機が KPML をサポートしていない場合、ユーザは [ダイヤル] ソフトキーを押す必要があります。管理者は、SIP のダイヤル プランを設定する場合、SIP を実行している電話機にそれらのダイヤル プランを関連付けて、ダイヤル プランがデバイスに送信されるようにする必要があります。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理で SIP ダイヤル ルールを追加または更新すると、Cisco TFTP サービスがすべての電話機の設定ファイルを再構築するため、Cisco TFTP サービスが実行されているサーバで CPU がスパイクする可能性があります。特に、電話機が数多く配置された大規模なシステムでは注意が必要です。CPU がスパイクしないようにするには、メンテナンス期間中に SIP ダイヤル ルールを追加または更新するか、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco TFTP サービスを一時的に停止してから設定に変更を加えます。Cisco TFTP サービスを停止した場合は、SIP ダイヤル ルールを追加または更新した後、Cisco Unified サービスアビリティで忘れずにサービスを再起動してください。

表 37-1 では、[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.37-10) を参照してください。

表 37-1 SIP のダイヤル ルールの設定値

フィールド	説明
[ダイヤルパターン (Dial Pattern)]	SIP を実行している電話機のタイプに適合したダイヤル パターンを選択します。たとえば、ダイヤル パターン [7905_7912] は Cisco Unified IP Phone 7905 と 7912 に適用され、ダイヤル パターン [7940_7960_OTHER] は Cisco Unified IP Phone 7911、7940、7941、7960、7961、7970、および 7971 に適用されます。 (注) Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、および 7960 は、KPML をサポートしていません。
[SIP ダイヤルルール情報 (SIP Dial Rule Information)]	
[名前 (Name)]	SIP のダイヤル ルールの名前を入力します。たとえば、「Long Distance」などです。スペースと特殊文字を含めて、50 文字までの英数字を入力します。
[説明 (Description)]	ダイヤル ルールの簡単な説明を入力します。
[パターン情報 (Pattern Information)]	
[パターン説明 (Pattern Description)]	パターンの説明の名前を入力します。たとえば、「Emergency」などです。
[パターンの削除 (Delete Pattern)]	ダイヤル パターンを削除するには、このチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。

表 37-1 SIP のダイヤル ルールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ダイヤルパラメータ (Dial Parameter)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、このパターンのパラメータのタイプ (次のいずれか) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Pattern] : [7905_7912] および [7940_7960_OTHER] ダイヤルルールには、このパラメータを使用します。個々のパターンの形式については、「パターンの形式」(P.37-6) を参照してください。 [Button] : このパラメータには、ダイヤル パターンの適用先となる回線ボタンを指定します。ユーザが回線ボタン 1 に対してコールを発信すると、[Button] に対して指定されているダイヤル パターンだけが適用されます。このオプション パラメータを設定しない場合、ダイヤル パターンはすべての回線に適用されます。適用対象となるのは、Cisco Unified IP Phone 7940、7941、7960、7961、7970、および 7971 だけです。管理者は、ボタン番号を数値で入力する必要があります。ボタン番号は、電話機の画面脇にあるボタンの順序と対になっています。上から順に、1 が一番上です。回線ボタンは、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7941 には 2 つ、7960 および 7961 には 6 つ、7970 および 7971 には 8 つあります。 [Timeout] : このパラメータには、システムがタイムアウトして、ユーザのダイヤルした番号をダイヤルするまでの時間を秒単位で指定します。番号がすぐにダイヤルされるようにするには、0 を指定します。このパラメータは、[7940_7960_OTHER] ダイヤルルールだけに使用してください。 [User] : このパラメータは、ダイヤルされた番号に自動的に付加するタグを表しています。このタグで有効となる値は、IP および Phone です。大文字と小文字は区別されません。このパラメータは、[7940_7960_OTHER] ダイヤルルールだけに使用してください。
[値 (Value)]	この表で説明しているダイヤル パラメータの値は、このフィールドに入力します。たとえば、Private Line Automatic Ringdown (PLAR) の [Button] には 1 を入力し、[7940_7960_OTHER] パターンには 8,..... を入力します。
[パラメータの削除 (Delete Parameter)]	ダイヤル パターンを削除するには、このチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックします。
[パラメータの編集 (Edit Parameter)]	既存のパラメータを更新するには、このボタンをクリックします。
[新規パラメータの追加 (Add New Parameter)]	パターンに新しいパラメータを追加するには、このボタンをクリックします。
[選択項目の削除 (Delete Selected)]	パラメータまたはパターンを削除するには、このボタンをクリックします。
[パターンの追加 (Pattern Addition)]	
[パターン説明 (Pattern Description)]	新しいパターンの名前を入力し (Longdistance など)、[パターンの追加 (Add Pattern)] ボタンまたは [PLAR の追加 (Add Plar)] ボタンをクリックします。

表 37-1 SIP のダイヤル ルールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パターンの追加 (Add Pattern)]	[パターン情報 (Pattern Information)] ペインに新しいパターンを追加するには、このボタンをクリックします。
[PLAR の追加 (Add Plar)]	[パターン情報 (Pattern Information)] ペインに新しい PLAR パターンを追加するには、このボタンをクリックします。

SIP のダイヤル ルールの検索

ネットワーク内にはいくつかの SIP ダイヤル ルールが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の SIP ダイヤル ルールを見つけることができます。SIP のダイヤル ルールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、SIP ダイヤル ルールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SIP ダイヤル ルールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] の順に選択します。

[SIP ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.37-10) を参照してください。

SIP のダイヤル ルールの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理 で SIP ダイヤル ルールを追加または更新すると、Cisco TFTP サービスがすべての電話機の設定ファイルを再構築するため、Cisco TFTP サービスが実行されているサーバで CPU がスパイクする可能性があります。特に、電話機が数多く配置された大規模なシステムでは注意が必要です。CPU がスパイクしないようにするには、メンテナンス期間中に SIP ダイヤル ルールを追加または更新するか、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco TFTP サービスを一時的に停止してから設定に変更を加えます。Cisco TFTP サービスを停止した場合は、SIP ダイヤル ルールを追加または更新した後、Cisco Unified サービスアビリティで忘れずにサービスを再起動してください。

SIP のダイヤル ルールを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] の順に選択します。
- [SIP ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 新しい SIP のダイヤル ルールを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の SIP のダイヤル ルールを更新するには、対象となる SIP のダイヤル ルールを見つけて（「[SIP のダイヤル ルールの検索](#)」(P.37-4) を参照）、「[ステップ 9](#)」に進みます。
- ステップ 3** [ダイヤルパターン (Dial Pattern)] ドロップダウン リスト ボックスから、[7905_7912] または [7940_7960_OTHER] を SIP のダイヤル ルールのタイプとして選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] ボタンをクリックします。
- 更新した情報を使用して、[SIP ダイヤル ルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] がもう一度表示されます。
- ステップ 5** [表 37-1](#) で説明している情報を使用して、作成するダイヤル ルールの名前と説明を入力します。[保存 (Save)] をクリックします。
- 更新した情報を使用して、[SIP ダイヤル ルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] がもう一度表示されます。
- ステップ 6** [表 37-1](#) で説明している情報を使用して、パターンの説明の名前を入力します。

- ステップ 7** 作成するダイヤル パターンのタイプに応じて、[パターンの追加 (Add Pattern)] または [PLAR の追加 (Add Plar)] をクリックします (PLAR : Private Line Automatic Ringdown)。



(注) [PLAR の追加 (Add Plar)] ボタンが表示されるのは、[7940_7960_OTHER] ダイヤル ルールの場合だけです。

更新した情報を使用して、[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] がもう一度表示され、ダイヤル パターンのパラメータを設定するための領域が表示されます。

- ステップ 8** 表 37-1 で説明している情報を使用して、[ダイヤルパラメータ (Dial Parameter)] ドロップダウン リスト ボックスからパラメータのタイプを選択します。
- ステップ 9** ダイヤル ルールについて、適切な値、パラメータ、および説明を入力します (表 37-1 を参照)。
- ステップ 10** 設定が完了したら、[保存 (Save)] ボタンをクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.37-10) を参照してください。

パターンの形式

[7905_7912] パターンおよび [7940_7960_OTHER] パターンについては、次の形式を参照してください。

[7905_7912] パターンの値

- ピリオド (.) は、すべての数字に一致します。
- ハイフン (-) は、以降に数字が入力される可能性があることを意味します。この文字が必要な場合は、個々のルールの末尾に使用する必要があります。たとえば、1408t5- は有効ですが、1408t5-3... は無効です。
- シャープ記号 (#) は、終了キーとして機能します。終了が適用されるのは、マッチングで ># にヒットした後だけです。このため、>* は終了文字をアスタリスク (*) にすることを意味します。つまり、終了キーは大なり記号 (>) の後に指定する必要があります。
- 「tn」 という文字列を使用すると、タイムアウトが *n* 秒に設定されます。



(注) *n* は、0 ~ 9、および a ~ z です。a ~ z は、それぞれ 0 ~ 26 を意味します。

- 「rn」 という文字列を使用すると、直前のパターンを *n* 回繰り返します。



(注) 「>#」 および 「tn」 は、パターンではなく修飾子です。*n* は、0 ~ 9、および a ~ z です。a ~ z は、それぞれ 0 ~ 26 を意味します。少ない文字列で多くのルールを表現するには、繰り返しの修飾子を使用します。

- 修飾子「S」を使用すると、ルールのマッチングが終了します。つまり、ルールに一致した時点以降に修飾子「S」が現れた場合、そのマッチング ルールより後にあるその他のルールは、マッチングには使用されません。

[7940_7960_OTHER] パターンの値

- ピリオド (.) は、すべての文字に一致します。
- シャープ記号 (#) は、終了キーとして機能します。終了が適用されるのは、マッチングで ># にヒットした後だけです。このため、>* は終了文字をアスタリスク (*) にすることを意味します。つまり、終了キーは大なり記号 (>) の後に指定する必要があります。



(注) シャープ記号を [7940_7960_OTHER] で有効にするには、パターン フィールドにシャープ記号を設定する必要があります。

- アスタリスク (*) は、1 つまたはそれ以上の文字に一致します。* は、ワイルドカード文字として処理されます。* の前にバックスラッシュ (\) エスケープ シーケンスを置いて * というシーケンスにすると、* を通常の文字として処理できます。¥ は電話機が自動的に削除するため、発信ダイヤル文字列には現れません。* は、ダイヤル番号として受信された場合、ワイルドカード文字 * とピリオド (.) に一致します。
- カンマ (,) を使用すると、電話機が第 2 発信音を生成します。

例：7... は、7 で始まるすべての 4 桁 DN に一致します。8,... は、8 に一致し、第 2 発信音（デフォルト値）を再生した後、すべての 5 桁 DN に一致します。

SIP のダイヤル ルールの例

表 37-2 では、[7905_7912] ダイヤル ルールに関するいくつかの SIP ダイヤル ルールの例を示します。

表 37-2 SIP のダイヤル ルールの例 ([7905_7912] ダイヤル ルールの場合)

パターン文字列	意味
.t7>#.....t4-	ダイヤル文字を少なくとも 1 つ入力する必要があります。送信は、入力の 7 秒後に発生します。終了の # 文字が適用されるのも、最初のダイヤル文字を入力した後です。7 桁入力すると、タイムアウトが 4 秒に変更されます。- 文字は、タイムアウトになるか # によって文字列を終了しない限り、以降も数字を入力できることを意味します。
911 および 9911	すぐに送信されます。コールの送信で遅延が発生しないようにするには、これらの文字列それぞれに SIP のダイヤル ルールを設定し、タイムアウト ダイヤル パラメータを 0 に指定します。電話機が Key Press Markup Language (KPML) をサポートしていない場合でも、ユーザは [ダイヤル] ソフトキーを押さずにコールを開始できます。
1t7>#.....t1-	ダイヤル文字を少なくとも 1 つ入力する必要があります。送信は、入力の 7 秒後に発生します。終了文字の # が適用されるのも、最初のダイヤル文字を入力した後です。10 桁入力すると、タイムアウトが 1 秒に変更されます。- 文字は、タイムアウトになるか # によって文字列を終了しない限り、以降も数字を入力できることを意味します。
0t4>#.t7-"	0 の後にダイヤル文字を入力しない場合、送信が 4 秒後に発生します。0 以降にダイヤル文字を入力した場合、送信は 7 秒後に発生します。この場合も、# は終了文字として機能します。

表 37-3 では、[7940_7960_OTHER] ダイヤル ルールに関するいくつかの SIP ダイヤル ルールの例を示します。

表 37-3 SIP のダイヤル ルールの例 ([7940_7960_OTHER] ダイヤル ルールの場合)

パターン文字列	意味
123#45#6	123#45#6 文字列は、ユーザが 123#45#6 をダイヤルした場合に照合されます。シャープ記号 (#) を押しても、電話機はすぐにはダイヤルを実行しません。これは、# が明示的に指定されているためです。Cisco SIP IP Phones 7940 および 7960 の場合、1# または 123#4# がダイヤルされると、電話機はすぐにダイヤルを実行します。
911 および 9911	すぐに送信されます。コールの送信で遅延が発生しないようにするには、これらの文字列それぞれに SIP のダイヤル ルールを設定し、タイムアウトダイヤルパラメータを 0 に指定します。電話機が Key Press Markup Language (KPML) をサポートしていない場合でも、ユーザは [ダイヤル] ソフトキーを押さずにコールを開始できます。
12¥*345	この例は、バックスラッシュ (\) とアスタリスク (*) を使用して、アスタリスク (*) がダイヤル文字列であることを示しています。バックスラッシュ (\) を省略すると、アスタリスク (*) はワイルドカードパターン照合として扱われます。バックスラッシュ (\) をアスタリスク (*) 以外の文字と組み合わせて使用すると、¥は無視され、¥¥文字が照合されます。ダイヤルプランで ¥文字を明示的に指定する必要がある場合は、¥¥を使用します。¥は、電話機がダイヤル文字列を送信する前に削除されるので、ダイヤル文字列の一部として送信されません。

SIP のダイヤル ルールの削除

SIP のダイヤル ルールを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する SIP のダイヤル ルールを見つけます。「[SIP のダイヤル ルールの検索](#)」(P.37-4) を参照してください。
- ステップ 3** 削除する SIP のダイヤル ルールの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
SIP のダイヤル ルールを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** SIP のダイヤル ルールを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified Communications Manager は、その SIP ダイヤル ルールを SIP ダイヤル ルール リストから削除します。



- (注)** 該当するダイヤル ルールの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[SIP ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウから複数のダイヤル ルールを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての SIP のダイヤル ルールを削除できます。

追加情報

「関連項目」(P.37-10) を参照してください。

SIP のダイヤル ルールのリセット

SIP のダイヤル ルールを更新したときに、SIP を実行している電話機をリセットまたは再起動して、電話機を新しい SIP のダイヤル ルールで更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] の順に選択します。
- ステップ 2** リセットする SIP のダイヤル ルールを見つけます。「SIP のダイヤル ルールの検索」(P.37-4) を参照してください。
- ステップ 3** リセットする SIP のダイヤル ルールをクリックします。
[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [リセット (Reset)] をクリックします。
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。
 - [リスタート (Restart)] : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動します (Cisco Unified Communications Manager に電話機を再登録します)。
 - [リセット (Reset)] : デバイスをシャットダウンして、もう一度起動します。
 - [閉じる (Close)] : 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じます。

追加情報

「関連項目」(P.37-10) を参照してください。

SIP ダイヤル ルールの設定と影響を受ける SIP 電話の同期化

設定変更された SIP ダイヤル ルールと SIP 電話を同期化するには、次の手順を行います。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受ける SIP 電話の中には、リセットまたは再起動が不要なものがあります)。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] を選択します。
[SIP ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する SIP ダイヤル ルールがウィンドウに表示されます。

■ 関連項目

- ステップ 4** 該当する SIP 電話と同期化する SIP ダイヤル ルールをクリックします。[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.37-10) を参照してください。

関連項目

- 「SIP のダイヤル ルールの設定値」(P.37-1)
- 「SIP のダイヤル ルールの検索」(P.37-4)
- 「SIP のダイヤル ルールの設定」(P.37-5)
- 「SIP のダイヤル ルールの例」(P.37-7)
- 「SIP のダイヤル ルールの削除」(P.37-8)
- 「SIP のダイヤル ルールのリセット」(P.37-9)
- 「SIP ダイヤル ルールの設定と影響を受ける SIP 電話の同期化」(P.37-9)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ダイヤル ルールの概要」



CHAPTER 38

ルート フィルタの設定

ルート フィルタを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「ルート フィルタの設定値」 (P.38-1)
- 「ルート フィルタの検索」 (P.38-2)
- 「ルート フィルタの設定」 (P.38-4)
- 「ルート フィルタ条件の追加と編集」 (P.38-4)
- 「ルート フィルタ条件の削除」 (P.38-5)
- 「ルート フィルタと影響を受けるデバイスの同期化」 (P.38-6)
- 「ルート フィルタの削除」 (P.38-7)
- 「ルート フィルタ タグの説明」 (P.38-8)
- 「関連項目」 (P.38-11)

ルート フィルタの設定値

ルート フィルタの設定では、ルート パターンまたはハント パイロットと連動して、ダイヤルされた数字列を使用し、コールの処理方法を決定します。ルート フィルタは、アットマーク (@) ワイルドカードを含むパターンを設定する場合に限り適用されます。ルート パターンまたはハント パイロットが @ ワイルドカードを含む場合、Cisco Unified Communications Manager は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで指定された番号計画に従って、コールを転送します。Cisco Unified Communications Manager で表示されるルート フィルタ ウィンドウは、選択する番号計画によって異なります。

ルート フィルタを使用すると、システム管理者は、ユーザがダイヤルできるルート パターンまたはハント パイロット、たとえば、ユーザが (101 に通信事業者アクセス コードを加えてダイヤルして) 長距離通信事業者を手動で選択できるかどうかを決定できます。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」を参照してください。



ヒント

まずルート フィルタを追加し、その定義をしておいてから、定義済みのルート フィルタをルート パターンまたはハント パイロットに追加してください。

表 38-1 では、ルート フィルタの設定値について説明します。

表 38-1 ルートフィルタの設定値

フィールド	説明
[番号計画 (Numbering Plan)]	ドロップダウン リストから、番号計画 (たとえば、[North American Numbering Plan]) を選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
[ルートフィルタ情報 (Route Filter Information)]	
[ルートフィルタ名 (Route Filter Name)]	[ルートフィルタ名 (Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートフィルタ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。 (注) ルートフィルタには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートフィルタをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの Local Access Transport Area (LATA) 間の無料コール用のルートフィルタを特定します。
[条件 (Clause Information)]	
[ルートフィルタタグ (Route Filter Tags)]	このルートフィルタの条件を作成するには、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。 AREA-CODE などのルートフィルタタグについては、「 ルートフィルタタグの説明 」(P.38-8) の表 38-2 を参照してください。
[ルートフィルタの演算子 (Route Filter Operators)]	このルートフィルタの条件を作成するには、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。 NOT-SELECTED などのルートフィルタ演算子については、「 ルートフィルタタグの説明 」(P.38-8) の表 38-3 を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-11) を参照してください。

ルートフィルタの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートフィルタが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のルートフィルタを見つけることができます。ルートフィルタを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ルートフィルタの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートフィルタの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。
[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-11) を参照してください。

ルートフィルタの設定

ルートフィルタを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存のルートフィルタをコピーするには、対象となるルートフィルタを見つけて（「[ルートフィルタの検索](#)」(P.38-2) を参照）、コピーするルートフィルタの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しいルートフィルタを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のルートフィルタを更新するには、対象となるルートフィルタを見つけて（「[ルートフィルタの検索](#)」(P.38-2) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 表示される [ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します（[表 38-1](#)、[表 38-2](#)、および[表 38-3](#) を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックして、ルートフィルタを追加します。
-  **(注)** 次の「[ステップ 5](#)」に進むかどうかを決定する前に、「[ルートフィルタと影響を受けるデバイスの同期化](#)」(P.38-6) を参照してください。
-
- ステップ 5** ルートフィルタを更新している場合は、[リセット (Reset)] をクリックします。ルートフィルタに関連付けられたデバイスをリセットすると、該当ゲートウェイのコールが欠落します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-11) を参照してください。

ルートフィルタ条件の追加と編集

ルートフィルタの条件を追加すると、論理 OR を使用して既存のタグに追加演算子と項目を組み込むことによって、既存のルートフィルタをさらに詳細に指定できます。ルートフィルタの条件を追加できるのは、最初に新規のルートフィルタを追加するとき、または既存のルートフィルタを更新するときのどちらかです。

ルートフィルタを編集すると、既存のルートフィルタ条件を変更できます。

既存のルートフィルタを構成するルートフィルタ条件を追加および編集する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。

- ステップ 2** ルートフィルタ条件を追加または編集する先のルートフィルタを特定します。「[ルートフィルタの検索](#)」(P.38-2)を参照してください。
- ステップ 3** ルートフィルタ条件を追加する場合は、[条件の追加(Add Clause)]をクリックして、新しいルートフィルタ条件のデータ入力ウィンドウを表示します。この新しい条件のすべての演算子フィールドには、「NOT-SELECTED」と表示されます。
- ステップ 4** このルートフィルタの追加条件を作成するために、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) [North American Numbering Plan] のルートフィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、「[ルートフィルタタグの説明](#)」(P.38-8)を参照してください。

- ステップ 5** [保存(Save)]をクリックして、条件を追加します。
新しい条件は、ウィンドウ上の既存の条件の下に表示されます（必要に応じて下方にスクロールして、新しい情報を表示してください）。
- ステップ 6** 既存のルートフィルタ条件を編集する場合は、編集するルートフィルタ条件の真上にある[条件の編集(Edit Clause)]ボタンをクリックします。[ルートフィルタ条件の設定(Route Filter Clause Configuration)]ウィンドウが開き、選択したルートフィルタ条件の現在の定義が表示されます。
- ステップ 7** 選択したルートフィルタ条件を編集するには、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を変更し、データを入力します。



(注) [North American Numbering Plan] のルートフィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、「[ルートフィルタタグの説明](#)」(P.38-8)を参照してください。

- ステップ 8** [保存(Save)]をクリックして、このルートフィルタ条件の変更内容を保存します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-11)を参照してください。

ルートフィルタ条件の削除

ルートフィルタの条件を削除できるのは、新規ルートフィルタのセットアップ時、または既存ルートフィルタの更新時のどちらかです。既存のルートフィルタからルートフィルタ条件を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング(Call Routing)] > [ルートフィルタ(Route Filter)]の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートフィルタ条件が含まれているルートフィルタを特定します。
- ステップ 3** 削除する条件の先頭までスクロールダウンし、[条件の削除(Remove Clause)]をクリックします。
このルートフィルタ条件を削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

**注意**

各 [条件の削除 (Remove Clause)] ボタンは、そのボタンのすぐ下にある条件に適用されます。条件を削除するときは、削除する条件が正しいか慎重に確認してください。削除した条件を元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した条件を作成し直す必要があります。

- ステップ 4** 条件を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified Communications Manager により、条件がルートフィルタから削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.38-11) を参照してください。

ルートフィルタと影響を受けるデバイスの同期化

設定変更されたルートフィルタとデバイスを同期させるには、次の手順を行います。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。
[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するルートフィルタがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスと同期化するルートフィルタをクリックします。[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。



(注) ルートフィルタに関連付けられたデバイスを必要に応じてリセットすると、該当ゲートウェイのコールが欠落します。

- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.38-11) を参照してください。

ルートフィルタの削除

ルートフィルタを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルートパターンまたはハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目が使用しているルートフィルタは、削除することができません。ルートフィルタを使用しているルートパターンやハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目を検索するには、[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のルートフィルタを削除しようとすると、エラーメッセージが表示されます。現在使用されているルートフィルタを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目すべてに、別のルートフィルタを割り当てます。「[ルートパターンの設定](#)」(P.41-13) および「[トランスレーションパターンの設定](#)」(P.57-12) を参照してください。
- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目を削除します。「[ルートパターンの削除](#)」(P.41-14) および「[トランスレーションパターンの削除](#)」(P.57-13) を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。

ステップ 2 削除するルートフィルタを見つけます。「[ルートフィルタの検索](#)」(P.38-2) を参照してください。

ステップ 3 削除するルートフィルタのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。



注意

ルートフィルタを削除するときは、削除するルートフィルタが正しいか慎重に確認してください。削除したルートフィルタを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したルートフィルタを作成し直す必要があります。

ステップ 4 ルートフィルタを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



ヒント ルートフィルタの削除は、削除するルートフィルタを特定して表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.38-11) を参照してください。

ルート フィルタ タグの説明

タグは、ルート フィルタのコア コンポーネントです。タグでは、ダイヤルされる数字列の一部に名前を適用しています。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 は、LOCAL-AREA-CODE (972)、OFFICE-CODE (555)、および SUBSCRIBER (1234) ルート フィルタ タグで構成されています。

ルート フィルタ タグには、演算子が必要であり、フィルタに掛けるコールを決定するには、その他の値も必要な場合があります。

ルート フィルタ タグのフィールドでの値には、ワイルドカード文字 X、*、#、[、]、-、^、および 0 ~ 9 の数字が使用できます (ワイルドカード文字の定義については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」にある表 16-5 を参照してください)。表 38-2 の説明では、実際の数字を表すために [2-9] と XXXX という表記を使用しています。この表記では、[2-9] は、2 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表し、X は、0 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表します。したがって、「[2-9]XX の形式の 3 桁のエリア コード」という記述は、実際の数字 200 ~ 999、またはすべてのワイルドカード、または結果としてその範囲のパターンになる実際の数字とワイルドカードの任意の組み合わせを入力できるという意味です。

ルート フィルタ タグは、[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウの [番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。表 38-2 では、[North American Numbering Plan] のルート フィルタ タグについて説明します。

表 38-2 ルート フィルタ タグ

タグ	説明
AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のエリア コードは、長距離コールのエリア コードを指定します。
COUNTRY CODE	この 1 桁、2 桁、または 3 桁のコードは、国際コールの宛先国を指定します。
END-OF-DIALING	この 1 文字は、ダイヤルされた数字列の末尾を指定します。NANP 内でダイヤルされる国際番号には、# 文字がダイヤル終了信号として使用されます。
INTERNATIONAL-ACCESS	この 2 桁のアクセス コードは、国際ダイヤルを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 01 を使用します。
INTERNATIONAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 1 を使用します。
INTERNATIONAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由の国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 0 を指定します。
LOCAL-AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のローカル エリア コードは、10 桁のローカル コール用のローカル エリア コードを指定します。
LOCAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされるローカル コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LOCAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由のローカル コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 0 を使用します。

表 38-2 ルートフィルタ タグ (続き)

タグ	説明
LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる長距離コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LONG-DISTANCE-OPERATOR	この 1 桁または 2 桁のコードは、NANP 内のオペレータ経由の長距離コールを指定します。オペレータ経由のコールでは、このコードに 0 を使用し、オペレータにアクセスするには 00 を使用します。
NATIONAL-NUMBER	このタグは、国際コール用の数字列の中の、各国固有の部分指定します。
OFFICE-CODE	このタグは、7 桁の電話番号の最初の 3 桁 ([2-9]XX の形式) を指定します。
SATELLITE-SERVICE	この 1 桁のコードは、国際コール用の衛星接続にアクセスできるようにします。
SERVICE	この 3 桁のコードは、緊急用の 911、修理サービス用の 611、問い合わせ用の 411 を指定します。
SUBSCRIBER	このタグは、7 桁の電話番号の最後の 4 桁 (XXXX の形式) を指定します。
TRANSIT-NETWORK	この 4 桁の値は、長距離通信事業者を識別します。 TRANSIT-NETWORK 値には、先行する 101 通信事業者アクセスコード接頭部を指定しないでください。詳細については、「TRANSIT-NETWORK-ESCAPE」を参照してください。
TRANSIT-NETWORK-ESCAPE	この 3 桁の値は、長距離通信事業者 ID に先行します。このフィールドの値には 101 が指定されています。TRANSIT-NETWORK-ESCAPE 値に、4 桁の通信事業者識別コードを指定しないでください。詳細については、「TRANSIT-NETWORK」を参照してください。

ルート フィルタ タグの演算子は、そのタグに関連したダイヤル数字列の有無、さらに、場合によってはそのダイヤル数字列の内容に基づいて、コールがフィルタに掛けられるかどうかを決定します。演算子 EXISTS および DOES-NOT-EXIST は、ダイヤル数字列のその部分が存在するかどうかだけをチェックします。演算子 == は、実際にダイヤルされる数字を A 指定された値またはパターンと突き合えます。表 38-3 では、ルート フィルタ タグで使用される演算子について説明します。

表 38-3 ルートフィルタの演算子

演算子	説明
NOT-SELECTED	このタグに関連したダイヤル数字列に基づいて、コールをフィルタに掛けないことを指定します。 (注) この演算子が関連付けられるタグの有無により、Cisco Unified Communications Manager によるコールの転送が妨げられることはありません。
EXISTS	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されたときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がある場合だけです。
DOES-NOT-EXIST	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されないときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がない場合だけです。
==	このタグに関連したダイヤル数字列が、指定された値と一致するときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列があり、その数字列が、付加されているフィールドで指定された番号の範囲内である場合だけです。

**注意**

演算子 EXISTS、DOES-NOT-EXIST、または NOT-SELECTED を使用しているタグには、ルートフィルタ タグ値を入力しないでください。

例

例 1 : AREA-CODE と演算子 DOES-NOT-EXIST を使用するルート フィルタは、エリア コードを含まないすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 2 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 515 を使用するルート フィルタは、エリア コード 515 を含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 3 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 5[2-9]X を使用するルート フィルタは、520 ~ 599 の範囲のエリア コードを含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 4 : TRANSIT-NETWORK、演算子 ==、および項目 0288 を使用するルート フィルタは、通信事業者アクセス コード 1010288 を持つすべてのダイヤル数字列を選択します。

追加情報

「関連項目」(P.38-11) を参照してください。

関連項目

- [「ルートフィルタの設定値」 \(P.38-1\)](#)
- [「ルートフィルタの検索」 \(P.38-2\)](#)
- [「ルートフィルタの設定」 \(P.38-4\)](#)
- [「ルートフィルタ条件の追加と編集」 \(P.38-4\)](#)
- [「ルートフィルタ条件の削除」 \(P.38-5\)](#)
- [「ルートフィルタと影響を受けるデバイスの同期化」 \(P.38-6\)](#)
- [「ルートフィルタの削除」 \(P.38-7\)](#)
- [「ルートフィルタ タグの説明」 \(P.38-8\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」

■ 関連項目



CHAPTER 39

ルート グループの設定

ルート グループの追加または削除、ルート グループへのデバイスの追加、ルート グループからのデバイスの削除については、次のトピックを参照してください。

- 「ルート グループの設定値」(P.39-1)
- 「ルート グループの検索」(P.39-4)
- 「ルート グループの設定」(P.39-5)
- 「ルート グループへのデバイスの追加」(P.39-6)
- 「ルート グループからのデバイスの削除」(P.39-6)
- 「ルート グループの削除」(P.39-7)
- 「関連項目」(P.39-8)

ルート グループの設定値

ルート グループの設定では、ゲートウェイおよびトランクが選択される順序を指定します。ルート グループにより、発信トランク選択用のゲートウェイとポートのリストに優先順位を付けることができます。

たとえば、2つの長距離通信事業者を使用している場合、通話料の安い通信事業者の長距離コールを優先させるように、ルート グループを追加できます。最初のトランクが使用不能の場合に限り、コールは、通話料の高い通信事業者の方にルート指定されます。



(注)

ローカル ルート グループ機能の設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ローカル ルート グループ](#)」の章を参照してください。

表 39-1 では、ルート グループの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.39-8) を参照してください。

表 39-1 ルートグループの設定値

フィールド	説明
[ルートグループ情報 (Route Group Information)]	
[ルートグループ名 (Route Group Name)]	このルートグループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。
[分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)]	ドロップダウンリストボックスで、次の分配アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [優先度順 (Top Down)] : この分配アルゴリズムを選択すると、ルートグループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。 • [ラウンドロビン (Circular)] : この分配アルゴリズムを選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分配を、ルートグループの ($n+1$) 番目のメンバーから開始します。n 番目のメンバーは、Cisco Unified Communications Manager が最後にコールを延長したメンバーです。n 番目のメンバーが、ルートグループの最後のメンバーの場合、Cisco Unified Communications Manager はルートグループの先頭からコールの分配を開始します。 デフォルト値は [ラウンドロビン (Circular)] です。
[ルートグループメンバー情報 (Route Group Member Information)]	
[ルートグループに追加するデバイスの検索 (Find Devices to Add to Route Group)]	
[デバイス名に含まれる (Device Name contains)]	検索するデバイス名に含まれる文字を入力し、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。入力した文字と一致するデバイス名が [使用可能なデバイス (Available Devices)] ボックスに表示されます。 <p>(注) 使用可能なデバイスをすべて検索するには、テキストボックスを空白のままにして、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。</p>
[使用可能なデバイス (Available Devices)]	[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスでデバイスを選択し、[ルートグループに追加] をクリックして、そのデバイスを [選択されたデバイス (Selected Devices)] リストボックスに追加します。 <p>QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用するゲートウェイだけがリストに表示されます。非 QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用し、制御クラスタ間トランクを使用するゲートウェイはリストに表示されません。</p> <p>QSIG ゲートウェイを含むルートリストにルートグループを追加した場合、H.323 ゲートウェイはリストには表示されません。</p>

表 39-1 ルートグループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポート (Port)]	このデバイスが個々に設定可能なポートをサポートしている場合、そのポートを選択します (個々のポートの選択が可能なデバイスとして、Cisco Access Analog ゲートウェイ、Cisco MGCP Analog ゲートウェイ、T1 CAS があります)。サポートしていない場合は、デフォルト値 (選択したデバイスによって、[すべて (All)] または [選択不能 (None Available)]) を選択します。使用可能なポートがないデバイスの場合 ([選択不能 (None Available)])、そのデバイスはすでにルートグループに追加されているか、またはルートグループに追加できない可能性があります。
[現在のルートグループメンバ (Current Route Group Members)]	
[選択されたデバイス (Selected Devices)]	<p>デバイスの優先順位を変更するには、[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックス内のデバイス名を選択します。そのリストボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのデバイスを上下に移動させてください。</p> <p>[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックス内のデバイスの優先順位を逆転するには、[選択されたデバイスの順番を逆にする (Reverse Order of Selected Devices)] をクリックします。</p> <p>ルートグループ内のデバイスの順序の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートプランの概説」を参照してください。</p>
[削除されたデバイス (Removed Devices)]	<p>[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスでデバイスを選択し、そのデバイスを [削除されたデバイス (Removed Devices)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p>(注) ルートグループには、少なくとも 1 つのデバイスを入れる必要があります。</p>
[ルートグループメンバ (Route Group Members)]	
(デバイスのリスト)	<p>このペインには、このルートグループに追加されたデバイスへのリンクが表示されます。いずれかのデバイス名をクリックして、その特定のデバイスの設定ウィンドウに移動します。</p> <p>(注) 新しいルートグループを追加する場合は、そのルートグループを保存するまでこのリストは表示されません。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」(P.39-8) を参照してください。

ルートグループの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートグループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のルートグループを見つけることができます。ルートグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ルートグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートグループの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] の順に選択します。
- [ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- ドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.39-8) を参照してください。

ルートグループの設定

ルートグループを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 既存のルートグループをコピーするには、対象となるルートグループを見つけて（「[ルートグループの検索](#)」(P.39-4) を参照）、コピーするルートグループの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しいルートグループを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のルートグループを更新するには、対象となるルートグループを見つけて（「[ルートグループの検索](#)」(P.39-4) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 表示される [ルートグループの設定 (Route Group Configuration)] ウィンドウで、[ルートグループ名 (Route Group Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。
-
-  **ワンポイントアドバイス** ルートグループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、ルートグループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasAA1」は、Dallas の Cisco オフィス用の Cisco Access Analog ルートグループを特定します。
-
- ステップ 4** 適切な設定値を選択します（[表 39-1](#) を参照）。
-  **(注)** 新しいルートグループを追加する前に、新しいルートグループに対して少なくとも 1 つのデバイスを選択しておく必要があります。
-
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、このルートグループを追加または更新します。
-

追加情報

「関連項目」(P.39-8) を参照してください。

ルート グループへのデバイスの追加

新規のルート グループまたは既存のルート グループに、デバイスを追加することができます。複数のルート グループにゲートウェイを追加できます。ルート グループにゲートウェイを追加すると、そのゲートウェイは [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウに表示されません。既存のルート グループにデバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つのゲートウェイおよびトランクのデバイスを指定しておく必要があります。デバイスが常駐できるのは 1 つのルート グループ内だけです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] の順に選択します。
 - ステップ 2** デバイスを追加する先のルート グループを特定します。「[ルート グループの検索](#)」(P.39-4) を参照してください。
 - ステップ 3** [使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスで追加するデバイスを選択し、[ルートグループに追加 (Add to Route Group)] をクリックして、デバイスを [選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスへ移動します。このルート グループへ追加する各デバイスに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 4** [選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスで、新しいデバイスがこのルート グループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、デバイスをクリックしてから、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、デバイスを移動します。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、新しいデバイスを追加し、このルート グループのデバイス順序を更新します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.39-8) を参照してください。

ルート グループからのデバイスの削除

新規のルート グループまたは既存のルート グループから、デバイスを削除することができます。既存のルート グループからデバイスを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除するデバイスが入っているルート グループを特定します。「[ルート グループの検索](#)」(P.39-4) を参照してください。
 - ステップ 3** [選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスで削除するデバイスを選択し、[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスの下にある下矢印をクリックして、デバイスを [削除されたデバイス (Removed Devices)] リスト ボックスへ移動します。このルート グループから削除する各デバイスに対して、このステップを繰り返します。



(注) ルートグループには、少なくとも 1 つのデバイスを入れる必要があります。

ステップ 4 デバイスを削除するには、[保存(Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.39-8) を参照してください。

ルートグループの削除

ルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート/ハントリストが参照するルートグループは削除できません。ルートグループを使用しているルートリストを検索するには、[ルートグループの設定(Route Group Configuration)] ウィンドウの[関連リンク(Related Links)] ドロップダウンリストボックスにある[依存関係レコード(Dependency Records)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中のルートグループを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のルートグループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- ルートグループを削除する前に、そのルートグループが属しているすべてのルートリストから、そのルートグループを削除します。「ルートリストからのルートグループの削除」(P.40-6) を参照してください。



ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング(Call Routing)] > [ルート/ハント(Route/Hunt)] > [ルートグループ(Route Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートグループを特定します。「ルートグループの検索」(P.39-4) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除(Delete Selected)] をクリックします。
- ルートグループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ルートグループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル(Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified Communications Manager は、そのルートグループをルートグループリストから削除します。



(注) 該当するルート グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウから複数のルート グループを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルート グループを削除できます。

追加情報

「関連項目」(P.39-8) を参照してください。

関連項目

ルート グループ

- 「ルート グループの設定値」(P.39-1)
- 「ルート グループの検索」(P.39-4)
- 「ルート グループの設定」(P.39-5)
- 「ルート グループへのデバイスの追加」(P.39-6)
- 「ルート グループからのデバイスの削除」(P.39-6)
- 「ルート グループの削除」(P.39-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート プランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」

ルート リスト

- 「ルート リストの追加」(P.40-3)
- 「ルート リストへのルート グループの追加」(P.40-4)



CHAPTER 40

ルート リストの設定

ルート リストは、優先順位が指定されている 1 組のルート グループに関連付けられます。また、ルート リストは、1 つ以上のルート パターンに関連付けられ、そのルート グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、発信コールに使用可能なデバイスを検索するときの進行を制御します。

ルート リストには、ルート グループだけを入れることができます。

各ルート リストには、少なくとも 1 つのルート グループを入れる必要があります。各ルート グループには、少なくとも 1 つのデバイス、たとえば、使用可能なゲートウェイが含まれます。Cisco Unified Communications Manager は、デバイス タイプに基づいて、各ルート グループ内で、一部またはすべてのポートをリソースとして選択できます。一部のデバイス（たとえば、デジタル アクセス）では、すべてのポートの選択しかできません。

ルート グループは、任意の数のルート リストに追加できます。

ルート リストの追加または削除、リスト内のルート グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- 「ルート リストの検索」(P.40-1)
- 「ルート リストの追加」(P.40-3)
- 「ルート リストへのルート グループの追加」(P.40-4)
- 「ルート リストからのルート グループの削除」(P.40-6)
- 「ルート リスト内のルート グループの順位の変更」(P.40-6)
- 「ルート リストと影響を受けるルート グループの同期化」(P.40-7)
- 「ルート リストの削除」(P.40-8)

ルート リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのルート リストが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のルート リストを見つけることができます。ルート リストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ルート リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルート リストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。

[ルートリストの検索と一覧表示 (Find and List Route Lists)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.40-9) を参照してください。

ルートリストの追加

ルートリストを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.), ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイントアドバイス

ルートリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの、Local Access Transport Area (LATA) 間の無料コール用のルートリストを特定します。

[説明 (Description)] フィールドに説明を追加します。

- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager グループを選択します。



(注) ルートリストは、グループで最初の Cisco Unified Communications Manager (そのグループのプライマリ Cisco Unified Communications Manager) に登録されます。



(注) Cisco Unified Communications Manager が 1 つしか設定されていない Cisco Unified Communications Manager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

警告: 選択された Cisco Unified Communications Manager グループに Cisco Unified Communications Manager が 1 つしか設定されていません。冗長性確保のための制御プロセスのため、2 つ以上の Cisco Unified Communications Manager を含む Cisco Unified Communications Manager グループを選択してください。

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、このルートリストを追加します。



(注) コールを受信させるため、このルートリストにルートグループを少なくとも 1 つ追加する必要がありますことを示すポップアップメッセージが表示されます。

[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウに、新しく追加されたルートリストが表示されます。

- ステップ 6** 新しいルートリストの [このルートリストを有効にする (Enable this Route List)] チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このルートリストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けませんが、このルートリストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップウィンドウが表示されます。

ステップ 7 新しいルートリストに少なくとも 1 つのルートグループを追加します。

このリストにルートグループを追加するには、[ルートグループの追加 (Add Route Group)] をクリックし、「ルートリストへのルートグループの追加」(P.40-4) の「ステップ 4」～「ステップ 8」を実行します。



(注) 着信側と発信側のトランスフォーメーション情報を参照するには、このルートリストに属しているルートグループの名前をクリックします。ルートグループの名前は、[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウの一番下にある [ルートリスト詳細 (Route List Details)] リストボックスに表示されています。この操作によって、選択したルートグループの [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.40-9) を参照してください。

ルートリストへのルートグループの追加

新規のルートリストまたは既存のルートリストに、ルートグループを追加することができます。ルートグループは、1 つ以上のルートリストに組み込むことができます。既存のルートリストにルートグループを追加する手順は、次のとおりです。



(注) QSIG プロトコルを使用する MGCP ゲートウェイを含むルートグループ (QSIG ルートグループ) と、H.323 プロトコルを使用するゲートウェイを含むルートグループ (H.323 ルートグループ) を、同じルートリストに追加することはできません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートグループとルートリスト」を参照してください。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つのルートグループを作成し、ルートリストを追加しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。
- ステップ 2** ルートグループを追加する先のルートリストを特定します。「ルートリストの検索」(P.40-1) を参照してください。
- ステップ 3** [ルートグループの追加 (Add Route Group)] をクリックして、ルートグループを追加します。
[ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [ルートグループ (Route Group)] ドロップダウンリストボックスから、ルートリストに追加するルートグループを選択します。



(注) ルートリストに QSIG ルートグループが含まれている場合、H.323 ルートグループはドロップダウンリストボックスに表示されません。ルートグループに H.323 ルートグループが含まれている場合、QSIG ルートグループはドロップダウンリストボックスに表示されません。



(注) ローカルルートグループ機能を設定する場合は、ドロップダウンリストボックスで [標準ローカルルートグループ (Standard Local Route Group)] エントリを選択して、標準ローカルルートグループをルートリストに追加します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「ローカルルートグループ」の章を参照してください。

ステップ 5 このルートグループを介してルーティングされるコールについて、発信側の番号を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、発信側トランスフォーメーションをセットアップします。



(注) 発信側トランスフォーメーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「発信側および着信側のトランスフォーメーション」を参照してください。

ステップ 6 このルートグループを介してルーティングされるコールについて、ダイヤルされる数字を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、着信側トランスフォーメーションをセットアップします。



(注) 着信側トランスフォーメーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「着信側番号トランスフォーメーション設定値」を参照してください。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックして、ルートグループを追加します。

ウィンドウの下部にある [ルートリスト詳細 (Route List Details)] リストに、ルートグループの詳細情報が表示されます。

ステップ 8 このリストにルートグループをさらに追加するには、[ルートグループの追加 (Add Route Group)] をクリックし、「ステップ 3」～「ステップ 7」を実行します。

ステップ 9 ルートリストへのルートグループの追加が終了したら、[保存 (Save)] をクリックします。



(注) 次の「ステップ 10」に進むかどうかを決定する前に、「ルートリストと影響を受けるルートグループの同期化」(P.40-7) を参照してください。

ステップ 10 [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウが表示されたら、[リセット (Reset)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.40-9) を参照してください。

ルートリストからのルートグループの削除

新規のルートリストまたは既存のルートリストから、ルートグループを削除することができます。既存のルートリストからルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーから [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートグループが入っているルートリストを特定します。「[ルートリストの検索](#)」(P.40-1) を参照してください。
- ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、ルートグループ名を選択します。
-  **(注)** このリストから複数のルートグループを選択するには、**Shift** キーを押し、目的のルートグループをクリックしてください。
-
- ステップ 4** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストボックスの下にある下矢印をクリックして、選択したルートグループを [削除されたグループ (Removed Groups)] リストに移動します。
- ステップ 5** ルートグループを削除するには、[保存 (Save)] をクリックします。ページが更新されたときに、そのルートグループがルートリストから削除されています。
- ステップ 6** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウの [リセット (Reset)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.40-9) を参照してください。

ルートリスト内のルートグループの順位の変更

Cisco Unified Communications Manager は、ルートリストに表示されている順に、ルートグループにアクセスします。ルートグループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。
- ステップ 2** ルートグループの順位を変更するルートリストを特定します。「[ルートリストの検索](#)」(P.40-1) を参照してください。
- ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、ルートグループを選択します。
- ステップ 4** リスト内でルートグループを上下に移動させるには、ルートグループを選択して、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。



(注) 着信側と発信側のトランスフォーメーション情報については、左側にある [ルートリスト詳細 (Route List Details)] リストのルートグループアイコンまたはルートグループ名をクリックしてください。この操作により、対応するルートグループの [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット (Reset)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.40-9) を参照してください。

ルートリストと影響を受けるルートグループの同期化

ルートグループを設定変更されたルートリストに同期化する手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。
[ルートリストの検索と一覧表示 (Find and List Route Lists)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するルートリストがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 適用可能なルートグループを同期化するルートリストの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のルートリストをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.40-9) を参照してください。

ルートリストの削除

Cisco Unified Communications Manager は、ルートリストをルートパターンに関連付けます。ルートリストがルートパターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。ルートリストを使用しているルートパターンを検索するには、[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。



ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

ルートリストを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートリストを特定します。「[ルートリストの検索](#)」(P.40-1) を参照してください。
- ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
ルートリストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ルートリストを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



注意

ルートリストが 1 つ以上のルートパターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.40-9) を参照してください。

関連項目

- 「ルートリストの検索」(P.40-1)
- 「ルートリストの追加」(P.40-3)
- 「ルートリストへのルートグループの追加」(P.40-4)
- 「ルートリストからのルートグループの削除」(P.40-6)
- 「ルートリスト内のルートグループの順位の変更」(P.40-6)
- 「ルートリストと影響を受けるルートグループの同期化」(P.40-7)
- 「ルートリストの削除」(P.40-8)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「プレゼンスとルートリストの連動について」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「ローカルルートグループ」



CHAPTER 41

ルート パターンの設定

ルート パターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「ルート パターンの設定値」 (P.41-1)
- 「ルート パターンの検索」 (P.41-11)
- 「ルート パターンの設定」 (P.41-13)
- 「ルート パターンの削除」 (P.41-14)
- 「関連項目」 (P.41-14)

ルート パターンの設定値

ルート パターンは、アドレスを表す数字のストリングと、ルート リストまたはゲートウェイにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このルート パターンは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ルート パターンは、ルート フィルタおよびルート リストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ルート パターンの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」を参照してください。



(注)

ローカル ルート グループ機能が設定されている場合のルート パターンおよびその使用方法と設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ローカル ルート グループ](#)」の章を参照してください。

表 41-1 では、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.41-14) を参照してください。

表 41-1 ルート パターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[ルートパターン (Route Pattern)]	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むルート パターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカル アクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク 番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。</p> <p>(注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するディレクトリ ルート パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターン、トランスレーション パターン、電話番号、コール パーク番号、コール ピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、またはミートミー番号をチェックしてください。また、必要に応じてルート プラン レポートもチェックしてください。</p> <p>ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。</p>
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>パーティションを使用してルート パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。ルート パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに [<なし (None)>] を選択します。パーティションの使用の詳細については、「パーティションの設定」(P.53-1) を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索」(P.53-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) ルート パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	<p>ルート パターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[番号計画 (Numbering Plan)]	<p>番号計画を選択します。</p>

表 41-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>ルートパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのルートフィルタが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。「ルートフィルタの検索」 (P.38-2) の手順に従って、ルートフィルタ名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、このルートパターンに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [エクゼクティブオーバーライド (Executive Override)] : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 [フラッシュオーバーライド (Flash Override)] : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 [フラッシュ (Flash)] : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 [即時 (Immediate)] : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 [プライオリティ (Priority)] : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 [標準 (Routine)] : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 [デフォルト (Default)] : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p>(注) 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の章にある「優先順位」を参照してください。</p>
[リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、特定のリソースプライオリティネームスペースネットワークドメインを選択します。リソースプライオリティネームスペースネットワークドメインを設定するには、[システム (System)] > [MLPP] > [ネームスペース (Namespace)] > [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] の順に選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』を参照してください。</p>

表 41-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートクラス (Route Class)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このトランスレーション パターンに対するルート クラスの設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] • [ボイス (Voice)] • [データ (Data)] • [衛星回避 (Satellite Avoidance)] • [ホットラインボイス (Hotline voice)] • [ホットラインデータ (Hotline data)] <p>ルート クラスは、コールのトラフィック クラスを識別する DSN コードです。ルート クラスによって、ダウンストリーム デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。デフォルトの設定では、着信コールの既存のルート クラスが使用されます。</p> <p>デフォルト以外のルート クラス設定を使用するのは、着信 T1 CAS ルート クラス番号を Cisco Unified Communications Manager ルート クラス値に変換 (および番号を除去) する場合だけにしてください。パターン設定を使用するそれ以外の着信コールにデフォルト以外のルート クラス設定を割り当てないでください。</p>
[ゲートウェイ/ルート リスト (Gateway/Route List)]	<p>ルート パターンを追加するゲートウェイまたはルート リストを選択します。</p> <p>(注) ゲートウェイがルート グループに含まれている場合、そのゲートウェイはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。このドロップダウン リスト ボックスでゲートウェイが選択されると、Cisco Unified Communications Manager はそのゲートウェイ内のポート全部を使用してこのルート パターンをルーティングまたはブロックします。この操作は、MGCP ゲートウェイには適用されません。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>この [ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このルート パターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など)、またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このルート パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラーなし (No Error)] • [未割り当ての番号 (Unallocated Number)] • [コールの拒否 (Call Rejected)] • [番号の変更 (Number Changed)] • [番号形式が無効 (Invalid Number Format)] • [優先レベルの超過 (Precedence Level Exceeded)]

表 41-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	[コールの分類 (Call Classification)] は、このルート パターンを介してルート指定されるコールが、ローカル ネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。デフォルト値は [オフネット (OffNet)] です。ルート パターンを追加する場合は、[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)] チェックボックスをオフにすると、[コールの分類 (Call Classification)] が [オンネット (OnNet)] に設定されます。
[デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)]	このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。このチェックボックスをオンにすると、関連ゲートウェイまたはトランク上で、発信コールが [オフネット (OffNet)] または [オンネット (OnNet)] であると見なすように設定された [コールの分類 (Call Classification)] 設定値が使用されます。
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	外部ダイヤルトーンを提供するには、このチェックボックスをオンにします。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)]	オーバーラップ送信が有効になっている場合、Cisco Unified Communications Manager は、コールを PSTN に渡すときに PSTN のオーバーラップ送信に依存して、収集する数字の数とコールのルーティング先を決定します。オーバーラップ送信をサポートしている PSTN にコールをルーティングするゲートウェイまたはルート リストに割り当てられていると思われる各ルート パターンに対して、このチェックボックスをオンにします。 Cisco Unified Communications Manager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC および FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)] または [CMC が必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスをオンにすると、[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスは使用不可になります。
[緊急優先 (Urgent Priority)]	ダイヤル プランに重複したルート パターンが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません (検索結果を基準にして数字列をダイヤルできる場合を含む)。Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。
[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)]	このルート パターンで 強制承認コードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 Cisco Unified Communications Manager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスをオンにすると、[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスは使用不可になります。

表 41-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[承認レベル (Authorization Level)]	<p>ルート パターンの承認レベルを入力します。このフィールドに指定する数値によって、このルート パターンを介して正常にコールをルート指定するために必要な最小限の承認レベルが決まります。</p> <p>ヒント 承認コードをアクティブにするには、[FACが必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスをオンにする必要があります。このチェックボックスをオンにしない場合、ルート パターンの挿入時に、承認コードをアクティブにできないことを知らせるメッセージが表示されます。コードをアクティブにするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、[FACが必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスをオンにして、[挿入 (Insert)] をクリックします。後でコードをアクティブにするには、[OK] をクリックします。</p>
[CMCが必須 (Require Client Matter Code)]	<p>このルート パターンでクライアント識別コードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスをオンにすると、[CMCが必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスは使用不可になります。</p>
[発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を Calling Line Identification (CLID; 発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p> <p>(注) ルート リスト内のルート グループに割り当てられる発呼側トランスフォーメーション設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション設定値をすべて上書きします。</p>
[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーション マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発呼側番号トランスフォーメーション設定値」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 41-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルートパターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者名の表示 (CNIP/CNIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このルートパターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信者の名前を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発呼者名の情報を表示させる場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発呼者名の情報を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>
[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX (Private Branch Exchange; 構内交換機) への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 41-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側番号計画 (Calling Party Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準(National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知(Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明(Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。
[接続側トランスフォーメーション(Connected Party Transformations)]	
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先回線 ID の表示 (COLP/COLR) を使用します。これは、コールごとに着信側の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある 表 16-11 を参照してください。</p>

表 41-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先名の表示 (CONP/CONR) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>[番号の削除 (Discard Digits)] ドロップダウン リスト ボックスから、このルート パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。北米番号計画の数字破棄命令の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p>(注) ルート リスト内のルート グループに割り当てられる着信側トランスフォーメーション設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている着信側トランスフォーメーション設定値をすべて上書きします。</p>
[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーション マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、トランスフォーメーションは行われません。Cisco Unified Communications Manager は、ダイヤルされたとおりの数字を正確に送信します。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 41-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[着信側番号計画 (Called Party Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。

表 41-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ISDN ネットワーク固有ファシリティの情報要素 (ISDN Network-Specific Facilities Information Element)]	
[ネットワークサービ スプロトコル (Network Service Protocol)]	[ネットワークサービスプロトコル (Network Service Protocol)] ドロップダウンリスト ボックスから、着側ゲートウェイのプロトコルと一致する PRI プロトコルを選択します。
[通信事業者識別コー ド (Carrier Identification Code)]	該当する通信事業者識別コード (0、3、または 4 桁) を [通信事業者識別コード (Carrier Identification Code)] フィールドに入力します。通信事業者識別コードを使用すると、お客様は長距離電話会社のサービスにアクセスできます。 次のリストは、よく使用される通信事業者識別コードの例です。 <ul style="list-style-type: none"> • ATT : 0288 • Sprint : 0333 • WorldCom/MCI : 0222 NANP 通信事業者識別コードの完全なリストは、 http://www.nanpa.com/ を参照してください。
[ネットワークサービ ス (Network Service)]	適切なネットワーク サービスを選択します。この値は、[ネットワークサービスプロトコル (Network Service Protocol)] フィールドで選択したネットワーク サービス プロトコルによって異なります。
[サービスパラメータ 名 (Service Parameter Name)]	このフィールドには、選択したネットワーク サービスに関連するサービスパラメータ名が表示されます。ネットワーク サービスのサービスパラメータが存在しない場合、このフィールドには <存在しない> が表示されます。
[サービスパラメータ 値 (Service Parameter Value)]	適切なサービスパラメータ値を入力します。有効となるエント리는、数字 (0 ~ 9) です。ネットワーク サービスのサービスパラメータが存在しない場合、このフィールドは Cisco Unified Communications Manager の管理ページによって無効にされます。

追加情報

「関連項目」(P.41-14) を参照してください。

ルートパターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートパターンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のルートパターンを見つけることができます。ルートパターンを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ルートパターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートパターンの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] の順に選択します。
- [ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.41-14) を参照してください。

ルートパターンの設定

ルートパターンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- ゲートウェイ
- ルートリスト
- パーティション ([<なし(None)>] を使用しない場合)
- ルートフィルタ ([<なし(None)>] を使用しない場合)



ワンポイントアドバイス

ゲートウェイに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべて、そのゲートウェイの外にルート指定されます。同様に、82XX は、電話番号 8200 ~ 8299 をルーティングします。ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「[特殊文字と設定値](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のルートパターンをコピーするには、対象となるルートパターンを見つけて（「[ルートパターンの検索](#)」 (P.41-11) を参照）、コピーするルートパターンの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しいルートパターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存のルートパターンを更新するには、対象となるルートパターンを見つけて（「[ルートパターンの検索](#)」 (P.41-11) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。



(注) [ゲートウェイ/ルートリスト (Gateway/Route List)] フィールドの値を変更する場合は、[編集 (Edit)] リンクを選択する前に、[保存 (Save)] をクリックしておく必要があります。[保存 (Save)] をクリックしておかないと、直前の [ゲートウェイ/ルートリスト (Gateway/Route List)] フィールドにリンクします。

ステップ 3 表示される [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します（[表 41-1](#) を参照）。



(注) [ゲートウェイ/ルートリスト (Gateway/Route List)] フィールドの横にある [編集 (Edit)] リンクを使用すると、ゲートウェイが含まれているか、ルートリストが含まれているかに応じて、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウまたは [ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウが確認のために表示されます。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウには、指定したゲートウェイに関連付けられているデバイスが表示されます。[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウには、指定したルートリストに関連付けられているルートグループが表示されます。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.41-14) を参照してください。

ルート パターンの削除

ルート パターンの削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルート パターンを見つけます。「ルート パターンの検索」(P.41-11) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するルート パターンのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ルート パターンの削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



ヒント ルート パターンの削除は、削除するルート パターンを特定して表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「関連項目」(P.41-14) を参照してください。

関連項目

- 「ルート パターンの設定値」(P.41-1)
- 「ルート パターンの検索」(P.41-11)
- 「ルート パターンの設定」(P.41-13)
- 「ルート パターンの削除」(P.41-14)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- 「ルート フィルタの設定」(P.38-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート プランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」



CHAPTER 42

回線グループの設定

回線グループの追加または削除、回線グループへの電話番号の追加、回線グループからの電話番号の削除については、次のトピックを参照してください。

- 「回線グループの設定値」 (P.42-1)
- 「回線グループの検索」 (P.42-7)
- 「回線グループの設定」 (P.42-8)
- 「回線グループへのメンバーの追加」 (P.42-9)
- 「回線グループからのメンバーの削除」 (P.42-9)
- 「回線グループの削除」 (P.42-10)
-
- 「関連項目」 (P.42-11)

回線グループの設定値

回線グループの設定では、電話番号が選択される順序を指定します。Cisco Unified Communications Manager は、コール分配アルゴリズムおよび Ring No Answer Reversion (RNAR) Timeout (RNA 復帰タイムアウト) 設定に基づいて、回線グループのアイドルまたは対応可能状態のメンバーに対して、コールを分配します。



(注)

ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能を使用して、回線グループに属する DN へのコールをピックアップすることはできません。



ヒント

メンバー（電話番号）を含まない空の回線グループを設定することは可能ですが、Cisco Unified Communications Manager では、この設定を使用してコールをルーティングすることはできません。回線グループにメンバーが含まれていない場合、空の回線グループにコールがルーティングされると、ハント リストはハントを停止します。この状況を避けるため、回線グループには少なくとも 1 つのメンバーを必ず設定してください。

表 42-1 では、回線グループの設定値について説明します。

表 42-1 回線グループの設定値

フィールド	説明
[回線グループ情報(Line Group Information)]	
[回線グループ名 (Line Group Name)]	この回線グループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。
[RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)]	コールの応答がない場合や、最初のハント オプション ([次のメンバへ、その後ハントリスト内の次のグループへ (Try next member; then, try next group in Hunt List)]) が選択されている場合に、この回線グループで次に対応可能またはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループに対して、Cisco Unified Communications Manager がコールの分配を開始するまでの時間を、秒単位で入力します。[RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] は、回線グループ レベルで、すべてのメンバーに適用されます。
[分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)]	ドロップダウン リスト ボックスで、回線グループ レベルで適用される次の分配アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [優先度順 (Top Down)] : この分配アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。 [ラウンドロビン (Circular)] : この分配アルゴリズムを選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分配を、回線グループの (n+1) 番目のメンバーから開始します。n 番目のメンバーは、Cisco Unified Communications Manager が最後にコールを延長したメンバーです。n 番目のメンバーが、回線グループの最後のメンバーの場合、Cisco Unified Communications Manager は回線グループの先頭からコールの分配を開始します。 [最長アイドル時間 (Longest Idle Time)] : この分配アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドル時間が最長のメンバーから最短のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がアイドル状態のメンバーだけにコールを分配します。 [ブロードキャスト (Broadcast)] : この分配アルゴリズムを選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、回線グループでアイドルまたは対応可能状態のすべてのメンバーに対して、同時にコールを分配します。ブロードキャスト分配アルゴリズムを使用する場合のその他の制限事項については、[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] フィールドの説明にある注を参照してください。 <p>デフォルト値は、[最長アイドル時間 (Longest Idle Time)] です。</p>

表 42-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ハントオプション(Hunt Options)]	
[応答なし (No Answer)]	<p>任意の分配アルゴリズムに対して、応答のない回線グループのメンバーにコールが分配されている場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。このオプションは、メンバー レベルで適用されます。ドロップダウン リストボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次のメンバへ、その後ハントリスト内の次のグループへ (Try next member; then, try next group in Hunt List)] : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。分配に失敗した場合、Cisco Unified Communications Manager はハント リスト内の次の回線グループに対して分配を試行します。 • 次のメンバへ、ただし次のグループにはハントしない] : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco Unified Communications Manager は分配を停止します。 • [残りのメンバにハントせず、すぐに次のグループへ (Skip remaining members, and go directly to next group)] : このハント オプションを選択すると、この回線グループの最初のメンバーに対する分配の試行時間が [RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] の設定値を経過した場合、Cisco Unified Communications Manager が残りのメンバーをスキップします。Cisco Unified Communications Manager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • [ハント中止 (Stop hunting)] : このハント オプションを選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、この回線グループの最初のメンバー、およびコールに応答しないメンバーに対してコールの分配を試行した後、ハントを停止します。

表 42-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[話し中 (Busy)]	<p>任意の分配アルゴリズムに対して、ビジー状態の回線グループのメンバーにコールが分配されている場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次のメンバへ、その後ハントリスト内の次のグループへ (Try next member; then, try next group in Hunt List)] : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。分配に失敗した場合、Cisco Unified Communications Manager はハント リスト内の次の回線グループに対して分配を試行します。 • [次のメンバへ、ただし次のグループにはハントしない] : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco Unified Communications Manager は分配を停止します。 • [残りのメンバにハントせず、すぐに次のグループへ (Skip remaining members, and go directly to next group)] : このハント オプションを選択すると、ビジー状態のメンバーがいた場合、Cisco Unified Communications Manager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco Unified Communications Manager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • [ハント中止 (Stop hunting)] : このハント オプションを選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、この回線グループでビジー状態の最初のメンバーに対してコールの分配を試行した後、ハントを停止します。

表 42-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[使用不可 (Not Available)]	<p>任意の分配アルゴリズムに対して、使用不可の回線グループのメンバーにコールが分配されている場合に使用する Cisco Unified Communications Manager のハント オプションを選択します。[使用不可 (Not Available)] 状態が発生するのは、該当する DN に関連付けられている電話機が、すべて未登録である場合です。また、エクステンション モビリティを使用しているときに、DN またはユーザがログインしていない場合も [使用不可 (Not Available)] になります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次のメンバへ、その後ハントリスト内の次のグループへ (Try next member; then, try next group in Hunt List)] : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。分配に失敗した場合、Cisco Unified Communications Manager はハント リスト内の次の回線グループに対して分配を試行します。 • [次のメンバへ、ただし次のグループにはハントしない] : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified Communications Manager がメンバーに対してコールを分配します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco Unified Communications Manager は分配を停止します。 • [残りのメンバにハントせず、すぐに次のグループへ (Skip remaining members, and go directly to next group)] : このハント オプションを選択すると、最初の使用不可のメンバーがいた場合、Cisco Unified Communications Manager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco Unified Communications Manager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • [ハント中止 (Stop hunting)] : このハント オプションを選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、この回線グループで使用不可の最初のメンバーに対してコールの分配を試行した後、ハントを停止します。
[回線グループメンバー情報 (Line Group Member Information)]	
[回線グループに追加する電話番号の検索 (Find Directory Numbers to Add to Line Group)]	
[パーティション (Partition)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この回線グループのルート パーティションを選択します。デフォルト値は、[<なし (None)>] です。</p> <p>[検索 (Find)] をクリックすると、[使用可能 DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスに、選択されたパーティションに属する電話番号 (DN) がすべて表示されます。</p>
[次を含む電話番号 (Directory Number Contains)]	<p>検索する電話番号に含まれる文字を入力し、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。入力した文字と一致する電話番号が [使用可能 DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] ボックスに表示されます。</p>

表 42-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[使用可能 DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)]	[使用可能 DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスで電話番号を選択し、[回線グループに追加 (Add to Line Group)] をクリックして、その電話番号を [選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスに追加します。
[現在の回線グループメンバー (Current Line Group Members)]	
[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)]	<p>電話番号の優先順位を変更するには、[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックス内の電話番号を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でその電話番号を上下に移動させてください。</p> <p>[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックス内の電話番号の優先順位を逆転するには、[選択された DN/ルートパーティションの順番を逆にする (Reverse Order of Selected DN/Route Partitions)] をクリックします。</p> <p>回線グループ内の電話番号の順序の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートプランの概説」を参照してください。</p> <p>(注) シェアドラインの DN は、ブロードキャスト分配アルゴリズムを使用している回線グループには入れないでください。DN が、ブロードキャスト分配アルゴリズムを使用している回線グループのメンバーである場合、Cisco Unified Communications Manager は、その DN がシェアドラインとして設定されているデバイス上にあるシェアドラインの DN を、すべて表示することができません。</p>
[削除された DN/ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)]	[選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスで電話番号を選択し、その電話番号を [削除された DN/ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印をクリックします。
[電話番号 (Directory Numbers)]	
(この回線グループに属している DN のリスト)	<p>所定の電話番号の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウに移動するには、このリスト内の電話番号をクリックします。</p> <p>(注) 新しい回線グループを追加する場合は、その回線グループを保存するまでこのリストは表示されません。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」(P.42-11) を参照してください。

回線グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの回線グループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の回線グループを見つけることができます。回線グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、回線グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、回線グループの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。
- [回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーの記録も、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべての記録を検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- 記録をフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致する記録が検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべての記録が表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当する記録の横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数の記録をデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべての記録を削除できます。

- ステップ 4** 記録のリストで、表示する記録のリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.42-11) を参照してください。

回線グループの設定

回線グループを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存の回線グループをコピーするには、対象となる回線グループを見つけて（「[回線グループの検索](#)」(P.42-7) を参照）、コピーする回線グループの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しい回線グループを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の回線グループを更新するには、対象となる回線グループを見つけて（「[回線グループの検索](#)」(P.42-7) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 表示される [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウで、[回線グループ名 (Line Group Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。
-
- ワンポイントアドバイス**  回線グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、回線グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasAA1」は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog 回線グループを示します。
-
- ステップ 4** 適切な設定値を選択します (表 42-1 を参照)。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、この回線グループを追加または更新します。
-

追加情報

「関連項目」(P.42-11) を参照してください。

回線グループへのメンバーの追加

新規または既存の回線グループに、メンバーを追加することができます。既存の回線グループにメンバーを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** メンバーを追加する先の回線グループを特定します。「[回線グループの検索](#)」(P.42-7) を参照してください。
- ステップ 3** 電話番号を特定する必要がある場合は、[パーティション (Partition)] ドロップダウン リスト ボックスからルートパーティションを選択し、[次を含む電話番号 (Directory Number Contains)] フィールドに検索文字列を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。パーティションに属する電話番号をすべて検索するには、[次を含む電話番号 (Directory Number Contains)] フィールドをブランクのままにして、[検索 (Find)] をクリックします。
[使用可能 DN/ ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスに、一致する電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 4** [使用可能 DN/ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスで追加する電話番号を選択し、[回線グループに追加 (Add to Line Group)] をクリックして、その電話番号を [選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスへ移動します。この回線グループに追加する各メンバーに対して、この手順を繰り返します。
- ステップ 5** [選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスで、新しい電話番号がこの回線グループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、電話番号をクリックしてから、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、電話番号・/ 動します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックして、新しい電話番号を追加し、この回線グループの電話番号の順序を更新します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.42-11) を参照してください。

回線グループからのメンバーの削除

新規または既存の回線グループから、メンバーを削除することができます。既存の回線グループから電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。

回線グループの削除

- ステップ 2** 削除する電話番号が入っている回線グループを特定します。「回線グループの検索」(P.42-7) を参照してください。
- ステップ 3** [選択された DN/ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リストボックスで削除する電話番号を選択し、リストボックスの下にある下矢印をクリックして、[削除された DN/ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)] リストボックスへ電話番号を移動します。この回線グループから削除する各メンバーに対して、この手順を繰り返してください。
- ステップ 4** メンバーを削除するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.42-11) を参照してください。

回線グループの削除

回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のルート/ハントリストが参照している回線グループは、削除することができません。回線グループを使用しているハントリストを検索するには、[回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中の回線グループを削除しようとすると、エラーメッセージが表示されます。Cisco Unified Communications Manager 現在使用中の回線グループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 回線グループを削除する前に、その回線グループが属しているすべてのハントリストから、その回線グループを削除します。「ルートリストからのルートグループの削除」(P.40-6) を参照してください。



ヒント

回線グループとハントパイロットを削除するには、まずハントパイロットを削除し、次にハントリストを削除して、最後に回線グループを削除します。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する回線グループを特定します。「回線グループの検索」(P.42-7) を参照してください。
- ステップ 3** 削除する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- 回線グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** 回線グループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified Communications Manager により、回線グループが削除されます。



(注) 該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての回線グループを削除できます。

追加情報

「関連項目」(P.42-11) を参照してください。

関連項目

回線グループ

- 「回線グループの設定値」(P.42-1)
- 「回線グループの検索」(P.42-7)
- 「回線グループの設定」(P.42-8)
- 「回線グループへのメンバーの追加」(P.42-9)
- 「回線グループからのメンバーの削除」(P.42-9)
- 「回線グループの削除」(P.42-10)

ルート リストおよびルート グループ

- 「ルート リストの追加」(P.40-3)
- 「ルート リストへのルート グループの追加」(P.40-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート プランの概要」



CHAPTER 43

ハント リストの設定

ハント リストは、1 組の回線グループを特定の順序で一覧表示します。また、ハント リストは、1 つ以上のハント パイロットに関連付けられ、その回線グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、着信コールに使用可能な電話番号を検索するときの進行を制御します。

ハント リストは、回線グループによって定義された電話番号の集合から構成されます。Cisco Unified Communications Manager が指定ハント リストを使用してルーティングすべきコールを判別すると、そのリストに指定されている回線グループの順位に基づいて、Cisco Unified Communications Manager は最初に使用可能なデバイスを検出します。



(注)

グループ コール ピックアップ機能とダイレクト コール ピックアップ機能は、ハント リストでは使用できません。

ハント リストには、回線グループだけを入れることができます。各ハント リストには、少なくとも 1 つの回線グループを入れる必要があります。各回線グループには、少なくとも 1 つの電話番号が含まれます。1 つの回線グループが複数のハント リストに表示される場合があります。

ハント リストの追加または削除、ハント リスト内の回線グループの追加、削除、または順序の変更、または設定変更の影響を受ける回線グループと設定変更を同期化するには、次のトピックを参照してください。

- 「ハント リストの検索」 (P.43-2)
- 「ハント リストの追加」 (P.43-3)
- 「ハント リストへの回線グループの追加」 (P.43-4)
- 「ハント リストからの回線グループの削除」 (P.43-5)
- 「ハント リスト内の回線グループの順位の変更」 (P.43-6)
- 「ハント リストと影響を受ける回線グループとの同期化」 (P.43-6)
- 「ハント リストの削除」 (P.43-7)

ハントリストの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントリストが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のハントリストを見つけることができます。ハントリストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理 では、ブラウザセッションでの作業中は、ハントリストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントリストの検索設定は保持されません。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。
- [ハントリストの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Lists)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウンリストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.43-8) を参照してください。

ハントリストの追加

ハントリストを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ハントリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。

**ワンポイントアドバイス**

ハントリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ハントリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの、Local Access Transport Area (LATA) 間の無料コール用のハントリストを特定します。

- ステップ 4** [説明 (Description)] フィールドに説明を入力します。
- ステップ 5** ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Communications Manager グループを選択します。



(注) ハントリストは、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として、Cisco Unified Communications Manager グループで最初の Cisco Unified Communications Manager に登録されます。



(注) Cisco Unified Communications Manager が 1 つしか設定されていない Cisco Unified Communications Manager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

警告: 選択された Cisco Unified Communications Manager グループに Cisco Unified Communications Manager が 1 つしか設定されていません。冗長性確保のための制御プロセスのため、2 つ以上の Cisco Unified Communications Manager を含む Cisco Unified Communications Manager グループを選択してください。

- ステップ 6** このハントリストをボイスメールに使用する場合は、[ボイスメール用 (For Voice Mail Usage)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックして、このハントリストを追加します。



(注) コールを受信させるため、このハントリストに回線グループを少なくとも 1 つ追加する必要があります。あることを示すポップアップメッセージが表示されます。

■ ハントリストへの回線グループの追加

[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウに、新しく追加されたハントリストが表示されます。

ステップ 8 新しいハントリストの [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List)] チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このハントリストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このハントリストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップウィンドウが表示されます。

ステップ 9 新しいハントリストに少なくとも 1 つの回線グループを追加します。

このリストに回線グループを追加するには、[回線グループの追加 (Add Line Group)] をクリックし、[「ハントリストへの回線グループの追加」 \(P.43-4 \)](#) の「[ステップ 3](#)」～「[ステップ 6](#)」を実行します。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.43-8) を参照してください。

ハントリストへの回線グループの追加

新規のハントリストまたは既存のハントリストに、回線グループを追加できます。回線グループは、1 つ以上のハントリストに組み込むことができます。既存のハントリストに回線グループを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に 1 つ以上の回線グループを作成し、ハントリストを追加しておく必要があります。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。

ステップ 2 回線グループを追加する先のハントリストを特定します。[「ハントリストの検索」 \(P.43-2 \)](#) を参照してください。

ステップ 3 [回線グループの追加 (Add Line Group)] をクリックして、回線グループを追加します。
[ハントリスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [回線グループ (Line Group)] ドロップダウンリストボックスから、ハントリストに追加する回線グループを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックして、回線グループを追加します。
[選択されたグループ (Selected Groups)] ペインに、回線グループ名が表示されます。



(注) 追加した回線グループは、[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウの一番下にある [ハントリスト詳細 (Hunt List Details)] ペインにも表示されます。回線グループに変更を加えるには、回線グループ名をクリックします。その回線グループの [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 6** このリストに回線グループをさらに追加するには、[回線グループの追加 (Add Line Group)] をクリックし、「ステップ 3」～「ステップ 5」を実行します。
- ステップ 7** ハントリストへの回線グループの追加が終了したら、[保存 (Save)] をクリックします。
-  **(注)** 次の「ステップ 8」に進むかどうかを決定する前に、「ハントリストと影響を受ける回線グループとの同期化」(P.43-6) を参照してください。
- ステップ 8** ハントリストをリセットするには、[リセット (Reset)] をクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示されたら、[リセット (Reset)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.43-8) を参照してください。

ハントリストからの回線グループの削除

新規のハントリストまたは既存のハントリストから、回線グループを削除できます。既存のハントリストから回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーから [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する回線グループが入っているハントリストを特定します。「ハントリストの検索」(P.43-2) を参照してください。
- ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、回線グループ名を選択します。
-  **(注)** このリストから複数の回線グループを選択するには、**Shift** キーを押し、目的の回線グループをクリックしてください。
- ステップ 4** [選択されたグループ (Selected Groups)] リスト ボックスの下にある ½ 矢印をクリックして、選択した回線グループを [削除されたグループ (Removed Groups)] リストに移動します。
- ステップ 5** 回線グループを削除するには、[保存 (Save)] をクリックします。[OK] をクリックすると、ページが更新されたときに、その回線グループがハントリストの [選択されたグループ (Selected Groups)] ペインから削除されています。
- ステップ 6** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット (Reset)] と [閉じる (Close)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.43-8) を参照してください。

ハント リスト内の回線グループの順位の変更

Cisco Unified Communications Manager は、ハント リストに表示されている順に、回線グループにアクセスします。回線グループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。
 - ステップ 2** 回線グループの順位を変更するハント リストを特定します。「[ハントリストの検索](#)」(P.43-2) を参照してください。
 - ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、回線グループを選択します。
 - ステップ 4** リスト内で回線グループを上下に移動させるには、回線グループを選択して、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 6** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット (Reset)] と [閉じる (Close)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.43-8) を参照してください。

ハント リストと影響を受ける回線グループとの同期化

変更した設定変更されたハント リストと回線グループを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。
[ハントリストの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Lists)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するハント リストがウィンドウに表示されます。
 - ステップ 4** 適用可能な回線グループを同期化するハント リストの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のハント リストをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.43-8) を参照してください。

ハント リストの削除

Cisco Unified Communications Manager は、回線グループおよびハント パイロットにハント リストを関連付けます。ただし、ハント リストが削除されても、回線グループおよびハント パイロットは削除されません。ハント リストを使用しているハント パイロットを検索するには、[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

**ヒント**

回線グループとハント パイロットを削除するには、まずハント パイロットを削除し、次にハント リストを削除して、最後に回線グループを削除します。

ハント リストを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハント リストを見つけます。「[ハント リストの検索](#)」(P.43-2) を参照してください。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
ハント リストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ハント リストを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

**注意**

ハント リストが 1 つ以上のハント パイロットに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.43-8) を参照してください。

関連項目

- 「ハントリストの検索」 (P.43-2)
- 「ハントリストの追加」 (P.43-3)
- 「ハントリストへの回線グループの追加」 (P.43-4)
- 「ハントリストからの回線グループの削除」 (P.43-5)
- 「ハントリスト内の回線グループの順位の変更」 (P.43-6)
- 「ハントリストと影響を受ける回線グループとの同期化」 (P.43-6)
- 「ハントリストの削除」 (P.43-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



CHAPTER 44

ハントパイロットの設定

ハントパイロットを追加、設定、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「ハントパイロットの設定値」(P.44-1)
- 「ハントパイロットの検索」(P.44-13)
- 「ハントパイロットの設定」(P.44-14)
- 「ハントパイロットの削除」(P.44-15)
- 「関連項目」(P.44-16)

ハントパイロットの設定値

ハントパイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハントリストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このハントパイロットは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ハントパイロットは、ルートフィルタおよびハントリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ハントパイロットの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。

表 44-1 では、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.44-16) を参照してください。

表 44-1 ハントパイロットの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[ハントパイロット (Hunt Pilot)]	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むハントパイロットを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。</p> <p>(注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する、ディレクトリハントパイロットが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ハントパイロット、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、またはミートミー番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。ハントパイロットへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [なし (None)] を選択します。パーティションの使用方の詳細については、「パーティションの設定」(P.53-1) を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索」(P.53-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[Unified CMAAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) ハントパイロット、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	ハントパイロットの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>ハントパイロットにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのルートフィルタが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。「ルートフィルタの検索 (P.38-2)」の手順に従って、ルートフィルタ名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[Unified CMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、このハントパイロットに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エグゼクティブオーバーライド (Executive Override)] : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • [フラッシュオーバーライド (Flash Override)] : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • [フラッシュ (Flash)] : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • [即時 (Immediate)] : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • [プライオリティ (Priority)] : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • [標準 (Routine)] : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • [デフォルト (Default)] : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p>(注) 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の章にある「優先順位」を参照してください。</p>
[ハントリスト (Hunt List)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、ハントパイロットを追加するハントリストを選択します。</p> <p>ハントリストを選択したら、右側の [編集 (Edit)] リンクをクリックして、ハントリストを編集します。</p>

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>ハントパイロットの呼び出し表示を UNICODE 形式で入力します。</p> <p>この名前は、着信コールの受信時にハントパイロットがダイヤルする電話機に、発信側情報とともに表示されます。電話機ユーザは、この情報を使用してコールに適宜応答できます。</p> <p>この名前は、発信側の電話機にも表示されます。</p> <p>名前を入力しないと、電話機にはハントパイロット DN が表示されません。</p>
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	<p>ハントパイロットの呼び出し表示を ASCII 形式で入力します。</p> <p>この名前は、着信コールの受信時にハントパイロットがダイヤルする電話機に、発信側情報とともに表示されます。電話機ユーザは、この情報を使用してコールに適宜応答できます。</p> <p>この名前は、発信側の電話機にも表示されます。</p> <p>名前を入力しないと、電話機にはハントパイロット DN が表示されません。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このハントパイロットをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など)、またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このハントパイロットをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラーなし (No Error)] • [未割り当ての番号 (Unallocated Number)] • [コールの拒否 (Call Rejected)] • [番号の変更 (Number Changed)] • [番号形式が無効 (Invalid Number Format)] • [優先レベルの超過 (Precedence Level Exceeded)]
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	<p>外部ダイヤルトーンにより、Cisco Unified Communications Manager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ローカル ネットワーク外にコールをルーティングする各ハントパイロットに対してこのチェックボックスをオンにし、発信側デバイスに外部ダイヤルトーンを提供します。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	<p>ダイヤル プランに重複したハント リストが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません (検索結果を基準にして数字列をダイヤルできる場合を含む)。Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。</p>

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ハント転送の設定 (Hunt Forward Settings)]	
[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]	<p>ハントリストを介して分配されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] : このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合、コールは電話番号のカバレッジまたは接続先のフィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)] : この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)]	<p>ハントリストを介して分配されるコールに対して一定の時間ビジー状態の場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] : このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合、コールは電話番号のカバレッジまたは接続先のフィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)] : この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。
[最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer)]	<p>ハントの時間の最大値 (秒) を入力します。有効値は 1 ~ 3600 です。デフォルト値は 1800 秒 (30 分) です。</p> <p>このタイマーは、ハントメンバーがコールに回答した場合、およびタイマーが時間切れになる前にハントリストのメンバーがすべて試された場合は、キャンセルされます。このタイマーに値を指定しない場合は、ハントメンバーが回答するか、ハントリストのメンバーがすべて試されるまでハンティングが続行されます。どちらのイベントも発生しない場合、ハンティングは 30 分間続行されます。30 分が過ぎると、コールに対して最終処理が実行されます。</p> <p>(注) ハンティングのホップ数が Forward Maximum Hop Count サービスパラメータで指定した値を超えると、この最大 30 分間のハントタイマー値に達していない場合でも、ハンティングが時間切れになり、発信者にリオーダー トーンが再生されます。</p> <p>さらに、Cisco Unified Communications Manager が [Maximum Hunt Timer (最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer))] の設定を使用するのは、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウで [ハント転送の設定 (Hunt Forward Settings)] が設定されている場合だけです。</p>

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パークモニタリング(Park Monitoring)]	
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination)]	<p>ハント リスト経由でルーティングされたコールがパークされた場合、Hunt Pilot Park Monitoring Forward No Retrieve Destination パラメータ値を使用して (この値がブランクの場合を除いて)、サービス パラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer が期限切れになったときに、パークされたコールが転送されます。Hunt Pilot Park Monitoring Forward No Retrieve Destination パラメータ値がブランクの場合、コールは、サービス パラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer が期限切れになったときに、[電話番号の設定(Directory Number Configuration)] ウィンドウに設定された宛先に転送されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先(Destination)] : サービス パラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer が期限切れになったときに、パークされたコールの転送先となる電話番号です。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 • [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] : コーリングサーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリングサーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。
[発呼側トランスフォーメーション(Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用(Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を Calling Line Identification (CLID); 発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p> <p>(注) ハントリスト内の回線グループに割り当てられる発呼側トランスフォーメーション設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション設定値をすべて上書きします。</p>
[発呼側トランスフォーメーションマスク(Calling Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーションマスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用(Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「発呼側番号トランスフォーメーション設定値」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号(Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号(Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者名の表示 (CNIP/CNIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発呼者名の情報を表示させる場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発呼者名の情報を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX (Private Branch Exchange; 構内交換機) への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発呼側番号計画 (Calling Party Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続側トランスフォーメーション(Connected Party Transformations)]	
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先回線 ID の表示 (COLP/COLR) を使用します。これは、コールごとに着信側の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先名の表示 (CONP/CONR) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[着信側トランスフォーメーション(Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>[番号の削除 (Discard Digits)] ドロップダウン リストボックスから、このハントパイロットに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リストボックスで選択する番号計画によって異なります。北米番号計画の数字破棄命令の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p>(注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる着信側トランスフォーメーション設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている着信側トランスフォーメーション設定値をすべて上書きします。</p>
[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーション マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、トランスフォーメーションは行われません。Cisco Unified Communications Manager は、ダイヤルされたたとりの数字を正確に送信します。</p>

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレフィックス番号(Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 44-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側番号計画 (Called Party Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[AAR グループの設定 (AAR Group Settings)]	
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) グループを選択します。</p> <p>(注) このハントパイロットに対して AAR を使用可能にできるのは、回線グループのメンバーがすべて同じロケーションにある場合だけです。</p>
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>ハントパイロットの外線番号マスク値を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager はこのマスクを使用して、外部 (発信) コールの CLID をフォーマットします。AAR が再ルーティングを開始すると、システムはこの外線番号マスクをハントパイロット番号に適用し、着信側の完全修飾ドメイン名を形成します。そのため、AAR は、帯域幅が足りない状況でも正しく再ルーティングできるようになります。</p>

ハントパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントパイロットが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のハントパイロットを見つけることができます。ハントパイロットを見つけるには、次の手順を使用します。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ハントパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.44-16) を参照してください。

ハントパイロットの設定

ハントパイロットを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- ハントリスト
- パーティション ([<なし (None)>] を使用しない場合)
- ルートフィルタ ([<なし (None)>] を使用しない場合)

**ワンポイントアドバイス**

ハントパイロットに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべてハントされます。同様に、82XX では、電話番号 8200 ~ 8299 がハントされます。ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] の順に選択します。
- [ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存のハントパイロットをコピーするには、対象となるハントパイロットを見つけます（「ハントパイロットの検索」(P.44-13) を参照）。コピーするハントパイロットの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックします。ウィンドウに、そのハントパイロットのコピーが表示されます。[ハントパイロット (Hunt Pilot)] フィールドの値を変更し、「ステップ 3」に進みます。
 - 新しいハントパイロットを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 既存のハントパイロットを更新するには、対象となるハントパイロットを見つけて（「ハントパイロットの検索」(P.44-13) を参照）、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（表 44-1 を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

**(注)**

[ハントリスト (Hunt List)] ドロップダウンリストボックスからハントリストを選択したら、[ハントリスト (Hunt List)] フィールドの横に表示される [編集 (Edit)] リンクを使用すると、選択したハントリストの [ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウを表示することができます。[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウを使用して、該当するハントリストに含まれている回線グループを表示します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.44-16) を参照してください。

ハントパイロットの削除

ハントパイロットを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントパイロット (Hunt Pilot)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントパイロットを見つけます。「[ハントパイロットの検索](#)」(P.44-13) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するハントパイロットのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ハントパイロットを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



ヒント ハントパイロットの削除は、削除するハントパイロットを特定して表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.44-16) を参照してください。

関連項目

- 「ハントパイロットの設定値」(P.44-1)
- 「ハントパイロットの検索」(P.44-13)
- 「ハントパイロットの設定」(P.44-14)
- 「ハントパイロットの削除」(P.44-15)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- 「ルートフィルタの設定」(P.38-4)



CHAPTER 45

SIP ルート パターンの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「SIP ルート パターンの設定値」 (P.45-1)
- 「SIP ルート パターンの検索」 (P.45-5)
- 「SIP ルート パターンの設定」 (P.45-7)
- 「SIP ルート パターンの削除」 (P.45-7)
- 「関連項目」 (P.45-8)

SIP ルート パターンの設定値

Cisco Unified Communications Manager は、SIP ルート パターンを使用して内部コールと外部コールの両方をルーティングまたはブロックします。

ルーティングの判断基準となるのは、ドメイン名または IP アドレスです。管理者は、ドメイン、IP アドレス、および IP ネットワーク (サブネット) アドレスを追加して、それらを SIP トランク (のみ) に関連付けることができます。この方法によって、これらのドメインを宛先とする要求が、特定の SIP トランク インターフェイスを通じてルーティングされるようになります。



(注) Cisco Unified Communications Manager にはデフォルトの SIP ルート パターンが存在しないため、管理者がセットアップする必要があります。

ドメイン名の例 : cisco.com、my-pc.cisco.com、*.com、rtp-ccm[1-5].cisco.com

ドメイン名で有効となる文字 : [、-、.、0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、*、]

IPv4 アドレスの例 : 172.18.201.119 または 172.18.201.119/32 (明示的 IP ホスト アドレス)、172.18.0.0/16 (IP サブネット)、172.18.201.18/21 (IP サブネット)

IP アドレスで有効となる文字 : 0 ~ 9、.、および /

始める前に

SIP ルート パターンを設定するには、少なくとも 1 つの SIP プロファイルと SIP トランクを設定する必要があります。

表 45-1 では、SIP ルート パターンの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.45-8) を参照してください。

表 45-1 SIP ルート パターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[パターンの使い方 (Pattern Usage)]	(必須) ドロップダウン リストから、[ドメインルーティング (Domain Routing)] または [IPAddress ルーティング (IPAddress Routing)] のいずれかを選択します。
[IPv4 パターン (IPv4 Pattern)]	(必須) ドメイン、サブドメイン、IPv4 アドレス、または IP サブネットワーク アドレスを入力します。 ヒント SIP トランクが IPv6 または IPv4 と IPv6 の両方 (デュアルスタック モード) をサポートしている場合は、[IPv4 パターン (IPv4 Pattern)] に加えて [IPv6 パターン (IPv6 Pattern)] を設定します。 (注) IP サブネットワーク アドレスの場合は、Classless Inter-Domain Routing (CIDR; クラスレス ドメイン間ルーティング) 表記の X.X.X.X/Y にします。Y は、ネットワーク アドレスとなるアドレスのビット数を示します。
[IPv6 パターン (IPv6 Pattern)]	Cisco Unified Communications Manager は、SIP ルート パターンを使用して内部コールと外部コールの両方をルーティングまたはブロックします。このフィールドで指定された IPv6 アドレスが、IPv6 をサポートする SIP トランクの内部コールと外部コールをルーティングする判断基準となります。 ヒント SIP トランクが IPv6 または IPv4 と IPv6 の両方 (デュアルスタック モード) をサポートしている場合は、[IPv6 パターン (IPv6 Pattern)] に加えて [IPv4 パターン (IPv4 Pattern)] を設定します。
[説明 (Description)]	このオプション エントリには、SIP ルート パターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 45-1 SIP ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>パーティションを使用して SIP ルート パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。SIP ルート パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに [<なし (None)>] を選択します。パーティションの使用の詳細については、「パーティションの設定 (P.53-1)」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。250 より多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索 (Select Partition)] ウィンドウを表示します。パーティションの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、パーティション名の一部を入力します。表示されたパーティションのリストで、指定したいパーティションの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) SIP ルート パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[SIP トランク (SIP Trunk)]	(必須) ドロップダウン リストを使用して、SIP ルート パターンの関連付け先となる SIP トランクを選択します。
[パターンのブロック (Block Pattern)]	このパターンをコールのルーティングに使用しない場合は、[パターンのブロック (Block Pattern)] チェックボックスをオンにします。
[発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Mask)]	発信コールで完全な外線電話番号を Calling Line Identification (CLID; 発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。
[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transformation Mask)]	トランスフォーメーション マスク値を入力します。有効となるエンタリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字 (X)、アスタリスク (*)、およびシャープ (#) です。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 発信側番号トランスフォーメーション設定値 」を参照してください。

表 45-1 SIP ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレフィックス番号(Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号(Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。有効となるエントリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、およびシャープ (#) です。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト(Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可(Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可(Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>
[発呼者回線名の表示 (Calling Line Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者名の表示 (CNIP/CNIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者名の表示を変更しない場合は、[デフォルト(Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発呼者名の情報を表示させる場合は、[許可(Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発呼者名の情報を表示しないようにする場合は、[非許可(Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>

表 45-1 SIP ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続側トランスフォーメーション(Connected Party Transformations)]	
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先回線 ID の表示 (COLP/COLR) を使用します。これは、コールごとに着信側の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[接続先回線名の表示 (Connected Line Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先名の表示 (CONP/CONR) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>

SIP ルート パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの SIP ルート パターンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の SIP ルート パターンを見つけることができます。SIP ルート パターンを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアントマシンの cookie に保存されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] の順に選択します。
[SIP ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List SIP Route Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.45-8) を参照してください。

SIP ルート パターンの設定

SIP ルート パターンを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。

始める前に

SIP ルート パターンを設定するには、その前に SIP トランクを設定しておく必要があります。「[トランクの設定](#)」(P.93-62) を参照してください。

手順

ステップ 1 次の作業のいずれかを実行します。

- SIP ルート パターンを追加するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- SIP ルート パターンを更新するには、「[SIP ルートパターンの検索](#)」(P.45-5) の手順を使用してパターンを検索します。
- SIP ルート パターンをコピーするには、「[SIP ルートパターンの検索](#)」(P.45-5) の手順を使用して、コピーするパターンを検索します。コピーするパターンに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。

[SIP ルートパターンの設定 (SIP Route Pattern Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 45-1 を参照)。

ステップ 3 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存 (Save)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存 (Save)] ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.45-8) を参照してください。

SIP ルート パターンの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから SIP ルート パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「[SIP ルートパターンの検索](#)」(P.45-5) の手順を使用して、SIP ルートパターンを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する SIP ルートパターンを選択します。

ステップ 3 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected Item)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンをクリックして)、SIP ルートパターンを削除します。

SIP ルートパターンが使用中でない場合、Cisco Unified Communications Manager がパターンを削除します。使用中の場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.45-8) を参照してください。

関連項目

- 「SIP ルート パターンの設定値」(P.45-1)
- 「SIP ルート パターンの検索」(P.45-5)
- 「SIP ルート パターンの設定」(P.45-7)
- 「SIP ルート パターンの削除」(P.45-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「セッション開始プロトコル (SIP) の概要」



CHAPTER 46

インターコム パーティションの設定

インターコム パーティションには、Directory Number (DN; 電話番号) およびルート パターンが登録されているルート パターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコール タイプに基づいて、ルート プランを複数の論理サブセットに分割することにより、コール ルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[パーティションおよびコーリング サーチ スペース](#)」を参照してください。

インターコム パーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[インターコム](#)」を参照してください。



CHAPTER 47

インターコム コーリング サーチ スペースの 設定

インターコム コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているインターコム コーリング サーチ スペースの順序リストで構成されます。インターコム コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。

コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[パーティションおよびコーリング サーチ スペース](#)」を参照してください。インターコムおよびインターコム コーリング サーチ スペースの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[インターコム](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 48

インターコム電話番号の設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、特定の電話機に割り当てるインターコム電話番号（DN）の設定および変更を行います。

インターコム電話番号の設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド*』の「[インターコム](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 49

インターコム トランスレーション パターンの設定

Cisco Unified Communications Manager はトランスレーション パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

インターコム トランスレーション パターンの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[インターコム](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 50

アクセス リストの設定

モバイル コネクトを使用すると、1つの電話番号でビジネス コールを管理し、進行中のコールをデスクトップ電話機と携帯電話で受けることができます。アクセス リストは、進行中のコール転送を明示的に許可またはブロックする電話番号を決定します。

モバイル コネクトの詳細およびアクセス リストの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 51

時間帯の設定

時間帯を追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[時間帯の設定値](#)」 (P.51-1)
- 「[時間帯の検索](#)」 (P.51-3)
- 「[時間帯の設定](#)」 (P.51-5)
- 「[時間帯の削除](#)」 (P.51-5)
- 「[関連項目](#)」 (P.51-6)

時間帯の設定値

時間帯は、開始時刻と終了時刻によって定義される時間範囲で構成されます。また、週の曜日や毎年の特定期日のいずれの繰り返し間隔も指定できます。時間帯を定義した後、時間帯をタイム スケジュールに関連付けます。特定の時間帯を複数のタイム スケジュールに関連付けることができます。

次に、time-of-day コール ルーティングをセットアップするパーティションにタイム スケジュールを関連付けます。時間帯とタイム スケジュールの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Time-of-Day ルーティング](#)」を参照してください。

[表 51-1](#) では、時間帯の設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.51-6) を参照してください。

表 51-1 時間帯の設定値

フィールド	説明
[時間帯情報 (Time Period Information)]	
[名前 (Name)]	<p>[名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各時間帯名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p>(注) 時間帯には、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、<code>hours_or_days</code> の形式が、内容を簡潔に表し、時間帯をすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「<code>office_M_to_F</code>」は、オフィスでの月曜日から金曜日の業務時間の時間帯を示します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager には、[常に (All the time)] という時間帯が用意されています。この特殊なシステム時間帯は 24 時間に相当し、エンド ユーザに公開されています。この時間帯の削除はできませんが、コピーは可能です。</p>
[説明 (Description)]	この時間帯の説明を入力します。
[開始時刻 (Time Of Day Start)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が開始する時刻を選択します。リストされている使用可能な開始時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は [就業時間なし (No Office Hours)] です。</p> <p>(注) 深夜に時間帯を開始するには、00:00:00 値を選択します。</p>
[終了時刻 (Time of Day End)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が終了する時刻を選択します。リストされている使用可能な終了時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は [就業時間なし (No Office Hours)] です。</p> <p>(注) [終了時刻 (Time of Day End)] には、[開始時刻 (Time Of Day Start)] で選択する時刻よりも遅い時刻を選択する必要があります。</p> <p>(注) 深夜に時間帯を終了するには、24:00 値を選択します。</p>

表 51-1 時間帯の設定値 (続き)

フィールド	説明
[繰り返し設定 (Repeat Every)]	<p>次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [毎週 (Week from)] : [毎週 (Week from)] オプション ボタンをクリックする場合は、[毎週 (Week from)] および [から (through)] の横にあるドロップダウンリスト ボックスを使用して、この時間帯を適用する曜日を選択します。 <p>例 : 月曜日から金曜日に適用する時間帯を定義するには、[毎週 (Week from)] の値に [月 (曜日) (Mon)]、[から (through)] の値に [金 (曜日) (Fri)] を選択します。</p> <p>土曜日だけに適用する時間帯を定義するには、[毎週 (Week from)] の値に [土 (曜日) (Sat)]、[から (through)] の値に [土 (曜日) (Sat)] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [毎年 (Year on)] : [毎年 (Year on)] オプション ボタンをクリックする場合は、[毎年 (Year on)] と [終了日時 (until)] の横にあるドロップダウン リスト ボックスを使用して、1 年のうちでこの時間帯を適用する月と日を選択します。 <p>例 : この時間帯を適用する日として 1 月 15 日から 3 月 15 日を選択するには、[毎年 (Year on)] の値に [1 月 (Jan)] と [15]、[終了日時 (until)] の値に [3 月 (Mar)] と [15] を選択します。</p> <p>この時間帯を適用する日として 1 月 1 日だけを指定するには、[毎年 (Year on)] の値に [1 月 (Jan)] と [1]、[終了日時 (until)] の値に [1 月 (Jan)] と [1] を選択します。</p>
[繰り返しをクリア (Clear Repeat)]	このボタンをクリックすると、変更中の時間帯から、[繰り返し設定 (Repeat Every)] の選択値がクリアされます。

追加情報

「関連項目」(P.51-6) を参照してください。

時間帯の検索

ネットワーク内にはいくつかの時間帯が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の時間帯を見つけることができます。時間帯を特定する手順は、次のとおりです。

**(注)**

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、時間帯の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、時間帯の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [時間帯 (Time Period)] の順に選択します。

[時間帯の検索と一覧表示 (Find and List Time Periods)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.51-6) を参照してください。

時間帯の設定

時間帯を設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] の順に選択します。
- [時間帯の検索と一覧表示 (Find and List Time Periods)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存の時間帯をコピーするには、対象となる時間帯を見つけます（「[時間帯の検索](#)」(P.51-3) を参照）。コピーする時間帯の横にある [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。ウィンドウに、その時間帯のコピーが表示されます。[名前 (Name)] フィールドの値を変更し、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しい時間帯を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の時間帯を更新するには、対象となる時間帯を見つけて（「[時間帯の検索](#)」(P.51-3) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（[表 51-1](#) を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.51-6) を参照してください。

時間帯の削除

時間帯を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

タイム スケジュールが使用している時間帯は削除できません。時間帯を使用しているタイム スケジュールなどの項目を検索するには、[時間帯の設定 (Time Period Configuration)] ウィンドウにある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の時間帯を削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されている時間帯を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールすべてに、別の時間帯を割り当てます。「[タイム スケジュールの設定](#)」(P.52-4) を参照してください。
- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールを削除します。「[タイム スケジュールの削除](#)」(P.52-5) を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する時間帯を見つけます。「[時間帯の検索](#)」(P.51-3) を参照してください。
- ステップ 3** 削除する時間帯のチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 時間帯を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



注意

時間帯を削除するときは、削除する時間帯が正しいか慎重に確認してください。削除した時間帯を元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した時間帯を作成し直す必要があります。



ヒント 時間帯の削除は、削除する時間帯を特定して表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.51-6) を参照してください。

関連項目

- 「[時間帯の設定値](#)」(P.51-1)
- 「[時間帯の検索](#)」(P.51-3)
- 「[時間帯の設定](#)」(P.51-5)
- 「[時間帯の削除](#)」(P.51-5)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[Time-of-Day ルーティング](#)」



CHAPTER 52

タイム スケジュールの設定

タイム スケジュールを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「タイム スケジュールの設定値」 (P.52-1)
- 「タイム スケジュールの検索」 (P.52-3)
- 「タイム スケジュールの設定」 (P.52-4)
- 「タイム スケジュールの削除」 (P.52-5)
- 「関連項目」 (P.52-6)

タイム スケジュールの設定値

タイム スケジュールは、時間帯のグループで構成されます。タイム スケジュールはパーティションに割り当てられます。タイム スケジュールは、発信側デバイスが特定の時間帯にコールを完了しようとするときに検索するパーティションを決定します。複数のタイム スケジュールで 1 つの時間帯を共有することが可能です。

タイム スケジュールの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[Time-of-Day ルーティング](#)」を参照してください。

表 52-1 では、タイム スケジュールの設定値について説明します。

表 52-1 タイム スケジュールの設定値

フィールド	説明
[スケジュール情報 (Time Schedule Information)]	
[名前 (Name)]	<p>[名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各タイム スケジュール名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p>(注) タイム スケジュールには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager には、[常に (All the time)] というタイム スケジュールが用意されています。この特殊なシステム タイム スケジュールは 24 時間 365 日に相当し、エンド ユーザに公開されています。このタイム スケジュールの削除はできませんが、コピーは可能です。</p>
[説明 (Description)]	このタイム スケジュールの説明を入力します。
[時間帯情報 (Time Period Information)]	
[使用可能時間帯 (Available Time Periods)]	<p>このフィールドは、タイム スケジュールの追加後に表示されます。</p> <p>[使用可能時間帯 (Available Time Periods)] リスト ボックスで時間帯を選択し、その時間帯を [選択された時間帯 (Selected Time Periods)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲の時間帯を一度に追加するには、その範囲内の最初の時間帯をクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後の時間帯をクリックします。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、その範囲の時間帯を追加します。</p> <p>連続していない複数の時間帯を追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数の時間帯をクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、選択した時間帯を追加します。</p>

表 52-1 タイム スケジュールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[選択された時間帯 (Selected Time Periods)]	<p>このリスト ボックスには、このタイム スケジュール用に選択された時間帯が一覧表示されます。選択された時間帯のリストから時間帯を削除するには、削除する時間帯を選択して、2 つのリスト ボックス間にある上矢印をクリックします。選択された時間帯を並べ替えるには、特定の時間帯を選択し、このリスト ボックスの右にある上矢印と下矢印をクリックします。</p> <p>(注) 1 つのタイム スケジュールに複数の時間帯が関連付けられ、時間帯が重複している場合、日付の設定値を持つ時間帯が、曜日の設定値を持つ時間帯よりも優先されます。</p> <p>例: ある時間帯で 1 月 1 日に対して [就業時間なし (No Office Hours)] が設定され、別の時間帯では毎週の同じ曜日 (たとえば、日曜日から土曜日) に対して 08:00 ~ 17:00 が設定されている場合、1 月 1 日の時間帯が使用されます。この例では、[就業時間なし (No Office Hours)] が優先されます。</p> <p>(注) 時間間隔の設定値は、毎年の日、または毎週の同じ曜日に対する [就業時間なし] 設定値よりも優先されます。</p> <p>例: ある時間帯で土曜日に [就業時間なし (No Office Hours)] が指定されています。別の時間帯では土曜日に 08:00 ~ 12:00 の時間が指定されています。この例では、結果として土曜日に 08:00 ~ 12:00 の時間間隔が指定されます。</p>

追加情報

「関連項目」(P.52-6) を参照してください。

タイム スケジュールの検索

ネットワーク内にはいくつかのタイム スケジュールが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のタイム スケジュールを見つけることができます。タイム スケジュールを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、タイム スケジュールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、タイム スケジュールの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [スケジュール (Time Schedule)] の順に選択します。
- [スケジュールの検索と一覧表示 (Find and List Time Schedules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.52-6) を参照してください。

タイム スケジュールの設定

タイム スケジュールを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [スケジュール (Time Schedule)] の順に選択します。

[スケジュールの検索と一覧表示 (Find and List Time Schedules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のタイム スケジュールをコピーするには、対象となるタイム スケジュールを見つけます（「[タイム スケジュールの検索](#)」(P.52-3) を参照）。コピーするタイム スケジュールの横にある [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。ウィンドウに、そのタイム スケジュールのコピーが表示されます。[名前 (Name)] フィールドの値を変更し、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しいタイム スケジュールを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存のタイム スケジュールを更新するには、対象となるタイム スケジュールを見つけて（「[タイム スケジュールの検索](#)」(P.52-3) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 52-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.52-6) を参照してください。

タイム スケジュールの削除

タイム スケジュールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

パーティションが使用しているタイム スケジュールは削除できません。タイム スケジュールを使用している項目を検索するには、[スケジュールの設定 (Time Schedule Configuration)] ウィンドウにある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のタイム スケジュールを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されているタイム スケジュールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションすべてに、別のタイム スケジュールを割り当てます。「[パーティションの設定](#)」(P.53-5) を参照してください。
- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションを削除します。「[パーティションの設定](#)」(P.53-1) の章を参照してください。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [スケジュール (Time Schedule)] の順に選択します。

ステップ 2 削除するタイム スケジュールを見つけます。「[タイム スケジュールの検索](#)」(P.52-3) を参照してください。

ステップ 3 削除するタイム スケジュールのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** タイム スケジュールを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

**注意**

タイム スケジュールを削除するときは、削除するタイム スケジュールが正しいか慎重に確認してください。削除したタイム スケジュールを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したタイム スケジュールを作成し直す必要があります。



ヒント タイム スケジュールの削除は、削除するタイム スケジュールを特定して表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.52-6) を参照してください。

関連項目

- 「[タイム スケジュールの設定値](#)」(P.52-1)
- 「[タイム スケジュールの検索](#)」(P.52-3)
- 「[タイム スケジュールの設定](#)」(P.52-4)
- 「[タイム スケジュールの削除](#)」(P.52-5)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[Time-of-Day ルーティング](#)」



CHAPTER 53

パーティションの設定

ルート パーティションを検索、追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「パーティションの設定値」 (P.53-1)
- 「パーティションの検索」 (P.53-4)
- 「パーティションの設定」 (P.53-5)
- 「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」 (P.53-6)
- 「パーティションと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.53-6)
- 「パーティションの削除」 (P.53-7)
- 「関連項目」 (P.53-8)

パーティションの設定値

パーティションには、Directory Number (DN; 電話番号) およびルート パターンが登録されているルート パターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルート プランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。

表 53-1 では、パーティションの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.53-8\)](#)」を参照してください。

表 53-1 パーティションの設定値

フィールド	説明
[パーティション情報 (Partition Information)]	
[<パーティション名>, <説明>]	<p>名前を [<パーティション名>, <説明>] ボックスに入力します。各パーティション名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。パーティション名には、a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9 と、スペース、ハイフン (-)、およびアンダースコア文字 (_) を使用できません。</p> <p>(注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。 表 53-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p> <p>パーティション名の後にカンマ (,) を入力してから、そのパーティション名と同じ行に説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、または角カッコ ([]) は使用できません。</p> <p>説明を入力しない場合は、Cisco Unified Communications Manager が、自動的にこのフィールドにパーティション名を入力します。</p> <p>各パーティションおよび説明には新しい行を使用してください。</p>
[スケジュール (Time Schedule)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このパーティションに関連付けるタイム スケジュールを選択します。関連付けられたタイム スケジュールは、パーティションがいつ着信コールを受信できるかを指定します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。この値は、time-of-day ルーティングが有効ではなく、パーティションが常にアクティブであることを意味します。</p> <p>パーティションのタイム スケジュールとの関連は、次のフィールドにある [タイムゾーン (Time Zone)] 値との組み合わせで、time-of-day ルーティング用のパーティションを設定します。指定されたタイム スケジュールに対して、このパーティションへの着信コールがチェックされます。</p>

表 53-1 パーティションの設定値 (続き)

フィールド	説明
[タイムゾーン (Time Zone)]	<p>次のいずれかのオプションを選択し、パーティションをタイムゾーンに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプションを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンに関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプションを選択する場合は、ドロップダウンリストボックスからタイムゾーンを選択します。このタイムゾーンの中でパーティションが指定されたときに、関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 <p>これらのオプションはすべて [タイムゾーン (Time Zone)] を指定します。いずれかのオプションを選択した場合、着信コールが発生すると、Cisco Unified Communications Manager の現在時刻が指定されたタイムゾーン設定に変換されます。この指定された時刻は、[スケジュール (Time Schedule)] フィールドの値と比較して検証されます。</p>



ワンポイントアドバイス

パーティションには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、`CompanynameLocationCalltype` の形式が、内容を簡潔に表し、パーティションをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroPT」は、Dallas の Cisco オフィスからの、Local Access Transport Area (LATA) 間の無料コール用のパーティションを特定できます。



ヒント

必要に応じて、[<パーティション名>, <説明>] テキストボックスに各パーティションの名前と説明を入力することにより、複数のパーティションを同時に入力できます。必ず、各パーティション エントリに対して 1 行を使用し、パーティション名と説明はカンマで区切ってください。

表 53-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 53-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

「関連項目」(P.53-8) を参照してください。

パーティションの検索

ネットワーク内にはいくつかのパーティションが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、固有のパーティションを特定することができます。パーティションを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、パーティションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、パーティションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] の順に選択します。

[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.53-8) を参照してください。

パーティションの設定

パーティションを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] の順に選択します。
- [パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 新しいパーティションを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のパーティションを更新するには、対象となるパーティションを見つけて（「[パーティションの検索](#)」(P.53-4) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（[表 53-1](#) を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

パーティションを更新している場合は、[リセット (Reset)] をクリックするか、「[パーティションと影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.53-6) に示すとおり [設定の適用 (Apply Config)] ボタンを使用します。そのパーティションに関連したデバイスをリセットすると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。



(注) 複数のパーティションを設定できます。複数のパーティションを入力するには、各パーティション エントリに対して 1 行を使用します。最大 75 のパーティションを入力できます。入力できる文字数は、それぞれの名前と説明を合計して 1475 文字までです。各行のパーティション名と説明はカンマ (,) で区切ってください。説明を入力しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、名前を説明として使用します。

追加情報

「関連項目」(P.53-8) を参照してください。

パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)

Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、パーティションのドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックすると、目的のパーティションを検索できます。

手順

-
- ステップ 1** [パーティション (Partition)] ドロップダウンリストボックスの横にある [検索 (Find)] ボタンをクリックします。
- [パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** パーティションの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、パーティション名の一部を入力します。
- ステップ 3** 表示されたパーティションのリストで、目的のパーティション名をクリックし、[OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

パーティションと影響を受けるデバイスとの同期化

設定変更されたパーティションとデバイスを同期させるには、次の手順を行います。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] の順に選択します。
- [パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致するパーティションのリストがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスと同期化するパーティションをクリックします。[パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。



(注) そのパーティションに関連したデバイスをリセットすると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.53-8) を参照してください。

パーティションの削除

パーティションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

パーティションがコーリング サーチ スペースなどの項目またはルート パターンに割り当てられている場合は、そのパーティションを削除できません。パーティションを使用しているコーリング サーチ スペースなどの項目を検索するには、[パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中のパーティションを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているパーティションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目すべてに、別のパーティションを割り当てます。
- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目を削除します。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] の順に選択します。

ステップ 2 削除するパーティションを見つけます。「パーティションの検索」(P.53-4) を参照してください。

ステップ 3 削除するパーティションのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。



ヒント [すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、リスト内のすべてのパーティションを削除できます。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 パーティションを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

**注意**

パーティションを削除するときは、削除するパーティションが正しいか慎重に確認してください。削除したパーティションを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したパーティションを作成し直す必要があります。



ヒント パーティションの削除は、削除するパーティションを見つけて表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.53-8) を参照してください。

関連項目

- 「[パーティションの設定値](#)」(P.53-1)
- 「[パーティションの検索](#)」(P.53-4)
- 「[パーティションの設定](#)」(P.53-5)
- 「[パーティションと影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.53-6)
- 「[パーティションの削除](#)」(P.53-7)
- 「[パーティションの検索 \(パーティションが多数ある場合\)](#)」(P.53-6)
- 『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[ローカル ルートグループ](#)」



CHAPTER 54

コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[コーリング サーチ スペースの設定値](#)」 (P.54-1)
- 「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」 (P.54-3)
- 「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」 (P.54-4)
- 「[コーリング サーチ スペースの削除](#)」 (P.54-5)

コーリング サーチ スペースの設定値

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[パーティションおよびコーリング サーチ スペース](#)」を参照してください。

表 54-1 では、コーリング サーチ スペースの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.54-6) を参照してください。

表 54-1 コーリング サーチ スペースの設定値

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース情報 (Calling Search Space Information)]	
[名前 (Name)]	名前を [名前 (Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.), ハイフン (-)、およびアンダースコア () を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリング サーチ スペース名が、システムに固有の名前であることを確認してください。 (注) コーリング サーチ スペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、 <code>CompanynameLocationCalltype</code> の形式が、内容を的確に表し、コーリング サーチ スペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、 <code>CiscoDallasMetroCS</code> は、Dallas の Cisco オフィスからの、Local Access and Transport Area (LATA) 間の無料コール用のコーリング サーチ スペースとして特定できます。

表 54-1 コーリング サーチ スペースの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	[説明 (Description)] フィールドに説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カドコ (<>) は使用できません。
[コーリングサーチスペースのルートパーティション(Route Partitions for this Calling Search Space)]	
[使用可能なパーティション (Available Partitions)]	<p>[使用可能なパーティション (Available Partitions)] リスト ボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを [選択されたパーティション (Selected Partitions)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p>(注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。 表 54-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
[選択されたパーティション (Selected Partitions)]	パーティションの優先順位を変更するには、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] リスト ボックス内のパーティション名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。

表 54-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 54-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

「関連項目」(P.54-6) を参照してください。

コーリング サーチ スペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリング サーチ スペースが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のコーリング サーチ スペースを見つけることができます。コーリング サーチ スペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、コーリング サーチ スペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、コーリング サーチ スペースの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の順に選択します。

[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.54-6) を参照してください。

コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のコーリング サーチ スペースをコピーするには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけます（「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」(P.54-3) を参照）。コピーするコーリング サーチ スペースの横にある [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。ウィンドウに、コピーしたコーリング サーチ スペースが表示されます。[名前 (Name)] フィールドで名前を変更し、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- コーリング サーチ スペースを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存のコーリング サーチ スペースを更新するには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけて（「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」(P.54-3) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 54-1 を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.54-6) を参照してください。

コーリング サーチ スペースの削除

コーリング サーチ スペースを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス、回線 (DN)、トランスレーション パターンなどの項目が使用しているコーリング サーチ スペースは、削除できません。コーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、トランスレーション パターンなどの項目を検索するには、[コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のコーリング サーチ スペースを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用中のコーリング サーチ スペースを削除する前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、またはトランスレーション パターンすべてに、別のコーリング サーチ スペースを割り当てます。「[電話番号の設定](#)」(P.61-1) および「[トランスレーション パターンの設定](#)」(P.57-12) を参照してください。
- 削除するコーリング サーチ スペースを使用しているデバイス、回線、またはトランスレーション パターンを削除します。「[電話機からの電話番号の削除](#)」(P.61-29) および「[トランスレーション パターンの削除](#)」(P.57-13) を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリング サーチ スペースを見つけます。「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」(P.54-3) を参照してください。
- ステップ 3** 削除するコーリング サーチ スペースのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** コーリング サーチ スペースを削除するには、[OK] をクリックします。削除を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



注意

コーリング サーチ スペースを削除するときは、削除するコーリング サーチ スペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリング サーチ スペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリング サーチ スペースを作成し直す必要があります。



ヒント コーリング サーチ スペースの削除は、削除するコーリング サーチ スペースを見つけて表示し、[削除 (Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.54-6) を参照してください。

関連項目

- 「[コーリング サーチ スペースの設定値](#)」 (P.54-1)
- 「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」 (P.54-3)
- 「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」 (P.54-4)
- 「[コーリング サーチ スペースの削除](#)」 (P.54-5)
- 『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[ローカル ルート グループ](#)」



CHAPTER 55

クライアント識別コード

Client Matter Code (CMC; クライアント識別コード) は、課金可能なクライアントに対するコール アカウンティングと課金を支援します。CMC を有効にすると、コールが特定のクライアントに関連していることを示すコードをユーザが入力する必要があります。コール アカウンティングと課金の目的で、顧客、学生などのユーザにクライアント識別コードを割り当てることができます。

CMC 機能を使用するには、ルート パターンを変更し、ダイヤル プラントキュメントを更新して各ルート パターンに対する CMC の有効化または無効化を反映させる必要があります。クライアント識別コードの検索ウィンドウおよび設定ウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [CMC] からアクセスできます。

クライアント識別コードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[クライアント識別コードと強制承認コード](#)」を参照してください。

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』



CHAPTER 56

強制承認コード

Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード) を使用すると、コールのアクセスとアカウントを管理できます。この機能は、特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定するものです。ユーザがコールを確立するには、有効な承認コードを入力する必要があります。

FAC 機能を使用するには、ルートパターンを変更し、ダイヤルプランドキュメントを更新して各ルートパターンに対する FAC の有効化または無効化を反映させる必要があります。強制承認コードの検索ウィンドウおよび設定ウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [FAC] からアクセスできます。

強制承認コードの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[クライアント識別コードと強制承認コード](#)」を参照してください。

参考資料

- 『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』
- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』



CHAPTER 57

トランスレーション パターンの設定

トランスレーション パターンを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「トランスレーション パターンの設定値」 (P.57-1)
- 「トランスレーション パターンの検索」 (P.57-11)
- 「トランスレーション パターンの設定」 (P.57-12)
- 「トランスレーション パターンの削除」 (P.57-13)

トランスレーション パターンの設定値

Cisco Unified Communications Manager はトランスレーション パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

表 57-1 では、[トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.57-14) を参照してください。

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[トランスレーションパターン (Translation Pattern)]	<p>[トランスレーションパターン (Translation Pattern)] フィールドに、番号とワイルドカード (スペースを使用しない) を含む、トランスレーションパターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。このフィールドをブランクのままにする場合は、[パーティション (Partition)] ドロップダウン リスト ボックスからパーティションを選択する必要があります。</p> <p>(注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するトランスレーションパターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合は、ルート パターンおよびハントパイロット、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、またはミーティング番号を確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合のもう 1 つの方法として、ルートプランレポートも確認してください。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを選択します。パーティションを割り当てない場合は、[<なし (None)>] を選択します。[<なし (None)>] を選択した場合は、[トランスレーションパターン (Translation Pattern)] フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (「パーティションの検索」 (P.53-4) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) トランスレーションパターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	トランスレーションパターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[番号計画 (Numbering Plan)]	<p>番号計画を選択します。</p> <p>トランスレーションパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、番号計画を選択できます。オプションで番号計画を選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p>

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>オプションのルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」、および「ルートフィルタの設定値 (P.38-1) を参照してください。</p> <p>表示されるルート フィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>250 より多くのルート フィルタが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。ルートフィルタの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、ルート フィルタ名の一部を入力します。表示されたルート フィルタのリストで、指定したいルート フィルタの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このトランスレーション パターンに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [エクゼクティブオーバーライド (Executive Override)] : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 [フラッシュオーバーライド (Flash Override)] : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 [フラッシュ (Flash)] : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 [即時 (Immediate)] : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 [プライオリティ (Priority)] : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 [標準 (Routine)] : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 [デフォルト (Default)] : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p>(注) 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の章にある「優先順位」を参照してください。</p>
[リソースプライオリティ ネームスペースネットワーク ドメイン (Resource-Priority Namespace Network Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、設定済みのリソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインを選択します。</p>

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートクラス (Route Class)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このトランスレーション パターンに対するルート クラスの設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] • [ボイス (Voice)] • [データ (Data)] • [衛星回避 (Satellite Avoidance)] • [ホットラインボイス (Hotline voice)] • [ホットラインデータ (Hotline data)] <p>ルート クラスは、コールのトラフィック クラスを識別する DSN コードです。ルート クラスによって、ダウンストリーム デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。デフォルトの設定では、着信コールの既存のルート クラスが使用されます。</p> <p>デフォルト以外のルート クラス設定を使用するのは、着信 T1 CAS ルート クラス番号を Cisco Unified Communications Manager ルート クラス値に変換 (および番号を除去) する場合だけにしてください。パターン設定を使用するそれ以外の着信コールにデフォルト以外のルート クラス設定を割り当てないでください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>必要に応じて、ドロップダウン リスト ボックスから、追加するトランスレーション パターン用のコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの検索」(P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCAdmin Parameters] を選択します。</p>
[外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)]	<p>Cisco Unified Communications Manager では、外部コール制御プロファイルをトランスレーション パターンに割り当てて、外部コール制御を有効にすることができます。トランスレーション パターンに外部コール制御プロファイルが割り当てられている場合、トランスレーション パターンに一致するコールが発生すると、Cisco Unified Communications Manager はすぐにコールルーティング クエリーを付加ルート サーバに送信し、付加ルート サーバは Cisco Unified Communications Manager にコールの処理方法を指示します。外部コール制御の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「外部コール制御」を参照してください。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、トランスレーション パターンに割り当てる外部コール プロファイルを選択します。</p>

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このトランスレーションパターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など)、またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このトランスレーションパターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラーなし (No Error)] • [未割り当ての番号 (Unallocated Number)] • [コールの拒否 (Call Rejected)] • [番号の変更 (Number Changed)] • [番号形式が無効 (Invalid Number Format)] • [優先レベルの超過 (Precedence Level Exceeded)]
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	<p>外部ダイヤルトーンは、Cisco Unified Communications Manager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ネットワーク外にあると思われる各トランスレーションパターンに対してこのチェックボックスをオンにします。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	<p>ダイヤル プランに重複したパターンが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません (検索結果を基準にして数字列をダイヤルできる場合を含む)。Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。</p> <p>ヒント デフォルトでは、[緊急優先 (Urgent Priority)] チェックボックスはオンになっています。重複したパターン、または ! を持つ可変長パターンがダイヤル プランに含まれる場合を除き、チェックボックスはオフにしないことをお勧めします。</p>
[発呼側番号によるネクストホップのルート (Route Next Hop By Calling Party Number)]	<p>このボックスをオンにすると、発呼側番号に基づくルーティングを有効にすることができます。クラスター間で発信者 ID 情報に基づくコールのスクリーニングを機能させるにはこのルーティングが必要になります。</p>
[発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を Calling Line Identification (CLID; 発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask)]	トランスフォーメーションマスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。詳細については、「 ルート リストの追加 」(P.40-3) を参照してください。
[プレフィックス番号(Prefix Digits、発信コール)]	プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、および国際的なエスケープ文字 + です。 (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。 このトランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。 発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。 このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 発信側番号トランスフォーメーション設定値 」の項にある表 16-8 を参照してください。 (注) コール表示制限を設定するには、このパラメータおよび [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] パラメータを [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] デバイスレベルパラメータと組み合わせて使用します。同時に、これらの設定値では、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を表示するか、制限するかを選択できます。[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの詳細については、「 デバイス プロファイルの設定 」(P.98-10)、および「 電話機の設定値 」(P.92-3) の表 92-1 を参照してください。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「 Call Display Restrictions 機能 」の章を参照してください。

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者名の表示 (CNIP/CNIRI) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このトランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発呼者名の情報を表示させる場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発呼者名の情報を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>
[発信側番号タイプ (Calling Party Number Type)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX (Private Branch Exchange; 構内交換機) への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤル プランが不明です。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側番号計画 (Calling Party Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。
[接続側トランスフォーメーション (Connected Party Transformations)]	
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先回線 ID の表示 (COLP/COLR) を使用します。これは、コールごとに着信側の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このトランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先名の表示 (CONP/CONR) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このトランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を発信側の画面表示に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>
[着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>このトランスレーション パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p>(注) 表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>
[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーション マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、トランスフォーメーションは行われません。ダイヤルされた番号が、ダイヤルされたとおりに送信されません。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 57-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[着信側番号計画 (Called Party Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。

追加情報

「関連項目」(P.57-14) を参照してください。

トランスレーション パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスレーション パターンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のトランスレーション パターンを見つけることができます。トランスレーション パターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスレーション パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスレーション パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] の順に選択します。

トランスレーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Translation Patterns) ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.57-14) を参照してください。

トランスレーション パターンの設定

トランスレーション パターンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

トランスレーション パターンを設定する前に、次の Cisco Unified Communications Manager 項目を設定してください。

- パーティション
- ルート フィルタ
- コーリング サーチ スペース
- リソースプライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] の順に選択します。

[トランスレーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Translation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のトランスレーションパターンをコピーするには、対象となるトランスレーションパターンを見つけて（「[トランスレーションパターンの検索](#)」(P.57-11) を参照）、コピーするトランスレーションパターンの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しいトランスレーションパターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存のトランスレーションパターンを更新するには、対象となるトランスレーションパターンを見つけて（「[電話機の検索](#)」(P.92-32) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 表示される [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します（[表 57-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存(Save)] をクリックします。



(注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するトランスレーション パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターンおよびハント パイロット、トランスレーション パターン、電話番号、コール パーク番号、コール ピックアップ番号、またはミーティング番号の設定 ウィンドウをチェックしてください。

[トランスレーション パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウに、新しく設定したトランスレーション パターンが表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.57-14) を参照してください。

トランスレーション パターンの削除

トランスレーション パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング(Call Routing)] > [トランスレーションパターン(Translation Pattern)] の順に選択します。

ステップ 2 削除するトランスレーション パターンを見つけます。「[トランスレーション パターンの検索](#)」(P.57-11) を参照してください。

ステップ 3 削除するトランスレーション パターンのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除(Delete Selected)] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 トランスレーション パターンを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル(Cancel)] をクリックします。



注意

トランスレーション パターンを削除するときは、削除するトランスレーション パターンが正しいか慎重に確認してください。削除したトランスレーション パターンを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したトランスレーション パターンを作成し直す必要があります。



ヒント

トランスレーション パターンの削除は、削除するトランスレーション パターンを見つけて表示し、[削除(Delete)] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.57-14) を参照してください。

関連項目

- 「トランスレーション パターンの設定値」 (P.57-1)
- 「トランスレーション パターンの検索」 (P.57-11)
- 「トランスレーション パターンの設定」 (P.57-12)
- 「トランスレーション パターンの削除」 (P.57-13)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート プランの概要」
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定」 (P.22-3)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定」 (P.23-3)



CHAPTER 58

コールパーク

Call Park（コールパーク）機能を使用すると、コールの保留操作をした後、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話機からその保留コールに応答することができます（たとえば、別のオフィスや会議室の電話機などです）。あるユーザに着信コールがあるときに、[パーク] ソフトキーやコールパーク ボタンを押して、そのコールをコールパーク番号に一時的に保留（パーキング）させることができます。システム内の誰かが別の電話機からコールパーク番号をダイヤルすると、そのパーク中のコールに応答できます。

コールパーク機能の使用方法と設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[コールパークとダイレクトコールパーク](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 59

ダイレクト コール パーク

ダイレクト コール パークを使用すると、ユーザが選択した使用可能なダイレクト コール パーク番号にコールを転送できます。ダイレクト コール パーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定したダイレクト コール パーク番号は、クラスタ全体で使用可能です。ダイレクト コール パークの Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) をサポートする電話機は、指定したダイレクト コール パーク番号が、ビジー ステータスかアイドル ステータスかを監視するように設定できます。また、BLF を使用すると、ダイレクト コール パーク番号を短縮ダイヤルできます。

設定済みの取得プレフィックスと、コールをパークしたダイレクト コール パーク番号を続けてダイヤルすることによって、パークしたコールを取得できます。

ダイレクト コール パーク機能の使用方法和設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[コールパークとダイレクト コールパーク](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 60

コール ピックアップ グループの設定

[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] メニュー オプションを使用すると、管理者はコール ピックアップ グループを設定できます。エンド ユーザをコール ピックアップ グループのメンバーとして設定すると、そのユーザは自分以外の電話番号に着信するコールに応答できるようになります。別の電話機で着信音が鳴った場合、ユーザはコール ピックアップ電話機能のいずれかを使用して、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。

SCCP および SIP を実行している Cisco Unified IP Phone では、次の複数のタイプのコール ピックアップ機能を使用できます。

- コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、自分のグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、Cisco Unified Communications Manager は、適切なコール ピックアップ グループ番号を自動的にダイヤルします。
- グループ コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、ユーザ自身が、適切なコール ピックアップ グループ番号をダイヤルする必要があります。
- 他グループ ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、自分のグループに関連付けられたグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにした場合、ユーザのグループに関連付けられたグループ内の電話機で呼び出し音が鳴ると、Cisco Unified Communications Manager は自動的に、関連付けられたグループ内で着信コールを検索します。
- ダイレクト コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、[G ピック] ソフトキーを押してから Directory Number (DN; 電話番号) を入力することにより、その電話番号への着信コールを直接受けることができます。
- Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) コール ピックアップ機能を使用すると、ユーザは、自分の Cisco Unified IP Phone に設定されている BLF ボタンに関連付けられた DN へのコールを受けることができます。

各種のコール ピックアップ機能の使用方法和設定方法、およびコール ピックアップ グループの設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[コール ピックアップ](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 61

電話番号の設定

次の項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの Directory Number (DN; 電話番号) に関する作業と設定について説明しています。

- 「電話番号の設定値」(P.61-1)
- 「電話番号の検索」(P.61-25)
- 「電話番号の設定」(P.61-26)
- 「電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.61-27)
- 「PLAR の設定」(P.61-28)
- 「電話機からの電話番号の削除」(P.61-29)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.61-30)
- 「関連項目」(P.61-31)

電話番号の設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、特定の電話機に割り当てる電話番号 (DN) の設定および変更を行います。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用して、次の作業を実行します。

- 電話番号の追加または削除。
- 自動転送、コール ピックアップ、コール待機、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) オプションの設定。
- 回線からコールが行われるときに着信側電話機に表示されるテキストの指定。
- 呼び出し音の設定。
- Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの設定。

シェアラインには常に同一の DN 設定が割り当てられます。ただし、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにある、「デバイス SEPXXXXXXXXXXXX の」という命名規則を含むフィールドセクションは除きます。このようなセクションは、特定のデバイスに対して保持または割り当てられます。デバイスにシェアラインを追加した場合は、コーリング サーチ スペース、自動転送、コール ピックアップなどの共有 DN 設定が表示されます。これらの DN 設定を変更した場合、新しい設定はすべてのシェアラインに適用されます。

電話番号の設定値を設定するには、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。これらの設定値は、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] で電話を追加するか、または [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] で CTI ルートポイントを追加した後で設定できます。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] または [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] で電話番号を設定する場合は、電話機モデルまたは CTI ルートポイントに適用される設定値だけが表示されることに注意してください。[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] で電話番号を設定する場合、一度にすべての電話番号の設定が表示されるとは限りません。たとえば、電話番号を設定してから [保存 (Save)] をクリックすると、さらに設定値が表示されることがあります。

表 1 では、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.61-31\)](#)」を参照してください。

表 1 電話番号の設定値

フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号 (Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、ルート パターンのワイルドカードと数字 (0 ~ 9) を指定できます。また、特殊文字として、疑問符 (?)、感嘆符 (!)、バックslash (\)、角カッコ ([])、プラス記号 (+)、ダッシュ (-)、アスタリスク (*)、キャレット (^)、シャープ記号 (#)、および X なども指定できます。ただし、特殊文字のうち、ピリオド (.)、アットマーク (@)、ドル記号 (\$)、およびパーセント記号 (%) は指定できません。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を使用する場合は、パターンの先頭に ¥+ を入力します。このフィールドでは、¥+ はワイルドカードではなく、ダイヤル可能な数字を表します。</p> <p>(注) 電話番号としてパターンが使用されている場合、電話機の表示、およびダイヤルされた電話機への発信者 ID の表示には、数字以外の文字が含まれます。このような表示を避けるために、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] に値を入力することをお勧めします。</p> <p>入力する電話番号が、複数のパーティションに表示される場合があります。</p> <p>[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] でこのフィールドを設定する場合、範囲 (つまり、最初のフィールドに電話番号の先頭、2 番目のフィールドに電話番号の末尾) を入力して、電話番号をまとめて入力または挿入できます。この方法を使用すると、一度に最大 500 個の電話番号を作成できます。</p>
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力する電話番号が、選択したパーティション内で固有のものであることを確認してください。電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<なし (None)>] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (「パーティションの検索 (P.53-4)」を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	電話番号とルート パターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>呼び出し先の電話が鳴ったときに発信者の電話に表示する名前を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴ったときに、シェアドライン アピアランスを持つ電話番号に呼び出し表示を設定した場合、次の作業が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 着信側の呼び出し表示を発信者に転送するように設定されている場合は、そのとおりに転送されます。 トランスレーションパターンに設定されている Connected Name Restrictions (CONR) を適用します (制限が存在する場合)。 <p>コールおよび設定の状態に応じて、呼び出し表示、電話番号、または表示 (内線発信者 ID) 設定が次のように電話に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> アラート状態: [電話番号 (Directory Number)] ウィンドウに設定されたとおりに呼び出し表示が表示されます。 接続状態: [表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドおよび [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドを設定すると、表示 (内線発信者 ID) 名が表示されます。 接続状態: [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドは設定したものの、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドは設定しなかった場合は、電話番号が表示されません。 <p>Always Display Original Dialed Number サービス パラメータを [True] に設定すると、呼び出し表示機能に大きな影響を与えます。サービス パラメータを [True] に設定した場合は、コール時に最初にダイヤルされた番号および呼び出し表示が表示されます。</p>
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[アクティブ (Active)]	[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにこのチェックボックスを表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから、割り当てられていない電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この電話番号へのコールを自動転送できるようになります (自動転送が設定されている場合)。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager はその電話番号を無視します。
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI から、この電話番号が関連付けられたデバイスの回線を制御および監視できます。</p> <p>電話番号がシェアドラインを指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[回線グループ (Line Group)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、この DN を関連付ける回線グループを選択します。</p> <p>回線グループの回線グループ情報を編集または表示するには、ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、[回線グループの編集 (Edit Line Group)] ボタンをクリックします。回線グループの設定の詳細については、「回線グループの設定」(P.42-1) を参照してください。</p> <p>(注) DN を回線グループの一部として設定した場合、その DN を CTI ポートまたは CTI ルート ポイントに関連付けることはできません。逆に、CTI ポートまたは CTI ルート ポイントを設定した場合、すでに回線グループまたはハント リストに属している DN は指定できません。さらに、DN が回線グループまたはハント リストのメンバーである場合、その DN を使用するデバイス (CTI ポート、CTI ルート ポイント、SCCP を実行している電話機、または SIP を実行している電話機) は、CTI ユーザに関連付けないでください。</p>
[デバイスの関連付け (Associated Devices)]	<p>この DN をデバイスに関連付けると、この DN が関連付けられたデバイスがこのペインに表示されます。</p> <p>この DN が関連付けられたデバイスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[デバイスの編集 (Edit Device)] ボタンをクリックします。選択したデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話機またはデバイス プロファイルの設定の詳細については、「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1) の章または「デバイス プロファイルの設定」(P.98-1) の章を参照してください。</p> <p>この DN に対して定義されたライン アピアランスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[ラインアピアランスの編集 (Edit Line Appearance)] ボタンをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウまたは [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが更新され、選択したデバイスについて、この DN のライン アピアランスが表示されます。</p> <p>[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインのデバイス リストからこの DN にデバイスを関連付けるには、[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインでデバイスを選択し、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインに追加します。追加するには、この 2 つのペイン間にある上矢印をクリックします。</p>
[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)]	<p>DN とデバイスの関連付けを解除する場合、この DN の関連付けを解除するデバイスがこのペインに表示されます。</p> <p>[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイスを選択し、[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに追加します。追加するには、この 2 つのペイン間にある下矢印をクリックします。</p>
[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	<p>[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] に定義されているボイスメール プロファイルのリストから選択します。</p> <p>最初のオプションは、[<なし (None)>] で、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] で設定された現在のデフォルト ボイスメール プロファイルを表しています。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<p>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」 (P.61-24) を参照してください。</p> <p>このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされている番号が更新されます。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、不在転送、話中転送、無応答時転送、カバレッジなし時転送、および CTI 障害時転送の電話番号に対して設定できます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</p> <p>不在転送を正しく動作させるには、不在転送のプライマリ コーリング サーチ スペースまたは不在転送のセカンダリ コーリング サーチ スペースの一方または両方を設定する必要があります。システムはこれらの連結フィールド (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS) を使用して、CFA 転送先を確認し、その CFA 転送先にコールを転送します。</p> <p>(注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、他の自動転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリング サーチ スペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。話中転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>電話機の [不在] ソフトキーを使用してコールを自動転送する場合、回線 CSS とデバイス CSS の自動的な連結は使用されません。設定されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS だけが使用されます。これらのフィールドがどちらも [なし (None)] の場合、連結によって 2 つのヌル パーティションが生じます。その結果、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>ユーザが電話機上でコールを自動転送するのを制限する場合は、不在転送のコーリングサーチスペースのフィールドから、限定的なコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。</p>
<p>[プレゼンスグループ (Presence Group)]</p>	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。
[自動応答 (Auto Answer)]	次のいずれかを選択し、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> [自動応答オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] または [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p>(注) シェアドラインを持つデバイスには自動応答を設定しないでください。</p>
[AAR 設定 (AAR Settings)]	
[AAR] ([ボイスメール (Voice Mail)], [AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)], [AAR グループ (AAR Group)])	この一連のフィールド内の設定値は、帯域幅不足により宛先に到達できない場合のコールの処理を指定します。Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、AAR 接続先マスクまたはボイスメールにルーティングされるコールを処理します。 次の値のいずれかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、カバレッジまたは接続先のボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。 [AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)] : ダイヤルされる AAR 接続先を指定するには、外部電話番号マスクの代わりにこの設定値を使用します。 [AAR グループ (AAR Group)] : この設定値は、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を指定します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[この接続先を不在転送履歴に保持する (Retain this destination in the call forwarding history)]	この設定は、コールの AAR レッグを不在転送履歴に記録するかどうかを決定します。チェックボックスをオフにすると、コールの AAR レッグは不在転送履歴に記録されません。チェックボックスをオンにすると、コールの AAR レッグは不在転送履歴に記録されます。 デフォルトでは、電話番号設定により、コールの AAR レッグは不在転送履歴に保持されません。そのため、ボイス メッセージ システムへの AAR 転送が行われると、ユーザはボイス メッセージを残すように要求されます。

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)]	<p>このオプションには、3 つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] • [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] • [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションを選択すると、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定した不在転送のコーリングサーチスペースによって、不在転送のアクティブ化と自動転送が制御されます。不在転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] に設定されている場合、不在転送用の CSS は設定されません。パーティションが設定されている電話番号への不在転送のアクティブ化は失敗します。不在転送がアクティブな間、不在転送のコーリングサーチスペースおよび不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは変更されません。</p> <p>不在転送のコーリングサーチスペースを明示的に設定しないで、電話番号のコーリングサーチスペースとデバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせを使用するには、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] で [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] を選択します。電話機から不在転送をアクティブ化するときこのオプションを使用すると、電話番号のコーリングサーチスペースと、アクティブ化デバイスのデバイスのコーリングサーチスペースが、自動的に不在転送のコーリングサーチスペース、および不在転送の二次コーリングサーチスペースに読み込まれます。</p> <p>この設定 ([コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定) で、不在転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] に設定されている場合に、電話機から不在転送をアクティブ化すると、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのコーリングサーチスペースの組み合わせを使用して、不在転送の試行の確認が行われます。</p> <p>[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定した場合は、クラスタ全体のサービスパラメータである CFA CSS Activation Policy によって、使用される不在転送のコーリングサーチスペースが決まります。CFA CSS Activation Policy サービスパラメータが [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] に設定されている場合は、不在転送のコーリングサーチスペースと不在転送の二次コーリングサーチスペースが不在転送に使用されます。CFA CSS Activation Policy サービスパラメータが [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定されている場合は、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのデバイスコーリングサーチスペースが、自動的に不在転送のコーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースに読み込まれます。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<p>CFA CSS Activation Policy サービス パラメータ</p> <p>不在転送が意図したとおりに動作するよう、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide パラメータ (機能 - 転送)(Clusterwide Parameters (Feature - Forward))] セクションに表示される CFA CSS Activation Policy サービス パラメータが正しく設定されていることを確認してください。このパラメータには、2 つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] (デフォルト) • [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] <p>[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] を [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定した場合は、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータの値を使用して、不在転送 CSS が決定されます。</p> <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションが選択されている場合は、不在転送のプライマリおよびセカンダリ コーリング サーチ スペースが使用されます。[デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] オプションが選択されている場合は、プライマリ回線のコーリング サーチ スペースとアクティブ化デバイスのコーリング サーチ スペースで、不在転送のプライマリおよびセカンダリ コーリング サーチ スペースが更新されます。</p> <p>デフォルトでは、CFA CSS Activation Policy サービス パラメータは [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] に設定されています。</p> <p>サービス パラメータへのアクセスおよび設定については、「サービス パラメータの設定 (P.26-1)」を参照してください。</p> <p>ローミング</p> <p>同じデバイス モビリティ グループでデバイスをローミングしている場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス モビリティの CSS を使用して、ローカル ゲートウェイに接続します。ユーザが電話に不在転送を設定し、CFA CSS が [なし (None)] に設定されていて、CFA CSS アクティベーション ポリシーが [デバイス/回線 CSS のアクティブ化を使用 (With Activating Device/Line CSS)] に設定されている場合、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスがホーム ロケーションにある場合、CFA CSS として、デバイスの CSS と回線の CSS が使用されます。 • デバイスが同じデバイス モビリティ グループ内でローミングされている場合、CFA CSS として、ローミング デバイス プールからのデバイス モビリティの CSS と回線の CSS が使用されます。 • デバイスが異なるデバイス モビリティ グループ内でローミングしている場合、CFA CSS として、デバイスの CSS と回線の CSS が使用されます。

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[不在転送 (Forward All)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がコールをすべて自動転送するように設定されている場合の、この電話番号へのコールの自動転送処理を指定します。ユーザが電話機から [不在転送 (Forward All)] をアクティブにすると、入力された [不在転送 (Forward All)] の転送先を検証するために、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。このフィールドは、コールを [不在転送 (Forward All)] の転送先にリダイレクトするときにも使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先 (Destination)] : この設定値は、すべてのコールの自動転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>自動転送は回線ベースの機能であるため、デバイスのコーリングサーチスペースが不明の場合、システムはコールを転送するときに、回線のコーリングサーチスペースだけを使用します。回線のコーリングサーチスペースが限定的であり、ルーティング可能でない場合、転送は失敗します。</p> <p>不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースを追加すると、転送が可能なソリューションが得られます。不在転送のプライマリコーリングサーチスペースと不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは連結されます(プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager は、この連結を使用して、CFA 転送先を検証し、コールを転送します。</p> <p>連結されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS がどのように機能するかについては、「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」(P.61-5) の説明を参照してください。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への内部コールの自動転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、「ビジートリガー (Busy Trigger)」(P.61-23) を参照してください。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : 内部コールで [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先 (Destination)] : この設定値は、内部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話中転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが [話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy External、外部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への外部コールの自動転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、「[ビジートリガー (Busy Trigger)]」 (P.61-23) を参照してください。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : 外部コールで [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンの場合、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対して [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先 (Destination)] : この設定値は、外部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 話中転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが [話中転送 (Forward Busy External、外部)] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への内部コールの自動転送処理を指定します。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)] : この設定値は、コールに応答がないときに、内部コールの自動転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 無応答時転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への外部コールの自動転送処理を指定します。コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメール パイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p>(注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [接続先 (Destination)] : この設定値は、コールに応答がないときに、外部コールの自動転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : 無応答時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p>コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオン ... なっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの自動転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (内部) のコーリング サーチ スペースは、コールがカバレッジなし時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、自動転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリング サーチ スペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p>コールを自動転送先にリダイレクトするときは、自動転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : カバレッジなし時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールがカバレッジなし時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p>(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、自動転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールを転送先に自動転送またはリダイレクトする場合は、設定された自動転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。自動転送のコーリングサーチスペースが [なし (None)] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、自動転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、自動転送動作が失敗することがあります。</p> <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを自動転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)]	<p>このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートだけに適用されます。この行の設定値は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合の、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの自動転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)] : [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先 (Destination)] : この設定値は、内部無接続コールの自動転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。
[未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal)]	<p>このフィールドは、未登録の内線 DN コールに適用されます。このコールは、指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。</p> <p>(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、特定の電話番号に対して転送回数の最大値を指定する必要もあります。「サービスパラメータの設定」(P.26-1) を参照してください。</p>
[未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External)]	<p>このフィールドは、未登録の外線 DN コールに適用されます。このコールは、指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。</p> <p>(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、特定の電話番号に対して転送回数の最大値を指定する必要もあります。「サービスパラメータの設定」(P.26-1) を参照してください。</p>
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	<p>このフィールドは無応答時転送の転送先設定と併用し、電話機で呼び出し音が鳴ってから転送が開始されるまでの時間を示すタイマーを設定します。この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager サービス パラメータの Forward No Answer Timer に設定された値が使用されます。</p> <p> 注意 デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] の時間よりも T301 タイマーの時間を長くします。T301 タイマーの設定時間が [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] よりも先に時間切れになった場合は、コールが終了し、自動転送が行われません。この動作を選択する場合は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] の時間を T301 タイマーよりも大きくするように設定できます。T301 タイマーについては、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択し、表示されたウィンドウで、サーバ、Cisco CallManager サービス、およびパラメータを選択します。</p>
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	<p>(指定されたパーティション内で) この電話番号へのコールに応答するために、ダイヤル可能な番号を選択します。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[パークモニタリング(Park Monitoring)]	
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(外部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]	<p>パークされた発信側が外部のユーザである場合、コールはこのフィールドに指定した宛先に自動転送されます。このフィールド値が空である場合、パークされた発信側はパーク元の回線にリダイレクトされます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール(Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定(Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先(Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先(Destination)] : サービス パラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer の期限が切れたときに、(外部のユーザから) パークされたコールが転送される電話番号です。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] : コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。
[未取得時のパークモニタリング転送の接続先(内部)(Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]	<p>パークされた発信側が内部のユーザである場合、コールはこのフィールドに指定した宛先に自動転送されます。このフィールド値が空である場合、パークされた発信側はパーク元の回線にリダイレクトされます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール(Voice Mail)] : [ボイスメールプロファイルの設定(Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified Communications Manager は、[接続先(Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [接続先(Destination)] : サービス パラメータ Park Monitoring Forward No Retrieve Timer の期限が切れたときに、(内部のユーザから) パークされたコールが転送される電話番号です。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] : コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。
[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)]	<p>このパラメータによって、Cisco Unified Communications Manager がユーザにパークしたコールの取得を求めるまでに待機する秒数が決まります。このタイマーはユーザが電話の [パーク] ソフトキーを押すと起動し、タイマーの期限が切れるとリマインダが発行されます。</p> <p>デフォルトは 60 秒です。</p> <p>(注) ゼロ以外の値を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されているパラメータの値がこの値で上書きされます。一方、ここに 0 を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されません。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先 (Target、接続先)]	この電話番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先が優先コールに回答しない場合に MLPP 優先コールが転送される番号を入力します。 この値には、数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を指定できます。
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、MLPP 代替パーティのターゲット (宛先) 番号に関連付けられたコーリング サーチ スペースを選択します。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] (P.61-24) を参照してください。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	秒数 (4 ~ 60) を指定します。この電話番号とその自動転送先が MLPP 優先コールに回答しない場合、ここで指定した秒数が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに誘導されます。 この設定をブランクのままにすると、Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout に設定された値が使用されます。
[すべてのデバイスの回線設定 (Line Settings for All Devices)]	
[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)]	0 ~ 1200 の数値を入力して、保留している相手の電話機に復帰コール アラートを発行するまでの秒数を指定します。 値 0 を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は、保留されたコールに対して復帰コール機能を起動しません。 インストールの時点では、このフィールドはブランクのままです。この設定をブランクのままにすると、クラスタの保留復帰の呼び出し時間タイマー設定が適用されます。
[保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)]	0 ~ 1200 の数値を入力して、保留している相手の電話機に定期的な注意アラートを送信する間隔の秒数を指定します。 値 0 を入力した場合、Cisco Unified Communications Manager は、注意アラートを送信しません。 インストールの時点では、このフィールドはブランクのままです。この設定をブランクのままにすると、クラスタの保留復帰の通知間隔タイマー設定が適用されます。
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : Party Entrance Tone サービス パラメータに設定された値を使用します。 [オン (On)] : 基本的なコールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、またはコールへの参加) に変更されるときにトーンが電話機で再生されます。また、参加者がマルチパーティ コールを終了するときには別のトーンが再生されます。制御するデバイス、つまり、マルチパーティ コールの発信元にビルトインブリッジが含まれている場合に、制御するデバイスで [オン (On)] を選択するとすべての参加者にトーンが再生されます。制御するデバイスがコールを終了するとき、Cisco Unified Communications Manager はコールに参加している別のデバイスがトーンを再生できるかどうかを識別します。コールに参加している別のデバイスがトーンを再生できる場合、Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生します。制御するデバイスがトーンを再生できない場合、パーティ参加トーン機能を有効にしても Cisco Unified Communications Manager はトーンを再生しません。 [オフ (Off)] : 基本的なコールがマルチパーティ コールに変更されるときにトーンが電話機で再生されません。

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイス<デバイス名>の回線<n>(Line [number] on Device [device name])]	
(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	<p>着側に表示されるテキスト。このフィールドをブランクのままにすると、内線番号が表示されます。</p> <p>最長 30 文字の英数字を使用してください。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。通常、ユーザ名または電話番号を使用します。電話番号を使用した場合、コールを受信した人は発信者の固有 ID を見ることができない場合があります。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]	<p>このフィールドには、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	<p>このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を示さないようにする場合に限り使用します。回線/電話機の組み合わせに対し電話番号を識別するテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>複数の電話番号をモニタする秘書や担当者がそれらの電話番号を識別できるように、所属長の氏名、部門名、または他の適切な情報の入力をお勧めします。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]	<p>このフィールドには、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からのコールの発信時に発信者 ID 情報の送信に使用される電話番号 (またはマスク) を指定します。</p> <p>最長 24 桁の数字、国際的なエスケープ文字 +、および「X」文字を入力できます。X は、電話番号を表し、パターンの末尾に指定する必要があります。たとえば、マスクを 972813XXXX に指定する場合、内線番号 1234 からの外部コールには、発信者 ID が「9728131234」と表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新(Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映(Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドでは、受話器のランプの点灯に関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムポリシーの使用(Use System Policy)] (電話番号は、サービス パラメータ「Message Waiting Lamp Policy」の設定を参照) • [ライトとプロンプト(Light and Prompt)] • [プロンプトのみ(Prompt Only)] • [ライトのみ(Light Only)] • [なし(None)] <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新(Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映(Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p>
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドでは、音声によるメッセージ受信インジケータに関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ(Off)] • [オン(On)] : このオプションを選択した場合、受話器をオフフックにすると、スタッターダイヤルトーンが聞こえます。 • [デフォルト(Default)] : このオプションを選択すると、電話機は、システムレベルで設定されたデフォルトを使用します。

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドでは、着信コールが受信され、そのデバイスにそれ以外のアクティブなコールがない場合に、ラインアピランスに対する呼び出し音設定値を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] • [無効 (Disable)] • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • [鳴らす (Ring)] <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p> <p>(注) エンタープライズパラメータ、デバイスプール、またはデバイスレベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、この電話機で別回線に別のアクティブなコールがある場合に使用する呼び出し音設定値を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] • [無効 (Disable)] • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • [鳴らす (Ring)] • [ビーブ音のみ (Beep Only)] <p>右側のチェックボックス ([共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)]) をオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにだけ表示されます)。</p> <p>(注) エンタープライズパラメータ、デバイスプール、またはデバイスレベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドは、着信コールによってコールピックアップグループのメンバに送信される通知の種類を決定します。着信した電話機で応答がない場合、コールピックアップグループにあるアイドル状態の電話機で、短い呼び出し音を鳴らす ([一度鳴らす (Ring Once)]) か、何も鳴らさない ([無効 (Disable)]) かを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station の設定によって決まります。 • [無効 (Disable)] : コールピックアップグループのメンバにアラートを送信しません。 • [一度鳴らす (Ring Once)] : コールピックアップグループのメンバに短い呼び出し音を送信します。

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>このフィールドは、着信コールによってコールピックアップグループのメンバに送信される通知の種類を決定します。着信した電話機で応答がない場合、コールピックアップグループにあるビジー状態の電話機で、ビープ音を鳴らす ([ビープ音のみ (Beep Only)]) か、何も鳴らさない ([無効 (Disabled)]) かを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータの Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station の設定によって決まります。 • [無効 (Disable)] : コールピックアップグループのメンバにアラートを送信しません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバにビープ音を送信します。
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスでの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] が指定されています。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音が無効 (Call Recording Disabled)] : このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは録音されません。 • [自動コール録音の有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音の有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : このラインアピアランスでエージェントが作成したコールは、アプリケーションがコール録音を呼び出した場合に録音されます。 • [デバイスから呼び出されたコール録音の有効 (Device Invoked Call Recording Enabled)] オプション : このオプションは、外部コール制御機能をサポートします。ポリシーサーバ上のポリシーで、監察者によるコールの監視と録音が必要であることが規定されている場合は、このオプションを選択します。 <p>録音オプションが [自動コール録音の有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音の有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定されている場合、ラインアピアランスを録音プロファイルに関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効な場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスでの録音プロファイルを決定します。ドロップダウンリストボックスから、既存の録音プロファイルを選択します。録音プロファイルを作成するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] メニューオプションを使用します。</p> <p>デフォルト値は、[なし (None)] です。</p>
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>エージェントを監視できるようにするには、スーパーバイザのラインアピアランスのモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含める必要があります。</p> <p>スーパーバイザのラインアピアランスウィンドウで、モニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから、既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は、[なし (None)] です。</p>

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[不在着信のログ (Log Missed Calls)]	このチェックボックスがオンになっている (この設定のデフォルト値) 場合、Cisco Unified Communications Manager は電話機のシェアドライン アピアランスの不在転送履歴に不在着信を記録します。このチェックボックスをオフにすると、不在着信はシェアドライン アピアランスに記録されません。
[デバイス<デバイス名>の複数コール/コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings on Device [device name])]	
(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>デバイスの回線に最大 200 コールを設定できます。デバイスに設定されるコールの合計数が、この制限要因になります。ある回線に対してコールの数を設定すると、別の回線で利用できるコールの数はそれだけ少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 コールです。電話機が各回線に複数のコールを設定できない場合、デフォルト値は 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、各ポートに最大 10,000 コールを設定できます。デフォルト値は 5000 コールです。このフィールドは、[ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併用します。</p> <p>(注) デフォルトでは、CTI ルート ポイントに設定可能なアクティブ コールの最大数は 5000 コールになっていますが、シスコでは、コールの最大数をルート ポイントあたり 200 以下に設定することをお勧めします。この設定により、システム パフォーマンスの低下を防ぐことができます。CTI アプリケーションで 200 を超えるコールが必要な場合は、複数の CTI ルート ポイントを設定することをお勧めします。</p> <p>ヒント 外部コール制御機能を使用し、ポリシー サーバ上のポリシーで監察者によるコールの監視と録音が必要であると規定されている場合は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] を 2 に設定し、[ビジートリガー (Busy Trigger)] を 1 に設定していることを確認してください。</p> <p>ヒント シェアドライン アピアランスを持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「シェアドライン アピアランス」を参照してください。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および話中転送と連携し、回線で使用するコールの最大数を決定します。たとえば、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] に 50、[ビジートリガー (Busy Trigger)] に 40 をそれぞれ設定した場合、41 番目の着信コールは、ビジーのために拒否されます (話中転送が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになった後に着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併用します。デフォルト値は 4500 コールです。</p> <p>ヒント シェアドライン アピアランスを持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「シェアドライン アピアランス」を参照してください。</p>
[デバイス<デバイス名>における、転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device [device name])]	
(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
[発信者名 (Caller Name)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時に発信者名が表示されます。
[発信者番号 (Caller Number)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時に発信者 ID が表示されます。
[転送元番号 (Redirected Number)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時にリダイレクトされた番号が表示されます。

表 1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	このチェックボックスをオンにすると、自動転送時に最初にダイヤルされた番号が表示されます。
[回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line)]	
(注) この情報が表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合だけです。	
(ユーザ名)	<p>このペインには、この回線に関連付けられたエンド ユーザが表示されます。</p> <p>この回線にエンド ユーザを関連付けるには、[エンドユーザの関連付け (Associate End Users)] ボタンをクリックします。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。ポップアップ ウィンドウで、検索機能を使用し、この回線に関連付けるエンド ユーザを検索します。エンド ユーザの検索の詳細については、「エンドユーザの検索」(P.113-10) を参照してください。この回線に関連付けるエンド ユーザが見つかったら、[選択項目の追加 (Add Selected)] ボタンをクリックします。選択されたエンド ユーザが、この回線の [回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line)] ペインに追加されます。</p> <p>関連付けられたエンド ユーザごとに、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [氏名 (Full Name)] : この列には、関連付けられたエンド ユーザの姓と名のエントリが表示されます。 [ユーザ ID (User ID)] : この列には、関連付けられたエンド ユーザのユーザ ID が表示されます。 [権限 (Permission)] : [i] ボタンをクリックすると、このエンド ユーザのユーザ特権情報が表示されます。 <p>この回線に少なくとも 1 名のエンド ユーザが関連付けられている場合は、次のボタンが追加表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [すべてを選択 (Select All)] : このボタンをクリックすると、この回線に関連付けられたすべてのエンド ユーザが選択されます。 [すべてをクリア (Clear All)] : このボタンをクリックすると、この回線に関連付けられたすべてのエンド ユーザが選択解除されます。 [選択項目の削除 (Delete Selected)] : この回線との関連付けを解除するエンド ユーザをすべて選択した後に、このボタンをクリックします。その結果、エンド ユーザとこの回線との関連付けが解除されます。ただし、エンド ユーザのレコードは削除されません。

[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、目的のコーリング サーチ スペースを検索します。



(注) リスト ボックスの最大項目を設定する ... は、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.61-31) を参照してください。

電話番号の検索

電話番号 (DN) を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択します。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.61-31) を参照してください。

電話番号の設定

電話番号 (DN) を追加または更新する手順は、次のとおりです。電話番号を追加すると同時に、自動転送、コール ピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。



ヒント

電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。電話番号にパターンを割り当てると、ユーザが混乱しないように、電話番号設定フィールド ([回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]) にテキストや数字を追加します (これらのフィールドが特定の電話番号について表示されるのは、電話番号を追加し、さらに、その電話番号を電話機に関連付けた場合だけです)。

たとえば、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] と [表示 (Display、内線発信者 ID)] にはユーザの名前を追加し、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示されるときに、「352XX」ではなく「John Chan」と表示されます。

Private Line Automatic Ringdown (PLAR; 専用回線自動切断) を設定する方法については、「[PLAR の設定](#)」(P.61-28) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択します。
[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話番号を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話番号のリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの作業を行います。
 - 電話番号を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、新しい電話番号を追加します。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、電話番号を追加するための代替方法が表示されます。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用し、新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を検索します。新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を表示したら、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] リンクまたは [回線 [2] - 新規 DN を追加 (Line [2] - Add a new DN)] リンクをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示され、この手順の「[ステップ 4](#)」を続行できます。

また、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] で CTI ルートポイントを設定して、電話番号を CTI ルートポイントに追加することもできます。

- 電話番号を更新するには、更新する電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** 該当する設定値を更新します ([表 1](#) を参照)。

ステップ 5 [保存(Save)] をクリックします。



(注) 次の「[ステップ 6](#)」に進むかどうかを決定する前に、「[電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.61-27) を参照してください。

ステップ 6 [リセット(Reset)] をクリックします。詳細については、「[電話機のリセット](#)」(P.92-38) を参照してください。



ヒント 2 回線で足りない場合は、電話機タイプ (たとえば Cisco IP Phone 7960 など) に対応する電話ボタンテンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ (Cisco IP Phone 7902 など) もあります。



(注) デバイスは、速やかに再起動してください。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.61-31) を参照してください。

電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更した電話番号を同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

ステップ 1 [コールルーティング(Call Routing)] > [電話番号の設定(Directory Number Configuration)] の順に選択します。

[電話番号の検索と一覧表示(Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。

ステップ 3 [検索(Find)] をクリックします。

検索条件に一致する電話番号がウィンドウに表示されます。

ステップ 4 該当するデバイスを同期させる電話番号をクリックします。[電話番号の設定(Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 他の設定変更を行います。

ステップ 6 [保存(Save)] をクリックします。

ステップ 7 [設定の適用(Apply Config)] をクリックします。

[設定情報の適用(Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。



(注) デバイスの再起動が必要な場合に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.61-31) を参照してください。

PLAR の設定

専用回線自動切断 (PLAR) を設定することができるため、ユーザが電話の受話器を外すと (または、[発信] ソフトキーまたは回線キーを押すと)、電話機はすぐに事前に設定された番号にダイヤルします。電話機のユーザは PLAR に設定されている回線で別の番号をダイヤルできません。

PLAR は、割り込み、C 割り込み、またはワンボタン割り込みなどの機能と連携します。ある機能と共に PLAR を使用する場合、機能のマニュアルに記述されているように機能を設定して、PLAR の接続先 (PLAR 専用の電話番号) を設定する必要があります。

次の例では、割り込みに対応していて、SCCP および SIP を実行している電話機で PLAR 機能を有効にする方法について説明します。A および A' は割り込み設定が行われているシェアライン デバイスを表し、B1 は PLAR の接続先用の電話番号を表します。A または A' から PLAR 機能を有効にするには、次の例を参照してください。



ヒント

「ステップ 1」から「ステップ 4」は、SCCP を実行している電話機に PLAR を設定する場合に適用されます。SIP を実行している電話機については、「ステップ 1」から「ステップ 6」を実行する必要があります。PLAR を設定する前に、お使いの電話機のモデルが PLAR をサポートしていることを確認してください。電話機が PLAR をサポートしているかどうかを調べるには、お使いの電話機のモデルとこのリリースの Cisco Unified Communications Manager をサポートする『Cisco Unified IP Phone Administration Guide』を参照してください。

PLAR の設定例

- ステップ 1** パーティション (たとえば P1) およびコーリング サーチ スペース (たとえば CSS1) を作成します。CSS1 には P1 が含まれます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] または [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の順に選択します)。
- ステップ 2** コーリング サーチ スペース CSS1 およびパーティション P1 を含む、ヌル (空) のトランスレーション パターン (たとえば TP1) を作成します。このヌル (空) のパターンで、[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)] フィールドに PLAR の接続先である B1 の電話番号を入力していることを確認します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] の順に選択します)。
- ステップ 3** コーリング サーチ スペース CS1 を A または A' のいずれかに割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します)。
- ステップ 4** PLAR の接続先である B1 の電話番号にパーティション P1 を割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択します)。

- ステップ 5** SIP を実行している電話機については、SIP ダイアル ルールを作成します (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイアルルール (Dial Rules)] > [SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] の順に選択します。[7940_7960_OTHER] を選択します。パターンの名前を入力します。たとえば、「PLAR1」などです。[保存 (Save)] をクリックしてから [PLAR の追加 (Add Plar)] をクリックします。[保存 (Save)] をクリックします)。
- ステップ 6** SIP を実行している電話機については、PLAR 用に作成した SIP ダイアル ルール設定を電話機 (この例では A および A') に割り当てます (Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] ドロップダウン リスト ボックスから SIP ダイアル ルール設定を選択します)。

電話機からの電話番号の削除

特定の電話機から電話番号 (DN) を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

使用されている電話番号を削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。電話番号を使用している回線グループを検索するには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス \(P.A-2\)](#)」を参照してください。

電話機から電話番号を削除しても、Cisco Unified Communications Manager 内にはその番号がまだ残っています。電話機に関連付けられている電話番号のリストを表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] メニュー オプションを使用します。詳細については、「[割り当てられていない電話番号の削除 \(P.64-3\)](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** 削除する電話番号を含むデバイス名を選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、削除する回線を選択します。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインで、この電話番号を削除する電話機のデバイス名を選択します。
- ステップ 6** [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインの下にある下矢印をクリックします。
電話機の名前が [デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに移動します。
- ステップ 7** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの下部にある [保存 (Save)] ボタンをクリックします。

その電話番号が削除された状態で、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。変更内容が電話機に自動的に適用されます。ただし、[リセット (Reset)] をクリックすることもできません。詳細については、「[電話機のリセット](#)」(P.92-38) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.61-31) を参照してください。

Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity Voice Mailbox の作成] リンクを使用すると、管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページから個々に Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。Cisco Unified Communications Manager を Cisco Unity Connection と統合している場合は、このリンクを使用して Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。

ボイスメールボックスおよびその他の Cisco Unity Connection の設定を Cisco Unity Connection の管理ページで設定するには、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。追加しようとするユーザに対する適切なテンプレートを定義し、Class of Service (COS; サービス クラス) を選択したことを確認してください。



(注)

エンドユーザの Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する前に、エンドユーザの電話デバイスへの関連付けとプライマリ内線を設定し、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection の間の SCCP 統合を完了させておく必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』または『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

始める前に

- ボイス メッセージ サービス用に Cisco Unified Communications Manager を設定します。『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト](#)」を参照してください。
- Cisco Unity Connection サーバを設定します。該当する『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- Cisco Unity Connection と連動するために、Cisco Unity Connection で AXL 接続を作成します (『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』の「Managing the Phone System Integrations」を参照)。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認します。『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』を参照してください。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が設定され、パイロット番号を含んでいること、または [なし (None)] に設定されていることを確認します。[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が [ボイスメールなし (No Voice Mail)] に設定されている場合、[Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクは表示されません。
- 追加しようとするユーザに対する適切なテンプレートを定義し、サービス クラス (COS) を選択したことを確認してください。Cisco Unity Connection ユーザの場合は、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。



(注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにも [Cisco Unity Voice Mailbox の作成 (Create Cisco Unity Voice Mailbox)] リンクがあります。

手順

- ステップ 1** コールルーティング (Call Routing) > [電話番号 (Directory Number)] の順に選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 1 を参照)。
- ステップ 3** ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Unity Voice Mailbox の作成 (Create Cisco Unity Voice Mailbox)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- [Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity Connection メールボックスを作成する Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [ユーザテンプレート (Subscriber Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- Cisco Unity Connection メールボックスが作成されます。
- これで、Cisco Unity Connection の管理に、作成したメールボックスを表示できます。該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.61-31) を参照してください。

関連項目

- 「電話番号の設定値」(P.61-1)
- 「電話番号の検索」(P.61-25)
- 「電話番号の設定」(P.61-26)
- 「電話番号と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.61-27)
- 「PLAR の設定」(P.61-28)
- 「電話機からの電話番号の削除」(P.61-29)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.61-30)
- 「電話番号の設定値」(P.61-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の設定チェックリスト」
- 「回線グループの設定」(P.42-1)
- 「割り当てられていない電話番号の削除」(P.64-3)

- 「ゲートウェイの設定」(P.91-1)
- 「電話機のリセット」(P.92-38)
- 「電話機の検索」(P.92-32)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-34)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」
- 『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」



CHAPTER 62

ミーティング番号 / パターンの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ミーティング番号/パターンの設定値」(P.62-1)
- 「ミーティング番号/パターンの検索」(P.62-3)
- 「ミーティング番号/パターンの設定」(P.62-4)
- 「ミーティング番号/パターンの削除」(P.62-5)
- 「関連項目」(P.62-5)

ミーティング番号 / パターンの設定値

ミーティング会議では、電話番号の割り当てが必要です。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してミーティング会議用電話番号の範囲を設定し、ユーザがこの機能を利用できるようにします。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから、ミーティング番号/パターンを設定してください。

- サーバが設定済みであること。「サーバの設定」(P.2-1) を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。「デバイス プールの設定」(P.9-1) を参照してください。

表 62-1 では、ミーティング番号/パターンの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.62-5) を参照してください。

表 62-1 ミーティング番号/パターンの設定値

フィールド	説明
[電話番号またはパターン (Directory Number or Pattern)]	ミーティングの電話番号やパターン、または番号の範囲を入力します。 範囲を設定するには、角カッコ内にダッシュとそれに続く数値を入力する必要があります。たとえば、範囲 1000 ~ 1050 を設定するには、10[0-5]0 と入力します。
[説明 (Description)]	説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 62-1 ミートミー番号/パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してミートミー番号/パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。</p> <p>ミートミー番号/パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<なし (None)>] を選択します。詳細については、「パーティションの設定」(P.53-1) を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (「パーティションの検索」(P.53-4) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] の下の [Max List Box Items] フィールドを更新します。</p> <p>(注) ミートミー番号/パターンとパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[最小セキュリティレベル (Minimum Security Level)]	<p>このミートミー会議番号またはパターンの最小ミートミー会議セキュリティ レベルを、ドロップダウン リスト ボックスから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [認証のみ (Authenticated)] : ノンセキュアな電話機を使用した参加者が会議に参加することをブロックします。 • [暗号化 (Encrypted)] : 認証済みまたはノンセキュアな電話機を使用した参加者が会議に参加することをブロックします。 • [非セキュア (Non Secure)] : すべての参加者が会議に参加できます。 <p>(注) この機能呼び出すには、セキュアな会議ブリッジが設定済みで使用可能になっている必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」(P.62-5) を参照してください。

ミートミー番号/パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのミートミー番号/パターンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のミートミー番号/パターンを見つけることができます。ミートミー番号/パターンを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ミートミー番号/パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ミートミー番号/パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ミートミー番号/パターン (Meet-Me Number/Pattern)] の順に選択します。

[ミートミー番号の検索と一覧表示 (Find and List Meet-Me Numbers)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.62-5) を参照してください。

ミートミー番号/パターンの設定

ミートミー番号/パターンを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。「サーバの設定」(P.2-1) を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。「デバイス プールの設定」(P.9-1) を参照してください。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ミートミー番号/パターン (Meet-Me Number/Pattern)] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のミートミー番号/パターンをコピーするには、該当するミートミー番号/パターンを見つけます（「ミートミー番号/パターンの検索」(P.62-3) を参照）。コピーするミートミー番号/パターンをクリックします。[ミートミー番号/パターン設定 (Meet-Me Number/Pattern Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コピー (Copy)] をクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- ミートミー番号/パターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 既存のミートミー番号/パターンを更新するには、該当するミートミー番号/パターンを見つけます（「ミートミー番号/パターンの検索」(P.62-3) を参照）。更新するミートミー番号/パターンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。



(注) 必要に応じて、番号またはパターンを変更することができます（たとえば、5000 を 500X に変更できます）。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 62-1 を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.62-5) を参照してください。

ミートミー番号/パターンの削除

ミートミー番号/パターンを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。
- ミートミー番号/パターンが設定済みであること。

手順

-
- ステップ 1** 「[ミートミー番号/パターンの検索](#)」(P.62-3) の手順を使用して、ミートミー番号/パターンを検索します。
- ステップ 2** 削除するミートミー番号/パターンをクリックします。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.62-5) を参照してください。

関連項目

- 「[ミートミー番号/パターンの設定値](#)」(P.62-1)
- 「[ミートミー番号/パターンの検索](#)」(P.62-3)
- 「[ミートミー番号/パターンの設定](#)」(P.62-4)
- 「[ミートミー番号/パターンの削除](#)」(P.62-5)
- 「[パーティションの設定](#)」(P.53-1)
- 「[会議デバイスの設定](#)」(P.71-18)
- 「[会議デバイスの同期化](#)」(P.71-19)
- 「[会議デバイスの削除](#)」(P.71-20)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[会議ブリッジ](#)」



CHAPTER 63

ダイヤル プラン インストーラ

Cisco International Dial Plan をインストールし、これを使用して、北米を除く特定の国に固有の番号計画を作成できます。Cisco Unified Communications Manager には、デフォルトで、North American Numbering Plan (NANP; 北米番号計画) が用意されています。他国のダイヤルプランの要件はその国に固有のものであるため、デフォルトの NANP 設定は、その国のダイヤルプランを作成するのに最適でないことがあります。Cisco International Dial Plan を使用すると、固有のダイヤルプランを作成および更新でき、世界中でシスコのお客様がこのダイヤルプランを使用できるようになります。

この章では、ダイヤルプランを Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールする方法について説明します。

ダイヤルプランをサーバにインストールする前に、対応するダイヤルプラン Cisco Option Package (COP) ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにダウンロードしておく必要があります。

使用可能なすべてのダイヤルプランに対応し、ダウンロード、インストール、および Cisco Unified Communications Manager システムとの統合が可能な COP ファイルは、次の URL で入手できます。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/IDP50>

COP ファイルのインストールの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Dial Plan Guide*』を参照してください。

このロケーションからダイヤルプランをインストールする方法の詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager でのダイヤルプランのインストール](#)」(P.63-3)を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager のダイヤルプランを検索してインストールする手順は、次のとおりです。

- 「ダイヤルプランの検索」(P.63-2)
- 「ダイヤルプランの編集」(P.63-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager でのダイヤルプランのインストール」(P.63-3)
- 「NANP 以外のダイヤルプランに関するルートパターンの詳細の設定」(P.63-4)
- 「ダイヤルプランのアップグレード」(P.63-5)
- 「ダイヤルプランのアンインストール」(P.63-6)
- 「Cisco CallManager サービスの再起動」(P.63-7)
- 「関連項目」(P.63-8)

ダイヤル プランの検索

Cisco Unified Communications Manager システム上でダイヤル プランを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/表示ウィンドウでの検索設定がクライアントマシン上の cookie に格納されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified Communications Manager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルプランインストーラ (Dial Plan Installer)] の順に選択します。

[ダイヤルプランの検索と一覧表示 (Find and List Dial Plans)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウンリストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.63-8) を参照してください。

ダイヤル プランの編集

ダイヤル プランをインストール、アップグレード、またはアンインストールする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 「[ダイヤル プランの検索](#)」(P.63-2) で定義されている手順を使用して、インストールするダイヤル プランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。
[[ダイヤルプランの設定 \(Dial Plan Configuration\)](#)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次の作業のいずれかを実行します。
- ダイヤル プランをインストールするには、「[Cisco Unified Communications Manager でのダイヤルプランのインストール](#)」(P.63-3) を参照してください。
 - ダイヤル プランをアップグレードするには、「[ダイヤルプランのアップグレード](#)」(P.63-5) を参照してください。
 - ダイヤル プランをアンインストールするには、「[ダイヤルプランのアンインストール](#)」(P.63-6) を参照してください。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.63-8) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager でのダイヤル プランのインストール

ダイヤル プランをインストールする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 「[ダイヤル プランの検索](#)」(P.63-2) で定義されている手順を使用して、インストールするダイヤル プランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。
[[ダイヤルプランの設定 \(Dial Plan Configuration\)](#)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [[ダイヤルプラン \(Dial Plan\)](#)] フィールドと [[説明 \(Description\)](#)] フィールドに、ダイヤル プランの名前と説明が表示されます。
- ステップ 4** [[インストールされているバージョン \(Installed Version\)](#)] に、Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。ダイヤル プランのどのバージョンもインストールされていない場合、[[インストールされているバージョン \(Installed Version\)](#)] には「Not Installed」と表示されます。

- ステップ 5** [使用可能バージョン (Available Version)] ドロップダウン リスト ボックスから、インストールするダイヤル プランのバージョンを選択します。
- ステップ 6** [インストール (Install)] をクリックします。
[ステータス (Status)] に、ダイヤル プランがインストールされたことが表示されます。
[インストールされているバージョン (Installed Version)] フィールドに、Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされたダイヤル プランのバージョンが表示されます。
- ステップ 7** 「ステップ 1」～「ステップ 6」を繰り返して、Cisco Unified Communications Manager クラスタのすべてのノードでダイヤル プランをインストールします。



(注) ダイヤル プランのインストールが完了したら、ダイヤル プランをロードするために Cisco CallManager サービスを再起動します。

追加情報

「関連項目」(P.63-8) を参照してください。

NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定

NANP 以外のダイヤル プランを Cisco Unified Communications Manager システムにインストールした場合は、Cisco Unified Communications Manager の [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウでルート パターンの詳細を設定するときに、必要なダイヤル プランを選択できます。

ルート パターンの詳細を設定するときは、次の点に注意してください。

1. NANP 以外のダイヤル プランの場合、ルートパターン レベルで設定を保持するときは、[ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウで次のどちらかの選択を行います。
 - a. [番号の削除 (Discard Digits)] フィールドで [None] を選択します。[番号の削除 (Discard Digits)] フィールドで [None] を選択すると、ダイヤル プランを選択しないこととなります。
 - b. [番号の削除 (Discard Digits)] フィールドで、NANP 以外の [<ダイヤル プラン>:No Digits] を選択します (たとえば、[AMNP:No Digits])。
2. [ルートグループ (Route Group)] レベルの設定値を指定して [ルートパターン (Route Pattern)] の設定値を無効にする場合は、[番号の削除 (Discard Digits)] フィールドでそのダイヤル プランに適した Discard Digit Instructions (DDI; 番号削除の命令) を選択します。DDI の例には、[NANP:PreDot] や [AMNP:PreDot] があります。

追加情報

「関連項目」(P.63-8) を参照してください。

ダイヤル プランのアップグレード

NANP 以外のダイヤル プランをすでにインストールしている場合、Cisco Unified Communications Manager システムにインストールされているダイヤル プランを、アップグレード バージョンのダイヤル プランでアップグレードできます。

**注意**

既存のバージョンのダイヤル プランでルート フィルタの条件として 1 つ以上のタグを設定している場合、これらのタグがアップグレード バージョンに含まれていないときは、ダイヤル プランのアップグレードは失敗します。新しいダイヤル プランへのアップグレードを実行すると、それらのタグがすべてリスト表示されます。これらのタグをルート フィルタから分離した上で、再度 Cisco Unified Communications Manager システムでダイヤル プランのアップグレードを実行する必要があります。

**注意**

既存のバージョンのダイヤル プランでルート パターン、トランスレーション パターン、またはルート リストに 1 つ以上の DDI を関連付けている場合、これらの DDI がアップグレード バージョンに含まれていないときは、ダイヤル プランのアップグレードは失敗します。ダイヤル プランのアップグレードを実行すると、これらの DDI がすべてリスト表示されます。これらの DDI をルート パターン、トランスレーション パターン、ルート リストから分離した上で、再度 Cisco Unified Communications Manager システムでダイヤル プランのアップグレードを実行する必要があります。

**(注)**

クラスタ内のサブスクリバまたは他のノードでダイヤル プランを更新する前に、Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノード サーバ上でダイヤル プランを更新したことを確認してください。

既存のダイヤル プランをアップグレードする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[ダイヤル プランの検索](#)」(P.63-2) で定義されている手順を使用して、アップグレードするダイヤル プランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。
[ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ダイヤルプラン (Dial Plan)] フィールドと [説明 (Description)] フィールドに、ダイヤル プランの名前と説明が表示されます。
- ステップ 4** [インストールされているバージョン (Installed Version)] に、Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。ダイヤル プランのどのバージョンもインストールされていない場合、[インストールされているバージョン (Installed Version)] には「Not Installed」と表示されます。
- ステップ 5** [使用可能バージョン (Available Version)] ドロップダウン リスト ボックスから、アップグレードするダイヤル プランのバージョンを選択します。
- ステップ 6** [インストール (Install)] をクリックします。
[ステータス (Status)] に、ダイヤル プランがアップグレードされたことが表示されます。
[インストールされているバージョン (Installed Version)] フィールドに、ダイヤル プランの最新バージョンが表示されます。

- ステップ 7** 「ステップ 1」～「ステップ 6」を繰り返して、Cisco CallManager サービスがインストールされている Cisco Unified Communications Manager クラスタのすべてのノードでダイヤル プランをアップグレードします。



(注) ダイヤル プランのアップグレードが完了したら、変更を有効にするために Cisco CallManager サービスを再起動します。「Cisco CallManager サービスの再起動」(P.63-7) を参照してください。



(注) ダイヤル プランを更新するには、COP ファイルをインストールし (『Cisco Unified Communications Manager Dial Plan Guide』を参照)、必要なダイヤル プランをインストールする必要があります。「Cisco Unified Communications Manager でのダイヤル プランのインストール」(P.63-3) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.63-8) を参照してください。

ダイヤル プランのアンインストール



注意

ダイヤル プランをアンインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager システム上のダイヤル プランで設定されているルート パターン、トランスレーション パターン、ルート リスト、およびルート フィルタを削除したことを確認してください。

ダイヤル プランをアンインストールする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「ダイヤル プランの検索」(P.63-2) で定義されている手順を使用して、削除するダイヤル プランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。
[ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ダイヤルプラン (Dial Plan)] フィールドと [説明 (Description)] フィールドに、ダイヤル プランの名前と説明が表示されます。
- ステップ 4** [インストールされているバージョン (Installed Version)] に、Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。
- ステップ 5** [アンインストール (Uninstall)] をクリックします。



(注) ダイヤル プランのアンインストールは、クラスタ内の最初のノードで実行してから、それ以降のノードで実行する必要があります。

[ステータス (Status)] に、ダイヤル プランが削除されたことが表示されます。

[インストールされているバージョン (Installed Version)] フィールドに、「Not Installed」と表示されず。

- ステップ 6** 「ステップ 1」～「ステップ 5」を繰り返して、Cisco Unified Communications Manager クラスタのすべてのノードでダイアルプランをアンインストールします。

追加情報

「関連項目」(P.63-8) を参照してください。

Cisco CallManager サービスの再起動

Cisco CallManager サービスを再起動する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified サービスアビリティ] ウィンドウで、[Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。
- [Control Center - Feature Services] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- [CM Services] 領域に、[Service Name] 列が表示されます。
-  **(注)** Cisco CallManager サービスに対応するオプション ボタンをクリックします。
- ステップ 3** Cisco CallManager サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。
- サービスが再起動し、「Service Restarted Successfully」というメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 停止している Cisco CallManager サービスを開始する場合は、[Start] をクリックします。
- サービスが開始され、「Service Started Successfully」というメッセージが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.63-8) を参照してください。

関連項目

- 「ダイヤル プランの検索」 (P.63-2)
- 「ダイヤル プランの編集」 (P.63-3)
- 「Cisco Unified Communications Manager でのダイヤル プランのインストール」 (P.63-3)
- 「NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定」 (P.63-4)
- 「ダイヤル プランのアップグレード」 (P.63-5)
- 「ダイヤル プランのアンインストール」 (P.63-6)
- 「Cisco CallManager サービスの再起動」 (P.63-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager Dial Plan Guide』



CHAPTER 64

ルート プラン レポート

ルート プラン レポート リストには、システム内の次のタイプの電話番号とその他の番号がすべて一覧表示されます。

- 割り当てられていない Directory Number (DN; 電話番号)
- コール パーク 番号
- 会議番号
- Directory Number (DN; 電話番号)
- 発呼側トランスフォーメーション パターン
- 着信側トランスフォーメーション パターン
- トランスレーション パターン
- コール ピックアップ グループ番号
- ルート パターン
- メッセージ受信のインジケータ
- ボイスメール ポート
- ドメイン ルーティング
- IP ルーティング
- ハント パイロット
- ダイレクト コール パーク 番号
- インターコム 電話番号
- インターコム トランスレーション パターン
- ハンドオフ番号 ([コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティの設定 (Mobility Configuration)] で開く [モビリティの設定 (Mobility Configuration)] ウィンドウに設定されている番号)
- エンタープライズ機能アクセス番号 ([コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティの設定 (Mobility Configuration)] で開く [モビリティの設定 (Mobility Configuration)] ウィンドウに設定されている番号)
- モバイル ボイス アクセス番号 ([システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] で開く [サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウに設定されている番号)

ルート プラン レポートを使用すると、[パターン/電話番号 (Pattern/Directory Number)]、[パーティション (Partition)]、または [ルート詳細 (Route Detail)] 列のエントリをクリックして、リストの一部または全部を表示したり、関連する設定ウィンドウに直接進んだりすることができます。

さらに、ルートプランレポートを使用して、.csv ファイルにレポートデータを保存し、他のアプリケーションに対してインポートを可能にすることもできます。この .csv ファイルには、電話機の電話番号 (DN)、ルートパターン、パターンの使用方法、デバイス名、およびデバイスの説明を含む、Web ページよりも詳しい情報が入っています。

Cisco Unified Communications Manager は、ルートプランを使用して、内部コールと外部 Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) コールの両方をルート指定します。ルートプランの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」を参照してください。



(注)

ローカルルートグループ機能が設定されている場合のルートプランレポートおよびその形式については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ローカルルートグループ](#)」の章を参照してください。

ルートプランレコードを表示するには、次のトピックを参照してください。

- 「[ルートプランレコードの表示](#)」 (P.64-2)
- 「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」 (P.64-3)
- 「[ファイル内のルートプランレポートの表示](#)」 (P.64-4)

ルートプランレコードの表示

この項では、ルートプランレコードを表示する手順について説明します。ネットワーク内にはいくつかのレコードが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のルートプランレコードを見つけることができます。カスタマイズされたルートプランレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] の順に選択します。
[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。
レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウンリストボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。
- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。
選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.64-5) を参照してください。

割り当てられていない電話番号の削除

この項では、ルートプランレポートから割り当てられていない電話番号を削除する手順について説明します。電話番号は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定および削除します。電話番号がデバイスまたは電話機から削除されても、その電話番号は Cisco Unified Communications Manager データベース内に残っています。データベースから電話番号を削除するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用します。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] の順に選択します。[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない DN を含むルートプランレポートを指定します。
- ステップ 2** 電話番号の削除には、次の 3 つの方法があります。
- 削除する電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[削除 (Delete)] をクリックします。
 - 削除する電話番号の横にあるチェックボックスをオンにします。[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - 検出された割り当てられていない電話番号をすべて削除するには、[見つかった項目をすべて削除 (Delete All Found Items)] をクリックします。
- 電話番号を削除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。
- ステップ 3** 電話番号を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.64-5) を参照してください。

割り当てられていない電話番号の更新

この項では、ルート プラン レポートから、割り当てられていない電話番号の設定を更新する手順について説明します。電話番号は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定および削除します。電話番号がデバイスから削除されても、その電話番号は Cisco Unified Communications Manager データベースに残っています。電話番号の設定を更新するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] の順に選択します。
[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない DN を含むルート プラン レポートを指定します。

ステップ 2 更新する電話番号をクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) 電話番号およびパーティション以外の、電話番号の設定をすべて更新することができます。

ステップ 3 コーリング サーチ スペースや自動転送オプションなど、必要に応じて内容を更新します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示され、電話番号フィールドがブランクになります。

追加情報

「関連項目」(P.64-5) を参照してください。

ファイル内のルート プラン レポートの表示

ファイル .csv 内のルート プラン レポートを表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] の順に選択します。
[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ファイルで表示 (View In File)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスから、そのファイルを保存するか、別のアプリケーションにインポートすることができます。

ステップ 3 [保存(Save)] をクリックします。

別のウィンドウが表示され、そのウィンドウで、必要なロケーションにこのファイルを保存できます。



(注) このファイルに別のファイル名を付けて保存することもできますが、ファイル名には、.csv 拡張子が必要です。

ステップ 4 ファイルを保存するロケーションを選択し、[保存(Save)] をクリックします。これで、指定されたロケーションにこのファイルが保存されます。

ステップ 5 保存した .csv ファイルのアイコンをダブルクリックすると、このファイルの内容が表示されます。

関連項目

- 「ルートプランレポート」(P.64-1)
- 「ルートプランレコードの表示」(P.64-2)
- 「割り当てられていない電話番号の削除」(P.64-3)
- 「電話番号の設定」(P.61-26)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「ローカルルートグループ」



CHAPTER 65

発呼側トランスフォーメーションパターンの設定

発呼側トランスフォーメーションパターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値](#)」 (P.65-1)
- 「[発呼側トランスフォーメーションパターンの検索](#)」 (P.65-5)
- 「[発呼側トランスフォーメーションパターンの設定](#)」 (P.65-6)
- 「[発呼側トランスフォーメーションパターンの削除](#)」 (P.65-7)
- 「[関連項目](#)」 (P.65-8)

発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値

[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] ウィンドウのパラメータは、宛先デバイスの発呼側トランスフォーメーションコーリングサーチスペースを使用して、適切な発信者情報を提供します。トランスフォーメーションパターンを使用するコールはルーティングできないことに注意してください。このパターンと一致した場合、コールはデバイスにルーティングされません。

発呼側トランスフォーメーションパターンは発呼側標準化機能で使用します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド*』の「[発信側の正規化](#)」を参照してください。



(注)

ローカルルートグループ機能が設定されている場合の発呼側トランスフォーメーションパターンおよびその使用方法と設定については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド*』の「[ローカルルートグループ](#)」の章を参照してください。

表 65-1 では、発呼側トランスフォーメーション パターンの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.65-8) を参照してください。

表 65-1 発呼側トランスフォーメーション パターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[パターン (Pattern)]	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むトランスフォーメーションパターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。</p> <p>(注) パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、トランスフォーメーションパターン、ルートパターン、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、またはミートミー番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <p>ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してトランスフォーメーションパターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。パーティションの使用法の詳細については、「パーティションの設定」(P.53-1) を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索」(P.53-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) トランスフォーメーションパターンは、ルートパターンや電話番号などのダイヤルパターンとは別の非ヌルパーティションに設定してください。トランスフォーメーションパターンを検索するとき、Cisco Unified Communications Manager はヌルパーティションのパターンを無視します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) パターン、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	トランスフォーメーションパターンの説明を入力します。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。

表 65-1 発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>トランスフォーメーションパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのルートフィルタが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。「ルートフィルタの検索」 (P.38-2) の手順に従って、ルートフィルタ名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、[緊急優先 (Urgent Priority)] を指定してすべての発呼側トランスフォーメーションパターンを設定します。パターンの優先順位は変更できません。</p>
[発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を Calling Line Identification (CLID; 発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p>
[番号削除の命令 (Discard Digit Instructions)]	<p>この発呼側トランスフォーメーションパターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>
[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーションマスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、および国際的なエスケープ文字 + です。</p> <p>[番号削除の命令 (Discard Digit Instructions)] フィールドがブランク、[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドがブランク、[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transformation Mask)] フィールドがブランク、および [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、および国際的なエスケープ文字 + です。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 65-1 発呼側トランスフォーメーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>
[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX (Private Branch Exchange; 構内交換機) への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 65-1 発呼側トランスフォーメーションパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側番号計画 (Calling Party Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

追加情報

「関連項目」(P.65-8) を参照してください。

発呼側トランスフォーメーションパターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの発呼側トランスフォーメーションパターンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の発呼側トランスフォーメーションパターンを見つけることができます。発呼側トランスフォーメーションパターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、トランスフォーメーションパターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、発呼側トランスフォーメーションパターンの検索設定は保持されます。

手順**ステップ 1**

[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] の順に選択します。

[発呼側トランスフォーメーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Calling Party Transformation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.65-8) を参照してください。

発呼側トランスフォーメーション パターンの設定

発呼側トランスフォーメーション パターンを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] の順に選択します。

[発呼側トランスフォーメーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Calling Party Transformation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の発呼側トランスフォーメーション パターンをコピーするには、対象となる発呼側トランスフォーメーション パターンを見つけて（「[発呼側トランスフォーメーション パターンの検索](#)」(P.65-5) を参照)、コピーする発呼側トランスフォーメーション パターンの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しい発呼側トランスフォーメーション パターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存の発呼側トランスフォーメーション パターンを更新するには、対象となるトランスフォーメーション パターンを見つけて（「[発呼側トランスフォーメーション パターンの検索](#)」(P.65-5) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 表示される [発呼側トランスフォーメーションパターンの設定 (Calling Party Transformation Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します（[表 65-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.65-8) を参照してください。

発呼側トランスフォーメーション パターンの削除

発呼側トランスフォーメーション パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「[発呼側トランスフォーメーション パターンの検索](#)」(P.65-5) の手順を使用して、削除する発呼側トランスフォーメーション パターンを見つけます。

ステップ 2 [削除 (Delete)] をクリックします。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.65-8) を参照してください。

関連項目

- 「発呼側トランスフォーメーション パターンの設定値」 (P.65-1)
- 「発呼側トランスフォーメーション パターンの検索」 (P.65-5)
- 「発呼側トランスフォーメーション パターンの設定」 (P.65-6)
- 「発呼側トランスフォーメーション パターンの削除」 (P.65-7)
- 「ルート フィルタの検索」 (P.38-2)
- 「パーティションの設定」 (P.53-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「発信側の正規化」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」



CHAPTER 66

着信側トランスフォーメーションパターンの設定

着信側トランスフォーメーションパターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「[着信側トランスフォーメーションパターンの設定値](#)」 (P.66-1)
- 「[着信側トランスフォーメーションパターンの検索](#)」 (P.66-5)
- 「[着信側トランスフォーメーションパターンの設定](#)」 (P.66-6)
- 「[着信側トランスフォーメーションパターンの削除](#)」 (P.66-7)
- 「[関連項目](#)」 (P.66-7)

着信側トランスフォーメーションパターンの設定値

[着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)] ウィンドウのパラメータは、宛先デバイスの着信側変換コーリング検索スペースを使用して、適切な発信者情報を提供します。トランスフォーメーションパターンを使用するコールはルーティングできないことに注意してください。このパターンと一致した場合、コールはデバイスにルーティングされません。



(注)

ローカルルートグループ機能が設定されている場合の着信側トランスフォーメーションパターンおよびその使用方法と設定については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド*』の「[ローカルルートグループ](#)」の章を参照してください。

表 66-1 では、着信側トランスフォーメーション パターンの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.66-7) を参照してください。

表 66-1 着信側トランスフォーメーション パターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[パターン (Pattern)]	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むトランスフォーメーションパターンを入力します。たとえば、North American Numbering Plan (NANP) では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。</p> <p>(注) パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、トランスフォーメーションパターン、ルートパターン、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、またはミートミー番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <p>ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してトランスフォーメーションパターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。トランスフォーメーションパターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに [<なし (None)>] を選択します。パーティションの使用方法的詳細については、「パーティションの設定」(P.53-1) を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索」(P.53-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) トランスフォーメーションパターンは、ルートパターンや電話番号などのダイヤルパターンとは別の非ヌルパーティションに設定してください。トランスフォーメーションパターンを検索するとき、ヌルパーティションのパターンは無視されます。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin パラメータ (CCMAdmin Parameters)] を選択します。</p> <p>(注) パターン、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

表 66-1 着信側トランスフォーメーションパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	トランスフォーメーションパターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定しますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>トランスフォーメーションパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのルートフィルタが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。「ルートフィルタの検索」(P.38-2) の手順に従って、ルートフィルタ名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin パラメータ (CCMAdmin Parameters)] を選択します。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	Cisco Unified Communications Manager は、[緊急優先 (Urgent Priority)] を指定してすべての着信側トランスフォーメーションパターンを設定します。パターンの優先順位は変更できません。
[着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	この着信側トランスフォーメーションパターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。
[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)]	トランスフォーメーションマスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([番号の削除 (Discard Digits)]) がオフの場合、トランスフォーメーションは行われません。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルーティングされる電話番号に影響を与えません。</p>

表 66-1 着信側トランスフォーメーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[着信側番号計画 (Called Party Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。

追加情報

「関連項目」(P.66-7) を参照してください。

着信側トランスフォーメーションパターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの着信側トランスフォーメーションパターンが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の着信側トランスフォーメーションパターンを見つけることができます。着信側トランスフォーメーションパターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、トランスフォーメーションパターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、着信側トランスフォーメーションパターンの検索ではページに保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)] の順に選択します。

[着信側トランスフォーメーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Called Party Transformation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.66-7) を参照してください。

着信側トランスフォーメーション パターンの設定

着信側トランスフォーメーション パターンを設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)] の順に選択します。
- [着信側トランスフォーメーションパターンの検索と一覧表示 (Find and List Called Party Transformation Patterns)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 既存の着信側トランスフォーメーション パターンをコピーするには、対象となる着信側トランスフォーメーション パターンを見つけて (「[着信側トランスフォーメーション パターンの検索](#)」(P.66-5) を参照)、コピーする着信側トランスフォーメーション パターンの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しい着信側トランスフォーメーション パターンを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の着信側トランスフォーメーション パターンを更新するには、対象となるトランスフォーメーション パターンを見つけて (「[着信側トランスフォーメーション パターンの検索](#)」(P.66-5) を参照)、[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 表示される [着信側トランスフォーメーションパターンの設定 (Called Party Transformation Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 66-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.66-7) を参照してください。

着信側トランスフォーメーションパターンの削除

着信側トランスフォーメーションパターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 「着信側トランスフォーメーションパターンの検索」(P.66-5) の手順を使用して、削除する着信側トランスフォーメーションパターンを見つけます。
 - ステップ 2 [削除 (Delete)] をクリックします。
 - ステップ 3 [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.66-7) を参照してください。

関連項目

- 「着信側トランスフォーメーションパターンの設定値」(P.66-1)
- 「着信側トランスフォーメーションパターンの検索」(P.66-5)
- 「着信側トランスフォーメーションパターンの設定」(P.66-6)
- 「着信側トランスフォーメーションパターンの削除」(P.66-7)
- 「ルートフィルタの検索」(P.38-2)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- 「パーティションの設定」(P.53-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「ローカルルートグループ」



CHAPTER 67

トランスフォーメーション プロファイル設定

Cisco Intercompany Media Engine の設定は、トランスフォーメーション プロファイルの設定で構成されています。

詳細については、『*Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide*』を参照してください。



CHAPTER 68

モビリティ設定

モバイル コネクトを使用すると、1つの電話番号でビジネス コールを管理し、進行中のコールをデスクトップ電話機と携帯電話で受けることができます。[モビリティの設定 (Mobility Configuration)] ウィンドウには、ユーザのデスクトップ電話機と携帯電話の間でコールを転送するための、デュアルモード電話機のハンドオフ設定があります。

モバイル コネクトの詳細、およびデュアル モード電話機のモビリティ設定の設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Mobility](#)」を参照してください。



CHAPTER 69

論理パーティションポリシーの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理 で [コールルーティング (Call Routing)] > [論理パーティションポリシーの設定 (Logical Partitioning Policy Configuration)] メニュー オプションを選択することにより、論理パーティションポリシーを地理的な場所および地理的な場所のフィルタと併用して、論理パーティションをプロビジョニングできるよう設定できます。

論理パーティションポリシー設定の使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[論理パーティション](#)」の章を参照してください。



PART 4

メディア リソースの設定



CHAPTER 70

アナンシエータの設定

アナンシエータは、Cisco Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスです。これを使用すると、Cisco Unified Communications Manager およびゲートウェイに事前に録音したアナウンス (.wav ファイル) とトーンを Cisco Unified IP Phone で再生できます。アナンシエータは、Cisco Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) と連携して動作し、Cisco Unified Communications Manager はコールが失敗した理由を発信者に知らせることができます。アナンシエータも転送されたコールと会議の一部のトーンを再生できます。

アナンシエータを検索および更新するには、次のトピックを参照してください。

- 「アナンシエータの設定値」(P.70-1)
- 「アナンシエータの検索」(P.70-3)
- 「アナンシエータの更新」(P.70-4)
- 「アナンシエータのリセット」(P.70-5)
- 「アナンシエータの同期化」(P.70-6)
- 「関連項目」(P.70-6)

アナンシエータの設定値

アナンシエータは、Cisco Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスです。これを使用すると、Cisco Unified Communications Manager およびゲートウェイに事前に録音したアナウンス (.wav ファイル) とトーンを Cisco Unified IP Phone で再生できます。アナンシエータは、Cisco Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) と連携して動作し、Cisco Unified Communications Manager はコールが失敗した理由を発信者に知らせることができます。アナンシエータも転送されたコールと会議の一部のトーンを再生できます。

始める前に

アナンシエータを設定する予定のサーバで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを有効にしたことを確認してください。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager サーバを追加すると、サーバのアナンシエータがデータベースに自動的に追加されます。Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、アナンシエータ デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されます。「[アナンシエータの検索](#)」(P.70-3) を使用してアナンシエータが存在するかどうかを確認します。

次の作業が完了していることを確認します。

- 適切なサーバを設定する。
- デバイス プールを設定する。

表 70-1 では、アナンシエータの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.70-6) を参照してください。

表 70-1 アナンシエータの設定値

フィールド	説明
[サーバ(Server)]	設定済みのサーバ（インストール時に追加されたサーバ）が自動的に表示されます。
[名前(Name)]	デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録される場合、このフィールドには使用される名前を指定します。最大 15 文字の英数字（ピリオド、ダッシュ、およびアンダースコアも使用可能）で名前を入力します。
[説明(Description)]	最大 128 文字の英数字（ピリオド、ダッシュ、およびアンダースコアも使用可能）で説明を入力します。デフォルトでは、サーバ名（プレフィックス ANN_ を含む）が使用されています。
[デバイスプール(Device Pool)]	[デフォルト(Default)] を選択するか、または設定したデバイス プールのドロップダウン リストからデバイス プールを選択します。
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このアナンシエータに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このアナンシエータが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>

表 70-1 アナンシエータの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ(Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。 [オン(On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディアターミネーション ポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>

アナンシエータの検索

アナンシエータを検索する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [アナンシエータ (Annunciator)] の順に選択します。
[アナンシエータの検索と一覧表示 (Find and List Annunciators)] ウィンドウが表示されます。
特定のアナンシエータをすばやく検索するには、次の作業に従って検索条件を指定します。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。
レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.70-6) を参照してください。

アナンシエータの更新

アナンシエータを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

アナンシエータを更新する前に、次の作業が完了していることを確認します。

- 適切なサーバを設定する。
- デバイス プールを設定する。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [アナンシエータ (Annunciator)] の順に選択します。

[アナンシエータの検索と一覧表示 (Find and List Annunciators)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 アナンシエータを更新するには、該当するアナンシエータを見つけます（「アナンシエータの検索」(P.70-3) を参照）。



ヒント Cisco Unified Communications Manager サーバを追加すると、サーバのアナンシエータがデータベースに自動的に追加されます。Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、アナンシエータ デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されます。

- ステップ 3 更新するアナンシエータをクリックし、「ステップ 4」に進みます。
- ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 70-1 を参照)。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスがアクティブになっていることを確認します。サービスのアクティブ化については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.70-6) を参照してください。

依存関係レコードへのアクセス

アナンシエータを使用しているデバイスを検索するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストメニューから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。

アナンシエータのリセット

アナンシエータをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 「アナンシエータの検索」(P.70-3) の手順を使用して、アナンシエータを見つけます。
- ステップ 2 リセットするアナンシエータをクリックします。
- ステップ 3 [リセット (Reset)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4 [デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。続行するには、[リセット (Reset)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.70-6) を参照してください。

アナンシエータの同期化

アナンシエータを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [メディアリソース Media Resources] > [アナンシエータ (Annunciator)] の順に選択します。
[アナンシエータの検索と一覧表示 (Find and List Annunciators)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するアナンシエータがウィンドウに表示されます。
 - ステップ 4** 同期させるアナンシエータの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のアナンシエータをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.70-6) を参照してください。

関連項目

- 「アナンシエータの設定値」(P.70-1)
- 「アナンシエータの検索」(P.70-3)
- 「アナンシエータの更新」(P.70-4)
- 「依存関係レコードへのアクセス」(P.70-5)
- 「アナンシエータのリセット」(P.70-5)
- 「アナンシエータの同期化」(P.70-6)
- 「依存関係レコード」(P.A-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[Multilevel Precedence and Preemption](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[アナンシエータ](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[信頼済みリレー ポイント](#)」



CHAPTER 71

会議ブリッジの設定

会議ブリッジを設定するには、次のトピックを参照してください。

設定値

- 「ソフトウェア会議ブリッジの設定値」(P.71-1)
- 「ハードウェア会議ブリッジの設定値」(P.71-5)
- 「Cisco IOS Conference Bridge の設定値」(P.71-8)
- 「Cisco Video Conference Bridge の設定値」(P.71-11)
- 「Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値」(P.71-14)

会議ブリッジの検索、設定、同期、または削除

- 「会議ブリッジの検索」(P.71-17)
- 「会議デバイスの設定」(P.71-18)
- 「会議デバイスの同期化」(P.71-19)
- 「会議デバイスの削除」(P.71-20)
- 「関連項目」(P.71-20)

ソフトウェア会議ブリッジの設定値

Cisco Unified Communications Manager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、アドホック音声会議とミーティング音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができることに注意してください。ソフトウェアとハードウェアの会議デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

[会議ブリッジの設定(Conference Bridge Configuration)] を使用して、ソフトウェア会議ブリッジを Cisco Unified Communications Manager に追加することはできません。ソフトウェア会議ブリッジは、Cisco Unified Communications Manager サーバが追加されるときに、自動的に追加されます（詳細については、「サーバの設定」(P.2-5) を参照してください）。Cisco Unified Communications Manager サーバの追加後、管理者が検索を実行すると、[会議ブリッジの検索と一覧表示(Find and List Conference Bridges)] ウィンドウにソフトウェア会議ブリッジが表示されます（デフォルトでは、最初のソフトウェア会議ブリッジは Cisco Unified Communications Manager のインストール時に設定されます）。ソフトウェア会議ブリッジを更新することはできますが、削除はできません。

会議ブリッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[会議ブリッジ](#)」の章を参照してください。

表 71-1 では、ソフトウェア会議ブリッジの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.71-20) を参照してください。

表 71-1 ソフトウェア会議ブリッジの設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	このフィールドには、Cisco Conference Bridge ソフトウェアが自動的に表示されます。
[ホストサーバ (Host Server)]	このフィールドには、このソフトウェア会議ブリッジの Cisco Unified Communications Manager サーバが自動的に表示されます。
[会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]	このフィールドには、ソフトウェア会議ブリッジの名前が自動的に表示されます。名前の形式では、CFB_ の後ろに、ソフトウェア会議ブリッジの値を表す番号が続きます。たとえば、CFB_3 は Cisco Unified Communications Manager システムの 3 番目の会議ブリッジを表します。
[説明 (Description)]	このフィールドには説明が自動的に表示されます。管理者はこのフィールドを更新できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	使用している Cisco Unified Communications Manager グループの中で一番高い優先度を持つデバイス プールを選択するか、または [デフォルト (Default)] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、Music On Hold (MOH; 保留音) オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。

表 71-1 ソフトウェア会議ブリッジの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリスト ボックスで、この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>

表 71-1 ソフトウェア会議ブリッジの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.71-20) を参照してください。

ハードウェア会議ブリッジの設定値

Cisco Unified Communications Manager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、アドホック音声会議とミートミー音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしていません。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができることに注意してください。ソフトウェアとハードウェアの会議デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。



(注)

会議ブリッジ用のハードウェア モデルには、固有のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスとデバイス プールの情報が組み込まれています。

会議ブリッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[会議ブリッジ](#)」の章を参照してください。

会議ブリッジを設定する前に、デバイス プールを設定します。「[デバイス プールの削除](#)」(P.9-20) を参照してください。

表 71-2 では、ハードウェア会議ブリッジの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.71-20) を参照してください。

表 71-2 ハードウェア会議ブリッジの設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Conference Bridge Hardware] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ 」の項を参照してください。
[MAC アドレス (MAC Address)]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9, A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定された MAC アドレスから自動的に生成されます。必要に応じて、このフィールドは更新できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	使用している Cisco Unified Communications Manager グループの中で一番高い優先度を持つデバイス プールを選択するか、または [デフォルト (Default)] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。

表 71-2 ハードウェア会議ブリッジの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、コールアドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスで、この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>

表 71-2 ハードウェア会議ブリッジの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブピックを参照してください。</p>
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

追加情報

「関連項目」(P.71-20) を参照してください。

Cisco IOS Conference Bridge の設定値

Cisco Unified Communications Manager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、アドホック音声会議とミーティング音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができることに注意してください。ソフトウェアとハードウェアの会議デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

会議ブリッジを設定する前に、デバイス プールを設定します。「[デバイス プールの削除](#)」(P.9-20) を参照してください。

会議ブリッジの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[会議ブリッジ](#)」の章を参照してください。

表 71-3 では、Cisco IOS Conference Bridge の設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.71-20) を参照してください。

表 71-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco IOS Conference Bridge] または [Cisco IOS Enhanced Conference Bridge] を選択します。 詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i> 』の「 Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ 」の項を参照してください。
[会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]	ゲートウェイの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で既存の同じ名前を入力します。 最大 15 文字を入力できます。有効な文字は、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) と、ドット (.)、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) です。
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定した会議ブリッジ名から自動的に生成されません。必要に応じて、このフィールドは更新できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[デフォルト (Default)] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。

表 71-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型 コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリスト ボックスで、この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティモード(Device Security Mode)]	<p>このフィールドは、Cisco IOS Enhanced Conference Bridge だけに表示されます。</p> <p>[Non Secure Conference Bridge] を選択すると、ポート 2000 で、ノンセキュア会議が Cisco Unified Communications Manager への TCP 接続を確立します。</p> <p>ヒント この設定が、会議ブリッジのセキュリティ設定と一致していることを確認してください。一致していない場合、コールが失敗します。</p> <p>[Encrypted Conference Bridge] 設定は、セキュア会議機能をサポートします。セキュアな会議ブリッジの設定手順については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>

表 71-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.71-20) を参照してください。

Cisco Video Conference Bridge の設定値

Cisco Unified Communications Manager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、アドホック音声会議とミートミー音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしていません。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができることに注意してください。ソフトウェアとハードウェアの会議デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

会議ブリッジを設定する前に、デバイス プールを設定します。「[デバイス プールの削除](#)」(P.9-20) を参照してください。

会議ブリッジの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[会議ブリッジ](#)」の章を参照してください。

表 71-4 では、Cisco Video Conference Bridge の設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.71-20) を参照してください。

表 71-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Video Conference Bridge (IPVC-35xx)] を選択します。 詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i> 』の「 Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ 」を参照してください。
[MAC アドレス (MAC Address)]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定した会議ブリッジ名から自動的に生成されません。必要に応じて、このフィールドは更新できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[デフォルト (Default)] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。

表 71-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型 コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで利用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>

表 71-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 71-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの下にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.71-20) を参照してください。

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

Cisco Unified Communications Manager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、アドホック音声会議とミーティング音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができることに注意してください。ソフトウェアとハードウェアの会議デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

会議ブリッジを設定する前に、デバイス プールを設定します。「デバイス プールの削除」(P.9-20) を参照してください。

会議ブリッジの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「会議ブリッジ」の章を参照してください。

表 71-5 では、Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.71-20) を参照してください。

表 71-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	<p>[Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM)] を選択します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ」を参照してください。</p>
[説明 (Description)]	<p>説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスから自動的に生成されます。無効な文字は、引用符 ("), 山カッコ (<>), バックスラッシュ (\), アンパサンド (&), およびパーセント記号 (%) です。</p>

表 71-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address)]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[サブユニット (Subunit)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Communication Media Module カード上の任意のスロット用のドーダ カードの値を選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[デフォルト (Default)] を選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	会議ブリッジに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、MOH オーディオ ソースなど、電話機ユーザ用の機能およびサービスをサポートする属性が含まれています。 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定するデバイス設定は、ドロップダウン リストに表示されます。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。
[ロケーション (Location)]	ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型 コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。 ドロップダウン リスト ボックスで、この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。 ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。 新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。 ロケーションの詳細については、「 ロケーションの設定 」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御 」を参照してください。

表 71-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト(Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ(Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン(On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>
[最大容量(Maximum Capacity)]	<p>ドータカード上の任意のサービスのストリームの最大数を選択します。ストリーム数の値には、32、64、96、および 128 を使用できます。各ドータカードに、選択した値と同じ数のポートがあることを確認してください。</p>

表 71-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの下にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

会議ブリッジの検索

ネットワーク内にはいくつかの会議ブリッジが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の会議ブリッジを見つけることができます。会議ブリッジを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、会議ブリッジの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、会議ブリッジの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [会議ブリッジ (Conference Bridge)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、検索条件のダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、データベース内のすべての会議ブリッジレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.71-20) を参照してください。

会議デバイスの設定

会議デバイスを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- デバイス プールが設定済みであること。「デバイス プールの削除」(P.9-20) を参照してください。



(注) ソフトウェア会議ブリッジは、Cisco Unified Communications Manager サーバを作成するときに、自動的に作成されます。ソフトウェア会議ブリッジは Cisco Unified Communications Manager ページに追加できません。「ソフトウェア会議ブリッジの設定値」(P.71-1) を参照してください。

- ソフトウェア会議ブリッジに対して、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにする。『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [会議ブリッジ (Conference Bridge)] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 会議デバイスを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- 会議デバイスを更新するには、「会議ブリッジの検索」(P.71-17) の手順を使用して、会議ブリッジを見つけます。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (次のトピックを参照)。

- 「ソフトウェア会議ブリッジの設定値」(P.71-1)
- 「ハードウェア会議ブリッジの設定値」(P.71-5)

- 「Cisco IOS Conference Bridge の設定値」 (P.71-8)
- 「Cisco Video Conference Bridge の設定値」 (P.71-11)
- 「Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値」 (P.71-14)

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。



(注) 「ステップ 5」に進むかどうかを決定する前に、「[会議デバイスの同期化](#)」 (P.71-19) で説明されている手順を参照してください。

ステップ 5 [リセット (Reset)] をクリックして、会議ブリッジデバイスをリセットし、変更内容を適用します。
[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.71-20) を参照してください。

会議デバイスの同期化

会議デバイスを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [会議ブリッジ (Conference Bridge)] の順に選択します。
[会議ブリッジの検索と一覧表示 (Find and List Conference Bridges)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

検索条件に一致する会議ブリッジがウィンドウに表示されます。

ステップ 4 リセットする会議ブリッジの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の会議ブリッジをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.71-20) を参照してください。

会議デバイスの削除

会議デバイスを削除する手順は、次のとおりです。Cisco Unified Communications Manager Conference Bridge ソフトウェアは削除できません。「[会議デバイスの設定](#)」(P.71-18)を参照してください。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager では、メディア リソース グループなどの要素に関連付けられている可能性のあるデバイスを削除できます。会議デバイスに存在する可能性のある依存関係を検索するには、[[会議ブリッジの設定 \(Conference Bridge Configuration\)](#)] ウィンドウで、ドロップダウン リスト ボックスから [[依存関係レコード \(Dependency Records\)](#)] リンクを選択し、[[移動 \(Go\)](#)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[[依存関係レコード要約 \(Dependency Records Summary\)](#)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2)を参照してください。

手順

ステップ 1 「[会議ブリッジの検索](#)」(P.71-17)の手順を使用して、会議ブリッジを見つけます。

ステップ 2 削除する会議ブリッジをクリックします。

ステップ 3 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

「この会議ブリッジを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。続行しますか?(You are about to permanently delete this Conference Bridge. This action cannot be undone. Continue?)」

ステップ 4 [OK] をクリックして、会議デバイスを削除します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.71-20)を参照してください。

関連項目

- 「[ソフトウェア会議ブリッジの設定値](#)」(P.71-1)
- 「[ハードウェア会議ブリッジの設定値](#)」(P.71-5)
- 「[Cisco IOS Conference Bridge の設定値](#)」(P.71-8)
- 「[Cisco Video Conference Bridge の設定値](#)」(P.71-11)
- 「[Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値](#)」(P.71-14)
- 「[会議ブリッジの検索](#)」(P.71-17)
- 「[会議デバイスの設定](#)」(P.71-18)
- 「[会議デバイスの同期化](#)」(P.71-19)
- 「[会議デバイスの削除](#)」(P.71-20)
- 「[ミーティング番号/パターンの設定](#)」(P.62-4)
- 「[ミーティング番号/パターンの削除](#)」(P.62-5)

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[会議ブリッジ](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[Cisco Unified Communications Manager の管理機能における会議ブリッジのタイプ](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[信頼済みリレー ポイント](#)」

その他の情報

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理でのセキュアな会議ブリッジの設定」
- 『Cisco Unified Videoconferencing 3511 MCU and Cisco Unified Videoconferencing 3540 MCU Module Administrator Guide』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』



CHAPTER 72

メディア ターミネーション ポイントの設定

メディア ターミネーション ポイント ソフトウェア デバイスを使用すると、Cisco Unified Communications Manager は、SIP または H.323 エンドポイントあるいは SIP または H.323 ゲートウェイ経由でルーティングされるコールをリレーできます。メディア ターミネーション ポイント デバイスは、DTMF または RSVP 要件に応じて割り当てることができます。RSVP 用にメディア ターミネーション ポイントを割り当てる場合は、SIP または H.323 デバイスなど、あらゆるタイプのエンドポイント デバイス間にメディア ターミネーション ポイントを挿入できます。

メディア ターミネーション ポイントは、ソフトウェアのインストール中にサーバにインストールされる Cisco ソフトウェア アプリケーションです。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。サービスのアクティブ化および開始については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

データベースに定義されている各メディア ターミネーション ポイント デバイスは、Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイントの総数、および使用可能なリソースがあるデバイスを把握しています。

リソースの予約時に、MRM はリソース数を決定し、メディア リソース タイプ（この場合はメディア ターミネーション ポイント）および登録済みメディア ターミネーション ポイント デバイスのロケーションを特定します。MRM は、登録情報を使用して共有リソース テーブルを更新し、クラスタ内の他の Cisco Unified Communications Manager に登録情報を伝搬します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダは、同一の Cisco Unified Communications Manager に登録できます。詳細については、「トランスコーダの設定」(P.76-1) を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco Unified Communications Manager を、優先順に並べたリストを受け取ります。各メディア ターミネーション ポイントが一度に登録できる Cisco Unified Communications Manager は 1 つだけです。



(注)

SIP エンドポイントの機能によっては、Cisco Unified Communications Manager で SIP コールを発信するときに、RFC 2833 DTMF 準拠のメディア ターミネーション ポイント デバイスが必要になることがあります。RSVP コールの場合は、エンドポイント デバイスに関連付けられた Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) に、RSVP をサポートするメディア ターミネーション ポイント デバイスを含める必要があります。

メディア ターミネーション ポイントを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「Cisco IOS Media Termination Point の設定値」 (P.72-2)
- 「メディア ターミネーション ポイントの検索」 (P.72-3)
- 「メディア ターミネーション ポイントの設定」 (P.72-4)
- 「メディア ターミネーション ポイントの同期化」 (P.72-5)
- 「メディア ターミネーション ポイントの削除」 (P.72-5)
- 「関連項目」 (P.72-6)

Cisco IOS Media Termination Point の設定値

表 72-1 では、Cisco IOS Media Termination Point の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.72-6) を参照してください。

表 72-1 Cisco IOS Media Termination Point の設定値

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントタイプ(Media Termination Point Type)]	[Cisco IOS Enhanced Software Media Termination Point] を選択します。 このメディア ターミネーション ポイントのタイプに関する詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア ターミネーション ポイント」を参照してください。
[メディアターミネーションポイント名(Media Termination Point Name)]	メディア ターミネーション ポイントの名前を最大 15 文字の英数字で入力します。 (注) MTP 名に特殊文字 (たとえば、!、@、#、\$、%) を使用することはできません。 ヒント ゲートウェイの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で既存の同じメディア ターミネーション ポイントの名前を入力してください。
[説明(Description)]	メディア ターミネーション ポイントの説明を入力します。
[デバイスプール(Device Pool)]	使用している Cisco Unified Communications Manager グループの中で一番高い優先度を持つデバイス プールを選択するか、または [デフォルト(Default)] を選択します。
[信頼できるリレーポイント(Trusted Relay Point)]	ネットワーク バーチャライゼーション環境において Cisco Unified Communications Manager で使用可能な信頼できるリレー ポイント (TRP) として、このメディア ターミネーション ポイント (MTP) を指定するには、このチェックボックスをオンにします。 信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブトピックを参照してください。

追加情報

「関連項目」 (P.72-6) を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア ターミネーション ポイントが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のメディア ターミネーション ポイントを見つけることができます。メディア ターミネーション ポイントを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア ターミネーション ポイントの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア ターミネーション ポイントの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)] の順に選択します。

[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.72-6) を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの設定

メディア ターミネーション ポイントを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。



(注)

この手順を実行するには、Cisco Unified サービスアビリティを使用して Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにする必要があります。サービスのアクティブ化については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。



(注)

Cisco Unified Communications Manager サーバごとに割り当てることができるメディア ターミネーション ポイント デバイスは 1 つだけです。Cisco Unified Communications Manager サーバを追加すると、メディア ターミネーション ポイント デバイスがサーバ用に自動的に作成されますが、そのデバイスは Cisco IP Voice Media Streaming App サービスがアクティブになるまで使用できません。

手順

ステップ 1 次の作業のいずれかを実行します。

- メディア ターミネーション ポイントを追加するには、[メディアリソース (Media Resources)] > [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)] の順に選択します。[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントをコピーするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)] の順に選択します。[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。コピーするメディア ターミネーション ポイントの横にある [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントを更新するには、「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」(P.72-3) の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 72-1 を参照)。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.72-6) を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの同期化

メディア ターミネーション ポイントを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)] の順に選択します。
- [メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致するメディア ターミネーション ポイントがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** リセットするメディア ターミネーション ポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のメディア ターミネーション ポイントをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.72-6) を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの削除

メディア ターミネーション ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

現在使用されている、メディア リソース グループ内の最後のデバイスであるメディア ターミネーション ポイントを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループに、別のメディア ターミネーション ポイントを割り当てます。「メディア リソース グループの検索」(P.77-3) を参照してください。
- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループを削除します。「メディア リソース グループの削除」(P.77-5) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」(P.72-3) の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。
- ステップ 2** 削除するメディア ターミネーション ポイントをクリックします。
- ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- 次の警告メッセージが表示されます。
- 「このメディアターミネーションポイントを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。続行しますか?(You are about to permanently delete this Media Termination Point. This action cannot be undone. Continue?)」
- ステップ 4** [OK] をクリックして、メディア ターミネーション ポイントを削除します。
- このメディア ターミネーション ポイントがメディア リソース グループ内の最後のデバイスである場合、メディア リソース グループは空のグループとして残ります。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.72-6) を参照してください。

関連項目

- 「[Cisco IOS Media Termination Point の設定値](#)」(P.72-2)
- 「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」(P.72-3)
- 「[メディア ターミネーション ポイントの設定](#)」(P.72-4)
- 「[メディア ターミネーション ポイントの同期化](#)」(P.72-5)
- 「[メディア ターミネーション ポイントの削除](#)」(P.72-5)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[トランスコーダ](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[メディア ターミネーション ポイント](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Resource Reservation Protocol](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[メディア リソースの管理](#)」



CHAPTER 73

保留音オーディオ ソースの設定

統合保留音機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

保留音設定は、保留音オーディオソースと保留音サーバの設定で構成されます。

[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウの使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド*』の「[保留音](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 74

保留音固定オーディオソースの設定

統合保留音機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

保留音設定は、保留音オーディオソースと保留音サーバの設定で構成されます。また、保留音固定オーディオソースを使用可能にできます。このオーディオソースではマルチキャストを許可できます。

[固定MOHオーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウの使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド*』の「[保留音](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 75

保留音サーバの設定

Cisco Unified Communications Manager Music On Hold (MOH; 保留音) 機能では MOH サーバが使用されます。MOH サーバは、保留音オーディオ ソースを提供し、保留音オーディオ ソースを数多くのストリームに接続するソフトウェア アプリケーションです。

[保留音サーバの設定 (Music On Hold Server Configuration)] ウィンドウの使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[保留音](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 76

トランスコーダの設定

トランスコーダを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「トランスコーダの設定値」 (P.76-1)
- 「トランスコーダの検索」 (P.76-3)
- 「トランスコーダの設定」 (P.76-4)
- 「トランスコーダのリセット」 (P.76-5)
- 「トランスコーダの同期化」 (P.76-5)
- 「トランスコーダの削除」 (P.76-6)

トランスコーダの設定値

Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) は、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のトランスコーダのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco Unified Communications Manager は、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) とトランスコーダの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコーダの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco Unified Communications Manager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコーダを起動します。トランスコーダは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコーダ制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコーダ デバイスごとに作成されます。各トランスコーダは、初期化されるたびに MRM に登録されます。MRM はトランスコーダ リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

表 76-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#) (P.76-7) を参照してください。

表 76-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
[トランスコーダタイプ (Transcoder Type)]	適切なトランスコーダタイプを選択します。[Cisco Media Termination Point Hardware]、[Cisco IOS Media Termination Point]、[Cisco IOS Enhanced Media Termination Point]、または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のいずれかを選択してください。 これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager システムガイド</i> 』の「 トランスコーダ 」を参照してください。
[説明 (Description)]	説明 (最大 128 文字) を入力するか、空白のままにします。空白のままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
[デバイス名 (Device Name)]	このフィールドは、[Cisco IOS Media Termination Point] または [Cisco IOS Enhanced Media Termination Point] をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイの Command Line Interface (CLI; コマンドラインインターフェイス) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。 最大 15 文字を入力します。有効な文字は、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) と、ドット (.)、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) です。
[トランスコーダ名 (Transcoder Name)]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
[MAC アドレス (MAC Address)]	[Cisco Media Termination Point Hardware] または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
[サブユニット (Subunit)]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、共通デバイス設定を選択します。選択した共通デバイス設定の詳細を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	[特別なロード情報 (Special Load Information)] フィールドに特別なロード情報を入力するか、空白のままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド)、およびアンダースコアを指定できます。
[信頼できるリレーポイント (Trusted Relay Point)]	ネットワーク バーチャライゼーション環境において Cisco Unified Communications Manager で使用可能な Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) として、このトランスコーダを指定するには、このチェックボックスをオンにします。 信頼できるリレーポイントの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager システムガイド</i> 』の「 メディアリソースの管理 」の章の「 信頼済みリレーポイント 」とそのサブトピックを参照してください。

表 76-1 トランスコーダの設定値 (続き)

フィールド	説明
[最大容量 (Maximum Capacity)]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの下にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.76-7) を参照してください。

トランスコーダの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。

**(注)**

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
- [トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.76-7) を参照してください。

トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。

[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます（「トランスコーダの検索」(P.76-3) を参照）。次に、コピーするトランスコーダの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます（「トランスコーダの検索」(P.76-3) を参照）。次に、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 76-1 を参照）。

- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
ウィンドウが更新され、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.76-7) を参照してください。

トランスコーダのリセット

トランスコーダをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
- ステップ 2** トランスコーダのリストから、リセットするトランスコーダを選択します。
ウィンドウが更新され、選択したトランスコーダが表示されます。
- ステップ 3** [リセット (Reset)] をクリックします。
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 4** [リセット (Reset)] を再度クリックします。

追加情報

「関連項目」(P.76-7) を参照してください。

トランスコーダの同期化

トランスコーダを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するトランスコーダがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させるトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のトランスコーダをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、[トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のトランスコーダを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** 「[トランスコーダの検索](#)」(P.76-3) の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。
ウィンドウが更新され、選択したトランスコーダが表示されます。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
ウィンドウが更新され、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

関連項目

- 「トランスコードの設定値」 (P.76-1)
- 「トランスコードの検索」 (P.76-3)
- 「トランスコードの設定」 (P.76-4)
- 「トランスコードのリセット」 (P.76-5)
- 「トランスコードの同期化」 (P.76-5)
- 「トランスコードの削除」 (P.76-6)
- 「会議ブリッジの設定」 (P.71-1)
- 「メディア ターミネーション ポイントの設定」 (P.72-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「トランスコード」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおけるトランスコードのタイプ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」



CHAPTER 77

メディア リソース グループの設定

次のタイプのデバイスを、1つのメディア リソース グループにグループ化することができます。

- 会議ブリッジ (CFB)
- メディア ターミネーション ポイント (MTP)
- 保留音サーバ (MOH)
- トランスコーダ (XCODE)
- アナンシエータ (ANN)

メディア リソース グループを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [「メディア リソース グループの設定値」 \(P.77-1\)](#)
- [「メディア リソース グループの検索」 \(P.77-3\)](#)
- [「メディア リソース グループの設定」 \(P.77-4\)](#)
- [「メディア リソース グループの削除」 \(P.77-5\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[メディア リソースの概要](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト](#)」

メディア リソース グループの設定値

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているため、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア 終端、アナンシエータ、および保留音の各サービスを提供します。

メディア リソース グループは、メディア サーバが論理グループを構成するように定義します。必要に応じて、メディア リソース グループを地理上のロケーションやサイトと関連付けることができます。また、サーバの使用方法やサービスのタイプ（ユニキャストまたはマルチキャスト）を制御するためのメディア リソース グループも必要に応じて作成できます。

表 77-1 では、メディア リソース グループの設定に使用される設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.77-6) を参照してください。

表 77-1 メディア リソース グループの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	これは必須フィールドで、Cisco Unified Communications Manager がメディア リソース グループを識別するための固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット (ピリオド)、およびアンダースコアを指定できます。
[説明 (Description)]	メディア リソース グループの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[このグループのデバイス (Devices for this Group)]	この領域は、メディア リソース グループのメディア リソースを定義するのに使用される [使用可能なメディアリソース (Available Media Resources)] と [選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)] の 2 つのペインから構成されます。
[使用可能なメディアリソース (Available Media Resources)]	メディア リソース グループに対して選択可能なメディア リソースが表示されます。このメディア リソースには、次のメディア リソース タイプが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 会議ブリッジ (CFB) • メディア ターミネーション ポイント (MTP) • 保留音サーバ (MOH) • トランスコーダ (XCODE) • アナンシエータ (ANN) マルチキャスト用に設定されている保留音サーバには、(MOH)[Multicast] というラベルが付いています。このメディア リソース グループのメディア リソースを追加するには、リストからメディア リソースを選択し、下矢印をクリックします。メディア リソースが追加されると、その名前が、[選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)] に移動されます。
[選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)]	メディア リソース グループに対して選択されたメディア リソースが表示されます。メディア リソース グループでは、少なくとも 1 つのメディア リソースを選択する必要があります。メディア リソースを削除 (選択解除) するには、その名前を選択し、上矢印をクリックします。
[MOH オーディオにマルチキャストを使用 (Use Multicast for MOH Audio、最低 1 つのマルチキャスト MOH リソースが使用可能な場合)]	保留音オーディオ用のマルチキャストを使用するには、このチェックボックスをオンにします。マルチキャストを使用するには、選択されたメディア リソースの少なくとも 1 つが、マルチキャスト MOH サーバであることを確認してください。 (注) マルチキャスト オーディオ ソースは、システム管理者が設定または作成します。

メディア リソース グループの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のメディア リソース グループを見つけることができます。メディア リソース グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア リソース グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [メディアリソースグループ (Media Resource Group)] の順に選択します。

[メディアリソースグループの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.77-6) を参照してください。

メディア リソース グループの設定

メディア リソース グループを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。

**(注)**

メディア リソース グループから最初にリソースを除去しておく場合、またはメディア リソースが入っているメディア リソース グループを削除する場合を除いて、メディア リソース グループに含まれているメディア リソース (たとえば、会議ブリッジ) は、削除できません。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース(Media Resources)] > [メディアリソースグループ(Media Resource Group)] の順に選択します。
- [メディアリソースグループの検索と一覧表示(Find and List Media Resource Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- メディア リソース グループをコピーするには、該当するメディア リソース グループを見つけます(「メディア リソース グループの検索」(P.77-3) を参照)。[検索結果(Search Results)] リストから、コピーするメディア リソース グループに対応する [コピー(Copy)] アイコンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 新しいメディア リソース グループを追加するには、[新規追加(Add New)] ボタンをクリックします。[メディアリソースグループの設定(Media Resource Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 3」に進みます。
 - 既存のメディア リソース グループを更新するには、該当するメディア リソース グループを見つけます(「メディア リソース グループの検索」(P.77-3) を参照)。次に、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します(表 77-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存(Save)] をクリックします。
- メディア リソース グループをコピーする場合は、少なくともメディア リソース グループの名前を変更する必要があります。
- メディア リソース グループを追加すると、[ステータス(Status)] が、[使用可(Ready)] から [追加に成功しました(Add successful)] に変わります。これで、メディア リソース グループ リストに、新規のメディア リソース グループが追加されました。
- 既存のメディア リソース グループを更新すると、[使用可(Ready)] から [更新に成功しました(Update successful)] に変わります。

追加情報

「関連項目」(P.77-6) を参照してください。

メディア リソース グループの削除

既存のメディア リソース グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは、削除できません。メディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを検索するには、[メディア リソース グループの設定 (Media Resource Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のメディア リソース グループを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているメディア リソース グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループすべてに、別のメディア リソース グループ リストを割り当てます。「[メディア リソース グループ リストの設定](#)」(P.78-3) を参照してください。
- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを削除します。「[メディア リソース グループ リストの削除](#)」(P.78-4) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「[メディア リソース グループの検索](#)」(P.77-3) の手順を使用して、メディア リソース グループを見つけてみます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループを選択します。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。
- このメディア リソース グループを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
- 選択されたメディア リソース グループが、メディア リソース グループ リストから削除されました。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.77-6) を参照してください。

関連項目

- 「メディア リソース グループの設定値」(P.77-1)
- 「メディア リソース グループの検索」(P.77-3)
- 「メディア リソース グループの設定」(P.77-4)
- 「メディア リソース グループの削除」(P.77-5)
- 「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リスト

- 「メディア リソース グループ リストの設定」(P.78-1)
- 「メディア リソース グループ リストの設定」(P.78-3)
- 「メディア リソース グループ リストの削除」(P.78-4)



CHAPTER 78

メディア リソース グループ リストの設定

メディア リソース グループ リストを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「メディア リソース グループ リストの設定値」 (P.78-1)
- 「メディア リソース グループ リストの検索」 (P.78-2)
- 「メディア リソース グループ リストの設定」 (P.78-3)
- 「メディア リソース グループ リストの削除」 (P.78-4)

メディア リソース グループ リストの設定値

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているため、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア 終 端、アナウンサー、および保留音の各サービスを提供します。

メディア リソース グループ リストは、メディア リソース グループに優先順位を付けます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に基づいて、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。

表 78-1 では、メディア リソース グループ リストの設定に使用される設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」 (P.78-5) を参照してください。

表 78-1 メディア リソース グループ リストの設定値

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト情報 (Media Resource Group List Information)]	
[名前 (Name)]	これは必須フィールドで、Cisco Unified Communications Manager がメディア リソース グループ リストを識別するための固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット (ピリオド)、およびアンダースコアを指定できます。

表 78-1 メディア リソース グループ リストの設定値 (続き)

フィールド	説明
[このリストのメディアリソースグループ(Media Resource Groups for this List)]	
[使用可能なメディアリソースグループ(Available Media Resource Groups)]	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択可能なメディア リソース グループが表示されます。このメディア リソース グループには、すでに定義されているメディア リソース グループだけが含まれます。</p> <p>このメディア リソース グループ リストのメディア リソース グループを追加するには、一覧からメディア リソース グループを選択し、2つのペインの間にある下矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループが追加されると、その名前は、[選択されたメディアリソースグループ(Selected Media Resource Groups)]に移動されます。</p>
[選択されたメディアリソースグループ(Selected Media Resource Groups)]	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択されたメディア リソース グループが表示されます。メディア リソース グループ リストごとに、少なくとも1つのメディア リソース グループを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソース グループを削除(選択解除)するには、その名前を選択し、2つのペインの間にある上矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループは優先順位(高優先順位から低優先順位へ)に表示されているため、メディア リソース グループの優先順位を変更するには、このペインの右側にある上矢印と下矢印を使用する必要があります。優先順位を変更するには、リスト内でメディア リソース グループを選択し、上矢印または下矢印を使用して、その優先順位を変更します。</p>

メディア リソース グループ リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループ リストが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のメディア リソース グループ リストを見つけることができます。メディア リソース グループ リストを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、メディア リソース グループ リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループ リストの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース(Media Resources)] > [メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)]の順に選択します。
- [メディアリソースグループリストの検索と一覧表示(Find and List Media Resource Group Lists)] ウィンドウが表示されます。アクティブな(前回の)クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.78-5) を参照してください。

メディア リソース グループ リストの設定

メディア リソース グループ リストを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。



(注) 割り当てられているメディア リソース グループ リストから、メディア リソース グループを最初に除去しておくか、メディア リソース グループ リストを削除する場合を除いて、メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは削除できません。

手順

ステップ 1 [メディアリソース (Media Resources)] > [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] の順に選択します。

メディア リソース グループ リストの削除

[メディアリソースグループリストの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Group Lists)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- メディア リソース グループ リストをコピーするには、該当するメディア リソース グループ リストを見つけます ([メディア リソース グループ リストの検索] (P.78-2) を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするメディア リソース グループ リストに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 新しいメディア リソース グループ リストを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[メディアリソースグループリストの設定 (Media Resource Group List Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 3」に進みます。
- 既存のメディア リソース グループ リストを更新するには、該当するメディア リソース グループ リストを見つけます ([メディア リソース グループ リストの検索] (P.78-2) を参照)。次に、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 78-1 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

メディア リソース グループをコピーする場合は、少なくともメディア リソース グループの名前を変更する必要があります。

追加情報

「関連項目」 (P.78-5) を参照してください。

メディア リソース グループ リストの削除

既存のメディア リソース グループ リストを削除する手順は、次のとおりです。



(注)

デバイス プールやデバイスに割り当てられたメディア リソース グループ リストは、削除できません。メディア リソース グループ リストに割り当てるデバイス プールやデバイスを最初に変更する必要があります。

手順

ステップ 1 「メディア リソース グループ リストの検索」 (P.78-2) の手順を使用して、メディア リソース グループ リストを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループ リストを選択します。

ステップ 3 [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループ リストを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

選択されたメディア リソース グループ リストが、メディア リソース グループ リストの一覧から削除されました。

追加情報

「関連項目」(P.78-5) を参照してください。

関連項目

- 「メディア リソース グループ リストの設定値」(P.78-1)
- 「メディア リソース グループ リストの検索」(P.78-2)
- 「メディア リソース グループ リストの設定」(P.78-3)
- 「メディア リソース グループ リストの削除」(P.78-4)
- 「メディア リソース グループの設定」(P.77-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」



CHAPTER 79

保留音（MOH）オーディオファイル管理の設定

保留音機能機能でオーディオソースとして使用されるオーディオファイルを管理できます。管理者は [メディアリソース (Media Resources)] > [MOHオーディオファイル (MOH Audio File Management)] メニュー オプションを使用して、次の機能を実行できます。

- システムに保存されている MOH オーディオ ファイルのリストを表示する。
- 新しい MOH オーディオ ファイルをアップロードする。
- MOH オーディオ ファイルを削除する。

MOH オーディオ ファイル管理の設定ウィンドウの使用の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[保留音](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 80

モバイル ボイス アクセスの設定

モバイル コネクトを使用すると、1 つの電話番号でビジネス コールを管理し、進行中のコールをデスクトップ電話機と携帯電話で受けることができます。モバイル ボイス アクセスは **Integrated Voice Response (IVR; 自動音声応答)** システムに関連付けられています。ユーザはこのシステムを使用してモバイル コネクトのオン/オフを切り替えることができます。また、携帯電話やその他のリモート電話機からコールを発信する際、デスクトップ電話機から発信しているかのように見せかけることもできます。

[モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] ウィンドウには、ユーザの IVR プロンプトをローカライズする設定があります。モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスの設定方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 81

アナウンスの設定

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、シスコが提供するアナウンスおよびトーンがインストールされ、Cisco Unified Communications Manager の管理の [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and Lists Announcements)] ウィンドウにこれらのアナウンスおよびトーンが表示されます。これらは、アナウンスに応じて、基本コール、外部コール制御、または MLPP に使用できます ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)])。Cisco Unified Communications Manager を使用すると、シスコが提供するアナウンスをそのまま使用したり、カスタム アナウンスの .wav ファイルを挿入したり、アナウンスのロケールを割り当てたりできます。また、アナウンスの説明を変更したり、アナウンスで再生するメッセージまたはトーンを変更したりできます。

アナウンスを利用するときには、次のトピックを参照してください。

- 「アナウンスの設定値」 (P.81-1)
- 「[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス」 (P.81-4)
- 「アナウンスの検索」 (P.81-7)
- 「カスタム アナウンスのアップロード」 (P.81-8)
- 「アナウンスの再生」 (P.81-9)
- 「アナウンスの削除」 (P.81-10)
- 「関連項目」 (P.81-10)

アナウンスの設定値

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、シスコが提供するアナウンスおよびトーンがインストールされ、Cisco Unified Communications Manager の管理の [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and Lists Announcements)] ウィンドウにこれらのアナウンスおよびトーンが表示されます。これらは、アナウンスに応じて、基本コール、外部コール制御、または MLPP に使用できます ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)])。Cisco Unified Communications Manager を使用すると、シスコが提供するアナウンスをそのまま使用したり、カスタム アナウンスの .wav ファイルを挿入したり、アナウンスのロケールを割り当てたりできます。また、アナウンスの説明を変更したり、アナウンスで再生するメッセージまたはトーンを変更したりできます。

カスタム アナウンスはシスコが提供するアナウンスと同じアナウンス ID を使用することに注意してください。つまり、カスタム アナウンスをアップロードするときは、既存のアナウンス ID の中からカスタム アナウンスに使用するものを選択するため、シスコが提供するアナウンスとカスタム アナウンスが同じアナウンス ID を使用することになります。カスタム アナウンスを挿入し、[アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウの [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにしておくと、Cisco Unified Communications Manager は自動的にカスタム アナウンスを再生します（このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager はアナウンス ID に関連付けられたシスコ提供のアナウンスを再生します）。

必要に応じて、アナウンス自体を変更することなく、シスコ提供のアナウンスまたはカスタム アナウンスの説明を変更できます。説明は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでさまざまなアナウンスを識別するために使用されます。

保留音オーディオ ソース ファイルと同様に、アナウンスの推奨形式には次の仕様があります。

- 16 ビット PCM wav ファイル
- ステレオまたはモノラル
- 48 kHz、44.1 kHz、32 kHz、16 kHz、または 8 kHz のサンプル レート

カスタム アナウンスをアップロードする場合は、クラスタ内の各ノードにアナウンスをアップロードする必要があります。つまり、クラスタ内のサーバ間でアナウンス ファイルが伝搬されないため、クラスタ内の各サーバで Cisco Unified Communications Manager の管理ページを参照し、アップロードプロセスを繰り返す必要があります。

カスタム アナウンスをアップロードする場合は、アナウンスを処理するようにアナウンシエータを設定する必要があります。



ヒント

初期メディア カットスルーを使用すると、着信側がコールの通知を受け取る前に、発信側でグリーンディングが再生されます。通知前にグリーンディングが再生されるようにするには、トランクおよびゲートウェイが初期メディア カットスルーをサポートしている必要があります。Cisco PRI/MGCP ゲートウェイ、H.323 ゲートウェイおよびトランクは、初期メディア カットスルーをサポートしています。SIP トランクで初期メディア カットスルーをサポートするには、PRACK を有効にする必要があります。デバイスが初期メディア カットスルーをサポートしていない場合には、グリーンディングが再生されない可能性があることに注意してください。

表 81-1 では、アナウンスの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#) (P.81-10)」を参照してください。

表 81-1 アナウンスの設定値

フィールド	説明
[アナウンス設定 (Announcement Configuration)] ウィンドウと [ファイルのアップロード (Upload File)] ウィンドウ	
[アナウンス ID(Announcement Identifier)]	[アナウンス ID(Announcement Identifier)] ドロップダウンリストボックスには、カスタム アナウンスに関連付けることができるアナウンス ID がすべて表示されます。このようなアナウンス ID は、カスタム アナウンスを挿入するためのプレースホルダであると考えてください。 挿入するカスタム アナウンスに関連付けるアナウンス ID を選択します。 外部コール制御などの機能では、アナウンス ID を使用して、Cisco Unified Communications Manager でそのアナウンスが再生されるようにします。

表 81-1 アナウンスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[カスタマイズされた説明 (Customized Description)]	<p>挿入するカスタム アナウンスの説明を入力します。たとえば、カスタム アナウンスから抜粋した説明を入力します。このフィールドには任意の文字を入力できます。</p> <p>検索と一覧表示のウィンドウの [ファイルのアップロード (Upload File)] ボタンをクリックすると、このフィールドがブランクのまま表示されます。[アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウの [ファイルのアップロード (Upload File)] ボタンをクリックすると、シスコが提供するアナウンスの (デフォルトの) 説明が表示されます。</p> <p>[アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウのこのフィールドを更新しない場合は、シスコが提供する (デフォルトの) 説明が表示されます。このカスタマイズされた説明のフィールドを更新すると、[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and Lists Announcements)] ウィンドウにシスコが提供するデフォルトの説明が表示されます。デフォルトの説明については、検索と一覧表示のウィンドウの [デフォルトの説明 (Default Description)] 列を確認してください。</p> <p>最大 50 文字を入力できます。</p>
[ロケール (Locale)]	<p>この設定は、[ファイルのアップロード (Upload File)] ウィンドウに表示されます。[ロケール (Locale)] ドロップダウン リスト ボックスから、アナウンスに関連付けるロケールを選択します。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスで [なし (None)] オプションを選択すると、どのオプションも選択されません。</p> <p>デフォルトでは、シスコが提供するすべてのアナウンスが英語 (アメリカ) をサポートしています。</p> <p>ヒント [ファイルのアップグレード (Upload File)] 設定の [ロケール (Locale)] ドロップダウン リスト ボックスにロケールが表示されるようにするには、自分のロケールに固有の Cisco Unified Communications Locale Installer をインストールする必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』を参照してください。</p>
[デフォルトのアナウンス (Default Announcement)]	このドロップダウン リスト ボックスから、カスタム アナウンスが使用されないときに再生するシスコ提供のアナウンスを選択します。
[アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウの [ロケール別のアナウンス (Announcement by Locale)] ペイン	
[有効 (Enable)]	<p>この設定は、カスタム アナウンスを挿入すると表示されます。</p> <p>[有効 (Enable)] チェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は表示されているロケール用のカスタム アナウンスを再生します。Cisco Unified Communications Manager でアナウンス ID に関連付けられているシスコ提供のアナウンスを再生する場合は、[有効 (Enable)] チェックボックスをオフにします。</p>
[カスタマイズされたロケール説明 (Customized Locale Description)]	<p>この設定は、カスタム アナウンスを挿入すると表示されます。</p> <p>このフィールドは読み取り専用で、表示されたロケール用のカスタム アナウンスの説明が表示されます。この説明は、カスタム アナウンスをアップロードするときに入力します。</p>

表 81-1 アナウンスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケール (Locale)]	この設定は、カスタム アナウンスを挿入すると表示されます。 このフィールドは読み取り専用で、.wav ファイルをアップロードしたときにカスタム アナウンス用に選択したロケールが表示されます。 各ロケールは、アップロードしたカスタム アナウンスに関連付けられています。同じアナウンスに別の wav ファイルをアップロードできますが、別のロケールを割り当ててください。この場合、ロケールごとに 1 行ずつ、合計で 2 行表示されます。ロケールのカスタム アナウンスを更新または置換する場合は、置換対象と同じロケールの新しい wav ファイルをアップロードできます。
[デフォルトのシスコアナウンス (Default Cisco Announcement)]	このフィールドには、最後にアップロードしたカスタム アナウンスが表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.81-10) を参照してください。

[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、シスコが提供するアナウンスおよびトーンがインストールされ、Cisco Unified Communications Manager の管理の [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and Lists Announcements)] ウィンドウにこれらのアナウンスおよびトーンが表示されます。これらは、アナウンスに応じて、基本コール、外部コール制御、または MLPP に使用できます ([メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)])。Cisco Unified Communications Manager を使用すると、シスコが提供するアナウンスをそのまま使用したり、カスタム アナウンス .wav ファイルを挿入したり、アナウンスのロケールを割り当てたりできます。また、アナウンスの説明を変更したり、アナウンスで再生するメッセージまたはトーンを変更したりできます。

[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウでハイパーリンクが設定されていないアナウンスは更新できません。[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウでシスコ提供のアナウンスにハイパーリンクの下線が付いている場合、そのアナウンス用にカスタム アナウンスを挿入できます。このようなアナウンスには、Custom_5001、Custom_5014、MLPP-ICA_00120、MonitoringWarning_00055 などがあります。カスタム アナウンスをアップロードする方法の詳細については、次の項を参照してください。

- 「アナウンスの設定値」(P.81-1)
- 「カスタム アナウンスのアップロード」(P.81-8)

[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウの使用方法の詳細については、「アナウンスの検索」(P.81-7) を参照してください。

表 81-2 では、[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウに表示されるアナウンスについて説明します。

表 81-2 [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス

[アナウンス ID(Announcement Identifier)]	説明
Alertingtone	AnnRingBack.wav : このファイルは、アナンシエータおよび外部コール制御をサポートしています。このファイルは変更できません。
Barge-In	AnnBargeTone.wav : このファイルは、アナンシエータおよび外部コール制御をサポートしています。このファイルは変更できません。
Busytone	AnnBusyTone.wav : このファイルは、アナンシエータおよび外部コール制御をサポートしています。このファイルは変更できません。
Custom_05001	AnnCallDisallowed.wav : コールは許可されていません (汎用)。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Custom_05002	Ann900Blocked.wav : 900 コールは許可されていません。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Custom_05003	AnnIntlCallsBlocked.wav : 国際電話は許可されていません。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Custom_05004	AnnTollCallsBlocked.wav : 有料電話は許可されていません。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Custom_05005	AnnDirAsstBlocked.wav : 電話番号案内は許可されていません。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Custom_05006 Custom_05007 Custom_05008 Custom_05009 Custom_05010	AnnCallDisallowed.wav : コールは許可されていません (汎用)。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Custom_05011 および Custom_05012	OneMoment.wav : コールはすぐに完了します (汎用)。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。

表 81-2 [アナウンスの検索と一覧表示(Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス (続き)

[アナウンス ID(Announcement Identifier)]	説明
Custom_05013 Custom_05014 Custom_05015 Custom_05016 Custom_05017 Custom_05018 Custom_05019 Custom_05020	Silence5secs.wav : 5 秒間の無音 (汎用)。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
MLPP-BNEA_00123	AnnMLPP-BNEA.wav : おかけになった番号は、大変込み合っており、この番号には割り込み機能が備わっておりません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。 このアナウンスは、MLPP および外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
MLPP-BPA_00122	AnnMLPP-BPA.wav : 現在、大変込み合っているため、おかけになった電話番号では、おつなぎできません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。 このアナウンスは、MLPP をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
MLPP-ICA_00120	AnnMLPP-ICA.wav : サービス障害のため、電話をおつなぎできません。緊急の場合は、交換手までお電話ください。これは録音メッセージです。 このアナウンスは、MLPP をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
MLPP-PALA_00119	AnnMLPP-PALA.wav : 緊急度の高い電話が使用中のため、電話をおつなぎできません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。 このアナウンスは、MLPP をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
MLPP-UPA_00124	AnnMLPP-UPA.wav : ご使用になった優先度は、回線で認証されていません。認証された優先度をお使いになるか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。 このアナウンスは、MLPP をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
MobileConnectOff	MobileConnectOff.wav : このアナウンスは、外部コール制御およびモバイル コネクトをサポートしています。このファイルは変更できません。

表 81-2 [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス (続き)

[アナウンス ID(Announcement Identifier)]	説明
MobileConnectOn	MobileConnectOn.wav : このアナウンスは、外部コール制御およびモバイル コネクトをサポートしています。このファイルは変更できません。
MonitoringWarning_00055	AnnMonitoring.wav : コールは、監視または録音されている可能性があります。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
RecordingWarning_00038	AnnRecording.wav : コールは録音されています。 このアナウンスは、外部コール制御をサポートしています。シスコが提供するこのアナウンスをそのまま使用することも、カスタム アナウンスを挿入することもできます。
Reordertone	AnnReorder.wav : このアナウンスは、リオーダー音を再生し、基本コール機能および外部コール制御をサポートしています。
Tone-on-Hold	AnnToneOnHold.wav : このトーンは、基本コール機能および外部コール制御をサポートしています。
UnauthorizedCaller	UnauthorizedCaller.wav : このアナウンスは、基本コール機能および外部コール制御をサポートしています。
UnknownCaller	UnknownCaller.wav : このアナウンスは、基本コール機能および外部コール制御をサポートしています。
VCA_00121	Ann-VCA.wav : おかけになった電話番号では、正しくおつなぎできません。番号を確認してからもう一度おかけ直しいただくか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。 このアナウンスは、基本コール機能および外部コール制御をサポートしています。
WrongPin	WrongPin.wav : このファイルは変更できません。このアナウンスは、外部コール制御およびモバイル コネクトをサポートしています。
WrongTargetDN	WrongTargetDN.wav : このファイルは変更できません。このアナウンスは、外部コール制御およびモバイル コネクトをサポートしています。

アナウンスの検索

ネットワーク内にはアナウンスがいくつか存在するため、Cisco Unified Communications Manager では特定の条件を指定して特定のアナウンスを見つけることができます。アナウンスを見つける手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)] を選択します。
[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 カスタム アナウンスを挿入する場合は、「[カスタム アナウンスのアップロード](#)」(P.81-8) を参照してください。

ステップ 3 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 4](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。

ステップ 5 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.81-10) を参照してください。

カスタム アナウンスのアップロード

カスタム アナウンスをアップロードする手順は、次のとおりです。

この項とともに次の各項も参照してください。

- 「[アナウンスの設定値](#)」(P.81-1)
- 「[\[アナウンスの検索と一覧表示 \(Find and List Announcements\)\] ウィンドウのアナウンス](#)」(P.81-4)

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理で、[メディアリソース (Media Resources)] > [アナウンス (Announcements)] を選択します。

[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウで、Custom_5006 などアナウンスのハイパーリンクをクリックします。[アナウンス (Announcements)] ウィンドウが表示されたら、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
 - [アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウで、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** [ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップ ウィンドウで、アナウンス ID の選択、アナウンスの説明の更新、ロケールの選択を行い、[ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。表示される設定の詳細については、[表 81-1](#) を参照してください。
- アップロードプロセスが始まり、Audio Translator ユーティリティが要求を処理していることを示すメッセージが表示されます。
- ステップ 4** アナウンス中に再生するメッセージまたはトーンを変更する場合は、[アナウンス (Announcements)] ウィンドウの [デフォルトのアナウンス (Default Announcement)] ドロップダウンリストボックスから別のアナウンスを選択します。
- ステップ 5** Cisco Unified Communications Manager でシスコが提供するアナウンスではなく、カスタム アナウンスを再生する場合は、[アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウの [ロケール別のアナウンス (Announcement by Locale)] ペインで [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにしてください。[有効 (Enable)] チェックボックスがオフになっている場合、Cisco Unified Communications Manager はシスコが提供するアナウンスを再生します。
- ステップ 6** [アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウで変更を加えたら、[保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

クラスタ内の各ノードにアナウンスをアップロードする必要があります。つまり、クラスタ内のサーバ間でアナウンス ファイルが伝搬されないため、クラスタ内の各サーバで Cisco Unified Communications Manager の管理ページを参照し、アップロードプロセスを繰り返す必要があります。カスタム アナウンスを処理するようにアナウンス ID を設定します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.81-10) を参照してください。

アナウンスの再生

カスタム アナウンスはシスコが提供するアナウンスと同じアナウンス ID を使用します。つまり、カスタム アナウンスをアップロードするときは、既存のアナウンス ID の中からカスタム アナウンスに使用するものを選択するため、シスコが提供するアナウンスとカスタム アナウンスが同じアナウンス ID を使用することになります。カスタム アナウンスを挿入し、[アナウンス設定 (Announcements Configuration)] ウィンドウの [ロケール別のアナウンス (Announcement by Locale)] ペインで [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにしておくと、Cisco Unified Communications Manager は自動的にカスタム アナウンスを再生します (このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager はアナウンス ID に関連付けられたシスコ提供のアナウンスを再生します) ([[メディアリソース \(Media Resources\)](#)] > [アナウンス (Announcements)])。

アナウンスの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理に表示されるアナウンスは削除できません。

関連項目

- 「アナウンスの設定値」 (P.81-1)
- 「[アナウンスの検索と一覧表示 (Find and List Announcements)] ウィンドウのアナウンス」 (P.81-4)
- 「アナウンスの検索」 (P.81-7)
- 「カスタム アナウンスのアップロード」 (P.81-8)
- 「アナウンスの再生」 (P.81-9)
- 「アナウンスの削除」 (P.81-10)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「外部コール制御」



PART 5

拡張機能設定



CHAPTER 82

Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用せずに、Cisco Unified Communications Manager データベースに追加したり、削除したりすることができます。ここでは、次の手順について説明します。

- [「Cisco ボイスメール ポートの設定値」 \(P.82-1\)](#)
- [「Cisco ボイスメール ポートの検索」 \(P.82-6\)](#)
- [「Cisco ボイスメール ポートの設定」 \(P.82-7\)](#)
- [「Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化」 \(P.82-8\)](#)
- [「Cisco ボイスメール ポートの削除」 \(P.82-9\)](#)

Cisco ボイスメール ポートの設定値

オプションのソフトウェアである Cisco Unity または Cisco Unity Connection は、シスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。Cisco Unity Connection はユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では Cisco ボイスメール ポートを追加、設定、更新、および削除する手順について説明します。この手順は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ボイスメール (Voice Mail)] メニューから、[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] を選択することによって実行できます。

Cisco Unity を設定する方法については、該当する『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

ボイス メッセージと Cisco Unified Communications Manager との接続性の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

表 82-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.82-10) を参照してください。

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報(Device Information)]	
[ポート名 (Port Name)]	<p>Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイスメッセージシステム上でポートごとにデバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。</p> <p>[ポート名 (Port Name)] フィールドには 1 ～ 15 文字（文字、数字、ピリオド、アンダースコア、ダッシュを含む）を入力できます。ただし、「-VI<ポート番号>」で終了する必要があります。</p> <p>(注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VII または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager (UTIM) の名前と一致する必要があります。Cisco Unity Connection では、この名前が Cisco UM-VII または Cisco UM-VI2 などの Cisco Unity Connection の管理と一致する必要があります。</p>
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デフォルト値または特定のデバイス プールを選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このデバイスを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性（サービスまたは機能）が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチ スペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペースの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、コーリング サーチ スペース名の一部を入力します。表示されたコーリング サーチ スペースのリストで、指定したいコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このボイスメール ポートに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このボイスメール ポートが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p> <p>ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディアターミネーション ポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号 (Directory Number)]	このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと [パーティション (Partition)] フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。
[パーティション (Partition)]	この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[なし (None)] を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。 Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (「パーティションの検索」 (P.53-4) を参照)。 (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。 Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します (「コーリングサーチスペースの検索」 (P.54-3) を参照)。 (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display)]	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display、ASCII 形式)]	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p>例</p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco Unified Communications Manager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

Cisco ボイスメール ポートの検索

通常、ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメール ポートが存在します。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の Cisco ボイスメール ポートを見つけることができます。Cisco ボイスメール ポートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメール ポートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメール ポートの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- [ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]** に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.82-10) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco ボイス メッセージ システムを Cisco Unified Communications Manager に接続するには、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順のほかに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」(P.83-1) を参照してください。

個々の Cisco ボイスメール ポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順と、既存のボイスメール ポートを更新またはコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。

[ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- Cisco ボイスメール ポートとその設定をコピーするには、該当する Cisco ボイスメール ポートを見つけます（「Cisco ボイスメール ポートの検索」(P.82-6) を参照）。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするボイスメール ポートに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 新しいボイスメール ポートを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 3」に進みます。
- 既存の Cisco ボイスメール ポートを更新するには、該当するボイスメール ポートを見つけます（「Cisco ボイスメール ポートの検索」(P.82-6) を参照）。更新するボイスメール ポートをクリックし、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 82-1 を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

既存の Cisco ボイスメール ポートの基本設定をコピーして、別の Cisco ボイスメール ポートに適用する場合は、[ポート名 (Port Name)] フィールドと [電話番号 (Directory Number)] フィールドを変更する必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.82-10) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更したボイスメール ポートを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- [ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致するボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期させるボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のボイスメール ポートをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.82-10) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの削除

Cisco Unified Communications Manager から Cisco ボイスメール ポートを 1 つ削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco Unified Communications Manager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。「[電話番号の設定](#)」(P.61-26) を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できます。「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」(P.64-3) を参照してください。



ヒント

既存のサーバからポートを削除するには、この項で説明されている手順の代わりに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」(P.83-1) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- ステップ 2** 「[Cisco ボイスメール ポートの検索](#)」(P.82-6) の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
- ステップ 3** 削除する Cisco ボイスメール ポートをクリックします。
- ステップ 4** [削除 (Delete)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.82-10) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco ボイスメール ポートの設定値」 (P.82-1)
- 「Cisco ボイスメール ポートの検索」 (P.82-6)
- 「Cisco ボイスメール ポートの設定」 (P.82-7)
- 「Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.82-8)
- 「Cisco ボイスメール ポートの削除」 (P.82-9)
- 「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」 (P.83-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」



CHAPTER 83

Cisco ボイスメール ポート ウィザード

オプションのソフトウェアである Cisco Unity または Cisco Unity Connection は、シスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では、ボイス メッセージ システムに対して、Cisco Unified Communications Manager で Cisco ボイスメール ポートの追加と設定を行うために必要な手順について説明します。

Cisco Unity を設定する方法については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity*』または『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

Cisco Unity Connection を設定する方法については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』または『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

ボイス メッセージと Cisco Unified Communications Manager との接続性の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

Cisco ボイスメール ポート ウィザード ツールを使用すると、Cisco Unified Communications Manager 管理者は、Cisco ボイスメール サーバに関連付けられているポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに迅速に追加および削除できます。次の項では、この手順について説明します。

この章では、次の構成情報について説明します。

- 「[新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加](#)」 (P.83-2)
- 「[既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加](#)」 (P.83-7)
- 「[既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除](#)」 (P.83-8)
- 「[関連項目](#)」 (P.83-9)

新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して、新規の Cisco ボイスメール サーバとポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco ボイスメール ポート ウィザードには、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

手順

ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポートウィザード (Cisco Voice Mail Port Wizard)] の順に選択します。

表示された画面で、次のいずれかのオプションを選択します。

- [新規 Cisco ボイスメールサーバの作成とポートの追加 (Create a new Cisco Voice Mail Server and add ports to it)]. [次へ (Next)] をクリックし、「**ステップ 2**」に進みます。
- [既存の Cisco ボイスメールサーバにポートを追加 (Add ports to an existing Cisco Voice Mail server)]. [次へ (Next)] をクリックし、「**既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加 (P.83-7)**」に進みます。
- [既存の Cisco ボイスメールサーバからポートを削除 (Delete ports from an existing Cisco Voice Mail server)]. [次へ (Next)] をクリックし、「**既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除 (P.83-8)**」に進みます。

ステップ 2 [新規の Cisco ボイスメールサーバに追加するポートの名前:(Add ports to a new Cisco Voice Mail Server using this name:)] に Cisco ボイスメール サーバの名前を入力します。



(注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager (UTIM) の名前と一致する必要があります。Cisco Unity Connection では、この名前が Cisco UM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Cisco Unity Connection の管理と一致する必要があります。

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択します。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

[Cisco ボイスメールデバイス情報 (Cisco Voice Mail Device Information)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 適切な設定値を入力します (表 83-1 を参照)。これらの設定値がすべての新規ポートに適用されます。

表 83-1 ボイスメール ポート ウィザードのデバイス情報の設定値

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスの目的を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デフォルト値 [デフォルト (Default)] または定義されたデバイス プールを選択します。

表 83-1 ボイスメール ポート ウィザードのデバイス情報の設定値 (続き)

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このデバイスを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「 共通デバイス設定 」(P.103-1) を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 83-1 ボイスメール ポート ウィザードのデバイス情報の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このポートに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このポートが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティモード(Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p> <p>ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

ステップ 7 [次へ(Next)] をクリックします。

[Cisco ボイスメール電話番号 (Cisco Voice Mail Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 新規 Cisco ボイスメール サーバの電話番号設定を入力します (表 83-2 を参照)。

表 83-2 ボイスメール ポート ウィザードの電話番号の設定値

フィールド	説明
[開始電話番号(Beginning Directory Number)]	Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を入力します。新しいポートはそれぞれ、次に使用可能な電話番号を受け取ります。

表 83-2 ボイスメール ポート ウィザードの電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>この一連の電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[なし (None)] を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (「パーティションの検索」 (P.53-4) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します (「コーリングサーチスペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display)]	<p>この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを指定します。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display、ASCII 形式)]	<p>この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。</p>

表 83-2 ボイスメール ポート ウィザードの電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線番号マスク (External Number Mask)]	外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。 国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。

- ステップ 9** [次へ(Next)] をクリックします。
これらの電話番号を回線グループに追加するかどうかをたずねるウィンドウが表示されます。
- ステップ 10** 次の作業のいずれかを選択します。
- 電話番号を新規回線グループに追加する場合、「ステップ 11」に進みます。
 - 電話番号を既存の回線グループに追加する場合、「ステップ 13」に進みます。
 - 電話番号を回線グループに後で追加する場合、「ステップ 15」に進みます。
- ステップ 11** [はい。新規の回線グループに電話番号を追加します。(Yes. Add directory numbers to a new Line Group.)] オプションを選択し、[次へ(Next)] をクリックします。
- ステップ 12** [回線グループ (Line Group)] ウィンドウに新規回線グループの名前を入力し、[次へ(Next)] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました (Ready to Add Cisco Voice Mail Ports)] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

「ステップ 16」に進みます。
- ステップ 13** [はい。既存の回線グループに電話番号を追加します。(Yes. Add directory numbers to an existing Line Group.)] オプションを選択し、[次へ(Next)] をクリックします。
- ステップ 14** [回線グループ (Line Group)] ウィンドウで、[回線グループ名 (Line Group Name)] ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、[次へ(Next)] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました (Ready to Add Cisco Voice Mail Ports)] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

「ステップ 16」に進みます。
- ステップ 15** [いいえ。後から追加します。(No. I will add them later.)] オプションを選択し、[次へ(Next)] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました (Ready to Add Cisco Voice Mail Ports)] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。
- ステップ 16** この情報が正しい場合は、[終了 (Finish)] をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、[戻る (Back)] ボタンをクリックして、その情報を編集します。または [キャンセル (Cancel)] をクリックして、ポートを追加せずに終了します。
- ステップ 17** Cisco ボイスメール ポート ウィザードが指定した新規ボイスメール ポートの追加を終了した後に、[Cisco ボイスメールポートウィザードの結果 (Cisco Voice Mail Port Wizard Results)] ウィンドウが表示されます。

このウィンドウによって、これらの新規ボイスメール ポートを使用する前に完了しなければならないその他のステップがわかります。

次の作業

- メッセージ受信のインジケータ (MWI) デバイスをセットアップしたことを確認してください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト](#)」を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.83-9) を参照してください。

既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加

Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して、ポートを既存の Cisco ボイスメール サーバに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco ボイスメール ポート ウィザードには、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

ボイスメール パイロット番号は、Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を示します。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポートウィザード (Cisco Voice Mail Port Wizard)] の順に選択します。
- ステップ 2** [既存の Cisco ボイスメールサーバにポートを追加 (Add ports to an existing Cisco Voice Mail server)] を選択します。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメールサーバ (Cisco Voice Mail Server)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数が示されます。
- ステップ 5** ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメール電話番号 (Cisco Voice Mail Directory Numbers)] ウィンドウでは、Cisco ボイスメール サーバへ追加したポートの設定情報を表示します。最後のポートに続く連続した電話番号が自動的に選択されます。また、Cisco ボイスメール パイロット電話番号と同じ [パーティション (Partition)] 設定値、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定値、表示に関する設定値、[AAR グループ (AAR Group)] 設定値、[外線番号マスク (External Number Mask)] 設定値が使用されます。[新規電話番号の開始 (New Directory Numbers Start at)] フィールドに、別の範囲の電話番号を入力することができます。
- ステップ 6** ポート数を変更する必要がある場合は、[戻る (Back)] ボタンをクリックします。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました (Ready to Add Cisco Voice Mail Ports)] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

- ステップ 8** この情報が正しい場合は、[終了 (Finish)] をクリックして、新しいポートを追加します。
表示された情報に誤りがある場合は、[戻る (Back)] ボタンをクリックして、その情報を編集します。
または [キャンセル (Cancel)] をクリックして、ポートを追加せずに終了します。

追加情報

「関連項目」(P.83-9) を参照してください。

既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除

Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して既存の Cisco ボイスメール サーバからポートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポートウィザード (Cisco Voice Mail Port Wizard)] の順に選択します。
- ステップ 2** [既存の Cisco ボイスメールサーバからポートを削除 (Delete ports from an existing Cisco Voice Mail server)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメールサーバ (Cisco Voice Mail Server)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数を示します。
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、削除するポート数を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[Cisco ボイスメールポートを削除する準備ができました (Ready to Delete Cisco Voice Mail Ports)] という要約ウィンドウが表示されます。
削除するポートの情報が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、ポート番号と電話番号が連続するように自動的に更新します。
- ステップ 5** この情報が正しい場合は、[終了 (Finish)] をクリックして、選択されたポートを削除します。
表示された情報に誤りがある場合は、[戻る (Back)] ボタンをクリックして、その情報を編集します。
または [キャンセル (Cancel)] をクリックして、ポートを削除しないで終了します。

追加情報

「関連項目」(P.83-9) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」 (P.83-1)
- 「新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加」 (P.83-2)
- 「既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加」 (P.83-7)
- 「既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除」 (P.83-8)
- 「メッセージ受信の設定」 (P.84-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」



CHAPTER 84

メッセージ受信の設定

この項では、メッセージ受信の設定について説明します。

- 「メッセージ受信の設定値」(P.84-1)
- 「メッセージ受信番号の検索」(P.84-3)
- 「メッセージ受信の設定」(P.84-4)
- 「メッセージ受信番号の削除」(P.84-4)
- 「関連項目」(P.84-5)

メッセージ受信の設定値

[メッセージ受信の設定 (Message Waiting Configuration)] ウィンドウでは、メッセージ受信オン/オフの電話番号を定義できます。この電話番号は、ディレクトリ接続ベースのボイスメッセージシステムが、特定の Cisco Unified IP Phone のメッセージ受信のインジケータを設定するかクリアするかを決定するのに使用します。

表 84-1 では、メッセージ受信の設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.84-5) を参照してください。

表 84-1 メッセージ受信の設定値

フィールド名	説明
[メッセージ受信番号 (Message Waiting Number)]	Cisco Message Waiting の電話番号を入力します。この番号が Cisco Unified Communications Manager で自動登録される番号の範囲内がないことを確認してください。 0～9、?、[、]、+、-、*、^、#、!を使用できます。 国際的なエスケープ文字を入力する場合は、番号の先頭に ¥+ を入力します。
[説明 (Description)]	メッセージ受信の電話番号を説明する最大 50 文字の文字を入力します。任意の文字 ("、<、>、&、および % を除く) を使用できません。
[メッセージ受信インジケータ (Message Waiting Indicator)]	[オン (On)] または [オフ (Off)] をクリックします。

表 84-1 メッセージ受信の設定値 (続き)

フィールド名	説明
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションが使用されている場合は、ドロップダウン リストボックスから適切なパーティションを選択します。Message Waiting デバイスの電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [なし (None)] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します (「パーティションの検索」 (P.53-4) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) Message Waiting デバイスの電話番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>パーティションとコーリングサーチスペースが使用される場合、ドロップダウン リストボックスから、ランプをオンにするすべての電話機の電話番号 (DN) のパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択します (電話機の DN に対して指定されるパーティションは、MWI デバイスが使用するコーリングサーチスペース内になければなりません)。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウン リストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します (「コーリングサーチスペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>

追加情報

「関連項目」 (P.84-5) を参照してください。

メッセージ受信番号の検索

ネットワーク内にはいくつかのメッセージ受信番号が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のメッセージ受信番号を見つけることができます。メッセージ受信番号を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、メッセージ受信番号の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メッセージ受信番号の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [メッセージ受信 (Message Waiting)] の順に選択します。

[メッセージ受信番号の検索と一覧表示 (Find and List Message Waiting Numbers)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから、[両方 (Both)]、[オン (On)]、または [オフ (Off)] を選択します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注)

リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.84-5) を参照してください。

メッセージ受信の設定

ボイス メッセージ システムで使用するメッセージ受信の設定手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [メッセージ受信 (Message Waiting)] の順に選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[メッセージ受信の設定 (Message Waiting Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 84-1 を参照)。



(注) ボイス メッセージ システムでは、メッセージ待機表示をするためにメッセージ受信のインジケータ オン/オフ電話番号だけが使用されます。Cisco Unified Communications Manager は、コールの受信にメッセージ受信オン/オフ番号を使用しないため、表示、不在転送、話中転送、および無応答時転送のフィールドは使用されません。

- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックして、このデバイスをシステムに追加します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.84-5) を参照してください。

メッセージ受信番号の削除

メッセージ受信番号を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [メッセージ受信 (Message Waiting)] の順に選択します。
- ステップ 2 「[メッセージ受信番号の検索](#)」(P.84-3) の手順を使用して、メッセージ受信番号を検索します。
- ステップ 3 削除するメッセージ受信番号をクリックします。
- ステップ 4 [削除 (Delete)] をクリックします。
確認ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** メッセージ受信番号を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.84-5) を参照してください。

関連項目

- 「メッセージ受信の設定値」(P.84-1)
- 「メッセージ受信番号の検索」(P.84-3)
- 「メッセージ受信の設定」(P.84-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」
- 「ボイスメール プロファイルの設定」(P.86-1)
- 「電話番号の設定値」(P.61-1)



CHAPTER 85

Cisco ボイスメールパイロットの設定

次のトピックでは、ボイスメールパイロットの設定について説明します。

- 「[ボイスメールパイロットの設定値](#)」 (P.85-1)
- 「[Cisco ボイスメールパイロットの検索](#)」 (P.85-3)
- 「[ボイスメールパイロット番号の設定](#)」 (P.85-4)
- 「[ボイスメールパイロット番号の削除](#)」 (P.85-4)
- 『[Cisco Unified Communications Manager システムガイド](#)』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager システムガイド](#)』の「[Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト](#)」

ボイスメールパイロットの設定値

ボイスメールパイロット番号は、ユーザが本人のボイスメッセージにアクセスするときにダイヤルする電話番号を指定します。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが電話機のメッセージボタンを押すと自動的にこのボイスメッセージ番号にダイヤルします。各ボイスメールパイロット番号は、異なったボイスメッセージシステムに属することができます。

表 85-1 では、ボイスメールパイロットの設定値について説明します。

表 85-1 ボイスメールパイロットの設定値

フィールド	説明
[ボイスメールパイロット番号 (Voice Mail Pilot Number)]	ボイスメールパイロット番号を識別する番号を入力します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、このパイロット番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します (「コーリングサーチスペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[説明 (Description)]	パイロット番号の説明を記述します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[システムのデフォルトボイスメールパイロットに設定 (Make this the default Voice Mail Pilot for the system)]	<p>チェックボックスをオンにして、このパイロット番号をそのシステムのボイスメールパイロットのデフォルトにします。</p> <p>(注) [システムのデフォルトボイスメールパイロットに設定 (Make this the default Voice Mail Pilot for the system)] ボックスをオンにすると、このボイスメールパイロット番号は、現在のデフォルトパイロット番号を置き換えます。</p>

追加情報

「関連項目」 (P.85-5) を参照してください。

Cisco ボイスメールパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメールパイロットが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の Cisco ボイスメールパイロットを見つけることができます。Cisco ボイスメールパイロットを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)] の順に選択します。

[ボイスメールパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.85-5) を参照してください。

ボイスメールパイロット番号の設定

ボイスメールパイロット番号を設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)] の順に選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] リンクをクリックします。
- ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 85-1 を参照)。
- ステップ 4 新規ボイスメールパイロット番号を追加する場合や、既存のボイスメールパイロット番号の設定を更新する場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.85-5) を参照してください。

ボイスメールパイロット番号の削除

ボイスメールパイロット番号を削除する手順は、次のとおりです。デフォルトまたは [ボイスメールなし (No Voice Mail)] のプロファイル番号は、削除できません。

始める前に

ボイスメールプロファイルが使用するボイスメールパイロット番号は、削除できません。ボイスメールパイロットを使用しているボイスメールプロファイルを検索するには、[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用中のボイスメールパイロットを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているボイスメールパイロットを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメールパイロットを使用しているボイスメールプロファイルすべてに、別のボイスメールパイロットを割り当てます。「ボイスメールプロファイルの設定」(P.86-4) を参照してください。
- 削除するボイスメールパイロットを使用しているボイスメールプロファイルを削除します。「ボイスメールプロファイルの削除」(P.86-5) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)] の順に選択します。
- ステップ 2 「Cisco ボイスメールパイロットの検索」 (P.85-3) の手順を使用して、ボイスメールパイロットを検索します。
- ステップ 3 削除する Cisco ボイスメールパイロットをクリックします。
- ステップ 4 [削除 (Delete)] をクリックします。
確認ウィンドウが表示されます。



(注) デフォルトまたは [ボイスメールなし (No Voice Mail)] のパイロット番号を選択した場合、[削除 (Delete)] ボタンは表示されません。

- ステップ 5 ボイスメールパイロットを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
ボイスメールプロファイルがこのボイスメールパイロット番号を使用している場合は、このボイスメールパイロット番号を使用しているボイスメールプロファイルの番号を示すメッセージが表示されます。

追加情報

「関連項目」 (P.85-5) を参照してください。

関連項目

- 「ボイスメールパイロットの設定値」 (P.85-1)
- 「Cisco ボイスメールパイロットの検索」 (P.85-3)
- 「ボイスメールパイロット番号の設定」 (P.85-4)
- 「ボイスメールパイロット番号の削除」 (P.85-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」
- 「メッセージ受信の設定」 (P.84-1)
- 「ボイスメールプロファイルの設定」 (P.86-1)



CHAPTER 86

ボイスメール プロファイルの設定

次のトピックでは、ボイスメール プロファイルについて説明します。

- 「ボイスメール プロファイルの設定値」 (P.86-1)
- 「ボイスメール プロファイルの削除」 (P.86-5)
- 「ボイスメール プロファイルの検索」 (P.86-3)
- 「ボイスメール プロファイルの設定」 (P.86-4)
- 「ボイスメール プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.86-5)
- 「ボイスメール プロファイルの削除」 (P.86-5)
- 「関連項目」 (P.86-6)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウによって、回線に関するボイスメッセージ情報を定義できません。



(注) ボイスメール プロファイルは、デバイスではなく電話番号に割り当てられます。

表 86-1 では、ボイスメール プロファイルの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」 (P.86-6) を参照してください。

表 86-1 ボイスメール プロファイルの設定値

フィールド	説明
[ボイスメールプロファイル情報 (Voice Mail Profile Information)]	
[ボイスメールプロファイル名 (Voice Mail Profile Name)]	Cisco ボイスメール プロファイルを識別する名前を入力します。有効な文字は、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) です。

表 86-1 ボイスメール プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	プロファイルの説明を記述します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンバサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、ドル記号 (\$)、一重引用符 (')、開きカッコ (()、閉じカッコ ()、スラッシュ (/)、コロン (:)、セミコロン (;)、等号 (=)、アットマーク (@)、チルダ (~)、波カッコ ({})、またはアポストロフィ (') は使用できません。
[ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)]	[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] 内で指定された適切なボイスメールパイロット番号か、[<デフォルトを使用 (Use Default)>] を選択します。
[ボイスメールボックスマスク (Voice Mail Box Mask)]	<p>自動登録された電話機用のボイスメールボックス番号をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。自動登録された電話機のディレクトリ回線から、コールをボイスメッセージシステムに転送する場合、Cisco Unified Communications Manager は、そのディレクトリ回線の [ボイスメールボックス (Voice Mail Box)] フィールドに設定されている番号に、このマスクを適用します。</p> <p>たとえば、972813XXXX というマスクを指定した場合、電話番号 7253 のボイスメールボックス番号は 9728137253 になります。マスクを入力しない場合、ボイスメールボックス番号は電話番号と同じです (この例では 7253 です)。</p> <p>デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager は、ボイスメールボックス番号を電話番号と同じ値に設定します。電話番号を設定するときに、ボイスメールボックス番号を変更できます。詳細については、「電話番号の設定」(P.61-1) を参照してください。</p> <p>(注) コールが SIP トランクを介して特定の DN から、Cisco Unified Communications Manager と統合されているボイスメールサーバまたはサービスにリダイレクトされる場合、電話機のボイスメールプロファイルのボイスメールボックスマスクによって、SIP 転送ヘッダー内の転送番号が変更されます。この動作が想定されているのは、Cisco Unified Communications Manager サーバがメールボックスを選択する手段として転送ヘッダーを使用するためです。</p>
[これをシステムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定 (Make This the Default Voice Mail Profile for the System)]	<p>このチェックボックスをオンにして、このプロファイルをデフォルトにします。</p> <p>(注) [これをシステムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定 (Make This the Default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオンにすると、このボイスメールプロファイルは、現在のデフォルトプロファイルを置き換えます。</p>

ボイスメール プロファイルの検索

ネットワーク内にはいくつかのボイスメール プロファイルが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のボイスメール プロファイルを見つけることができます。ボイスメール プロファイルを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ボイスメール プロファイルの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ボイスメール プロファイルの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] の順に選択します。

[ボイスメールプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.86-6) を参照してください。

ボイスメール プロファイルの設定

電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定する手順、ボイスメール プロファイルをコピーする手順、または既存のボイスメール プロファイルを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメール プロファイル (Voice Mail Profile)] の順に選択します。
- [ボイスメール プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- ボイスメール プロファイルをコピーするには、該当するボイスメール プロファイルを見つけます (「ボイスメール プロファイルの検索」(P.86-3) を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするボイスメール プロファイルに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
 - 電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 3」に進みます。
 - 既存のボイスメール プロファイルを更新するには、該当するボイスメール プロファイルを見つけます (「ボイスメール プロファイルの検索」(P.86-3) を参照)。次に、「ステップ 3」に進みます。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 86-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 既存のボイスメール プロファイルを更新する場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックして、ボイスメール プロファイルに関連付けられたデバイスをすべて同期化します。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「ボイスメール プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化」(P.86-5) を参照してください。
-

追加情報

「関連項目」(P.86-6) を参照してください。

ボイスメール プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更したボイスメール プロファイルを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] の順に選択します。
[ボイスメールプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するボイスメール プロファイルがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスを同期させるボイスメール プロファイルをクリックします。[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] 画面が表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.86-6) を参照してください。

ボイスメール プロファイルの削除

ボイスメール プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。デフォルト プロファイルや [ボイスメールなし (No Voice Mail)] のプロファイルは、削除できません。

始める前に

電話番号が使用するボイスメール プロファイルは、削除できません。ボイスメール プロファイルを使用している電話番号を検索するには、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のボイスメール プロファイルを削除しようとする時、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているボイスメール プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のボイスメール プロファイルを割り当てます。
- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスを削除します。

手順

-
- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** 「ボイスメール プロファイルの検索」 (P.86-3) の手順に従って、削除するボイスメール プロファイルを見つけます。
- ステップ 3** 削除するボイスメール プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ上のボイスメール プロファイルをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」 (P.86-6) を参照してください。

関連項目

- 「ボイスメール プロファイルの設定値」 (P.86-1)
- 「ボイスメール プロファイルの検索」 (P.86-3)
- 「ボイスメール プロファイルの設定」 (P.86-4)
- 「ボイスメール プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.86-5)
- 「ボイスメール プロファイルの削除」 (P.86-5)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」



CHAPTER 87

Cisco Intercompany Media Engine

Cisco Intercompany Media Engine では、ピアツーピア技術を既存の Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) インフラストラクチャに結合して、企業間に直接 IP 接続を確立できます。Cisco Intercompany Media Engine を使用すると、Cisco Unified Communications Manager をすでに配置している企業は企業間に動的な Session Initiation Protocol (SIP) トランクを構築し、PSTN ではなくインターネット経由で通信を行うことができるようになります。

詳細については、『*Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide*』を参照してください。



CHAPTER 88

フォールバック設定

Cisco Intercompany Media Engine の設定は、フォールバック情報の設定で構成されています。
詳細については、『*Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide*』を参照してください。



PART 6

デバイスの設定



CHAPTER 89

CTI ルート ポイントの設定

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファースト パーティ コールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco IP SoftPhone、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。



(注)

回線グループまたはハントリストのメンバーである Directory Number (DN; 電話番号) に CTI ルートポイントを関連付けることはできません。DN が回線グループまたはハントリストのメンバーである場合、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで設定した CTI ルートポイントにその DN を関連付けることはできません。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「CTI ルート ポイントの設定値」 (P.89-2)
- 「CTI ルート ポイントの検索」 (P.89-7)
- 「CTI ルート ポイントの設定」 (P.89-8)
- 「CTI ルート ポイントの削除」 (P.89-9)
- 「CTI ルート ポイントのリセット」 (P.89-10)
- 「CTI ルート ポイントの同期化」 (P.89-11)
- 「関連項目」 (P.89-11)

CTI ルート ポイントの設定値

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファーストパーティコールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco IP SoftPhone、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。



(注)

回線グループまたはハント リストのメンバーである電話番号 (DN) に CTI ルート ポイントを関連付けることはできません。DN が回線グループまたはハント リストのメンバーである場合、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで設定した CTI ルート ポイントにその DN を関連付けることはできません。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

表 89-1 では、CTI ルート ポイントの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.89-11) を参照してください。

表 89-1 CTI ルート ポイントの設定値

フィールド	説明
[デバイス名 (Device Name)]	このデバイスに固有の識別子を、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、またはアンダースコアを含む) で入力します。
[説明 (Description)]	CTI ルート ポイントの内容を表す名前を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールの名前を選択します。デバイス プールは、自動登録用の Cisco Unified Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	この CTI ルート ポイントを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「共通デバイス設定」(P.103-1) を参照してください。

表 89-1 CTI ルートポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、この CTI ルートポイントに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この CTI ルートポイントが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」 (P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>

表 89-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その CTI ルート ポイントに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする CTI ルート ポイントに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラについての説明を参照してください。</p>
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[<なし (none)>] を選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」を参照してください。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン 矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>

表 89-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>アプリケーションが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p>オーディオソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>

表 89-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 89-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非スルパーティションに設定してください。</p>
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>

CTI ルート ポイントの検索

CTI ルート ポイントを検索し、一覧表示する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順に選択します。
- [CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。

- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.89-11) を参照してください。

CTI ルート ポイントの設定

CTI ルート ポイントを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順に選択します。

[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- CTI ルート ポイントをコピーするには、該当するルート ポイントを見つけます（「[CTI ルート ポイントの検索](#)」(P.89-7) を参照）。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーする CTI ルートポイントに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新規 CTI ルート ポイントを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウが表示されます。「[ステップ 3](#)」に進みます。

- CTI ルート ポイントを更新するには、該当する CTI ルート ポイントを見つけます（「[CTI ルート ポイントの検索](#)」(P.89-7) を参照）。次に、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 89-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存(Save)] をクリックします。

電話番号の追加と設定の方法については、「[電話番号の設定](#)」(P.61-26) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.89-11) を参照してください。

CTI ルート ポイントの削除

CTI ルート ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数の電話番号に関連付けられた CTI ルート ポイントを削除できるため、CTI ルート ポイントを使用している電話番号を特定する必要があります。CTI ルート ポイントを使用している電話番号を特定するには、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の CTI ルート ポイントを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。

割り当てられている電話番号を持つ CTI ルート ポイントを削除する場合、ルート プラン レポートを使用して電話番号を検索できます。ルート プラン レポートを使用して電話番号を削除することもできます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順に選択します。

[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 削除する CTI ルート ポイントの検索に必要な検索条件を指定します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルート ポイントのリストが表示されます。

ステップ 4 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する CTI ルート グループの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて削除する場合は、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

- 削除する CTI ルート ポイントの名前を選択して、現在の設定値を表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。

ステップ 5 [OK] をクリックすると、CTI ルート ポイントが完全に削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.89-11) を参照してください。

CTI ルート ポイントのリセット

CTI ルート ポイントをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順に選択します。
[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する CTI ルート ポイントがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** リセットする CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択 Å 目のリセット (Reset Selected)] をクリックします。
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** 次のいずれかのボタンをクリックします。
- [リスタート (Restart)] : デバイスをシャットダウンしないで再起動します。
 - [リセット (Reset)] : デバイスをシャットダウンしてから起動します。
 - [閉じる (Close)] : 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じます。
-

追加情報

「関連項目」(P.89-11) を参照してください。

CTI ルートポイントの同期化

CTI ルートポイントを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] の順に選択します。
[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する CTI ルートポイントがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させる CTI ルートポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルートポイントをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.89-11) を参照してください。

関連項目

- 「CTI ルートポイントの設定値」(P.89-2)
- 「CTI ルートポイントの設定」(P.89-8)
- 「CTI ルートポイントの検索」(P.89-7)
- 「CTI ルートポイントの削除」(P.89-9)
- 「CTI ルートポイントのリセット」(P.89-10)
- 「CTI ルートポイントの同期化」(P.89-11)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「コンピュータテレフォニー統合」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「信頼済みリレーポイント」



CHAPTER 90

ゲートキーパーの設定

ゲートキーパー デバイスは、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) と呼ばれ、コール アドミッション制御、帯域幅割り当て、およびダイヤル パターン解決 (コール ルーティング) に使用される H.225 RAS (Registration, Admission, and Status Protocol) メッセージ セットをサポートしています。ゲートキーパーは、Cisco Unified Communications Manager クラスタと H.323 ネットワークの間の通信のためにこれらのサービスを提供します。Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに、複数 Å ゲートキーパー デバイスを設定できます。冗長化のために代替ゲートキーパーを設定することもできます。代替ゲートキーパーの設定の詳細については、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) のマニュアルを参照してください。

ゲートキーパーの設定は、次の 2 つの要素から構成されます。

- Cisco Unified Communications Manager の設定。各 Cisco Unified Communications Manager クラスタは、1 つまたは複数のゲートキーパーに登録できます。この章では、Cisco Unified Communications Manager でゲートキーパーを設定する方法について説明します。また、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでトランク デバイスを設定する必要があります。「[トランクの設定](#)」(P.93-1) を参照してください。
- ルータ上でのゲートキーパーの設定。この設定は、ゲートキーパーの役目をする Cisco IOS Multimedia Conference Manager (MCM) に適用されます。ゲートキーパー用に推奨されるプラットフォームは、Cisco IOS リリース 12.1(3)T 以上を搭載した Cisco 2600、3600、7200 ルータなどです。ゲートキーパーの設定については、MCM のマニュアルを参照してください。代替ゲートキーパー設定は MCM だけで行うので、Cisco Unified Communications Manager での設定は必要ありません。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでのゲートキーパーの設定については、次のトピックを参照してください。

- 「[ゲートキーパーの設定値](#)」(P.90-2)
- 「[ゲートキーパーの検索](#)」(P.90-3)
- 「[ゲートキーパーの設定](#)」(P.90-4)
- 「[ゲートキーパーの削除](#)」(P.90-5)
- 「[ゲートキーパーのリセット](#)」(P.90-6)
- 「[ゲートキーパーの同期化](#)」(P.90-6)
- 「[関連項目](#)」(P.90-7)

ゲートキーパーの設定値

ゲートキーパー デバイスは、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) と呼ばれ、コールアドミッション制御、帯域幅割り当て、およびダイヤルパターン解決（コールルーティング）に使用される H.225 RAS (Registration, Admission, and Status Protocol) メッセージセットをサポートしています。ゲートキーパーは、Cisco Unified Communications Manager クラスタと H.323 ネットワークの間の通信のためにこれらのサービスを提供します。Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。冗長化のために代替ゲートキーパーを設定することもできます。代替ゲートキーパーの設定の詳細については、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) のマニュアルおよび『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』を参照してください。

ゲートキーパーの設定は、次の 2 つの要素から構成されます。

- Cisco Unified Communications Manager の設定。各 Cisco Unified Communications Manager クラスタは、1 つまたは複数のゲートキーパーに登録できます。この章では、Cisco Unified Communications Manager でゲートキーパーを設定する方法について説明します。また、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでトランク デバイスを設定する必要があります。「[トランクの設定](#)」(P.93-1) を参照してください。
- ルータ上でのゲートキーパーの設定。この設定は、ゲートキーパーの役目をする Cisco IOS Multimedia Conference Manager (MCM) に適用されます。ゲートキーパー用に推奨されるプラットフォームは、Cisco IOS リリース 12.1(3)T 以上を搭載した Cisco 2600、3600、7200 ルータなどです。ゲートキーパーの設定については、MCM のマニュアルを参照してください。代替ゲートキーパー設定は MCM だけで行うので、Cisco Unified Communications Manager での設定は必要ありません。



(注)

Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。

表 90-1 では、ゲートキーパーの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.90-7) を参照してください。

表 90-1 ゲートキーパーの設定値

フィールド	説明
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)]	ゲートキーパーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。これは必須フィールドです。 Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに、複数のゲートキーパーに登録できます。
[説明 (Description)]	ゲートキーパーの内容を表す名前を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 90-1 ゲートキーパーの設定値 (続き)

フィールド	説明
[登録要求の存続可能時間 (Registration Request Time to Live)]	<p>Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 60 秒です。</p> <p>[登録要求の存続可能時間 (Registration Request Time to Live)] フィールドは、ゲートキーパーが Registration Request (RRQ; 登録要求) を有効であると見なす時間を指定します。キープアライブ RRQ は、RRQ Time to Live の期限が切れる前に、ゲートキーパーへ送信される必要があります。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ゲートキーパーに RRQ を送信して、そのゲートキーパーに登録し、その後、そのゲートキーパーとの接続を保持します。ゲートキーパーは、要求の確認 (RCF) または拒否 (RRJ) を行います。</p>
[登録再試行のタイムアウト (Registration Retry Timeout)]	<p>Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 300 秒です。</p> <p>[登録再試行のタイムアウト (Registration Retry Timeout)] フィールドは、登録しようとして失敗した後、ゲートキーパーへの登録をやり直すまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する時間を指定します。</p>
[デバイスを有効にする (Enable Device)]	<p>このチェックボックスを使用すると、このゲートキーパーを Cisco Unified Communications Manager に登録できます。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。Cisco Unified Communications Manager からゲートキーパーの登録を解除するには、このチェックボックスをオフにします。このフィールドを更新してから約 1 分以内に、ゲートキーパーの登録は解除されます。</p>

ゲートキーパーの検索

ネットワーク内にはいくつかのゲートキーパーが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のゲートキーパーを見つけることができます。ゲートキーパーを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ゲートキーパーの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートキーパーの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートキーパー (Gatekeeper)] の順に選択します。
- [ゲートキーパーの検索と一覧表示 (Find and List Gatekeepers)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[「ステップ 3」](#)に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.90-7) を参照してください。

ゲートキーパーの設定

ゲートキーパーを追加または更新する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [ゲートキーパー (Gatekeeper)] の順に選択します。

[ゲートキーパーの検索と一覧表示 (Find and List Gatekeepers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいゲートキーパーを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。

- 既存のゲートキーパーを更新するには、該当するゲートキーパーを見つけます（「[ゲートキーパーの検索](#)」(P.90-3) を参照）。次に、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 90-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.90-7) を参照してください。

ゲートキーパーの削除

ゲートキーパーを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のトランクに割り当てられているゲートキーパーは、削除できません。ゲートキーパーを使用しているトランクを検索するには、[ゲートキーパーの設定 (Gatekeeper Configuration)] ウィンドウにある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のゲートキーパーを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からエラー メッセージが表示されます。現在使用されているゲートキーパーを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクすべてに、別のゲートキーパーを割り当てます。「[トランクの設定](#)」(P.93-62) を参照してください。
- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクを削除します。「[トランクの削除](#)」(P.93-64) を参照してください。

手順

ステップ 1 「[ゲートキーパーの検索](#)」(P.90-3) の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するゲートキーパーを選択します。

ステップ 3 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、ゲートキーパーを削除します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.90-7) を参照してください。

ゲートキーパーのリセット

ゲートキーパーのリセットによって、物理デバイスがリセットされるわけではありません。ゲートキーパーのリセットは、Cisco Unified Communications Manager のゲートキーパーへの論理接続のリセットおよびゲートキーパーへの再登録を強制します。再登録の間および再登録が正常終了するまで、このトランクを使用して行われるコールは、このゲートキーパーを使用しますが、失敗します。ゲートキーパーをリセットする手順は、次のとおりです。



(注)

ゲートキーパーをリセットしても、ゲートキーパーが制御しているすべてのコールが終了するわけではありませんが、新しいコールの試行は失敗します。

手順

- ステップ 1 「ゲートキーパーの検索」(P.90-3) の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。
- ステップ 2 一致するレコードのリストから、リセットするゲートキーパーを選択します。
- ステップ 3 ゲートキーパー デバイスの設定値を変更した場合は、[リセット(Reset)] をクリックします。
[デバイスリセット(Device Reset)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 4 次のいずれかの項目をクリックします。
 - [リスタート(Restart)] : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動します (Cisco Unified Communications Manager に電話機とトランクを再登録します)。
 - [リセット(Reset)] : 内部ゲートキーパー デバイスをシャットダウンしてから再起動します。Cisco Unified Communications Manager クラスタは、ゲートキーパーへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
 - [閉じる(Close)] : 何も実行しないで、[デバイスリセット(Device Reset)] ダイアログを閉じます。

追加情報

「関連項目」(P.90-7) を参照してください。

ゲートキーパーの同期化

ゲートキーパーを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1 [デバイス(Device)] > [ゲートキーパー(Gatekeeper)] の順に選択します。
[ゲートキーパーの検索と一覧表示(Find and List Gatekeepers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3 [検索(Find)] をクリックします。
検索条件に一致するゲートキーパーがウィンドウに表示されます。

- ステップ 4** 同期させるゲートキーパーの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のゲートキーパーをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.90-7) を参照してください。

関連項目

- 「[ゲートキーパーの設定値](#)」(P.90-2)
- 「[ゲートキーパーの設定](#)」(P.90-1)
- 「[ゲートキーパーの検索](#)」(P.90-3)
- 「[ゲートキーパーの設定](#)」(P.90-4)
- 「[ゲートキーパーの削除](#)」(P.90-5)
- 「[ゲートキーパーのリセット](#)」(P.90-6)
- 「[ゲートキーパーの同期化](#)」(P.90-6)
- 「[トランクの設定](#)」(P.93-1)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[ゲートキーパーとトランク](#)」

参考資料

- 『*Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)*』
- Cisco IOS Multimedia Conference Manager (Command Reference) のマニュアル



CHAPTER 91

ゲートウェイの設定

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。Cisco Unified Communications Manager は、複数のタイプのゲートウェイをサポートしています（『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』を参照）。

Cisco Unified Communications Manager を使用した Cisco ゲートウェイの処理と設定については、次のトピックを参照してください。

- 「ゲートウェイの設定値」 (P.91-2)
 - 「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-2)
 - 「H.323 ゲートウェイの設定値」 (P.91-5)
 - 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.91-29)
 - 「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 (P.91-35)
 - 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-36)
- 「ポートの設定値」 (P.91-39)
 - 「FXS/FXO ポートの設定値」 (P.91-39)
 - 「デジタル アクセス PRI ポートの設定値」 (P.91-49)
 - 「デジタル アクセス T1 ポートの設定値」 (P.91-75)
 - 「BRI ポートの設定値」 (P.91-84)
 - 「POTS ポートの設定値」 (P.91-99)
 - 「ループ スタート ポートの設定値」 (P.91-102)
 - 「グラウンドスタート ポートの設定値」 (P.91-103)
 - 「E & M ポートの設定値」 (P.91-104)
- 「特定のゲートウェイの検索」 (P.91-106)
- 「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加」 (P.91-107)
- 「ゲートウェイとポートの変更」 (P.91-120)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「Cisco Unified Communications Manager 音声ゲートウェイの概要」

ゲートウェイの設定値

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明は、次のトピックを参照してください。

- 「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-2)
- 「H.323 ゲートウェイの設定値」 (P.91-5)
- 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.91-29)
- 「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 (P.91-35)
- 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-36)

ポートの設定値の詳細については、「ポートの設定値」 (P.91-39) を参照してください。



(注)

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウでは、ゲートウェイ タイプごとに、[デバイスは信頼済み (Device is trusted)] または [デバイスは信頼されていない (Device is not trusted)] が、対応するアイコンとともに表示されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは、デバイス タイプに基づいて判別されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは設定できません。

MGCP ゲートウェイの設定値

表 91-1 では、MGCP ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。

表 91-1 MGCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[ゲートウェイの詳細 (Gateway Details)]	
[ドメイン名 (Domain Name)]	<p>CiscoMGCP ゲートウェイを識別する名前を 64 文字以内で入力します。</p> <p>Domain Name Service (DNS; ドメイン ネーム サービス) ホスト名が正しく解決されるように設定されている場合は、DNS ホスト名を使用します。それ以外の場合は、CiscoMGCP ゲートウェイ上で指定されているとおりのホスト名を使用します。</p> <p>IOS ゲートウェイ上で設定されているとおりのホスト名を使用する場合は、ここで入力する名前が、そのホスト名と正確に一致する必要があります。</p> <p>たとえば、ホスト名が <code>vg200-1</code> に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が未設定の場合は、このフィールドにはホスト名を入力します (この場合、<code>vg200-1</code>)。</p> <p>ゲートウェイ上でホスト名が <code>vg200-1</code> として設定され、IP ドメイン名が <code>cisco.com</code> として設定されている場合、このフィールドには <code>vg200-1.cisco.com</code> と入力します。</p>
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。</p>

表 91-1 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager になります。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco Unified Communications Manager に接続しようとします。</p>
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
<p>(注) 一部の VIC で、開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC には 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) 存在する必要があります。</p>	
<p>(注) MGCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます (VG200 ゲートウェイには、1 つのスロットしかありません)。</p>	
<p>(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存 (Save)] をクリックしてください。</p>	

表 91-1 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[Module in Slot 0] [Module in Slot 1] [Module in Slot 2] [Module in Slot 3] (以下、同様)	<p>選択した MGCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。たとえば、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V] : Subunit 0 に、FXS または FXO 用の音声インターフェイス カード (VIC) を 1 つ装備。NM-1V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、2 番目の BRI ポートがシャットダウンされるため、2 つのコールを行うことができます。 • [NM-2V] : FXS または FXO 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。NM-2V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、4 つのコールを行うことができます。別の VIC が NM-2V の 2 番目のスロットにある場合、VIC-2BRI-S/T-TE の 2 番目のポートがシャットダウンします。 • [NM-HDV] : Subunit 0 に、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を 1 つ装備。 • [NM-HDA] : VIC を、Subunit 0、Subunit 1、および Subunit 2 に 1 つずつ、合計 3 つ装備。 • [VWIC-SLOT] : 次のいずれかのモジュール用のスロットを装備。VIC (FXS、FXO、または BRI)、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用のスロットを 1 つ装備。 • [AIM-VOICE-30] : T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [WS-X6600-24FXS] : FXS ポートを 24 つ装備。 • [WS-X6600-6T1] : T1 PRI または CAS 用のポートを 6 つ装備。 • [WS-X6600-6E1] : E1 PRI 用のポートを 6 つ装備。 • [WS-SVC-CMM-MS] : ヨーロッパおよびその他の国の T1 インターフェイス用と E1 インターフェイス用に 1 つずつ、合計 2 つを装備。 • [なし (None)] : ネットワーク モジュールの装備なし。 <p>[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで Cisco 881 または Cisco 888/887/886 を MGCP 用に設定する場合は、サブユニットを設定するときに次のオプションを選択します。</p> <p>Cisco 881 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • サブユニット 1 : VIC3-4FXS-DID • サブユニット 3 : VIC2-1FXO <p>Cisco 888/887/886 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • サブユニット 1 : VIC3-4FXS-DID • サブユニット 2 : VIC2-1BRI

表 91-1 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

H.323 ゲートウェイの設定値



(注) ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に登録すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにゲートウェイ登録ステータスが不明と表示されることがあります。

表 91-2 では、H.323 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名 (Device Name)]	デバイスを識別するために Cisco Unified Communications Manager が使用する固有の名前を入力します。IP アドレスまたはホスト名をデバイス名として使用します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチスペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、Music on Hold (MoH; 保留音)、および MLPP の設定を決定します。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイドサービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] が決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)]	H.323 ゲートウェイを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco Unified Communications Manager から他の Annex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。QSIG トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement の各機能をサポートします。 (注) Annex M.1 機能とサードパーティ ベンダーとの互換性については、『Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix』を参照してください。
[QSIG Variant]	[QSIG Variant] ドロップダウンリストボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] を選択します。 このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコル プロファイルを指定します。 ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。 <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません --] • [ECMA] : [QSIG Variant] が [ECMA] (プロトコル プロファイル 0x91) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Global Value (ECMA)] に設定されていることを確認してください。 • [ISO] : (デフォルト) [QSIG Variant] が [ISO] (プロトコル プロファイル 0x9F) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Local Value] または [Use Global Value (ISO)] のいずれかに設定されていることを確認してください。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [QSIG Variant] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 26 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID Encoding]	<p>[ASN.1 ROSE OID Encoding] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、Remote Operations Service Element (ROSE; 遠隔操作サービス要素) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません --] • [Use Global Value (ISO)] : このオプションを選択するのは、接続先の PBX がローカル値をサポートしていない場合だけです。 • [Use Global Value (ECMA)] : このオプションを選択するのは、QSIG Variant サービス パラメータが、[ECMA] (プロトコル プロファイル 0x91) に設定されている場合だけです。 • [Use Local Value] : (デフォルト) QSIG Variant サービス パラメータが [ISO] (プロトコル プロファイル 0x9F) に設定されている場合、ほとんどのテレフォニー システムでサポートされているこのオプションを使用します。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ASN.1 ROSE OID Encoding] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 26 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) を実装するためにメディアターミネーションポイントを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set メッセージをサポートしない H.323 デバイスだけに、このチェックボックスを使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオコールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
[ビデオコールを音声として再試行(Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオエンドポイントだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオコールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオコールとして (ビデオコールとして接続できない場合) そのビデオコールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオコールは、オーディオコールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗します。コール制御はルート/ハントリスト内でコールを再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定済みで使用可能であれば、コール制御はルートリストとハントリスト間でもコールを再ルーティングします。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified Communications Manager がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、H.245 ターミナル機能セットに送信するように指定します。Cisco Unified Communications Manager が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>(注) H.323 エンドポイントと H.320 エンドポイント間の ISDN コールに、H.320 ゲートウェイ経由のコールを可能にするには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスが表示されるのは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] オプションを選択した場合です。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス置換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、そのデバイスの送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>ゲートウェイを介したセキュア コールとノンセキュア コールを Cisco Unified Communications Manager で許可する場合は、[SRTP を許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP を使用します。</p> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco Unified Communications Manager とゲートウェイ間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>ゲートウェイの暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[H.235 パススルー使用可能 (H.235 Pass Through Allowed)]	<p>この機能を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの H.235 エンドポイント間で、共有シークレット (Diffie-Hellman キー) と他の H.235 データを透過的にパススルーし、2 つのエンドポイント間でセキュアなメディア チャネルを確立できます。</p> <p>H.235 パススルーを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[コールルーティング情報 - インバウンドコール(Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有意な数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリング サーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[有意な数字 (Significant Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号IE配信のリダイレクト-インバウンド(Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[インバウンドFastStartを有効にする(Enable Inbound FastStart)]	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco Unified Communications Manager サーバで [インバウンドFastStartを有効にする(Enable Inbound FastStart)] チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p>(注) 他のクラスタの Cisco Communications Manager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼者の選択(Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できません。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元(Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号(First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号(Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号(外部)(First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号(外部)(Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に指定します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準(National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知(Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明(Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。
[発呼者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>発呼者回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリー サービスに対する SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージ内で、表示 IE のデリバリーを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アウトバウンドFastStartを有効にする(Enable Outbound FastStart)]	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>(注) [アウトバウンドFastStartを有効にする(Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]、[メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)]、および [アウトバウンドFastStart用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を設定する必要があります。</p>
[アウトバウンドFastStart用コーデック (Codec For Outbound FastStart)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスを使用して、発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するための、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [G711 u-law 64K] (デフォルト) • [G711 a-law 64K] • [G723] • [G729] • [G729AnnexA] • [G729AnnexB] • [G729AnnexA-AnnexB] <p>(注) [アウトバウンドFastStartを有効にする(Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。[アウトバウンドFastStart用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を選択する前に、[保存(Save)] をクリックすることが必要になる場合があります。</p>
[着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当て着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし(None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーションCSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーションCSSを使用(Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、H.323 の [ゲートウェイの設定(Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した着信側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非スル パーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、H.323 の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]」、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定を参照してください。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)]	
H.323 プロトコルは、国際的なエスケープ文字 + をサポートしていません。+ を含め正しいプレフィックスが H.323 ゲートウェイ経由の着信コールに適用されるようにするには、着信の着呼側設定を行います。つまり、着信の着呼側設定を行うことにより、着信コールが H.323 ゲートウェイ経由で到達したときに、Cisco Unified Communications Manager によって、着信側番号がゲートウェイ経由で最初に送信された値に変換されるようになります。	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての着信側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国内 (National)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国際 (International)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチスペースに、このデバイスに割り当てられている着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [不明 (Unknown)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプールCSSの使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 91-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [加入者 (Subscriber)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てられている着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

Analog Access ゲートウェイの設定値

表 91-3 では、Analog Access ゲートウェイ（Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS Gateway）の設定値について説明します。

表 91-3 Analog Access ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[MAC アドレス (MAC Address)]	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリングサーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチ スペースを選択します。コーリングサーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、パーティションの集合を指定します。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチ スペース名を検索し、選択します（「 コーリングサーチスペースの検索 」(P.54-3) を参照）。 (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。

表 91-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コールアドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの Availability を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に行うことができるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワークロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワークロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワークロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワークロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワークロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>

表 91-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 91-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[上から下 (Top Down)] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [上から下 (Top Down)] : ポート 1 からポート 8 まで降順にポートを選択します。 • [下から上 (Bottom Up)] : ポート 8 からポート 1 まで昇順にポートを選択します。
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>

表 91-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

表 91-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

Cisco VG248 ゲートウェイの設定値

表 91-4 では、Cisco VG248 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 91-4 Cisco VG248 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[MACアドレス (MAC Address、最後の 10 文字)]	<p>Cisco VG248 のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway 用の MAC アドレスは 1 つしかありませんが、Cisco Unified Communications Manager はすべてのデバイスについて固有の MAC アドレスを要求します。MAC アドレスの 10 桁だけを入力すると、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイ用の MAC アドレスを使用し、それに追加情報を加えて VGC 電話機用の MAC アドレスを作成することができます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号が追加され、MAC アドレスの先頭に VGC が追加されます。</p> <p>例 Cisco VG248 の MAC アドレスは 0039A44218 です。 Cisco Unified Communications Manager に登録されたポート番号 12 用の MAC アドレスは VGC0039A4421812 です。</p>
[説明 (Description)]	Cisco Unified Communications Manager は、MAC アドレスの直前に VGCGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。
[ロード情報 (Load Information)]	設定中の Cisco VG248 のファームウェアバージョンを入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存 (Save)] をクリックしてください。	
[48_PORTS]	エンドポイント ID のリストから、VGC_Phone ポートを設定するためのポートを 1 つ選択します。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

表 91-5 では、Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値について説明します。

表 91-5 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address、最後の 10 文字)]	<p>ゲートウェイのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。 <i>sccp local</i> IOS コマンドがゲートウェイで指定するインターフェイスの MAC アドレスを使用します。数字 (0 ~ 9) および A ~ F の大文字を指定できます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) にスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングが追加されます。</p> <p>例 ゲートウェイ用の MAC アドレスは 0006D7E5C7 です。 Cisco Unified Communications Manager の MAC アドレスは 0006D7E5C7281 です。 281 はスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングです。 2、8、および 1 の値は 16 進数字であり、スロット、サブユニット、およびポートの値に対応しているとは限りません。</p> <p>電話機のデバイス タイプを示すため、MAC アドレスの前に次の 2 文字が挿入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BR : BRI 電話機 • AN : アナログ電話機 <p>また、ゲートウェイ名に対して SKIGW も挿入されます。</p>
[説明 (Description)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、MAC アドレスの直前に SKIGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。説明は上書きできます。</p>
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager になります。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco Unified Communications Manager に接続しようとします。</p>
<p>[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]</p> <p>(注) 一部の VIC で、開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC には 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) 存在する必要があります。</p> <p>(注) SCCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます。</p> <p>(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存 (Save)] をクリックしてください。</p>	

表 91-5 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[Module in Slot 0] [Module in Slot 1] [Module in Slot 2] [Module in Slot 3] (以下、同様)	選択した SCCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。次のモジュールがサポートされています。 ネットワーク モジュール (VIC スロットあり) : <ul style="list-style-type: none"> • [NM-2V] : FXS-SCCP 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [NM-HD-2V] : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [NM-HD-2VE] : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 ネットワーク モジュール (VIC スロットなし) : <ul style="list-style-type: none"> • [NM-HDA-4FXS] : VIC なしで直接 4 つの FXS を装備。最大 2 つの拡張モジュール EM-HDA-8FXS で拡張することにより、FXS ポートを 16 個サポートできます。 • [EM-HDA-8FXS] : NM-HDA-4FXS の拡張モジュール。 音声インターフェイス カード : <ul style="list-style-type: none"> • [VIC-2FXS] • [VIC-4FXS] • [VIC2-2FXS] • [VIC2-2BRI-NT/TE]

表 91-5 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
	<p>スロット レベルでは、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-2V] : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-2FXS-SCCP)。 • [NM-HD-2V] : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。 • [NM-HD-2VE] : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。 • [NM-HDA] : 3 つのサブユニットのオプション (NM-HDA-4FXS-SCCP、EM-8FXS-EM0-SCCP、EM-8FXS-EM1-SCCP)。 <p>[NM-HDA] の場合、これらのオプションは正式な VIC ではありません。VIC2-2BRI-NT/TE は、SCCP を実行している BRI 電話機専用の VIC です。VG224 GW は他のすべてと異なります。</p> <p>次のオプションは、1 つのスロットだけをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ANALOG] : 1 つのサブユニットのオプション (24FXS-SCCP)。24 個の FXS ポートをサポート。 <p>オプション [なし (None)] は、ネットワーク モジュールが装備されていないことを意味します。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

- 「[関連項目](#)」(P.91-123) を参照してください。

ポートの設定値

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細については、次の各トピックの表を参照してください。

- 「FXS/FXO ポートの設定値」(P.91-39)
- 「デジタル アクセス PRI ポートの設定値」(P.91-49)
- 「デジタル アクセス T1 ポートの設定値」(P.91-75)
- 「BRI ポートの設定値」(P.91-84)
- 「POTS ポートの設定値」(P.91-99)
- 「ループ スタート ポートの設定値」(P.91-102)
- 「グラウンドスタート ポートの設定値」(P.91-103)
- 「E & M ポートの設定値」(P.91-104)

ゲートウェイの設定値の詳細については、「ゲートウェイの設定値」(P.91-2) を参照してください。

FXS/FXO ポートの設定値

表 91-6 では、FXS/FXO ポートの設定値について詳しく説明します。



(注)

VG200 ゲートウェイの場合、すべてのスイッチ エミュレーション タイプが、ネットワーク側をサポートしているわけではありません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定内容によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[説明 (Description)]	Cisco Unified Communications Manager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。 次の例を参考にしてください。 AALN/S0/SU1/1@domain.com このフィールドは、編集可能です。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間(Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチスペースを選択します。コーリング サーチスペースでは、収集された（発信）番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します（「コーリングサーチスペースの検索」(P.54-3) を参照）。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] ペインで [Max List Box Items] に値を入力します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの Availability を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>
[AAR グループ(AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし(None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ネットワークロケール(Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、そのデバイスの送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[発信者 ID を有効化 (Enable Caller ID)] (FXS ポートの場合)	<p>このポートで発信者 ID を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。発信者 ID を使用すると、ポートから発信者 ID 情報をレポートして、着信コールが到達したときに発信先の電話機にその情報を表示できます。</p>
[呼び出し番号 (Ring Number)] (FXS ポートの場合)	<p>呼び出し音が何回鳴ったらポートが着信コールに応答するかを入力します。有効な値は呼び出し音 1 回または 2 回です。デフォルト値は呼び出し音 1 回です。</p>
[タイミングガードアウト (Timing Guard-out)]	<p>タイミング ガードアウト値をミリ秒単位で入力します。この設定値は、コールが切断された後、発信コールが許可されない期間を示します。有効な値の範囲は 300 ~ 3000 ms です。デフォルト値は 1000 ms です。発信者 ID をサポートするには、1000 ms 以下の値にする必要があります。</p>

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非スルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p> <p>この設定値は FXS ポートで表示され、FXO ポートでは表示されません。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにはしません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようになります。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポート情報 (Port Information)](POTS)	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 [Outbound] : 発信コールに使用します [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[プレフィックス DN (Prefix DN)] (FXS ポート)	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。
[数値桁 (Num Digits)] (FXS ポート)	収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN (Prefix DN)] を参照してください。
[期待文字 (Expected Digits)] (FXS ポート)	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number, 0-4096)]	ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。 [SMDI ポート番号 (SMDI Port Number, 0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。 (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[なし (None)] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	

表 91-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。
[削除桁数 (Strip Digits)]	削除対象の先行する発呼側番号桁数を入力します。この値は、ポートの [プレフィックス (Prefix)] の設定値に応じて、デバイスのデバイス プール設定値またはサービス パラメータ Incoming Calling Party Unknown Number Prefix – MGCP のいずれかで設定することもできます。 サービス パラメータ Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - MGCP で桁数を削除するには、 <i>prefix:stripdigits</i> という形式で値を入力します。 <i>prefix</i> は先頭に付加する数字で、 <i>stripdigits</i> は削除する桁数です。
[プレフィックス (Prefix)]	削除した発呼側番号の先頭に付加する数字を入力します。Default と入力すると、デバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] の設定値から [削除桁数 (Strip Digits)] および [プレフィックス (Prefix)] の値が設定されます。デバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] の設定値も [デフォルト (Default)] に設定している場合は、サービス パラメータ Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - MGCP から [削除桁数 (Strip Digits)] および [プレフィックス (Prefix)] の値が設定されます。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、発呼側番号トランスフォーメーションの実行に使用する Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を選択します。この設定値は、[デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] フィールドの値で上書きできます。
[デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)]	デバイス プールの [不明な番号 (Unknown Number)] の CSS を使用して発呼側番号トランスフォーメーションを実行するには、このチェックボックスをオンにします。このボックスをオフにすると、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの設定値が使用されます。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

デジタル アクセス PRI ポートの設定値

表 91-7 では、デジタル アクセス PRI ポートの設定値について詳しく説明します。



- (注) 使用しているゲートウェイが QSIG プロトコルをサポートしているかどうかを確認するには、ゲートウェイの製品マニュアルを参照してください。Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
[MAC アドレス (MAC Address)]	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの Availability を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウン リストで、ポートのルート クラス シグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 [オフ (Off)] : この値は、ルート クラス シグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 [オン (On)] : この値は、ルート クラス シグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルート クラス シグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスが属するデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[V150 (サブセット)(V150 (subset))]	<p>V150 (サブセット) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)]	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者またはスイッチに応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI 4ESS] : AT&T 長距離電話会社。 • [PRI 5E8] : NI-1 モードまたはカスタム モードで動作する AT&T ファミリ 5ESS ISDN スイッチ。 • [PRI 5E8 Custom] : Cisco Unified IP Phone。 • [PRI 5E9] : AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 • [PRI DMS] : MCI ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者、カナダ ローカル交換通信事業者。 • [PRI ETSI SC] : T1 のヨーロッパ ローカル交換通信事業者。また、日本、台湾、韓国、香港のローカル交換。 • [PRI NI2] : AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 <p>(注) [PRI NI2] の PRI プロトコル タイプを指定する場合は、次のコマンドで Cisco IOS ゲートウェイを設定してください。 isdn switch-type primary-ni</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI NTT] : 日本の NTT 交換スイッチ。 • [PRI ISO QSIG T1] : ISO QSIG を使用する PBX T1 専用リンク。 • [PRI ISO QSIG E1] : ISO QSIG を使用する PBX E1 専用リンク。 <p>接続先のスイッチおよび推奨プロトコルを、次のように判別してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nortel Meridian : DMS、5E8 Custom • Lucent Definity : 4ESS または 5E8 • Madge (Teleos) box : 5E8 Teleos • Intecom PBX : 5E8 Intecom

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[QSIG Variant]	<p>[QSIG Variant] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコル プロファイルを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません--] • [ECMA] : [QSIG Variant] が [ECMA] (プロトコルプロファイル 0x91) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Global Value (ECMA)] に設定されていることを確認してください。 • [ISO] : (デフォルト) [QSIG Variant] が [ISO] (プロトコルプロファイル 0x9F) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Local Value] または [Use Global Value (ISO)] のいずれかに設定されていることを確認してください。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [QSIG Variant] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 26 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID Encoding]	<p>[ASN.1 ROSE OID Encoding] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル(Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、遠隔操作サービス要素 (ROSE) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません--] • [Use Global Value (ISO)] : このオプションを選択するのは、接続先の PBX がローカル値をサポートしていない場合だけです。 • [Use Global Value (ECMA)] : このオプションを選択するのは、QSIG Variant サービス パラメータが、[ECMA] (プロトコル プロファイル 0x91) に設定されている場合だけです。 • [Use Local Value] : (デフォルト) このオプションはほとんどのテレフォニー システムでサポートされており、QSIG Variant サービス パラメータが [ISO] (プロトコル プロファイル 0x9F) に設定されている場合に使用します。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ASN.1 ROSE OID Encoding] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 26 章「サービスパラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Sigaling (QSIG)」を参照してください。
[プロトコル側(Protocol Side)]	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両側で、反対の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続されているときに、その PBX が [プロトコル側(Protocol Side)] として [User] を使用する場合は、このデバイスには [Network] を選択してください。一般に、セントラルオフィス接続では、このオプションに [User] を使用します。</p>
[チャンネル選択順序(Channel Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、[TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[TOP_DOWN] を選択してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)]	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネル マップとして提示されるか、スロット マップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [タイムスロット番号 (Timeslot Number)] : B チャンネルの使用は、常に実際のタイムスロット マップ形式 (E1 の場合は 1-15 および 17-31 など)。 • [スロットマップ (Slotmap)] : B チャンネルの使用は、常にスロット マップ形式。 • [1B の場合に番号を使用 (Use Number When 1B)] : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルの場合はチャンネル マップ形式で、複数の B チャンネルが存在する場合はスロット マップ形式。 • [連続番号 (Continuous Number)] : E1 論理チャンネル番号として、連続しない実際のタイムスロット番号 (1-15 および 17-31) ではなく、連続するスロット番号 (1-30) を設定します。
[PCM タイプ (PCM Type)]	<p>デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [a-law] : ヨーロッパおよびその他の国で使用 (北米、香港、台湾、日本以外)。 • [mu-law] : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	<p>スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の PRI スパンが使用可能であるときに、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。</p>
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	<p>再起動間の時間を入力します。[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合、PRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。</p>
[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	<p>RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージは、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージも SERVICE メッセージも送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、D チャンネルは、別の PRI の D チャンネルと正常に接続されると、RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージを送信します。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ステータスポーリングを有効化(Enable status poll)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager の拡張サービス パラメータ (Change B-Channel Maintenance Status) を使用可能にできます。このサービス パラメータによって、MGCP T1/E1 PRI ゲートウェイのサービスから、リアルタイムで個々の B チャンネルを使用することができます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、サービス パラメータ「Change B-Channel Maintenance Status」を使用不可にできます。</p> <p>(注) デフォルトでは、このフィールドはオフです。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[G.Clearの有効化(Enable G.Clear)]	<p>MGCP T1 PRI ゲートウェイおよび SIP トランクに対する G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。G. Clear コーデックを有効にすると、発信コールに対するエコアー キャンセレーションおよびゼロ抑止が無効になります。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページの Fast Start オプションおよび Media Termination Point Required オプションは、機能しません。</p> <p>クラスタ間の SIP トランク上で G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、SIP Clear Channel Data Route Class Label サービス パラメータおよび SIP Route Class Naming Authority サービス パラメータを設定する必要があります。</p> <p>低帯域幅コーデック リージョンがある場合は、G. Clear Bandwidth Override サービス パラメータを有効にする必要があります。</p> <p>次の機能は、G. Clear コーデックをサポートしていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T1 および E1 CAS • H.323 クラスタ間トランク • SCCP デバイス • RSVP • フレーム調整用の個々の DS-0 回線

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールルーティング情報 - インバウンドコール(Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [すべて (All)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。[すべて (All)] を選択した場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>例 受信した数字は 123456 です。 有意な数字の設定値は 4 桁です。 変換された数字は 3456 です。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチスペースを選択します。コーリング サーチスペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します (「コーリングサーチスペースの検索」 (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>このゲートウェイが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コール上で削除される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、削除される桁数が 3 である場合、Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を削除します。</p>
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発呼者回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルートリストまたはルートグループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[PRI プロトコルタイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と接続された側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および NOTIFY メッセージ (DMS プロトコルの場合) 内で、表示情報要素 (IE) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用しません。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用しません。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)]	<p>Display IE フィールドに特殊先行文字バイト (ASCII 以外の表示不能なバイト) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Display IE フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスが適用されるのは、DMS-100 プロトコルと DMS-250 プロトコルに限られます。</p> <p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p>
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MCDN チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)]	<p>チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定するには、チェックボックスをオンにします。この拡張ビットを 1 に設定するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定は、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
[ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)]	<p>Facility IE フィールドにある発信側の名前を送信するには、このチェックボックスをオンにします。Cisco Unified Communications Manager では、デフォルトでこのチェックボックスはオフです。</p> <p>この機能は、ISDN 発信側のネーム デリバリ用に使用可能になっている PRI インターフェイスを持つプライベート ネットワークに対して設定します。このチェックボックスがオンの場合、発信側の名前は SETUP または FACILITY メッセージの Facility IE に送られるため、名前を着信側のデバイス上に表示できます。</p> <p>この機能を設定できるのは、プライベート ネットワーク内の PRI トランクだけです。PSTN に接続された PRI トランクには、この機能を設定しないでください。</p> <p>(注) このフィールドが適用されるのは、NI2 プロトコルに限られます。</p>
[インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)]	<p>インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。Cisco Unified Communications Manager では、デフォルトでこのチェックボックスはオフです。</p> <p>この設定値は、SETUP、CALL PROCEEDING、ALERTING、および CONNECT メッセージの Channel Identification 情報要素内で、デジタル アクセス ゲートウェイ用の DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
[インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)]	<p>PBX プロバイダーから入手した値を入力します。</p> <p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルに限られます。有効値の範囲は 0 ~ 255 です。</p>
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation、QSIG インバウンドコール)]	<p>Cisco Unified Communications Manager で、接続された側の電話番号を着信側の電話機に表示させるか、ブロックさせるかを選択します。</p> <p>このフィールドは、QSIG プロトコルを使用しているゲートウェイだけに適用されます。ゲートウェイは、この設定を着信コールだけに適用します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「許可された接続先回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示できるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「制限された接続先回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示されるのをブロックする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。 PRI 4ESS の [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] 値がこのゲートウェイに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。 デフォルト値は、オフです。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティアクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]」、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリングサーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]」、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

追加情報

「[関連項目](#)」(P.91-123) を参照してください。

デジタル アクセス T1 ポートの設定値

表 91-8 では、デジタル アクセス T1 ポートの設定値について詳しく説明します。

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値

フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address)] (IOS 以外のゲートウェイ)	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[ドメイン名 (Domain Name)]	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が生成した、MGCP デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
(注) MAC アドレスかドメイン名の、どちらか適用される方を入力してください。	
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックslash (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーブスペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] かが決定します。 このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された（発信）番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します（「コーリングサーチスペースの検索」(P.54-3) を参照）。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生するデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[G.Clearの有効化(Enable G.Clear)]	<p>MGCP T1 PRI ゲートウェイおよび SIP トランクに対する G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。G. Clear コーデックを有効にすると、発信コールに対するエコアー キャンセレーションおよびゼロ抑止が無効になります。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページの Fast Start オプションおよび Media Termination Point Required オプションは、機能しません。</p> <p>クラスタ間の SIP トランク上で G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、SIP Clear Channel Data Route Class Label サービス パラメータおよび SIP Route Class Naming Authority サービス パラメータを設定する必要があります。</p> <p>低帯域幅コーデック リージョンがある場合は、G. Clear Bandwidth Override サービス パラメータを有効にする必要があります。</p> <p>次の機能は、G. Clear コーデックをサポートしていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T1 および E1 CAS • H.323 クラスタ間トランク • SCCP デバイス • RSVP • フレーム調整用の個々の DS-0 回線
[DTMF 優先シグナルを処理 (Handle DTMF Precedence Signals)]	<p>このゲートウェイが特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[ボイスルートクラスの符号化 (Encode Voice Route Class)]	<p>ボイス コールのボイス ルート クラスを符号化するには、このチェックボックスをオンにします。ボイスはデフォルトのルートクラスであるため、通常は明示的な符号化は必要ありません。無効 (デフォルト設定) の場合、ポートではボイス ルート クラスが明示的に符号化されません。ボイス ルート クラス (明示的に符号化されているかどうかに関係なく) は、ダウンストリーム デバイスでコールをボイスとして識別するために使用できます。</p> <p>このパラメータは MGCP T1/CAS ゲートウェイ ポートで使用可能です。</p>
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、[上から下 (Top Down)] または [下から上 (Bottom Up)] があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[上から下 (Top Down)] を選択してください。</p>

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[送信番号 (Digit Sending)]	<p>アウトダイヤル用に、次の送信番号タイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [DTMF] : Dual-Tone Multifrequency (2 重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。 • [MF] : Multifrequency (多重周波数)。 • [PULSE] : パルス (ロータリー) ダイヤリング。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルート クラス シグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 [オフ (Off)] : この値は、ルート クラス シグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 [オン (On)] : この値は、ルート クラス シグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルート クラス シグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p>
[V150 (サブセット)(V150 (subset))]	<p>V150 (サブセット) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

表 91-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[なし (None)] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

BRI ポートの設定値

表 91-9 では、BRI ポートの設定値について詳しく説明します。

表 91-9 BRI ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)] (MGCP ゲートウェイ)	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 BRI/S1/SU0/P0@SC3640.cisco.com S1 はスロット 1、SU0 はサブユニット 0、P0 はポート 0 を示し、@SC3640.cisco.com は MGCP ドメイン名を示します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 このデバイスに対して、デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含むプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] かが決定します。 このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディアリソースグループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディアリソースリストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから、必要なメディアリソース、たとえば、保留音サーバを選択します。
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コールアドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーション唐 Ö、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[BRI プロトコルタイプ (BRI Protocol Type)]	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>BRI-NET3</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル側 (Protocol Side)]	適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。 (注) BRI はユーザ側だけをサポートします。
[チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]	チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。 有効な入力値には、[TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[TOP_DOWN] を選択してください。
[PCM タイプ (PCM Type)]	デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [a-law] : ヨーロッパおよびその他の国で使用 (北米、香港、台湾、日本以外)。 • [mu-law] : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の BRI スパンが使用可能であるときに、[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)] チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	再起動間の時間を入力します。[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合、BRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。
[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)]	RESTART メッセージは、BRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージが送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートがイン サービスであると見なします。 このチェックボックスがオフになっている場合、データ リンクは、別の BRI データ リンクと正常に接続されると、RESTART メッセージを送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	Debug ウィンドウに B チャンネルの状況を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
[最初のコールでデータリンクを有効化 (Enable Datalink on First Call)]	ゲートウェイが Cisco Unified Communications Manager に登録されると、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイへのデータ リンクを確立します。 最初のコールで Terminal Endpoint Identifier (TEI; 終端識別子) が決まるようにゲートウェイおよびスイッチを設定する場合、チェックボックスをオンにすると、最初のコールでデータ リンクを確立できます。 (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールルーティング情報 - インバウンドコール(Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字(Significant Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [すべて (All)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。[すべて (All)] を選択した場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>例 受信した数字は 123456 です。 有意な数字の設定値は 4 桁です。 変換された数字は 3456 です。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、BRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルート パーティションの集合を指定します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>このゲートウェイが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>このフィールドには、国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)] が使用されます。
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。
[位置情報 (Geolocation)]	ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。 このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。 [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。 設定の詳細など、位置情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。 論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。 発信側の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信しない場合は、[非許可 (Restricted)] を送信します。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が、電話番号のタイプを設定します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤル プランが不明です。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が、電話番号のタイプを設定します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コール上で削除される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、削除される桁数が 3 である場合、Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を削除します。</p>
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非スル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリングサーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]」、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非スル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリングサーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非スルパーションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]」、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[BRI プロトコルタイプ固有情報(BRI Protocol Type Specific Information)]	
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用しません。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受領するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用しません。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>

表 91-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

POTS ポートの設定値

表 91-10 では、POTS ポートの設定値について説明します。

表 91-10 POTS ポートの設定値

フィールド	説明
[ポート選択 (Port Selection)]	
[ポートタイプ (Port Type)]	POTS ポートの場合、このフィールドには「POTS」が表示されません。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<p>[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。

表 91-10 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポートの詳細 (Port Details)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールのみに使用します。 [Outbound] : 発信コールに使用します [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[Audio Signal Adjustment into IP Network]	ポート アプリケーション タイプに関連した受信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。 (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。
[Audio Signal Adjustment from IP Network]	ポート アプリケーション タイプに関連した送信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。 (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	このゲートウェイが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。
[数値桁 (Num Digits)]	収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN (Prefix DN)] を参照してください。
[期待文字 (Expected Digits)]	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
[Call Restart Timer (1000-5000 ms)]	Call Restart Timer (1000 ~ 5000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Offhook Validation Timer (100-1000ms)]	Offhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Onhook Validation Timer (100-1000ms)]	Onhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Hookflash Timer (100 - 1500 ms)]	Hookflash Timer (100 ~ 1500ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。

表 91-10 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]	<p>ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。</p> <p>[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。</p> <p>(注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

ループ スタート ポートの設定値

表 91-11 では、ループ スタート ポートの設定値について説明します。

表 91-11 ループ スタート ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Loop Start] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールのみに使用します。 [Outbound] : 発信コールに使用します [Both Ways] : 着信コールと発信コールに使用します。
[アテンダント DN (Attendant DN)]	着信コールを転送する先の電話番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

グラウンドスタート ポートの設定値

表 91-12 では、グラウンドスタート ポートの設定値について説明します。

表 91-12 グラウンドスタート ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound] : 着信コールのみに使用します。 • [Outbound] : 発信コールに使用します • [Both Ways] : 着信コールと発信コールに使用します。
[アテンダント DN (Attendant DN)]	着信コールをルーティングする先の番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

E & M ポートの設定値

Ear and Mouth (E & M) ポートは、PBX トランク回線（専用回線）の接続を可能にします。E & M は、2 線式、4 線式、および 6 線式の電話機とトランクのインターフェイス用のシグナリング技術です。

表 91-13 では、E & M ポートの設定値について説明します。

表 91-13 E & M ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートの詳細 (Port Details)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 • [Outbound] : 発信コールに使用します • [Both Ways] : 着信コールと発信コールに使用します。
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。

表 91-13 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発信者 ID タイプ (Caller ID Type)]	<p>発信者 ID のタイプとして次のどちらかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ANI]: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface (ANI) を使用する場合に選択します。 • [DNIS]: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service (DNIS) を使用する場合に選択します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発呼者回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[数値桁 (Num Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>このフィールドは、[有意な数字 (Significant Digits)] チェックボックスがオンである場合に使用します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN (Prefix DN)] および [有意な数字 (Significant Digits)] を参照してください。</p>
[期待文字 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>

表 91-13 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

特定のゲートウェイの検索

ネットワーク内には無数のゲートウェイが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のゲートウェイを見つけることができます。特定のゲートウェイを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ゲートウェイの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ページではゲートウェイの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。アクティブな(前回の)クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウンリスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加

Cisco Unified Communications Manager でネットワーク内の IP テレフォニー ゲートウェイを管理するには、まず、各ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager 設定データベースに追加する必要があります。ゲートウェイを追加する場合の手順、ウィンドウ、および設定値は、追加するゲートウェイのモデルによって異なります。

Cisco Unified Communications Manager に新しいゲートウェイを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、追加するゲートウェイ タイプを選択します。選択したゲートウェイ タイプによっては、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] フィールドが自動的に表示されます。

ステップ 4 [次へ(Next)] をクリックします。

ステップ 5 表 91-14 では、設定するゲートウェイ タイプに固有の手順をクリックします。正しい手順を選択した後、目的のゲートウェイのタイプに該当する設定値を入力するステップから始めます。

表 91-14 ゲートウェイ

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
Cisco Voice Gateway 200 (VG200) VG224 Gateway Cisco IOS 269X、26XX、362X、364X、 366X、3725、3745 ゲートウェイ Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、 3845 ゲートウェイ Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch Communication Media Module Cisco IAD2400	「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」 (P.91-108)
Cisco IOS 269X、3725、3745 ゲートウェイ	「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加」 (P.91-114)
Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway	「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」 (P.91-115)
H.323 モードで設定されたその他の Cisco IOS ゲートウェイ	「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」 (P.91-117)
Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway	「Analog Access ゲートウェイとポートの追加」 (P.91-117)
Cisco VG248 Gateway	「Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加」 (P.91-118)

Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加し、設定する手順を、次に示します。MGCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- CiscoVG200 Voice Gateway
- VG224 Gateway
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch

- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注) 他の IOS MGCP ゲートウェイと同様に、MRP/ASI ゲートウェイは 3 つの Cisco Unified Communications Manager が含まれた Cisco Unified Communications Manager グループと連携して動作します。しかし、ASI/MRP ゲートウェイのテストは、1 台のバックアップ Cisco Unified Communications Manager だけを使用して実行されます。

始める前に

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager と連携して使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの MGCP ゲートウェイを選択します。
- Cisco VG200
 - VG224
 - Cisco 362X、364X、366X
 - Cisco 3725 および 3745
 - Cisco 26XX および 269X
 - Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845
 - Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
 - Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
 - Communication Media Module
 - Cisco IAD2400



(注) Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイも MGCP をサポートしていますが、設定が異なります。[「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」\(P.91-115\)](#) を参照してください。

Cisco IOS MGCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、異なるデバイス プロトコルをサポートします。後続の Web ウィンドウには、これらのインターフェイスの設定が表示されます。

- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、[MGCP] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。表示されない場合は、[「ステップ 6」](#)に進みます。

- ステップ 6** 適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-2) を参照)。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声 インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。
- 選択項目は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。
- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットに取り付けられている VIC のタイプを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。
- ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加します。
- 詳細については、次の手順を参照してください。
- 「MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加」 (P.91-111)
 - 「MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加」 (P.91-112)
 - 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加」 (P.91-113)
 - 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加」 (P.91-113)
 - 「MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加」 (P.91-114)
- ステップ 10** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。
- ステップ 12** エンドポイントの設定とポートの追加が終了した後、MGCP ゲートウェイ デバイスをルート グループまたはルート リストに追加するか、ルート パターンをゲートウェイに割り当てて、コールがゲートウェイにルーティングされるようにする必要があります。



(注) MGCP ゲートウェイをルート パターンに追加する必要があるのは、発信コールの場合だけです。

MGCP ゲートウェイへのポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声 インターフェイス カードのタイプによって異なります。ここでは、次の内容について説明します。

- 「MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加」 (P.91-111)
- 「MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加」 (P.91-112)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加」 (P.91-113)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加」 (P.91-113)
- 「MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加」 (P.91-114)

MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、任意の POTS デバイスとの接続に使用できます。MGCP ゲートウェイで FXS ポートを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」(P.91-108) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。または、FXS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、「ステップ 4」に進んでください。
- ステップ 2** FXS ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント ID をクリックします。
- ウィンドウの内容が更新され、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [デバイス情報 (Device Information)] と [ポート情報 (Port Information)] に、適切な設定値を入力します。これらのフィールドの詳細については、次の各項を参照してください。
- 「FXS/FXO ポートの設定値」(P.91-39)
 - 「POTS ポートの設定値」(P.91-99)
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-
- (注)**  POTS ポートを追加した後、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部にその POTS ポートの情報が表示されます。新しいポートの下に [新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
-
- ステップ 7** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合は、「ステップ 9」に進んでください。
-
- (注)**  DN の追加と設定については、「電話番号の設定」(P.61-26) および「電話番号の設定値」(P.61-1) を参照してください。
-
- ステップ 8** ポートを追加した MGCP ゲートウェイのゲートウェイ設定ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 9** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 10** 「ステップ 4」～「ステップ 8」を繰り返して、他の FXS ポートを追加します。
-

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX との接続に使用できません。MGCP ゲートウェイ上で、ループ スタートまたはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループ スタート トランクには、Positive Disconnect Supervision (確実な接続解除監視) がないものと想定します。Cisco Unified Communications Manager サーバのフェールオーバー時にアクティブ コールを保持できるように、確実な接続解除監視を備えたトランクを、グラウンド スタートとして設定してください。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」(P.91-108) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。または、FXO ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、「ステップ 4」に進んでください。
- ステップ 2** FXO ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。検索結果が表示されます。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP 設定ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] か [Loop Start] のどちらかを選択します。
-
- (注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント ID に同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。
-
- ステップ 6** 次の各項の説明に従って、適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。
- 「FXS/FXO ポートの設定値」(P.91-39)
 - 「ループ スタート ポートの設定値」(P.91-102)
 - 「グラウンドスタート ポートの設定値」(P.91-103)
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** ポートを追加した MGCP ゲートウェイのゲートウェイ設定ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 9** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 10** 他の FXO ポートを追加するには、「ステップ 4」～「ステップ 7」を繰り返します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.91-123) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加

MGCP ゲートウェイにデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。または、T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、「[ステップ 4](#)」に進んでください。
- ステップ 2** デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定するデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リストボックスで、[デジタルアクセス T1 (Digital Access T1)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 選択するポート タイプの適切な設定値については、「[特定のゲートウェイの検索](#)」(P.91-106) を参照してください。
- ステップ 5** 適切なゲートウェイの設定値を入力します。詳細については、「[デジタル アクセス T1 ポートの設定値](#)」(P.91-75) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.91-123) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加

-
- ステップ 1** [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示するには、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、「[ステップ 4](#)」に進んでください。
- ステップ 2** T1 PRI または E1 PRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、「[デジタル アクセス PRI ポートの設定値](#)」(P.91-49) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイス カード (VIC) のタイプによって異なります。MGCP ゲートウェイに BRI ポートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示するには、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、「[ステップ 4](#)」に進んでください。
- ステップ 2** BRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** MGCP 設定ウィンドウから、設定する BRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** BRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、「[BRI ポートの設定値](#)」(P.91-84) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS SCCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加し、設定する手順を、次に示します。SCCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224 Gateway

始める前に

事前に Cisco Unified Communications Manager にゲートウェイを追加して、Cisco IOS SCCP ゲートウェイを設定します。続いて、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定します。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの SCCP ゲートウェイを選択します。
- Cisco IOS 269x
 - Cisco IOS 3725 および 3745
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、[SCCP] を選択します。
Cisco IOS SCCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、SCCP をサポートします。後続の Web ウィンドウには、インターフェイスの設定が表示されます。
- ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。
この SCCP ゲートウェイ用の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されません。
- ステップ 6** プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します ([「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 \(P.91-36\)](#) を参照)。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。
選択項目は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。
- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットに取り付けられている VIC のタイプを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。
ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。
- ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加し、SCCP ゲートウェイに FXS/BRI ポートを追加します。アナログ電話機の設定の詳細については、[「Cisco Unified IP Phone の設定」 \(P.92-1\)](#) および [「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」 \(P.92-41\)](#) を参照してください。
- ステップ 10** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。
- ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加

次の IOS 以外の Cisco MGCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のデジタル ゲートウェイのいずれかを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
 - Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、選択したゲートウェイ上で設定するインターフェイスのタイプに適したデバイス プロトコルを選択します。選択可能な項目は、ゲートウェイのモデルに応じて異なります。
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway : [デジタルアクセス PRI (Digital Access PRI)] または [デジタルアクセス T1 (Digital Access T1)] を選択します。
 - Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway : デジタル アクセス PRI デバイス プロトコルが自動的に選択され、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。「[ステップ 6](#)」に進みます。
- ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** デジタル アクセス PRI インターフェイスを設定するか、デジタル アクセス T1 インターフェイスを設定するかに応じて、適切な設定値を入力します (次の各項を参照)。
- 「[デジタル アクセス PRI ポートの設定値](#)」 (P.91-49)
 - 「[デジタル アクセス T1 ポートの設定値](#)」 (P.91-75)
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway でデジタル アクセス T1 インターフェイスを設定する場合は、ウィンドウの左側に表示される [ポート (Ports)] ペインで、[新規ポートを追加 (Add a New Port)] リンクをクリックして、ポートを設定します。
「[MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加](#)」 (P.91-113) を参照してください。
- ステップ 9** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.91-123) を参照してください。

Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。



(注) ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に登録すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにゲートウェイ登録ステータスが不明と表示されることがあります。

始める前に

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager と共に使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。MGCP ゲートウェイと比較すると、H.323 ゲートウェイの方が、ゲートウェイでの設定が多くなります。これは、H.323 ゲートウェイが、ダイヤルプランとルートパターンを保持する必要があるためです。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、[H.323 Gateway] を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** 適切な設定値を入力します (「[H.323 ゲートウェイの設定値](#)」(P.91-5) を参照)。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.91-123) を参照してください。

Analog Access ゲートウェイとポートの追加

Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway のポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な設定値を入力します（「[Analog Access ゲートウェイの設定値](#)」(P.91-29) を参照）。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** このゲートウェイにポートを追加するには、ウィンドウの左側に表示される [ポート (Ports)] ペインで、[新規ポートを追加 (Add a New Port)] リンクをクリックします。
[ポート設定 (Port Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、ポートタイプとして [POTS] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9** 適切なポートの設定値を入力します（「[POTS ポートの設定値](#)」(P.91-99) を参照）。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
POTS ポートを追加した場合、ウィンドウの内容が更新され、ウィンドウの左側に、その POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、[DN を追加 (Add DN)] リンクが表示されます。
- ステップ 11** [DN を追加 (Add DN)] をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。
電話番号の追加と設定については、「[電話番号の設定](#)」(P.61-26) および「[電話番号の設定値](#)」(P.61-1) を参照してください。
- ステップ 12** POTS ポートの追加と POTS ポートの電話番号の設定が完了したら、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに戻ります。[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで、[デバイスの設定 (Configure Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 13** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.91-123) を参照してください。

Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加

Cisco VG248 Analog Phone Gateway は、ラック取り付け型のスタンドアロン 48-FXS ポート製品です。このゲートウェイを使用すると、複数の構内アナログ電話機、FAX マシン、モデム、ボイスメッセージシステムやスピーカフォンを、1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタに登録することができます。

Cisco VG248 は、機能の拡張に備え、Skinny Client Control Protocol を使用して Cisco Unified Communications Manager に接続されます。

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco VG248 を「Cisco VG248 Gateway」と呼ばれるゲートウェイ デバイスとして認識します。さらに Cisco Unified Communications Manager は、48 個のポートを、それぞれ「Cisco VGC Phone」と呼ばれる Cisco Unified IP Phone に似た個別デバイスとして扱います。

Cisco VG248 Gateway を追加して、このゲートウェイにポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco VG248 Gateway] を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な設定値を入力します ([「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 \(P.91-35\)](#) を参照)。
- ステップ 6** [設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] ドロップダウン リスト ボックスから、[48_PORTS] を選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] 領域に、ポート 0 ~ 48 が表示されます。
- ステップ 8** 1 つのポートをクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに、Cisco VGCPPhone として電話機のモデルがリスト表示されます。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、MAC アドレスが自動的に見えるようになります。
- ステップ 9** 適切な設定値を入力します ([「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」 \(P.92-41\)](#) を参照)。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 11** ポートの電話番号を設定するには、ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域に表示される [新規 DN を追加 (Add a New DN)] リンクをクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話番号の追加と設定については、[「電話番号の設定」 \(P.61-26\)](#) を参照してください。
- ステップ 12** ゲートウェイの別のポートを設定するには、[関連リンク (Related Link)] ドロップダウン リスト ボックスから [ゲートウェイに戻る (Back to Gateway)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。別のポートについて電話機の設定値と電話番号を設定するには、[「ステップ 8」](#) ~ [「ステップ 11」](#) を繰り返します。
ポート 1 を設定する場合は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに [新しいポートをすべてポート 1 のように作成 (Create all new ports like port 1)] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ポート 1 と同じパラメータおよび設定値で、ポート 2 ~ 48 を設定できます (ただし、ポート 2 ~ 48 が設定されていない場合に限られます)。
- ステップ 13** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

[「関連項目」 \(P.91-123\)](#) を参照してください。

ゲートウェイとポートの変更

Cisco Unified Communications Manager を使用して、ゲートウェイ タイプに関係なく、同様に次のタスクを実行します。

- 「依存関係レコードの使用方法」(P.91-120)
- 「ゲートウェイの削除」(P.91-120)
- 「ゲートウェイのリセットと再起動」(P.91-121)
- 「ゲートウェイとポートの更新」(P.91-122)

依存関係レコードの使用方法

ゲートウェイとポートは、パーティション、デバイス プール、電話番号など、さまざまな設定情報を使用します。ゲートウェイやポートを更新または削除する場合は、[依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを使用すると、事前にゲートウェイやポートに関する設定情報を検索できます。リンクにアクセスするには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。このリンクの詳細については、付録「依存関係レコード」(P.A-1) を参照してください。

ゲートウェイの削除

Cisco Unified Communications Manager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート グループで使用されているゲートウェイを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。ゲートウェイを使用しているルート グループを検索するには、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。現在使用されているゲートウェイを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループすべてに、別のゲートウェイを割り当てます。「ルート グループへのデバイスの追加」(P.39-6) を参照してください。
- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループを削除します。「ルート グループの削除」(P.39-7) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。
 - ステップ 4** 削除するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

- ステップ 5** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 6** ゲートウェイを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



ヒント ウィンドウ内のゲートウェイをすべて削除するには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

ゲートウェイのリセットと再起動

Cisco Unified Communications Manager を使用してゲートウェイをリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。
- ステップ 4** リセットするゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目のリセット (Reset Selected)] をクリックします。
[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** 次のいずれかの項目をクリックします。
- [リスタート (Restart)] : デバイスをシャットダウンしないで再起動します。
 - [リセット (Reset)] : デバイスをシャットダウンしてから起動します。
 - [閉じる (Close)] : 何の処理も実行せずに前のウィンドウに戻ります。



(注) H.323 ゲートウェイの再起動やリセットは、ゲートウェイをハードウェア的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。H.323 以外のタイプのゲートウェイをリセットすると、Cisco Unified Communications Manager が、そのゲートウェイを使用しているコールを自動的に終了します。H.323 以外のタイプのゲートウェイを再起動すると、Cisco Unified Communications Manager が、そのゲートウェイを使用しているコールを保持しようとします。

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

ゲートウェイの同期化

ゲートウェイを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが必要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するゲートウェイがウィンドウに表示されます。
 - ステップ 4** 同期させるゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
 - ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.91-123) を参照してください。

ゲートウェイとポートの更新

Cisco Unified Communications Manager からゲートウェイの更新、またはゲートウェイ ポートの再設定を行う手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。
 - ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検出されたデバイスが表示されます。
 - ステップ 4** 更新するゲートウェイの [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切なゲートウェイまたはポートの設定値を更新します (次のトピックを参照)。

ゲートウェイ ポートにアクセスするには、そのゲートウェイ ポートのアイコンをクリックするか、選択されたゲートウェイの設定ウィンドウの左側にある MGCP エンドポイントのリンクをクリックします。

- 「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-2)
- 「FXS/FXO ポートの設定値」 (P.91-39)
- 「デジタル アクセス PRI ポートの設定値」 (P.91-49)
- 「デジタル アクセス T1 ポートの設定値」 (P.91-75)
- 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.91-29)
- 「特定のゲートウェイの検索」 (P.91-106)

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 [リセット (Reset)] をクリックし、ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

「関連項目」 (P.91-123) を参照してください。

関連項目

すべてのゲートウェイ タイプ

- 「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加」 (P.91-107)
- 「ゲートウェイの設定値」 (P.91-2)
- 「特定のゲートウェイの検索」 (P.91-106)
- 「依存関係レコードの使用方法」 (P.91-120)
- 「ゲートウェイとポートの変更」 (P.91-120)
- 「ゲートウェイの削除」 (P.91-120)
- 「ゲートウェイのリセットと再起動」 (P.91-121)
- 「ゲートウェイの同期化」 (P.91-122)
- 「ゲートウェイとポートの更新」 (P.91-122)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「信頼済みリレー ポイント」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」

IOS MGCP ゲートウェイ

- 「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」 (P.91-108)
- 「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-2)
- 「特定のゲートウェイの検索」 (P.91-106)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「参考情報」

SCCP ゲートウェイ

- 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加」 (P.91-114)
- 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 (P.91-36)

IOS 以外の MGCP ゲートウェイ

- 「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」 (P.91-115)

H.323 ゲートウェイ

- 「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」 (P.91-117)
- 「H.323 ゲートウェイの設定値」 (P.91-5)

Analog Access ゲートウェイ

- 「Analog Access ゲートウェイとポートの追加」 (P.91-117)
- 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.91-29)
- 「Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加」 (P.91-118)
- 「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 (P.91-35)
- 『Cisco VG248 Analog Phone Gateway Software Configuration Guide』

BRI ゲートウェイ

- 「BRI ポートの設定値」 (P.91-84)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「MGCP BRI コール接続」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「MGCP BRI ゲートウェイの設定チェックリスト」

ポート

- 「MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加」 (P.91-111)
- 「MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加」 (P.91-112)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタルアクセス T1 ポートの追加」 (P.91-113)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタルアクセス PRI デバイスの追加」 (P.91-113)
- 「MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加」 (P.91-114)
- 「FXS/FXO ポートの設定値」 (P.91-39)
- 「デジタルアクセス PRI ポートの設定値」 (P.91-49)
- 「デジタルアクセス T1 ポートの設定値」 (P.91-75)
- 「POTS ポートの設定値」 (P.91-99)
- 「ループ スタート ポートの設定値」 (P.91-102)
- 「グラウンドスタート ポートの設定値」 (P.91-103)
- 「E & M ポートの設定値」 (P.91-104)

電話機と電話番号

- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.92-1)
- 「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」 (P.92-41)

- 「電話番号の設定」 (P.61-1)
- 「電話番号の設定値」 (P.61-1)



CHAPTER 92

Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified IP Phone は、多くの機能を備えた電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、次の Cisco Unified IP Phone およびデバイスを設定することができます。

- SCCP および SIP の両方に対応する Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ
- Cisco Unified IP Phone 9951 または 9971
- Cisco Unified IP Phone 8961
- Cisco Unified IP Phone 6900 ファミリ
- Cisco IP Video Phone 7985
- Cisco Unified IP SIP Phone 3911
- Cisco IP Phone 30 VIP および Cisco IP Phone 30 SP+
- Cisco IP Phone 12 S、Cisco IP Phone 12 SP、Cisco IP Phone 12 SP+
- H.323 クライアント
- Computer Telephony Integration (CTI) ポート

回線グループまたはハント リストのメンバーである Directory Number (DN; 電話番号) に CTI ポートに関連付けることはできません。DN が回線グループまたはハント リストのメンバーである場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定した CTI ポートにその DN を関連付けることはできません。

- Cisco IP Communicator、Cisco Unified Personal Communicator、および Cisco Unified Mobile Communicator
- Cisco ATA 186 アナログ電話アダプタ
- サードパーティ製 SIP デバイス (基本および拡張)
- IP-STE
- Cisco VG248 および VG224 ポート (アナログ電話機)

管理者は、Cisco VG248 および VG224 Analog Phone Gateway の設定を Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから実行します。このウィンドウから、ゲートウェイ アナログ電話ポートを設定します (この設定では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます)。VG248 および VG224 ポートを更新する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用します。次の手順は、この電話機タイプの更新または削除に適用されます。Cisco VG248 Analog Phone Gateway および VG224 Analog Phone Gateway の設定については、「[ゲートウェイの設定 \(P.91-1\)](#)」を参照してください。

次のトピックでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおける Cisco Unified IP Phone に関する作業と設定について説明しています。

設定値

- 「電話機の設定値」 (P.92-3)
- 「電話の移行の設定」 (P.92-30)
- 「短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値」 (P.92-30)
- 「BLF/短縮ダイヤルの設定値」 (P.92-31)
- 「BLF/ダイレクトコールパークの設定値」 (P.92-32)

手順

- 「電話機の検索」 (P.92-32)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.92-34)
- 「電話機のリセット」 (P.92-38)
- 「電話機の同期化」 (P.92-39)
- 「既存の電話機の設定の別の電話機への移行」 (P.92-36)
- 「電話機の削除」 (P.92-40)
- 「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」 (P.92-41)
- 「IP Phone サービスの設定」 (P.92-42)
- 「サービス URL ボタンの設定」 (P.92-44)
- 「リモート接続先プロファイルへのコピー」 (P.92-46)
- 「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」 (P.92-46)
- 「現在ログイン中のデバイスの検索」 (P.92-48)
- 「リモートからログインしたデバイスの検索」 (P.92-49)
- 「電話機の MAC アドレスの表示」 (P.92-50)

『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」の章の表 42-2 では、SIP をサポートする Cisco Unified IP Phone の設定手順について説明します。

SIP を実行するサードパーティ製電話機については、付録「SIP を実行しているシスコ以外の電話機の設定」の「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト」(P.B-1) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

電話機の設定値

表 92-1 では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.92-51) を参照してください。



(注) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] セクションには、電話機のメーカーによって指定されたモデル固有のフィールドが含まれています。Cisco Unified Communications Manager は、これらのフィールドにデフォルト値を動的に取り込みます。

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域にある [?] 疑問符アイコンをクリックします。ポップアップウィンドウにヘルプが表示されます。

詳細な情報が必要な場合は、設定する個々の電話機のマニュアルを参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域で更新する設定値の [共通設定の上書き (Override Common Settings)] ボックスをオンにします。このボックスをオフにした場合、対応するパラメータ設定は有効になりません。[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域で設定したパラメータは、各種デバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウおよび [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示される場合があります。これらの同じパラメータをこれらの他のウィンドウにも設定した場合、優先される設定は、1) [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定の順に決定されます。

新しい電話機を追加する場合、一括管理ツールがテンプレートに基づいて電話設定の一部を自動的に設定するために作成した電話テンプレートを選択できます。詳細については、「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」(P.92-34) を参照してください。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、電話機のデバイス タイプごとに、[デバイスは信頼済み (Device is trusted)] または [デバイスは信頼されていない (Device is not trusted)] が、対応するアイコンとともに表示されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは、デバイス タイプに基づいて判別されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは設定できません。

表 92-1 電話機の設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[アクティブロード ID(Active Load ID)]	<p>Cisco Unified IP Phone が Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合、このフィールドにはアクティブなファームウェア ロードの名前が表示されます。</p> <p>[アクティブロード ID(Active Load ID)] に [不明 (Unknown)] と表示される場合があります。たとえば、次のいずれかの状況が発生した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アクティブロード ID(Active Load ID)] フィールドに [不明 (Unknown)] と表示される可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SCCP 電話機が Cisco Unified IP Phone 7940 (SCCP)、7960 (SCCP)、または 7985 (SCCP) である場合（これらの電話機モデルは、必要な SCCP のバージョンをサポートしていないためです）。 • SCCP 電話機および SIP 電話機がサードパーティ製の電話機である場合。 • Cisco Unified Communications Manager が電話機のステータスを判別できない場合。
「デバイスはアクティブ (Device is Active)」	<p>電話機がデバイス ライセンス ユニットを消費する場合、および電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録できる場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージが表示されます。</p> <p>BAT によって作成されるダミー MAC アドレスではなく、実際の MAC アドレスを使用している電話機の場合、「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージが表示されます。これは、電話機がデバイス ライセンス ユニットを使用しており、Cisco Unified Communications Manager に登録できることを示します。</p> <p>BAT によって作成されるダミー MAC アドレスを使用している電話機の場合、「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージは表示されません。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダミー MAC アドレスを実際の MAC アドレスに手動で変換した場合、その設定を保存すると「デバイスはアクティブ (Device is Active)」メッセージが表示されます。これにより、電話機を Cisco Unified Communications Manager に登録できるようになり、電話機のデバイス ライセンス ユニットが消費されます。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address)]	<p>Cisco Unified IP Phone (ハードウェア電話機だけ) を識別する MAC アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。</p> <p>ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイの MAC アドレスは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、「ゲートウェイの設定」(P.91-1) を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway には、MAC アドレスが 1 つしかありません。48 個のすべてのポートが、同じ MAC アドレスを共有します。Cisco Unified Communications Manager には、すべてのデバイスに固有の MAC アドレスが必要です。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、各デバイスの MAC アドレスを次のように変換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAC アドレスの先頭 2 桁を削除します。 • MAC アドレスを左に 2 桁シフトします。 • MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号を追加します。 <p>例</p> <p>Cisco VG248 の MAC アドレスは 000039A44218 です。 Cisco Unified Communications Manager に登録されたポート番号 12 用の MAC アドレスは 0039A4421812 です。</p> <p>Cisco VG224 Analog Phone Gateway</p> <p>Cisco VG224 ゲートウェイは、MGCP ゲートウェイまたは SCCP ゲートウェイとして設定できます。SCCP ゲートウェイとして設定した場合は、24 のアナログ電話エンドポイントを割り当てることができます。このように設定した場合、このゲートウェイは IOS SCCP ゲートウェイと同様に動作します。個々の電話機の MAC アドレスは、スロット位置、サブユニット、ポート、および元の MAC アドレスの最後の 10 文字を考慮した式を使用して計算されます。</p>
[デバイス名 (Device Name)]	<p>ソフトウェア ベースの電話機、H.323 クライアント、および CTI ポートを識別する名前を入力します。</p> <p>MAC アドレスに基づかないデバイス名にする場合、原則として、英数字 (a ~ z、A ~ D、0 ~ 9) からなる 1 ~ 15 文字を入力できます。ほとんどの場合、ドット (.)、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) も使用できます。</p> <p>ヒント デバイス名のフィールドに関する規則はデバイス タイプによって異なるため、製品マニュアルを参照して、デバイスに有効な文字セットと、使用できる文字数を確認することを推奨します。たとえば、Cisco Unified Personal Communicator のデバイス名を設定する場合は、UPC で始まる名前にします。</p> <p>(注) また、Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名は 15 文字以内にします。Cisco Unified Mobile Communicator のデバイス名が 15 文字を超えると、Cisco Unified Communications Manager の別のリリースへのアップグレード時に、このデバイスの移行が失敗します。既存の Cisco Unified Mobile Communicator デバイス名に 15 文字を超えるものがある場合は、15 文字以下にしてください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を指定します。このフィールドには、ユーザ名 (たとえば「John Smith」) または電話機のロケーション (たとえば「Lobby」) を入力できます。</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイでは、VGC<MAC アドレス> でこの記述が開始されます。</p> <p>説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>この電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、地域、日時グループ、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報など、デバイスに共通する一連の特性を定義します。</p>
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	<p>この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで共通デバイスを設定します。詳細については、「共通デバイス設定 (P.103-1)」を参照してください。</p> <p>共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を指定します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、H.323 クライアントと CTI ポートに対しては、このフィールドを使用不可にします。</p>
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	<p>適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートが共通デバイス設定に含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。</p>
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、使用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切な Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を選択します。コーリング サーチ スペースは、ダイヤルされた番号のルート指定方法を決定するために検索されるパーティションの集合から構成されます。デバイスのコーリング サーチ スペースと電話番号のコーリング サーチ スペースは併用されます。電話番号の CSS はデバイスの CSS に優先します。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] (P.61-24)」を参照してください。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] (P.61-24)」を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] を選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループ リストを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」を参照してください。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>(注) オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>(注) オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリスト ボックスで、この Cisco Unified IP Phone に適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この Cisco Unified IP Phone が消費する帯域幅を握りません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールまたは回線に関連付けられている AAR グループを使用します。
[ユーザロケール (User Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。 Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。 (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。 (注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを決定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機に関連したロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地域で電話機が使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。 Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。 (注) ネットワーク ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているネットワーク ロケールを使用します。 (注) ユーザが国別のトーンを (電話機で) 再生する必要がある場合は、ネットワーク ロケールを設定する前に、ロケールがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リスト ボックスを使用する ([オン (On)]、[オフ (Off)]、または [デフォルト (Default)] を選択する) ことにより、割り込み機能の組み込み会議ブリッジを使用可能または使用不可にします。 (注) Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 では、2 つのメディア ストリーム暗号化または SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイス セキュリティ モードが [暗号化] に設定されたときは、7940 および 7960 電話機の組み込みブリッジを自動的に使用不可にします。 設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「 割り込みとプライバシー 」を参照してください。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』も参照してください。
[プライバシー (Privacy)]	プライバシーを必要とする各電話機について、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン (On)] を選択します。設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「 割り込みとプライバシー 」を参照してください。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに対してデバイス モビリティ機能のオン/オフを切り替えるか、デフォルトのデバイス モビリティ モードを使用します。デフォルト設定では、このデバイスの Device Mobility Mode サービス パラメータを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)] をクリックすると、次のデバイス モビリティ パラメータの現在の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)] • [ローミング用デバイスプール (Roaming Device Pool)] • [ロケーション (Location)] • [リージョン (Region)] • [ネットワークロケール (Network Locale)] • [AAR グループ (AAR Group)] • [AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] • [デバイスコーリングサーチスペース (Device Calling Search Space)] • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST] <p>設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「デバイス モビリティ」を参照してください。</p>
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
[Video Capabilities][Enabled]/[disabled]	<p>ビデオ機能のオンとオフを切り替えます。</p> <p>(注) このフィールドは、一部の電話機モデルには適用されません。</p>
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、割り当てられている電話機のユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるすべてのコールの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に記録されます。</p> <p>(注) エクステンション モビリティを使用する場合、このフィールドは設定しないでください。エクステンション モビリティは、デバイス オーナーをサポートしません。</p>
[モビリティユーザ ID (Mobility User ID)] (デュアル モードの電話機のみ)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデュアル モード電話機が割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) モビリティ ユーザ ID の設定は、デュアル モード電話機のモバイル コネクトとモバイル ボイス アクセスで使用されます。</p> <p>(注) オーナーのユーザ ID とモバイル ユーザ ID は異なることがあります。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)] 設定を使用すると、Unified Communications Widget の 1 つであり、壁紙や電話機の呼び出し音のカスタマイズを可能にする Phone Designer と、Cisco Unified IP Phone を連携できるようになります。[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : ユーザは、Phone Designer を使用して Cisco Unified IP Phone をカスタマイズできません。 • [有効 (Enabled)] : ユーザは、Phone Designer を使用して電話機をカスタマイズできます。 • [デフォルト (Default)] : [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウおよび [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウの両方で [デフォルト (Default)] を選択した場合、Phone Personalization エンタープライズ パラメータの設定が使用されます。[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで [デフォルト (Default)] を選択したものの、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは [デフォルト (Default)] を選択しなかった場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで指定した設定が使用されます。 <p>電話機ユーザが電話機をカスタマイズできるようにするには、Phone Designer をインストールして設定する必要があります。Phone Designer をインストールして設定する前に、Phone Designer と連携する Cisco Unified IP Phone モデルを識別します (Phone Designer のマニュアルを参照)。Phone Designer の詳細については、次の URL にある Phone Designer のマニュアルを参照してください。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cupa/phone_designer/7.1/english/install/guide/Installation_Guide.html</p>
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機でのサービスのサポート方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [内部 (Internal)] : 電話機の設定ファイルを使用して、サービスをサポートします。 <p>サービス URL がまだ更新されていないシスコ提供のデフォルト サービスには、このオプションまたは [両方 (Both)] を選択します。サービス URL は Application:Cisco/<サービスの名前> という形式で表され、たとえば、Application:Cisco/CorporateDirectory のようになります。</p> <p>シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は、設定ファイルでプロビジョニングされるため、[内部 (Internal)] または [両方 (Both)] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [外部 URL (External URL)] : [外部 URL (External URL)] を選択すると、電話機は電話機の設定ファイルのサービスを無視し、サービス URL からサービスを取得します。 <p>シスコ提供のデフォルト サービスを含め、サービスのサービス URL に独自の値を設定した場合は、[外部 URL (External URL)] または [両方 (Both)] を選択する必要があります。[内部 (Internal)] を選択すると、その設定した URL に関連付けられているサービスが電話機で機能しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [両方 (Both)] : [両方 (Both)] を選択すると、電話機は設定ファイルに定義されているサービスと、サービス URL から取得される外部アプリケーションの両方をサポートします。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プライマリ Phone(Primary Phone)]	IP Communicator または Cisco Unified Personal Communicator などのアプリケーションに関連付ける物理的な電話機を選択します。プライマリ Phone を選択した場合、アプリケーションが使用するデバイス ライセンス ユニットの数は少なくなり、(プライマリ Phone に対する)「付加」ライセンスと見なされます。『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ライセンス」を参照してください。
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。 このチェックボックスでは、Cisco Unified Communications Manager がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、その H.245 ターミナル機能セットを送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified Communications Manager が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	Cisco Unified IP Phone のカスタム ソフトウェアを入力します。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。詳細については、「デバイス デフォルトの設定」(P.95-1) を参照してください。 Cisco Unified IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、電話機モデルおよび Unified CM リリースに固有の『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
[ワンボタン割込み (Single Button Barge)]	ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに対してワンボタン割込み /C 割込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータ設定を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : この設定は、ワンボタン割込み /C 割込み機能を無効にします。ただし、標準の割込み機能または C 割込み機能は引き続き動作します。 [割込み (Barge)] : この設定は、ワンボタン割込み機能を有効にします。 [C 割込 (CBarge)] : この設定は、ワンボタン C 割込み機能を有効にします。 [デフォルト (Default)] : サービス パラメータにあるワンボタン割込み /C 割込みの設定を使用します。 設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割込みとプライバシー」を参照してください。
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに対して回線をまたいで参加機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータ設定を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : この設定は、回線をまたいで参加機能を無効にします。 [オン (On)] : この設定は、回線をまたいで参加機能を有効にします。 [デフォルト (Default)] : この設定は、サービス パラメータにある、[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] の設定を使用します。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVP Agent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されません。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVP Agent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVP Agent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>この設定は、Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) DN に現在コールが存在しない場合に、BLF オーディオ アラート設定を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : オーディオ アラートを鳴らします。 • [オフ (Off)] : オーディオ アラートを鳴らしません。 • [デフォルト (Default)] : [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの設定によって、アラート オプションが決定します。
[BLF オーディオアラート設定 (BLF Audible Alert Setting、電話がビジーのとき)]	<p>この設定は、BLF DN に少なくとも 1 つのアクティブなコールが存在しても、コール ピックアップ アラートが存在しない場合に、BLF オーディオ アラート設定を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : オーディオ アラートを鳴らします。 • [オフ (Off)] : オーディオ アラートを鳴らしません。 • [デフォルト (Default)] : [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの設定によって、アラート オプションが決定します。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話機のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話機のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。 [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line サービス パラメータの設定を使用します。
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オン (On)] : 電話機がアイドル状態の場合に電話機のメッセージ ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブな回線になります。 [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は、ボイス メッセージが設定されている最初の回線を常に選択します。ボイス メッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話機のユーザがメッセージ ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されません。 [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line for Voice Message サービス パラメータの設定を使用します。
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] 設定ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]) にすでに設定されている機能管理ポリシーを選択できます。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで選択した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信すると、そのコールはオーディオ コールとして接続しようとします。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) およびルート/ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コールごとにコール表示制限を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は内部コールが受信するすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定は、トランスレーション パターンレベルで発呼者回線 ID の表示と接続先回線 ID の表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。</p> <p>発呼者回線 ID の表示と接続先回線 ID の表示のパラメータの詳細については、「トランスレーション パターンの設定値」(P.57-1) の表 57-1 を参照してください。</p> <p>コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI からこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられた電話番号がシェア ドラインを指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンにする必要があります。</p>
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、デフォルトですべての電話機に対してオンになり、電話機が現在ハント リスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機がハント リストに追加されたときに、管理者はこのチェックボックスをオン (オフ) にすることにより、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザは電話機のソフトキーを使用して、その電話機をハント リストにログインさせ、またはハント リストからログアウトさせます。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>リモート サイトへの SCCP パイプで接続時間が遅延している場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、登録時に電話デバイスにバッファを割り当て、電話機に SCCP メッセージを組み込むことを Cisco Unified Communications Manager に指示できます。</p> <p>ヒント この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機にシグナリングの遅延が生じている場合にだけ、このチェックボックスをオンにしてください。このオプションは、ほとんどのユーザには必要ありません。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ステーション バッファがいっぱいになったとき、メディア関連メッセージの受信直後、または Bundle Outbound SCCP Messages Timer が時間切れになったときに、組み込まれたメッセージを送信します。</p> <p>Bundle Outbound SCCP Messages Timer に対してデフォルト設定 (100 ミリ秒) 以外の設定を指定するには、Cisco CallManager サービスの [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで新しい値を設定します。100 ミリ秒が推奨設定ですが、15 ~ 500 ミリ秒を入力することができます。</p> <p>このオプションを使用するには、電話機が SCCP バージョン 9 をサポートしている必要があります。電話機 Cisco Unified IP Phone 7935/7936 は、SCCP メッセージ最適化をサポートしていません。この機能を使用するには、更新後に電話機のリセットが必要になる場合があります。「電話機の同期化」(P.92-39) を参照してください。</p>
[保護されたデバイス (Protected Device)]	<p>電話機を「保護」として指定するには、このチェックボックスをオンにします。この指定では、コールが暗号化されている場合、および保護されたデバイスとして両方の電話機が設定されている場合、ユーザに通知するための 2 秒間のトーンを再生できます。このトーンは、コールが応答されたときに両方の電話機で再生されます。このトーンが再生されるのは、両方の電話機が「保護」になっていて、暗号化メディアを介してコールが発信された場合だけです。</p> <p>このチェックボックスをオンにすることは、セキュア トーンを再生するための複数の設定要件のうちの 1 つにすぎません。セキュア トーン機能および設定要件の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットライン デバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットライン デバイスは、他のホットライン デバイスにだけ接続できます。この機能は、オフックになると自動的に 1 つの電話番号をダイヤルするように電話機を設定する PLAR の拡張機能です。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限事項が追加されます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーのないソフトキー テンプレートを作成して、ホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : Cisco Unified Communications Manager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。 <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide</i>』を参照してください。</p>
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>このチェックボックスの説明に従い、このフラグをオンにする場合は、ネットワークに IPSec を設定して、エンドツーエンドのセキュリティを確保する必要があります。この設定を行わないと、鍵やその他の情報が暴露されます。</p> <p>SRTP 暗号化の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンド ユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての電話機に適用する必要があります。『<i>Installing Cisco Unified Communications Manager</i>』をインストールすると、あらかじめ定義されたノンセキュアなセキュリティ プロファイルのセットが自動登録用に提供されます。電話機のセキュリティ機能を使用可能にするには、デバイス タイプとプロトコルに対応した新しいセキュリティ プロファイルを設定して電話機に適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム (System)] > [セキュリティ プロファイル (Security Profile)] > [電話セキュリティプロファイル (Phone Security Profile)] の順に選択します。</p> <p>(注) プロファイルに含まれている Certificate Authority Proxy Function (CAPF) 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される CAPF 設定値に関連しています。Manufacturer-Installed Certificate (MIC; 製造元でインストールされる証明書) または Locally Significant Certificate (LSC; ローカルで有効な証明書) が関与する証明書操作の CAPF 設定値を設定する必要があります。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで更新した CAPF 設定値がセキュリティ プロファイルの CAPF 設定値に与える影響の詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>
[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアルルールを選択します。SIP ダイアルルールにより、Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、および 7960 ではローカルのダイヤル プランを使用できます。そのため、ユーザは、コール処理の前にキーを押す必要も、タイマーを待つ必要もありません。</p> <p>SIP を実行している IP Phone にダイヤルルールを適用しない場合は、[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] フィールドの設定を [<なし (None)>] のままにします。この設定は、コール処理の前にユーザが [ダイヤル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるまで待つ必要があることを意味します。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要となる場合に使用するコーデックを選択します。</p>
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>参照先へのルートを検索するときは、Referrer の再ルーティング コーリング サーチ スペースが使用されます。再ルーティング コーリング サーチ スペースが原因で Refer が失敗した場合、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを使用して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能でも、リダイレクト先または転送先を検索するときに、再ルーティング コーリング サーチ スペースが使用されます。</p>
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、out-of-dialog Refer コーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、out-of-dialog (OOD) Refer Authorization コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して、SIP out-of-dialog Refer を許可します。管理者は、Referrer の OOD CSS を設定することで、out-of-dialog Refer の使用を制限できます。Refer Primitive は、「403 Forbidden」メッセージを使用して OOD Refer 要求を拒否します。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、電話機からのプレゼンス要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。この設定を使用すると、電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機のプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンド ユーザ用の別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、デフォルトで [なし (None)] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースの設定方法については、「コーリング サーチ スペースの設定」(P.54-1) を参照してください。</p>
[アウトバウンドコールロール オーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>Cisco Unified IP Phone 7931 ではこの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ロールオーバーなし (No Rollover)] : このモードでは会議および転送は機能しません。ユーザがいずれかの機能を使おうとした場合、電話機のステータスには [エラー : 制限を超えました] と表示されます。この設定は、CTI アプリケーションをサポートする必要がある場合にだけ選択してください。 • [同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN)] : 会議およびコールの転送は、(異なる回線上で) 同じ電話番号を使用して実行されます。たとえば、回線 6 および 7 に電話番号 1506 が割り当てられた電話機があるとします。回線 6 にアクティブなコールがあり、ユーザはコールを転送することにしました。ユーザが転送ボタンを押したときに、回線 6 のコールは保留になり、転送を実行するために回線 7 で新しいコールが開始されます。 • [任意の回線へのロールオーバー (Rollover to any line)] : 会議およびコールの転送は、元のコールとは異なる電話番号および回線を使用して実行されます。たとえば、電話番号 1507 が回線 8 に割り当てられ、電話番号 1508 が回線 9 に割り当てられた電話機があるとします。回線 8 にアクティブなコールがあり、ユーザはコールを転送することにしました。ユーザが転送ボタンを押したときに、回線 8 のコールは保留になり、転送を実行するために回線 9 で新しいコールが開始されます。
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルト SIP プロファイルまたは以前作成された特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルには、登録タイマーとキープアライブ タイマー、メディア ポート、および Do Not Disturb (DND; サイレント) コントロールなど、電話機に関する特定の SIP 情報が含まれています。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用される設定のために、電話機に関連付けるエンド ユーザを選択します。</p> <p>選択したユーザのダイジェスト信用証明書を設定したことを確認します ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを参照)。</p> <p>電話機の設定を保存し、更新した設定を電話機に適用すると (「電話機の同期化」 (P.92-39) を参照)、ユーザのダイジェスト信用証明書が電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	<p>このフィールドでは、H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) を実装するために、メディアターミネーションポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能を実装するために MTP を使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能を実装するときに MTP を使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスだけに使用してください。または、メディアストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	<p>SIP および SCCP を実行している電話機の場合、この電話機に DTMF 受信が必要なときは、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) SIP トランク (クラスタ間トランクの ICT またはゲートウェイのいずれか) を介して IP 電話機のリモート接続先としてクラスタ間 DN を使用して Cisco Unified Mobility 機能を設定する場合、このチェックボックスをオンにして DTMF 番号がアウトオブバンドで受信されることができるようになります。これは、エンタープライズ機能アクセスのミッドコール機能にとって非常に重要です。</p>
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP を実行している電話機の場合、RFC2833 サポートを使用不可にするときは、このチェックボックスをオンにします。
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)]	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : 認証操作が行われない時間を表示します (デフォルト設定)。 [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を新規にインストールまたは更新します。 [削除 (Delete)] : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を削除します。 [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : ローカルで有効な証明書 (LSC) または製造元でインストールされる証明書 (MIC) を元に戻して、CAPF トレース ファイルの認証証明書を表示できるようにします。いずれの証明書タイプも電話機に存在する場合、Cisco Unified Communications Manager は各証明書タイプに 1 つずつ、合計 2 つのトレース ファイルを作成します。 <p>[トラブルシューティング (Troubleshoot)] オプションを選択すると、電話機に存在する LSC または MIC を確認できます。</p> <p>CAPF 処理の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	<p>このフィールドでは、CAPF 証明書の処理中に電話機が使用する認証方法を選択できます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [認証ストリング (By Authentication String)] : ユーザが電話機で CAPF 認証文字列を入力した場合に限り、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。 • [Null ストリング (By Null String)] : ユーザの操作なしで、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。 このオプションは、セキュリティを提供しません。このオプションは、閉じた安全な環境だけで選択することを強くお勧めします。 • [既存の証明書 (LSC の優先)(By Existing Certificate (precedence to LSC))] : 製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が電話機内に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。LSC が電話機内に存在する場合は、MIC が電話機内に存在するかどうかにかかわらず、LSC を通じて認証が実行されます。MIC および LSC が電話機内に存在する場合、認証は LSC を通じて実行されます。LSC が電話機内に存在せず、MIC が存在する場合、認証は MIC を通じて実行されます。 このオプションを選択する前に、電話機内に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択し、電話機内に証明書が存在しない場合、処理は失敗します。 MIC と LSC が電話機内に同時に存在する場合でも、電話機は常に 1 つの証明書だけを使用して CAPF に対して認証します。何らかの原因により優先されるプライマリ証明書の信頼性が低下した場合、または他の証明書を通じて認証する場合は、認証モードを更新する必要があります。 • [既存の証明書 (MIC の優先)(By Existing Certificate (precedence to MIC))] : MIC または LSC が電話機内に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングします。MIC が電話機内に存在する場合は、LSC が電話機内に存在するかどうかにかかわらず、LSC を通じて認証が実行されます。LSC が電話機内に存在し、MIC が存在しない場合、認証は LSC を通じて実行されます。 このオプションを選択する前に、電話機内に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択し、電話機内に証明書が存在しない場合、処理は失敗します。 <p>(注) [電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと相互に関係があります。</p>
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>[認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リスト ボックスで [認証ストリング (By Authentication String)] オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力、または [文字列を生成 (Generate String)] ボタンをクリックすると文字列が生成されます。文字列が 4 ~ 10 桁であることを確認してください。</p> <p>ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[キーサイズ(Key Size、ビット)]	CAPF で使用されるこの設定では、ドロップダウン リスト ボックスから認証のキー サイズを選択します。デフォルト設定は 1024 です。その他のオプションには 512 と 2048 があります。 デフォルトの設定よりも大きいキー サイズを選択した場合、キーの生成に必要なエントロピーを生成するために長い時間がかかります。キー生成の優先順位を低く設定すると、処理中に電話機を動作させることができます。電話機のモデルによっては、キー生成が完了するまでに 30 分以上かかることがあります。 (注) [電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定される CAPF パラメータと相互に関係があります。
[操作の完了 (Operation Completes By)]	このフィールドは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、および [トラブルシューティング (Troubleshoot)] オプションをサポートし、操作を完了させる日付および時刻を指定します。 表示される値はパブリッシュ データベース サーバ用です。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドは、認証操作の進行状況を表示します。たとえば、「<操作タイプ pending>」、「failed」、または「successful」です。ここで、操作タイプは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、または [トラブルシューティング (Troubleshoot)] オプションを表します。このフィールドに表示される情報は変更できません。
[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]	
(次のフィールドは、電話機で拡張モジュールがサポートされているときにだけ表示されます)。	
[モジュール 1 (Module 1)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[モジュール 2 (Module 2)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[モジュール 3 (Module 3)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 3 ロード名 (Module 3 Load Name)]	適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合は空白)]	
[情報 (Information)]	[i] (情報) ボタンのヘルプテキストのロケーション (URL) を入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。
[ディレクトリ (Directory)]	電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバを入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。
[メッセージ (Messages)]	このフィールドは空白のままにします (Cisco Unified Communications Manager では使用されません)。
[サービス (Services)]	IP Phone サービスのロケーション (URL) を入力します。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone 上の拡張機能は動作しません。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから、ローカル以外のホスト アドレスにアクセスする HTTP 要求を代理処理するのに使用されるホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>プロキシ サーバ パラメータを使用する場合を示す規則としては、次の 2 つがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホスト名に「.」が含まれている。 2. ホスト名が何らかの形式の IP アドレスである。 <p>この URL を設定しない場合、電話機は URL に直接接続を試みます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間の間、Cisco Unified IP Phone が使用されなかった場合に、その電話機のディスプレイに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	<p>アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力します。この時間が経過すると、[アイドル (Idle)] フィールドで指定された URL が表示されます。</p> <p>Idle URL Timer エンタープライズ パラメータの値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) [セキュア認証 URL (Secure Authentication URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ディレクトリ ボタンを押したときに、セキュリティで保護された Cisco Unified IP Phone が使用する URL を指定します。</p> <p>(注) [セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[セキュアアイドル URL(Secure Idle URL)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドの指定に従って電話機がアイドル状態になったときに、Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>(注) [セキュアアイドル URL(Secure Idle URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュア情報 URL(Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプ テキスト情報を検索できるサーバの場所を示すセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが情報 ([i]) ボタンまたは疑問符 ([?]) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) [セキュア情報 URL(Secure Information URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアメッセージ URL(Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザがメッセージ ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL に接続されます。</p> <p>(注) [セキュアメッセージ URL(Secure Messages URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアサービス URL(Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。これは、ユーザがサービス ボタンを押すと、セキュリティで保護された Cisco Unified IP Phone が接続される場所です。</p> <p>(注) [セキュアサービス URL(Secure Services URL)] の値を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	<p>この電話機でエクステンション モビリティをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	このドロップダウン リスト ボックスは、Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしているユーザがない場合に、デバイスが使用するデバイス プロファイルを指定します。[現在のデバイス設定を使用(Use Current Device Settings)] またはリストされる特定の設定プロファイルのいずれかを選択できます。 特定の設定プロファイルを選択した場合、デバイスとログイン プロファイルとの間のマッピングは、ユーザのログアウト後も保持されます。[現在のデバイス設定を使用(Use Current Device Settings)] を選択した場合、マッピングは保持されません。
[ログイン時刻 (Log in Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまで空白のままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザのログイン時刻がこのフィールドに表示されます。
[ログアウト時刻 (Log out Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまで空白のままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、システムがユーザをログアウトする予定時刻がこのフィールドに表示されます。
[設定ファイル暗号化対称キー情報(Configuration File Encryption Symmetric Key Information)]	
[対称キー (Symmetric Key)]	対称キーに使用する 16 進文字の文字列を入力します。有効な文字には、数字の 0 ~ 9、および大文字/小文字の A ~ F (または a ~ f) があります。 鍵サイズに適したビットを入力したことを確認します。ビットが不適切な場合、Cisco Unified Communications Manager は値を拒否します。Cisco Unified Communications Manager は、次の鍵サイズをサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified IP Phone 7905 および 7912 (SIP のみ) : 256 ビット • Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 (SIP のみ) : 128 ビット この文字列が使用されるのは 1 回だけです。設定値を更新するたびに、新しい鍵を生成してから電話機をリセットする必要があります (「電話機の同期化」(P.92-39) を参照)。 暗号化された設定ファイルのダウンロードに関する対称キーの操作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[文字列を生成 (Generate String)]	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで 16 進文字を生成させる場合は、[文字列を生成 (Generate String)] ボタンをクリックします。
[データベース値を復元 (Revert to Database Value)]	データベースに存在する値を復元する場合は、このボタンをクリックします。このボタンは、[対称キー (Symmetric Key)] フィールドに不適切な値を入力してから設定を保存した場合に役立ちます。
[H.323 情報(H.323 Information)]	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	H.323 クライアントへの発信コールの発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>H.323 クライアントへの発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>[デフォルト (Default)] では、発信者 ID を送信しないことが指定されます。</p>
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。</p>
[番号 IE 配信アウトバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。</p>
[番号 IE 配信インバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	このフィールドには、H.323 クライアントを制御するゲートキーパーの名前を指定します。H.323 クライアントにより設定にゲートキーパーが指定される前に、ゲートキーパーが Cisco Unified Communications Manager で設定されていることを確認してください。デフォルトは空白です。
[E.164]	常に固有の E.164 番号を使用します。ヌル値は使用しないでください。
[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]	このフィールドには、ゾーンでエンドポイントの機能を表す # 記号で終わる番号を指定します。[ゾーン (Zone)] 経由の設定を使用できる場合、このフィールドは影響力を持ちません。デフォルト値は 1#* です。ヌル値は使用しないでください。
[ゾーン (Zone)]	このフィールドには、ゲートキーパーが管理するゾーンのゾーン名を指定します。H.323 クライアントおよびトランクに同じゾーン名を使用しないでください。また、ヌル値は使用しないでください。
[関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)]	
(モビリティ ID)	このデバイスにモビリティ ID がすでに設定されている場合、この領域にはモビリティ ID の名前および接続先番号が表示されます。どちらかの値をクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウにモビリティ ID 情報を表示できます。 (注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。
[新規モビリティ ID の追加 (Add New Mobility Identity)]	このデバイスにまだモビリティ ID が設定されていない場合、このリンクをクリックしてモビリティ ID を追加します。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイスに関連付ける新しいモビリティ ID を追加することができます。 (注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。
[関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)]	
(リモート接続先)	このデバイスにリモート接続先がすでに設定されている場合、この領域にはリモート接続先の名前および接続先番号が表示されます。値をクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウに [リモート接続先情報 (Remote Destination Information)] を表示することができます。 (注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。
[新規リモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)]	このリンクをクリックして、このデバイスに関連付けるリモート接続先を追加します。[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイスに関連付ける新しいリモート接続先を追加することができます。 (注) このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Mobile Communicator デバイスが追加された後だけです。
[MLPP 情報 (MLPP Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインのドロップダウンリスト ボックスから MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p>(注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[サイレント (Do Not Disturb)] (DND)	
[サイレント (Do Not Disturb)]	電話機で Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にした場合、このパラメータでは、DND 機能が着信コールをどのように処理するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定したかに応じて、電話機はビープ音を再生したり、コールのフラッシュ通知を表示したりします。 [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションは、呼出音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。 [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND オプション (DND Option)] の設定値をデバイスに使用するように指定します。 <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話機の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけです。モバイルデバイスとデュアルモード電話機の場合、選択できるのは [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけです。モバイルデバイスまたはデュアルモード電話機に対して DND の [コール拒否 (Call Reject)] を有効にすると、コール情報はデバイスに表示されなくなります。</p>
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話機でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定値をデバイスに使用するように指定します。 [無効 (Disabled)] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートは表示されず、情報はデバイスに送信されません。 [ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のビープ音だけが再生されます。 [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のフラッシュアラートだけが表示されます。
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	<p>セキュアシェルユーザのユーザ ID を入力します。最大 50 文字の英数字または特殊文字を入力できます。無効な文字には、%、&、<、>、¥ などがあります。このフィールドは、設定している電話機が SSH アクセスをサポートしている場合にのみ表示されます。</p> <p>Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュアシェルを使用します。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話機に SSH クレデンシャルを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	<p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。最大 200 文字の英数字または特殊文字を入力できます。無効な文字には ", %、&、<、>、¥ などがあります。詳細については、TAC に問い合せてください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話機に SSH パスワードを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[割り当て情報 (Association Information)]	
[ボタン項目を変更 (Modify Button Items)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機に対するボタンの関連付けを管理するには、このボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示され、電話機に対する未保存の変更はすべて失われる可能性があることが警告されます。電話機に対する変更をすべて保存した場合は、[OK] をクリックして続行します。この電話機用の [電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」(P.92-46) を参照してください。</p>
[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p>
[回線 [2] - 新規 DN を追加 (Line [2] - Add a new DN)]	<p>この電話機に関連付ける電話番号 (複数可) を追加するには、これらのリンクをクリックします。いずれかのリンクをクリックすると、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、「電話番号の設定」(P.61-26) を参照してください。</p>
[新規 SD を追加 (Add a new SD)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機の短縮ダイヤル設定を追加するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」(P.92-41) を参照してください。</p>
[新規 SURL を追加 (Add a new SURL)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のサービス URL ボタンを設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、「サービス URL ボタンの設定」(P.92-44) を参照してください。</p>
[新規 BLF SD を追加 (Add a new BLF SD)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のビジー ランプ フィールド/短縮ダイヤル設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの設定 (Busy Lamp Field Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細については、「BLF/短縮ダイヤルの設定値」(P.92-31) を参照してください。</p>

表 92-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[新規 BLF ダイレクトコールパークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のビジー ランプ フィールド/ダイレクト コール パーク設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ビジーランプ フィールドダイレクトコールパークの設定 (Busy Lamp Field Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>BLF/ダイレクト コール パークの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクト コールパーク」の章を参照してください。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p> <p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域で更新する設定値の [共通設定の上書き (Override Common Settings)] ボックスをオンにします。このボックスをオフにした場合、対応するパラメータ設定は有効になりません。[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域で設定したパラメータは、各種デバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウおよび [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示される場合があります。これらの同じパラメータをこれらの他のウィンドウにも設定した場合、優先される設定は、1) [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定の順に決定されます。</p>

電話の移行の設定

既存の電話の設定の移行については、「既存の電話機の設定の別の電話機への移行」(P.92-36) を参照してください。

短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

表 92-2 では、短縮ダイヤル ボタンの設定値について説明します。[短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウには、2つのセクションがあります。電話機の短縮ダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない固定短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 92-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個の短縮ダイヤルおよび固定短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

短縮ダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

固定短縮ダイヤルの設定

固定短縮ダイヤルでアクセスするための短縮ダイヤル番号の設定を行います。最大 99 個の短縮ダイヤルを設定した場合、一部の短縮ダイヤル エントリを IP 電話機の短縮ダイヤル ボタンに割り当てることができます。残りの短縮ダイヤル エントリは、固定短縮ダイヤルに使用されます。ユーザが番号をダイヤルすると、電話機に [短縮] ソフトキーが表示されます。固定短縮ダイヤルに該当するインデックス (コード) を入力すると、任意の短縮ダイヤル エントリにアクセスできます。



(注)

一部の Cisco Unified IP Phone は固定短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザ ガイドを参照してください。

表 92-2 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

フィールド	説明
(左のカラムにある 1 ~ 99 の番号)	このカラムには、電話機または Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール上の短縮ダイヤル ボタン (たとえば、1、2、3、4 など) を指定するか、あるいは、固定短縮ダイヤルに使用する固定短縮ダイヤル インデックスを指定します。
[番号 (Number)]	ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号を入力します。0 ~ 9 の数字、*、#、および + (国際的なエスケープ文字) を入力することができます。
[ラベル (Label)]	短縮ダイヤル ボタンまたは固定短縮ダイヤル番号に対して表示されるテキストを入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified IP Phone 7910 に対してこのフィールドを使用不可にします。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII ラベル (ASCII Label)]	このフィールドには、[ラベル (Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドの内容が表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.92-51) を参照してください。

BLF/短縮ダイヤルの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプレゼンスを設定すると、ウォッチャーと呼ばれる関係者が、ウォッチャーのデバイスの BLF/短縮ダイヤル ボタンを使用して、電話番号または SIP URI のリアルタイム ステータスを監視できるようになります。

SIP を実行しているプレゼンス対応の電話機では、電話番号または SIP URI を BLF/短縮ダイヤル ボタンとして設定できます。SCCP を実行しているプレゼンス対応の電話機では、電話番号だけを BLF/短縮ダイヤル ボタンとして設定できます。

BLF/短縮ダイヤル ボタンの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[プレゼンス](#)」の章を参照してください。

BLF/ダイレクトコールパークの設定値

ダイレクトコールパークを使用すると、ユーザが選択した利用可能なダイレクトコールパーク番号に、パークされているコールを転送できます。ダイレクトコールパーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定したダイレクトコールパーク番号は、クラスタ全体で使用可能です。ダイレクトコールパークの Busy Lamp Field (BLF; ビジーランプフィールド) をサポートする電話機は、指定したダイレクトコールパーク番号が、ビジーステータスかアイドルステータスかを監視するように設定できます。また、BLFを使用すると、ダイレクトコールパーク番号を短縮ダイヤルできます。

BLF/ダイレクトコールパークの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[コールパークとダイレクトコールパーク](#)」の章を参照してください。

電話機の検索

ネットワーク内には多数の Cisco Unified IP Phone が存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して電話機を検索することができます。Cisco Unified IP Phone データベース内で特定の Cisco Unified Communications Manager を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco VG248 および VG224 Analog Phone Gateway は、電話機の検索時に表示されません。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから Cisco VG248 および VG224 Analog Phone ポートを検索できます。Cisco VG248 および VG224 Gateway の設定情報については、「[ゲートウェイの設定](#)」(P.91-1) を参照してください。



ヒント

検索の制限方法については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「[電話機の検索](#)」を参照してください。ユーザが現在ログイン中のデバイスを検索する方法については、「[現在ログイン中のデバイスの検索](#)」(P.92-48) を参照してください。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで電話機を設定すると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで電話機の IP アドレスを確認できます。IPv4 アドレスだけ、または IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方が設定されている電話機の場合、ウィンドウには IPv4 アドレスが表示されます。IPv6 アドレスだけが設定されている電話機の場合、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [IP アドレス (IP Address)] 列には IP アドレスが 0.0.0.0 と表示されます。電話機の IPv6 アドレスを確認するには、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの [デバイス名 (Device Name)] リンクをクリックします。これにより、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。[IPv6 のみ (IPv6 Only)] デバイスの場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは IPv6 アドレスの上方に [IP アドレス (IP Address)] の値として IPv4 アドレスが 0.0.0.0 と表示されます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.92-51) を参照してください。

Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加するには、自動登録を使用して自動的に行うか、または [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して手作業で行います。

自動登録を使用可能にすると、IP テレフォニー ネットワークに電話を接続するときに、その Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager データベースに自動的に追加できます。自動登録時に、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用しない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てている場合です。



(注)

自動登録は、小規模の設定や試験運用に限定して使用することをお勧めします。

クラスタ全体のセキュリティ モードを混合モードに設定すると、Cisco Unified Communications Manager が自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手作業で Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加する必要があります。

Cisco Unified IP Phone を Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加すると、RIS Data Collector サービスによって、デバイス名、登録状況、およびその電話機が登録された Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスが [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示されます。

Cisco Unified IP Phone を使用する前に、次の手順に従って、その電話機を Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。また、この手順に従って、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機、H.323 クライアント、CTI ポート、Cisco ATA 186 電話アダプタ、または Cisco IP Communicator を設定することもできます。H.323 クライアントの代わりに、Microsoft NetMeeting クライアントも使用できます。CTI ポートは、Cisco Unified Communications Manager アプリケーション、たとえば、Cisco SoftPhone や Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant が使用する仮想デバイスを示します。

新しい電話機を追加する場合、一括管理ツール がテンプレートに基づいて電話設定の一部を自動的に設定するために作成した電話テンプレートを選択できます。

電話テンプレートを選択するには、サーバに電話テンプレートが存在する必要があります。一括管理ツールの電話テンプレートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。



(注)

Cisco VG248 および VG224 電話ポートは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから追加します。設定については、「[ゲートウェイの設定 \(P.91-1\)](#)」を参照してください。



ヒント

特定の電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは、その電話機が使用する IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスが表示されます (該当する場合)。IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスの両方が設定されているデュアルスタック モードの電話機では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、電話機の Web サーバの IPv4 URL をポイントする IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをクリックできます。IPv6 アドレスだけを使用する電話では、電話機の Web サーバが IPv4 だけをサポートするので、IPv6 アドレスをクリックできません。



ワンポイントアドバイス

電話ボタンおよびソフトキーの非標準テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートを設定した後に電話機を追加する必要があります。設定については、「電話ボタンテンプレートの設定」(P.99-4) および「非標準ソフトキーテンプレートの作成」(P.100-3) を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。



(注) MAC アドレスの入手については、「電話機の MAC アドレスの表示」(P.92-50) を参照してください。

- 既存の電話機をコピーするには、該当する電話機を見つけます（「電話機の検索」(P.92-32) を参照）。次に、コピーする電話機の横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 5」に進みます。
- 既存の電話機をコピーし、電話機に関連付けられた電話番号、短縮ダイヤル、ビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤル、およびサービス URL をコピーするには、該当する電話機を見つけます（「電話機の検索」(P.92-32) を参照）。次に、コピーする電話機の横にある [スーパーコピー (Super Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 5」に進みます。



(注) コピーされた回線は、元の電話機と新しい電話機との間のシェアードラインになります。

- 新しい電話機を追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 既存の電話機を更新するには、該当する電話機を見つけます（「電話機の検索」(P.92-32) を参照）。次に、「ステップ 5」に進みます。

ステップ 3 電話機モデルを選択するときに、次のいずれかの作業を行います。

- [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切な電話機タイプまたはデバイスを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。電話機タイプの選択後はそのタイプを変更できません。
- [電話テンプレート (Phone Template)] オプション ボタンを選択し、ドロップダウン リスト ボックスから適切な電話テンプレートを選択し、[次へ (Next)] をクリックします（一括管理ツールで作成した電話テンプレートだけがドロップダウン リスト ボックスに表示されます）。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、デバイスの適切なプロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。表示されない場合は、「ステップ 5」に進んでください。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切な設定値を入力します（表 92-1 を参照）。

選択された電話機タイプに該当する設定値だけが、ウィンドウに表示されます。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

電話機を追加する場合は、電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。この電話機に電話番号を追加するには、ウィンドウの左側に表示される [割り当て情報 (Association Information)] ペインで、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] など、回線リンクのいずれかをクリックします。「電話番号の設定値」(P.61-1) に進みます。

電話機を更新する場合は、変更内容を有効にするには [設定の適用 (Apply Config)] ボタンをクリックする必要があります。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「電話機の同期化」(P.92-39) を参照してください。

次の作業

この電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定するには、「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」(P.92-41) を参照してください。この電話機にサービスを設定するには、「IP Phone サービスの設定」(P.92-42) を参照してください。この電話機にサービス URL ボタンを設定するには、「IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」(P.101-14) を参照してください。この電話機のビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤルの設定値を設定するには、「BLF/短縮ダイヤルの設定値」(P.92-31) を参照してください。

追加情報

H.323 クライアント、CTI ポート、および他のデバイスと共に、電話機を Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定する方法については、「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

既存の電話機の設定の別の電話機への移行

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の移行 (Phone Migration)] ウィンドウでは、機能、ユーザ、および回線の設定を別の電話機に移行できます。データは、別の電話機モデルまたは別のプロトコルを実行する同じ電話機モデルに移行できます。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7965 のデータを Cisco Unified IP Phone 7975 に移行できます。または、たとえば Cisco Unified IP Phone 7965 (SCCP) など SCCP を実行する電話機モデルのデータを、たとえば Cisco Unified IP Phone 7965 (SIP) など SIP を実行する同じ電話機モデルに移行できます。

**ヒント**

電話機の移行を行うと、既存の電話機の設定を新しい電話機に移植できます。電話、回線、短縮ダイヤルなどを追加する必要はありません。

既存の電話機の設定を移行する前に、次のトピックを参照してください。

- 「始める前に」(P.92-36) : 設定を移行する前に確認する情報
- 「手順」(P.92-37) : 設定を移行するために実行する手順
- 表 92-3 : [電話の移行 (Phone Migration)] ウィンドウに表示される設定値

始める前に

電話機の設定を新しい電話機に移行する前に、次の点を考慮してください。

- 電話機モデルが同じ機能をサポートしていない場合、移行後に新しい電話機で機能が使用できないことに注意してください。[電話の移行 (Phone Migration)] ウィンドウで移行設定を保存する前に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに、機能を使用できなくなることを警告するメッセージが表示されます。

- 一部の電話機モデルは、CTI ポート、H.323 クライアント、Cisco Unified Mobile Communicator、Cisco IP SoftPhone などの電話機の移行をサポートしていません。
- 電話機の設定を移行する前に、BAT で移行先の電話機モデルおよびプロトコルの電話テンプレートを作成する必要があります。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7965 の設定を Cisco Unified IP Phone 7975 に移行する場合、Cisco Unified IP Phone 7975 の電話テンプレートを作成します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで元の電話機のフィールドが表示されず、新しい電話機にこのフィールドが必要な場合、新しい電話機は必要なフィールドの電話テンプレートから値を使用します。

- 新しい電話機は、元の電話機と同じ既存のデータベース レコードを使用するので、電話機の設定を新しい電話機に移行すると、Cisco Unified Communications Manager の管理/Cisco Unified Communications Manager データベースから元の電話機の設定が削除されます。つまり、移行後には元の電話機の設定を表示したり、アクセスしたりできなくなります。

使用する短縮ダイヤルまたは回線の少ない電話機に移行しても、Cisco Unified Communications Manager の管理/Cisco Unified Communications Manager データベースから元の電話機の短縮ダイヤルまたは回線は削除されません。ただし、新しい電話機では一部の短縮ダイヤルまたは回線は表示されません。設定を移行すると、新しい電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、元の電話の短縮ダイヤルおよび回線がすべて表示されます。

- 新しい電話機に電話機の設定を移行する前に、電話機がネットワークから外されていることを確認してください。移行作業を実行すると、新しい電話機をネットワークに接続し、デバイスを登録できます。
- 電話機の設定を新しい電話機に移行する前に、新しい電話機に対して十分な数のデバイス ライセンスユニットがあることを確認します。



ヒント

複数の電話機の設定を移行する場合、一括管理ツールを使用します。この作業の実行方法については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT で、データを移行する電話機モデルおよびプロトコルの電話テンプレートを作成したことを確認します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。
- ステップ 2** 移行する電話機の設定を検索します（「[電話機の検索](#)」(P.92-32) を参照）。
- ステップ 3** 移行する電話機の設定の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [電話の移行 (Migrate Phone)] を選択します。
- ステップ 4** 適切な移行の設定値を入力します（表 92-3 を参照）。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 新しい電話機で機能が失われることの警告が表示された場合は、[OK] をクリックします。

表 92-3 電話機の移行の設定値

フィールド	説明
[電話テンプレート (Phone Template)]	ドロップダウンリスト ボックスから、電話機の設定の移行先となる電話機モデルの電話テンプレートを選択します。 [一括管理 (Bulk Administration)] の [電話テンプレート (Phone Template)] ウィンドウで設定した電話テンプレートだけが表示されます ([一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)])。
[MAC アドレス (MAC Address)]	このフィールドは、ハードウェア電話機だけをサポートします。設定の移行先となる新しい Cisco Unified IP Phone のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。 ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
[説明 (Description)]	必要に応じて、新しい電話機の説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 ("), パーセント記号 (%), アンパサンド (&), バックスラッシュ (\), または山カッコ (<>) は使用できません。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

電話機のリセット

電話番号の追加、または設定値の更新を行った後、変更内容を有効にするために、Cisco Unified IP Phone をリセットする必要はありません。Cisco Unified Communications Manager が自動的にリセットを実行します。ただし、次の手順に従えば、いつでも Cisco Unified IP Phone をリセットできます。

**(注)**

できる限り干渉の程度が低い方法を使用して、最新の設定変更で電話機を更新する方法については、「電話機の同期化」(P.92-39) も参照してください。

**(注)**

コールが進行中の場合は、そのコールが終了した後に電話機がリセットされます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** リセットする電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックします。

- ステップ 4** [選択項目のリセット (Reset Selected)] をクリックします。
[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 次のいずれかのボタンをクリックします。
- [リスタート (Restart)] : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動します (Cisco Unified Communications Manager に電話機を再登録します)。
 - [リセット (Reset)] : 選択されたデバイスをシャットダウンした後、再度立ち上げます (電話機の完全なシャットダウンと再初期化を実行します)。
 - [閉じる (Close)] : 選択されたデバイスの再起動やリセットを実行せずに、前のウィンドウに戻ります。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

電話機の同期化

電話機を最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する電話機がウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させる電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

電話機の削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して Cisco Unified IP Phone を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話機を削除する前に、その電話機に関連付けられた電話番号を削除する必要があるかどうかを決定します。電話機を削除する前に電話番号を削除するには、「[電話機からの電話番号の削除](#)」(P.61-29)を参照してください。電話機を削除する前に電話番号を削除しない場合は、電話機が削除された後も、電話番号は Cisco Unified Communications Manager データベースに保持されます。データベースから電話番号を削除するには、「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」(P.64-3)を参照してください。

電話機に割り当てられている電話番号は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で確認できます。または、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択して確認することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。
- 削除する電話機の横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - ウィンドウ内の電話機をすべて削除するには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - 削除する電話機の名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。
- 確認ダイアログが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.92-51)を参照してください。

短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定

ユーザに短縮ダイヤル ボタンを提供する場合、または短縮ダイヤル ボタンが特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定します。ユーザは、[Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] を使用して、電話機の短縮ダイヤル ボタンを変更できます。

表 92-2 では、短縮ダイヤル ボタンと固定短縮ダイヤルの設定値について説明します。[短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウには、2 つのセクションがあります。電話機の短縮ダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない固定短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 92-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個の短縮ダイヤルおよび固定短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

短縮ダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

固定短縮ダイヤルの設定

固定短縮ダイヤルでアクセスするための短縮ダイヤル番号の設定を行います。最大 99 個の短縮ダイヤルを設定した場合、一部の短縮ダイヤル エントリを IP 電話機の短縮ダイヤル ボタンに割り当てることができます。残りの短縮ダイヤル エントリは、固定短縮ダイヤルに使用されます。ユーザが番号をダイヤルすると、電話機に [短縮] ソフトキーが表示されます。固定短縮ダイヤルに該当するインデックス (コード) を入力すると、任意の短縮ダイヤル エントリにアクセスできます。



(注)

一部の Cisco Unified IP Phone は固定短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザ ガイドを参照してください。

手順

ステップ 1 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [短縮ダイヤルの追加/更新 (Add/Update Speed Dials)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

この電話機用の [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを表示するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択してください。検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。短縮ダイヤル ボタンを設定する電話機を選択します。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 92-2 を参照)。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を適用します。

ステップ 4 [閉じる (Close)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

IP Phone サービスの設定

ユーザは、Cisco Unified IP Phone 7970、7960、および 7940 など特定の電話機から天気や株価などのサービスにアクセスできます。管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機で使用可能なサービスをセットアップすることができます。サービスの中には、ユーザが [Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] メニューを使用して変更を加えることができるものもあります。[Cisco Unified CM のユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] については、該当する電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone User Guide』を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスを管理する方法の詳細については、「IP Phone サービスの設定」(P.101-1) を参照してください。

電話サービスへの加入、電話サービスの更新、および電話サービスの加入解除の詳細については、次の項を参照してください。

- 「サービスへの加入」(P.92-42)
- 「サービスの更新」(P.92-43)
- 「サービスの加入解除」(P.92-44)

サービスへの加入

管理者（またはエンドユーザ）は、エンタープライズ登録としてマークが付けられているサービスには登録できません。[エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)] 列が [IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウに表示されます。この列に [はい (true)] と表示されている場合、管理者（またはエンドユーザ）はサービスに登録できません。サービスがエンタープライズ登録としてマークが付けられている場合、そのサービスは電話機に自動的に表示されます。ただし、そのサービスを [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウで無効にしている場合は表示されません。

電話機用の新規サービスに登録する手順は、次のとおりです。

始める前に

必要に応じて、Cisco Unified Communications Manager に IP Phone サービスを追加します。詳細については、「IP Phone サービスの設定」(P.101-10) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** サービスを追加する電話機を選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
この電話機用の、登録済みの IP Phone サービスのウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。

- ステップ 6** [次へ(Next)] をクリックします。
選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、[戻る (Back)] をクリックし、「ステップ 5」を繰り返します。
- ステップ 7** 必須パラメータを持つサービスの場合は、表示されているフィールドにその情報を入力します。
- ステップ 8** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
サービスが [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストに表示されます。
- ステップ 9** 別のサービスに加入する場合は、[登録済みサービス (Subscribed Services)] 領域の [新規サービスを登録 (Subscribe a New Service)] リンクをクリックします。「ステップ 5」～「ステップ 8」を繰り返します。
-

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

サービスの更新

サービスを更新する手順は、次のとおりです。必要に応じて、サービス名とサービスパラメータ値を更新できます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** サービスを更新する電話機を選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 5** [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。
- ステップ 6** 該当するパラメータを更新し、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

サービスの加入解除

サービスの登録を解除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 電話機を特定するための検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
 - ステップ 3** サービスを削除する電話機を選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
 - ステップ 5** [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。
 - ステップ 6** [登録解除 (Unsubscribe)] をクリックします。
サービスの加入を解除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。
 - ステップ 7** 登録を解除するには、[OK] をクリックします。元の設定値に戻すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

サービス URL ボタンの設定

一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、天気や株価などの情報サービスにアクセスできます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、サービスを電話ボタン（短縮ダイヤルボタン）で利用するように設定してから、電話機でそのボタンを設定できます。お使いの電話機のモデルの『Cisco Unified IP Phone User Guide』を参照してください。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでサービスを管理する方法の詳細については、「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.101-1) を参照してください。



ヒント

サービスを設定する場合は、メッセージ、ディレクトリ、サービスのいずれかのボタンの下にそのサービスを表示するかどうかを指定します。お使いの電話機のモデルにメッセージ、ディレクトリ、サービスのいずれかのボタン/オプションがある場合、サービスは短縮ダイヤル用の電話ボタン（サービス URL ボタン）に加えて、これらのどのボタンの下にも表示できます。エンタープライズ登録としてマークが付けられているサービスは、サービス URL ボタンに追加できません。

サービス URL ボタンの追加

電話機にサービス URL ボタンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

始める前に、次の設定を行う必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager にサービスを追加してください。詳細については、「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.101-10) を参照してください。
- 電話ボタン テンプレートにサービス URL ボタンを設定してください。詳細については、「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」(P.99-4) を参照してください。
- サービスに加入してください。「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.92-42) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
 - ステップ 3** サービス URL ボタンを追加する電話機を選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 SURL を追加 (Add a new SURL)] リンクをクリックします。
この電話機用の [サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for):] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5** [ボタンサービス (Button Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスまたは更新するサービスを選択します。
 - ステップ 6** [ラベル (Label)] フィールドと [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドの値を変更します。
 - ステップ 7** 電話ボタンにサービスを追加または更新するには、[保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 8** 使用可能なボタンとサービスがほかにある場合、別のボタンに追加のサービスを割り当てるときは、「[ステップ 5](#)」～「[ステップ 7](#)」を繰り返します。
 - ステップ 9** このウィンドウを閉じて [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに戻るには、[閉じる (Close)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.92-51) を参照してください。

リモート接続先プロファイルへのコピー

モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスで使用される新しいリモート接続先プロファイルに、電話レコードからの情報をコピーできます。リモート接続先プロファイルの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [リモート接続先プロファイルにコピー (Copy to Remote Destination Profile)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- この電話機の [リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility」を参照)。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を適用します。
- ステップ 4** [閉じる (Close)] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
-

追加情報

- 「関連項目」(P.92-51) を参照してください。
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Mobility」

電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更

電話機を設定し、電話機にカスタムで非標準の電話ボタン テンプレートを関連付けた場合、関連付けられた電話ボタン テンプレート内の電話ボタン項目を変更できます。変更する場合は、この特定の電話機用にカスタマイズされた新しい電話ボタン テンプレートを作成します。新しい電話ボタン テンプレートは、電話ボタン テンプレートのリストに「SEP9999999999-Individual Template」という形式の名前で表示されます。ここで、9999999999 には、電話機の MAC アドレスが指定されます。



(注) 電話機に標準の電話ボタン テンプレートが関連付けられている場合、この手順は実行できません。最初に、この電話機にカスタムで非標準の電話テンプレートを関連付ける必要があります。

カスタムで非標準の電話ボタン テンプレートのボタン項目を変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

- ステップ 3** 電話ボタン項目を変更する電話機を選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[ボタン項目を変更 (Modify Button Items)] をクリックします。
ポップアップ ウィンドウが表示され、(電話機に対する) 未保存の変更は失われる可能性があることが警告されます。電話機の設定に変更を加えた場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、変更を保存してから続行します。
- ステップ 5** 続行するには、[OK] をクリックします。
[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、次のペインから構成されています。
- [関連項目 (Associated Items)] : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられている項目のリストが表示されます。システムによって、リスト内の最初の項目がボタン 1 に、2 番目の項目がボタン 2 に、というように順次割り当てられます。
 - [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられていない項目のリストが表示されます。
 - [以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)] : 電話ボタンに現在割り当てることができない項目のリストが表示されます。
- ステップ 6** 関連付けられた項目の順序を変更するには、[関連項目 (Associated Items)] ペインで項目を選択し、上矢印または下矢印をクリックしてその順序を変更します。
- ステップ 7** [関連項目 (Associated Items)] ペインから [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインに、またはその逆に項目を移動するには、一方のペインで項目を選択し、左矢印または右矢印をクリックして他方のペインに項目を移動します。
- ステップ 8** [関連項目 (Associated Items)] または [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインから [以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)] ペインに、またはその逆に項目を移動するには、いずれかのペインで項目を選択し、対象となる 2 つのペイン間にある上矢印または下矢印をクリックします。
- ステップ 9** ペイン間で項目を移動し、すべての項目が目的の順序になったら、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** [閉じる (Close)] をクリックして、[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウを閉じます。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

現在ログイン中のデバイスの検索

Cisco エクステンション モビリティ機能および Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能は、ユーザが現在ログイン中のデバイスを追跡します。Cisco エクステンション モビリティ機能の場合、現在ログイン中のデバイス レポートは、ローカル ユーザが現在ログイン中のローカル電話機をトラッキングします。Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能の場合、現在ログイン中のデバイス レポートは、リモート ユーザが現在ログイン中のローカル電話機をトラッキングします。

Cisco Unified Communications Manager には、ユーザがログインしているデバイスを検索するための特別な検索ウィンドウがあります。ユーザが現在ログイン中の特定のデバイスを検索する手順、またはすべてのデバイスを一覧表示する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[現在ログイン中のデバイスのレポート (Actively Logged In Device Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。[現在ログイン中のデバイスの検索と一覧表示 (Find and List Actively Logged In Devices)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** データベース内の現在ログイン中のデバイスのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 4」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。
- ステップ 5** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

リモートからログインしたデバイスの検索

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能は、ユーザがリモートからログインしているデバイスを追跡します。リモートからログインしたデバイス レポートは、他のクラスタが所有している電話機のうち、EMCC 機能を使用しているローカル ユーザが現在ログイン中の電話機をトラッキングします。

Cisco Unified Communications Manager には、ユーザがリモートからログインしているデバイスを検索するための特別な検索ウィンドウがあります。ユーザがリモートからログインしている特定のデバイスを検索する手順またはすべてのデバイスを一覧表示する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。[リモートログインデバイスの検索と一覧表示 (Find and List Remotely Logged In Devices)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** データベース内のリモートからログインしたデバイスのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 4」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- 一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。

ステップ 5 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

電話機の MAC アドレスの表示

メディアアクセス制御 (MAC) アドレスは、Cisco Unified IP Phone またはその他のハードウェア デバイスを識別する固有の 12 桁の 16 進数から構成されています。電話機の底に貼ってあるラベルに、この番号が記載されています (たとえば、Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリの電話機の場合は 000B6A409C405、Cisco IP Phone SP 12+ および 30 VIP の場合は SS-00-0B-64-09-C4-05)。Cisco Unified Communications Manager では、MAC アドレスは Cisco Unified IP Phone デバイス設定の必須フィールドです。Cisco Unified Communications Manager フィールドに MAC アドレスを入力するときは、スペースとダッシュを使用しないでください。また、ラベル上の MAC アドレスの前にある「SS」は入力しないでください。

Cisco Unified IP Phone の MAC アドレスやその他の設定値を表示する方法の詳細については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。Cisco IP Phone 12 シリーズ、および Cisco IP Phone 30 シリーズまたは Cisco VG248 Gateway の MAC アドレスを表示するには、次の作業を実行します。

- Cisco IP Phone 12 SP + および 30 VIP : **[**]** を押して、LCD ディスプレイの 2 行目に MAC アドレスを表示します。
- Cisco VG248 電話ポート : MAC アドレスは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの **[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]** ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、「**ゲートウェイの設定**」(P.91-1) を参照してください。
- Cisco VG224 電話ポート : Cisco VG224 ゲートウェイは、MGCP ゲートウェイまたは SCCP ゲートウェイとして設定できます。SCCP ゲートウェイとして設定した場合は、24 のアナログ電話エンドポイントを割り当てることができます。このように設定した場合、このゲートウェイは IOS SCCP ゲートウェイと同様に動作します。個々の電話機の MAC アドレスは、スロット位置、サブユニット、ポート、および元の MAC アドレスの最後の 10 文字を考慮した式を使用して計算されます。設定については、「**ゲートウェイの設定**」(P.91-1) を参照してください。
- Cisco IP Communicator : Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールするクライアント PC のネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得します。

追加情報

「関連項目」(P.92-51) を参照してください。

関連項目

- 「電話機の設定値」 (P.92-3)
- 「電話の移行の設定」 (P.92-30)
- 「短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値」 (P.92-30)
- 「BLF/短縮ダイヤルの設定値」 (P.92-31)
- 「BLF/ダイレクト コール パークの設定値」 (P.92-32)
- 「電話機の検索」 (P.92-32)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.92-34)
- 「既存の電話機の設定の別の電話機への移行」 (P.92-36)
- 「電話機のリセット」 (P.92-38)
- 「電話機の同期化」 (P.92-39)
- 「電話機の削除」 (P.92-40)
- 「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」 (P.92-41)
- 「IP Phone サービスの設定」 (P.92-42)
- 「サービス URL ボタンの設定」 (P.92-44)
- 「リモート接続先プロファイルへのコピー」 (P.92-46)
- 「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」 (P.92-46)
- 「現在ログイン中のデバイスの検索」 (P.92-48)
- 「リモートからログインしたデバイスの検索」 (P.92-49)
- 「電話機の MAC アドレスの表示」 (P.92-50)

その他の設定

- 「電話番号の設定」 (P.61-1)
- 「ゲートウェイの設定」 (P.91-1)
- 「電話ボタン テンプレートの設定」 (P.99-1)
- 「IP Phone サービスの設定」 (P.101-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンション モビリティ」

追加情報

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「プログラム可能な回線キー」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

■ 関連項目

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[Cisco Unified Mobility](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[信頼済みリレー ポイント](#)」



CHAPTER 93

トランクの設定

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御されるクラスター間トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されないクラスター間トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能なトランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク

Cisco Unified Communications Manager トランクの設定については、次のトピックを参照してください。

- 「トランクの設定値」(P.93-1)
- 「トランクの検索」(P.93-61)
- 「トランクの設定」(P.93-62)
- 「トランクの削除」(P.93-64)
- 「トランクのリセット」(P.93-65)
- 「トランクの同期化」(P.93-66)
- 「関連項目」(P.93-66)

トランクの設定値

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御されるクラスター間トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されないクラスター間トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能なトランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク



ヒント

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、「SIP プロファイルの設定」(P.102-12)、「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」(P.28-1)、および『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。



ヒント

トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。

SIP トランクの場合、[リスタート (Restart)] と [リセット (Reset)] は同様に動作するので、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して [リスタート (Restart)] も [リセット (Reset)] も実行する必要はありません。

表 93-1 では、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクの各設定値について説明します。

表 93-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.93-66) を参照してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名 (Device Name)]	このトランクに固有の識別子を入力します。
[説明 (Description)]	トランクの記述名を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	トランク用に適切なデバイス プールを選択します。 トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco Unified Communications Manager のリストを指定します。 (注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco Unified Communications Manager を使用します。ノードの選択は、順不同で行われます。 トランクのデバイス プールに属している Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、その Cisco Unified Communications Manager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco Unified Communications Manager ノードを使用します。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このトランクを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このトランクを経由する着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータ Call Classification の設定値により、トランクが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。警告トーンは、Cisco Unified Communications Manager アナウンサーによって提供されます。</p> <p>発信コールを [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] として認識するには、このパラメータと [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウでの設定を併用します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このトランクの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このトランクが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.18-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられます。この設定により、ロケーションペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p>
[AAR グループ(AAR Group)]	<p>このデバイスの Automatic Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし(None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[トンネル化プロトコル(Tunneled Protocol)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスは、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。</p> <p>トランクを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco Unified Communications Manager から他の Annex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。Q Interface Signaling Protocol (QSIG) トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、および Message Waiting Indication という機能をサポートします。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[QSIG Variant]	<p>[QSIG Variant] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコル プロファイルを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] : デフォルトです。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。 • [-- 選択されていません--] • [ECMA] : プロトコル プロファイル 0x91 を使用する ECMA PBX に対して選択します。 • [ISO] : プロトコル プロファイル 0x9F を使用する PBX に対して選択します。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [QSIG Variant] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 26 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID Encoding]	<p>[ASN.1 ROSE OID Encoding] ドロップダウン リスト ボックスに オプションを表示するには、[トンネル化プロトコル(Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、Remote Operations Service Element (ROSE; 遠隔操作サービス要素) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] : デフォルトです。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。 • [-- 選択されていません --] • [Use Global Value (ECMA)] : [QSIG Variant] ドロップダウン リスト ボックスから [ECMA] オプションを選択した場合は、このオプションを選択します。 • [Use Global Value (ISO)] : [QSIG Variant] ドロップダウン リスト ボックスから [ISO] オプションを選択した場合は、このオプションを選択します。 • [Use Local Value] <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ASN.1 ROSE OID Encoding] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 26 章「サービスパラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [なし (None)] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : Cisco Unified Communications Manager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。IREC ツールは、Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS)、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。 <p>ヒント パケット キャプチャリングを使用可能または使用不可にした後で、トランクをリセットする必要はありません。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide</i>』を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	<p>このチェックボックスでは、H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) を実装するために、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能を実装するためにメディア ターミネーション ポイントを使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能を実装するためにメディア ターミネーション ポイントを使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスだけに使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、発信側と着信側のどちらか一方または両方がビデオ エンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>
[ビデオコールをオーディオとして再試行(Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントだけに適用されます。トランクの場合、このチェックボックスは Cisco Unified Communications Manager から受信されたコールには適用されますが、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) から受信されたコールには適用されません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) およびルート/ハントリスト経由でコールをルーティングします。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco Unified Communications Manager がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、その H.245 ターミナル機能セットを送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified Communications Manager が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスから [QSIG] オプションを選択した場合に、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス置換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、SIP トランクのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、そのデバイスの送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端に、同じ言語グループに属さないユーザ ロケールが設定されている場合、電話機に表示される文字が文字化けすることがあります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクト、任意転送、および自動転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>トランクを介したセキュア コールとノンセキュア コールを Cisco Unified Communications Manager で許可する場合は、[SRTP を許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified Communications Manager はトランクとの Secure Real-Time Protocol (SRTP) ネゴシエーションを防止し、Real-Time Protocol (RTP) を使用します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco Unified Communications Manager とゲートウェイ間のシグナリングがノンセキュアになることに注意してください。</p> </div> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[H.235 パススルー使用可能 (H.235 Pass Through Allowed)]	<p>この機能を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの H.235 エンドポイント間で、共有シークレット (Diffie-Hellman キー) と他の H.235 データを透過的にパススルーし、2 つのエンドポイント間でセキュアなメディア チャネルを確立できます。</p> <p>H.235 パススルーを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[SAF の有効化 (Enable SAF)]	<p>このクラスタ間 (非ゲートキーパー制御) トランクを SAF に対して有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>SAF に対してトランクが有効になっている場合は、トランクでコール制御ディスカバリ機能をサポートできます。[アドバタイジング サービス (Advertising Service)] ウィンドウで CCD アドバタイジング サービスに割り当てられている SAF 有効トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [アドバタイジング サービス (Advertising Service)])。CCD 要求サービスに割り当てられている SAF 有効トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します ([コールルーティング (Call Routing)] > [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] > [要求サービス (Requesting Service)])。</p> <p>コール制御ディスカバリ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール制御ディスカバリ」を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント デバイス) を挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[PSTN アクセス (PSTN Access)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine 機能を使用する場合、このトランク経由で発信されたコールが PSTN に到達する可能性があることを示すには、このチェックボックスをオンにします。このトランク デバイス経由のすべてのコールが PSTN に到達しない場合でも、このチェックボックスをオンにします。たとえば、コールが PSTN に到達する可能性がある場合、タンデム トランクまたは H.323 ゲートキーパーによりルーティングされるトランクについてこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、このトランク デバイス経由で発信されたコールを検証するための Voice Call Records (VCRs; 音声コール レコード) が作成およびアップロードされます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
[Intercompany Media Engine (IME)]	
[E.164 トランスフォーメーションプロファイル (E.164 Transformation Profile)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine を使用し、コールが PSTN に到達する可能性がある場合は、このチェックボックスをオンにします。詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、[Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーションの設定 (Intercompany Media Services E.164 Transformation Configuration)] ウィンドウで作成した適切な E.164 トランスフォーメーションを選択します ([拡張機能 (Advanced Features)] > [Intercompany Media Services] > [E.164 トランスフォーメーション (E.164 Transformation)])。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数<i>i</i> (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てられている発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]」、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<p>[加入者番号 (Subscriber Number)]</p>	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリングサーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)]	
	H.323 プロトコルは、国際的なエスケープ文字 + をサポートしていません。+ を含め正しいプレフィックスが H.323 トランク経由の着信コールに適用されるようにするには、着信の着呼側設定を行います。つまり、着信の着呼側設定を行うことにより、着信コールが H.323 トランク経由で到達したときに、Cisco Unified Communications Manager によって、着信側番号がトランク経由で最初に送信された値に変換されるようになります。
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての着信側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国内 (National)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国際 (International)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリングサーチスペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [不明 (Unknown)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当て着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<p>[加入者番号 (Subscriber Number)]</p>	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含むことができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [加入者 (Subscriber)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当て着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、デバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]	
[インバウンドコール (Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有意な数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された（発信）番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示する項目数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。「コーリングサーチスペースの検索」(P.54-3) の手順に従って、コーリングサーチスペース名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[プレフィックスDN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[有意な数字 (Significant Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[番号IE配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)]	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco Unified Communications Manager サーバで [インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p>
[アウトバウンドコール(Outbound Calls)]	
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし(None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでこのデバイスに設定した [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし(None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側の番号表示画面での発呼側番号の表示を制御するために、補助的なサービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP; 発呼者回線 ID の表示) を使用します。</p> <p>CLIP の設定を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。発呼側番号情報を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。発呼側番号情報を表示しない場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、North American Numbering Plan (NANP) やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。 <p>ヒント [発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)] 設定値は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウおよび [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定できます。この設定値を設定できる場合、デフォルトの [Cisco Unified Communications Manager] 以外のオプションを選択すると、このフィールドの設定値によって、特定のゲートウェイを通過する発信コールの [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] 設定値は上書きされます。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準(National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発呼番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UIIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用しません。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。 [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)]	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、および [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を設定する必要があります。</p>
[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)]	<p>発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [G711 mu-law 64K] (デフォルト) • [G711 a-law 64K] • [G723] • [G729] • [G729AnnexA] • [G729AnnexB] • [G729AnnexA-AnnexB] <p>[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<p>[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]</p>	
<p>(ゲートキーパーによって制御された H.225 トランクまたはクラスタ間トランク)</p>	
<p>[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]</p>	<p>このトランクを制御するゲートキーパーを選択します。</p> <p>(注) ゲートキーパーによって制御されるトランクが H.323 ダイナミック アドレッシングを使用してゲートキーパーに正しく登録されるようにするには、Send Product ID and Version ID サービスパラメータを [True] に設定する必要があります (デフォルトは [False] です)。この設定を行うには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択して、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Device - H323)] で Cisco CallManager サービスの Send Product ID and Version ID サービスパラメータを見つけます。</p>
<p>[ターミナルタイプ (Terminal Type)]</p>	<p>このトランクが制御するデバイスすべてのタイプを指定します。通常のトランク コール アドミッション制御には、このフィールドに常に [ゲートウェイ (Gateway)] を設定します。</p>
<p>[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]</p>	<p>ゲートキーパーで gw-type-prefix を設定するときに、各 Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを入力する必要をなくすために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドをブランクのままにする (デフォルト値) 場合は、ゲートキーパーで gw-type-prefix コマンドを入力するときに、ゲートキーパーに登録できる各 Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを指定する必要があります。 このフィールドを使用する場合は、ここで入力した値が、ゲートキーパーの gw-type-prefix コマンドで指定した <i>type-prefix</i> 値と正確に一致することを確認します。 <p>たとえば、このフィールドをブランクのままにした場合、IP アドレス 10.1.1.2 と 11.1.1.3 を持つ 2 つの Cisco Unified Communications Manager があるときは、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology gw ip 10.1.1.2 gw ip 11.1.1.3</pre> <p>このフィールドに 1#* を入力した場合、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology</pre>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ゾーン (Zone)]	<p>Cisco Unified Communications Manager が登録されるゲートキーパーに関して特定ゾーンを要求するには、このオプション フィールドを使用します。[ゾーン (Zone)] は、このゾーンと別のゾーンとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドに値を入力しない場合は、ゲートキーパー上の zone subnet コマンドによって、Cisco Unified Communications Manager が登録されるゾーンが決まります。大部分の設定では、デフォルト値をお勧めします。 ゲートキーパー上の特定のゾーンに Cisco Unified Communications Manager を登録する場合は、zone コマンドを使用してゲートキーパー上で設定されたゾーン名と正確に一致する値を入力します。このフィールドにゾーン名を指定すると、ゲートキーパーに登録される各 Cisco Unified Communications Manager に対して、zone subnet コマンドを入力する必要がなくなります。 <p>詳細については、使用しているゲートキーパーのコマンド リファレンス マニュアルを参照してください。</p>
[リモートの Cisco Unified CM 情報 (Remote Cisco Unified Communications Manager Information)] (ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランク)	
[サーバ 1 IP アドレス/ホスト名 (Server 1 IP Address/Host Name)]	このトランクがアクセスする最初のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[サーバ 2 IP アドレス/ホスト名 (Server 2 IP Address/Host Name)]	<p>このトランクがアクセスする 2 番目のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p>(注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイス プールにアクセスし、そのデバイス プールに 2 番目の Cisco Unified Communications Manager ノードがある場合は、このフィールドに 2 番目のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
[サーバ 3 IP アドレス/ホスト名 (Server 3 IP Address/Host Name)]	<p>このトランクがアクセスする 3 番目のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p>(注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイス プールにアクセスし、そのデバイス プールに 3 番目の Cisco Unified Communications Manager ノードがある場合は、このフィールドに 3 番目のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	<p>MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。</p> <p>PRI 4ESS の [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] 値がこのトランクに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	<p>セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

表 93-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)]	このデバイスの位置情報を送信するには、このチェックボックスをオンにします。 論理パーティションで位置情報を使用する方法の概要と詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i> 』の「 論理パーティション 」の章を参照してください。

表 93-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

表 93-2 SIP トランクの設定値

フィールド	説明
[トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)]	<p>[トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : コール制御ディスカバリ、クラスタ間のエクステンション モビリティ、または Cisco Intercompany Media Engine にトランクが使用されない場合は、このオプションを選択します。 • [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] : このオプションを選択すると、トランクでコール制御ディスカバリをサポートできるようになります。[アドバタイジングサービス (Advertising Service)] ウィンドウで CCD アドバタイジングサービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します。[要求サービス (Requesting Service)] ウィンドウで CCD 要求サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。コール制御ディスカバリ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール制御ディスカバリ」を参照してください。 • [クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)] : トランクで Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) 機能をサポートできるようにするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[不在ポート (Unattended Port)]、[接続先アドレス (Destination Address)]、[接続先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6)]、および [接続先アドレスは SRV (Destination Address is an SRV)] の設定がブランクまたはオフのままになるか、設定できなくなってデフォルト値が保持されることとなります。EMCC 機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」の章を参照してください。 • [Cisco Intercompany Media Engine] : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされ、使用可能になっていることを確認してください。 <p>ヒント トランク サービス タイプで [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)]、[クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)]、または [Cisco Intercompany Media Engine] を選択し、[次へ (Next)] をクリックすると、それ以降はトランクを別のタイプに変更できなくなります。</p>
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名 (Device Name)]	このトランクに固有の識別子を入力します。

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	トランクの記述名を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンバサンド (&)、バックスラッシュ (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco Unified Communications Manager のリストを指定します。</p> <p>(注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco Unified Communications Manager を使用します。Cisco Unified Communications Manager ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、その Cisco Unified Communications Manager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco Unified Communications Manager ノードを使用します。</p> <p>[デバイスプール (Device Pool)] のデフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p>
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このトランクを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このトランクを経由する着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] のデフォルト値は [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] です。[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータ Call Classification の設定値により、トランクが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] として認識するには、このパラメータと [ルートパターン設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウでの設定を併用します。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このトランクの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このトランクが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられます。この設定により、ロケーション ペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 • [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : Cisco Unified Communications Manager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。 <p>TAC に連絡する前に、該当するデバイス間でスニファ トレースを使用して、SRTP パケットをキャプチャする必要があります。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide</i>』を参照してください。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<p>[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]</p>	<p>常に MTP を使用するように Cisco Unified Communications Manager SIP トランクを設定できます。発信 INVITE 要求でメディア チャンネル情報を提供するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、すべてのメディア チャンネルが MTP デバイス上で終了して再開するよう要求されます。このチェックボックスをオフにすると、コールが MTP デバイスを通過するか、エンドポイント間で直接接続されるかを、Cisco Unified Communications Manager が決定できます。</p> <p>(注) オフ (デフォルト) のままの場合、コール レッグの Dual Tone MultiFrequency (DTMF; デュアル トーン多重周波数) 方式に互換性がないと、Cisco Unified Communications Manager は MTP を動的に割り当てようとしません。</p> <p>たとえば、Skinny Call Control Protocol (SCCP) を実行する既存の電話機がアウトオブバンド DTMF だけをサポートしており、SIP を実行する既存の電話機が RFC2833 をサポートしている場合があります。DTMF 方式が同じでないため、Cisco Unified Communications Manager は MTP を動的に割り当てます。ただし、RFC2833 とアウトオブバンドをサポートする、SCCP を実行する新しい電話機が、SIP を実行する既存の電話機をコールする場合は、両方の電話機が RFC2833 をサポートしているため、Cisco Unified Communications Manager は MTP を割り当てません。したがって、各電話機で同じタイプの DTMF 方式がサポートされるようにすることにより、MTP は不要になります。</p>
<p>[ビデオコールをオーディオとして再試行(Retry Video Call as Audio)]</p>	<p>このチェックボックスは、発信 SIP トランクコールに適用されませんが、着信コールには影響を及ぼしません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) およびルート/ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側のデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端に、同じ言語グループに属さないユーザ ロケールが設定されている場合、電話機に表示される文字が文字化けすることがあります。</p> <p>[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)] チェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクトおよび転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>トランクを介したセキュア メディア コールとノンセキュア メディア コールを Cisco Unified Communications Manager で許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、SIP トランク接続を介した Secure Real-Time Protocol (SRTP) が有効になります。また、エンドポイントで SRTP がサポートされていない場合に、SIP トランクが Real-Time Protocol (RTP) にフォールバックすることも可能になります。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified Communications Manager はトランクとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP ネゴシエーションを使用します。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、暗号化された TLS プロファイルを使用して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報が公開されないようにすることを強くお勧めします。セキュアでないプロファイルを使用する場合でも SRTP は機能しますが、鍵はシグナリングおよびトレースで公開されます。その場合、Cisco Unified Communications Manager とトランクの宛先側の間のネットワークのセキュリティを確保する必要があります。</p> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[ルートクラスシグナリングを有効 (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルート クラス シグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 • [オフ (Off)] : この値は、ルート クラス シグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 • [オン (On)] : この値は、ルート クラス シグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルート クラス シグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[PSTN アクセス (PSTN Access)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine 機能を使用する場合、このトランク経由で発信されたコールが PSTN に到達する可能性があることを示すには、このチェックボックスをオンにします。このトランク デバイス経由のすべてのコールが PSTN に到達しない場合でも、このチェックボックスをオンにします。たとえば、コールが PSTN に到達する可能性がある場合、タンデム トランクまたは H.323 ゲートキーパーによりルーティングされるトランクについてこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、このトランク デバイス経由で発信されたコールを検証するための Voice Call Records (VCRs; 音声コール レコード) が作成およびアップロードされます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
[Intercompany Media Engine (IME)]	
[E.164 トランスフォーメーションプロファイル (E.164 Transformation Profile)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine を使用し、コールが PSTN に到達する可能性がある場合は、このチェックボックスをオンにします。詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、[Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーションの設定 (Intercompany Media Services E.164 Transformation Configuration)] ウィンドウで作成した適切な E.164 トランスフォーメーションを選択します ([拡張機能 (Advanced Features)] > [Intercompany Media Services] > [E.164 トランスフォーメーション (E.164 Transformation)])。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト から、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p> <p>[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]	

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[リモート パーティ ID(Remote-Party-Id)]	<p>Cisco Unified Communications Manager からリモート接続先への発信 SIP メッセージで、Remote-Party-ID (RPID) ヘッダーの送信を SIP トランクに許可または禁止する場合に、このチェックボックスを使用します。このチェックボックスをオンにした場合、SIP トランクは必ず RPID ヘッダーを送信します。このチェックボックスをオフにした場合、SIP トランクは RPID ヘッダーを送信しません。</p> <p>発信 SIP トランク コール</p> <p>[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] オプションと [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] オプションの設定済みの値は、RPID ヘッダーのプライバシ フィールドを構築するときの基礎になります。これら 2 つの各オプションには、[デフォルト (Default)]、[許可 (Allowed)]、または [非許可 (Restricted)] の値を設定できます。</p> <p>どちらかのオプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報 ([発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] のいずれか一方または両方) は、Cisco Unified Communications Manager 内のコール制御レイヤ (コールごとの設定) から読み込まれます。どちらかのオプションが [許可 (Allowed)] または [非許可 (Restricted)] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報は SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウから読み込まれます。</p> <p>着信 SIP トランク コール</p> <p>[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] オプションと [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] オプションの設定済みの値は、RPID ヘッダーのプライバシ フィールドを構築するときの基礎になります。これら 2 つの各オプションには、[デフォルト (Default)]、[許可 (Allowed)]、または [非許可 (Restricted)] の値を設定できます。</p> <p>[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] オプションと [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] オプションは、Cisco Unified Communications Manager が受信する INVITE メッセージに応じて、SIP トランクが送信する 180/200 メッセージに関連していることに注意してください。</p> <p>どちらかのオプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報 ([接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] と [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] のいずれか一方または両方) は、Cisco Unified Communications Manager 内のコール制御レイヤ (コールごとの設定) から読み込まれます。どちらかのオプションが [許可 (Allowed)] または [非許可 (Restricted)] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報は SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウから読み込まれます。</p> <p>(注) [リモート パーティ ID(Remote-Party-Id)] オプションと [アサート済 ID(Asserted-Identity)] オプションは、表示 ID 情報の通信に使用される独立したメカニズムです。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アサート済 ID(Asserted-Identity)]	<p>SIP メッセージで Asserted-Type ヘッダーと SIP Privacy ヘッダーの送信を SIP トランクに許可または禁止する場合に、このチェックボックスを使用します。このチェックボックスをオンにした場合、SIP トランクは必ず Asserted-Type ヘッダーを送信します。SIP トランクが SIP Privacy ヘッダーを送信するかどうかは、[SIP プライバシ(SIP Privacy)] の設定によって異なります。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、SIP トランクは SIP メッセージで Asserted-Type ヘッダーも SIP Privacy ヘッダーも送信しません。</p> <p>詳細については、この表の [アサート済タイプ (Asserted-Type)] と [SIP プライバシ (SIP Privacy)] の説明を参照してください。</p> <p>発信 SIP トランク コール : P ヘッダー</p> <p>Asserted Identity (P-Asserted-Identity または P-Preferred-Identity) ヘッダーが送信されるかどうかは、[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションに設定されている値によって異なります。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信するスクリーニング ID の値によって、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] のタイプが決まります。</p> <p>発信 SIP トランク コール : SIP Privacy ヘッダー</p> <p>SIP Privacy ヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっていて、SIP トランクが PAI ヘッダーまたは PPI ヘッダーを送信する場合だけです (それ以外の場合、SIP Privacy ヘッダーは着信 SIP メッセージで送信も処理も行われません)。</p> <p>SIP Privacy ヘッダーの値は、[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションで設定された値によって異なります。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信する [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] によって、SIP Privacy ヘッダーが決まります。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アサート済 ID(Asserted-Identity)] (続き)	<p>着信 SIP トランク コール : P ヘッダー</p> <p>Asserted Identity (P-Asserted-Identity または P-Preferred-Identity) ヘッダーが送信されるかどうかは、[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションに設定されている値によって異なります。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信するスクリーニング ID の値によって、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] のタイプが決まります。</p> <p>着信 SIP トランク コール : SIP Privacy ヘッダー</p> <p>SIP Privacy ヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっていて、SIP トランクが PAI ヘッダーまたは PPI ヘッダーを送信する場合だけです (それ以外の場合、SIP Privacy ヘッダーは着信 SIP メッセージで送信も処理も行われません)。</p> <p>SIP Privacy ヘッダーの値は、[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションで設定された値によって異なります。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信する [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] と [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] によって、SIP Privacy ヘッダーが決まります。</p> <p>(注) [リモート パーティ ID(Remote-Party-Id)] オプションと [アサート済 ID(Asserted-Identity)] オプションは、表示 ID 情報の通信に使用される独立したメカニズムです。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アサート済タイプ (Asserted-Type)]	<p>ドロップダウンリストから次のいずれかの値を選択して、SIP トランク メッセージに含める必要のある Asserted Identity ヘッダーのタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このオプションはデフォルト値を示します。SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信するスクリーニング表示の情報によって、SIP トランクが送信するヘッダーのタイプが決まります。 • [PAI] : Privacy-Asserted Identity (PAI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれたスクリーニング表示の値は上書きされます。 • [PPI] : Privacy Preferred Identity (PPI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれたスクリーニング表示の値は上書きされます。 <p>(注) これらのヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっている場合だけです。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP プライバシ (SIP Privacy)]	<p>ドロップダウン リストから次のいずれかの値を選択して、SIP トランク メッセージに含める必要のある SIP Privacy ヘッダーのタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このオプションはデフォルト値を示します。SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信する名前/番号表示の値によって、SIP Privacy ヘッダーが決まります。たとえば、名前/番号表示が [非許可 (Restricted)] の場合、SIP トランクは SIP Privacy ヘッダーを送信します。名前/番号表示が [許可 (Allowed)] の場合、SIP トランクは Privacy ヘッダーを送信しません。 • [なし (None)] : SIP トランクに Privacy:none ヘッダーが含まれ、「表示の許可」を意味します。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれた表示情報は上書きされます。 • [ID] : SIP トランクに Privacy:id ヘッダーが含まれ、名前と番号の「表示の非許可」を意味します。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれた値は上書きされます。 • [ID 重要 (ID Critical)] : SIP トランクに Privacy:id:critical ヘッダーが含まれ、名前と番号の「表示の非許可」を意味します。「critical」というラベルは、このメッセージで要求されているプライバシー サービスが重要であることを意味します。ネットワークがこれらのプライバシー サービスを提供できない場合、この要求は拒否されます。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれた表示情報は上書きされます。 <p>(注) これらのヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっている場合だけです。</p>
[インバウンドコール (Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有意な数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。SIP デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [すべて (All)] を選択します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>[有意な数字 (Significant Digits)] のデフォルト値は [すべて (All)] です。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、接続された側の番号を発信側に提供するために、補助的なサービスとして Connected Line ID Presentation (COLP; 接続先回線 ID の表示) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] のデフォルト値は [デフォルト (Default)] で、これは [許可 (Allowed)] に変換されます。接続された回線の情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>接続された回線の情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、接続された側の名前を発信側に提供するために、補助的なサービスとして Connected Name ID Presentation (CONP; 接続側の名前 ID 表示) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] のデフォルト値は [デフォルト (Default)] で、これは [許可 (Allowed)] に変換されます。接続された名前を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>接続された名前を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示する項目数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。「コーリングサーチスペースの検索」(P.54-3) の手順に従って、コーリングサーチスペース名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[有意な数字 (Significant Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を受領するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound)] のデフォルト値はオフです。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックスフィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号 (Incoming Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の [デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続側の設定 (Connected Party Settings)]	
[接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、接続側番号を別の形式 (DID、E164 番号など) で表示するために、デバイスの接続側番号を変換できます。Cisco Unified Communications Manager では、200 OK メッセージや通話中の更新/再招待メッセージなど、さまざまな SIP メッセージのヘッダーに変換済みの番号が組み込まれます。選択する接続側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる接続側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの接続側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Connected Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている接続側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでこのデバイスに設定した [接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[アウトバウンドコール (Outbound Calls)]	
[着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでこのデバイスに設定した [着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非スルパパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。 <p>[発呼者の選択 (Calling Party Selection)] のデフォルト値は [発信元 (Originator)] です。</p>
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側の番号を提供するために、補助的サービスとして発呼者回線 ID の表示 (CLIP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] のデフォルト値は [デフォルト (Default)] で、これは [許可 (Allowed)] に変換されます。発番号情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>発番号情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側の名前を提供するために、補助的サービスとして Calling Name ID Presentation (CNIP; 発信側の名前 ID 表示) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>発信側名前情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。[許可 (Allowed)] がデフォルトです。</p> <p>発信側名前情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] のデフォルト値は [デフォルト (Default)] です。</p>
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリア コードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[発信者名 (Caller Name)]	<p>発信元の SIP デバイスから受信した発信者名を上書きするには、発信者名を入力します。</p>
[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)]	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の着信側番号および転送理由を示すために、Cisco Unified Communications Manager からの Redirecting Number を送信 INVITE メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 INVITE メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)] のデフォルト値はオフです。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP 情報(SIP Information)]	
[接続先アドレス (Destination Address)]	<p>[接続先アドレス (Destination Address)] は、このトランクが通信するリモート SIP デバイスを表します。このフィールドに入力できる値は、有効な V4 ドット付き IP アドレス、ホスト名、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名)、または DNS SRV レコード ([接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンになっている場合にかぎる) です。</p> <p>ヒント IPv6 または IPv6 と IPv4 (デュアルスタック モード) をサポートできる SIP トランクについては、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドのほかに [接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] フィールドを設定します。</p> <p>(注) SIP トランクは、設定済みの接続先アドレスから着信する要求と、このトランクと関連付けられている [SIP トランクセキュリティプロファイル(SIP Trunk Security Profile)] で指定した着信ポートから着信する要求だけを受け入れます。</p> <p>(注) クラスタ内に複数のデバイス プールが存在する場合に SIP トランクを設定するには、DNS SRV 接続先ポートである接続先アドレスを設定する必要があります。[接続先アドレス (Destination Address)] に DNS SRV ポートの名前を入力し、[接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>リモート エンドが Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合、このフィールドには DNS SRV を指定することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれている必要があります。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)]	<p>[接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)] は、このトランクが通信するリモート SIP デバイスを表します。このフィールドには、次のいずれかの値を入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効な IPv6 アドレス (グローバルユニキャスト、一意のローカル、またはホスト名) 完全修飾ドメイン名 (FQDN) DNS SRV レコード ([接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンの場合に限る) <p>SIP トランクは、設定済みの接続先 IPv6 アドレスから着信する要求と、このトランクと関連付けられている [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] で指定した着信ポートから着信する要求だけを受け入れます。</p> <p>リモートエンドが Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合、このフィールドに DNS SRV レコードを入力することを検討してください。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれている必要があります。</p> <p>ヒント デュアルスタック モードで実行する SIP トランクまたは [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の SIP トランクには、このフィールドを設定します。SIP トランクがデュアルスタック モードで実行している場合は、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドも設定する必要があります。</p>
[接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)]	<p>このフィールドでは、設定済みの接続先アドレスが SRV レコードであることを指定します。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[接続先ポート (Destination Port)]	<p>接続先ポートを選択します。このフィールドには、必ず 1024 ~ 65535 の範囲でポートを指定してください。</p> <p>(注) 複数のトランクに同じポート番号を指定できるようになりました。</p> <p>宛先アドレスが DNS SRV ポートの場合、値を入力する必要はありません。デフォルトの 5060 は SIP ポートを示します。</p> <p>[接続先ポート (Destination Port)] のデフォルト値は 5060 です。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>次の任意の発信コーデックを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [711ulaw] • [711alaw] • [G729/G729a] • [G729b/G729ab] <p>(注) SIP トランクで使用するために G.729 コーデックを設定するには、G.729 コーデックをサポートするハードウェア MTP またはトランスコーダを使用する必要があります。詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の第 25 章「トランスコーダ」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンの場合にだけ使用されます。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランク用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループにより、SIP トランクに接続されているデバイス、アプリケーション、またはサーバが監視できる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド</i>』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p> <p>ヒント プレゼンス グループは、SIP トランクに適用することも、SIP トランクに接続されているアプリケーションに適用することもできます。プレゼンス グループが SIP トランクと SIP トランク アプリケーションの両方に設定されている場合、アプリケーションに適用されているプレゼンス グループが、トランクに適用されているプレゼンス グループを上書きします。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)]	<p>SIP トランクに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての SIP トランクに適用する必要があります。Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、あらかじめ定義されたノンセキュアな SIP トランク セキュリティ プロファイルが自動登録用に提供されます。SIP トランクのセキュリティ機能を使用可能にするには、新しいセキュリティ プロファイルを設定して SIP トランクに適用します。トランクがセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム (System)] > [セキュリティプロファイル (Security Profile)] > [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] の順に選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>[SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] のデフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p>
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>コーリングサーチスペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。再ルーティングコーリングサーチスペースは、SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) をサードパーティ (C) に転送するときの対象場所を決める場合に使用されます。転送の完了後、B と C が接続されます。この場合、使用される再ルーティングコーリングサーチスペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p>(注) コーリングサーチスペースは、3xx リダイレクション機能および INVITE with Replaces 機能にも適用されます。</p> <p>[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>コーリングサーチスペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。out-of-dialog コーリングサーチスペースは、SIP ユーザ (A) の介入がない場合に Cisco Unified Communications Manager が SIP ユーザ (A) に着信するコール (B) をサードパーティ (C) に転送するとき使用されます。この場合、システムは SIP ユーザ (A) の out-of-dialog コーリングサーチスペースを使用します。</p> <p>[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング検索スペースによって、Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、SIP トランクのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理検索スペースとは別のコーリング検索スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、SIP トランクのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング検索スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング検索スペースが、[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストから、SIP トランク用に別のコーリング検索スペースを選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] はデフォルトで [なし (None)] になります。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング検索スペースを設定するには、すべてのコーリング検索スペースと同じようにコーリング検索スペースを設定します。コーリング検索スペースを設定する方法については、「コーリング検索スペースの設定 (P.54-1)」を参照してください。</p>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。</p> <p>[SIP プロファイル (SIP Profile)] のデフォルト値は [選択されていません (None Selected)] です。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DTMF シグナリング方式 (DTMF Signaling Method)]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[初期設定なし (No Preference)] (デフォルト) : Cisco Unified Communications Manager が DTMF 方式を選択して DTMF をネゴシエートします。したがって、コールに MTP は不要です。Cisco Unified Communications Manager が MTP を割り当てる必要がある場合 ([メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンである場合)、SIP トランクは DTMF として RFC2833 をネゴシエートします。</p> <p>[RFC2833] : トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、MTP を使用するかどうかにかかわらず、できる限り RFC2833 をネゴシエートしようとします。アウトオブバンドは、ピア エンドポイントがアウトオブバンドをサポートしている場合のフォールバック方式を提供します。</p> <p>[OOB および RFC2833 (OOB and RFC 2833)] : DTMF にアウトオブバンドと RFC2833 の両方を使用する必要がある場合は、この設定を選択します。</p> <p>(注) ピア エンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco Unified Communications Manager はアウトオブバンドと RFC2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。その結果、同じ DTMF キープレスに対して 2 つの DTMF イベントが送信されます (1 つはアウトオブバンド、もう 1 つは RFC2833)。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

表 93-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)]	<p>このデバイスの位置情報を送信するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>論理パーティションで位置情報を使用する方法の概要と詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」の章を参照してください。</p>

トランクの検索

ネットワーク内には複数のトランクが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定してトランクを検索することができます。Cisco Unified Communications Manager データベース内で特定のトランクを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、トランクの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランクの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。
- [トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.93-66) を参照してください。

トランクの設定

新規のトランク デバイスの追加または既存のトランク デバイスの更新を行う手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager クラスタごとに、複数のトランク デバイスを設定できます。

始める前に

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、「SIP プロファイルの設定」(P.102-12)、「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」(P.28-1)、および『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新規のトランク デバイスを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。「[ステップ 3](#)」に進みます。
- トランクの設定値を更新する場合は、適切なトランクを見つけます（「[トランクの検索](#)」(P.93-61) を参照）。更新するトランクの名前をクリックします。「[ステップ 7](#)」に進みます。

ステップ 3 [トランクタイプ (Trunk Type)] ドロップダウン リストから、トランクのタイプを選択します。

ステップ 4 必要に応じて、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リストから、デバイス プロトコルを選択します。

ステップ 5 SIP トランクについて、[トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- [なし (None)] : コール制御ディスカバリ、クラスタ間のエクステンション モビリティ、または Cisco Intercompany Media Engine にトランクが使用されない場合は、このオプションを選択します。
- [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] : このオプションを選択すると、トランクで コール制御ディスカバリをサポートできるようになります。[アドバタイジングサービス (Advertising Service)] ウィンドウで CCD アドバタイジング サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信 コールを処理します。[要求サービス (Requesting Service)] ウィンドウで CCD 要求サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。コール制御ディスカバリ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[コール制御ディスカバリ](#)」を参照してください。
- [クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)] : このオプションを選択すると、トランクでクラスタ間のエクステンション モビリティ機能をサポートできるようになります。クラスタ間のエクステンション モビリティ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[Cisco クラスタ間のエクステンション モビリティ](#)」を参照してください。
- [Cisco Intercompany Media Engine] : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされ、使用可能になっていることを確認してください。



ヒント トランク サービス タイプで [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)]、[クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)]、または [Cisco Intercompany Media Engine] を選択し、[次へ (Next)] をクリックすると、それ以降はトランクを別のタイプに変更できなくなります。

ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 7 表示されている [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して適切な設定値を入力します（[表 93-1](#) を参照）。SIP トランクの場合は、[表 93-2](#) を参照して適切な設定値を入力します。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックして、新規トランクを追加します。

トランクがデータベースに追加されます。

既存のトランクを更新している場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックして新しい設定を適用します（これによって、デバイスが再起動される場合もあります）。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「[トランクの同期化](#)」(P.93-66) を参照してください。



(注) トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。

追加情報

「関連項目」(P.93-66) を参照してください。

トランクの削除

トランクを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のルート パターンに割り当てられているトランクは、削除できません。トランクを使用しているルート パターンを検索するには、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。使用されているトランクを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用されているトランクを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するトランクを使用しているルート パターンすべてに、別のトランクを割り当てます。「ルート パターンの設定」(P.41-13) を参照してください。
- 削除するトランクを使用しているルート パターンを削除します。「ルート パターンの削除」(P.41-14) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。
[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、特定のトランクを見つけます。
検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。
 - 削除するトランクの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - [すべてを選択 (Select All)] をクリックしてから [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのトランクを削除します。
 - 削除するトランクの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、トランクを削除します。

追加情報

「関連項目」(P.93-66) を参照してください。

トランクのリセット

トランクをリセットする手順は、次のとおりです。



注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

ステップ 3 リストから、リセットするトランクの名前をクリックします。

[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 トランク デバイスの設定値を変更した後に、[リセット (Reset)] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかの項目をクリックします。

- [リスタート (Restart)] : トランク デバイスをシャットダウンしないで再起動します。
- [リセット (Reset)] : 内部トランク デバイスをシャットダウンしてから再起動します。トランクがゲートキーパーによって制御されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタは、トランクへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
- [閉じる (Close)] : 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じます。



(注)

SIP トランクの場合、[リスタート (Restart)] と [リセット (Reset)] は同様に動作するので、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して [リスタート (Restart)] も [リセット (Reset)] も実行する必要はありません。

追加情報

「関連項目」(P.93-66) を参照してください。

トランクの同期化

トランクを最新の設定変更と同期化する手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。
[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するトランクのリストがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期化するトランクの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のトランクをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。



(注) 再起動中は、アクティブ コールが接続解除される可能性があります。

追加情報

「関連項目」(P.93-66) を参照してください。

関連項目

- 「トランクの設定値」(P.93-1)
- 「トランクの検索」(P.93-61)
- 「トランクの設定」(P.93-62)
- 「トランクの削除」(P.93-64)
- 「トランクのリセット」(P.93-65)
- 「トランクの同期化」(P.93-66)
- 「SIP プロファイルの設定」(P.102-12)
- 「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コールアドミッション制御」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager でのゲートキーパーとトランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「信頼済みリレー ポイント」

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール制御ディスカバリ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』



CHAPTER 94

リモート接続先の設定

Cisco Unified Mobility のモバイル コネクト機能を使用すると、1 つの電話番号でビジネス コールを管理し、進行中のコールをデスクトップ電話機と携帯電話で受けることができます。モバイル ボイス アクセスは **Integrated Voice Response (IVR; 自動音声応答)** システムに関連付けられています。ユーザはこのシステムを使用してモバイル コネクトのオン/オフを切り替えることができます。また、携帯電話やその他のリモート電話機からコールを発信する際、デスクトップ電話機から発信しているかのように見せかけることもできます。

リモート接続先は携帯電話（またはその他の電話機）として表されます。ユーザのデスクトップ電話機からの転送を受け入れることや、モバイル ボイス アクセスを利用してコールを開始するために使用することができます。

モバイル コネクト、モバイル ボイス アクセス、その他の **Cisco Unified Mobility** 機能、およびリモート接続先の設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 95

デバイス デフォルトの設定

デバイス デフォルトの設定では、Cisco Unified Communications Manager に登録するデバイスの各タイプのデフォルト特性を設定します。デバイス タイプに対するデバイス デフォルトは、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内にあるそのタイプの自動登録デバイスすべてに適用されます。各デバイス タイプに適用される設定は、次のデバイス デフォルトで設定します。

- デバイス ロード
- デバイス プール
- 電話ボタン テンプレート

デバイスは、Cisco Unified Communications Manager に自動登録されるときに、そのデバイス タイプに該当するデバイス デフォルト設定値を取得します。デバイスが登録された後で、個々のデバイスの設定を更新して、そのデバイス設定を変更することもできます。

Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、デバイス デフォルトが自動的に設定されます。デバイス デフォルトの新規作成も、既存のデバイス デフォルトの削除もできませんが、デバイス デフォルト設定値を変更することは可能です。

ここでは、次の内容について説明します。

- [「デバイス デフォルトの設定値」 \(P.95-1\)](#)
- [「デバイス デフォルトの更新」 \(P.95-2\)](#)
- [「関連項目」 \(P.95-3\)](#)

デバイス デフォルトの設定値

デバイス デフォルトの設定では、Cisco Unified Communications Manager に登録するデバイスの各タイプのデフォルト特性を設定します。デバイス タイプに対するデバイス デフォルトは、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内にあるそのタイプの自動登録デバイスすべてに適用されます。各デバイス タイプに適用される設定は、次のデバイス デフォルトで設定します。

- デバイス ロード
- デバイス プール
- 電話ボタン テンプレート

デバイスは、Cisco Unified Communications Manager に自動登録されるときに、そのデバイス タイプに該当するデバイス デフォルト設定値を取得します。デバイスが登録された後で、個々のデバイスの設定を更新して、そのデバイス設定を変更することもできます。

始める前に

デバイス デフォルトを更新する場合は、事前に、お使いのシステムに該当する次のいずれかの作業を行ってください。

- デバイス用の新しいファームウェア ファイルを TFTP サーバに追加します。
- ディレクトリ内に存在しないファームウェア ロードの割り当てにデバイス デフォルトを使用すると、それらのデバイスは割り当てられたファームウェアのロードに失敗します。
- 新しいデバイス プールを設定します。「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。
- デバイスが電話機の場合は、新しい電話テンプレートを設定します。「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」(P.99-4) を参照してください。

表 95-1 では、デバイス デフォルトの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.95-3) を参照してください。

表 95-1 デバイス デフォルトの設定値

フィールド名	説明
[デバイスタイプ (Device Type)]	このフィールドには、デバイス デフォルトを設定できるデバイスのタイプが表示されます。
[プロトコル (Protocol)]	このフィールドには、[デバイスタイプ (Device Type)] 列の対応するデバイスが使用するプロトコルが表示されます。
[ロード情報 (Load Information)]	ハードウェア デバイスの特定のタイプで使用されるファームウェア ロードの ID 番号を入力します。アップグレード ロードまたはパッチ ロードをインストールする場合は、新しいロードを使用するデバイスのタイプごとに、ロード情報を更新する必要があります。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイスの各タイプに関連したデバイス プールを選択します。デバイス プールは、そのプール内のすべてのデバイスに対して、共通の特性を指定します。
[電話テンプレート (Phone Template)]	Cisco Unified IP Phone の各タイプが使用する電話ボタン テンプレートを選択します。このテンプレートは、電話機上のキーの機能を指定します。

デバイス デフォルトの更新

Cisco Unified Communications Manager 設定データベース内のデバイス デフォルトを変更する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス デフォルトを更新する場合は、事前に、お使いのシステムに該当する次のいずれかの作業を行ってください。

- デバイス用の新しいファームウェア ファイルを TFTP サーバに追加します。
- ディレクトリ内に存在しないファームウェア ロードの割り当てにデバイス デフォルトを使用すると、それらのデバイスは割り当てられたファームウェアのロードに失敗します。
- 新しいデバイス プールを設定します。「[デバイス プールの設定](#)」(P.9-18) を参照してください。
- デバイスが電話機の場合は、新しい電話テンプレートを設定します。「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」(P.99-4) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] の順に選択します。
- ステップ 2** 変更するデバイスに該当する設定値を更新します (表 95-1 を参照)。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックして、変更内容を Cisco Unified Communications Manager 設定データベースに保存します。
- ステップ 4** デバイス名の左側にあるリセット アイコンをクリックして、そのタイプのすべてのデバイスをリセットし、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager に新しいデフォルトをロードします。

そのタイプのデバイスすべてをリセットしない場合は、デバイス デフォルトの変更後に追加された新しいデバイスだけが、最新のデフォルトを受け取ります。

追加情報

「関連項目」(P.95-3) を参照してください。

関連項目

- 「デバイス デフォルトの設定値」(P.95-1)
- 「デバイス デフォルトの更新」(P.95-2)
- 「デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索」(P.96-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「デバイス ファームウェア ロード」



CHAPTER 96

デバイス ファームウェア ロード情報

デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定するには、デバイス ファームウェア ロード情報を使用します。

デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information)] ウィンドウを使用すると、デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを、すばやく特定することができます。



(注) 各デバイスには、デフォルトを上書きするファームウェア ロードを個別に割り当てることができます。

デフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information)] の順に選択します。
- ページが更新され、ファームウェア ロードを必要とするデバイス タイプのリストが表示されます。デバイス タイプごとに、[デフォルトロードを使用していないデバイス (Device Not Using Default Load)] 列が、デフォルト以外のロードを使用するデバイスの設定値にリンクします。
- ステップ 2** デフォルト以外のデバイス ロードを使用する特定のデバイス タイプのデバイスのリストを表示するには、[デフォルトロードを使用していないデバイス (Device Not Using Default Load)] 列で、そのデバイス タイプのエントリをクリックします。
- デフォルトのファームウェア ロードを実行していない、特定のデバイス タイプのデバイスがリストされたウィンドウが開きます。

関連項目

- 「デバイス デフォルトの更新」 (P.95-2)
- 「関連項目」 (P.95-3)



CHAPTER 97

デフォルト デバイス プロファイルの設定

ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デフォルト デバイス プロファイルを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデフォルト デバイス プロファイルを作成するには、[デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用します。デフォルト デバイス プロファイルの最大数は、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を越えることはできません。

たとえば、ユーザ デバイス プロファイルのある Cisco Unified IP Phone 7960 に、ユーザがログインします。ユーザのユーザ デバイス プロファイルは、ユーザがログインした電話機にダウンロードされます。後で、同じユーザが、そのユーザのユーザ デバイス プロファイルのない Cisco Unified IP Phone 7940 にログインするとします。このような場合に、7940 用のデフォルト デバイス プロファイルが電話機にダウンロードされます。

デフォルト デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、ユーザ ロケール、電話ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート、回線をまたいで参加機能とワンボタン割り込み機能の設定、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、および IP Phone サービスが含まれます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「デフォルト デバイス プロファイルの設定値」(P.97-1)
- 「デフォルト デバイス プロファイルの設定」(P.97-7)
- 「デフォルト デバイス プロファイルの削除」(P.97-8)
- 「関連項目」(P.97-8)

デフォルト デバイス プロファイルの設定値

ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デフォルト デバイス プロファイルを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデフォルト デバイス プロファイルを作成するには、[デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用します。デフォルト デバイス プロファイルの最大数は、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を越えることはできません。

たとえば、ユーザ デバイス プロファイルのある Cisco Unified IP Phone 7960 に、ユーザがログインします。ユーザのユーザ デバイス プロファイルは、ユーザがログインした電話機にダウンロードされます。後で、同じユーザが、そのユーザのユーザ デバイス プロファイルのない Cisco Unified IP Phone 7940 にログインするとします。このような場合に、7940 用のデフォルト デバイス プロファイルが電話機にダウンロードされます。

デフォルト デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デフォルト デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、回線をまたいで参加機能とワンボタン割り込み機能の設定、および MLPP 情報などの属性が含まれます。

表 97-1 では、[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.97-8) を参照してください。

表 97-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値

フィールド	説明
[デフォルトデバイスプロファイル情報 (Default Device Profile Information)]	
[説明 (Description)]	デフォルト デバイス プロファイル設定の説明を入力します。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>(注) オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) 英語以外の言語で情報を（電話機に）表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能（回線、短縮ダイヤルなど）を指定します。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートがデバイス プールに含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。

表 97-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プライバシー(Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする各電話機について、ドロップダウン リストボックスから [オン(On)] を選択します。設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウン リストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ(Off)] : このデバイスで、ユーザはワンボタン割り込み/C 割り込み機能を使用できなくなります。 [割り込み(Barge)] : このオプションを選択すると、ユーザは電話機のワンボタン割り込みシェアドライン ボタンを押し、割り込みを使用してコールに割り込むことができます。 [C 割込(cBarge)] : このオプションを選択すると、ユーザは電話機のワンボタン C 割り込みシェアドライン ボタンを押し、C 割り込みを使用してコールに割り込むことができます。 [デフォルト(Default)] : このデバイスは、サービス パラメータおよびデバイス プールの設定からワンボタン割り込み/C 割り込みの設定を取得します。 <p> (注) サービス パラメータとデバイス プールの設定が異なる場合、デバイスはサービス パラメータの設定から取得します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>ドロップダウン リストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ(Off)] : このデバイスで、ユーザは回線をまたいで参加機能を使用できなくなります。 [オン(On)] : このデバイスで、ユーザは複数の回線をまたいでコールに参加できるようになります。 [デフォルト(Default)] : このデバイスは、サービス パラメータおよびデバイス プールの設定から、回線をまたいで参加の設定を取得します。 <p> (注) サービス パラメータとデバイス プールの設定が異なる場合、デバイスはサービス パラメータの設定から取得します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」を参照してください。</p>

表 97-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話機のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフ フック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話機のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。 [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line サービス パラメータの設定を使用します。
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オン (On)] : 電話機がアイドル状態の場合に電話機のメッセージ ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブな回線になります。 [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は、ボイス メッセージが設定されている最初の回線を常に選択します。ボイス メッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話機のユーザがメッセージ ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line for Voice Message サービス パラメータの設定を使用します。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) この設定は、トランスレーション パターンレベルで発呼者回線 ID の表示と接続先回線 ID の表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」を参照してください。</p>
[サイレント (Do Not Disturb)]	<p>電話機で Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 97-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にした場合、このパラメータでは、DND 機能が着信コールをどのように処理するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションは、着信コール情報 (音声や画面表示によるコール通知を含む) をユーザに提示しないようにします。 • [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションは、呼出音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。 • [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND オプション (DND Option)] の設定値をデバイスに使用するように指定します。 <p>(注) モバイル デバイスとデュアル モード電話機の場合、選択できるのは [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけです。モバイル デバイスまたはデュアル モード電話機に対して DND の [コール拒否 (Call Reject)] を有効にすると、コール情報はデバイスに表示されなくなります。</p>
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話機でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定値をデバイスに使用するように指定します。 • [無効 (Disable)] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートは表示されず、情報はデバイスに送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のビープ音だけが再生されます。DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報は表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートの音声や情報はデバイスに送信されません。 • [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のフラッシュ アラートだけが表示されます。DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報は表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートは表示されず、情報はデバイスに送信されません。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインを選択します。

表 97-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデフォルト デバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデフォルト デバイス プロファイルを設定することはできません。</p> <p>(注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデフォルト デバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにはしません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようになります。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデフォルト デバイス プロファイルを設定することはできません。</p>

表 97-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ログアウト(デフォルト)プロファイル情報(Logged Out (Default) Profile Information)]	
[ログインユーザ ID(Login User Id)]	有効なログイン ユーザ ID を入力します。 ログアウト プロファイルとしてユーザ デバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。
[デバイスプロファイルのデフォルト (Device Profile Defaults)]	
(デバイス プロファイルのデフォルトのリスト)	このペインには、定義された各デフォルト デバイス プロファイルへのリンクが表示されます。

デフォルト デバイス プロファイルの設定

デフォルト デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、回線をまたいで参加機能とワンボタン割り込み機能の設定、および MLPP 情報などの属性が含まれます。デフォルト デバイス プロファイルを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] の順に選択します。
- [デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 新しいプロファイルを追加する場合は、[デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、追加するデバイスのタイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックして、「**ステップ 3**」に進みます。
 - 既存のプロファイルを更新する場合は、[デバイスプロファイルのデフォルト (Device Profile Defaults)] ペインから、更新するデバイス プロファイルをクリックします。[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。「**ステップ 3**」に進みます。
- ステップ 3** プロファイルに適切な設定値を入力します (表 97-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.97-8) を参照してください。

デフォルト デバイス プロファイルの削除

デフォルト デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** [デフォルトのデバイスプロファイル (Default Device Profile)] ペインから、削除するデバイス プロファイルをクリックします。
- [デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile)] ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消すことができないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** デフォルト デバイス プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.97-8) を参照してください。

関連項目

- 「[デフォルト デバイス プロファイルの設定値](#)」(P.97-1)
- 「[デフォルト デバイス プロファイルの設定](#)」(P.97-7)
- 「[デフォルト デバイス プロファイルの削除](#)」(P.97-8)



CHAPTER 98

デバイス プロファイルの設定

デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、名前、説明、電話テンプレート、アドオン モジュール、ソフトキー テンプレート、機能設定、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、電話番号、登録済みサービス、短縮ダイヤル情報などが含まれています。ユーザにユーザ デバイス プロファイルを割り当てると、ユーザがデバイスにログインしたときに、そのユーザに割り当てたユーザ デバイス プロファイルが、デフォルト ログイン デバイス プロファイルとしてそのデバイスにロードされます。ユーザ デバイス プロファイルが電話機にロードされると、電話機はそのデバイス プロファイルの属性を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルは、特定のデバイスのデフォルト ログアウト デバイス プロファイルとして割り当てることができます。たとえば、ユーザが電話機からログアウトすると、ログアウト デバイス プロファイルが電話機にロードされ、ログアウト デバイス プロファイルの属性がその電話機に指定されます。[Cisco Unified CMの管理(Cisco Unified CM Administration)] ウィンドウで、ユーザ デバイス プロファイルの作成、変更、削除を実行できます。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルとして使用されている場合は、ユーザ デバイス プロファイルを削除できません。

Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プロファイル デフォルトもサポートしていません。ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときにはいつでも、デバイス プロファイル デフォルトを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデフォルト デバイス プロファイルを作成するには、[デフォルトのデバイス プロファイル設定(Default Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用します。デバイス プロファイル デフォルトの最大数は、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。デバイス プロファイル デフォルトの詳細については、「[デフォルト デバイス プロファイルの設定](#)」(P.97-1) を参照してください。

デバイス プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- 「[デバイス プロファイルの設定値](#)」(P.98-2)
- 「[デバイス プロファイルの検索](#)」(P.98-9)
- 「[デバイス プロファイルの設定](#)」(P.98-10)
- 「[デバイス プロファイルの削除](#)」(P.98-12)

デバイス プロファイルの設定値

デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、名前、説明、電話テンプレート、アドオン モジュール、ソフトキー テンプレート、機能設定、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、電話番号、登録済みサービス、短縮ダイヤル情報などが含まれています。ユーザにユーザ デバイス プロファイルを割り当てると、ユーザがデバイスにログインしたときに、そのユーザに割り当てたユーザ デバイス プロファイルが、デフォルト ログイン デバイス プロファイルとしてそのデバイスにロードされます。ユーザ デバイス プロファイルが電話機にロードされると、電話機はそのデバイス プロファイルの属性を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルは、特定のデバイスのデフォルト ログアウト デバイス プロファイルとして割り当てることができます。たとえば、ユーザが電話機からログアウトすると、ログアウト デバイス プロファイルが電話機にロードされ、ログアウト デバイス プロファイルの属性がその電話機に指定されます。[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] ウィンドウで、ユーザ デバイス プロファイルの作成、変更、削除を実行できます。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルとして使用されている場合は、ユーザ デバイス プロファイルを削除できません。

Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プロファイル デフォルトもサポートしています。ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デバイス プロファイル デフォルトを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデフォルト デバイス プロファイルを作成するには、[デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用します。デバイス プロファイル デフォルトの最大数は、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。デバイス プロファイル デフォルトの詳細については、「[デフォルト デバイス プロファイルの設定](#)」(P.97-1) を参照してください。

始める前に

電話ボタン テンプレートが設定済みであることを確認してからデバイス プロファイルを設定してください。詳細については、「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」(P.99-4) を参照してください。

表 98-1 では、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.98-13) を参照してください。

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値

フィールド	説明
[ユーザデバイスプロファイル情報 (User Device Profile Information)]	
[製品のタイプ (Product Type)]	このフィールドには、このデバイス プロファイルを適用する製品のタイプが表示されます。
[デバイスプロトコル (Device Protocol)]	このフィールドには、このデバイス プロファイルを適用するデバイス プロトコルが表示されます。
[デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)]	固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。
[説明 (Description)]	デバイス プロファイルの説明を入力します。この特定のユーザ デバイス プロファイルを説明する内容を入力してください。

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)] ドロップダウン リスト ボックスからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>(注) オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer のマニュアルを参照してください。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストから、電話ボタン テンプレートを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス モニタリングのためにプロファイルに BLF/短縮ダイヤルを設定する場合は、BLF/短縮ダイヤル用に設定した電話ボタン テンプレートを選択します。設定の保存後、[割り当て情報 (Association Info)] ペインに [新規 BLF SD を追加 (Add a New BLF SD)] リンクが表示されます。BLF/短縮ダイヤルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」を参照してください。</p>
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、表示するソフトキー テンプレートを選択します。
[プライバシ (Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする各電話機について、[プライバシ (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスから [オン (On)] を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : このデバイスで、ユーザはワンボタン割り込み / C 割り込み機能を使用できなくなります。 • [割り込み (Barge)] : このオプションを選択すると、ユーザは電話機のワンボタン割り込みシェアドライン ボタンを押し、割り込みを使用してコールに割り込むことができます。 • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、サービス パラメータおよびデバイス プールの設定からワンボタン割り込み / C 割り込みの設定を取得します。 <p> (注) サービス パラメータとデバイス プールの設定が異なる場合、デバイスはサービス パラメータの設定から取得します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[回線をまたいで参加 (Join Across Lines)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : このデバイスで、ユーザは回線をまたいで参加機能を使用できなくなります。 • [オン (On)] : このデバイスで、ユーザは複数の回線をまたいでコールに参加できるようになります。 • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、サービス パラメータおよびデバイス プールの設定から、回線をまたいで参加の設定を取得します。 <p> (注) サービス パラメータとデバイス プールの設定が異なる場合、デバイスはサービス パラメータの設定から取得します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」を参照してください。</p>

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話機のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフ フック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話機のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line サービス パラメータの設定を使用します。
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態の場合に電話機のメッセージ ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブな回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は、ボイス メッセージが設定されている最初の回線を常に選択します。ボイス メッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話機のユーザがメッセージ ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line for Voice Message サービス パラメータの設定を使用します。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>ヒント この設定は、トランスレーション パターンレベルで発呼者回線 ID の表示と接続先回線 ID の表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
[サイレント (Do Not Disturb)]	<p>Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にした場合、このパラメータでは、DND 機能が着信コールをどのように処理するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定したかに応じて、電話機はピープ音を再生したり、コールのフラッシュ通知を表示したりします。 • [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションは、呼出音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。 • [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND オプション (DND Option)] の設定値をデバイスに使用するよう指定します。 <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話機の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけです。モバイルデバイスとデュアルモード電話機の場合、選択できるのは [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけです。モバイルデバイスまたはデュアルモード電話機に対して DND の [コール拒否 (Call Reject)] を有効にすると、コール情報はデバイスに表示されなくなります。</p>
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話機でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定値をデバイスに使用するよう指定します。 • [無効 (Disable)] : このオプションは、コールを通知するピープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートは表示されず、情報はデバイスに送信されません。 • [ピープ音のみ (Beep Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のピープ音だけが再生されます。 • [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話機のフラッシュアラートだけが表示されます。

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[クラスタ CSS 間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster CSS)]	<p>このドロップダウン リスト ボックス から、この デバイス プロファイル で クラスタ 間の エクステンション モビリティ 機能 に 使用する 既存 の Calling Search Space (CSS; コーリング サーチ スペース) を 選択 します (新しい CSS を 設定 したり、既存 の CSS を 変更 したり するには、Cisco Unified Communications Manager の 管理 ページ で [コール ルーティング (Call Routing)] > [コントロール の クラス (Class of Control)] > [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] を 選択 します)。</p> <p>デフォルト 値 は、[なし (None)] です。</p> <p>組織 内 管理者 が この CSS を 指定 します。ユーザ が この リモート 電話 機 に ログイン すると、指定 された CSS が デバイス CSS と して 電話 機 に 割り 当て られます。詳細 について は、『Cisco Unified Communications Manager 機能 および サービス ガイド』の「Cisco クラスタ 間の エクステンション モビリティ」の 章 の「EMCC コール ルーティング」を 参照 してください。</p>
[拡張 モジュール 情報 (Expansion Module Information)]	
[モジュール 1 (Module 1)]	<p>拡張 モジュール フィールド の 拡張 モジュール ドロップダウン リスト から 電話 テンプレート を 選択 して、この デバイス プロファイル 用 の 1 つ または 2 つ の 拡張 モジュール を 設定 できます。</p> <p>適切な 拡張 モジュール を 選択 するか、または [なし (None)] を 選択 します。</p>
[モジュール 2 (Module 2)]	<p>適切な 拡張 モジュール を 選択 するか、または [なし (None)] を 選択 します。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>この ユーザ デバイス プロファイル を MLPP 優先 コール に 使用する 場合は、ドロップダウン リスト ボックス から MLPP ドメイン を 選択 します。</p> <p>(注) MLPP ドメイン は、[MLPP ドメイン の 設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウ で 定義 します。この ウィンドウ を 開く には、[システム (System)] > [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] の 順 に 選択 します。</p>

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値をデバイス プロファイルに割り当てます。優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイス プロファイルは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。</p>

表 98-1 デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ログアウト(デフォルト)プロファイル情報(Logged Out (Default) Profile Information)]	
[ログインユーザ ID(Login User Id)]	[ログインユーザ ID(Login User Id)] ドロップダウン リスト ボックスから、有効なログイン ユーザ ID を選択します。 (注) ログアウト プロファイルとしてデバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。

デバイス プロファイルの検索

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)] の順に選択します。

[デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]** に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.98-13) を参照してください。

デバイス プロファイルの設定

ユーザ デバイス プロファイルには、デバイス プロファイル名、説明、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、機能設定、MLPP 情報、電話番号、登録済みのサービス、および短縮ダイヤル情報などの属性が入っています。ユーザ デバイス プロファイルを追加または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話ボタン テンプレートが設定済みであることを確認してから手順に進んでください。詳細については、「電話ボタン テンプレートの設定」(P.99-4) を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイスプロファイル (Device Profile)] の順に選択します。

[デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のデバイス プロファイルをコピーする場合は、適切なデバイス プロファイルを見つけ（「[デバイス プロファイルの検索](#)」(P.98-9) を参照）、コピーするデバイス プロファイルの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックして、「[ステップ 5](#)」に進みます。
- 新しいデバイス プロファイルを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存のデバイス プロファイルを更新する場合は、適切なデバイス プロファイルを見つけ（「[デバイス プロファイルの検索](#)」(P.98-9) を参照）、「[ステップ 5](#)」に進みます。



(注) デバイス プロファイルを更新する前に、更新するデバイス プロファイルが Cisco Unified Communications Manager に設定されていることを確認してください。

ステップ 3 [デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス タイプを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスプロファイルプロトコルの選択 (Select the device profile protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、デバイス プロファイルのプロトコルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

- ステップ 5** 適切な設定値を入力します（「表 98-1」を参照）。
- ステップ 6** [保存(Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [割り当て情報(Association Info)] ペインから、デバイス プロファイルの電話番号、短縮ダイヤル、およびインターコム電話番号を設定できます。ここで説明する設定については、「電話番号の設定」(P.61-1)、「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1)、および「インターコム電話番号の設定」(P.48-1) を参照してください。
- ステップ 8** [ボタン項目を変更(Modify Button Items)] をクリックすると、[電話のボタンの並び替え設定(Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話ボタン テンプレートのボタン項目を管理する場合は、このウィンドウを使用します。このウィンドウの適切な設定については、「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」(P.92-46) を参照してください。



(注) ユーザ デバイス プロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスにログインする必要があります。

追加設定

[デバイスプロファイルの設定(Device Profile Configuration)] ウィンドウの右上の [関連リンク(Related Links)] ドロップダウン リストのリンクを使用すると、作成したデバイス プロファイルに関連する追加設定を実行できます。追加の項目を設定するには、次のリンクを参照してください。

- [新規ラインアピアランスの追加(Add a New Line Appearance)] : デバイス プロファイルに新規ラインアピアランスを追加するには、このリンクを選択して [移動(Go)] をクリックします。[電話番号の設定(Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイス プロファイルに関連付けられた新規 DN を設定できます。このウィンドウのフィールドの詳細については、「電話番号の設定値」(P.61-1) を参照してください。
- [短縮ダイヤルの追加/更新(Add/Update Speed Dials)] : デバイス プロファイルに関連付けられた短縮ダイヤル設定を追加または更新するには、このリンクを選択して [移動(Go)] をクリックします。[短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定(Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイス プロファイルに関連付けられる短縮ダイヤルを設定できます。このウィンドウの設定の詳細については、「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」(P.92-41) を参照してください。
- [ビジーランプフィールド短縮ダイヤルの追加/更新(Add/Update Busy Lamp Field Speed Dials)] : デバイス プロファイルに関連付けられたビジー ランプ フィールド短縮ダイヤル設定を追加または更新するには、このリンクを選択して [移動(Go)] をクリックします。[ビジーランプフィールド短縮ダイヤルの設定(Busy Lamp Field Speed Dial Configuration)] ウィンドウが開き、このデバイス プロファイルに関連付けられるビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルを設定できます。このウィンドウの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「BLF/短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。
- [ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの追加/更新(Add/Update Busy Lamp Field Directed Call Park)] : デバイス プロファイルに関連付けられたビジー ランプ フィールドダイレクトコールパーク設定を追加または更新するには、このリンクを選択して [移動(Go)] をクリックします。[ビジーランプフィールドダイレクトコールパークの設定(Busy Lamp Field Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示され、このデバイス プロファイルに関連付けられるビジーランプフィールド/ダイレクトコールパークの設定を設定できます。このウィンドウの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「BLF/ダイレクトコールパークの設定項目」を参照してください。

- [サービス URL ボタンの追加または更新(Add/Update Service URL Buttons)] : デバイス プロファイルに関連付けられたサービス URL ボタンを追加または更新するには、このリンクを選択して [移動 (Go)] をクリックします。[サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for)] ウィンドウが開き、このデバイス プロファイルに関連付けられたサービス URL ボタンを設定できます。このウィンドウの設定の詳細については、「[サービス URL ボタンの設定](#)」(P.92-44) を参照してください。
- [サービスの登録/登録解除(Subscribe/Unsubscribe Services)] : デバイス プロファイルに関連付けられた IP Phone サービスを登録または登録解除するには、このリンクを選択して [移動 (Go)] をクリックします。[登録済みの Cisco IP Phone サービス (Subscribed Cisco IP Phone Services)] ウィンドウが表示され、このデバイス プロファイルに関連付ける Cisco IP Phone サービスを登録または登録解除できます。このウィンドウの設定の詳細については、「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.92-42) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.98-13) を参照してください。

デバイス プロファイルの削除

ユーザ デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プロファイルがデバイスに割り当てられている場合、そのデバイス プロファイルは削除できません。デバイス プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のデバイス プロファイルを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager ではメッセージが表示されます。現在使用されているデバイス プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のデバイス プロファイルを割り当てます。
- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスを削除します。

手順

-
- ステップ 1** 削除するユーザ デバイス プロファイルを検索します。「[デバイス プロファイルの検索](#)」(P.98-9) を参照してください。
- ステップ 2** [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、[削除 (Delete)] をクリックします。
この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 3** デバイス プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。



(注) ユーザ デバイス プロファイルが、デフォルトのログアウト デバイス プロファイルとして設定されている場合は、そのデバイス プロファイルを削除できません。ログアウト デバイス プロファイルを削除する場合は、そのデバイス プロファイルに対するログアウト デバイス プロファイルの指定を変更し、別のデバイス プロファイルをその電話機のログアウト デバイス プロファイルとして設定する必要があります。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルではなくなった後、削除できます。

追加情報

「関連項目」(P.98-13) を参照してください。

関連項目

- 「デバイス プロファイルの設定値」(P.98-2)
- 「デバイス プロファイルの検索」(P.98-9)
- 「デバイス プロファイルの設定」(P.98-10)
- 「デバイス プロファイルの削除」(P.98-12)

電話番号

- 「電話番号の設定」(P.61-1)
- 「電話番号の設定値」(P.61-1)

回線をまたいで参加

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話番号の概要」

ワンボタン割り込み/IC 割り込み

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」

プレゼンス

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

ダイレクト コール パーク

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクト コールパーク」

電話機の設定

- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1)

Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」



CHAPTER 99

電話ボタン テンプレートの設定

Cisco Unified Communications Manager には、デフォルトの電話ボタン テンプレートがいくつか組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートから 1 つを選んで電話機に割り当てることができます。あるいは、テンプレートを新規に作成することができます。

テンプレートを作成して使用すると、共通するボタン設定を大量の電話機に容易に割り当てることができます。たとえば、ある会社で会議機能を使用しない場合は、このボタンを別の機能（たとえば、短縮ダイヤル）に割り当て直すテンプレートを作成し、電話機にその機能を容易に割り当てることができます。

どの電話機にも、最低 1 回線が割り当てられていることを確認してください。通常、この回線にはボタン 1 を使用します。Cisco Unified IP Phone のモデルによっては、追加の回線を電話機に割り当てることができます。また、電話機には、一般に短縮ダイヤルや自動転送などのいくつかの機能がありますが、Cisco Unified IP Phone でもこれらの機能はそれぞれのボタンに割り当てられます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「電話ボタン テンプレートの設定値」 (P.99-1)
- 「電話ボタン テンプレートの検索」 (P.99-2)
- 「電話ボタン テンプレートの設定」 (P.99-4)
- 「Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートの設定」 (P.99-5)
- 「電話ボタン テンプレートの削除」 (P.99-6)
- 「関連項目」 (P.99-7)

電話ボタン テンプレートの設定値

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco Unified IP Phone の各モデルに対応したデフォルトテンプレートが複数組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートのいずれかを電話機に割り当てることができます。または、独自のテンプレートを作成することもできます。

管理者が作成したカスタム非標準テンプレートは変更できます。また、カスタム電話ボタン テンプレートのラベルも変更できます。デフォルトテンプレートのボタンの機能は、変更できません。

カスタム非標準電話ボタン テンプレートを更新することにより、機能を追加または削除したり、回線と短縮ダイヤルを追加または削除したり、機能、回線、短縮ダイヤルを電話機上の別のボタンに割り当てることができます。デフォルト電話テンプレートのボタン ラベルは変更することができますが、ボタンの機能は変更できません。電話テンプレートを更新する場合には、必ず、影響を受けるユーザにその変更を知らせてください。

Programmable Line Key (PLK; プログラム可能な回線キー) 機能は、発信、折返し、終了、不在転送など、通常はソフトキーによって制御される機能が含まれるように、回線ボタンに割り当てることができる機能のリストを拡張します。

Cisco Unified IP Phone のテンプレートを作成する場合は、自動登録中にその電話機のデフォルト テンプレートを変更できます。「[デバイス デフォルトの更新](#)」(P.95-2) を参照してください。

始める前に

カスタム非標準電話ボタン テンプレートを作成する場合は、電話ボタン テンプレートの新規作成ガイドラインとして『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン](#)」を参照してください。

表 99-1 では、電話ボタン テンプレートの設定値について説明します。

表 99-1 電話ボタン テンプレートの設定値

フィールド	説明
[電話ボタンテンプレート情報 (Phone Button Template Information)]	
[ボタンテンプレート名 (Button Template Name)]	テンプレートを識別するために Cisco Unified Communications Manager が使用する固有の名前を入力します。
[ボタン情報 (Button Information)]	
[機能 (Feature)]	テンプレートに指定する電話ボタンの機能を選択します。プログラム可能な回線キー機能は、迷惑呼、サイレント、コールパーク、コールピックアップアップなど、回線ボタンに割り当てることができる複数の機能を提供します。 (注) デフォルト電話ボタン テンプレートのボタン機能は、変更できません。
[ラベル (Label)]	ボタンの説明を入力します。

電話ボタン テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかの電話ボタン テンプレートが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定の電話ボタン テンプレートを見つけることができます。電話ボタン テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話ボタン テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話ボタン テンプレートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] の順に選択します。

[電話ボタン テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、標準、非表示、または両方のタイプの電話ボタン テンプレートのどれを検索するかを選択します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.99-7) を参照してください。

電話ボタン テンプレートの設定

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco Unified IP Phone の各モデルに対応したデフォルトテンプレートが複数組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートのいずれかを電話機に割り当てることができます。または、独自のテンプレートを作成することもできます。

管理者が作成したカスタム非標準テンプレートは変更できます。また、カスタム電話ボタンテンプレートのラベルも変更できます。デフォルトテンプレートのボタンの機能は、変更できません。

カスタム非標準電話ボタンテンプレートを更新することにより、機能を追加または削除したり、回線と短縮ダイヤルを追加または削除したり、機能、回線、短縮ダイヤルを電話機上の別のボタンに割り当てることができます。デフォルト電話テンプレートのボタンラベルは変更することができますが、ボタンの機能は変更できません。電話テンプレートを更新する場合には、必ず、影響を受けるユーザにその変更を知らせてください。

プログラム可能な回線キー (PLK) 機能は、発信、折返し、終了、不在転送など、通常はソフトキーによって制御される機能が含まれるように、回線ボタンに割り当てることができる機能のリストを拡張します。

カスタム非標準テンプレートの追加、名前変更、更新、あるいは機能、回線、または短縮ダイヤルの追加、削除を行う手順は、次のとおりです。

Cisco Unified IP Phone のテンプレートを作成する場合は、自動登録中にその電話機のデフォルトテンプレートを変更できます。「[デバイス デフォルトの更新](#)」(P.95-2) を参照してください。

始める前に

カスタム非標準電話ボタンテンプレートを作成する場合は、電話ボタンテンプレートの新規作成ガイドラインとして『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[電話ボタンテンプレートのカスタマイズのガイドライン](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] の順に選択します。

[電話ボタンテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の電話ボタンテンプレートの名前を変更する場合は、適切な電話ボタンテンプレートを見つけます（「[電話ボタンテンプレートの検索](#)」(P.99-2) を参照）。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ページが表示されます。[ボタンテンプレート名 (Button Template Name)] フィールドに、新しい名前を入力します。[保存 (Save)] をクリックします。テンプレートが再表示され、新しい名前を表示します。



(注) テンプレート自体の名前を変更しても、そのテンプレートを使用している電話機に影響を与えることはありません。このテンプレートを使用する Cisco Unified IP Phone はすべて、テンプレートの名前が変更された後も、このテンプレートを引き続き使用します。名前を変更できる電話ボタンテンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタンテンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

- 新しい電話ボタン テンプレートを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 3」に進みます。
- 既存の電話ボタン テンプレートを更新する場合は、適切な電話ボタン テンプレートを検索します（「電話ボタン テンプレートの検索」(P.99-2) を参照）。一致するレコードのリストから、更新する電話ボタン テンプレートを選択します。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 4」に進みます。



(注) テンプレートを更新すると、その変更は、そのテンプレートを使用するすべての電話機に反映されます。更新できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。テンプレートの更新後、[リセット (Reset)] ボタンをクリックして、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

ステップ 3 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、テンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。

新しいテンプレートは、既存のテンプレートからまったく同じものがコピーされます。新しいテンプレートに新しい名前を割り当てる必要があります。オリジナルのテンプレートとは異なるテンプレートが必要な場合には、この新規のテンプレートを変更する必要があります。

ステップ 4 該当する設定値を更新します（表 99-1 を参照）。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.99-7) を参照してください。

Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートの設定

Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール用に新しい電話ボタン テンプレートを作成するには、標準の Cisco IP Phone 電話ボタン テンプレートのいずれかをコピーして、電話ボタンを設定し、新しい電話ボタン テンプレートを保存します。

コピーする電話ボタン テンプレートを選択するには、拡張モジュールを付加する電話機モデルの電話ボタン テンプレートを選択します。たとえば、拡張モジュールを Cisco Unified IP Phone 9951 に付加する場合は、標準の 9951 SIP 電話ボタン テンプレートをコピーします。Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「電話ボタン テンプレートの検索」(P.99-2) の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、電話拡張モジュールに付加する電話機のモデルに一致する電話ボタン テンプレートを探して選択し、[コピー (Copy)] アイコンをクリックします。

ステップ 3 [ボタンテンプレート名 (Button Template Name)] に、電話ボタン テンプレートの固有の名前（たとえば「Expansion Module 1」）を入力します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 5** [機能(Feature)] および [ラベル(Label)] で、該当する設定値を更新します (表 99-1 を参照)。作成したボタン テンプレート名がすでに表示されています。
- ステップ 6** [保存(Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.99-7) を参照してください。

電話ボタン テンプレートの削除

電話ボタン テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

システム内の電話機に現在割り当てられていない電話テンプレートを削除することができます。少なくとも 1 つのデバイスまたはデバイス プロファイルが割り当てられているテンプレート、またはモデルのデフォルト テンプレート ([デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウに指定されているもの) は、削除できません。

電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを検索するには、[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用されている電話ボタン テンプレートを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用されている電話ボタン テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別の電話ボタン テンプレートを割り当てます。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。
- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを削除します。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」(P.99-2) の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する電話ボタン テンプレートを選択します。



(注) 削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。



(注) 該当する電話ボタンテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[電話ボタンテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウから複数の非標準電話ボタンテンプレートを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての電話ボタンテンプレートを削除できます。削除できる電話ボタンテンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタンテンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。

そのテンプレートが削除されたことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 続行するには、[OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.99-7) を参照してください。

関連項目

- 「[電話ボタンテンプレートの設定値](#)」(P.99-1)
- 「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」(P.92-1)
- 「[デバイス デフォルトの更新](#)」(P.95-2)
- 「[電話ボタンテンプレートの検索](#)」(P.99-2)
- 「[電話ボタンテンプレートの設定](#)」(P.99-4)
- 「[Cisco Unified IP Phone 拡張モジュールの電話ボタンテンプレートの設定](#)」(P.99-5)
- 「[電話ボタンテンプレートの削除](#)」(P.99-6)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[電話ボタンテンプレートのカスタマイズのガイドライン](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[電話ボタンテンプレート](#)」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[プログラム可能な回線キー](#)」



CHAPTER 100

ソフトキー テンプレートの設定

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、Cisco Unified IP Phone（たとえば、7970 など）がサポートしているソフトキーを管理することができます。Cisco Unified Communications Manager がサポートしているソフトキー テンプレートには、標準と非標準の 2 つのタイプがあります。ソフトキーをサポートしているアプリケーションには、1 つまたは複数の標準ソフトキー テンプレートが関連付けられています。たとえば、Cisco Unified Communications Manager には、Standard Feature および Standard User の各ソフトキー テンプレートが関連付けられています。標準ソフトキー テンプレートは変更できません。

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、非標準ソフトキー テンプレートをコピー、更新、または削除することができます。

次の各項では、ソフトキー テンプレートを設定する方法について詳しく説明します。

- 「ソフトキー テンプレートの検索」 (P.100-1)
- 「非標準ソフトキー テンプレートの作成」 (P.100-3)
- 「非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加」 (P.100-4)
- 「非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定」 (P.100-5)
- 「ソフトキー テンプレートの変更」 (P.100-6)
- 「IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て」 (P.100-9)

ソフトキー テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかのソフトキー テンプレートが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、条件を指定して、特定のソフトキー テンプレートを見つけることができます。ソフトキー テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ソフトキー テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ソフトキー テンプレートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。

[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから、標準、非表示、または両方のタイプのソフトキー テンプレートのどれを検索するかを選択します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.100-9) を参照してください。

非標準ソフトキー テンプレートの作成

Cisco Unified Communications Manager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。
[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスから、ソフトキー テンプレートを選択し、[コピー (Copy)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。
[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示され、固有のソフトキー テンプレート名、および説明を入力するためのフィールドが表示されます。このウィンドウには、コピーするソフトキー テンプレートに関連付けられたアプリケーションが表示されます。
- ステップ 4** [名前 (Name)] フィールドに、ソフトキー テンプレートを識別するための固有の名前を入力します。
- ステップ 5** テンプレートの用途の説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
- ステップ 6** 標準ソフトキー テンプレートとしてこのソフトキー テンプレートを指定するには、[デフォルトソフトキーテンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにします。

(注) デフォルト ソフトキー テンプレートとしてソフトキー テンプレートを指定した場合は、デフォルトの指定を削除しない限り、このソフトキー テンプレートを削除できません。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
ソフトキー テンプレートがコピーされ、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示されます。
- ステップ 8** 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーション ソフトキーを追加する場合は、「[非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.100-4\)](#)」を参照します。
- ステップ 9** Cisco Unified IP Phone の LCD スクリーン上でのソフトキーの位置を設定する方法については、「[非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.100-5\)](#)」を参照してください。
- ステップ 10** 設定を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目 \(P.100-9\)](#)」を参照してください。

非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加

Cisco Unified Communications Manager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートにアプリケーション ソフトキーを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「ソフトキー テンプレートの検索」(P.100-1) の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、アプリケーション ソフトキーを追加するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーション ソフトキーを追加するために、[アプリケーションを追加 (Add Application)] ボタンをクリックします。
- [アプリケーションの追加先 (Add Application to)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 非標準ソフトキー テンプレートに追加する標準ソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックし、[閉じる (Close)] をクリックします。
- 選択した標準ソフトキー テンプレートに関連するソフトキーが、非標準ソフトキー テンプレートの末尾に追加されます。重複するソフトキーは自動的に削除されます。特定のコール状態のソフトキーの数が 16 を超えると、そのコール状態のオプションのソフトキーが削除されます (最後の方から順に)。オプションのソフトキーが削除された後もソフトキーの数が 16 を超える場合は、メッセージが表示されます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。
- ステップ 7** ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.100-8) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.100-9) を参照してください。

非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定

Cisco Unified Communications Manager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートで各コール状態に対するソフトキーの位置を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 「ソフトキー テンプレートの検索」(P.100-1) の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、ソフトキーの位置を設定するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Cisco Unified IP Phone の LCD スクリーンにおけるソフトキーの位置を設定するために、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウン リスト ボックスに、IP Phone の各 Cisco Unified Communications Manager コール状態が示されます。

ステップ 4 コール状態に対するソフトキー位置を設定するために、[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウン リスト ボックスからコール状態を選択します。

[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが再表示され、選択したコール状態に該当するソフトキーが [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] ペインと [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] ペインに表示されます。



ヒント ソフトキーに関連するプレースホルダーを作成する場合は、Undefined ソフトキーを追加します。この操作によって、追加したソフトキーは、すべてのコール状態で同じソフトキー位置に置かれます。

ステップ 5 リスト間でソフトキーを移動するには、両ペインの間の右矢印と左矢印を使用します。

ステップ 6 [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] の位置を再調整するには、[選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] ペインの右側の上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックして、ソフトキー レイアウトの設定を保存します。

ステップ 8 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] リンクを選択して [移動 (Go)] をクリックし、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウに戻ります。

ステップ 9 設定を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 10** ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「[ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.100-8) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.100-9) を参照してください。

ソフトキー テンプレートの変更

作成したカスタム非標準ソフトキー テンプレートに変更を加えることができます。

- 「[ソフトキー テンプレートの名前変更](#)」(P.100-6)
- 「[ソフトキー テンプレートの削除](#)」(P.100-7)
- 「[ソフトキー テンプレートの更新](#)」(P.100-8)
- 「[ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.100-8)

追加情報

「[関連項目](#)」(P.100-9) を参照してください。

ソフトキー テンプレートの名前変更

作成した非標準ソフトキー テンプレートの名前を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[ソフトキー テンプレートの検索](#)」(P.100-1) の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、名前を変更するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 名前を変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ページが表示されます。

- ステップ 3** [名前 (Name)] フィールドに、新しい名前を入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示され、新しいソフトキー テンプレート名が表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.100-9) を参照してください。

ソフトキー テンプレートの削除

作成した非標準ソフトキー テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスまたはデバイス プールに現在割り当てられている非標準ソフトキー テンプレートは削除できません。非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスおよびデバイス プールを検索するには、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別のソフトキー テンプレートを割り当てます。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。
- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスを削除します。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。

手順

ステップ 1 「[ソフトキー テンプレートの検索](#)」(P.100-1) の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 削除できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。



(注) 該当するソフトキー テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウから複数のソフトキー テンプレートを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのソフトキー テンプレートを削除できます。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ソフトキー テンプレートが削除された状態で、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.100-9) を参照してください。

ソフトキー テンプレートの更新

作成した非標準ソフトキー テンプレートを更新する手順は、次のとおりです。テンプレート名、説明、サポートされているアプリケーション ソフトキー、およびソフトキー レイアウトは更新できます。

手順

- ステップ 1** 「ソフトキー テンプレートの検索」(P.100-1) の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、更新するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 更新できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** 変更する設定を更新します (たとえば、アプリケーション ソフトキー セットまたはソフトキー レイアウトの追加)。「非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加」(P.100-4) および「非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定」(P.100-5) を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ソフトキー テンプレートが更新された状態で、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示されます。
- ステップ 5** 影響を受けるデバイスに、更新済みのソフトキー テンプレートを適用するには、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンの詳細については、「ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化」(P.100-8) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.100-9) を参照してください。

ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと、設定を変更したソフトウェア テンプレートの設定を同期化する手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが必要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。
- [ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致するソフトキー テンプレートの一覧がウィンドウに表示されます。

- ステップ 4** 適用可能なデバイスを同期化するソフトキー テンプレートをクリックします。[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

[「関連項目」 \(P.100-9\)](#) を参照してください。

IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て

IP Phone の設定時に、ソフトキー テンプレートを IP Phone に割り当てることができます。標準ソフトキー テンプレートおよび非標準ソフトキー テンプレートを割り当てることができます。ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てるには、次の 2 つの方法があります。

- ソフトキー テンプレートを共通デバイス設定に割り当て、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、その共通デバイス設定を電話機に割り当てる。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのソフトキー テンプレート フィールドで、ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てる。

共通デバイス設定および電話機を設定する方法の詳細については、「[共通デバイス設定の設定 \(P.103-8\)](#)」および「[Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.92-34\)](#)」を参照してください。

関連項目

- 「[ソフトキー テンプレートの検索 \(P.100-1\)](#)」
- 「[非標準ソフトキー テンプレートの作成 \(P.100-3\)](#)」
- 「[ソフトキー テンプレートの変更 \(P.100-6\)](#)」
- 「[ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.100-6\)](#)」
- 「[ソフトキー テンプレートの削除 \(P.100-7\)](#)」
- 「[ソフトキー テンプレートの設置と影響を受けるデバイスとの同期化 \(P.100-8\)](#)」
- 「[IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て \(P.100-9\)](#)」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ソフトキー テンプレート](#)」



CHAPTER 101

IP Phone サービスの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用すると、サポートされている Cisco Unified IP Phone モデルに表示できる IP Phone サービスを定義および保守できます。IP Phone サービスは、一部の Cisco Unified IP Phone モデルにテキストとグラフィックスで対話式のコンテンツを表示できる、XML アプリケーションまたはシスコの署名入りの Java MIDlet で構成されています。

Cisco Unified Communications Manager にはシスコが提供するデフォルトの IP Phone サービスが用意されており、各サービスは Cisco Unified Communications Manager とともに自動的にインストールされます。また、使用中のサイトに合せてカスタマイズされた Cisco Unified IP Phone アプリケーションを作成することもできます。

サービスを設定すると、サービスがエンタープライズ登録に分類されていない場合には、データベース内の電話機にサービスを追加できます。また、電話機モデルがサービス、ディレクトリ、メッセージの各ボタン/オプションをサポートしている場合は、これらのボタン/オプションにサービスを割り当てることができます。ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションにログインし、これらの IP Phone サービスがエンタープライズ登録として分類されていない場合には Cisco Unified IP Phone にそのサービスを登録できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「IP Phone サービスの設定値」 (P.101-2)
- 「IP Phone サービス パラメータの設定値」 (P.101-6)
- 「IP Phone サービスの検索」 (P.101-7)
- 「IP Phone サービスの設定」 (P.101-10)
- 「IP Phone サービスの削除」 (P.101-11)
- 「IP Phone サービス パラメータの設定」 (P.101-12)
- 「IP Phone サービス パラメータの削除」 (P.101-13)
- 「IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」 (P.101-14)
- 「関連項目」 (P.101-15)

IP Phone サービスの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用すると、サポートされている Cisco Unified IP Phone モデルに表示できる IP Phone サービスのリストを定義および保守できます。IP Phone サービスは、一部の Cisco Unified IP Phone モデルにテキストとグラフィックスで対話式的コンテンツを表示できる、XML アプリケーションまたはシスコの署名入りの Java MIDlet で構成されています。

Cisco Unified Communications Manager にはシスコが提供するデフォルトの IP Phone サービスが用意されており、各サービスは Cisco Unified Communications Manager とともに自動的にインストールされます。また、使用中のサイトに合せてカスタマイズされた Cisco Unified IP Phone アプリケーションを作成することもできます。

サービスを設定すると、サービスがエンタープライズ登録に分類されていない場合には、データベース内の電話機にサービスを追加できます。また、電話機モデルがサービス、ディレクトリ、またはメッセージの各ボタン/オプションをサポートしている場合は、これらのボタン/オプションにサービスを割り当てることができます。ユーザは、Cisco Unified CM のユーザ オプションにログインし、これらの IP Phone サービスがエンタープライズ登録として分類されていない場合には Cisco Unified IP Phone にそのサービスを登録できます。

表 101-1 では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウに表示される IP Phone サービスの設定値について説明します。IP Phone サービス パラメータの設定値については、表 101-2 を参照してください。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.101-15) を参照してください。

表 101-1 IP Phone サービスの設定値

フィールド	説明
[サービス情報 (Service Information)]	
[サービス名 (Service Name)]	<p>サービスの名前を入力します。サービスがエンタープライズ登録としてマークが付けられていない場合は、Cisco Unified CM のユーザ オプションの下など、サービスに登録できる領域にサービス名が表示されます。入力できるサービス名は最大 32 文字です。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>Java MIDlet サービスの場合、サービス名は、Java Application Descriptor (JAD) ファイルで定義されている名前と完全に一致する必要があります。</p>
[ASCII サービス名 (ASCII Service Name)]	電話機が Unicode を表示できない場合に表示するサービス名を入力します。
[サービスの説明 (Service Description)]	サービスが提供するコンテンツの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (") および一重引用符 (!) は使用できません。

表 101-1 IP Phone サービスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[サービス URL(Service URL)]	<p>IP Phone サービスのアプリケーションが置かれているサーバの URL を入力します。このサーバが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のサーバとは無関係であることを確認してください。Cisco Unified Communications Manager サーバ、または Cisco Unified Communications Manager に関連したサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシュ サーバは指定しないでください。</p> <p>サービスを使用するには、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の電話機が、サーバとネットワーク接続する必要があります。</p> <p>シスコの署名入りの Java MIDlet の場合、JAD ファイルをダウンロードできる場所を入力します。たとえば、Java MIDlet が通信する Web サーバやバックエンド アプリケーション サーバなどです。</p> <p>シスコが提供するデフォルト サービスの場合は、サービス URL がデフォルトでは Application:Cisco/<サービス名> として表示されます。たとえば、Application:Cisco/CorporateDirectory のようになります。シスコが提供するデフォルト サービスのサービス URL を変更する場合は、[電話 (Phone)]、[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)]、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] の各ウィンドウに表示される [サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)] の値として [両方 (Both)] が設定されていることを確認してください。たとえば、独自の社内ディレクトリを使用するために、Application:Cisco/CorporateDirectory をその社内ディレクトリの外部サービス URL に変更する場合は、[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)] の値を [両方 (Both)] に変更します。</p>
[セキュアサービス URL(Secure-Service URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのアプリケーションが配置されているサーバのセキュア URL を入力します。このサーバが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のサーバとは無関係であることを確認してください。Cisco Unified Communications Manager サーバ、または Cisco Unified Communications Manager に関連したサーバ、たとえば、TFTP サーバやパブリッシュ データベース サーバは指定しないでください。</p> <p>サービスを使用するには、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の電話機が、サーバとネットワーク接続する必要があります。</p> <p>(注) [セキュアサービス URL(Secure-Service URL)] を指定しないと、デバイスでは非セキュア URL が使用されます。セキュア URL と非セキュア URL の両方を指定した場合、デバイスではデバイスの持つ機能に応じて適切な URL が選択されます。</p>
[サービスカテゴリ (Service Category)]	<p>サービス アプリケーションのタイプ (XML または Java MIDlet) を選択します。</p> <p>Java MIDlet を選択した場合、電話機は最新の設定ファイルを受信すると、指定のサービス URL からシスコの署名入りの MIDlet アプリケーション (JAD および JAR) を取得してインストールします。</p>

表 101-1 IP Phone サービスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[サービスタイプ (Service Type)]	電話機にサービス、ディレクトリ、メッセージの各ボタン/オプションがある場合、これらのボタン/オプションにサービスをプロビジョニングするかどうかを選択します。お使いの電話機にこれらのボタン/オプションがあるかどうかを確認するには、その電話機のモデルの該当する『Cisco Unified IP Phone Administration Guide』を参照してください。
[サービスベンダー (Service Vendor)]	<p>このフィールドでは、サービスのベンダー/メーカーを指定できません。このフィールドは、XML アプリケーションの場合はオプションですが、シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は必須です。</p> <p>シスコの署名入りの Java MIDlet の場合、このフィールドに入力する値は MIDlet JAD ファイルに定義されているベンダーと一致する必要があります。</p> <p>このフィールドは、シスコが提供するデフォルト サービスの場合は空白となります。</p> <p>最大 64 文字を入力できます。</p>
[サービスバージョン (Service Version)]	<p>アプリケーションのバージョン番号を入力します。</p> <p>XML アプリケーションの場合、このフィールドはオプションであり、情報提供だけを目的としています。シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は、次の点を考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> バージョンを入力する場合、その値は JAD ファイルに定義されているバージョンと一致する必要があります。入力したバージョンが電話機にインストールされているものと異なる場合、電話機は MIDlet をアップグレードまたはダウングレードしようとします。 このフィールドが空白の場合、バージョンはサービス URL から取得されます。このフィールドを空白のままにしておくと、Cisco Unified Communications Manager に電話機を再登録するたび、およびシスコの署名入りの Java MIDlet を起動するたびに、電話機は JAD ファイルのダウンロードを試みます。そのため、サービス バージョン フィールドを手動で更新しなくても、電話機は常にシスコの署名入りの Java MIDlet の最新バージョンを実行することになります。 <p>このフィールドは、シスコが提供するデフォルト サービスの場合は空白となります。</p> <p>このフィールドには、(最大 16 ASCII 文字の) 数字およびピリオドを入力できます。</p>
[有効 (Enable)]	<p>このチェックボックスを使用すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページから設定を削除 (およびデータベースからサービスを削除) しなくても、サービスを有効または無効にすることができます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、電話機の設定ファイルおよび電話機からサービスが削除されます。</p>

表 101-1 IP Phone サービスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)]	<p>このチェックボックスを使用すると、クラスタ内のデバイスのうち、サービスをサポートできるすべてのデバイスにサービスを自動的にプロビジョニングできます。このチェックボックスをオンにすると、管理者（またはエンドユーザ）はサービスに登録できません。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、サービスが電話機に表示されるようにするには、(BAT または Cisco Unified CM のユーザ オプションの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで) 手動でサービスを登録する必要があります。</p> <p>ヒント この設定値は、サービスを初めて設定するときに表示されます。サービスを保存すると、このチェックボックスはウィンドウに表示されません。</p> <p>クラスタ内のデバイスのうち、サービスをサポートできるすべてのデバイスにサービスがプロビジョニングされるかどうかを確認するには、[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウに移動し、そのサービスを表示します。[エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)] 列に [はい (true)] と表示されている場合、手動ではサービスに登録できません。[いいえ (false)] と表示されている場合は、手動でサービスを登録できます。たとえば、エンドユーザは Cisco Unified CM のユーザ オプションを使用してサービスに登録できます。</p>
[サービスパラメータ情報 (Service Parameter Information)]	
[パラメータ (Parameters)]	<p>この IP Phone サービスに適用されるサービス パラメータが表示されます。このペインでは、次のボタンを使用してサービス パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [新規パラメータ (New Parameter)] : [Cisco Unified IP Phone サービスパラメータを設定 (Configure Cisco Unified IP Phone Service Parameter)] ウィンドウを表示して、この IP Phone サービスに適用する新しいサービス パラメータを設定できます。 • [パラメータの編集 (Edit Parameter)] : [パラメータ (Parameters)] ペインでこの IP Phone サービスに適用されるサービス パラメータを選択してから、このボタンをクリックすると、[Cisco Unified IP Phone サービスパラメータを設定 (Configure Cisco Unified IP Phone Service Parameter)] ウィンドウが表示され、選択したサービス パラメータを編集できます。 • [パラメータの削除 (Delete Parameter)] : [パラメータ (Parameters)] ペインでこの IP Phone サービスに適用されるサービス パラメータを選択してからこのボタンをクリックすると、そのサービス パラメータを削除できます。その際、ポップアップ ウィンドウが表示され、削除の確認が求められます。 <p>IP Phone サービスに適用されるサービス パラメータの設定の詳細については、「IP Phone サービス パラメータの設定値」(P.101-6) を参照してください。</p>

IP Phone サービス パラメータの設定値

IP Phone サービス パラメータを設定する前に、電話サービスを追加します。サービスがパラメータを使用するかどうか、パラメータを設定する方法、およびオプションのパラメータを定義するかどうかについては、各 IP Phone サービスの資料を参照してください。



ヒント

ユーザが加入している電話サービスに対して、IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、[登録の更新(Update Subscriptions)] をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

デバイスを IP Phone サービスに登録する場合、[登録の更新(Update Subscriptions)] を複数回クリックするとエラーになります。複数の電話機を更新する場合、すべてのデバイスに変更が反映されるまでに、少し時間がかかることがあります。[登録の更新(Update Subscriptions)] を 1 回だけクリックし、この反映の処理が完了するまで待ってください。

表 101-2 では、IP Phone サービス パラメータの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.101-15) を参照してください。

表 101-2 IP Phone サービス パラメータの設定値

フィールド	説明
[サービスパラメータ情報(Service Parameter Information)]	
[パラメータ名(Parameter Name)]	登録 URL の作成時に使用する正確なクエリー スtring パラメータ、たとえば、「symbol」を入力します。
[パラメータ表示名(Parameter Display Name)]	Cisco Unified CM のユーザ オプションでユーザに対して表示されるパラメータの内容を表す名前（たとえば「Ticker Symbol」など）を入力します。
[デフォルト値(Default Value)]	パラメータのデフォルト値を入力します。この値は、サービスの最初の登録時にユーザに対して表示されます（たとえば、「CSCO」）。
[パラメータの説明(Parameter Description)]	パラメータの説明を入力します。ユーザは、サービスに登録する際、ここに入力されたテキストにアクセスできます。このパラメータの説明では、ユーザがそのパラメータに正しい値を入力するために役立つ情報や例を提供します。 説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[パラメータは必須(Parameter is Required)]	登録を保存する前に、ユーザがこのパラメータにデータを入力する必要がある場合は、[パラメータは必須(Parameter is Required)] チェックボックスをオンにします。
[パラメータはパスワード(Parameter is a Password、コンテンツをマスクする)]	Cisco Unified CM のユーザ オプション内の入力内容を隠すことができます。したがって、実際にユーザが入力した内容ではなく、アスタリスクが表示されます。他人に見られたくないパスワードのパラメータなどに対して、使用することができます。パラメータの入力内容を隠すには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [Cisco IP Phone サービスパラメータを設定(Configure Cisco IP Phone Service Parameter)] ウィンドウで、[パラメータはパスワード(Parameter is a Password、コンテンツをマスクする)] チェックボックスをオンにします。

IP Phone サービスの検索

ネットワーク内にはいくつかの IP Phone サービスが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の IP Phone サービスを見つけることができます。IP Phone サービスを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、IP Phone サービスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、IP Phone サービスの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] の順に選択します。

[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます (シスコが提供するデフォルトの IP Phone サービスについては、表 101-3 を参照してください)。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

シスコが提供するデフォルトの IP Phone サービス

表 101-3 に、シスコが提供するデフォルトの IP Phone サービスを示します。これらのサービスは、検索パラメータとして IP Phone サービスを指定してから [検索 (Find)] をクリックすると表示されます。Cisco Unified Communications Manager は、表 101-3 に示したシスコが提供するデフォルト サービスを自動的にプロビジョニングします。これらのサービスを更新するには、[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウで該当するリンクをクリックします。サービスの名前、電話機でデフォルト サービスが表示される場所、およびサービス URL を変更できます。デフォルト サービスのサービス URL を変更する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)]、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)]、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] の各ウィンドウに表示される [サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)] ドロップダウン リスト ボックスから [両方 (Both)] を選択します。



ヒント

一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、IP Phone サービスはサポートされていません。お使いの電話機モデルでのサポート状況を確認するには、『Cisco Unified IP Phone Administration Guide』を参照してください。

表 101-3 シスコが提供するデフォルト サービス

デフォルト サービス	説明
Corporate Directory	<p>この XML サービスを使用すると、電話機に社内ディレクトリを表示できます。デフォルトでは、ディレクトリ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のディレクトリ ボタン/オプションを押すと、社内ディレクトリ オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は Application: Cisco/CorporateDirectory です。デフォルトでは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機に社内ディレクトリが自動的に表示され、管理者（またはエンドユーザ）はサービスに登録できません。</p> <p>カスタム ディレクトリをサポートするために [社内ディレクトリ (Corporate Directory)] オプションを更新した場合、たとえば、カスタム ディレクトリを指すようにサービス URL を更新した場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)]、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)]、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] の各ウィンドウに表示される [サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)] ドロップダウン リスト ボックスから [両方 (Both)] を選択してください。</p>
Intercom Calls	<p>この XML サービスを使用すると、電話機にインターコム コールの履歴記録を表示できます。デフォルトでは、ディレクトリ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のディレクトリ ボタン/オプションを押すと、インターコム履歴オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は Application: Cisco/IntercomCalls です。このサービスは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機に自動的に表示されません。このため、手動でサービスに登録する必要があります。たとえば、Cisco Unified CM のユーザ オプションでサービスに登録できます。</p>

表 101-3 シスコが提供するデフォルト サービス (続き)

デフォルト サービス	説明
Missed Calls	この XML サービスを使用すると、電話機に不在着信を表示できます。デフォルトでは、ディレクトリ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のディレクトリ ボタン/オプションを押すと、不在着信オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は <code>Application:Cisco/MissedCalls</code> です。デフォルトでは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機に不在着信オプションが自動的に表示され、管理者 (またはエンドユーザ) はサービスに登録できません。
Personal Directory	この XML サービスを使用すると、電話機ユーザはパーソナル ディレクトリを使用できます。デフォルトでは、ディレクトリ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のディレクトリ ボタン/オプションを押すと、パーソナル ディレクトリ オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は <code>Application:Cisco/PersonalDirectory</code> です。デフォルトでは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機にパーソナル ディレクトリ オプションが自動的に表示され、管理者 (またはエンドユーザ) はサービスに登録できません。
Placed Calls	この XML サービスを使用すると、ユーザの発信履歴を電話機に表示できます。デフォルトでは、ディレクトリ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のディレクトリ ボタン/オプションを押すと、発信履歴オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は <code>Application:Cisco/PlacedCalls</code> です。デフォルトでは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機に発信履歴オプションが自動的に表示され、管理者 (またはエンドユーザ) はサービスに登録できません。
Received Calls	この XML サービスを使用すると、受信履歴を電話機に表示できます。デフォルトでは、ディレクトリ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のディレクトリ ボタン/オプションを押すと、受信履歴オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は <code>Application:Cisco/ReceivedCalls</code> です。デフォルトでは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機に受信履歴オプションが自動的に表示され、管理者 (またはエンドユーザ) はサービスに登録できません。
Voicemail	この XML サービスを使用すると、ユーザは電話機でボイス メッセージを取得できます。デフォルトでは、メッセージ ボタン/オプションがある電話機の場合、ユーザが電話機のメッセージ ボタン/オプションを押すと、ボイスメール オプションが表示されます。デフォルトでは、サービス URL は <code>Application:Cisco/Voicemail</code> です。デフォルトでは、クラスタ内のサービスをサポートするすべての電話機にボイスメール オプションが自動的に表示され、管理者 (またはエンドユーザ) はサービスに登録できません。

追加情報

「関連項目」(P.101-15) を参照してください。

IP Phone サービスの設定

IP Phone サービスを追加または更新する手順は、次のとおりです。

**注意**

IP Phone サービスは、サイトの Cisco Unified Communications Manager サーバ上、または Cisco Unified Communications Manager に関連付けられているサーバ、たとえば、TFTP サーバやパブリッシャ データベース サーバ上に設定しないでください。サーバを分離することにより、IP Phone サービスのアプリケーションのエラーが原因で、Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスが影響を受けたり、コール処理サービスが中断される可能性があります。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] の順に選択します。

[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- IP Phone サービスを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存の IP Phone サービスを更新する（たとえば、サービス URL などの情報を変更する）場合は、対象となる IP Phone サービスを見つけます（「[IP Phone サービスの検索](#)」(P.101-7) を参照）。更新する IP Phone サービスの名前をクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 101-1 を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

必要に応じて、パラメータを追加、更新、または削除できます。「[IP Phone サービス パラメータの設定](#)」(P.101-12) および「[IP Phone サービス パラメータの削除](#)」(P.101-13) を参照してください。

ステップ 5 [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直します。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。



(注) ユーザが加入している電話サービスに対して、サービス URL を変更したり、IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[電話の設定 (Phone Configuration)]、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)]、[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] の各ウィンドウに表示される [サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)] の値を設定します。

追加情報

「関連項目」(P.101-15) を参照してください。

IP Phone サービスの削除



ヒント

IP Phone サービスを Cisco Unified Communications Manager の管理から削除するのではなく無効にすることを強く推奨します。IP Phone サービスを無効にすると、そのサービスはデータベースから削除されるのではなく、電話機に表示されなくなります。IP Phone サービスを削除すると、データベースからも削除されます。IP Phone サービスを無効にするには、[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)]) で目的のサービスを無効にします。

IP Phone サービスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

IP Phone サービスを削除すると、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのサービス情報、ユーザ サブスクリプション、およびユーザ サブスクリプション データをデータベースから削除します。IP Phone サービスを使用しているデバイスを検索するには、[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスにある [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の IP Phone サービスを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されている IP Phone サービスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する IP Phone サービスを使用しているデバイスすべてに、別の IP Phone サービスを割り当てます。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。
- 削除する IP Phone サービスを使用しているデバイスを削除します。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 「[IP Phone サービスの検索](#)」(P.101-7) の手順を使用して、IP Phone サービスを検索します。
- ステップ 2** 削除する IP Phone サービスの名前をクリックします。
[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ウィンドウが更新され、その IP Phone サービスがデータベースから削除されます。

追加情報

「関連項目」(P.101-15) を参照してください。

IP Phone サービス パラメータの設定

IP Phone サービス パラメータを追加して設定する、または更新する手順は、次のとおりです。パラメータを設定する前に、電話サービスを追加してください。サービスがパラメータを使用するかどうか、パラメータを設定する方法、およびオプションのパラメータを定義するかどうかについては、各 IP Phone サービスの資料を参照してください。

手順

ステップ 1 「IP Phone サービスの検索」(P.101-7) の手順を使用して、IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 [IP Phone サービス (IP Phone Service)] リストから、パラメータの追加または既存のパラメータの更新を行うサービスを選択します。

[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい電話サービス パラメータを追加する場合は、[パラメータ (Parameters)] リストボックスの右側にある [新規 (New)] ボタンをクリックします。[Cisco IP Phone サービスパラメータを設定 (Configure Cisco IP Phone Service Parameter)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 4」に進みます。
- 既存のパラメータを更新する場合は、[パラメータ (Parameters)] リストボックスで、更新するパラメータの名前を選択します。[編集 (Edit)] をクリックし、「ステップ 4」に進みます。

ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 101-2 を参照)。

新規パラメータを追加するには、[保存 (Save)] をクリックします。続けて他のパラメータを追加する場合は、必要に応じて、[Cisco IP Phone サービスパラメータを設定 (Configure Cisco IP Phone Service Parameter)] ウィンドウで [新規追加 (Add New)] をクリックし、「ステップ 3」および「ステップ 4」を繰り返します。最後のパラメータを追加する場合は、[保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。

更新対象のパラメータに変更内容を適用するには、[保存 (Save)] をクリックします。変更内容を適用した後、ウィンドウを閉じるには、[保存して閉じる (Save and Close)] をクリックします。

ステップ 5 [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直します。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。



(注) ユーザが加入している電話サービスに対して、IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、[登録の更新(Update Subscriptions)] をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

デバイスを IP Phone サービスに登録する場合、[登録の更新(Update Subscriptions)] を複数回クリックするとエラーになります。複数の電話機を更新する場合、すべてのデバイスに変更が反映されるまでに、少し時間がかかることがあります。[登録の更新(Update Subscriptions)] を 1 回だけクリックし、この反映の処理が完了するまで待ってください。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、[保存(Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.101-15) を参照してください。

IP Phone サービス パラメータの削除

IP Phone サービス パラメータを削除する手順は、次のとおりです。



(注) ユーザが加入している電話サービスに対して、電話サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、[登録の更新(Update Subscriptions)] をクリックし、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させる必要があります。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

手順

- ステップ 1** 「IP Phone サービスの検索」(P.101-7) の手順を使用して、IP Phone サービスを検索します。
- ステップ 2** [IP Phone サービス (IP Phone Service)] リストから、パラメータを削除する電話サービスを選択します。
- ステップ 3** [パラメータ (Parameters)] リスト ボックスで、削除するパラメータの名前を選択します。
- ステップ 4** [パラメータの削除 (Delete Parameter)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 5** [OK] をクリックして、削除を確認します。
- ステップ 6** [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。
 - サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直します。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。

[登録の更新 (Update Subscriptions)] を複数回クリックすると、エラーになります。複数の電話機を更新する場合、すべてのデバイスに変更が反映されるまでに、少し時間がかかることがあります。[登録の更新 (Update Subscriptions)] を 1 回だけクリックし、この反映の処理が完了するまで待つ必要があります。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.101-15) を参照してください。

IP Phone サービスの電話ボタンへの追加

必要に応じて、サービス URL として設定される電話ボタン（短縮ダイヤル ボタン）にサービスを割り当てることができます。

デフォルトでは、[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウに設定した値に応じて、電話機のディレクトリ、メッセージ、サービスのいずれかのボタン/オプションの下に IP Phone サービスを表示できます。そのため、IP Phone サービスを短縮ダイヤルとして表示する場合には、電話ボタンにそのサービスを追加します。

この手順は、エンタープライズ登録としてマークが付けられていない IP Phone サービスに対してだけ実行できます。サービス URL にサービスを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager にサービスを追加します（「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.101-10) を参照）。
- ステップ 2** サービス URL ボタンを設定して、電話ボタン テンプレートをカスタマイズします（「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」(P.99-4) を参照）。
- ステップ 3** カスタマイズした電話ボタン テンプレートを電話機に追加します（「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」(P.92-34) を参照）。
- ステップ 4** サービスを電話機に登録します（「[IP Phone サービスの設定](#)」(P.92-42) を参照）。
- ステップ 5** サービス URL を電話ボタンに追加します（「[サービス URL ボタンの設定](#)」(P.92-44) を参照）。

追加情報

「関連項目」(P.101-15) を参照してください。

関連項目

- 「IP Phone サービスの設定値」(P.101-2)
- 「IP Phone サービス パラメータの設定値」(P.101-6)
- 「IP Phone サービスの検索」(P.101-7)
- 「IP Phone サービスの設定」(P.101-10)
- 「IP Phone サービスの削除」(P.101-11)
- 「IP Phone サービス パラメータの設定」(P.101-12)
- 「IP Phone サービス パラメータの削除」(P.101-13)
- 「IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」(P.101-14)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone サービス」
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide』



CHAPTER 102

SIP プロファイルの設定

SIP プロファイルは、SIP トランクおよび SIP エンドポイントに関連付けられている一連の SIP 属性から構成されます。SIP プロファイルには、名前、説明、タイミング、リトライ、コール ピックアップ URI などの情報が含まれます。このプロファイルには、削除も変更もできない標準エントリがいくつかあります。

SIP プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- 「SIP プロファイルの設定値」(P.102-1)
- 「SIP プロファイルの検索」(P.102-11)
- 「SIP プロファイルの設定」(P.102-12)
- 「SIP プロファイルの削除」(P.102-13)
- 「SIP プロファイルのリセット」(P.102-14)
- 「SIP プロファイルと影響を受ける SIP デバイスとの同期化」(P.102-14)
- 「関連項目」(P.102-15)

SIP プロファイルの設定値

SIP プロファイルは、SIP トランクおよび SIP エンドポイントに関連付けられている一連の SIP 属性から構成されます。SIP プロファイルには、名前、説明、タイミング、リトライ、コール ピックアップ URI などの情報が含まれます。このプロファイルには、削除も変更もできない標準エントリがいくつかあります。

表 102-1 では、[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.102-15) を参照してください。

表 102-1 SIP プロファイルの設定値

フィールド	説明
[SIP プロファイル情報 (SIP Profile Information)]	
[名前 (Name)]	SIP プロファイルを識別する名前を入力します (たとえば「SIP_7905」)。この値には、1 ~ 50 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、またはアンダースコアを含む) を指定できます。
[説明 (Description)]	SIP プロファイルの目的を指定します (たとえば「SIP for 7970」)。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デフォルト MTP テレフォニー イベントペイロードタイプ (Default MTP Telephony Event Payload Type)]	<p>RFC2833 テレフォニー イベントのデフォルトペイロードタイプを指定します。詳細については、RFC 2833 を参照してください。ほとんどの場合は、デフォルト値が適切なペイロードタイプです。変更すると Dual Tone MultiFrequency (DTMF; デュアル トーン多重周波数) トーンの受信や生成ができなくなる可能性があるため、必ずこのパラメータをよく理解した上で変更してください。デフォルト値は 101 です。96 ~ 127 の範囲で指定できます。</p> <p>このパラメータの値は、次の状態のコールに影響を及ぼします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールが、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SIP コールである。 • 発信 SIP トランクに対して、SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンである。
[リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)]	<p>ドロップダウン メニューから、設定済みの [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] リストを選択します。[システム (System)] メニューからアクセスする [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)] メニューでリストを設定します。</p>
[G.Clear コールに対する早期オファー (Early Offer for G.Clear Calls)]	<p>[G.Clear コールに対する早期オファー (Early Offer for G.Clear Calls)] 機能は、標準ベースの G.Clear (CLEARMODE) と専用の Cisco Session Description Protocol (SDP) の両方をサポートします。</p> <p>[G.Clear コールに対する早期オファー (Early Offer for G.Clear Calls)] を有効または無効にするには、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] • [CLEARMODE] • [CCD] • [G.nX64] • [X-CCD]

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アプリケーションによるリダイレクト (Redirect by Application)]	<p>このチェックボックスをオンにして、SIP トランクにこの SIP プロファイルを設定すると、Cisco Unified Communications Manager の管理者は次の操作を行うことができますようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3xx 応答で受信されるリダイレクト コンタクトに特定のコーリングサーチ スペースを適用する。 • リダイレクト コンタクトに番号分析を適用し、コールが正しくルーティングされることを確認する。 • サービス パラメータが設定できるリダイレクション (再帰リダイレクション) の数を制限することにより、Denial-of-Service (DOS; サービス拒絶) 攻撃を防止する。 • リダイレクション中に他の機能を起動できるようにする。 <p>制限付きの電話番号 (国際番号など) にリダイレクトされるということは、スタック レベルでリダイレクションを処理すると、コールはブロックされずにルーティングされることを意味します。これは、[アプリケーションによるリダイレクト (Redirect by Application)] チェックボックスがオフの場合の動作です。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「リダイレクション」を参照してください。</p>
[180 で早期メディアを無効化 (Disable Early Media on 180)]	<p>デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager は、180 応答または 183 応答で SDP が受信されない場合、ローカル リングバックを再生するように、発信側の電話機に信号を送ります。180 応答または 183 応答に SDP が含まれている場合、ローカルでリングバックが再生されず、Cisco Unified Communications Manager はメディアを接続し、発信側の電話機は着信側のデバイスが送信するトーン (リングバックやビジー信号など) を再生します。リングバックを受信しない場合は、接続先のデバイスが 180 応答に SDP を含めているが、200OK 応答の前にメディアを送信していない可能性があります。その場合は、このチェックボックスをオンにして、発信側の電話機でローカル リングバックを再生し、200OK 応答の受信時にメディアを接続します。</p> <p>(注) リングバックを受信する電話機は発信側の電話機ですが、着信側デバイスのプロファイル設定でこの動作が決まるため、着信側デバイスのプロファイルでこの設定が必要となります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「初期メディアの使用」を参照してください。</p>
[発信 T.38 INVITE にオーディオ mline を含める (Outgoing T.38 INVITE include audio mline)]	<p>このパラメータでは、システムが Microsoft Exchange からの信号を受け付け、オーディオから T.38 ファクスにコールを切り替えるように指定できます。この機能を使用するには、この SIP プロファイルを SIP トランクに設定する必要があります。詳細については、第 93 章「トランクの設定」を参照してください。</p> <p>(注) このパラメータは SIP トランクだけに適用されます。SIP を実行している電話機やその他のエンドポイントには、適用されません。</p>

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ANAT を有効化 (Enable ANAT)]	<p>このオプションを選択すると、デュアルスタック SIP トランクで IPv4 と IPv6 の両方のメディアを提供できるようになります。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスと [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスの両方をオンにすると、Cisco Unified Communications Manager はデュアルスタックの Media Termination Point (MTP; メディアターミネーションポイント) を挿入し、IPv4 用と IPv6 用の 2 つの m-line を伴うオファーを送信します。デュアルスタックの MTP を割り当てられない場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP なしで INVITE を送信します。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスがオンで、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオフの場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP なしで INVITE を送信します。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスと [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオフの場合 (または、MTP を割り当てられない場合)、Cisco Unified Communications Manager は SDP なしで INVITE を送信します。</p> <p>[ANAT を有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスがオフで、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンの場合、MTP を割り当てることができる想定して、次の点を考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv4 のみ (IPv4 Only)] の SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP で IPv4 アドレスを送信します。 • [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] が [IPv6 のみ (IPv6 Only)] の SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は SDP で IPv6 アドレスを送信します。 • デュアルスタック SIP トランクの場合、Cisco Unified Communications Manager は、IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズパラメータの設定に基づいて SDP で送信する IP アドレスのタイプを決定します。
[電話で使用されるパラメータ (Parameters used in Phone)]	
[インバイトのタイムアウト値 (Timer Invite Expires、秒)]	SIP INVITE が期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。Expires ヘッダーはこの値を使用します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 180 です。
[レジスタの再送間隔 (Timer Register Delta、秒)]	このパラメータは、[レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires)] の設定値と共に使用します。電話機は、登録期間が終わる [レジスタの再送間隔 (Timer Register Delta)] 秒前に再登録します。登録期間は、SIP Station Keepalive Interval サービスパラメータの値によって決まります。有効値の範囲は 32767 ~ 0 です。デフォルトは 5 です。

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[レジスタのタイムアウト値(Timer Register Expires、秒)]	SIP を実行している電話機が REGISTER メッセージの Expires ヘッダーで送信する値を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 3600 (1 時間) です。REGISTER への 200OK 応答で、Cisco Unified Communications Manager は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの設定値を含む Expires ヘッダーを指定します。200OK 内のこの値によって、登録が期限切れになるまでの時間 (秒数) が決まります。電話機は、この期間が終わる [レジスタの再送間隔(Timer Register Delta)] 秒前に登録を更新します。
[タイマー T1(Timer T1、ミリ秒)]	SIP メッセージの再送信タイマーの最小値をミリ秒数で指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 500 です。
[タイマー T2(Timer T2、ミリ秒)]	SIP メッセージの再送信タイマーの最大値をミリ秒数で指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 4000 です。
[インバイトの再試行値(Retry INVITE)]	INVITE 要求が再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 6 です。
[非インバイトの再試行値(Retry Non-INVITE)]	INVITE 要求以外の SIP メッセージが再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 10 です。
[開始メディアポート(Start Media Port)]	メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポート範囲の始まりを指定します。メディア ポート範囲は 16384 ~ 32766 です。デフォルトは 16384 です。
[終了メディアポート(Stop Media Port)]	メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポート範囲の終わりを指定します。メディア ポート範囲は 16384 ~ 32766 です。デフォルトは 32766 です。
[コールピックアップ URI(Call Pickup URI)]	この URI では、SIP を実行している電話機がコール ピックアップ機能を起動するために Cisco Unified Communications Manager に送信する固有のアドレスを指定します。
[コールピックアップグループ別 URI(Call Pickup Group Other URI)]	この URI では、SIP を実行している電話機がコール ピックアップグループの他の機能を起動するために Cisco Unified Communications Manager に送信する固有のアドレスを指定します。
[コールピックアップグループ URI(Call Pickup Group URI)]	この URI では、SIP を実行している電話機がコール ピックアップグループ機能を起動するために Cisco Unified Communications Manager に送信する固有のアドレスを指定します。
[ミーティングサービス URI(Meet Me Service URI)]	この URI では、SIP を実行している電話機がミーティング機能を開始するために Cisco Unified Communications Manager に送信する固有のアドレスを指定します。
[ユーザ情報(User Info)]	REGISTER メッセージ内の user= パラメータを設定します。 有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> [None] : 値は挿入されません。 [Phone] : REGISTER の To ヘッダー、From ヘッダー、および Contact ヘッダーに user=phone という値が挿入されます。 [IP] : REGISTER の To ヘッダー、From ヘッダー、および Contact ヘッダーに user=ip という値が挿入されます。

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DTMF DB レベル (DTMF DB Level)]	<p>インバンド DTMF デジットのトーン レベルを指定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 : [6 dB below nominal] • 2 : [3 dB below nominal] • 3 : [Nominal] • 4 : [3 dB above nominal] • 5 : [6 dB above nominal]
[コール保留時の呼び出し音 (Call Hold Ring Back)]	<p>保留中のコールがある状態で別のコールで話をしていて、そのコールを切った場合、このパラメータがオンであると、電話機の呼び出し音が鳴って、まだ他に保留中の相手がいることを通知されます。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン/オフを切り替えることはできません。 • [オン (On)] : 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン/オフを切り替えることはできません。
[匿名コールブロック (Anonymous Call Block)]	<p>番号非通知呼び出しのブロックを設定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン/オフを切り替えることはできません。 • [オン (On)] : 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン/オフを切り替えることはできません。
[発信者IDブロック (Caller ID Blocking)]	<p>発信者 ID のブロッキングを設定します。ブロッキングが使用可能である場合、電話機はそれ自身の番号または電子メール アドレスを、発信者識別が使用可能な電話機からブロックします。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン/オフを切り替えることはできません。 • [オン (On)] : 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン/オフを切り替えることはできません。
[サイレントコントロール (Do Not Disturb Control)]	<p>Do Not Disturb (DND; サイレント) 機能を設定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ユーザ (User)] : 電話機の dndControl パラメータに 0 を指定します。 • [管理者 (Admin)] : 電話機の dndControl パラメータに 2 を指定します。

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[7940 と 7960 の Telnet レベル (Telnet Level for 7940 and 7960)]	<p>Cisco Unified IP Phone 7940 と 7960 は、ログイン アクセス用の Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートせず、ログ収集に使用される Hypertext Transfer Protocol (HTTP; ハイパーテキスト転送プロトコル) もサポートしません。ただし、これらの電話機は、Telnet をサポートします。ユーザは、Telnet を使用して、電話機を制御したり、デバッグを収集したり、設定値を表示したりできます。このフィールドでは、指定可能な次の値で telnet_level 設定パラメータを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] (アクセス不能) • [制限付き (Limited)] (一部のアクセスは可能だが、特権コマンドを実行できない) • [有効 (Enabled)] (フル アクセス)
[キープアライブのタイムアウト値 (Timer Keep Alive Expires、秒)]	<p>Cisco Unified Communications Manager では、冗長性のサポートにキープアライブ メカニズムが必要です。このフィールドでは、フェールオーバーが必要になったときにバックアップ Cisco Unified Communications Manager が使用可能であることを保証するために、バックアップ Cisco Unified Communications Manager に送信されるキープアライブ メッセージの間隔を指定します。</p>
[サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires、秒)]	<p>サブスクリプションが期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。この値は、Expires ヘッダー フィールドに挿入されます。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 120 です。</p>
[サブスクライブの再送間隔 (Timer Subscribe Delta、秒)]	<p>このパラメータは、[サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires)] の設定値と共に使用します。電話機は、サブスクリプション期間 ([サブスクライブのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires)] によって管理) が終わる [サブスクライブの再送間隔 (Timer Subscribe Delta)] 秒前に再サブスクライブします。有効値の範囲は 3 ~ 15 です。デフォルトは 5 です。</p>
[最大リダイレクト (Maximum Redirections)]	<p>この設定変数を使用して、コールをドロップする前に電話機がコールのリダイレクトを許可する最大回数を指定します。デフォルトは 70 回のリダイレクトです。</p>
[オフフックから最初の数字タイマー (Off Hook To First Digit Timer、マイクロ秒)]	<p>電話の受話器が外されてから最初のディジット タイマーが設定されるまでの経過時間をマイクロ秒数で指定します。値は 0 ~ 15,000 マイクロ秒です。デフォルトは 15,000 マイクロ秒です。</p>
[コール転送 URI (Call Forward URI)]	<p>この URI では、SIP を実行している電話機が自動転送機能を起動するために Cisco Unified Communications Manager に送信する固有のアドレスを指定します。</p>

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[固定短縮ダイヤル URI(Abbreviated Dial URI)]	<p>この URI では、SIP を実行している電話機が固定短縮ダイヤル機能を起動するために Cisco Unified Communications Manager に送信する固有のアドレスを指定します。</p> <p>回線キーに関連付けられていない短縮ダイヤル (固定短縮ダイヤル インデックス) は、電話機にダウンロードされません。電話機は、機能表示メカニズム (コール情報ヘッダーを含む INVITE) を使用して、固定短縮ダイヤル番号がいつ入力されたかを示します。要求 URI には固定短縮ダイヤルディジット (たとえば 14) が含まれ、コール情報ヘッダーには固定短縮ダイヤル機能が示されます。Cisco Unified Communications Manager は、固定短縮ダイヤルディジットを設定済みの数字列に変換し、コールをその数字列で拡張します。固定短縮ダイヤルディジットに対して数字列が設定されていない場合、電話機に 404 Not Found 応答が返されます。</p>
[会議参加が有効 (Conference Join Enabled)]	<p>このチェックボックスでは、Cisco Unified IP Phone 7940 または 7960 を使用している会議開始者が電話を切った場合、その電話機が残りの会議参加者を参加させようとするかどうかを指定します。残りの会議参加者を参加させる場合は、このチェックボックスをオンにします。残りの会議参加者を参加させない場合は、このチェックボックスをオフのままにします。</p> <p>(注) このチェックボックスは、SRST モードの Cisco Unified IP Phone 7941/61/70/71/11 だけに適用されます。</p>
[RFC 2543 保留 (RFC 2543 Hold)]	<p>コール保留の信号が Cisco Unified Communications Manager に送信される場合、RFC2543 に従って接続アドレスを 0.0.0.0 に設定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。この操作により、RFC3264 をサポートしないエンドポイントとの下位互換性を確保できます。</p>
[準在席転送 (Semi Attended Transfer)]	<p>このチェックボックスでは、Cisco Unified IP Phone 7940 および 7960 の発信者が、コールの呼び出し音が鳴っているときに、在席転送の 2 番目のレッグを転送できるかどうかを指定します。準在席転送を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。準在席転送を使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。</p> <p>(注) このチェックボックスは、SRST モードの Cisco Unified IP Phone 7941/61/70/71/11 だけに適用されます。</p>
[VAD の有効化 (Enable VAD)]	<p>Voice Activation Detection (VAD) を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。VAD を使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。VAD が使用可能である場合、音声検出時にメディアは伝送されません。</p>
[スタッターメッセージ待機 (Stutter Message Waiting)]	<p>電話機がオフフックになったときにメッセージが待機していると、スタッターダイヤル トーンが聞こえるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。メッセージが待機していてもスタッターダイヤル トーンが聞こえないようにする場合は、オフのままにします。</p> <p>この設定は、SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7960 と 7940 をサポートします。</p>

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの統計 (Call Stats)]	<p>BYE 要求および BYE 応答の RTP 統計情報を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。BYE 要求および BYE 応答の RTP 統計情報を使用不可にする場合は、オフのままにします。</p> <p>このチェックボックスがオンである場合、電話機は次のようなヘッダー RTP-RxStat および RTP-TxStat を挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RTP-RxStat: Dur=a,Pkt=b,Oct=c,LatePkt=d,LostPkt=e,AvgJit=f • RTP-TxStat: Dur=g,Pkt=h,Oct=i <p>それぞれの説明は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Dur : 受信開始または送信開始からの合計秒数。 • Pkt : 受信または送信された RTP パケットの合計数。 • Oct : 受信または送信された RTP ペイロード オクテットの合計数 (RTP ヘッダーは含みません)。 • LatePkt : 受信された RTP パケットの合計遅延数。 • LostPkt : 受信された RTP パケットの合計損失数 (RTP パケットの遅延は含みません)。 • AvgJit : 平均ジッタ。これは、タイムスタンプ単位で測定され、RFC 1889 に従って算出された、RTP パケット到達時間ごとの統計的なばらつきの概算値です。 • a、b、c、d、e、f、g、h、および i : 整数。

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration)]	
[着信要求を新規トランクへと再ルーティングする基準 (Reroute Incoming Request to new Trunk based on)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、設定された SIP トランクの宛先アドレスと一致する IP アドレスの SIP デバイスから着信したコールだけを受け入れます。また、SIP メッセージが着信するポートは、SIP トランクに設定されたポートと一致する必要があります。Cisco Unified Communications Manager は、コールを受け入れた後、この設定を使用して、コールを別のトランクに再ルーティングするかどうかを判別します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、コールの再ルーティングを行う SIP トランクを識別するとき Cisco Unified Communications Manager が使用する方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [しない(Never)] : SIP トランクが発信デバイスの IP アドレスと一致する場合は、このオプションを選択します。デフォルト設定では、このオプションが選択されています。Cisco Unified Communications Manager は、着信パケットの送信元 IP アドレスとシグナリング ポート番号を使用してトランクを識別しますが、別の(新しい) SIP トランクにコールをルーティングすることはありません。コールは、着信した SIP トランクで処理されます。 • [連絡先情報ヘッダ (Contact Info Header)] : SIP トランクが SIP プロキシを使用する場合は、このオプションを選択します。Cisco Unified Communications Manager は、着信要求の連絡先ヘッダーを解析し、ヘッダーで指定された IP アドレス (またはドメイン名) およびシグナリング ポート番号を使用して、その IP アドレスおよびポートを使用する SIP トランクにコールを再ルーティングします。SIP トランクが識別されない場合、コールは、着信したトランクで処理されます。 • [purpose=x-cisco-origIP のコール情報ヘッダ (Call-Info Header with purpose=x-cisco-origIP)] : SIP トランクが Customer Voice Portal (CVP) または Back-to-Back User Agent (B2BUA) を使用する場合は、このオプションを選択します。着信要求を受信した場合、Cisco Unified Communications Manager は、コール情報ヘッダーを解析し、purpose=x-cisco-origIP というパラメータを検索します。次に、ヘッダーで指定された IP アドレス (またはドメイン名) およびシグナリング ポート番号を使用して、その IP アドレスおよびポートを使用する SIP トランクにコールを再ルーティングします。そのパラメータがヘッダーに存在しない場合や、SIP トランクが識別されない場合、コールは、着信した SIP トランクで処理されます。 <p>ヒント この設定は、Cisco Unified Presence プロキシ サーバに接続されている SIP トランク、または Cisco Unified CM グループ内の発信元ゲートウェイに接続されている SIP トランク には機能しません。</p>

表 102-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[RSVP Over SIP]	このフィールドでは、RSVP over SIP トランクを設定します。ドロップダウンリスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager で RSVP over SIP トランクを設定するために使用する方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [ローカル RSVP(Local RSVP)] : ローカル設定では、クラスタ間の WAN リンクではなく、各クラスタ内のエンドポイントとローカル SIP トランクとの間で RSVP が確立されます。 [E2E] : End-to-End (E2E; エンドツーエンド) 設定では、ローカルクラスタ内や WAN 上などエンドポイント間のパス全体で RSVP が確立されます。
[ローカル RSVP にフォールバック (Fall back to local RSVP)]	失敗したエンドツーエンド RSVP コールをローカル RSVP にフォールバックしてコールを確立する場合は、このボックスをオンにします。このボックスをオフにすると、エンドツーエンド接続を確立できないエンドツーエンド RSVP コールは失敗します。
[SIP Rel1XX オプション (SIP Rel1XX Options)]	このフィールドでは、SIP Rel1XX を設定します。この値によって、(100 Trying メッセージ以外の) すべての SIP 暫定応答が確実にリモートの SIP エンドポイントに送信されるかどうかが決まります。有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> [無効 (Disabled)] : SIP Rel1XX を無効にします。 [1xx に SDP が含まれている場合に PRACK を送信 (Send PRACK if 1XX contains SDP)] : 1XX メッセージに SDP が含まれる場合にだけ、1XX メッセージに PRACK で応答します。 [すべての 1xx メッセージに PRACK を送信 (Send PRACK for all 1XX messages)] : すべての 1XX メッセージに PRACK で応答します。 <p>[RSVP Over SIP] フィールドを [E2E] に設定した場合は、[無効 (Disabled)] を選択できません。</p>

SIP プロファイルの検索

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウを使用して、SIP プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプの SIP プロファイルを検索します。

- プロファイル名
- 説明

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] の順に選択します。

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「ステップ 3」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.102-15) を参照してください。

SIP プロファイルの設定

SIP プロファイルを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] の順に選択します。

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の SIP プロファイルをコピーする場合は、適切な SIP プロファイルを見つけ（「[SIP プロファイルの検索](#)」(P.102-11) を参照）、コピーする SIP プロファイルの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックして、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しい SIP プロファイルを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存の SIP プロファイルを更新する場合は、適切な SIP プロファイルを見つけ（「[SIP プロファイルの検索](#)」(P.102-11) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 102-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.102-15) を参照してください。

SIP プロファイルの削除

SIP プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

SIP プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

手順

ステップ 1 削除する SIP プロファイルを見つけます。「[SIP プロファイルの検索](#)」(P.102-11) を参照してください。

ステップ 2 [SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで、[削除 (Delete)] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 3 SIP プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.102-15) を参照してください。

SIP プロファイルのリセット

SIP プロファイルのリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** リセットする SIP プロファイルを見つけます。「[SIP プロファイルの検索](#)」(P.102-11) を参照してください。
- ステップ 3** リセットする SIP プロファイルをクリックします。
[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [リセット (Reset)] をクリックします。
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。
 - [リスタート (Restart)] : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動します (Cisco Unified Communications Manager に電話機とトランクを再登録します)。
 - [リセット (Reset)] : デバイスをシャットダウンして、もう一度起動します。
 - [閉じる (Close)] : 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.102-15) を参照してください。

SIP プロファイルと影響を受ける SIP デバイスとの同期化

設定を変更した SIP プロファイルと SIP デバイスを同期化する手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要場合があります)。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] の順に選択します。
[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する SIP プロファイルの一覧がウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 適用可能な SIP デバイスを同期化する SIP プロファイルをクリックします。[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.102-15) を参照してください。

関連項目

- 「SIP プロファイルの設定値」(P.102-1)
- 「SIP プロファイルの検索」(P.102-11)
- 「SIP プロファイルの設定」(P.102-12)
- 「SIP プロファイルの削除」(P.102-13)
- 「SIP プロファイルのリセット」(P.102-14)
- 「SIP プロファイルと影響を受ける SIP デバイスとの同期化」(P.102-14)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-34)
- 「トランクの設定」(P.93-62)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定」(P.22-3)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定」(P.23-3)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「セッション開始プロトコル (SIP) の概要」



CHAPTER 103

共通デバイス設定

共通デバイス設定は、ユーザ固有のサービスと機能の属性で構成されます。各デバイスが、ユーザ向けの共通デバイス設定情報に関連付けられていることを確認してください。



(注)

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには、ロケーション関連情報だけが表示されるようになりました。すべてのユーザ向け情報は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで記録されます。

共通デバイス設定を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「共通デバイスの設定値」 (P.103-1)
- 「共通デバイス設定の検索」 (P.103-7)
- 「共通デバイス設定の設定」 (P.103-8)
- 「共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.103-9)
- 「共通デバイス設定の削除」 (P.103-10)
- 「関連項目」 (P.103-10)

共通デバイスの設定値

共通デバイス設定は、ユーザ固有のサービスと機能の属性で構成されます。各デバイスが、ユーザ向けの共通デバイス設定情報に関連付けられていることを確認してください。



(注)

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウには、ロケーション関連情報だけが表示されるようになりました。すべてのユーザ向け情報は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで記録されます。

表 103-1 では、共通デバイス設定の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」 (P.103-10) を参照してください。

表 103-1 共通デバイスの設定値

フィールド	説明
[共通デバイス設定情報 (Common Device Configuration Information)]	
[名前 (Name)]	共通デバイス設定を識別するための名前を入力します。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、共通デバイス設定のソフトキー テンプレートを選択します。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留操作を開始したときに Music On Hold (MOH; 保留音) として使用するオーディオ ソースを選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始するときに、保留音 (MOH) に使用するオーディオ ソースを選択します。
[ユーザロケール (User Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、共通デバイス設定のロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。 (注) ユーザがユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified Communications Manager clusterwide パラメータでデフォルトユーザ ロケールとして指定されたロケールが適用されます。

表 103-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)]	<p>デバイス (SIP トランクまたは SCCP を実行する電話機) が Cisco Unified Communications Manager への接続に使用する IP アドレスのバージョンを選択します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>[IPv4 のみ (IPv4 Only)] : メディア イベント、シグナリング イベントのいずれの場合においても、デバイスは IPv4 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。デバイスの IPv4 アドレスを使用できない場合、コールは失敗します。</p> <p>このオプションを選択すると、電話機は IPv6 アドレス を解放します。このオプションを選択すると、SIP トランクは IPv4 アドレスを使用してピア デバイスに接続します。</p> <p>[IPv6 のみ (IPv6 Only)] : メディア イベント、シグナリング イベントのいずれの場合においても、デバイスは IPv6 アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。このデバイスの IPv6 アドレスを使用できない場合、コールは失敗します。</p> <p>このオプションを選択すると、電話機は IPv4 アドレス を解放します。このオプションを選択すると、SIP トランクは IPv6 アドレスを使用してピア デバイスに接続します。</p> <p>SIP を実行する電話機は IPv6 をサポートしていないので、これらの電話機にはこのオプションを選択できません。SIP を実行する電話機の [IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] に [IPv6 のみ (IPv6 Only)] を設定すると、[IP アドレッシングモード (IP Addressing Mode)] の設定値よりも Cisco TFTP サービスが優先され、設定ファイルでは [IPv4 のみ (IPv4 Only)] が使用されます。</p> <p>[IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] (デフォルト) : IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を設定できるデュアルスタック デバイスにはこのオプションを選択します。メディア イベント、シグナリング イベントのいずれの場合においても、デュアルスタック デバイスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれかを使用して Cisco Unified Communications Manager に接続します。</p> <p>IPv4 と IPv6 の両方ではなく、いずれかの IP アドレスだけを使用できる場合、使用できる IP アドレスを使ってコールをネゴシエートします。シグナリング イベントとメディア イベントの両方に対して、デバイスに両方の IP アドレス タイプが設定されており、Cisco Unified Communications Manager はシグナリング イベントには [シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)] の設定値、メディア イベントには IP Addressing Mode Preference for Media エンタープライズ パラメータを使用します。</p>

表 103-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[シグナリング用の IP アドレッシングモード設定 (IP Addressing Mode Preference for Signaling)]	<p>IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方をサポートするデュアルスタック電話機では、シグナリング イベント中に Cisco Unified Communications Manager への接続を確立するために使用する IP アドレスのバージョンを選択します。デュアルスタック SIP トランクでは、SIP トランクがシグナリング イベントでピア デバイスへの接続に使用する IP アドレスのバージョンを選択します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IPv4] : デュアルスタック デバイスは、シグナリング イベントで IPv4 アドレスを使用して接続を確立します。 • [IPv6] : デュアルスタック デバイスは、シグナリング イベントで IPv6 アドレスを使用して接続を確立します。 • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : IP Addressing Mode Preference for Signaling エンタープライズ パラメータの設定値が適用されます。
[電話の自動設定を許可 (Allow Auto-Configuration for Phones)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスは、SCCP を実行するデュアルスタック Cisco Unified IP Phone の IPv6 をサポートします。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : ルータのステートレス アドレスの自動設定で M ビットが設定された方法に応じて、電話機は、Router Advertisement (RA; ルータ アドバタイズメント) でアドバタイズされた IPv6 ネットワーク ID を使用して、その IPv6 アドレスを自動設定できます。 <p>Cisco Unified Communications Manager に登録するには、TFTP サーバ アドレスも必要です。TFTP サーバ アドレスは、電話機のインターフェイスから手動で設定するか、DHCPv6 サーバから取得することができます。</p> <p>ヒント 他の情報を入手するために DHCPv6 サーバを使用する必要がある電話機を示すには、ルータのステートレス アドレスの自動設定で O ビットが設定されていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話機は、DHCPv6 サーバからその IPv6 アドレスおよび TFTP サーバ アドレスを取得します。 • [デフォルト (Default)] : Allow Auto-Configuration for Phones エンタープライズ パラメータの設定を使用するには、このオプションを選択します。 <p>Cisco Unified Communications Manager はこの設定を使用しませんが、電話機が取得する TFTP ファイルにはこの情報が含まれています。</p>

表 103-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、この共通デバイス設定に関連付けられたデバイスでは、信頼できるリレーポイントが使用可能になります。</p> <p>Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダデバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに対して、またはエンドポイントに関連付けられている共通デバイス設定に対して、[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスがオンになっている場合、Cisco Unified Communications Manager はエンドポイントに TRP を挿入します。エンドポイント デバイスには、SIP、H.323、MGCP、および SCCP デバイスなど、メディアの終端となる任意のデバイスを指定できます。たとえば、SCCP を実行している電話機、CTI デバイス、MoH サーバ、アナンシエータ、および会議ブリッジなどを指定できます。</p> <p>デバイスの [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値に [オン (On)] または [オフ (Off)] が指定されている場合、このデバイス設定値は、デバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク バーチャライゼーションおよび信頼できるリレーポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 103-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アウトバウンドコールに Intercompany Media Engine(IME) を使用 (Use Intercompany Media Engine (IME) for Outbound Calls)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスでは、この共通デバイス設定に関連付けられているデバイスに対して Cisco IME を無効または有効にします。</p> <p>デバイスで Cisco Intercompany Media Engine 機能を使用してコールを発信できるようにするかどうかを示します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [オン (On)] : デバイスで Cisco Intercompany Media Engine コールの発信を許可します。 [オフ (Off)] : デバイスで Cisco Intercompany Media Engine コールの発信を許可しません。 [デフォルト (Default)] : [アウトバウンドコールに Intercompany Media Engine(IME) を使用 (Use Intercompany Media Engine (IME) for Outbound Calls)] 機能設定のパラメータ ([拡張機能 (Advanced Features)] > [Intercompany Media Services] > [機能設定 (Feature Configuration)]) の値を使用するには、このオプションを選択します。 <p>デバイスを共通デバイス設定に関連付けるには、Cisco Unified IP Phone など、そのデバイスに [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の値を設定します。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、優先トーンを再生できるデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、MLPP Indication Status エンタープライズパラメータから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定値を取得します。 [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせで設定することはできません。</p> <p>(注) エンタープライズパラメータまたはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼出音設定が動作しません。</p>

表 103-1 共通デバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、進行中のコールに割り込みできるデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータから [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] 設定値を取得します。 [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせで設定することはできません。</p>
[MLPPドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この共通デバイス設定に関連付けられている MLPP ドメインを選択します。このフィールドを [<なし (None)>] のままにした場合、このデバイスは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの値セットから、MLPP ドメインを取得します。</p>

共通デバイス設定の検索

ネットワーク内にはいくつかの共通デバイス設定が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の共通デバイス設定を見つけることができます。共通デバイス設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、共通デバイス設定の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、共通デバイス設定の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します。
- [共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.103-10) を参照してください。

共通デバイス設定の設定

デバイスの共通デバイス設定を追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します。

[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい共通デバイス設定を追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。

- 既存の共通デバイス設定を更新する場合は、適切な共通デバイス設定を見つけ（「[共通デバイス設定の検索](#)」(P.103-7) を参照）、**「ステップ 3」**に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 103-1 を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.103-10) を参照してください。

共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更した共通デバイス設定を同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します。
- [共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致する共通デバイス設定がウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスを同期させる共通デバイス設定をクリックします。[共通デバイス設定情報 (Common Device Configuration Information)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.103-10) を参照してください。

共通デバイス設定の削除

共通デバイス設定を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが使用している共通デバイス設定は削除できません。共通デバイス設定を使用しているデバイスを検索するには、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の共通デバイス設定を削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用中の共通デバイス設定を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する共通デバイス設定を使用しているデバイスすべてに、別の共通デバイス設定を割り当てます。
- 削除する共通デバイス設定を使用しているデバイスを削除します。

手順

-
- ステップ 1** 「[共通デバイス設定の検索](#)」(P.103-7) の手順に従って、削除する共通デバイス設定を見つけます。
 - ステップ 2** 削除する共通デバイス設定の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ上の共通デバイス設定をすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - ステップ 4** [OK] をクリックして、選択内容を確認します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.103-10) を参照してください。

関連項目

- 「[共通デバイスの設定値](#)」(P.103-1)
- 「[共通デバイス設定の検索](#)」(P.103-7)
- 「[共通デバイス設定の設定](#)」(P.103-8)
- 「[共通デバイス設定と影響を受けるデバイスとの同期化](#)」(P.103-9)
- 「[共通デバイス設定の削除](#)」(P.103-10)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[信頼済みリレー ポイント](#)」



CHAPTER 104

共通電話プロファイルの設定

共通電話プロファイルは、Cisco TFTP が必要とするデータを提供します。共通電話プロファイルの設定後、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、SCCP または SIP を実行している電話機を共通電話プロファイルに関連付けます。

共通電話プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- 「共通電話プロファイルの設定値」 (P.104-1)
- 「共通電話プロファイルの検索」 (P.104-6)
- 「共通電話プロファイルの設定」 (P.104-7)
- 「共通電話プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.104-8)
- 「共通電話プロファイルの削除」 (P.104-8)
- 「関連項目」 (P.104-9)

共通電話プロファイルの設定値

共通電話プロファイルは、Cisco TFTP が必要とするデータを提供します。共通電話プロファイルの設定後、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、SCCP または SIP を実行している電話機を共通電話プロファイルに関連付けます。

表 104-1 では、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」 (P.104-9) を参照してください。



(注)

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある [?] 疑問符アイコンをクリックします。ポップアップ ウィンドウにヘルプが表示されます。

更新する [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域の任意の設定値の [共通設定の上書き (Override Common Settings)] ボックスをオンにします。このボックスをオフにした場合、対応するパラメータ設定は有効になりません。[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域で設定したパラメータは、各種デバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウおよび [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示される場合があります。これらの同じパラメータをこれらの他のウィンドウにも設定した場合、優先される設定は、1) [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定、2) [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定、3) [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設置の順に決定されます。

表 104-1 共通電話プロフィールの設定値

フィールド	説明
[共通の電話プロフィール情報 (Common Phone Profile Information)]	
[名前 (Name)]	共通電話プロフィールを識別する名前を入力します (たとえば、「CPP_7905」)。この値には、1 ~ 50 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、またはアンダースコアを含む) を指定できます。
[説明 (Description)]	共通電話プロフィールの目的を指定します (たとえば「common phone profile for the 7905 phone」)。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[電話ロック解除パスワード (Local Phone Unlock Password)]	ローカル電話機のロック解除に使用するパスワードを入力します。1 ~ 15 文字を指定できます。
[DND オプション (DND Option)]	<p>電話機で Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にした場合、このパラメータでは、DND 機能が着信コールをどのように処理するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コール拒否 (Call Reject)] : このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータをどのように設定したかに応じて、電話機はビープ音を再生したり、コールのフラッシュ通知を表示したりします。 [呼出音オフ (Ringer Off)] : このオプションは、呼出音をオフにしますが、着信コール情報はデバイスに表示するので、ユーザはコールを受け付けることができます。 <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話機の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけです。モバイルデバイスとデュアルモード電話機の場合、選択できるのは [コール拒否 (Call Reject)] オプションだけです。モバイルデバイスまたはデュアルモード電話機に対して DND の [コール拒否 (Call Reject)] を有効にすると、コール情報はデバイスに表示されなくなります。</p>
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話機でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [無効 (Disable)] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。DND の [コール拒否 (Call Reject)] オプションの場合、コールアラートは表示されず、情報はデバイスに送信されません。 [ビープ音のみ (Beep Only)] : このオプションは、着信コールがあると、電話機のビープ音を再生します。 [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションは、着信コールがあると、電話機のフラッシュアラートだけを表示します。

表 104-1 共通電話プロフィールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]	このドロップダウンリストボックスから、[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] 設定ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]) にすでに設定されている機能管理ポリシーを選択できます。
[背景イメージ設定へのアクセスの有効化 (Enable End User Access to Phone Background Image Setting)]	この共通電話プロフィールを使用する電話機のバックグラウンドイメージをエンド ユーザーが変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	<p>セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。</p> <p>Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。詳細については、TAC に問い合せてください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話機に SSH クレデンシャルを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	<p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。詳細については、TAC に問い合せてください。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager が電話機に SSH パスワードを平文で送信しないようにするために、暗号化電話設定ファイルを設定する方法については、このリリースの『<i>Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>

表 104-1 共通電話プロフィールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話機のパーソナライゼーション情報 (Phone Personalization Information)]	
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)] 設定を使用すると、Unified Communications Widget の 1 つであり、壁紙や電話機の呼び出し音のカスタマイズを可能にする Phone Designer と、Cisco Unified IP Phone を連携できるようになります。[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : ユーザは、Phone Designer を使用して Cisco Unified IP Phone をカスタマイズできません。 • [有効 (Enabled)] : ユーザは、Phone Designer を使用して電話機をカスタマイズできます。 • [デフォルト (Default)] : [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウおよび [共通の電話プロフィールの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウの両方で [デフォルト (Default)] を選択した場合、Phone Personalization エンタープライズ パラメータの設定が使用されます。[共通の電話プロフィールの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで [デフォルト (Default)] を選択したものの、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでは [デフォルト (Default)] を選択しなかった場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで指定した設定が使用されます。 <p>電話機ユーザが電話機をカスタマイズできるようにするには、Phone Designer をインストールして設定する必要があります。Phone Designer をインストールして設定する前に、Phone Designer と連携する Cisco Unified IP Phone モデルを識別します (Phone Designer のマニュアルを参照)。Phone Designer の詳細については、Phone Designer のマニュアルを参照してください。</p>
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話機のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフ フック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話機のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line サービス パラメータの設定を使用します。

表 104-1 共通電話プロフィールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態の場合に電話機のメッセージ ボタンを押すと、電話機のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブな回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話機がアイドル状態の場合、電話機のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は、ボイス メッセージが設定されている最初の回線を常に選択します。ボイス メッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話機のユーザがメッセージ ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする Always Use Prime Line for Voice Message サービス パラメータの設定を使用します。
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機でのサービスのサポート方法を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [内部 (Internal)] : 電話機の設定ファイルを使用して、サービスをサポートします。 サービス URL がまだ更新されていないシスコ提供のデフォルト サービスには、このオプションまたは [両方 (Both)] を選択します。サービス URL は Application:Cisco/<サービスの名前> という形式で表され、たとえば、Application:Cisco/CorporateDirectory のようになります。 シスコの署名入りの Java MIDlet の場合は、設定ファイルでプロビジョニングされるため、[内部 (Internal)] または [両方 (Both)] を選択します。 • [外部 URL (External URL)] : [外部 URL (External URL)] を選択すると、電話機は電話機の設定ファイルのサービスを無視しサービス URL からサービスを取得します。 サービスのサービス URL に独自の値を設定した場合は、[外部 URL (External URL)] または [両方 (Both)] を選択する必要があります。[内部 (Internal)] を選択すると、その設定した URL に関連付けられているサービスが電話機で機能しません。 • [両方 (Both)] : [両方 (Both)] を選択すると、電話機は設定ファイルに定義されているサービスと、カスタム サービス URL から取得される外部アプリケーションの両方をサポートします。 電話機の設定ファイルからサービス情報を取得できる電話機と、情報の取得にカスタム サービス URL だけを使用できる電話機がネットワークにある場合は、[両方 (Both)] を選択します。

表 104-1 共通電話プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[VPN 情報 (VPN Information)]	
[VPN グループ (VPN Group)]	ドロップダウン リストから、電話機の VPN グループを選択します。VPN グループの作成の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の VPN の設定に関する章を参照してください。
[VPN プロファイル (VPN Profile)]	ドロップダウン リストから、電話機の VPN プロファイルを選択します。VPN プロファイルの作成の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』の VPN の設定に関する章を参照してください。

共通電話プロファイルの検索

[共通の電話プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウを使用して、共通電話プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の順に選択します。

[共通の電話プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.104-9) を参照してください。

共通電話プロフィールの設定

共通電話プロフィールを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)] の順に選択します。
- [共通の電話プロフィールの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 既存の共通電話プロフィールをコピーする場合は、適切な共通電話プロフィールを見つけ（「[共通電話プロフィールの検索](#)」(P.104-6) を参照）、コピーする共通電話プロフィールの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックして、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 新しい共通電話プロフィールを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の共通電話プロフィールを更新する場合は、適切な共通電話プロフィールを見つけ（「[共通電話プロフィールの検索](#)」(P.104-6) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します（[表 104-1](#) を参照）。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.104-9) を参照してください。

共通電話プロフィールと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更した共通電話プロフィールを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)] の順に選択します。
[共通の電話プロフィールの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する共通電話プロフィールがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスを同期させる共通電話プロフィールをクリックします。[共通の電話プロフィールの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.104-9) を参照してください。

共通電話プロフィールの削除

共通電話プロフィールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

共通電話プロフィールを使用しているデバイスを検索するには、[共通の電話プロフィールの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 削除する共通電話プロフィールを検索します。「[共通電話プロフィールの検索](#)」(P.104-6) を参照してください。



(注) 標準の共通電話プロファイルを削除することはできません。

- ステップ 2** [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで、[削除 (Delete)] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 3** 共通電話プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.104-9) を参照してください。

関連項目

- 「共通電話プロファイルの設定値」(P.104-1)
- 「共通電話プロファイルの検索」(P.104-6)
- 「共通電話プロファイルの設定」(P.104-7)
- 「共通電話プロファイルと影響を受けるデバイスとの同期化」(P.104-8)
- 「共通電話プロファイルの削除」(P.104-8)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco TFTP」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「セッション開始プロトコル (SIP) の概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」



CHAPTER 105

リモート接続先プロファイルの設定

モバイル コネクトを使用すると、1つの電話番号でビジネス コールを管理し、進行中のコールをデスクトップ電話機と携帯電話で受けることができます。モバイル ボイス アクセスは **Integrated Voice Response (IVR; 自動音声応答)** システムに関連付けられています。ユーザはこのシステムを使用してモバイル コネクトのオン/オフを切り替えることができます。また、携帯電話やその他のリモート電話機からコールを発信する際、デスクトップ電話機から発信しているかのように見せかけることもできます。

ユーザのリモート接続先プロファイルには、モバイル ボイス アクセスによる進行中のコール転送およびコールの発信に使用可能な、すべてのリモート接続先（携帯電話またはその他の電話機）に適用されるパラメータが含まれています。

モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスの詳細、およびリモート接続先プロファイルの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Mobility](#)」の章を参照してください。



CHAPTER 106

機能管理ポリシーの設定

機能管理ポリシーを使用すると、特定の機能を有効または無効にして、電話機に表示される機能およびソフトキーの外観を制御できます。無効にした機能は、どのコール状態でもソフトキーが表示されなくなります。機能管理ポリシーを検索および追加するには、次のトピックを参照してください。

- 「機能管理ポリシーの設定」 (P.106-1)
- 「機能管理ポリシーの検索」 (P.106-2)
- 「機能管理ポリシーの設定」 (P.106-3)
- 「機能管理ポリシーの削除」 (P.106-5)

機能管理ポリシーの設定

機能管理ポリシーを使用すると、特定の機能を有効または無効にして、電話機に表示される機能およびソフトキーの外観を制御できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで複数のポリシーを設定できます。機能管理ポリシーを設定した後、そのポリシーを個々の電話機、電話機グループ、またはシステム内のすべての電話機に関連付ける必要があります。

機能管理ポリシーを含め、Cisco Unified Communications Manager のすべての電話機でサポートされている機能のリストを生成するには、Cisco Unified Reporting で Unified CM Phone 機能一覧レポートを生成します。



(注)

ソフトキー テンプレートを使用すると、他の Cisco Unified IP Phone でソフトキーの外観をカスタマイズできます。

表 106-1 では、機能管理ポリシーの設定値について説明します。

表 106-1 機能管理ポリシーの設定値

フィールド	説明
[機能管理ポリシーの情報 (Feature Control Policy Info)]	
[名前 (Name)]	機能管理ポリシーの名前を入力します。この名前には、最大 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。機能管理ポリシー名は必ずシステムに固有の名前にしてください。

表 106-1 機能管理ポリシーの設定値

フィールド	説明
[説明 (Description)]	[説明 (Description)] フィールドに説明を入力します。説明には、最大 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
[機能管理の選択 (Feature Control Section)]	
機能管理	<p>リストされた機能ごとに、システム デフォルトを上書きして、設定値を有効にするか、無効にするかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトで有効になっている機能の設定値を無効にする場合は、[デフォルトの上書き (Override Default)] の下のチェックボックスをオンにし、[設定の有効化 (Enable Setting)] の下のチェックボックスをオフにします。 デフォルトで無効になっている機能の設定値を有効にする場合は、[デフォルトの上書き (Override Default)] の下のチェックボックスをオンにし、[設定の有効化 (Enable Setting)] の下のチェックボックスをオンにします。

機能管理ポリシーの検索

機能管理ポリシーがネットワーク内に複数存在する必要があるため、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、特定の条件に基づいて特定の機能管理ポリシーを検索できます。特定の機能管理ポリシーを検索する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] の順に選択します。
- [機能管理ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Feature Control Policies)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、ステップ 3 に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索(Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

機能管理ポリシーの設定

機能管理ポリシーをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の機能管理ポリシーをコピーするには、対象となる機能管理ポリシーを見つけます（「[機能管理ポリシーの検索](#)」(P.106-2) を参照）。コピーする機能管理ポリシーの横にある [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。目的の機能管理ポリシーのコピーがウィンドウに表示されます。機能管理ポリシーに変更を加え、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 機能管理ポリシーを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存の機能管理ポリシーを更新するには、対象となる機能管理ポリシーを見つけ（「[機能管理ポリシーの検索](#)」(P.106-2) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 106-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 機能管理ポリシーを適用する電話機を指定します。システム内のすべての電話機、電話機グループ、または個々の電話機に対して機能管理ポリシーを設定できます。また、機能管理ポリシーを複数設定することもできます。[表 106-2](#) に、機能、デフォルト値、および関連付けられたソフトキーの一覧を示します。

- システム内のすべての電話を対象にポリシーを指定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] ウィンドウの [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] ドロップダウン ボックスから目的の機能管理ポリシーを選択します。

エンタープライズパラメータ設定の詳細については、「[エンタープライズパラメータの更新](#)」(P.24-1) を参照してください。

- 電話機グループにポリシーを指定するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の順に選択し、新しい電話プロファイルを作成するか、または既存の電話プロファイルを更新します。さらに、[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] ドロップダウン ボックスで目的の機能管理ポリシーを選択し、電話機を設定するときに共通の電話プロファイルを選択します。

共通の電話設定の詳細については、「[共通電話プロファイルの設定値](#)」(P.104-1) を参照してください。

- 個々の電話にポリシーを指定するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択し、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] ドロップダウン ボックスから目的の機能管理ポリシーを選択します。

個々の電話設定の詳細については、「[電話機の設定値](#)」(P.92-3) を参照してください。



(注)

機能管理ポリシーがさまざまなウィンドウに設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は次の優先順位に従います ([デバイス設定 (Device Configuration)] の優先順位が最も高くなります)。

- [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
- [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
- [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)] ウィンドウの設定値

表 106-2 機能管理ポリシーのデフォルト値

機能	デフォルト値	電話機に表示されるソフトキー
[割込み (Barge)]	[有効 (Enabled)]	[割込み]
[折返し (Call Back)]	[有効 (Enabled)]	[折返し]
[会議リスト (Conference List)]	[有効 (Enabled)]	[詳細の表示]
[不在転送 (Forward All)]	[有効 (Enabled)]	[不在転送]
[パーク (Park)]	[無効 (Disabled)]	[パーク]、[復帰]
[リダイヤル (Redial)]	[有効 (Enabled)]	[リダイヤル]
[短縮ダイヤル (Speed Dial)]	[有効 (Enabled)]	[短縮ダイヤル]
[即転送 (アラート)(Divert (Alerting))]	[無効 (Disabled)]	[即転送]
[即転送 (接続済み)(Divert (Connected))]	[無効 (Disabled)]	[即転送]

追加情報

「[関連項目](#)」(P.106-6) を参照してください。

機能管理ポリシーの削除

機能管理ポリシーを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

現在システム内のどの電話機にも割り当てられていない機能管理ポリシーは、削除できます。1 つまたは複数の電話機に割り当てられている機能管理ポリシーは削除できません。

機能管理ポリシーを使用している電話機を検索するには、[機能管理ポリシーの設定 (Feature Control Policy Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の機能管理ポリシーを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用中の機能管理ポリシーを削除する場合は、事前に、次の作業のいずれかまたは両方を実行しておく必要があります。

- 削除する機能管理ポリシーを使用している電話機に別の機能管理ポリシーを割り当てます。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。
- 削除する機能管理ポリシーを使用している電話機を削除します。「[電話機の削除](#)」(P.92-40) を参照してください。

手順

ステップ 1 「[機能管理ポリシーの検索](#)」(P.106-2) の手順を使用して、機能管理ポリシーを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する機能管理ポリシーを選択します。

[機能管理ポリシーの設定 (Feature Control Policy Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。



(注) [機能管理ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Feature Control Policy)] ウィンドウから複数の機能管理ポリシーを削除するには、対象の機能管理ポリシーの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。ウィンドウ内のすべての機能管理ポリシーを削除するには、[すべてを選択 (Select All)] をクリックし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

そのポリシーを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 ポリシーを削除するには、[OK] をクリックします。

そのポリシーが削除されたことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 続行するには、[OK] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.106-6) を参照してください。

関連項目

- 「機能管理ポリシーの検索」(P.106-2)
- 「機能管理ポリシーの設定」(P.106-3)
- 「機能管理ポリシーの削除」(P.106-5)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1)
- 「電話ボタン テンプレートの設定値」(P.99-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」



CHAPTER 107

録音プロファイルの設定

コールの録音のためにエージェントのライン アピアランスをプロビジョニングするには、管理者は1つ以上の録音プロファイルを作成する必要があります。次に、管理者は、ライン アピアランスの録音プロファイルを選択します。

録音プロファイルを作成する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] の順に選択します。

録音プロファイルを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「録音プロファイルの設定値」 (P.107-1)
- 「録音プロファイルの検索」 (P.107-2)
- 「録音プロファイルの設定」 (P.107-3)
- 「録音プロファイルの削除」 (P.107-4)
- 「関連項目」 (P.107-4)

録音プロファイルの設定値

コールの録音のためにエージェントのライン アピアランスをプロビジョニングするには、1つ以上の録音プロファイルを作成する必要があります。次に、ライン アピアランスの録音プロファイルを選択します。

録音プロファイルを作成する場合、Cisco Unified Communications Manager の管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] の順に選択します。

表 107-1 では、録音プロファイルの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.107-4) を参照してください。

表 107-1 録音プロフィールの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	録音プロフィールを識別するための名前を入力します。
[録音コーリング検索スペース (Recording Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、そのレコーダに設定されている SIP トランクに関連付けられたルート パターンのパーティションを含んだ、コーリング検索スペースを選択します。
[録音接続先アドレス (Recording Destination Address)]	この録音プロフィールに関連付けられているレコーダの Directory Number (DN; 電話番号) または URL を入力します。 このフィールドには、二重引用符 (")、逆引用符 (^)、スペース () の各文字を除く、任意の文字を入力できます。

録音プロフィールの検索

Cisco Unified Communications Manager クラスタ内にはいくつかの録音プロフィールが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の録音プロフィールを見つけることができます。録音プロフィールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、録音プロフィールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、録音プロフィールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロフィール (Recording Profile)] の順に選択します。

[録音プロフィールの検索と一覧表示 (Find and List Recording Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]** に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウンリストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索(Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.107-4) を参照してください。

録音プロファイルの設定

録音プロファイルを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] の順に選択します。

[録音プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Recording Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい録音プロファイルを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 既存の録音プロファイルを更新する場合は、適切な録音プロファイルを見つけ（「[録音プロファイルの検索](#)」(P.107-2) を参照）、「[ステップ 3](#)」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（[表 107-1](#) を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.107-4) を参照してください。

録音プロファイルの削除

録音プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ライン アピアランスで使用中の録音プロファイルは削除できません。録音プロファイルを使用しているライン アピアランスを検索するには、[録音プロファイルの設定 (Recording Profile Configuration)] ウィンドウにある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されません。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の録音プロファイルを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されている録音プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する録音プロファイルを使用しているライン アピアランスすべてに、別の録音プロファイルを割り当てます。
- 削除する録音プロファイルを使用しているライン アピアランスを削除します。

手順

-
- ステップ 1** 「[録音プロファイルの検索](#)」(P.107-2) の手順を使用して、削除する録音プロファイルを見つけます。
 - ステップ 2** 削除する録音プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ上の録音プロファイルをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - ステップ 4** [OK] をクリックして、選択内容を確認します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.107-4) を参照してください。

関連項目

- 「[録音プロファイルの設定値](#)」(P.107-1)
- 「[録音プロファイルの検索](#)」(P.107-2)
- 「[録音プロファイルの設定](#)」(P.107-3)
- 「[録音プロファイルの削除](#)」(P.107-4)



PART 7

アプリケーションの設定



CHAPTER 108

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードを使用すると、短時間でエラーを出さずに Cisco Unified Communications Manager Assistant を設定できます。管理者がこの設定ウィザードを正しく実行して完了すると、パーティション、コーリング サーチ スペース、ルート ポイント、およびトランスレーション パターンが自動的に作成されます。また、Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャ電話機、Cisco Unified Communications Manager Assistant アシスタント電話機、およびその他すべてのユーザの電話機用の Bulk Administration Tool (BAT; 一括管理ツール) テンプレートも作成されます。管理者は BAT テンプレートを使用して、マネージャ、アシスタント、およびその他すべてのユーザを設定できます。『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードでは、設定パラメータごとにウィンドウが表示されます。これらのウィンドウでは、情報がすでに設定されています。管理者が他の設定情報（たとえば、パーティション名）を使用する場合、設定済みの情報を適切な情報に変更することができます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザードの使用方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager Assistant 設定ウィザード](#)」を参照してください。



CHAPTER 109

プラグインの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「プラグイン URL 更新の設定値」 (P.109-1)
- 「プラグインのインストール」 (P.109-2)
- 「プラグイン URL の更新」 (P.109-3)
- 「関連項目」 (P.109-3)

プラグイン URL 更新の設定値

アプリケーション プラグインによって、Cisco Unified Communications Manager の機能がさまざまに拡張されます。たとえば、JTAPI プラグインを使用すると、コンピュータは、Java Telephony Application Programming Interface (JTAPI; Java テレフォニー アプリケーションプログラミング インターフェイス) 経由で Cisco Unified Communications Manager にアクセスするアプリケーションを運用できます。

表 109-1 では、プラグイン URL 更新の設定値について説明します。詳細については、「[関連項目](#)」 (P.109-3) を参照してください。

表 109-1 プラグイン URL 更新の設定値

フィールド	説明
[プラグインの設定 (Plugin Settings)]	
[名前 (Name)]	プラグインの名前が自動的に表示されます。
[URL]	既存の URL が自動的に表示されます。
[カスタム URL (Custom URL)]	カスタム URL には英数字だけを使用します。
[プラグインをユーザオプションページに表示する (Show Plugin on User Option Pages)]	ユーザ オプション ウィンドウにこのプラグインを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

プラグインのインストール



ヒント

Cisco Unified Communications Manager をアップグレードした後は、Cisco CDR Analysis and Reporting プラグインを除くすべてのプラグインを再インストールする必要があります。

プラグインをインストールする場合は、インストール先のサーバで動作している侵入検知やアンチウィルスのサービスを事前に使用不可にしておいてください。

プラグインをインストールする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] の順に選択します。
[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから、[アプリケーションメニュー (Application Menu)]、[インストール (Installation)]、[ユーザメニュー (User Menu)]、または [Telecaster メニュー (Telecaster Menu)] を選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

ステップ 4 インストールするプラグインの [ダウンロード (Download)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.109-3) を参照してください。

プラグイン URL の更新

Cisco Unified Communications Manager のインストール プロセス中、[プラグイン (Plugins)] テーブルに追加されたレコードは、[アプリケーション (Application)] ドロップダウン メニューを構築するために管理アプリケーションが使用する URL を指定します。Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) が、インストール時に構築される URL の基礎を提供します。DNS が変更されても、URL は更新されません。

プラグイン URL の URL を更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] の順に選択します。
[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。「[プラグインのインストール](#)」(P.109-2) の手順に従って、使用可能なプラグインのリストを表示します。
- ステップ 2** 更新するプラグイン名をクリックします。
[プラグイン URL の更新 (Update Plugin URL)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [表 109-1](#) に示す情報を入力します。
- ステップ 4** ツールバーに表示される [保存 (Save)] アイコン (ウィンドウの左上隅) をクリックするか、またはウィンドウの下部に表示される [保存 (Save)] ボタンをクリックして、URL を更新および保存します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.109-3) を参照してください。

関連項目

- 「[プラグイン URL 更新の設定値](#)」(P.109-1)
- 「[プラグインのインストール](#)」(P.109-2)
- 「[プラグイン URL の更新](#)」(P.109-3)



PART 8

ユーザ管理の設定



CHAPTER 110

クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定

この章では、デフォルトのクレデンシャル ポリシーをクレデンシャル グループに割り当てる方法を説明します。個々のユーザのクレデンシャル情報を変更する方法については、「[関連項目](#)」(P.110-4)を参照してください。次のトピックでは、クレデンシャル ポリシーの設定について説明します。

- 「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値](#)」(P.110-1)
- 「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの検索](#)」(P.110-3)
- 「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの割り当てと設定](#)」(P.110-3)
- 「[関連項目](#)」(P.110-4)

クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値

[クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定(Credential Policy Default Configuration)] ウィンドウには、ユーザおよびクレデンシャル タイプ (エンドユーザ Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) など) のデフォルトのクレデンシャル ポリシー割り当てを変更するためのオプションがあります。インストール時に、Cisco Unified Communications Manager は、エンドユーザ パスワード、エンドユーザ PIN、およびアプリケーション ユーザ パスワードにシステムのデフォルトのクレデンシャル ポリシーを割り当てます。インストール時にユーザが設定したアプリケーション パスワードが、すべてのアプリケーション ユーザに適用されます。インストール後に、新しいデフォルトのクレデンシャル ポリシーを割り当てたり、新しいデフォルトのクレデンシャルを設定したりすることができます。

デフォルトのクレデンシャル ポリシーは、インストールとアップグレードを簡単にするために提供されます。表 110-1 のデフォルトのクレデンシャル ポリシーの設定は、新しいクレデンシャル ポリシーの追加に使用するクレデンシャル ポリシーのデフォルト設定とは異なります ([「クレデンシャル ポリシーの設定値」](#) (P.111-1) を参照)。



(注)

空 (ヌル) のクレデンシャルはサポートされません。システムで Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証を使用する場合、インストールの直後にエンドユーザのデフォルトのクレデンシャルを設定する必要があります。設定しないと、ログインが失敗します。

また、ユーザ設定ウィンドウで、新しいユーザ クレデンシャル ポリシーを割り当てたり、ユーザ認証イベントを管理したり、ユーザのクレデンシャルを表示したりできます。詳細については、アプリケーション ユーザの場合は「[アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理](#)」(P.112-11)、エンドユーザの場合は「[エンドユーザのクレデンシャルの管理](#)」(P.113-14)を参照してください。

表 110-1 では、クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値について説明します。関連する情報および手順については、「関連項目」(P.110-4) を参照してください。

表 110-1 クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値

フィールド	説明
[クレデンシャルユーザ (Credential User)]	このフィールドには、[クレデンシャルポリシーのデフォルトの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policy Defaults)] で選択したポリシーのユーザ タイプが表示されます。 このフィールドは変更できません。
[クレデンシャルタイプ (Credential Type)]	このフィールドには、[クレデンシャルポリシーのデフォルトの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policy Defaults)] で選択したポリシーのクレデンシャル タイプが表示されます。 このフィールドは変更できません。
[クレデンシャルポリシー (Credential Policy)]	このクレデンシャル グループのクレデンシャル ポリシーのデフォルトを選択します。 このリスト ボックスには、事前定義済みのデフォルトのクレデンシャル ポリシーと、作成したクレデンシャル ポリシーが表示されます（「 クレデンシャル ポリシーの設定 」(P.111-1) を参照）。
[クレデンシャルの変更 (Change Credential)]	127 文字以下の文字を入力し、このグループの新しいデフォルトクレデンシャルを設定します。
[クレデンシャルの確認 (Confirm Credential)]	確認のため、[クレデンシャルの変更 (Change Credential)] フィールドに入力したログイン クレデンシャルを再入力します。
[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)]	このポリシーを割り当てられたユーザが、このクレデンシャルを変更できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 [ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] がオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。
[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)]	このポリシーが割り当てられたユーザに対して、次のログイン時に、このクレデンシャルの変更を要求するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、一時的なクレデンシャルを割り当てた後で使用します。 [ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。
[無期限にする (Does Not Expire)]	このクレデンシャルの変更をユーザに要求しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、セキュリティの低いユーザまたはグループ アカウントに使用できます。 このチェックボックスをオンにしても、ユーザはいつでもこのクレデンシャルを変更できます。このチェックボックスがオフの場合、関連付けられているクレデンシャル ポリシーの有効期限の設定が適用されます。デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。

クレデンシャル ポリシーのデフォルトの検索

ここでは、既存のクレデンシャル ポリシーのデフォルト情報を検索または確認する方法を説明します。

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)] の順に選択します。
- [クレデンシャルポリシーのデフォルトの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policy Defaults)] ウィンドウに、割り当て済みのポリシーが表示されます。
- ステップ 2** 表示するリスト項目をクリックします。
- ウィンドウに、選択したポリシーのクレデンシャル ポリシーのデフォルト情報が表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.110-4) を参照してください。

クレデンシャル ポリシーのデフォルトの割り当てと設定

ここでは、クレデンシャル グループに新しいクレデンシャル ポリシー、および新しいデフォルトのクレデンシャルを割り当てる方法を説明します。インストール時に、クレデンシャル グループにはデフォルトのクレデンシャル ポリシーが割り当てられます。



- (注) 5.x リリースからアップグレードした場合は、アプリケーション ユーザおよびエンド ユーザのパスワードと PIN が自動的に読み込まれます。

始める前に

事前定義済みのデフォルトのクレデンシャル ポリシー以外の、デフォルトのクレデンシャル ポリシーを割り当てるには、ポリシーを作成しておく必要があります。使用するポリシーをまだ作成していない場合は、「[クレデンシャル ポリシーの設定](#)」(P.111-4) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)] の順に選択します。
- [クレデンシャルポリシーのデフォルトの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policy Defaults)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 変更するリスト項目をクリックします。
- [クレデンシャルポリシーのデフォルトの設定 (Credential Policy Default Configuration)] ウィンドウに、現在の設定値が表示されます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 110-1 を参照)。次のガイドラインに従ってください。
- 適用されているクレデンシャル ポリシーを変更するには、そのポリシーをドロップダウン リストボックスから選択します。
 - デフォルトのクレデンシャルを変更するには、新しいクレデンシャルを適切なフィールドに入力して確認します。
 - クレデンシャルの要件を変更するには、適切なチェックボックスをオンまたはオフにします。

ステップ 4 [保存 (Save)] ボタンまたは [保存 (Save)] アイコンをクリックします。

次の作業

新しいユーザ クレデンシャル ポリシーを割り当てるには、ユーザ認証イベントを管理するか、ユーザのクレデンシャルを表示します。手順は次のとおりです。

- 「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.112-11)
- 「エンド ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.113-14)

ユーザの固有のパスワードを設定する手順は、次のとおりです。

- 「アプリケーション ユーザのパスワードの変更」 (P.112-10)
- 「エンド ユーザのパスワードの変更」 (P.113-13)
- 「エンド ユーザの PIN の変更」 (P.113-14)

一括管理ツール (BAT) を使用すると、BAT ユーザ テンプレートでユーザのグループに共通のクレデンシャル パラメータ (パスワード、PIN など) を、管理者が定義できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

エンド ユーザは、電話機のユーザ ページで PIN を変更できます。LDAP 認証が使用可能でない場合は、電話機のユーザ ページでパスワードを変更できます。詳細については、使用している Cisco Unified IP Phone のマニュアルを参照してください。

追加情報

「関連項目」 (P.110-4) を参照してください。

関連項目

- 「クレデンシャル ポリシーの設定値」 (P.111-1)
- 「クレデンシャル ポリシーのデフォルトの検索」 (P.110-3)
- 「クレデンシャル ポリシーのデフォルトの割り当てと設定」 (P.110-3)
- 「クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値」 (P.110-1)
- 「クレデンシャル ポリシーの検索」 (P.111-3)
- 「クレデンシャル ポリシーの設定」 (P.111-4)
- 「クレデンシャル ポリシーの削除」 (P.111-5)
- 「アプリケーション ユーザのパスワードの変更」 (P.112-10)
- 「エンド ユーザのパスワードの変更」 (P.113-13)
- 「エンド ユーザの PIN の変更」 (P.113-14)
- 「エンド ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.113-14)
- 「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.112-11)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「クレデンシャル ポリシー」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「ディレクトリの概要」
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco エクステンション モビリティ」



CHAPTER 111

クレデンシャル ポリシーの設定

この章では、クレデンシャル ポリシーの設定方法について説明します。クレデンシャル ポリシー割り当ての詳細については、「[関連項目](#)」(P.111-6)を参照してください。次のトピックでは、クレデンシャル ポリシーの設定について説明します。

- 「[クレデンシャル ポリシーの設定値](#)」(P.111-1)
- 「[クレデンシャル ポリシーの検索](#)」(P.111-3)
- 「[クレデンシャル ポリシーの設定](#)」(P.111-4)
- 「[クレデンシャル ポリシーの削除](#)」(P.111-5)
- 「[関連項目](#)」(P.111-6)

クレデンシャル ポリシーの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウを使用すると、セキュアなユーザ アカウントにクレデンシャル ポリシーを設定できます。

ポリシーは、システム リソースまたはネットワーク リソースへのアクセスを制御する規則のセットで構成されます。クレデンシャル ポリシーは、ユーザ アカウントのパスワード要件およびアカウント ロックアウトを定義します。ユーザ アカウントに割り当てられたクレデンシャル ポリシーは、Cisco Unified Communications Manager の認証プロセスを制御します。クレデンシャル ポリシーの追加後は、クレデンシャル タイプまたは個々のアプリケーション ユーザまたはエンド ユーザのデフォルト ポリシーに、新しいポリシーを割り当てることができます。

インストール時に、Cisco Unified Communications Manager は、静的なクレデンシャル ポリシーをエンド ユーザの Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号)、アプリケーション ユーザのパスワード、およびエンド ユーザのパスワードに割り当てます。ポリシーには、失敗したログインのリセット、ロックアウト期間、有効期間、およびクレデンシャル要件の設定が含まれます。[クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウを使用すると、システムまたはサイトの新しいクレデンシャル ポリシーを設定できます。静的なポリシーは変更できません。

表 111-1 では、クレデンシャル ポリシーの設定値について説明します。関連する情報および手順については、「[関連項目](#)」(P.111-6)を参照してください。

始める前に

システムには、簡単にハッキングされるクレデンシャルを許可しないようにするための、単純すぎるクレデンシャルのチェックが用意されています。単純すぎるクレデンシャルのチェックを有効にするには、[クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの [単純すぎるパスワードの確認 (Check for Trivial Passwords)] チェックボックスをオンにします。

パスワードには、すべての ASCII 英数字とすべての ASCII 特殊文字が使用できます。単純すぎないパスワードとは、次の基準を満たすパスワードです。

- 使用可能な 4 つの文字種（大文字、小文字、数字、記号）のうち、3 つを含む。
- 1 つの文字または数字を 4 つ以上連続して使用しない。
- エイリアス、ユーザ名、内線を繰り返したり、含めたりしない。
- 連続した文字または数字で構成しない（たとえば、654321 や ABCDEFG などのパスワードにしない）。

PIN に使用可能な文字は、数字（0 ～ 9）だけです。単純すぎない PIN とは、次の基準を満たす PIN です。

- 同じ数字を 3 回以上連続して使用しない。
- ユーザの内線またはメールボックス、またはユーザの内線またはメールボックスの逆を繰り返したり、含めたりしない。
- 3 つの異なる数字を含める（たとえば、121212 のような PIN は単純すぎる）。
- ユーザの姓または名の数字表現（名前によるダイヤル）と一致させない。
- 数字の繰り返しグループ（408408 など）、またはキーパッドの直線上に並ぶパターン（2580、159、753 など）を含めない。

表 111-1 クレデンシャル ポリシーの設定値

フィールド	説明
[表示名 (Display Name)]	クレデンシャル ポリシー名を指定します。 最大 64 文字を入力します（引用符は使用不可）。タブは入力しないでください。
[失敗したログイン (Failed Logon)]/[ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons)]	許可されるログイン試行の失敗回数を指定します。このしきい値に達すると、アカウントがロックされます。 1 ～ 100 の数値を入力します。失敗ログインを無制限に許可するには、0 を入力するか、[ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons)] チェックボックスをオンにします。0 よりも大きな値を入力するには、このチェックボックスをオフにします。デフォルト設定は 3 です。
[失敗したログイン試行をリセットする間隔 (Reset Failed Logon Attempts Every、分)]	失敗したログイン試行のカウントをリセットするまでの時間を分単位で指定します。カウントをリセットすると、ユーザは、再度ログインを試行できるようになります。 1 ～ 120 の数値を入力します。デフォルト設定は 30 です。
[ロックアウト期間 (Lockout Duration、分)]/[管理者がロック解除を行う (Administrator Must Unlock)]	失敗したログイン試行回数が指定されているしきい値に達したときに、アカウントをロックする時間を分単位で指定します。 1 ～ 1440 の数値を入力します。0 を入力するか、[管理者がロック解除を行う (Administrator Must Unlock)] チェックボックスをオンにすると、アカウントは管理者が手動でロックを解除するまでロックされたままになります。0 よりも大きな値を入力するには、このチェックボックスをオフにします。デフォルト設定は 30 です。
[クレデンシャル変更の最小間隔 (Minimum Duration Between Credential Changes、分)]	ユーザがクレデンシャルを再度変更できるようになるまでの時間を分単位で指定します。 0 を入力すると、ユーザがいつでもクレデンシャルを変更できるようになります。0 よりも大きな値を入力するには、このチェックボックスをオフにします。デフォルト設定は 0 です。

表 111-1 クレデンシャル ポリシーの設定値 (続き)

フィールド	説明
[クレデンシャルの期限切れ (Credential Expires After、日)]/[無期限 (Never Expires)]	<p>クレデンシャルの有効期限が切れる日数を指定します。</p> <p>1 ~ 365 の数値を入力します。クレデンシャルの有効期限が切れないようにするには、0 を入力するか、[無期限 (Never Expires)] チェックボックスをオンにします。0 よりも大きな値を入力するには、このチェックボックスをオフにします。0 オプションは、たとえば、セキュリティの低いアカウントや複数ユーザのアカウントに使用します。デフォルト設定は 180 です。</p>
[最小のクレデンシャルの長さ (Minimum Credential Length)]	<p>ユーザ クレデンシャル (パスワードまたは PIN) の最小の長さを指定します。</p> <p>空白のパスワードは許可されないため、0 は入力しないでください。デフォルト設定は 8 です。最小の設定は 1 以上です。</p>
[以前のクレデンシャルの保存数 (Stored Number of Previous Credentials)]	<p>ユーザの以前のクレデンシャルを、いくつ保存するかを指定します。この設定によって、ユーザリストに保存されている、最近使用したクレデンシャルをユーザが設定できないようにします。</p> <p>0 ~ 25 の数値を入力します。以前のクレデンシャルを保存しないようにするには、0 を入力します。デフォルト設定は 12 です。</p>
[許可される非アクティブ日数 (Inactive Days Allowed)]	<p>パスワードを非アクティブなままにできる日数を指定します。この日数を超えて非アクティブになると、アカウントがロックされます。</p> <p>0 ~ 5000 の数値を入力します。デフォルト設定は 0 です。</p>
[期限切れの警告日 (Expiry Warning Days)]	<p>0 ~ 90 の数値を入力して、ユーザパスワードが期限切れになる何日前から警告通知の表示を開始するかを指定します。デフォルト設定は 0 です。</p>
[単純すぎるパスワードの確認 (Check for Trivial Passwords)]	<p>一般的な単語、文字パターンの繰り返しなど、簡単にハッキングされるクレデンシャルを許可しないようにする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。</p>

クレデンシャル ポリシーの検索

ここでは、既存のクレデンシャル ポリシーを検索または確認する方法を説明します。

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] の順に選択します。
[クレデンシャルポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policies)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 表示するリスト項目をクリックします。
選択したクレデンシャル ポリシーがウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.111-6) を参照してください。

クレデンシャル ポリシーの設定

ここでは、新しいクレデンシャル ポリシーの作成方法と、既存のクレデンシャル ポリシーの変更方法を説明します。システムのデフォルトのクレデンシャル ポリシーは変更できません。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)] の順に選択します。
[クレデンシャルポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policies)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 新しいポリシーを追加するには、検索ウィンドウの [新規追加 (Add New)] ボタンまたは [新規追加 (Add New)] アイコンをクリックするか、リストからクレデンシャル ポリシーを表示して、[コピー (Copy)] または [新規追加 (Add New)] ボタンまたはアイコンをクリックします。[新規追加 (Add New)] をクリックすると、各フィールドにデフォルト値が設定された [クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コピー (Copy)] をクリックすると、表示されているポリシーの値が設定された、[クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウが表示されます。「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存のエントリを更新するには、変更するポリシーをクリックします。[クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウに、現在の設定値が表示されます。「[ステップ 3](#)」に進みます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 111-1 を参照)。
- ステップ 4** [保存 (Save)] ボタンまたは [保存 (Save)] アイコンをクリックします。
-

次の作業

クレデンシャル タイプのデフォルト ポリシーとして新しいクレデンシャル ポリシーを割り当てるには、「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの割り当てと設定](#)」(P.110-3) の手順に従います。

個々のユーザに新しいクレデンシャル ポリシーを割り当てるには、「[アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理](#)」(P.112-11) および「[エンド ユーザのクレデンシャルの管理](#)」(P.113-14) の手順に従います。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.111-6) を参照してください。

クレデンシャル ポリシーの削除

ここでは、Cisco Unified Communications Manager データベースからセキュリティ ポリシーを削除する方法を説明します。

始める前に



(注)

エンド ユーザのパスワード、エンド ユーザの PIN、アプリケーション ユーザのパスワードのデフォルト ポリシーとして割り当てられているクレデンシャル ポリシーは削除できません。

クレデンシャル ポリシーを使用しているデフォルト ポリシーを検索するには、[クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

依存関係レコード機能がシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用中のクレデンシャル ポリシーを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のクレデンシャル ポリシーを削除するには、ユーザに対して別のクレデンシャル ポリシーを選択するか、新しいポリシーを作成して割り当てる必要があります（「[クレデンシャル ポリシーの設定](#)」(P.111-4) を参照）。

手順

- ステップ 1** 「[クレデンシャル ポリシーの検索](#)」(P.111-3) の手順を使用して、削除するクレデンシャル ポリシーを検索します。レコードのリストから、削除するポリシーをクリックします。



(注) 該当するエントリの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンまたは [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックすると、[クレデンシャルポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Credential Policies)] ウィンドウからエントリを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] ボタンまたは [すべてを選択 (Select All)] アイコンをクリックして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] ボタンまたは [選択項目の削除 (Delete Selected)] アイコンをクリックすると、リストのすべてのエントリを削除できます。

- ステップ 2** [クレデンシャルポリシーの設定 (Credential Policy Configuration)] ウィンドウの [削除 (Delete)] アイコンまたは [削除 (Delete)] ボタンをクリックすると、ポリシーが削除されます。

- ステップ 3** 削除操作の確認を求められたら、[OK] をクリックすると、ポリシーが削除されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.111-6) を参照してください。

関連項目

- 「[クレデンシャル ポリシーの設定値](#)」 (P.111-1)
- 「[クレデンシャル ポリシーの検索](#)」 (P.111-3)
- 「[クレデンシャル ポリシーの設定](#)」 (P.111-4)
- 「[クレデンシャル ポリシーの削除](#)」 (P.111-5)
- 「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの検索](#)」 (P.110-3)
- 「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの割り当てと設定](#)」 (P.110-3)
- 「[クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定値](#)」 (P.110-1)
- 「[アプリケーション ユーザのパスワードの変更](#)」 (P.112-10)
- 「[エンド ユーザのパスワードの変更](#)」 (P.113-13)
- 「[エンド ユーザの PIN の変更](#)」 (P.113-14)
- 「[エンド ユーザのクレデンシャルの管理](#)」 (P.113-14)
- 「[アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理](#)」 (P.112-11)
- 『[Cisco Unified Communications Manager システム ガイド](#)』の「[アプリケーション ユーザとエンド ユーザ](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager システム ガイド](#)』の「[参考情報](#)」
- 『[Cisco Unified Communications Manager システム ガイド](#)』の「[Cisco Unity メッセージングの連動](#)」
- 「[LDAP システムの設定](#)」 (P.14-1)
- 「[電話番号の設定](#)」 (P.61-1)
- 「[CTI ルート ポイントの設定](#)」 (P.89-1)
- 『[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)』の「[Cisco エクステンション モビリティ](#)」



CHAPTER 112

アプリケーション ユーザの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager のアプリケーション ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。

次のトピックでは、アプリケーション ユーザ情報の管理について説明します。

- 「アプリケーション ユーザの設定値」 (P.112-1)
- 「アプリケーション ユーザの検索」 (P.112-6)
- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.112-8)
- 「Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加」 (P.112-9)
- 「アプリケーション ユーザのパスワードの変更」 (P.112-10)
- 「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.112-11)
- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」 (P.112-12)
- 「アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け」 (P.112-13)
- 「アプリケーション ユーザの削除」 (P.112-14)
- 「関連項目」 (P.112-15)

アプリケーション ユーザの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager アプリケーション ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。

表 112-1 では、アプリケーション ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」 (P.112-15) を参照してください。

表 112-1 アプリケーション ユーザの設定値

フィールド	説明
[アプリケーションユーザ情報 (Application User Information)]	
[ユーザ ID(User ID)]	アプリケーション ユーザの固有の識別名を入力します。Cisco Unified Communications Manager では、既存のユーザ ID を変更できます (LDAP サーバとの同期化を使用可能にしている場合)。英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)、またはスペース () を入力することができます。
[パスワード (Password)]	アプリケーション ユーザ パスワードとなる英数字または特殊文字を入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数以上を入力する必要があります。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	ユーザ パスワードをもう一度入力します。
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	一連の英数字を入力します。Cisco Unified Communications Manager は、ここで指定したダイジェスト信用証明書を使用して、SIP トランクの確認中に SIP ユーザ エージェントの応答を検証します。 ダイジェスト認証については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)]	ダイジェスト信用証明書を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにその信用証明書を入力します。
[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)]	[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンは、このユーザをデータベースに追加した後で表示されます。 このユーザのクレデンシャルを管理するには、このボタンをクリックします。「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」(P.112-11) を参照してください。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。 (注) このアプリケーション ユーザをプレゼンスで使用しない場合は、プレゼンス グループをデフォルト ([None]) 設定のままにします。 ドロップダウン リスト ボックスから、アプリケーション ユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループによって、アプリケーション ユーザ (IPMASysUser など) が監視できる対象が指定されます。 インストール時に、標準のプレゼンス グループが設定されます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。 プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

表 112-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレゼンス登録の許可 (Accept Presence Subscription)]	<p>このフィールドには、プレゼンス認可用のプレゼンス機能を設定します。</p> <p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified Communications Manager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからのプレゼンス要求を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしていない場合は、Cisco Unified Communications Manager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[アウトオブダイアログ REFER の許可 (Accept Out-of-Dialog REFER)]	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified Communications Manager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからの Out-of-Dialog REFER 要求を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP で開始される転送機能や他の高度な転送関連機能を使用するには、Cisco Unified Communications Manager がこのアプリケーション ユーザの着信 Out-of-Dialog REFER 要求を受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしていない場合は、Cisco Unified Communications Manager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 112-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[未承諾 NOTIFY の許可 (Accept Unsolicited Notification)]	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified Communications Manager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからの任意通知を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、Message Waiting Indication (MWI; メッセージ待機インディケータ) サポートを提供するには、Cisco Unified Communications Manager がこのアプリケーション ユーザの着信任意通知を受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしている場合、Cisco Unified Communications Manager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[REPLACE ヘッダの許可 (Accept Replaces Header)]	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified Communications Manager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからのメッセージのヘッダー置換を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP トランク上の外部コールを、在席転送の場合と同様に、外部のデバイスまたは相手に転送するには、このアプリケーション ユーザの REFER および INVITE 内に Replaces ヘッダーを含む SIP 要求を Cisco Unified Communications Manager が受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしている場合、Cisco Unified Communications Manager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 112-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[使用可能なデバイス (Available Devices)]	<p>このリスト ボックスには、このアプリケーション ユーザとの関連付けに使用できるデバイスが表示されます。</p> <p>デバイスをこのアプリケーション ユーザに関連付けるには、デバイスを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p> <p>このアプリケーション ユーザに関連付けるデバイスがこのペインに表示されない場合は、次のボタンのいずれかをクリックして、他のデバイスを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [別の電話を検索 (Find more Phones)] : このアプリケーション ユーザに関連付ける他の電話機を検索する場合は、このボタンをクリックします。電話機を検索するための [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。 • [別のルートポイントを検索 (Find more Route Points)] : このアプリケーション ユーザに関連付ける他のルートポイントを検索する場合は、このボタンをクリックします。Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) ルートポイントを検索するための [CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。 • [別のパイロットポイントを検索 (Find more Pilot Points)] : このアプリケーション ユーザに関連付ける他のパイロットポイントを検索する場合は、このボタンをクリックします。パイロットポイントを検索するための [パイロットポイントの検索と一覧表示 (Find and List Pilot Points)] ウィンドウが表示されます。
[制御するデバイス (Controlled Devices)]	<p>このフィールドには、アプリケーション ユーザに関連付けられているデバイスのリストが表示されます。デバイスを削除するには、デバイス名を選択し、このリスト ボックスの上にある上矢印をクリックします。デバイスを追加するには、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスでデバイスを選択し、下矢印をクリックします。</p>
[CAPF 情報 (CAPF Information)]	
[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)]	<p>このペインには、このユーザ用に設定した CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを表示または更新するには、インスタンス ID をダブルクリックするか、インスタンス ID をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。</p> <p>アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 112-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[権限情報 (Permissions Information)]	
[グループ (Groups)]	<p>このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザ レコードが保存された後で表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザが属するグループが表示されます。</p> <p>ユーザを 1 つ以上のグループに追加するには、[ユーザグループに追加 (Add to User Group)] ボタンをクリックします。[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが別ウィンドウで表示されます。ユーザを追加するグループを見つけて、そのグループの横にあるチェックボックスをオンにします。次に、ウィンドウの下部にある [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが閉じ、[アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したグループが [グループ (Groups)] リスト ボックスに表示されます。</p> <p>グループからユーザを削除するには、[グループ (Groups)] リスト ボックスでグループを選択し、[ユーザグループから削除 (Remove from User Group)] ボタンをクリックします。</p> <p>グループを表示または更新するには、グループ名をダブルクリックするか、グループ名をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。</p> <p>ユーザ グループの検索および設定の詳細については、「ユーザ グループの設定」(P.115-1) を参照してください。</p>
[権限 (Roles)]	<p>このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザが追加され、[グループ (Groups)] リスト ボックスにデータが入力され、ユーザ レコードが保存された後で表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザに割り当てられている権限が表示されます。</p> <p>権限を表示または更新するには、権限名をダブルクリックするか、権限名をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。</p> <p>権限を設定する方法の詳細については、「権限の設定」(P.114-1) を参照してください。</p>

アプリケーション ユーザの検索

Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、アプリケーション ユーザの情報を検索できます。アプリケーション ユーザの情報を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] の順に選択します。
[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.112-15) を参照してください。

アプリケーション ユーザの設定

新しいアプリケーション ユーザを設定する手順は、次のとおりです。インストール時に、Cisco Unified Communications Manager のデフォルト アプリケーション ユーザのセットが設定されます。



(注)

Cisco Unity または Cisco Unity Connection の管理者アカウントを追加する場合は、Cisco Unity および Cisco Unity Connection の管理で定義したものと同一ユーザ名およびパスワードを使用する必要があります。ユーザ ID を使用して、Cisco Unity または Cisco Unity Connection と Cisco Unified Communications Manager の管理との間の認証を行います。詳細については、Cisco Unity または Cisco Unity Connection 用の該当する Cisco Unified Communications Manager インストール ガイドを参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページのアプリケーション ユーザは、Cisco Unity ユーザまたは Cisco Unity Connection ユーザと同様に、[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity アプリケーションユーザの作成 (Create Cisco Unity Application User)] オプションで設定できます。その後は、その他の設定値を Cisco Unity または Cisco Unity Connection の管理で設定できます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] の順に選択します。
[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、アプリケーション ユーザを検索します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 112-1 を参照)。
- ステップ 4** ユーザ情報の入力を完了したら、[保存 (Save)] をクリックし、変更内容を保存してユーザを追加します。
- ステップ 5** このアプリケーション ユーザのユーザ特権レポートを表示するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ特権レポート (User Privilege Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
このアプリケーション ユーザの [ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。ユーザ特権レポートの詳細については、「ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示」(P.115-8) を参照してください。
このアプリケーション ユーザのユーザ特権レポートを表示した後、このアプリケーション ユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [アプリケーションユーザに戻る (Back to Application User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

次の作業

このアプリケーション ユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け」(P.112-13) の手順に進みます。

このアプリケーション ユーザのクレデンシャルを管理する場合は、後述の「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」(P.112-11) の手順に進みます。

管理者ユーザを Cisco Unity または Cisco Unity Connection に追加する場合は、後述の「[Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加](#)」(P.112-9) の手順に進みます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.112-15) を参照してください。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加

[Application Configuration(アプリケーションの設定)] ウィンドウにある [Cisco Unity アプリケーションユーザの作成(Create Cisco Unity Application User)] リンクを使用すると、ユーザを管理者ユーザとして Cisco Unity または Cisco Unity Connection に追加することができます。この方法を使用して、アプリケーション ユーザを Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定してから、そのユーザの追加設定を Cisco Unity または Cisco Unity Connection の管理で設定します。

Cisco Unified Communications Manager を Cisco Unity Connection 7.x に統合する場合は、この項で説明している手順を実行する代わりに、Cisco Unity Connection 7.x で使用可能なインポート機能を使用することができます。インポート機能の使用の詳細については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection 7.x*』を参照してください。

[Cisco Unity ユーザの作成(Create Cisco Unity User)] リンクが表示されるのは、該当する Cisco Unity または Cisco Unity Connection ソフトウェアのインストールと設定を行った場合だけです。該当する『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』または『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

始める前に

Cisco Unity または Cisco Unity Connection にプッシュするユーザの適切なテンプレートを定義していることを確認します。Cisco Unity Connection ユーザの場合は、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。Cisco Unity ユーザの場合は、『*System Administration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

手順

- ステップ 1** アプリケーション ユーザを検索します（「[アプリケーション ユーザの検索](#)」(P.112-6) を参照）。
- ステップ 2** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco Unity アプリケーションユーザの作成(Create Cisco Unity Application User)] リンクを選択し、[移動(Go)] をクリックします。
[Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [アプリケーションサーバ(Application Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity ユーザまたは Cisco Unity Connection ユーザを作成する Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ(Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [アプリケーションユーザテンプレート (Application User Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、使用するテンプレートを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

管理者アカウントが Cisco Unity または Cisco Unity Connection に作成されます。[アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] 内のリンクが [Cisco Unity ユーザの編集 (Edit Cisco Unity User)] に変わります。これで、Cisco Unity システム管理または Cisco Unity Connection の管理で作成したユーザが表示されるようになります。



(注) Cisco Unity ユーザまたは Cisco Unity Connection ユーザが Cisco Unified Communications Manager アプリケーション ユーザと統合された場合、Cisco Unity システム管理または Cisco Unity Connection の管理では [エイリアス] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ ID (User ID)]、[名]、[姓]、[内線] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [プライマリ内線 (Primary Extension)]) の各フィールドを編集できません。これらのフィールドは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページだけで更新できます。



(注) Cisco Unity および Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Communications Manager からのデータの同期を監視します。Cisco Unity システム管理または Cisco Unity Connection の管理の [ツール] メニューで、同期時間を設定できます。詳細については、Cisco Unity Connection の場合は、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。Cisco Unity の場合は、『*System Administration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.112-15) を参照してください。

アプリケーション ユーザのパスワードの変更

アプリケーション ユーザのパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「[アプリケーション ユーザの検索](#)」(P.112-6) の手順を使用して、パスワードを変更するアプリケーション ユーザを見つけます。
- [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したアプリケーション ユーザの情報が示されます。
- ステップ 2** [パスワード (Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。
- ステップ 3** [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.112-15) を参照してください。

アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理

アプリケーション ユーザのクレデンシャル（関連付けられた認証ルール、関連付けられたクレデンシャル ポリシー、パスワードの最終変更時間など）を変更または表示する手順は、次のとおりです。ユーザのクレデンシャルを編集できるのは、ユーザがデータベースに存在している場合だけです。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウでは、割り当てられたクレデンシャル ポリシーと衝突する設定を保存することができません。たとえば、ポリシーで [無期限 (Never Expires)] チェックボックスがオンの場合、[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで [無期限にする (Does Not Expire)] チェックボックスをオフにして保存することはできません。ただし、[無期限 (Never Expires)] ポリシー設定がオンでない場合、ユーザに別のクレデンシャル期限を設定することはできます ([無期限にする (Does Not Expire)] を含む)。この場合、ユーザ設定がポリシー設定よりも優先されます。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウの他の設定と衝突する、[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウの設定変更はできません。たとえば、[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] ボックスがオンの場合は、[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにできません。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウには、イベントのおよその回数が表示されます。このフォームは、次に認証クエリーまたはイベントが発生したときに更新されます。

始める前に

データベースにアプリケーション ユーザを作成します。「アプリケーション ユーザの設定」(P.112-8) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「アプリケーション ユーザの検索」(P.112-6) の手順を使用して、アプリケーション ユーザの設定を検索します。
[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。
 - ステップ 2** パスワード情報を変更または表示するには、[パスワード (Password)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** ユーザのクレデンシャル データを表示するか、適切な設定値を入力します (表 112-2 を参照)。
 - ステップ 4** 設定値を変更した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.112-15) を参照してください。

クレデンシャルの設定値とフィールド

表 112-2 では、アプリケーション ユーザおよびエンド ユーザのクレデンシャルの設定値について説明します。これらの設定値は、アプリケーション ユーザまたはエンド ユーザのダイジェスト信用証明書には適用されません。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.112-15) を参照してください。

表 112-2 アプリケーション ユーザおよびエンド ユーザのクレデンシャルの設定値とフィールド

フィールド	説明
[管理者によるロック (Locked by Administrator)]	このアカウントをロックし、ユーザがアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 アカウントのロックを解除し、ユーザがアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオフにします。 このチェックボックスは、クレデンシャル ポリシーでこのアカウント タイプに [管理者がロック解除を行う (Administrator Must Unlock)] が指定され、アカウントのロックアウトが発生した後で使用します。
[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)]	ユーザがこのクレデンシャルを変更できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、グループ アカウントに対して使用します。 [ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。
[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)]	次回のログイン時に、このクレデンシャルの変更をユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、一時的なクレデンシャルを割り当てた後で使用します。 [ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。
[無期限にする (Does Not Expire)]	このクレデンシャルの変更をユーザに要求しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、セキュリティの低いユーザまたはグループ アカウントに使用できます。 オンにしても、ユーザはいつでもこのクレデンシャルを変更できます。このチェックボックスがオフの場合、関連付けられているクレデンシャル ポリシーの有効期限の設定が適用されます。 ポリシー設定で [無期限 (Never Expires)] が指定されている場合は、このチェックボックスをオフにできません。

表 112-2 アプリケーション ユーザおよびエンド ユーザのクレデンシャルの設定値とフィールド (続き)

フィールド	説明
[ハック数のリセット (Reset Hack Count)]	このユーザのハック数をリセットして、[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)] フィールドをクリアするには、このチェックボックスをオンにします。 ハック数は、クレデンシャルが不正なために認証に失敗すると増えます。 ポリシーで [ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons)] が指定されている場合、ハック数は常に 0 になります。
[認証ルール (Authentication Rule)]	このユーザのクレデンシャルに適用するクレデンシャルポリシーを選択します。
[最終変更時間 (Time Last Changed)]	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルが変更された最新の日時が表示されます。
[失敗したログイン試行 (Failed Logon Attempts)]	このフィールドには、成功した最終ログイン、管理者によるこのユーザクレデンシャルのハック数のリセット、または失敗したログイン試行回数のリセット期間経過の後、失敗したログイン試行回数が表示されます。
[失敗した最後のログイン試行時間 (Time of Last Failed Logon Attempt)]	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルでログイン試行が失敗した最新の日時が表示されます。
[管理者によりロックされた時間 (Time Locked by Administrator)]	このフィールドには、管理者がこのユーザ アカウントをロックした日時が表示されます。管理者がクレデンシャルのロックを解除すると、このフィールドはブランクになります。
[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)]	このフィールドには、失敗したログイン試行によってユーザ アカウントがロックされた最新の日時が表示されます。ハック ロックアウトの時間は、失敗したログイン試行回数が、適用されているクレデンシャル ポリシーで設定されているしきい値を超えると設定されます。

アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け

アプリケーション ユーザにデバイスを関連付け、アプリケーション ユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、アプリケーション ユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。アプリケーション ユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値 (たとえば、短縮ダイヤルや自動転送) を制御できます。

始める前に

アプリケーション ユーザにデバイスを割り当てるには、そのユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のアプリケーション ユーザを見つける方法については、「[アプリケーション ユーザの検索](#)」(P.112-6) を参照してください。[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスで、アプリケーション ユーザに関連付けるデバイスを選択し、リスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。選択したデバイスは、[制御するデバイス (Controlled Devices)] リストボックスに移動します。
- ステップ 2** 使用可能なデバイスのリストを制限するには、[別の電話を検索 (Find more Phones)] ボタン、[別のルートポイントを検索 (Find more Route Points)] ボタン、または [別のパイロットポイントを検索 (Find more Pilot Points)] ボタンをクリックします。
- [別の電話を検索 (Find more Phones)] ボタンをクリックすると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。検索を行って、このアプリケーション ユーザに関連付ける電話機を見つけます。
 - [別のルートポイントを検索 (Find more Route Points)] ボタンをクリックすると、[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。検索を行って、このアプリケーション ユーザに関連付ける CTI ルートポイントを見つけます。
 - [別のパイロットポイントを検索 (Find more Pilot Points)] ボタンをクリックすると、[パイロットポイントの検索と一覧表示 (Find and List Pilot Points)] ウィンドウが表示されます。検索を行って、このアプリケーション ユーザに関連付けるパイロットポイントを見つけます。
- ステップ 3** アプリケーション ユーザに割り当てるデバイスごとに、前述のステップを繰り返します。
- ステップ 4** 割り当てを完了したら、[保存 (Save)] をクリックして、アプリケーション ユーザにデバイスを割り当てます。
-

追加情報

「関連項目」(P.112-15) を参照してください。

アプリケーション ユーザの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用してアプリケーション ユーザを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

アプリケーション ユーザを削除する前に、そのエンド ユーザに関連付けられているデバイスまたはプロフィールを削除する必要があるかどうかを判断します。

アプリケーション ユーザに割り当てられているプロフィールおよび権限は、[アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの [CAPF 情報 (CAPF Information)] 領域および [権限情報 (Permissions Information)] 領域から表示できます。[アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス \(PA-2\)](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] の順に選択します。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のエンド ユーザを見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。

検索条件と一致するアプリケーション ユーザのリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するエンド ユーザの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
- [すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのユーザを削除します。
- 削除するユーザのユーザ ID をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

次の作業

このユーザが Cisco Unity または Cisco Unity Connection で設定されていた場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザを削除すると、Cisco Unified Communications Manager とユーザとの関連付けが破棄されます。孤立したユーザは、Cisco Unity または Cisco Unity Connection の管理で削除できます。詳細については、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。Cisco Unity の詳細については、該当する『*System Administration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.112-15) を参照してください。

関連項目

- 「アプリケーション ユーザの設定値」(P.112-1)
- 「アプリケーション ユーザの検索」(P.112-6)
- 「アプリケーション ユーザの設定」(P.112-8)
- 「Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加」(P.112-9)
- 「アプリケーション ユーザのパスワードの変更」(P.112-10)
- 「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」(P.112-11)
- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」(P.112-12)
- 「アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け」(P.112-13)
- 「アプリケーション ユーザの削除」(P.112-14)
- 「エンド ユーザの検索」(P.113-10)
- 「エンド ユーザの設定」(P.113-11)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.113-12)
- 「エンド ユーザのパスワードの変更」(P.113-13)
- 「エンド ユーザの PIN の変更」(P.113-14)
- 「エンド ユーザのクレデンシャルの管理」(P.113-14)

- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」 (P.113-15)
- 「エンド ユーザのユーザ関連情報の設定」 (P.113-17)
- 「エンド ユーザとデバイスとの関連付け」 (P.113-18)
- 「Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け」 (P.113-20)
- 「エンド ユーザの削除」 (P.113-21)
- 「LDAP システムの設定」 (P.14-1)
- 「権限の設定」 (P.114-1)
- 「ユーザ グループの設定」 (P.115-1)
- 「ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示」 (P.115-8)
- 「電話番号の設定」 (P.61-1)
- 「CTI ルート ポイントの設定」 (P.89-1)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.92-1)
- 「クレデンシャル ポリシーの設定」 (P.111-1)
- 「クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定」 (P.110-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クレデンシャル ポリシー」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「参考情報」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「デバイスの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの連動」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

関連資料

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』
- 『System Administration Guide for Cisco Unity』



CHAPTER 113

エンド ユーザの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager のエンド ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。

- Cisco Unified Communications Manager のエンド ユーザ ディレクトリとして Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 社内ディレクトリを使用するようにシステムを設定した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページではユーザの追加または削除ができません。社内 LDAP ディレクトリでエンド ユーザを追加および削除してください。
- LDAP ディレクトリを使用してユーザを認証するようにシステムを設定した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページではエンド ユーザ パスワードの設定または変更ができません。社内 LDAP ディレクトリでエンド ユーザ パスワードを設定および変更してください。

次のトピックでは、エンド ユーザ ディレクトリ情報の管理について説明します。

- 「[エンド ユーザの設定値](#)」 (P.113-2)
- 「[エンド ユーザの検索](#)」 (P.113-10)
- 「[エンド ユーザの設定](#)」 (P.113-11)
- 「[Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成](#)」 (P.113-12)
- 「[エンド ユーザのパスワードの変更](#)」 (P.113-13)
- 「[エンド ユーザの PIN の変更](#)」 (P.113-14)
- 「[エンド ユーザのクレデンシャルの管理](#)」 (P.113-14)
- 「[クレデンシャルの設定値とフィールド](#)」 (P.113-15)
- 「[エンド ユーザのユーザ関連情報の設定](#)」 (P.113-17)
- 「[エンド ユーザとデバイスとの関連付け](#)」 (P.113-18)
- 「[Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け](#)」 (P.113-20)
- 「[エンド ユーザの削除](#)」 (P.113-21)
- 「[関連項目](#)」 (P.113-22)

エンド ユーザの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager のエンド ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで電話機を関連付けた後は、エンド ユーザが電話機を制御できます。

表 113-1 では、エンド ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.113-22) を参照してください。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP 同期を使用可能にしている場合は、エンド ユーザの追加、エンド ユーザの削除、既存のユーザ情報 (ユーザ ID など) の変更を [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで行うことはできません。代わりに、社内 LDAP ディレクトリに対してユーザ情報の追加と更新、およびエンド ユーザの削除を行う必要があります。[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフになっていることを確認するには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] の順に選択します。
- LDAP ディレクトリを使用してユーザを認証するようにシステムを設定した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページではエンド ユーザ パスワードの設定または変更ができません。社内 LDAP ディレクトリでエンド ユーザ パスワードを設定および変更してください。
- Cisco Unity Connection で Cisco Unity Connection ユーザをインポートできます (該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照)。または必要に応じて、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] オプションを使用して、Cisco Unity Connection ユーザと同様に Cisco Unified Communications Manager の管理のエンド ユーザを設定できます (「[Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成](#)」(P.113-12) を参照)。

表 113-1 エンド ユーザの設定値

フィールド	説明
[ユーザ情報 (User Information)]	
[LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]	このフィールドには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] メニュー オプションで設定した、LDAP 同期の状況が表示されます。
[ユーザ ID (User ID)]	<p>エンド ユーザの固有の識別名を入力します。任意の文字 (英数字や特殊文字を含む) を入力できます。このフィールドには文字に関する制限はありません。</p> <p>LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、ユーザ ID を変更できます。同期が使用可能である場合、ユーザ ID を表示できますが、変更はできません。</p> <p>同期が使用不可の場合、Cisco Unified Communications Manager では、作成後にユーザ ID を変更できます。</p>

表 113-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パスワード (Password、半角英数字のみ)]/[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)]	このフィールドは、LDAP 認証が使用可能な場合、表示されません。 エンドユーザ パスワードとなる英数字または特殊文字を入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数 (1 ~ 127 文字) 以上を入力する必要があります。 [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンは、このユーザをデータベースに追加した後で表示されます。このユーザのクレデンシャルを管理するには、[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。「 エンドユーザのクレデンシャルの管理 」(P.113-14) を参照してください。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	このフィールドは、LDAP 認証が使用可能な場合、表示されません。 エンドユーザのパスワードをもう一度入力します。
[PIN(PIN、半角数字のみ)]/[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)]	エンドユーザの Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる英数字を入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数 (1 ~ 127 文字) 以上を入力する必要があります。 [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンは、このユーザをデータベースに追加した後で表示されます。このユーザのクレデンシャルを管理するには、[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。「 エンドユーザのクレデンシャルの管理 」(P.113-14) を参照してください。
[PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)]	PIN をもう一度入力します。
[姓 (Last Name)]	エンドユーザの姓を入力します。
[ミドルネーム (Middle Name)]	エンドユーザのミドルネームを入力します。
[名 (First Name)]	エンドユーザの名を入力します。
[電話番号 (Telephone Number)]	エンドユーザの電話番号を入力します。特殊文字として、(、)、および - を使用できます。
[メール ID (Mail ID)]	エンドユーザの電子メールアドレスを入力します。
[マネージャのユーザ ID (Manager User ID)]	エンドユーザ マネージャ ID のユーザ ID を入力します。 ヒント 入力するマネージャのユーザ ID は、エンドユーザと同じクラスターに存在していないものである必要があります。このため、Cisco Unified Communications Manager では、データベースにすでに存在するユーザ ID は入力する必要がありません。
[部署名 (Department)]	エンドユーザの所属部門の情報 (たとえば、所属部門の番号や名称など) を入力します。

表 113-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのエンド ユーザに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、エンド ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、このロケールをエクステンション モビリティおよび Cisco Unified CM のユーザ オプションに使用します。Cisco エクステンション モビリティのログインでは、ここに指定されているロケールが、デバイスおよびデバイス プロファイルの設定よりも優先されます。Cisco エクステンション モビリティのログオフでは、Cisco Unified Communications Manager は、デフォルト デバイス プロファイルに指定されたエンド ユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) エンド ユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager サービス パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されているロケールが適用されます。</p>
[割り当てられた PC (Associated PC)]	この必須フィールドは、Cisco IP SoftPhone ユーザに適用されます。
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	<p>一連の英数字を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証中に Cisco Unified Communications Manager は、ここで指定したダイジェスト信用証明書を使用して、電話機が提供するクレデンシャルを検証します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択すると、このフィールドに入力するダイジェスト信用証明書が電話機に関連付けられます。</p> <p>(注) ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)]	ダイジェスト信用証明書を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにそのクレデンシャルを再入力します。
[デバイスの割り当て (Device Associations)]	
[制御するデバイス (Controlled Devices)]	<p>デバイスが関連付けられた後に、このフィールドには、エンド ユーザが制御する説明情報 (たとえば、MAC アドレスなど) が表示されます。</p> <p>このフィールドは、データベース内にユーザを作成した後で表示されます。デバイスをこのエンド ユーザに関連付けるには、[デバイスの割り当て (Device Association)] ボタンをクリックします。詳細な手順については、「エンド ユーザとデバイスとの関連付け」(P.113-18) を参照してください。</p>
[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]	
[使用可能なプロファイル (Available Profiles)]	<p>このリスト ボックスには、このエンド ユーザとの関連付けに使用できるエクステンション モビリティ プロファイルが表示されます。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルを検索するには、[検索 (Find)] をクリックします。表示される [デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウを使用して、必要なエクステンション モビリティ プロファイルを検索します。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルをこのエンド ユーザに関連付けるには、プロファイルを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p>

表 113-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[制御するプロファイル (Controlled Profiles)]	Cisco エクステンション モビリティに設定されたエンドユーザに関連付けられた、制御されるデバイス プロファイルのリストが、このフィールドに表示されます。
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このエンドユーザのデフォルトのエクステンション モビリティ プロファイルを選択します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンドユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループによって、エンドユーザが監視できる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチスペースによって、Cisco Unified Communications Manager がエンドユーザからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、エンドユーザのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチスペースとは別のコーリング サーチスペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンドユーザのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチスペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンドユーザ用の別のコーリング サーチスペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチスペースは、デフォルトで [なし (None)] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチスペースを設定するには、すべてのコーリング サーチスペースと同じようにコーリング サーチスペースを設定します。コーリング サーチスペースの設定方法については、「コーリング サーチスペースの設定 (P.54-1) を参照してください。</p>

表 113-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、ユーザがデバイスにログインしたときに AllowCTIControlFlag デバイス プロパティがアクティブになり、それによって Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) アプリケーションからのデバイスの制御が可能になります。ユーザがデバイスにログインするまで、この設定値は無効です。</p> <p>(注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] の [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] の設定値は、ユーザがログインするデバイスの AllowCTIControlFlag デバイス プロパティを上書きします。</p>
[クラスタ間のエクステンション モビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)]	<p>このエンド ユーザが Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能を使用できるようにするには、このボックスをオンにします。</p> <p>Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」の章を参照してください。</p>
[電話番号の割り当て (Directory Number Associations)]	
[プライマリ内線 (Primary Extension)]	<p>このフィールドは、エンド ユーザのプライマリ電話番号を表します。エンド ユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>デバイスをエンド ユーザに関連付けると、関連付けられたデバイスに設定されている電話番号が、[プライマリ内線 (Primary Extension)] ドロップダウン リスト ボックスで使用可能になります。ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのプライマリ内線を選択します。</p> <p>システムが Cisco Unity Connection に統合されている場合、[関連リンク (Related Links)] メニューに [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクが表示されます。</p>
[IPCC 内線 (IPCC Extension)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザの IPCC 内線を選択します。</p> <p>(注) このフィールドは、IPCC Express Installed エンタープライズ パラメータが [True] に設定されている場合にだけ表示されます。</p>

表 113-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[モビリティ情報 (Mobility Information)]	
[モビリティの有効化 (Enable Mobility)]	<p>モバイル コネクトをアクティブ化するには、このチェックボックスをオンにします。モバイル コネクトを使用すると、ユーザが 1 つの電話番号を使用してコールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話で進行中のコールをピックアップしたりできるようになります。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、ライセンスに対するトリガーが発生し、モバイル コネクト用にデバイス ライセンス ユニットが消費されます。また、このチェックボックスは [プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスと連動します。</p> <p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにした後で、[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスから付加デバイスを選択しない場合は、4 つの Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users] 行に示されます。</p> <p>Cisco Unified Mobility を有効にした後で、[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスから付加デバイスを選択した場合は、2 つの DLU が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users] 行に示されます。</p>

表 113-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)]	<p>[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスは、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェック ボックスと連動し、モバイル コネクトの付加デバイス用に消費されるデバイス ライセンス ユニットの数を制御します。</p> <p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにした後で、Cisco Unified Mobility 専用のユーザに割り当てる付加デバイスを選択します。たとえば、ユーザが Cisco Unified Mobility 用の携帯電話の他に使用するデバイス (デスクトップ電話機など) を選択します。</p> <p>付加デバイスを選択する前に、次の点を考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドロップダウン リスト ボックスには、2 つ以上のデバイス ライセンス ユニット (DLU) を消費するデバイスだけが表示されます。 Cisco Unified Mobility では、複数のユーザに同じデバイスを割り当てることはできません。そのため、ドロップダウン リスト ボックスには、割り当て可能なデバイスだけが表示されます。 [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにした後で、ドロップダウン リスト ボックスからデバイスを選択した場合は、2 つの DLU が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users (Adjunct)] 行に示されます。 モバイル コネクトを有効にした後で、Cisco Unified Communications Manager の管理ページからこのデバイスを削除したり、割り当てを解除したりする場合、デバイスの削除または割り当ての解除を実行した後は、2 つの DLU が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users] 行に示されます。
[モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)]	モバイル ボイス アクセスの Integrated Voice Response (IVR; 自動音声応答) システムにユーザがアクセスし、モバイル コネクト コールを発信したり、モバイル コネクト機能をアクティブ化または非アクティブ化したりできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)]	携帯電話からデスクトップ電話機に転送されたコールを、ユーザがピックアップできる最大時間をミリ秒単位で入力します。
[リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)]	ユーザが、デスクトップ電話機からコールを転送できる電話機の最大数を入力します。
[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profiles)]	このフィールドには、このユーザ用に作成されたリモート接続先プロファイルのリストが表示されます。特定のリモート接続先プロファイルの詳細を表示するには、リスト内のリモート接続先プロファイルを選択し、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。

表 113-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[CAPF 情報 (CAPF Information)]	
[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)]	<p>このペインには、このユーザ用に設定した CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを表示または更新するには、インスタンス ID をダブルクリックするか、インスタンス ID をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[エンドユーザ CAPF プロファイルの設定 (End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。</p> <p>エンドユーザ CAPF プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[権限情報 (Permissions Information)]	
[グループ (Groups)]	<p>このリストボックスは、エンドユーザレコードが保存された後で表示されます。このリストボックスには、エンドユーザが属するグループが表示されます。</p> <p>ユーザを 1 つ以上のグループに追加するには、[ユーザグループに追加 (Add to User Group)] ボタンをクリックします。[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが別ウィンドウで表示されます。ユーザを追加するグループを見つけて、そのグループの横にあるチェックボックスをオンにします。次に、ウィンドウの下部にある [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが閉じ、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したグループが [グループ (Groups)] リストボックスに表示されます。</p> <p>グループからユーザを削除するには、[グループ (Groups)] リストボックスでグループを選択し、[ユーザグループから削除 (Remove from User Group)] ボタンをクリックします。</p> <p>グループを表示または更新するには、グループ名をダブルクリックするか、グループ名をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。</p> <p>ユーザグループの検索および設定の詳細については、「ユーザグループの設定」(P.115-1) を参照してください。</p>
[権限 (Roles)]	<p>このリストボックスは、エンドユーザが追加され、[グループ (Groups)] リストボックスにデータが入力され、ユーザレコードが保存された後で表示されます。このリストボックスには、エンドユーザに割り当てられている権限が表示されます。</p> <p>権限を表示または更新するには、権限名をダブルクリックするか、権限名をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。</p> <p>権限を設定する方法の詳細については、「権限の設定」(P.114-1) を参照してください。</p>

エンドユーザの検索

Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、エンドユーザの情報を検索できます。エンドユーザの情報を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択します。
- [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注)

リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

エンドユーザの設定

エンドユーザを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注)

LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンドユーザ情報を変更できます。同期が使用不可の場合、新しいユーザを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加したり、既存のユーザの設定 (ユーザ ID を含む) を変更したりできます。LDAP 同期が使用可能になっていないことを確認するには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] メニュー オプションを使用します。表示される [LDAP システム (LDAP System)] ウィンドウで、[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフであることを確認します。

LDAP 同期が使用可能な場合、エンドユーザの追加、エンドユーザの削除、既存のユーザ情報 (ユーザ ID など) の変更を [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで行うことはできません。

Cisco Unified Communications Manager の管理のエンドユーザは、Cisco Unity Connection ユーザと同様に、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] オプションで設定できます (「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.113-12) を参照)。その後は、その他の設定値を Cisco Unity Connection の管理で設定できます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリストボックスを使用して、エンドユーザを検索します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 113-1 を参照)。
- ステップ 4** エンドユーザ情報の入力を完了したら、[保存 (Save)] をクリックし、変更内容を保存してエンドユーザを追加します。

次の作業

このエンドユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」(P.113-18) の手順に進みます。

このエンドユーザのクレデンシャルを管理する場合は、後述の「エンドユーザのクレデンシャルの管理」(P.113-14) の手順に進みます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、このユーザの Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する場合は、後述の「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.113-12) の手順に進みます。



(注)

エンド ユーザの Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する前に、エンド ユーザの電話デバイスへの関連付けとプライマリ内線を設定し、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection の間の統合を完了させておく必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』または『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを使用すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページから個々に Cisco Unity Connection のボイスメールボックスを作成できます。

始める前に

- ボイス メッセージ用に Cisco Unified Communications Manager を設定します。
- 統合メールボックス機能を使用するために、Cisco Unity Connection サーバを設定します。該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』の「Creating Multiple User Accounts from Cisco Unified Communications Manager Users」の章を参照してください。
- Cisco Unity Connection と連動するために、Cisco Unity Connection で AXL 接続を作成します (『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』の「Managing the Phone System Integrations」を参照)。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで追加しようとするボイス メッセージ ユーザに対する、適切なテンプレートと Class of Service (COS; サービス クラス) を定義したことを確認します。Cisco Unity Connection ユーザの場合は、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを表示するには、デバイスおよびプライマリ内線番号をエンド ユーザに関連付けておきます。リンクは、[関連リンク (Related Links)] メニューに表示されます。
- 必要に応じて、この項で説明している手順を実行する代わりに、Cisco Unity Connection で使用可能なインポート機能を使用することができます。インポート機能の使用の詳細については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』の「Creating Multiple User Accounts from Cisco Unified Communications Manager Users」の章を参照してください。



(注)

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにも、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスに [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクが表示されます。

手順

- ステップ 1** エンド ユーザを検索します (「エンド ユーザの検索」(P.113-10) を参照)。

ステップ 2 プライマリ内線番号が、このユーザに関連付けられていることを確認します。



(注) プライマリ内線を定義したことを確認してください。定義していないと、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスに [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクが表示されません。

ステップ 3 ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity Connection ユーザ を作成する Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [ユーザテンプレート (Subscriber Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

メールボックスが作成されます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックス内のリンクが [Cisco Unity ユーザの編集 (Edit Cisco Unity User)] に変わります。これで、Cisco Unity Connection の管理に、作成したユーザが表示されるようになります。



(注) Cisco Unity Connection ユーザが Cisco Unified Communications Manager エンドユーザと統合された場合、Cisco Unity Connection の管理では [エイリアス] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ ID (User ID)]、[名]、[姓]、[内線] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [プライマリ内線 (Primary Extension)]) の各フィールドを編集できません。これらのフィールドは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページだけで更新できます。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

エンドユーザのパスワードの変更

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンドユーザのパスワードを変更する手順は、次のとおりです。



(注) LDAP 認証が使用可能な場合、エンドユーザのパスワードは変更できません。

手順

ステップ 1 「エンドユーザの検索」(P.113-10) の手順を使用して、エンドユーザの設定を検索します。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。

- ステップ 2** [パスワード (Password、半角英数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。割り当てられたクレデンシヤル ポリシーで指定されている、最小文字数 (1 ~ 127 文字) 以上を入力する必要があります。
- ステップ 3** [パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

エンド ユーザの PIN の変更

エンド ユーザの個人識別番号 (PIN) を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 「エンド ユーザの検索」(P.113-10) の手順を使用して、エンド ユーザの設定を検索します。
[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。
- ステップ 2** [PIN(PIN、半角数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN を入力します。割り当てられたクレデンシヤル ポリシーで指定されている、最小文字数 (1 ~ 127 文字) 以上を入力する必要があります。
- ステップ 3** [PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN をもう一度入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

エンド ユーザのクレデンシヤルの管理

エンド ユーザのクレデンシヤル (関連付けられた認証ルール、関連付けられたクレデンシヤル ポリシー、パスワードの最終変更時間など) を変更または表示する手順は、次のとおりです。ユーザのクレデンシヤルを編集できるのは、ユーザがデータベースに存在している場合だけです。

[クレデンシヤル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで、割り当てられたクレデンシヤル ポリシーと衝突する設定を保存することができません。たとえば、ポリシーで [無期限 (Never Expires)] チェックボックスがオンの場合、[クレデンシヤル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで [無期限にする (Does Not Expire)] チェックボックスをオフにして保存することはできません。ただし、[無期限 (Never Expires)] ポリシー設定がオンでない場合、ユーザに別のクレデンシヤル期限を設定することはできます ([無期限にする (Does Not Expire)] を含む)。この場合、ユーザ設定がポリシー設定よりも優先されます。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウの他の設定と衝突するような [クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウの設定変更はできません。たとえば、[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンの場合は、[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにできません。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウには、イベントのおよその回数が表示されます。このフォームは、次に認証クエリーまたはイベントが発生したときに更新されます。

始める前に

データベースにエンドユーザを作成します。「[エンドユーザの設定](#)」(P.113-11) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 「[エンドユーザの検索](#)」(P.113-10) の手順を使用して、エンドユーザの設定を検索します。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。
- ステップ 2** パスワード情報を変更または表示するには、[パスワード (Password、半角英数字のみ)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。PIN 情報を変更または表示するには、[PIN (PIN、半角数字のみ)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 113-2 を参照)。
- ステップ 4** 設定値を変更した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.113-22) を参照してください。

クレデンシャルの設定値とフィールド

表 113-2 では、エンドユーザおよびアプリケーションユーザのクレデンシャルの設定値について説明します。これらの設定値は、アプリケーションユーザまたはエンドユーザのダイジェスト信用証明書には適用されません。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.113-22) を参照してください。

表 113-2 アプリケーションユーザおよびエンドユーザのクレデンシャルの設定値とフィールド

フィールド	説明
[管理者によるロック (Locked by Administrator)]	このアカウントをロックし、ユーザがアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 アカウントのロックを解除し、ユーザがアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)]	ユーザがこのクレデンシャルを変更できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、グループアカウントに対して使用します。 [ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。

表 113-2 アプリケーション ユーザおよびエンド ユーザのクレデンシャルの設定値とフィールド (続き)

フィールド	説明
[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)]	<p>次のログイン時に、このクレデンシャルの変更をユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、一時的なクレデンシャルを割り当てた後で使用します。</p> <p>[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
[無期限にする (Does Not Expire)]	<p>このクレデンシャルの変更をユーザに要求しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、セキュリティの低いユーザまたはグループ アカウントに使用できます。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、ユーザはいつでもこのクレデンシャルを変更できます。このチェックボックスがオフの場合、関連付けられているクレデンシャル ポリシーの有効期限の設定が適用されます。</p> <p>ポリシー設定で [無期限 (Never Expires)] が指定されている場合は、このチェックボックスをオフにできません。</p>
[ハック数のリセット (Reset Hack Count)]	<p>このユーザのハック数をリセットして、[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)] フィールドをクリアするには、このチェックボックスをオンにします。カウンタをリセットすると、ユーザは、またログインを試行できるようになります。</p> <p>ハック数は、クレデンシャルが不正なために認証に失敗すると増えます。</p> <p>ポリシーで [ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons)] が指定されている場合、ハック数は常に 0 になります。</p>
[認証ルール (Authentication Rule)]	このユーザのクレデンシャルに適用するクレデンシャルポリシーを選択します。
[最終変更時間 (Time Last Changed)]	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルが変更された最新の日時が表示されます。
[失敗したログイン試行 (Failed Logon Attempts)]	このフィールドには、成功した最終ログイン、管理者によるこのユーザ クレデンシャルのハック数のリセット、または失敗したログイン試行回数のリセット期間経過後、失敗したログイン試行回数が表示されます。
[失敗した最後のログイン試行時間 (Time of Last Failed Logon Attempt)]	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルでログイン試行が失敗した最新の日時が表示されます。
[管理者によりロックされた時間 (Time Locked by Administrator)]	このフィールドには、管理者がこのユーザ アカウントをロックした日時が表示されます。
[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)]	このフィールドには、失敗したログイン試行によってユーザ アカウントがロックされた最新の日時が表示されます。失敗したログイン試行によるロックアウトは、関連付けられたクレデンシャル ポリシーによって定義されます。

エンドユーザのユーザ関連情報の設定

新しいエンドユーザを追加した後、そのエンドユーザに関連する追加情報を設定できます。各エンドユーザはこの情報を使用して、電話機の機能、マネージャの設定、アシスタントの設定、Cisco エクステンション モビリティ、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP SoftPhone 機能を個別に設定することができます。

始める前に

エンドユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。詳細については、「[エンドユーザの検索](#)」(P.113-10) を参照してください。

手順

- ステップ 1** 「[エンドユーザの検索](#)」(P.113-10) の手順を使用して、アプリケーション プロファイルを設定するエンドユーザを見つけます。ユーザ ID をクリックします。
- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したエンドユーザの情報が示されます。
- ステップ 2** このエンドユーザに対して Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャの設定を行うには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [マネージャの設定 (Manager Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- このエンドユーザの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)』の「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」および「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」の章を参照してください。
- このエンドユーザに対してマネージャの情報を設定した後、このエンドユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [ユーザの設定に戻る (Back To User Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** このエンドユーザに対して Cisco Unified Communications Manager Assistant のアシスタントの設定を行うには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- このエンドユーザの [Cisco Unified CM Assistant - アシスタントの設定 (Cisco Unified CM Assistant - Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド](#)』の「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」および「[シェアドラインサポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」の章を参照してください。
- このエンドユーザに対してアシスタントの情報を設定した後、このエンドユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [ユーザの設定に戻る (Back To User Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 4** このエンドユーザのユーザ特権レポートを表示するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [ユーザ特権レポート (User Privilege Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- このエンドユーザの [ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。ユーザ特権レポートの詳細については、「[ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示](#)」(P.115-8) を参照してください。

このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストボックスから [ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

エンド ユーザとデバイスとの関連付け

エンド ユーザにデバイスを関連付け、エンド ユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、エンド ユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。エンド ユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、短縮ダイヤルや自動転送）を制御できます。



(注)

デバイスが CTI 制御可能でない場合 (H.323 デバイスなど) は、使用可能なデバイスのリストで、デバイス アイコンの横にアスタリスク (*) が表示されます。すべてのデバイスの関連付け動作は、機能が設定されているデバイス タイプに関係なく同一になっています。

始める前に

エンド ユーザにデバイスを関連付けるには、そのユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のエンド ユーザを見つける方法については、「[エンド ユーザの検索](#)」(P.113-10) を参照してください。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

新しいエンド ユーザの追加を終了する前に、その新しいエンド ユーザにデバイスを関連付けようとしてください。必ず [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [保存 (Save)] をクリックしてから、新しいエンド ユーザにデバイスとの関連付けを追加してください。

手順

ステップ 1 [デバイスの割り当て (Device Associations)] ペインで、[デバイスの割り当て (Device Association)] をクリックします。

[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。

デバイスの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイスが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のデバイスを見つけることができます。デバイスを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、検索設定は保持されません。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

ステップ 4 [デバイスの割り当て (Device association for)] ペインで、デバイス名の左側にあるボックスをオンにして、このエンドユーザに関連付けるデバイスを選択します。

ウィンドウの下部にあるボタンを使用して、エンドユーザに関連付けるデバイスを選択および選択解除できます。



(注) これらのボタンが機能するのは、前述のステップによるデバイス検索の結果として見つかったデバイスを選択および選択解除する場合だけです。



ヒント このエンドユーザにすでに関連付けられているデバイスを表示するには、[ユーザに関連付けられているデバイスを表示 (Show the devices already associated with user)] チェックボックスをオンにします。

ボタンとその機能について次に説明します。

- [すべてを選択 (Select All)] : このボタンをクリックすると、このウィンドウに表示されているすべてのデバイスが選択されます。
- [すべてをクリア (Clear All)] : このボタンをクリックすると、このウィンドウに表示されているすべてのデバイスの横にあるチェックボックスがオフになります。
- [検索のすべてを選択 (Select All In Search)] : このボタンをクリックすると、ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択されます。このボタンによって、あらためて検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択されます。
- [検索のすべてをクリア (Clear All In Search)] : このボタンをクリックすると、ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択解除されます。このボタンによって、あらためて検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択解除されます。
- [選択 / 変更の保存 (Save Selected/Changes)] : このボタンをクリックすると、選択したデバイスがこのエンドユーザに関連付けられます。

- [割り当てられているすべてのデバイスを削除 (Remove All Associated Devices)]: このボタンをクリックすると、すでにこのエンド ユーザに関連付けられているすべてのデバイスの関連付けが解除されます。このボタンをクリックした後、このエンド ユーザからすべてのデバイスとの関連付けを削除することの確認を求めるポップアップ ウィンドウが表示されます。確認するには、[OK] をクリックします。

ステップ 5 エンド ユーザに割り当てるデバイスごとに、前述のステップを繰り返します。

ステップ 6 関連付けを完了するには、[選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックします。

ステップ 7 ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択して関連付けたデバイスが [制御するデバイス (Controlled Devices)] ペインに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け

Cisco エクステンション モビリティを使用すると、エンド ユーザの電話機として一時的に表示されるように、Cisco Unified IP Phone を設定できます。エンド ユーザが電話機にログインすると、そのエンド ユーザのエクステンション モビリティ プロファイル (回線と短縮ダイヤル番号を含む) が、その電話機上に置かれます。この機能は、エンド ユーザに IP Phone が恒常的に割り当てられていない環境で主に使用されます。

エクステンション モビリティ プロファイルをエンド ユーザに関連付けるには、そのエンド ユーザの [エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のエンド ユーザの情報にアクセスする方法については、「[エンド ユーザの検索](#)」(P.113-10) を参照してください。エンド ユーザに対して Cisco エクステンション モビリティを設定し関連付ける方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco エクステンション モビリティ](#)」の章を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.113-22) を参照してください。

エンドユーザの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンドユーザを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

エンドユーザを削除する前に、そのエンドユーザに関連付けられているデバイスまたはプロフィールを削除する必要があるかどうかを判断します。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [デバイスの割り当て (Device Associations)]、[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]、[電話番号の割り当て (Directory Number Associations)]、[CAPF 情報 (CAPF Information)]、および [権限情報 (Permissions Information)] の各領域から、エンドユーザに割り当てられているデバイスおよびプロフィールを表示できます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定のエンドユーザを見つけるには、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。
- 削除するユーザの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
 - [すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのユーザを削除します。
 - 削除するユーザのユーザ ID をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除 (Delete)] をクリックします。
- 確認ダイアログが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
-

次の作業

このユーザが Cisco Unity Connection で設定されていた場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザを削除すると、Cisco Unified Communications Manager とユーザとの関連付けが破棄されます。孤立したユーザは、Cisco Unity Connection の管理で削除できます。詳細については、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。ユーザを削除すると、そのユーザのボイスメールボックスにあるすべてのメッセージが削除されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.113-22) を参照してください。

関連項目

- 「エンド ユーザの設定値」 (P.113-2)
- 「エンド ユーザの検索」 (P.113-10)
- 「エンド ユーザの設定」 (P.113-11)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」 (P.113-12)
- 「エンド ユーザのパスワードの変更」 (P.113-13)
- 「エンド ユーザの PIN の変更」 (P.113-14)
- 「エンド ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.113-14)
- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」 (P.113-15)
- 「エンド ユーザのユーザ関連情報の設定」 (P.113-17)
- 「エンド ユーザとデバイスとの関連付け」 (P.113-18)
- 「Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け」 (P.113-20)
- 「エンド ユーザの削除」 (P.113-21)
- 「アプリケーション ユーザの検索」 (P.112-6)
- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.112-8)
- 「Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加」 (P.112-9)
- 「アプリケーション ユーザのパスワードの変更」 (P.112-10)
- 「アプリケーション ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.112-11)
- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」 (P.112-12)
- 「アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け」 (P.112-13)
- 「アプリケーション ユーザの削除」 (P.112-14)
- 「LDAP システムの設定」 (P.14-1)
- 「権限の設定」 (P.114-1)
- 「ユーザ グループの設定」 (P.115-1)
- 「ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示」 (P.115-8)
- 「電話番号の設定」 (P.61-1)
- 「CTI ルート ポイントの設定」 (P.89-1)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.92-1)
- 「クレデンシャル ポリシーの設定」 (P.111-1)
- 「クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定」 (P.110-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クレデンシャル ポリシー」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「参考情報」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「デバイスの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの連動」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

関連資料

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』



CHAPTER 114

権限の設定

完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco Unified Communications Manager の管理者は、権限を使用して、エンド ユーザおよびアプリケーション ユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が、権限およびユーザ グループを設定します。また、多くの場合、フル アクセス権を持つ管理ユーザが、他の管理ユーザおよびエンド ユーザに対して Cisco Unified Communications Manager の管理および他のアプリケーションへの特権を設定します。

アプリケーションごとに、異なるレベルの特権が存在します。Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションの場合、読み取り特権とアップデート特権という 2 つのレベルの特権が存在します。これらの特権レベルの違いは次のとおりです。

- アップデート特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループにアップデート特権が設定された Cisco Unified Communications Manager の管理ページのウィンドウを表示および変更できます。
- 読み取り特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループに読み取り特権が設定された権限に属する Cisco Unified Communications Manager の管理のウィンドウを表示できます。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つ管理のウィンドウで変更操作を行うことはできません。読み取り特権を持つユーザに対して、Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションはアップデート用のボタンもアイコンも表示しません。

権限は、アプリケーションのリソース グループで構成されます。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準権限が作成されます。ただし、アプリケーションのカスタム リソース グループで構成されるカスタム権限を作成できます。



(注)

標準権限の中には、アプリケーションにもリソースにも関連付けられていないものがあります。これらの権限は、さまざまなアプリケーションのログイン認証を提供します。

権限を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「権限の設定値」 (P.114-2)
- 「権限の検索」 (P.114-3)
- 「権限の設定」 (P.114-4)
- 「権限の削除」 (P.114-5)
- 「関連項目」 (P.114-6)

追加情報

「関連項目」 (P.114-6) を参照してください。

権限の設定値

完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco Unified Communications Manager の管理者は、権限を使用して、エンド ユーザおよびアプリケーション ユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が、権限およびユーザ グループを設定します。また、多くの場合、フル アクセス権を持つ管理ユーザが、他の管理ユーザおよびエンド ユーザに対して Cisco Unified Communications Manager の管理および他のアプリケーションへの特権を設定します。

アプリケーションごとに、異なるレベルの特権が存在します。Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションの場合、読み取り特権とアップデート特権という 2 つのレベルの特権が存在します。これらの特権レベルの違いは次のとおりです。

- アップデート特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループにアップデート特権が設定された Cisco Unified Communications Manager の管理のウィンドウを表示および変更できます。
- 読み取り特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループに読み取り特権が設定された権限に属する Cisco Unified Communications Manager の管理のウィンドウを表示できます。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つ管理ウィンドウで変更操作を行うことはできません。読み取り特権を持つユーザに対して、Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションはアップデート用のボタンもアイコンも表示しません。

権限は、アプリケーションのリソース グループで構成されます。必要に応じて、アプリケーションのリソースのカスタム グループで構成されたカスタム権限を作成できます。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準権限が作成されます。たとえば、監査ログ管理権限を設定するには、[標準の監査ログ管理 (Standard Audit Log Administration)] 権限を選択します。[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示されたら、設定するリソースに対する [読み取り (read)] または [更新 (update)] チェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] をクリックします。



ヒント

標準権限の中には、アプリケーションにもリソースにも関連付けられていないものがあります。これらの権限は、さまざまなアプリケーションのログイン認証を提供します。

表 114-1 では、権限の設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.114-6) を参照してください。

表 114-1 権限の設定値

フィールド	説明
[権限情報 (Role Information)]	
[アプリケーション (Application)]	ドロップダウン リスト ボックスから、この権限に関連付けるアプリケーションを選択します。
[名前 (Name)]	権限の名前を入力します。最大 128 文字の名前を入力できます。 有効な文字は、英字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、スペース、およびアンダースコアです。
[説明 (Description)]	権限の説明を入力します。128 文字までの説明を入力できます。

表 114-1 権限の設定値 (続き)

フィールド	説明
[リソースアクセス情報 (Resource Access Information)]	
(選択したアプリケーションのリソース名のリスト)	[リソースアクセス情報 (Resource Access Information)] ペインで、この権限に含めるリソースの横にあるチェックボックスをオンにします。 (注) アプリケーションによっては、各リソースに 1 つのチェックボックスしか適用されないものもあります。Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションの場合、各リソースに [読み取り (read)] チェックボックスと [更新 (update)] チェックボックスが適用されます。
[すべてのアクセスを許可 (Grant access to All)]	この権限に対して、このページに表示されているすべてのリソースの特権を付与するには、このボタンをクリックします。 (注) リソースのリストが複数のページにわたって表示されている場合、このボタンは現在のページに表示されているリソースだけに適用されます。他のページに表示されるリソースのアクセス権を変更する場合は、そのページを表示して、そのページのボタンを使用する必要があります。
[すべてのアクセスを拒否 (Deny access to All)]	この権限に対して、このページに表示されているすべてのリソースの特権を削除するには、このボタンをクリックします。 (注) リソースのリストが複数のページにわたって表示されている場合、このボタンは現在のページに表示されているリソースだけに適用されます。他のページに表示されるリソースのアクセス権を変更する場合は、そのページを表示して、そのページのボタンを使用する必要があります。

権限の検索

ネットワーク内にはいくつかの権限が存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の権限を見つけることができます。権限を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、権限の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、権限の検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [権限 (Role)] の順に選択します。
- [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**[ステップ 3]** に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。

- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。



(注) 標準権限は削除できません。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.114-6) を参照してください。

権限の設定

ここでは、Cisco Unified Communications Manager の管理に権限を追加する手順について説明します。次の例で、詳細な権限の設定方法を示します。

例

監査ログ管理権限を設定するには、[標準の監査ログ管理 (Standard Audit Log Administration)] 権限を選択します。[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示されたら、設定するリソースに対する [読み取り (read)] または [更新 (update)] チェックボックスをオンにして、[保存 (Save)] をクリックします。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [権限 (Role)] の順に選択します。
[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。
- 既存の権限をコピーする場合は、適切な権限を見つけ（「[権限の検索](#)」(P.114-3) を参照）、コピーする権限の横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックします。表示されたポップアップ ウィンドウで、新しい権限の名前を入力し、[OK] をクリックします。「[ステップ 4](#)」に進みます。
-  **(注)** 権限をコピーすると、その権限に関連付けられている特権もコピーされます。
- 新しい権限を追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「[ステップ 3](#)」に進みます。
 - 既存の権限を更新する場合は、適切な権限を見つけ（「[権限の検索](#)」(P.114-3) を参照）、「[ステップ 4](#)」に進みます。
- ステップ 3** 新しい権限を追加する場合は、[アプリケーション (Application)] ドロップダウン リスト ボックスからアプリケーションを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** 表示された [権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します（[表 114-1](#) を参照）。
- ステップ 5** 権限を追加するには、[保存 (Save)] をクリックします。
新しい権限が Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.114-6) を参照してください。

権限の削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで権限を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [権限 (Role)] の順に選択します。
[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 左側の権限リストで、削除する権限の名前をクリックします。
-  **(注)** 標準権限は削除できません。
- 選択した権限が表示されます。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

- ステップ 4** [OK] をクリックします。
ウィンドウが更新され、その権限がデータベースから削除されます。
-

追加情報

「関連項目」(P.114-6) を参照してください。

関連項目

- 「権限の設定値」(P.114-2)
- 「権限の検索」(P.114-3)
- 「権限の設定」(P.114-4)
- 「権限の削除」(P.114-5)
- 「ユーザ グループの設定」(P.115-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「権限とユーザ グループ」



CHAPTER 115

ユーザ グループの設定

フル アクセス権を持つユーザは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] メニューの [権限 (Role)] メニュー オプションおよび [ユーザグループ (User Group)] メニュー オプションを使用することで、Cisco Unified Communications Manager の管理者にさまざまなレベルのアクセス権を設定できます。フル アクセス権を持つユーザが、権限、ユーザグループ、および権限のアクセス特権を設定します。また、多くの場合、フル アクセス権を持つユーザが他のユーザに対して Cisco Unified Communications Manager の管理ページへのアクセス権を設定します。

ユーザグループは、アプリケーション ユーザとエンド ユーザで構成されます。ユーザは、複数のユーザグループに属することができます。ユーザグループを追加した後に、ユーザをユーザグループに追加します。続いて、ユーザグループに権限を割り当てることもできます。ユーザが複数のユーザグループに属している場合、そのユーザの有効な特権は、Multilevel Administration (MLA) のアクセス権のエンタープライズパラメータによって決まります。

ユーザグループの設定、ユーザグループへのユーザの割り当て、ユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権の表示を行うには、次のトピックを参照してください。

- 「ユーザグループの検索」 (P.115-1)
- 「ユーザグループの設定」 (P.115-3)
- 「ユーザグループの削除」 (P.115-4)
- 「ユーザグループへのユーザの追加」 (P.115-4)
- 「ユーザグループからのユーザの削除」 (P.115-6)
- 「ユーザグループへの権限の割り当て」 (P.115-7)
- 「ユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権の表示」 (P.115-8)
- 「関連項目」 (P.115-9)

ユーザ グループの検索

ネットワーク内にはいくつかのユーザグループが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のユーザグループを見つけることができます。ユーザグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ユーザグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ユーザグループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- ドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。
一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。



(注) 標準ユーザグループは削除できません。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.115-9) を参照してください。

ユーザグループの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザグループを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

以下の例で、ユーザグループの設定の詳細を示します。

例

ユーザが監査ログの設定を変更できるようにするには、[Standard Audit Users] を選択してから、[グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されたら、グループに追加するユーザを選択して、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のユーザグループをコピーする場合は、適切なユーザグループを見つけ（「[ユーザグループの検索](#)」(P.115-1) を参照）、コピーするユーザグループの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しいユーザグループの名前を入力し、[OK] をクリックします。「[ステップ 3](#)」に進みます。
- 新しいユーザグループを追加する場合は、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。新しいユーザグループの名前を入力し、[OK] をクリックします。「[ステップ 3](#)」に進みます。



(注) ユーザグループ名には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。ユーザグループ名は固有の名前にしてください。

- 既存のユーザグループを更新する場合は、適切なユーザグループを見つけます（「[ユーザグループの検索](#)」(P.115-1) を参照）。更新するユーザグループの名前をクリックします。選択したユーザグループが表示されます。該当する設定値を変更します。「[ステップ 3](#)」に進みます。



(注) 標準ユーザグループは削除できませんが、標準ユーザグループのユーザメンバシップの更新は可能です。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 このユーザグループにユーザを追加します。「[ユーザグループへのユーザの追加](#)」(P.115-4) を参照してください。

ステップ 5 このユーザグループに権限を割り当てます。「[ユーザグループへの権限の割り当て](#)」(P.115-7) を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.115-9) を参照してください。

ユーザ グループの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザ グループを削除する手順は、次のとおりです。この手順を実行すると、ユーザ グループが完全に削除されます。ユーザ グループから特定のユーザだけを削除するには、「[ユーザ グループからのユーザの削除](#)」(P.115-6) を参照してください。

始める前に

ユーザ グループを削除すると、Cisco Unified Communications Manager によってすべてのユーザ グループ データがデータベースから削除されます。ユーザ グループを使用している権限を検索するには、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 「[ユーザ グループの検索](#)」(P.115-1) の手順を使用して、削除するユーザ グループを見つけます。
- ステップ 3** 削除するユーザ グループの名前をクリックします。
選択したユーザ グループが表示されます。このユーザ グループのユーザがアルファベット順に一覧表示されます。
- ステップ 4** グループを完全に削除する場合は、[削除 (Delete)] をクリックします。
ユーザ グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** ユーザ グループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified Communications Manager によってユーザ グループがデータベースから削除されます。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.115-9) を参照してください。

ユーザ グループへのユーザの追加

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザ グループにエンド ユーザおよびアプリケーション ユーザを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** ユーザを追加する先のユーザ グループを見つけます。「[ユーザ グループの検索](#)」(P.115-1) の手順を使用します。

- ステップ 3** 更新するユーザグループの名前をクリックします。
選択したユーザグループが表示されます。[ユーザ (Users)] リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。
- ステップ 4** エンドユーザを追加するには、[グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。アプリケーションユーザを追加するには、「ステップ 8」に進みます。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 追加するエンドユーザを見つけるために [検索対象: ユーザ、検索条件:(Find User where)] ドロップダウンリストボックスを使用して、[検索 (Find)] をクリックします。



(注) ユーザを検索するには、さまざまな方法があります。ユーザの名、ミドルネーム、姓、ユーザ ID、または部門を入力できます。それらの値を入力する代わりに、フィールドをブランクのままにすれば、すべてのユーザを表示することができます。

検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているエンドユーザは表示されません。

- ステップ 6** 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のページになった場合は、下部のリンクを使用すれば次のページを表示できます。
- ステップ 7** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。このとき、[ユーザ (Users)] ペインには、追加したユーザが一覧表示されます。



(注) ユーザを追加した後、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で [i] アイコンをクリックすると、権限を表示できます。

- ステップ 8** アプリケーションユーザを追加するには、[グループにアプリケーションユーザを追加 (Add App Users to Group)] をクリックします。
[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** 追加するアプリケーションユーザを見つけるために [検索対象: アプリケーションユーザ、検索条件: ユーザ ID (Find Application User where)] ドロップダウンリストボックスを使用して、[検索 (Find)] をクリックします。



(注) アプリケーションユーザを検索するには、ユーザ ID を検索します。それらの値を入力する代わりに、フィールドをブランクのままにすれば、すべてのアプリケーションユーザを表示することができます。

検索条件と一致するアプリケーションユーザのリストが表示されます。

- ステップ 10** 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するアプリケーションユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のページになった場合は、下部のリンクを使用すれば次のページを表示できます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているアプリケーションユーザは表示されません。

ステップ 11 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。このとき、[ユーザ (Users)] ペインには、追加したアプリケーションユーザが一覧表示されます。



(注) アプリケーションユーザを追加した後、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で [i] アイコンをクリックすると、権限を表示できます。

ステップ 12 [保存 (Save)] をクリックして、このユーザグループへの変更内容を保存します。

追加情報

「関連項目」(P.115-9) を参照してください。

ユーザグループからのユーザの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、ユーザグループからユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ユーザを削除するユーザグループを見つけます。「ユーザグループの検索」(P.115-1) の手順を使用します。

ステップ 3 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[ユーザ (Users)] リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 このユーザグループから削除するユーザの名前の横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 6 選択したユーザグループメンバーを削除するには、[OK] をクリックします。このウィンドウを閉じるには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。このとき、[ユーザ (Users)] ペインには、削除したユーザが表示されません。

追加情報

「関連項目」(P.115-9) を参照してください。

ユーザグループへの権限の割り当て

フルアクセス権を持つユーザは、ユーザグループに権限を割り当てることができます。権限を割り当てられたユーザグループは、その権限に含まれるリソースにアクセスできます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、ユーザグループに権限を割り当てる手順は、次のとおりです。



(注) 管理者は、ユーザグループに権限を割り当てる場合、Standard Unified CM Admin Users 権限を割り当てる必要があります。この権限によって、ユーザが Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインできるようになります。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 権限を割り当てるユーザグループを見つけます。「[ユーザグループの検索 \(P.115-1\)](#)」の手順を使用します。
- ステップ 3** 権限を割り当てるユーザグループの名前をクリックします。
選択したユーザグループが表示されます。[ユーザ (Users)] リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。
- ステップ 4** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [ユーザグループに権限を割り当て (Assign Role to User Group)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが変更され、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインが表示されます。選択したユーザグループに割り当てられている権限が一覧表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。
 - ユーザグループに権限を割り当てる場合は、「[ステップ 5](#)」に進みます。
 - ユーザグループから権限を削除する場合は、「[ステップ 9](#)」に進みます。
- ステップ 5** ユーザグループに追加の権限を割り当てるには、[グループに権限を割り当て (Assign Role to Group)] をクリックします。
[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** 必要に応じて、[検索対象: 権限、検索条件:(Find Role where)] を使用して権限のリストを絞り込みます。
- ステップ 7** 権限名の横にあるチェックボックスをオンにして、このユーザグループに割り当てる権限を選択します。このユーザグループに権限を割り当てずに [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップウィンドウを閉じるには、[閉じる (Close)] をクリックします。
- ステップ 8** [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップウィンドウが閉じます。選択した権限が、このユーザグループの [権限の割り当て (Role Assignment)] ペインに追加されます。このユーザグループに割り当てられている権限を削除しない場合は、「[ステップ 10](#)」に進みます。
- ステップ 9** 割り当てられている権限をユーザグループから削除するには、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインで権限を選択し、[権限の割り当ての削除 (Delete Role Assignment)] をクリックします。このユーザグループから削除する各権限に対して、この手順を繰り返します。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
データベース内で、このユーザグループに対する権限割り当ての追加および削除が行われます。

追加情報

「関連項目」(P.115-9) を参照してください。

ユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権の表示

ここでは、特定のユーザグループに属するユーザに割り当てられている権限、ユーザグループ、およびアクセス権を表示する方法について説明します。ユーザグループ内のユーザに割り当てられている権限、ユーザグループ、およびアクセス権を表示する手順は、次のとおりです。

**(注)**

[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] (アプリケーションユーザの場合) または [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] (エンドユーザの場合) を使用して特定のユーザを表示してから、そのユーザの権限を表示することもできます。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 割り当てられている権限を表示するユーザが属するユーザグループを見つけます。「[ユーザグループの検索](#)」(P.115-1) の手順を使用します。
- ステップ 3** ユーザに割り当てられている権限を表示するユーザグループの名前をクリックします。
選択したユーザグループの [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。[ユーザ (Users)] ペインに、そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。
- ステップ 4** 特定のユーザのユーザ名をクリックします。
[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウ (アプリケーションユーザの場合) または [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ (エンドユーザの場合) が表示されます。
- ステップ 5** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ特権レポート (User Privilege Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
選択したユーザについて、次の情報が表示されます。
- ユーザが属しているユーザグループ。
 - ユーザに割り当てられている権限。
 - ユーザがアクセス権を持っているリソース。リソースごとに、次の情報が表示されます。
 - アプリケーション
 - リソース
 - 権限 (読み取りまたは更新、あるいはその両方)
- ステップ 6** ユーザに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [ユーザの設定に戻る (Back to User)] または [アプリケーションユーザに戻る (Back to Application User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.115-9) を参照してください。

関連項目

- 「ユーザグループの検索」 (P.115-1)
- 「ユーザグループの設定」 (P.115-3)
- 「ユーザグループの削除」 (P.115-4)
- 「ユーザグループへのユーザの追加」 (P.115-4)
- 「ユーザグループからのユーザの削除」 (P.115-6)
- 「ユーザグループへの権限の割り当て」 (P.115-7)
- 「ユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権の表示」 (P.115-8)
- 「エンドユーザの設定」 (P.113-1)
- 「アプリケーションユーザの設定」 (P.112-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「権限とユーザグループ」



CHAPTER 116

ユーザ / 電話機の追加の設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザ、電話、DN、およびLA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウという 1 つのウィンドウを使用するだけで、新しいユーザを追加してそのユーザを新しい電話機に割り当てるために必要な基本操作を行うことができます。新しいエンドユーザを追加して、そのエンドユーザを新しい電話機に関連付けるときに、新しい電話機に新しい Directory Number (DN; 電話番号) および Line Appearance (LA; ラインアピランス) 情報を設定することもできます。



(注) [エンドユーザ、電話、DN、およびLA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでは、既存のエンドユーザ、電話機、および電話番号を入力できません。

[エンドユーザ、電話、DN、およびLA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでは、次のタイプのレコードが追加されます。

- エンドユーザ
- 電話機
- 電話番号
- デバイス プロファイル
- ボイスメール プロファイル



(注) LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンドユーザ情報を変更できます。LDAP サーバとの同期が使用可能であるかどうかを調べるには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] メニュー オプションを使用します。表示される [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで、[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフであることを確認します。同期が使用可能な場合は、[エンドユーザ、電話、DN、およびLA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウにはアクセスできません。

次のトピックでは、[エンドユーザ、電話、DN、およびLA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでエンドユーザを追加および設定する方法について説明します。

- 「ユーザとデバイスの設定値」 (P.116-2)
- 「エンドユーザと電話機の追加」 (P.116-4)

追加情報

「関連項目」 (P.116-5) を参照してください。

ユーザとデバイスの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザ、電話、DN、およびLAの設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウという 1 つのウィンドウを使用するだけで、新しいユーザを追加してそのユーザを新しい電話機に割り当てるために必要な基本操作を行うことができます。新しいエンドユーザを追加して、そのエンドユーザを新しい電話機に関連付けるときに、新しい電話機に新しい電話番号 (DN) およびラインアピアランス (LA) 情報を設定することもできます。

[エンドユーザ、電話、DN、およびLAの設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでは、次のタイプのレコードが追加されます。既存のエンドユーザ、電話機、および電話番号の入力ではできません。

- エンドユーザ
- 電話機
- 電話番号
- デバイス プロファイル
- ボイスメール プロファイル



(注)

LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンドユーザ情報を変更できます。[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフになっていることを確認するには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] の順に選択します。同期が使用可能な場合 (チェックボックスがオンの場合) は、[エンドユーザ、電話、DN、およびLAの設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウにはアクセスできません。

管理者は、[エンドユーザ、電話、DN、およびLAの設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウをカスタマイズできます。ウィンドウ内の各フィールドの横にある次のチェックボックスを使用して、それぞれのフィールドをカスタマイズできます。

- [デフォルト (Default)] : フィールドに値を入力し、[デフォルト (Default)] チェックボックスをオンにすると、その値がデフォルト値になります。他のユーザは、[読み取り専用 (Read Only)] チェックボックスがオンになっている場合を除いて、そのデフォルト値を編集できます。
- [非表示 (Hidden)] : [非表示 (Hidden)] チェックボックスをオンにすると、フィールドが非表示になります。
- [読み取り専用 (Read Only)] : [読み取り専用 (Read Only)] チェックボックスをオンにすると、フィールドが読み取り専用になります。

カスタマイズした内容を保存するには、[設定の保存 (Save Settings)] ボタンをクリックします。カスタマイズはシステムレベルで適用されるため、保存したカスタマイズは他のユーザにも表示されます。

ウィンドウ内のすべての非表示フィールドを表示するには、[Show Hidden Fields] ボタンをクリックします。

表 116-1 では、エンド ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目 \(P.116-5\)](#)」を参照してください。

表 116-1 ユーザとデバイスの設定値

フィールド	説明
[ユーザ情報 (User Information)]	
[ユーザ ID (User ID)]	エンド ユーザの識別名を入力します。Cisco Unified Communications Manager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、¥、,、") およびブランクを使用できます。
[パスワード (Password)]	エンド ユーザのパスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、¥、,、") およびブランクを使用できます。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	エンド ユーザのパスワードをもう一度入力します。
[PIN]	Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる 5 文字以上の英数字を入力します。
[PIN の確認 (Confirm PIN)]	PIN をもう一度入力します。
[姓 (Last Name)]	エンド ユーザの姓を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、¥、,、") およびブランクを使用できます。
[ミドルネーム (Middle Name)]	エンド ユーザのミドルネームを入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、¥、,、") およびブランクを使用できます。
[名 (First Name)]	エンド ユーザの名を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、¥、,、") およびブランクを使用できます。
[デバイスの割り当て (Device Associations)]	
[製品のタイプ (Product Type)]	このリストボックスには、このエンド ユーザとの関連付けに使用できるデバイスのタイプが表示されます。 ドロップダウン リストボックスから、このエンド ユーザに関連付けるデバイスのタイプを選択します。
[MAC アドレス (MAC Address)]	新しいユーザに関連付ける新しいデバイスの固有の MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。
[DN のコーリングサーチスペース (Calling Search Space DN)]	ドロップダウン リストボックスから、このユーザとデバイスに関連付ける電話番号用のコーリングサーチスペースを選択します。
[電話機のコーリングサーチスペース (Calling Search Space Phone)]	ドロップダウン リストボックスから、このユーザとデバイスに関連付ける電話機用のコーリングサーチスペースを選択します。

表 116-1 ユーザとデバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>関連付けられたデバイスから発信される外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスクには、最長 24 文字までを指定できます。有効な文字は 0 ~ 9、*、#、および X です。 発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。関連付けられたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。 次の例を参照してください。 <p>マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルートパターンで [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</p> <p>代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、関連付けられた任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されません。</p>
[内線 (Extension)]	<p>このフィールドは、エンドユーザのプライマリ電話番号を表します。エンドユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>新しいユーザと電話機の内線番号を入力します。0 ~ 9、?、[、]、+、-、*、^、#、! を使用できます。</p>
[ルートパーティション (Route Partition)]	ドロップダウンリストボックスから、[内線 (Extension)] フィールドで指定した電話番号のパーティションを選択します。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	ドロップダウンリストボックスから、電話番号のボイスメールプロファイルを選択します。システムデフォルトを使用する場合は、[なし (None)] を選択します。
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	エクステンションモビリティを使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。新しいユーザを追加した後、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エクステンションモビリティプロファイルを選択できます。

エンドユーザと電話機の追加

エンドユーザと電話機を追加して、そのユーザと電話機を電話番号とデバイスプロファイルに関連付ける手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] の順に選択します。
- [エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) LDAP 同期が使用可能な場合、このウィンドウにはアクセスできません。LDAP 同期の詳細については、「LDAP システムの設定」(P.14-1) を参照してください。



(注) 次に進む前に、[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックス内のリンクを使用して、エンドユーザまたは電話機がすでに存在するかどうかを調べることができます。

すでに存在しているエンドユーザを検索するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [ユーザの検索/一覧表示に戻る (Back to Find List Users)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。表示される [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを使用して、追加するエンドユーザ ID を検索します。そのエンドユーザ ID がすでに存在する場合は、[ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] メニュー オプションを使用して、そのエンドユーザを追加することはできません。

すでに存在している電話機を検索するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで [電話の検索/一覧表示に戻る (Back to Find List Phones)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。表示される [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウを使用して、追加する電話機を検索します。その電話機がすでに存在する場合は、[ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] メニュー オプションを使用して、その電話機を追加することはできません。

どちらの関連リンクを使用した場合でも、「ステップ 1」を繰り返して、[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウに戻ります。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 116-1 を参照)。

ステップ 3 エンドユーザの設定が完了したら、[保存 (Save)] をクリックして、エンドユーザとデバイスを追加します。

Cisco Unified Communications Manager データベースにエンドユーザが作成されます。

追加情報

「関連項目」(P.116-5) を参照してください。

関連項目

- 「ユーザとデバイスの設定値」(P.116-2)
- 「エンドユーザと電話機の追加」(P.116-4)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「アプリケーションユーザとエンドユーザ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「電話番号の概要」
- 「エンドユーザの検索」(P.113-10)

- 「エンドユーザの設定」(P.113-11)
- 「エンドユーザのパスワードの変更」(P.113-13)
- 「エンドユーザの PIN の変更」(P.113-14)
- 「エンドユーザとデバイスとの関連付け」(P.113-18)
- 「Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け」(P.113-20)
- 「LDAP システムの設定」(P.14-1)
- 「電話番号の設定」(P.61-1)
- 「CTI ルート ポイントの設定」(P.89-1)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」



CHAPTER 117

アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウを使用すると、セキュアなアプリケーション ユーザにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、他のセキュリティ関連の作業を行った後、CTIManager サービスと、サーバ上でアクティブになっているアプリケーションとの間で TLS 接続が行われます。

1 つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルは、サーバ上のアプリケーションの単一のインスタンスに対応します。たとえば、クラスタ内の 2 台のサーバ上で、あるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバごとに 1 つずつ、2 つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。同じサーバ上で 2 つの異なるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバ上のアプリケーションごとに 1 つずつ、2 つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。

アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。



CHAPTER 118

エンドユーザ CAPF プロファイルの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザ CAPF プロファイルの設定 (End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウを使用すると、Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) クライアントにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、他のセキュリティ関連の作業を行うと、CTI クライアントは TLS 接続を介して CTIManager サービスと通信します。

エンドユーザ CAPF プロファイルの設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』を参照してください。



CHAPTER 119

SIP レルムの設定

SIP トランクにダイジェスト認証を設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、トランクが Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに、トランクに接続する SIP ユーザ エージェントのアイデンティティを確認します。また、SIP ユーザ エージェントは、Cisco Unified Communications Manager のアイデンティティを確認できます。Cisco Unified Communications Manager が SIP ユーザ エージェントからの確認に応答するようにするには、Cisco Unified Communications Manager に SIP レルムを設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager に SIP レルムを設定する方法については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*』を参照してください。



PART 9

Cisco Unified Communications Manager 一括管理



CHAPTER 120

一括管理ツール（BAT）

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Tool (BAT; 一括管理ツール) は、Web ベースのアプリケーションであり、Cisco Unified Communications Manager データベースに対してバルク トランザクションを実行します。BAT を使用すると、多数の類似した電話機、ユーザ、またはポートを同時に追加、更新、または削除できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用する場合は、データベース トランザクションごとに個々の手動操作が必要ですが、BAT ではこのプロセスが自動化されるため、高速な追加、更新、および削除操作が実現されます。

BAT を使用して処理できるデバイスとレコードのタイプは、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone (Voice Gateway (VGC) 電話機を含む)、Computer Telephony Interface (CTI) ポート、および H.323 クライアントの追加、更新、削除
- ユーザの追加、更新、削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、削除
- Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャおよびアシスタントの追加、更新、削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS Analog Interface Module 上のポートの追加、更新、削除
- Cisco VG200 および Cisco VG224 アナログ ゲートウェイおよびポートの追加、削除
- 強制承認コードの追加、削除
- クライアント識別コードの追加、削除
- コール ピックアップ グループの追加、削除
- CUP/CUPC ユーザの更新、エクスポート
- リージョンマトリクスの実装、実装解除
- アクセスリストの挿入、削除、エクスポート
- 設定のエクスポート、インポート
- リモート接続先およびリモート接続先プロファイルの挿入、削除、エクスポート

これらのデバイスをユーザ情報と組み合わせて処理することもできます。たとえば、CTI ポートとユーザを追加する場合、BAT の「Enable CTI Application Use」を選択することにより、CTI ポートを必要とするアプリケーション (Cisco IP SoftPhone など) を持つユーザを短時間で追加できます。

BAT のオプション コンポーネントである Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool (TAPS) を使用すると、大規模なシステムの管理にかかわる手動操作がさらに少なくなります。新しい電話機を大量に追加する必要がある場合は、BAT を使用すると、ダミーの Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスを持つデバイスを追加できるため、データ入力ファイルに MAC アドレスを 1 つずつ入力しなくて済みます。電話機のインストール後、電話機のユーザまたは管理者は TAPS 電話番号をコールして音声プロンプトに従うことにより、電話機の適切なユーザ デバイス プロファイルをダウンロードできます。

BAT および TAPS の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。



PART 10

付録



APPENDIX A

依存関係レコード

この付録では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの、依存関係レコードのウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）が特定のコーリング サーチ スペースを使用するかを判別できます。

Cisco Unified Communications Manager からレコードを削除する必要がある場合、依存関係レコードを使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- 「依存関係レコードの使用可能化」(P.A-1)
- 「依存関係レコードの使用不可能化」(P.A-2)
- 「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2)
- 「依存関係レコードのボタン」(P.A-4)

依存関係レコードの使用可能化

依存関係レコードにアクセスするには、まず依存関係レコードを使用可能にする必要があります。システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています。依存関係レコードを使用可能にする手順は、次のとおりです。



注意

依存関係レコード機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤルプランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。
- ステップ 3** [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[True] を選択します。

依存関係レコードを使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

■ 依存関係レコードの使用不可能化

- ステップ 4** [OK] をクリックします。
フィールドに [True] が表示されます。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

依存関係レコードの使用不可能化

依存関係レコードを使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、依存関係レコードを使用不可にすることができます（システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています）。依存関係レコードを使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。
- ステップ 3** [Enable Dependency Records] ドロップダウンリスト ボックスから、[False] を選択します。
依存関係レコードに関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
フィールドに [False] が表示されます。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

依存関係レコードへのアクセス

Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウから依存関係レコードにアクセスするには、[関連リンク (Related Links)] ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。



(注) 依存関係レコードが有効になっていない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます（レコードに関する情報は表示されません）。依存関係レコードを使用可能にするには、「[依存関係レコードの使用可能化 \(P.A-1\)](#)」を参照してください。

たとえば、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、[依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックすると、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます（[図 A-1](#) を参照）。

図 A-1 【依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)】 の例

依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary) 関連リンク: [次に戻る: デバイスプール: Default](#) [移動](#)

? ヘルプ

104 個のレコードが次を使用中: デバイスプール: Default

レコード数 (Record Count)	レコードタイプ (Record Type)
5	電話
1	会議ブリッジ
1	メディアターミネーションポイント/トランスコーダ
1	保留音サーバ
2	トランク
1	アナンシエータ
4	PhoneTemplate
89	デバイスのデフォルト

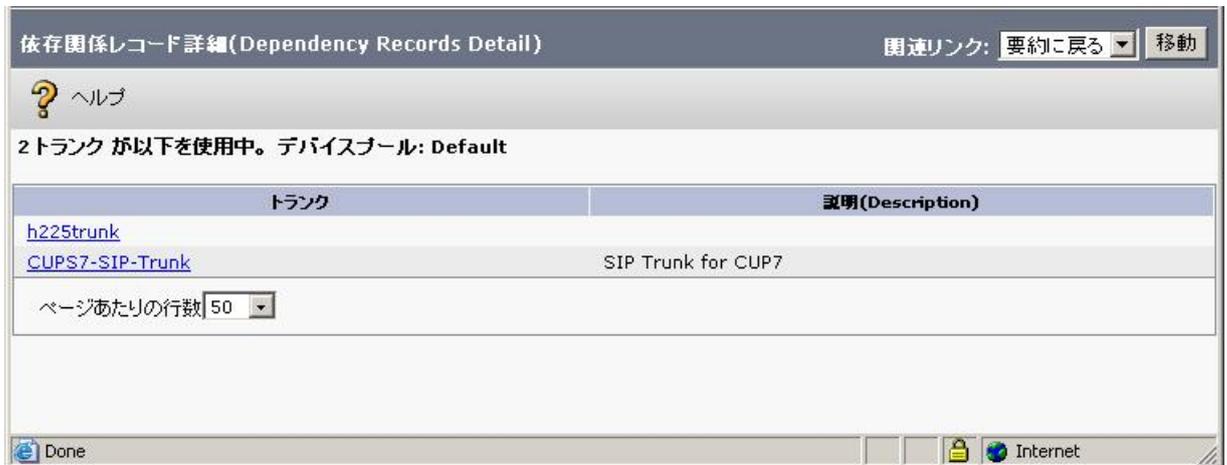
リフレッシュ 閉じる 閉じて戻る

i * - 必須項目を示しています。

Done Internet

依存関係レコードの詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします（たとえば、トランクレコードをクリックします）。[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウが表示されます（図 A-2 を参照）。元の設定ウィンドウに戻る場合は、[関連リンク (Related Links)] リストボックスから [要約に戻る (Back to Summary)] を選択して [移動 (Go)] をクリックします。その後、[次に戻る (Back to): <設定ウィンドウ名>] を選択して [移動 (Go)] をクリックするか、または [閉じて戻る (Close and go Back)] ボタンをクリックします。

図 A-2 [依存関係レコード詳細(Dependency Records Detail)] の例



[依存関係レコード詳細(Dependency Records Detail)] ウィンドウに表示されているレコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、[図 A-2](#) に示されている `h225trunk` レコードをクリックすると、[トランクの設定(Trunk Configuration)] ウィンドウに、`h225trunk` に関する情報が表示されます。

依存関係レコードのボタン

[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示されます。

- [リフレッシュ (Refresh)] : ウィンドウを現在の情報で更新します。
- [閉じる (Close)] : ウィンドウを閉じます。ただし、[依存関係レコード(Dependency Records)] リンクをクリックした Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウには戻りません。
- [閉じて戻る (Close and go Back)] : ウィンドウを閉じ、[依存関係レコード(Dependency Records)] リンクをクリックした Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウに戻ります。



APPENDIX **B**

SIP を実行しているシスコ以外の電話機の設定

Cisco Unified Communications Manager は、SIP 対応の Cisco Unified IP Phone、および RFC3261 に準拠し、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機をサポートしています。この付録では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機を設定する方法について説明します。

この付録は、次の項で構成されています。

- 「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト」 (P.B-1)
- 「SIP を実行している電話機の設定との相違点」 (P.B-3)
 - 「Cisco Unified Communications Manager がサードパーティ製の電話機を識別する方法」 (P.B-4)
 - 「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機と TFTP」 (P.B-5)
 - 「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機のダイジェスト認証の使用可能化」 (P.B-5)
 - 「DTMF 受信」 (P.B-5)
 - 「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機用のライセンス」 (P.B-5)
- 「参考情報」 (P.B-6)

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト

Cisco Unified Communications Manager は、SIP 対応の Cisco Unified IP Phone、および RFC3261 に準拠し、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機をサポートしています。表 B-1 に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機を手動で設定する手順を示します。

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト

表 B-1 SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト

設定手順	手順および関連項目
ステップ 1 電話機に関する次の情報を収集します。 <ul style="list-style-type: none"> • MAC アドレス • 電話機の物理的なロケーション • 電話機に関連付ける Cisco Unified Communications Manager ユーザ • パーティション、コーリングサーチスペース、およびロケーションの情報（使用する場合） • 電話機に割り当てる回線および関連 DN の数 	
ステップ 2 十分なデバイスライセンスユニットが使用可能かどうかを調べます。不足している場合は、追加のデバイスライセンスユニットを購入してインストールします。[サードパーティの SIP デバイス (基本)(Third-party SIP Device (Basic))] は 3 つのデバイスライセンスユニットを消費し、[サードパーティの SIP デバイス (拡張)(Third-party SIP Device (Advanced))] は 6 つのデバイスライセンスユニットを消費します。	『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「必要なライセンスユニット数の計算」 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「ライセンスファイルの取得」
ステップ 3 ダイジェストユーザにするエンドユーザを設定します。 (注) SIP を実行しているサードパーティ製の電話機が認可 ID (ダイジェストユーザ) をサポートしない場合は、サードパーティ製電話機の DN と一致するユーザ ID を持つユーザを作成してください。たとえば、1000 という名前のエンドユーザを作成し、電話機に 1000 という DN を作成します。このユーザを電話機に割り当てます（「ステップ 9」を参照）。	「エンドユーザの設定」(P.113-11)
ステップ 4 SIP プロファイルを設定します。または、デフォルトプロファイルを使用します。SIP プロファイルは、[電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、SIP を実行している電話機に追加されます。 (注) SIP を実行しているサードパーティ製の電話機は、[SIP プロファイルの設定(SIP Profile Configuration)] ウィンドウの [SIP プロファイル情報(SIP Profile Information)] セクションだけを使用します。	「SIP プロファイルの設定」(P.102-12) 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-34)
ステップ 5 電話機のセキュリティプロファイルを設定します。ダイジェスト認証を使用するには、新しい電話機セキュリティプロファイルを設定する必要があります。自動登録用に提供されている標準のノンセキュア SIP プロファイルの 1 つを使用する場合は、ダイジェスト認証を使用可能にできません。	「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機のダイジェスト認証の使用可能化」(P.B-5) 「電話機のセキュリティプロファイルの設定」(P.27-1)

表 B-1 SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト (続き)

設定手順	手順および関連項目
ステップ 6 [新規電話を追加 (Add a New Phone)] ウィンドウから [サードパーティの SIP デバイス (拡張)(Third-party SIP Device (Advanced))] または [サードパーティの SIP デバイス (基本)(Third-party SIP Device (Basic))] を選択して、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機を追加し、設定します。 (注) [サードパーティの SIP デバイス (基本)(Third-party SIP Device (Basic))] は 1 つの回線をサポートし、3 つのライセンスユニットを消費します。[サードパーティの SIP デバイス (拡張)(Third-party SIP Device (Advanced))] は、8 つの回線とビデオをサポートし、6 つのライセンスユニットを消費します。	「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-34)
ステップ 7 電話機に対して回線 (DN) を追加し、設定します。	「電話番号の設定」(P.61-1)
ステップ 8 [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[デバイスの割り当て (Device Associations)] を使用して、SIP を実行している電話機を選択し、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機をユーザに関連付けます。	「エンドユーザとデバイスとの関連付け」(P.113-18)
ステップ 9 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ダイジェストユーザ (Digest User)] フィールドで、「ステップ 3」で作成したエンドユーザを選択します。	「短縮ボタンまたは固定短縮ダイヤルの設定」(P.92-41)
ステップ 10 SIP を実行しているサードパーティ製の電話を設置して電源をオンにし、ネットワーク接続を確認して、ネットワーク設定を行います。	SIP を実行している電話機に付属のアドミニストレーションガイドを参照してください。
ステップ 11 SIP を実行しているサードパーティ製の電話機でコールを発信します。	SIP を実行しているサードパーティ製の電話機に付属のユーザガイドを参照してください。

SIP を実行している電話機の設定との相違点

表 B-2 では、Cisco Unified IP Phone と SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定を比較してその相違点の概要を示します。

表 B-2 SIP を実行している電話機のモデル設定の比較

SIP を実行している電話機	中央集中型 TFTP との統合	MAC アドレスの送信	ソフトキーファイルのダウンロード	ダイヤルプランファイルのダウンロード	Cisco Unified Communications Manager のフェールオーバーとフォールバックのサポート	リセットと再起動のサポート
Cisco Unified IP Phone 7911、7941、7961、7970、7971	可	可	可	可	可	可
Cisco Unified IP Phone 7940、7960	可	可	不可	可	可	可

表 B-2 SIP を実行している電話機のモデル設定の比較 (続き)

SIP を実行している電話機	中央集中型 TFTP との統合	MAC アドレスの送信	ソフトキーファイルのダウンロード	ダイヤルプランファイルのダウンロード	Cisco Unified Communications Manager のフェールオーバーとフォールバックのサポート	リセットと再起動のサポート
Cisco Unified IP Phone 7905、7912	可	可	不可	不可	可	可
SIP を実行しているサードパーティ製の電話機	不可	不可	不可	不可	不可	不可

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用すると、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機を設定できます（「参考情報」(P.B-6) を参照）。また、管理者は、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機上で設定手順を実行する必要もあります。次の例を参照してください。

- 電話機のプロキシアドレスを Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) にする。
- 電話機の電話番号を、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでデバイスに設定した電話番号と一致させる。
- 電話機のダイジェストユーザ ID (認可 ID と呼ばれる) を、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したダイジェストユーザ ID と一致させる。

詳細については、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機に付属のマニュアルを参照してください。

Cisco Unified Communications Manager がサードパーティ製の電話機を識別する方法

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機は MAC アドレスを送信しないため、ユーザ名を使用して自分自身の身元を証明する必要があります。

REGISTER メッセージには次のヘッダーが含まれています。

```
Authorization: Digest
username="swhite",realm="ccmsipline",nonce="GBauADss2qoWr6k9y3hGGVDAqnLfoLk5",uri="sip:172.18.197.224",algorithm=MD5,response="126c0643a4923359ab59d4f53494552e"
```

ユーザ名 swhite は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに設定されているエンドユーザと一致する必要があります（「[エンドユーザの設定](#)」(P.113-11) を参照）。管理者は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ダイジェストユーザ (Digest User)] フィールドで、サードパーティ製 SIP 電話機にユーザ（たとえば swhite）を設定します（「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」(P.92-34) を参照）。



(注)

各エンドユーザ ID は、([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ダイジェストユーザ (Digest User)] フィールドで) 1 つのサードパーティ製電話機だけに割り当てることができます。同じエンドユーザ ID がダイジェストユーザとして複数の電話機に割り当てられている場合、そのエンドユーザ ID が割り当てられているサードパーティ製電話機は正しく登録されません。

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機と TFTP

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機は、Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバを使用して設定されません。お客様が、ネイティブ電話機設定メカニズム（通常は、Web ページまたは tftp ファイル）を使用して、電話機を設定します。お客様は、Cisco Unified Communications Manager データベース内のデバイスおよび回線の設定と、ネイティブ電話機設定の同期を保つ必要があります（たとえば、電話機の内線番号 1002 と Cisco Unified Communications Manager の 1002）。さらに、回線の電話番号が変更された場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページとネイティブ電話機設定メカニズムの両方でその電話番号が変更されていることを確認してください。

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機のダイジェスト認証の使用可能化

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機のダイジェスト認証を使用可能にするには、管理者が電話セキュリティプロファイルを作成する必要があります（「[電話機のセキュリティプロファイルの設定](#)」(P.27-1) を参照）。「電話セキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)」ウィンドウで、「ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)」チェックボックスをオンにします。セキュリティプロファイルの設定後、管理者は、「電話の設定 (Phone Configuration)」ウィンドウを使用して、そのセキュリティプロファイルを SIP を実行している電話機に割り当てる必要があります。このチェックボックスがオフである場合、Cisco Unified Communications Manager は、エンドユーザ ID によって電話機を識別するためにダイジェスト認証を使用し、ダイジェストパスワードを確認しません。このチェックボックスがオンである場合、Cisco Unified Communications Manager はパスワードを確認します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、SIP を実行しているサードパーティ製の電話機からの Transport Layer Security (TLS) をサポートしません。

DTMF 受信

Dual Tone MultiFrequency (DTMF; デュアル トーン多重周波数) 受信を要求するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの「電話の設定 (Phone Configuration)」ウィンドウに表示される「DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)」チェックボックスをオンにします。

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機用のライセンス

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機のライセンスには、次の制限が適用されます。

- [サードパーティの SIP デバイス (基本)(Third-party SIP Device (Basic))] : ビデオ コールはサポートされません。ビデオの実行は、オファー/アンサー プロセスの中で発生します。ビデオのネゴシエーションが許可されない SIP デバイスからのオファーまたはアンサーの中で、ビデオ関連メディアが提供された場合、コールのビデオに関連しない部分だけが発信先に展開されます。同様に、メディアのネゴシエーションが許可されない SIP エンドポイントは、Cisco Unified Communications Manager から送信された Secure Device Provisioning (SDP) のビデオ関連メディアを受信しません。

- [サードパーティの SIP デバイス (拡張)(Third-party SIP Device (Advanced))] および [サードパーティの SIP デバイス (基本)(Third-party SIP Device (Basic))] : Cisco 固有の SIP 拡張はサポートされません。サポートされない Cisco 固有の SIP 拡張には、サービス URI、ヘッダー拡張、ダイアログ サブスクリプション、リモート コール制御の専用 mime タイプなどがあります。Cisco Unified Communications Manager は、拡張機能の使用が許可されない SIP を実行している電話機から送信された、サービス要求 URI (コール ピックアップ URI、ミーティング サービス URI など) を使用する要求を拒否します。サービス URI は、SIP プロファイルで指定します。プロファイルは、SIP デバイスに割り当てられます。Cisco Unified Communications Manager は、Cisco 固有の SIP 拡張の使用を要求する機能をブロックします。



(注)

Cisco Unified Communications Manager のライセンス ポリシーに従い、サードパーティ製ワイヤレス SIP クライアントまたはデバイスは、[サードパーティの SIP デバイス (拡張)(Third-party SIP Device (Advanced))] に設定してください。

Cisco SIP 拡張の詳細については、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

参考情報

- 「SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の設定チェックリスト」(P.B-1)
- 「電話番号の設定」(P.61-1)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」(P.92-1)
- 「SIP プロファイルの設定」(P.102-1)
- 「エンド ユーザの設定」(P.113-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」



INDEX

A

AAR

「自動代替ルーティング (AAR)」を参照

Analog Access ゲートウェイとポート

追加 [91-118](#)

B

BAT

アプリケーションの概要 [120-1](#)

BLF/ 短縮ダイヤル

設定値 [92-31](#)

BRI

ゲートウェイの設定 [91-85](#)

ポート、追加 [91-115](#)

C

CAPF プロファイル

アプリケーション ユーザ~の設定 [117-1](#)

エンド ユーザ~の設定 [118-1](#)

Cisco CallManager サービス

アクティブ化 [3-7](#)

非アクティブ化 [3-7](#)

Cisco Unified Communications Manager

主な機能 [1-2](#)

概要 [1-1](#)

関連項目 [3-9](#)

グループ

検索 [4-3](#)

削除 [4-5](#)

設定 [4-4](#)

設定値 (表) [4-1](#)

設定の概要 [4-1](#)

設定の同期化 [4-5](#)

検索 [3-5](#)

更新 [3-6](#)

サーバの設定 [2-1](#)

詳細 [1-17](#)

設定 [3-1](#)

設定値 (表) [3-1](#)

設定の同期化 [3-7](#)

利点 [1-2, 1-3](#)

ログイン [1-4](#)

ログオフ [1-5](#)

Cisco Unified Communications Manager Assistant

設定ウィザード [108-1](#)

Cisco Unified Communications Manager の管理

Firefox 3.x と HTTPS [1-10](#)

Internet Explorer 7 と HTTPS [1-5](#)

Internet Explorer 8 と HTTPS [1-8](#)

Safari 4.x と HTTPS [1-12](#)

操作 [1-14](#)

Cisco Unified IP Phone

MAC アドレスの表示 [92-50](#)

SIP を実行している

サードパーティ製デバイスの相違点 [B-3](#)

関連項目 [92-51](#)

現在ログイン中のデバイスの検索 [92-48](#)

検索 [92-32](#)

削除 [92-40](#)

設定 [92-34](#)

設定の概要 [92-1](#)

設定の同期化 [92-39](#)

リセット [92-38](#)

リモートからログインしたデバイスの検索 **92-49**

Cisco Unified IP Phone サービス

- 加入 **92-42**
- 加入解除 **92-44**
- 更新 **92-43**
- 設定 **92-42**

Cisco Unity

- ～への管理者の追加 **112-9**

Cisco Unity Connection

- ～への管理者の追加 **112-9**
- ボイスメール ボックス
 - 電話番号 **61-30**
- ユーザ設定のボイスメール ボックス **113-12**

Cisco ボイスメール

- 設定の概要 **82-1**

Cisco ボイスメール パイロット

- 関連項目 **85-5**
- 検索 **85-3**
- 削除 **85-4**
- 設定 **85-4**
- 設定の概要 **85-1**

Cisco ボイスメール ポート ウィザード **83-1**

CMLocal 日時グループ **6-1**

CTI ルート ポイント

- 関連項目 **89-11**
- 検索 **89-7**
- 削除 **89-9**
- 設定 **89-8**
- 設定値 (表) **89-2**
- 設定の概要 **89-1**
- 設定の同期化 **89-11**
- リセット **89-10**

D

DHCP

- DHCP モニタ サービスのアクティブ化 **12-3**
- DHCP モニタ サービスの開始 **12-3**
- サーバ

- 関連項目 **12-7**
- 検索 **12-4**
- 削除 **12-6**
- 設定 **12-1, 12-5**
- 設定値 (表) **12-1**

サブネット

- 関連項目 **13-5**
- 検索 **13-3**
- 削除 **13-4**
- 設定 **13-4**
- 設定値 (表) **13-1**

Dynamic Host Configuration Protocol

「DHCP」を参照

F

- FXO ポート **91-113**
- FXS ポート **91-112**

G

- G.Clear コーデック
 - 有効化 **91-80**

H

- H.323、ゲートウェイの追加 **91-118**
- HTTPS
 - Secure Sockets Layer 上の HTTP **1-5**

I

IP Phone サービス

「Cisco Unified IP Phone サービス」を参照

- IP アドレス **2-1**
- ISDN BRI、ゲートウェイの設定 **91-85**
- ISDN、ゲートウェイの設定 **91-50**
- IVR **80-1**

L

LDAP

LDAP システムの情報の更新 [14-4](#)LDAP 認証の情報の更新 [16-4](#)

システム

関連項目 [14-4](#)設定 [14-1](#)設定値 (表) [14-1](#)

ディレクトリ

関連項目 [15-8](#)検索 [15-6](#)削除 [15-8](#)設定 [15-1, 15-7](#)設定値 (表) [15-1](#)

認証

関連項目 [16-5](#)設定 [16-1](#)設定値 (表) [16-1](#)

フィルタ

関連項目 [17-5](#)検索 [17-2](#)削除 [17-4](#)設定 [17-1](#)設定値 (表) [17-1](#)

M

Max List Box エンタープライズ パラメータ

コーリング サーチ スペース [61-24](#)

MGCP

BRI ゲートウェイの設定値 (表) [91-85](#)Cisco IOS、追加 [91-109](#)FXO ポート、追加 [91-113](#)FXS ポート、追加 [91-112](#)IOS 以外のゲートウェイ、追加 [91-116](#)ゲートウェイ、追加 [91-109](#)デジタル アクセス PRI ポート、追加 [91-114](#)デジタル アクセス T1 ポート [91-114](#)ポート、追加 [91-111](#)

MLPP ドメイン

概要 [21-1](#)関連項目 [21-5](#)検索 [21-2](#)削除 [21-4](#)設定 [21-3](#)設定値 (表) [21-1](#)リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン [22-1](#)

MTP

IOS 設定値 (表) [72-2](#)関連項目 [72-6](#)検索 [72-3](#)削除 [72-5](#)設定 [72-4](#)設定の概要 [72-1](#)設定の同期化 [72-5](#)

MWI

関連項目 [84-5](#)設定 [84-4](#)設定値 (表) [84-1](#)

P

PLAR [61-28](#)PRI、ゲートウェイの設定 [91-50](#)

S

SCCP

Cisco IOS、追加 [91-115](#)ゲートウェイ、追加 [91-115](#)

SIP

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機

設定チェックリスト (表) [B-1](#)SIP を実行しているサードパーティ製の電話機と TFTP [B-5](#)サードパーティ製の電話機の設定 [B-1](#)

設定の相違点 [B-3](#)

SIP のダイヤル ルール

関連項目 [37-10](#)

検索 [37-4](#)

削除 [37-8](#)

設定 [37-1](#), [37-5](#)

設定値 (表) [37-1](#)

設定と影響を受ける SIP 電話の同期化 [37-9](#)

ダイヤル プランの例 [37-7](#)

パターンの形式 [37-6](#)

リセット [37-9](#)

SIP プロファイル

関連項目 [102-15](#)

検索 [102-11](#)

更新 [102-12](#)

コピー [102-12](#)

削除 [102-13](#)

設定 [102-1](#)

設定値 [102-1](#)

設定の同期化 [102-14](#)

追加 [102-12](#)

リセット [102-14](#)

リソース プライオリティ ネームスペース リスト [102-2](#)

SIP ルート パターン

関連項目 [45-8](#)

検索 [45-5](#)

削除 [45-7](#)

設定 [45-1](#), [45-7](#)

設定値 (表) [45-1](#)

SIP レルム、設定 [119-1](#)

SRST

関連項目 [20-6](#)

検索 [20-3](#)

削除 [20-5](#)

設定 [20-4](#)

設定値 (表) [20-1](#)

設定の概要 [20-1](#)

Survivable Remote Site Telephony

「SRST」を参照

T

T1 ポート、追加 [91-114](#)

TFTP

SIP を実行しているサードパーティ製の電話機 [B-5](#)

V

Voice Gateway [91-1](#)

W

Web ブラウザ [1-3](#)

あ

アクセシビリティ

アクセス、ボタンとアイコン [1-16](#)

アクセス リスト [50-1](#)

アドミッション制御

ロケーションを使用する実装 [18-1](#)

アナウンス [81-1](#)

アナンシエータ

関連項目 [70-6](#)

更新 [70-4](#)

設定値 (表) [70-1](#)

設定の概要 [70-1](#)

設定の同期化 [70-6](#)

リセット [70-5](#)

アプリケーション サーバ

関連項目 [30-5](#)

検索 [30-3](#)

削除 [30-5](#)

設定 [30-1](#), [30-4](#)

設定値 (表) [30-1](#)

アプリケーションのダイヤル ルール

関連項目	35-6
検索	35-3
削除	35-5
設定	35-4
設定値 (表)	35-1
設定の概要	35-1
優先順位	35-5
アプリケーション ユーザ	
CAPF プロファイルの設定	117-1
Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加	112-9
アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け	112-13
関連項目	112-15
クレデンシャルの管理	112-11
クレデンシャルの設定値 (表)	112-12
検索	112-6
削除	112-14
設定	112-1 , 112-8
設定値 (表)	112-1
パスワードの変更	112-10

い

移行、電話機の設定	92-36
依存関係レコード	
アクセス	A-2
エンタープライズ パラメータ	A-1
概要	A-1
共通電話プロファイル	104-8
使用可能化	A-1
詳細の例 (図)	A-4
使用不可能化	A-2
デバイス プロファイル	98-12
電話サービス	101-11
ボイスメール パイロット番号	85-4
ボイスメール プロファイル	86-5
ボイスメール ポート	82-9
ボタン	A-4

要約の例 (図)	A-3
ルート フィルタ	38-7
インターコム	
コーリング サーチ スペース	
設定の概要	47-1
電話番号	
設定の概要	48-1
トランスレーション パターン	
設定の概要	49-1
パーティション	
設定の概要	46-1

え

エクステンション モビリティ	
エンドユーザ	113-20
現在ログイン中のデバイスの検索	92-48
エンタープライズ電話の設定パラメータ	25-1
エンタープライズ パラメータ	
依存関係レコード	A-1
設定	24-1
設定と該当するデバイスの同期化	24-2
エンドユーザ	
CAPF プロファイル	118-1
PIN の変更	113-14
エクステンション モビリティ	113-20
～とデバイス	
設定値 (表)	116-2
～とデバイスとの関連付け	113-18
関連項目	113-22
クレデンシャルの管理	113-14
クレデンシャルの設定値 (表)	113-15
検索	113-10
削除	113-21
設定	113-11
設定値 (表)	113-2
設定の概要	113-1
電話機と～の追加	116-4
電話との設定	116-1

パスワードの変更 [113-13](#)
 ユーザ関連情報 [113-17](#)

検索 [99-2](#)
 削除 [99-6, 106-5](#)
 設定 [99-4](#)

か

会議デバイス

設定の同期化 [71-19](#)

会議ブリッジ

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM)

設定値 (表) [71-14](#)

Cisco IOS

設定値 (表) [71-8](#)

Cisco Video

設定値 (表) [71-11](#)

関連項目 [71-20](#)

検索 [71-17](#)

削除 [71-20](#)

設定の概要 [71-1](#)

ソフトウェア

設定値 (表) [71-1](#)

ハードウェア

設定値 (表) [71-5](#)

追加 [71-18](#)

ミーティング番号 / パターンの検索 [62-3](#)

ミーティング番号 / パターンの削除 [62-5](#)

ミーティング番号 / パターンの設定 [62-4](#)

回線グループ

関連項目 [42-11](#)

検索 [42-7](#)

削除 [42-10](#)

設定 [42-8](#)

設定値 (表) [42-1](#)

設定の概要 [42-1](#)

メンバーの削除 [42-9](#)

メンバーの追加 [42-9](#)

外線電話番号マスク [31-2](#)

概要、Cisco Unified Communications Manager [1-1](#)

カスタム電話ボタン テンプレート

拡張モジュールの作成 [99-5](#)

き

強制承認コード

説明 [56-1](#)

共通デバイス設定

検索 [103-7](#)

削除 [103-10](#)

設定 [103-8](#)

設定値 (表) [103-2](#)

設定と該当するデバイスの同期化 [103-9](#)

設定の概要 [103-1](#)

共通電話プロファイル

依存関係レコード [104-8](#)

関連項目 [104-9](#)

検索 [104-6](#)

削除 [104-8](#)

設定 [104-1, 104-7](#)

設定値 (表) [104-1](#)

設定と該当するデバイスの同期化 [104-8](#)

<

クライアント識別コード、説明 [55-1](#)

クラスタ間のエクステンション モビリティ

リモートからログインしたデバイスの検索 [92-49](#)

グループ

Cisco Unified Communications Manager

検索 [4-3](#)

削除 [4-5](#)

設定 [4-4](#)

設定値 (表) [4-1](#)

設定の概要 [4-1](#)

日付 / 時間

関連項目 [6-8](#)

検索 [6-3](#)

- 削除 [6-7](#)
 - 設定 [6-5](#)
 - 設定値 (表) [6-1](#)
 - 設定の概要 [6-1](#)
 - プレゼンス、設定 [7-1](#)
 - クレデンシャル ポリシー
 - 関連項目 [111-6](#)
 - 検索 [111-3](#)
 - 削除 [111-5](#)
 - 設定 [111-4](#)
 - 設定値 (表) [111-1](#)
 - 設定の概要 [111-1](#)
 - クレデンシャル ポリシーのデフォルト
 - 関連項目 [110-4](#)
 - 検索 [110-3](#)
 - 設定 [110-3](#)
 - 設定値 (表) [110-1](#)
 - 設定の概要 [110-1](#)
 - 割り当て [110-3](#)
-
- ## け
- ゲートウェイ
 - Analog Access ゲートウェイ、追加 [91-118](#)
 - Analog Access の設定値 (表) [91-29](#)
 - BRI の設定値 (表) [91-85](#)
 - Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (表) [91-36](#)
 - Cisco VG224/VG248 アナログ ゲートウェイ、追加 [91-119](#)
 - Cisco VG224/VG248 アナログ ポート、追加 [91-119](#)
 - Cisco VG248 の設定値 (表) [91-35](#)
 - E & M ポートの設定値 (表) [91-105](#)
 - FSX/FXO の設定値 (表) [91-39](#)
 - G.Clear コーデックの有効化 [91-80](#)
 - H.323 設定値 (表) [91-5](#)
 - H.323、追加 [91-118](#)
 - IOS 以外、追加 [91-116](#)
 - ISDN [91-50](#)
 - ISDN BRI [91-85](#)
 - MGCP
 - BRI、設定 [91-85](#)
 - BRI ポート、追加 [91-115](#)
 - Cisco IOS、追加 [91-109](#)
 - FXO ポート、追加 [91-113](#)
 - FXS ポート、追加 [91-112](#)
 - T1 ポート、追加 [91-114](#)
 - 設定値 (表) [91-2](#)
 - デジタル アクセス PRI ポート、追加 [91-114](#)
 - ポート、追加 [91-111](#)
 - POTS ポートの設定値 (表) [91-100](#)
 - PRI [91-50](#)
 - SCCP
 - Cisco IOS、追加 [91-115](#)
 - 関連項目 [91-124](#)
 - グラウンドスタート ポートの設定値 (表) [91-104](#)
 - 検索と一覧表示 [91-107](#)
 - 更新 [91-123](#)
 - 再起動 [91-122](#)
 - 削除 [91-121](#)
 - 設定値 (表) [91-2](#)
 - 設定の概要 [91-1](#)
 - 設定の同期化 [91-123](#)
 - 追加 [91-108](#)
 - デジタル アクセス PRI の設定値 (表) [91-50](#)
 - 変更 [91-121](#)
 - ポート、追加 [91-118](#)
 - ポートの設定値 (表) [91-39](#)
 - リセット [91-122](#)
 - ループ スタート ポートの設定値 (表) [91-103](#)
 - ゲートキーパー
 - 関連項目 [90-7](#)
 - 検索 [90-3](#)
 - 削除 [90-5](#)
 - 設定 [90-4](#)
 - 設定値 (表) [90-2](#)
 - 設定の概要 [90-1](#)
 - 設定の同期化 [90-6](#)

リセット [90-6](#)

権限

関連項目 [114-6](#)検索 [114-3](#)削除 [114-5](#)設定 [114-4](#)設定値 (表) [114-2](#)説明 [114-1](#)ユーザ グループへの割り当て [115-7](#)ユーザの～の表示 [115-8](#)

こ

コーリング サーチ スペース

関連項目 [54-6](#)検索 [54-3](#)削除 [54-5](#)設定 [54-4](#)設定値 (表) [54-1](#)設定の概要 [54-1](#)ドロップダウン リスト ボックスでの表示を設定 [61-24](#)パーティション制限 [54-2](#)

コール待機

設定値 [61-23](#)

コール パーク

説明 [58-1](#)

コール ピックアップ グループ

説明 [60-1](#)

コール表示制限

デバイス プロファイルでの設定 [98-2](#)電話機の設定 [92-14](#)トランスレーション パターンでの設定 [57-6](#)

コール ルーティング

電話番号

設定の概要 [61-1](#)

固定短縮ダイヤル

設定値 (表) [92-30](#)

さ

サードパーティ製の電話機

SIP

ライセンス [B-5](#)

サーバ

関連項目 [2-9](#)検索 [2-4](#)削除 [2-7](#)設定 [2-1, 2-5](#)設定値 (表) [2-1](#)

サービス

Cisco CallManager

アクティブ化 [3-7](#)非アクティブ化 [3-7](#)

電話

依存関係レコード [101-11](#)関連項目 [101-15](#)検索 [101-7](#)サービス パラメータ [101-12](#)サービス パラメータの削除 [101-13](#)サービス パラメータの設定値 (表) [101-6](#)削除 [101-11](#)設定 [101-10](#)設定値 (表) [101-2](#)設定の概要 [101-1](#)電話ボタンへの追加 [101-14](#)サービス URL ボタン、追加 [92-45](#)

サービス パラメータ

関連項目 [26-5](#)サービス用の設定 [26-1](#)サービス用の表示 [26-4](#)設定 [26-1](#)

参照

Cisco Unified Communications Manager [1-3](#)セキュリティ、ハイパーテキスト転送プロトコル [1-5](#)

-
- し**
- 時間帯
- 関連項目 [51-6](#)
 - 検索 [51-3](#)
 - 削除 [51-5](#)
 - 設定 [51-5](#)
 - 設定値 (表) [51-1](#)
 - 設定の概要 [51-1](#)
- 自動代替ルーティング (AAR)
- グループ
 - 概要 [34-1](#)
 - 関連項目 [34-5](#)
 - 検索 [34-3](#)
 - 削除 [34-5](#)
 - 設定 [34-4](#)
 - 設定値 (表) [34-1](#)
- 自動登録
- 関連項目 [31-6](#)
 - 自動登録番号の再使用 [31-6](#)
 - 使用可能化 [31-3](#)
 - 使用不可能化 [31-5](#)
 - 設定 [31-1](#)
 - 設定値 (表) [31-1](#)
-
- せ**
- セキュリティ プロファイル
- CUMA の設定 [29-1](#)
 - SIP トランクの設定 [28-1](#)
 - 電話機の設定 [27-1](#)
- 設定 [61-28](#)
-
- そ**
- 操作
- Cisco Unified Communications Manager の管理 [1-14](#)
- ソフトキー テンプレート
- アプリケーション ソフトキーの追加 [100-4](#)
 - 関連項目 [100-9](#)
 - 検索 [100-1](#)
 - 更新 [100-8](#)
 - 削除 [100-7](#)
 - 作成 [100-3](#)
 - 設定の概要 [100-1](#)
 - ソフトキーの位置 [100-5](#)
 - 電話機への割り当て [100-9](#)
 - 名前変更 [100-6](#)
 - 変更 [100-6](#)
- ソフトキー テンプレートの設定
- 設定と該当するデバイスの同期化 [100-8](#)
-
- た**
- ダイジェスト認証
- SIP を実行しているサードパーティ製の電話機の使用可能化 [B-5](#)
- タイム スケジュール
- 関連項目 [52-6](#)
 - 検索 [52-3](#)
 - 削除 [52-5](#)
 - 設定 [52-4](#)
 - 設定値 (表) [52-1](#)
 - 設定の概要 [52-1](#)
- タイム ゾーン [6-1](#)
- ダイヤル プラン
- Cisco CallManager サービスの再起動 [63-7](#)
 - NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定 [63-4](#)
 - アップグレード [63-5](#)
 - アンインストール [63-6](#)
 - インストーラ [63-1](#)
 - インストール [63-3](#)
 - 関連項目 [63-8](#)
 - 検索 [63-2](#)
 - 編集 [63-3](#)
- ダイヤル ルール

SIP

「SIP のダイヤル ルール」を参照

ディレクトリ検索

関連項目 [36-5](#)

検索 [36-2](#)

削除 [36-4](#)

設定 [36-1, 36-3](#)

設定値 (表) [36-1](#)

ダイレクト コール パーク

説明 [59-1](#)

短縮ダイヤルの設定値 (表) [92-30](#)

短縮ダイヤル ボタン、設定 [92-41](#)

設定の概要 [92-1](#)

MWI 設定値 (表) [84-1](#)

共通特性の指定 [9-1](#)

ゲートウェイ [91-1](#)

ゲートキーパー、設定の概要 [90-1](#)

デフォルト以外のファームウェア ロード [96-1](#)

トランク

関連項目 [93-66](#)

設定の概要 [93-1](#)

ファームウェア ロード情報

関連項目 [96-1](#)

設定の概要 [96-1](#)

デバイス デフォルト

関連項目 [95-3](#)

更新 [95-2](#)

設定値 (表) [95-1](#)

設定の概要 [95-1](#)

デバイス プール

関連項目 [9-21](#)

検索 [9-17](#)

削除 [9-20](#)

設定 [9-18](#)

設定値 (表) [9-1](#)

設定と該当するデバイスの同期化 [9-20](#)

設定の概要 [9-1](#)

デバイス プロファイル

依存関係レコード [98-12](#)

関連項目 [98-13](#)

検索 [98-9](#)

設定 [98-10](#)

設定値 (表) [98-2](#)

設定の概要 [98-1](#)

ユーザ プロファイルの削除 [98-12](#)

デバイス モビリティ グループ

設定の概要 [10-1](#)

デバイス モビリティ情報

設定の概要 [11-1](#)

デフォルト、デバイス

関連項目 [95-3](#)

ち

着信側トランスフォーメーション パターン

関連項目 [66-7](#)

検索 [66-5](#)

削除 [66-7](#)

設定 [66-6](#)

設定値 (表) [66-1](#)

て

ディレクトリ

Cisco Unity Connection ボイスメール ボックス [113-12](#)

ディレクトリ検索のダイヤル ルール

検索 [36-2](#)

削除 [36-4](#)

設定 [36-1, 36-3](#)

設定値 (表) [36-1](#)

デジタル アクセス PRI ポート [91-114](#)

デジタル アクセス T1

ポート [91-114](#)

デバイス

Cisco Unified IP Phone

関連項目 [92-51](#)

設定 [92-34](#)

- 更新 [95-2](#)
- 設定値 (表) [95-1](#)
- 設定の概要 [95-1](#)
- ファームウェア ロードを使用しない [96-1](#)
- デフォルト デバイス プロファイル
 - 関連項目 [97-8](#)
 - 削除 [97-8](#)
 - 設定 [97-7](#)
 - 設定値 (表) [97-1](#)
 - 設定の概要 [97-1](#)
- テンプレート
 - ソフトキー
 - アプリケーション ソフトキーの追加 [100-4](#)
 - 関連項目 [100-9](#)
 - 検索 [100-1](#)
 - 更新 [100-8](#)
 - 削除 [100-7](#)
 - 作成 [100-3](#)
 - 設定の概要 [100-1](#)
 - ソフトキーの位置 [100-5](#)
 - 電話機への割り当て [100-9](#)
 - 名前変更 [100-6](#)
 - 変更 [100-6](#)
 - 電話ボタン
 - 関連項目 [99-7](#)
 - 設定値 (表) [99-1](#)
 - 設定の概要 [99-1](#)
- 電話機
 - MAC アドレスの表示 [92-50](#)
 - エンドユーザと~の設定 [116-1](#)
 - エンドユーザと~の追加 [116-4](#)
 - 現在ログイン中のデバイスの検索 [92-48](#)
 - 検索 [92-32](#)
 - 削除 [92-40](#)
 - 設定値 (表) [92-3](#)
 - 設定の同期化 [92-39](#)
 - 電話機の設定の別の電話機への移行 [92-36](#)
 - 電話の移行の設定 (表) [92-36](#)
 - リセット [92-38](#)
 - リモートからログインしたデバイスの検索 [92-49](#)
- 電話サービス
 - 依存関係レコード [101-11](#)
 - 関連項目 [101-15](#)
 - 検索 [101-7](#)
 - サービス パラメータ
 - 削除 [101-13](#)
 - 設定 [101-12](#)
 - 設定値 (表) [101-6](#)
 - 削除 [101-11](#)
 - シスコが提供するデフォルト サービス [101-8](#)
 - シスコの署名入りの Java MIDlet の設定 [101-2](#)
 - 設定 [101-10](#)
 - 設定値 (表) [101-2](#)
 - 設定の概要 [101-1](#)
 - 電話ボタンへの追加 [101-14](#)
- 電話番号
 - Cisco Unity Connection ボイスメール ボックスの作成 [61-30](#)
 - 関連項目 [61-31](#)
 - 検索 [61-25](#)
 - コーリング サーチ スペースのリスト [61-24](#)
 - コール待機の設定値 [61-23](#)
 - 設定 [61-26](#)
 - 設定値 (表) [61-1](#)
 - 設定と該当するデバイスの同期化 [61-27](#)
 - 設定の概要 [61-1](#)
 - 電話機からの削除 [61-29](#)
 - 割り当てられていない~の更新 [64-4](#)
 - 割り当てられていない~の削除 [64-3](#)
- 電話ボタン テンプレート
 - 拡張モジュールの作成 [99-5](#)
 - 関連項目 [99-7](#)
 - 検索 [99-2](#)
 - 削除 [99-6, 106-5](#)
 - 設定 [99-4](#)
 - 設定値 (表) [99-1](#)
 - 設定の概要 [99-1](#)
 - ボタン項目の変更 [92-46](#)

電話用 NTP リファレンス

- 概要 [5-1](#)
- 関連項目 [5-5](#)
- 削除 [5-4](#)
- 設定 [5-3](#)
- 設定値 (表) [5-1](#)

と

ドメイン、MLPP

- 概要 [21-1](#)

ドメイン ネーム システム (DNS) [2-1](#)

トランク

- 関連項目 [93-66](#)
- 検索 [93-61](#)
- 削除 [93-64](#)
- 設定 [93-62](#)
- 設定値 (表) [93-1](#)
- 設定の概要 [93-1](#)
- 設定の同期化 [93-66](#)
- リセット [93-65](#)

トランスコーダ

- 関連項目 [76-7](#)
- 検索 [76-3](#)
- 削除 [76-6](#)
- 設定 [76-4](#)
- 設定値 (表) [76-1](#)
- 設定の概要 [76-1](#)
- 設定の同期化 [76-5](#)
- リセット [76-5](#)

トランスフォーメーション パターン

- 着信側の関連項目 [66-7](#)
- 着信側の検索 [66-5](#)
- 着信側の削除 [66-7](#)
- 着信側の設定 [66-6](#)
- 着信側の設定値 (表) [66-1](#)
- 発呼側の関連項目 [65-8](#)
- 発呼側の検索 [65-5](#)
- 発呼側の削除 [65-7](#)

発呼側の設定 [65-6](#)発呼側の設定値 (表) [65-1](#)

トランスレーション パターン

- 関連項目 [57-14](#)
- 検索 [57-11](#)
- 削除 [57-13](#)
- 設定 [57-12](#)
- 設定値 (表) [57-1](#)
- 設定の概要 [57-1](#)
- リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン [57-3](#)

に

日時グループ

- 関連項目 [6-8](#)
- 検索 [6-3](#)
- 削除 [6-7](#)
- 設定 [6-5](#)
- 設定値 (表) [6-1](#)
- 設定と該当するデバイスの同期化 [6-6](#)
- 設定の概要 [6-1](#)
- ～を使用した電話用 NTP リファレンスの設定の使用 [5-1](#)

ね

ネットワーク タイム プロトコル

「電話機 NTP リファレンス」を参照

は

パーティション

- 関連項目 [53-8, 81-10](#)
- 検索 [53-4, 53-6](#)
- コーリング サーチ スペースの制限 (表) [53-3](#)
- 削除 [53-7](#)
- 設定 [53-5](#)
- 設定値 (表) [53-1](#)

設定と該当するデバイスの同期化 **53-6**

設定の概要 **53-1**

発呼側トランスフォーメーション パターン

関連項目 **65-8**

検索 **65-5**

削除 **65-7**

設定 **65-6**

設定値 (表) **65-1**

パラメータ

エンタープライズ **24-1**

関連項目 **26-5**

サービス用の設定 **26-1**

サービス用の表示 **26-4**

設定 **26-1**

番号 / パターン、ミートミー

関連項目 **62-5**

検索 **62-3**

削除 **62-5**

設定 **62-4**

設定値 (表) **62-1**

ハントパイロット

関連項目 **44-16**

検索 **44-13**

削除 **44-15**

設定 **44-14**

設定値 (表) **44-1**

設定の概要 **44-1**

ハントリスト

回線グループの削除 **43-5**

回線グループの順位の変更 **43-6**

回線グループの追加 **43-4**

関連項目 **43-8**

検索 **43-2**

削除 **43-7**

設定と影響を受けるデバイスの同期化 **43-6**

設定の概要 **43-1**

追加 **43-3**

ふ

ファームウェア ロード情報

関連項目 **96-1**

設定の概要 **96-1**

デフォルト以外のデバイス **96-1**

物理ロケーション

設定の概要 **19-1**

ブラウザ **1-3**

プラグイン

URL の更新 **109-3**

URL の設定値 (表) **109-1**

インストール **109-2**

関連項目 **109-3**

設定の概要 **109-1**

プレゼンス グループ、設定 **7-1**

ほ

ボイスメール

ウィザードを使用するポートの削除 **83-8**

ウィザードを使用するポートの追加 **83-7**

関連項目 **82-10**

新規サーバとポートの追加 **83-2**

設定の概要 **82-1**

プロファイルの設定と該当するデバイスの同期化 **86-5**

プロファイルの設定の概要 **86-1**

ボイスメール プロファイルの検索 **86-3**

ボイスメール プロファイルの削除 **86-5**

ボイスメール プロファイルの設定 **86-4**

ボイスメール プロファイルの設定値 (表) **86-1**

ポート ウィザードの関連項目 **83-9**

ポート ウィザードの設定の概要 **83-1**

ポート ウィザードのデバイス情報の設定値 **83-2**

ポート ウィザードの電話番号の設定値 **83-4**

ポートの検索 **82-6**

ポートの削除 **82-9**

ポートの設定 **82-7**

ポートの設定値 (表) [82-1](#)
 メッセージ受信の概要 [84-1](#)
 メッセージ受信の設定 [84-4](#)
 メッセージ受信番号の検索 [84-3](#)
 メッセージ受信番号の削除 [84-4](#)

ボイスメール パイロット

関連項目 [85-5](#)
 検索 [85-3](#)
 削除 [85-4](#)
 設定 [85-4](#)
 設定値 (表) [85-1](#)
 設定の概要 [85-1](#)

ボイスメール パイロット番号

依存関係レコード [85-4](#)

ボイスメール プロファイル

依存関係レコード [86-5](#)
 関連項目 [86-6](#)
 検索 [86-3](#)
 削除 [86-5](#)
 設定 [86-4](#)
 設定値 (表) [86-1](#)
 設定の概要 [86-1](#)

ボイスメール ポート

依存関係レコード [82-9](#)
 設定の同期化 [82-8](#)

ポート

更新 [91-123](#)
 デジタル アクセス T1 の設定値 (表) [91-76](#)
 変更 [91-121](#)
 ボイスメール
 検索 [82-6](#)
 削除 [82-9](#)
 設定 [82-7](#)

み

ミーティング番号 / パターン

関連項目 [62-5](#)
 検索 [62-3](#)

削除 [62-5](#)
 設定 [62-4](#)
 設定値 (表) [62-1](#)
 設定の概要 [62-1](#)

め

メッセージ受信

関連項目 [84-5](#)
 設定 [84-4](#)
 設定値 (表) [84-1](#)
 設定の概要 [84-1](#)
 メッセージ受信番号の検索 [84-3](#)
 メッセージ受信番号の削除 [84-4](#)

メディア ターミネーション ポイント

「MTP」を参照

メディア リソース グループ

関連項目 [77-6](#)
 検索 [77-3](#)
 削除 [77-5](#)
 設定 [77-4](#)
 設定値 (表) [77-1](#)
 設定の概要 [77-1](#)

メディア リソース グループ リスト

関連項目 [78-5](#)
 検索 [78-2](#)
 削除 [78-4](#)
 設定 [78-3](#)
 設定値 (表) [78-1](#)
 設定の概要 [78-1](#)

も

モバイル コネクト

アクセス リスト [50-1](#)
 モバイル ボイス アクセス [80-1](#)
 モビリティ設定 [68-1](#)
 リモート接続先 [94-1](#)
 リモート接続先プロファイル [105-1](#)

モバイル ボイス アクセス

- IVR [80-1](#)
- 設定 [80-1](#)
- リモート接続先 [94-1](#)
- リモート接続先プロファイル [105-1](#)
- モビリティ設定 [68-1](#)

ゆ

ユーザ

アプリケーション

- アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け [112-13](#)
- 関連項目 [112-15](#)
- クレデンシャルの管理 [112-11](#)
- クレデンシャルの設定値 (表) [112-12](#)
- 検索 [112-6](#)
- 削除 [112-14](#)
- 設定 [112-1, 112-8](#)
- 設定値 (表) [112-1](#)
- パスワードの変更 [112-10](#)

エンド

- Cisco Unity Connection ボイスメール ボックスの設定 [113-12](#)
- PIN の変更 [113-14](#)
- エクステンション モビリティ [113-20](#)
- エンドユーザとデバイスとの関連付け [113-18](#)
- 関連項目 [113-22](#)
- クレデンシャルの管理 [113-14](#)
- クレデンシャルの設定値 (表) [113-15](#)
- 検索 [113-10](#)
- 削除 [113-21](#)
- 設定 [113-11](#)
- 設定値 (表) [113-2](#)
- 設定の概要 [113-1](#)
- 電話機とエンド ユーザの追加 [116-4](#)
- 電話との設定 [116-1](#)
- パスワードの変更 [113-13](#)
- ユーザ関連情報 [113-17](#)

- ユーザとデバイスの設定値 (表) [116-2](#)

ユーザ グループ

- 関連項目 [115-9](#)
- 権限の割り当て [115-7](#)
- 検索 [115-1](#)
- 削除 [115-4](#)
- 説明 [115-1](#)
- 追加 [115-3](#)
- ユーザの権限の表示 [115-8](#)
- ユーザの削除 [115-6](#)
- ユーザの追加 [115-4](#)

ユーザ / 電話機の追加

- 関連項目 [116-5](#)
- 設定 [116-1](#)
- 追加 [116-4](#)

ら

ライセンス

- SIP を実行しているサードパーティ製の電話機 [B-5](#)

り

リージョン

- 関連項目 [8-9](#)
- 検索 [8-5](#)
- 削除 [8-8](#)
- 設定 [8-1, 8-6](#)
- 設定値 (表) [8-1](#)
- 設定と該当するデバイスの同期化 [8-7](#)

リソース プライオリティ

ネームスペース ネットワーク ドメイン

- 概要 [22-1](#)
- 関連項目 [22-5](#)
- 検索 [22-2](#)
- 削除 [22-4](#)
- 設定 [22-3](#)
- 設定値 [22-1](#)

ネームスペース リスト

概要	23-1	条件の編集	38-4
関連項目	23-5	設定	38-4
検索	23-2	設定値 (表)	38-1
削除	23-4	設定と該当するデバイスの同期化	38-6
設定	23-3	設定の概要	38-1
設定値	23-1	タグ	
リモート接続先	94-1	説明	38-8
リモート接続先プロファイル	105-1	説明 (表)	38-8

る

ルート グループ

関連項目	39-8
検索	39-4
削除	39-7
設定	39-5
設定値 (表)	39-1
設定の概要	39-1
デバイスの削除	39-6
デバイスの追加	39-6

ルート パターン

SIP

「SIP ルート パターン」を参照

関連項目	41-14
検索	41-11
削除	41-14
設定	41-13
設定値 (表)	41-1
設定の概要	41-1

ルート フィルタ

依存関係レコード	38-7
演算子	
説明	38-8
説明 (表)	38-10
関連項目	38-11
検索	38-2
削除	38-7
条件の削除	38-5
条件の追加	38-4

ルート プラン レポート

関連項目	64-5
設定の概要	64-1
ファイル内の表示	64-4
レコードの表示	64-2
割り当てられていない電話番号の更新	64-4
割り当てられていない電話番号の削除	64-3

ルート リスト

関連項目	40-9
検索	40-1
削除	40-8
設定と影響を受けるデバイスの同期化	40-7
設定の概要	40-1
追加	40-3
ルート グループの削除	40-6
ルート グループの順位の変更	40-6
ルート グループの追加	40-4

ろ

ログイン

Cisco Unified Communications Manager	1-4
--------------------------------------	-----

ログオフ

Cisco Unified Communications Manager	1-5
--------------------------------------	-----

録音プロファイル

概要	107-1
関連項目	107-4
検索	107-2
削除	107-4
設定	107-3

ロケーション

関連項目	18-8
検索	18-4
削除	18-7
設定	18-6
設定値 (表)	18-1
設定の概要	18-1
帯域幅の再同期化	18-7

わ

割り当てられていない電話番号

更新	64-4
削除	64-3

